下水処理施設設計の合理化
に関する調査報告書(1)

—本　論　編—

土木研究所資料第524号

昭和44年3月

建設省土木研究所
下水道研究室

正　誤　表

頁	行	誤	正
14	上から7	計画日平均処理量当建設費（千円／m³）＝（〃）×〃／計画日平均処理量（m³）	計画日平均処理量当建設費（千円／m³）＝建設費（土木工事費＋機械工事費）千円×換算係数／計画日平均処理量（m³）
14	下から5	図3－1 ～ 図3－8	図3－1 ～ 図3－6
〃	4	図3－1 ～ 3－4	図3－1 ～ 3－3
〃	4	図3－5 ～ 3－8	図3－4 ～ 3－6
〃	3	図3－1 ～ 3－3	図3－1 ～ 3－2
〃	3	図3－5 ～ 3－7	図3－3 ～ 3－4
〃	2	図3－4，図3－8	図3－5，図3－6
15	15	図3－5	図3－2
18	上から4	図3－2および図3－6	図3－3および図3－4

図－3－1，3－3，3－5	横軸の単位	（千m³）を	（千m³／日）	と訂正
図－4－1～4－12	横軸の単位	（千m³）を	（千m³／日）	と訂正
図－5－12	縦軸の説明	流入BODを	流入BOD変動比	と訂正
図－5－16～5－18	縦軸の単位	（ℓ/a）を	（ℓ/人/a）	と訂正
図－6－5～6－10 および図－6－18	図中に凡例	○ 角形 ● 円形		を入れる
図－6－20	図中に凡例	○ 標準法 ● ステップ △ モデフアイド		を入れる

付表－1

左より3列目	共用開始年月の項	上段の数字：一次処理開始年月 下段の数字：二次処理開始年月
左より9列目	工場廃水量の項	左側の数字：計画工場廃水量 右側の数字：工場廃水現在流入量

目　　次

§1.　はじめに …… 1
§2.　既設の下水処理場の概要 …… 3
2－1　各処理方式ならびに規模別の分類 …… 3
2－2　最近における処理方法の傾向 …… 5
2－3　工場廃水の流入する処理場 …… 6
2－4　し尿の直接投入を行なつている処理場 …… 7
2－5　計画汚水量について …… 7
2－6　流入水質と処理水質からみた各施設の除去機能について …… 10
2－7　処理水の放流先の状況について …… 11
§3.　処理場の建設工事費 …… 13
3－1　処理方式ごとに要した建設費 …… 14
3－1－1　散水濾床法に要した建設費 …… 15
3－1－2　活性汚泥法に要した建設費 …… 18
3－1－3　両処理方式の建設費の比較 …… 21
3－2　各単位施設ごとに要した建設費 …… 24
3－2－1　最初沈澱池に要した建設費 …… 24
3－2－2　高速散水濾床に要した建設費 …… 24
3－2－3　エアレーションタンクに要した建設費 …… 24
3－2－4　最後沈澱池に要した建設費 …… 24
3－3　汚泥処理施設の建設費 …… 29
§4.　下水処理場の維持管理費 …… 31
4－1　下水処理場の年間総維持管理費 …… 32
4－1－1　高速散水濾床法に要する年間総維持管理費 …… 32
4－1－2　活性汚泥法に要する年間総維持管理費 …… 33
4－1－3　簡易処理に要する年間総維持管理費 …… 36
4－1－4　各処理方式による年間総維持管理費 …… 36
4－2　維持管理に要する人件費 …… 38
4－3　維持管理に要する電力料 …… 42
4－4　汚泥処理に要する維持管理費 …… 47
§5.　下水処理場に流入する負荷量について …… 49
5－1　流入負荷量の変動 …… 49
5－2　家庭下水の人口当量について …… 63
§6.　現況処理施設の処理機能について …… 67

6－1　流入下水量、流入負荷量等の外的条件と除去効率との関係 …… 68
6－1－1　施設の計画容量に対する現在の流入量の割合が除去効率に与える影響 …… 68
6－1－2　流入負荷変動比と除去効率 …… 70
6－2　設計及び操作条件と除去効率との関係 …… 72
6－2－1　第1次処理施設（最初沈澱池）の機能 …… 72
6－2－2　第2次処理施設の機能 …… 82
i）高速散水濾床法の場合 …… 82
ii）活性汚泥法の場合 …… 86
§7.　むすび …… 90
付表－1　調査対象とした下水処理場一覧 …… 92
付表－2　下水処理場と放流先の現況一覧 …… 102
付表－3　下水処理場流入負荷量（分流式、工場排水混入なし） …… 107

下水処理場施設一覧表

下水処理施設設計の合理化に関する調査報告書（1）

—資　料　編—

土木研究所資料 第524

昭和44年3月

建設省土木研究所

目　　次

都市名	下水処理場所	頁数	都市名	下水処理場所	頁数	都市名	下水処理場所	頁数	都市名	下水処理場所	頁数
札幌	創成川	1	川崎	入江崎	41	堺	三宝	81	熊本	蓮台寺	121
〃	野津幌川	2	〃	生田	42	〃	津久野	82	別府	山田終末	122
〃	真駒内	3	横須賀	上町	43	守口	守口	83	鹿児島	錦江	123
旭川	亀吉	4	藤沢	南部	44	枚方	香里	84	東京	芝浦	124
北見	小泉	5	甲府	住吉	45	豊中	原田	85	〃	三河島	125
室蘭	蘭西	6	長野	川合新田	46	池田	神田浄園	86	〃	砂町	126
帯広	東部	7	松本	宮淵	47	吹田	正雀	87	〃	小台	127
〃	南部	8	飯田	飯田市	48	富田林	金剛	88	〃	落合	128
苫小牧	浜町	9	下高井郡	野沢温泉	49	吹田	川面	89	〃	森ケ崎	129
大麻団地	大麻	10	福井	境	50	加古川	尾上	90	横浜	中部	130
盛岡	中川原終末	11	富山	牛島	51	高砂	東宮町	91	〃	南部	131
〃	観武台終末	12	高岡	四屋	52	尼崎	東部	92	名古屋	堀留	132
仙台	南蒲生	13	新潟	船見	53	兵庫	東	93	〃	名城	133
山形	宮町終末	14	岐阜	中部	54	〃	西舞子	94	〃	西山	134
宇都宮	田川	15	〃	北部	55	奈良	大安寺	95	〃	熱田	135
日光	中宮祠	16	大垣	築捨終末	56	〃	富雄	96	〃	伝馬町	136
〃	湯元	17	瑞浪	瑞浪	57	姫路	新姫路	97	〃	山崎	137
前橋	前橋市	18	関市	関市	58	〃	旧姫路	98	〃	鳴子	138
高崎	城南	19	富士	吉原	59	〃	飾磨	99	〃	露橋	139
桐生	境野	20	浜松	中部	60	〃	網千	100	〃	千年	140
伊香保	物聞沢	21	〃	弥生	61	岡山	旭西	101	〃	岩塚	141
川口	領家	22	〃	遠州浜	62	〃	高島	102	京都	鳥羽	142
飯能	前ケ貫	23	静岡	高松	63	倉敷	倉敷	103	〃	吉祥院	143
大宮	南部	24	熱海	錦ケ浦	64	広島	千田	104	大阪	大野	144
川越	滝ノ下	25	藤枝	藤岡団地	65	福山	新浜	105	〃	中浜（東）	145
〃	霞ケ関第一	26	袋井	袋井	66	徳山	徳山終末	106	〃	中浜（西）	146
〃	霞ケ関第二	27	清水町	徳倉住宅団地	67	宇部	居能	107	〃	放出	147
所沢	所沢	28	豊橋	野田	68	〃	芝中沖	108	〃	住吉	148
〃	新所沢	29	〃	羽根井	69	下関	筋ケ浜	109	〃	千島	149
〃	砂川	30	岡崎	衛生センター	70	長門	仙崎	110	〃	市岡	150
千葉	小倉	31	一宮	東部終末	71	〃	俵山湯町	111	〃	海老江	151
〃	大宮	32	〃	西部終末	72	小郡	長谷	112	〃	津守	152
船橋	習志野台	33	知立町	牛田	73	徳島	中央	113	〃	今福	153
〃	高根台	34	春日井	高蔵寺終末	74	松山	松山	114	神戸	中部	154
松戸	常盤平	35	津島	津島	75	高松	福岡	115	〃	西部	155
習志野	袖ケ浦終末	36	四日市	日永	76	福岡	中部	116	〃	多聞第一	156
日野	豊田	37	〃	高花平	77	〃	弥永	117	〃	多聞第二	157
町田	鶴川	38	〃	朝明	78	長崎	茂里町	118	〃	北須磨第一	158
東京	多摩町	39	福知山	福知山	79	〃	滑石	119	〃	東灘	159
立川	錦町	40	岸和田	磯の上	80	佐世保	千尽	120			

札幌市 創成川 下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理) 昭和38年度
〃 (第2次処理) 昭和39年度
② 共用開始年月日(第1次処理) 昭和42年4月1日
③ 〃 (第2次処理) 〃
④ 下水排除方式 (合流式) 分流式
⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	45,000 m³/日	45,000 m³/日	50,000 m³/日	50,000 m³/日	192,000 m³/日	192,000 m³/日
第2次処理	45,000	45,000	50,000	50,000	50,000	50,000

⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

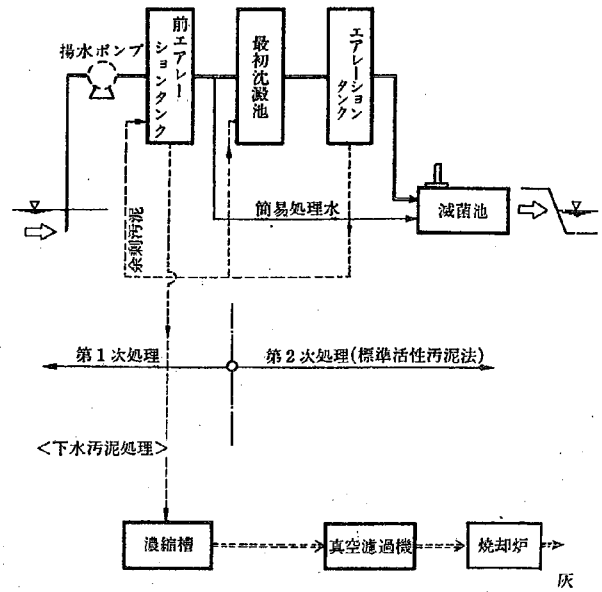
処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
457 ha	700 ha	59,000 人	2,000 人	140,000 人	— m³/日	— m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
スクリーン	(晴天時用) 基	(雨天時用) 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 3 台	(雨天時用) 2 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) 1 池	(雨天時用) 池
最初沈澱池	(晴天時用) 3 池	(雨天時用) 池
2階タンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 台	(雨天時用)
エアレーションタンク	(高級処理用) 2 池	(中級処理用) 池
散水沪床	(高速用) 池	(標準用) 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式)	(数量) 台
最後沈澱池	(活性汚泥用) 2 池	(散水炉床用) 池
滅菌池	(晴天時用) 池	(晴雨天時兼用) 1 池

⑧ フローシート

<第1次および第2次処理>



⑨ 各施設の主要諸元

前エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1	昭41.	昭41.	42.4.1	1 池	36.8 m	12 m	4 m	1,766 m³	76,000 m³/日	m³/日	スパージャー	118	0.8			
2																
3																

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭41.	昭41.	昭42.4.1	3 池	35 m	12 m	2.5 m	420 m²	1,050 m³	45 m	25,000 m³/日	26.6 m³	リンプベルト方式	0.6 m/分	ダイヤフラム水頭圧
2															
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1	昭41.	昭41.	昭42.4.1	2 池	60 m	6.4 m	4.7 m	6,768 m³	21,000 m³/日	6,100 m³/日	散気盤	3792	5.8			
2																
3																

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	m	個
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭41.	昭41.	昭42.4.1	2 池	43 m	18 m	2.9 m	774 m²	2,245 m³	126 m	21,000 m³/日	29 m³	リンプベル方式	0.3 m/min	水頭差連続
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名 創成川
その渇水量および平水量 75,000 m³/日 (渇水量)
放流位置 北46条西1丁目
処理水放流前の河川水のBOD 3.1 P.P.m

札幌都市野津幌川　下水処理場

① 工事着手年度（第1次処理）昭和 40年 4月1日
〃　（第2次処理）昭和 40年 4月1日
② 共用開始年月日（第1次処理）昭和 41年 9月1日
③ 〃　（第2次処理）昭和 41年 9月1日
④ 下水排除方式　合流式　（分流式）
⑤ 処理能力

処理システム ＼ 汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	m³/日	m³/日	m³/日	m³/日	m³/日	m³/日
第2次処理	1,200 m³/日	3,000 m³/日	1,370 m³/日	4,500 m³/日		

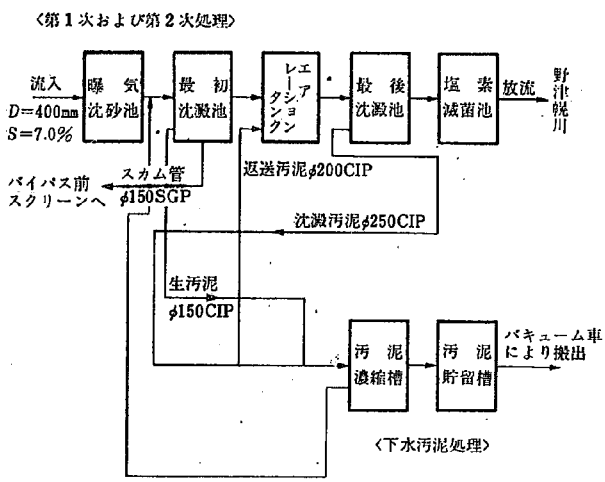
⑥ 処理面積，処理人口，産業排水量

処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
62.3ha	62.3ha	6,000 人	6,000 人	15,000人	m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	（晴天時用）1 池	（雨天時用）　池
スクリーン	（晴天時用）2 基	（雨天時用）　基
第1揚水ポンプ	（晴天時用）4 台	（雨天時用）　台
前エアレーションタンク	（晴天時用）　池	（雨天時用）　池
最初沈澱池	（晴天時用）3 池	（雨天時用）　池
2階タンク	（晴天時用）　池	（雨天時用）　池
第2揚水ポンプ	（汚水用）3 台	（雨天時用）
エアレーションタンク	（高級処理用）2 池	（中級処理用）　池
散水沪床	（高速用）　池	（標準用）　池
高速エアレーション沈澱池	（製造会社，商品名・型式）（数量）　台	
最後沈澱池	（活性汚泥用）2 池	（散水炉床用）　池
滅菌池	（晴天時用）1 池	（晴雨天時兼用）　池

⑧ フローシート



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭41	昭41	昭41.9.1	3 池	10.0 m	4.25 m	2.5 m	42.5 m²	106.0 m³	9.0 m	1500 m³/日	6.33 m³	リンクベルト式クラムシェルコレクター	0.6 m/min	汚泥引抜管
2															
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1	昭41	昭41	昭41.9.1	2 池	21.4 m	4.25 m	4.35 m	580.0 m³	1500 m³/日	375 m³/日	旋回流散気式	42	5			
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日			倍	
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	mm	個
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭41	昭41	昭41.9.1	2 池	16.35 m	4.25 m	3.0 m	69.5 m²	208.5 m³	14.0 m	1,500 m³/日	6.33 m³	リンクベルト式クラムシェルコレクター	0.6 m/min	汚泥引抜管
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名　野津幌川

その渇水量および平水量　平水量 0.8 m³/s
放流位置　札幌市厚別町下野幌 1201 番地
処理水放流前の河川水のBOD　2.8 ppm.

札幌 都市 眞駒内 下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理) 昭和35年度

〃 (第2次処理) 昭和36年度

② 共用開始年月日(第1次処理) 昭和36年4月1日

③ 〃 (第2次処理) 昭和37年4月1日

④ 下水排除方式 合流式 分流式

⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量		晴天時1日最大処理量		雨天時最大処理量	
	現在	計画	現在	計画	現在	計画
第1次処理	3,600 m³/日	3,500 m³/日	5,400 m³/日	5,000 m³/日	m³/日	m³/日
第2次処理	3,600	3,500	5,400	5,000		

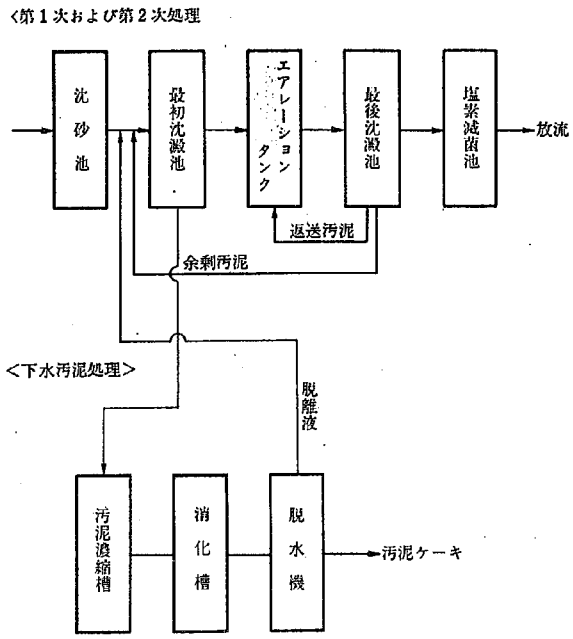
⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

処理面積		処理人口			産業排水量	
現在	計画	現在排水人口	水洗便所使用人口	計画処理人口	現在	計画
184.6 ha	184.6 ha	17,500 人	17,500 人	25,000 人	m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用) 2 池	(雨天時用) 池
スクリーン	(晴天時用) 2 基	(雨天時用) 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 3 台	(雨天時用) 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
最初沈澱池	(晴天時用) 2 池	(雨天時用) 池
2階タンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 台	(雨天時用)
エアレーションタンク	(高級処理用) 2 池	(中級処理用) 池
散水沪床	(高速用) 池	(標準用) 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式)	(数量) 台
最後沈澱池	(活性汚泥用) 5 池	(散水炉床用) 池
滅菌池	(晴天時用) 1 池	(晴雨天時兼用) 池

⑧ フローシート



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭和35	昭35	昭36.4.1	2	φ 12 m	m	2 m	113 m²	226 m³	37.7 m	2,500 m³/日	0.4 m³	フラリファイヤー	3.44 cm/sec	エアバルブ・タイマー方式
2															
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1	昭36	昭36	昭37.4.1	2 池	17 m	16 m	3 m	816 m³	2,500 m³/日	626 m³/日	散気板	520枚/池	4			
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日			倍	
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	m	個
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭36	昭36	昭37.4.1	4 池	14 m	4 m	2 m	56 m²	112 m³	13.4 m	1,250 m³/日	9.4 m³	フライトコンベアー	0.75 cm/sec	エアバルブ・タイマー方法
2	昭42	昭42	昭43.4.24	1	14	4	2	56	112	13.4	1,000	9.4	フライトコンベアー	0.75 cm/sec	エアバルブ・タイマー方法
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先

放流河川名 眞駒内川

その湧水量および平水量 平水量 2.1 m³/sec

放流位置 豊平川合流点から400m上流

処理水放流前の河川水のBOD 1.6 ppm

旭川市亀吉　下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理) 昭和37年度
〃 (第2次処理) 昭和35年度
② 共用開始年月日(第1次処理) 昭和39年11月1日
③ 〃 (第2次処理) 昭和42年4月1日
④ 下水排除方式　合流式 及び 分流式
⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量		晴天時1日最大処理量		雨天時最大処理量	
	現在	計画	現在	計画	現在	計画
第1次処理	20,900 m³/日	30,600 m³/日	22,500 m³/日	38,760 m³/日	36500 m³/日	91,800 m³/日
第2次処理	10,200	30,600	10,200	30,600	10,200	30,600

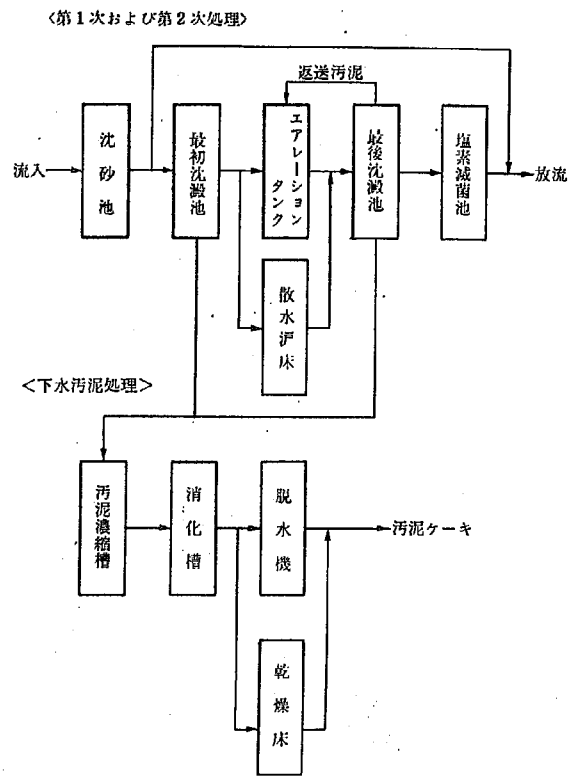
⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

処理面積		処理人口			産業排水量	
現在	計画	現在排水人口	水洗便所使用人口	計画処理人口	現在	計画
112.1 ha	445.3 ha	43,600 人	1,500 人	102,000 人	m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用) 2 池	(雨天時用) 2 池
スクリーン	(晴天時用) 手掻 2 基	(雨天時用) 手掻 2 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 2 台	(雨天時用) 1 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
最初沈澱池	(晴天時用) 1 池	(雨天時用) 池
2階タンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 台	(雨天時用)
エアレーションタンク	(高級処理用) 池	(中級処理用) 池
散水沪床	(高速用) 1 池	(標準用) 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式)	(数量) 台
最後沈澱池	(活性汚泥用) 1 池	(散水炉床用) 1 池
滅菌池	(晴天時用) 1 池	(晴雨天時兼用) 池

⑧ フローシート



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭39	昭40	昭41.4.1	1 池	30 m	10 m	3.3 m	300 m²	990 m³	68 m	10,200 m³/日	23.6 m³	リンクベルト式 汚泥掻寄機	0.7 m/分	自動 フラッシュバルブ
2															
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1				池	m	m	m	m³	m³/日	m³/日						
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m²	m²	m	m³/日			倍	
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1	昭35	昭36	昭42.4.1	1 池	21 m	m	1.8 m	346 m²	623 m³	110,200 m³/日 (1,789)	m³/日	(1115) kg/m³/日 0.38	13,500 m³/m²/日	50～120 m	84 個
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭41	昭41	昭42.4.1	1 池	30 m	10 m	30 m	300 m²	900 m³	72 m	11,250 m³/日	14 m³	リンクベルト式 汚泥掻寄機	0.7 m/分	自動 フラッシュ
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名　石狩川

その渇水量および平水量　77.0 m³/sec ～ 118.5 m³/sec
放流位置　旭川市亀吉町地先
処理水放流前の河川水のBOD　11.0 ppm

北見 都市 小泉 下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理) 昭和37年4月1日
〃 (第2次処理) 〃
② 共用開始年月日(第1次処理) 昭和38年11月30日
③ 〃 (第2次処理) 〃
④ 下水排除方式 (合流式) 分流式
⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	9,660 m³/日	15,390 m³/日	10,640 m³/日	20,790 m³/日	10,640 m³/日	18,590 m³/日
第2次処理	60	276.t	60	276.t	60	276.t

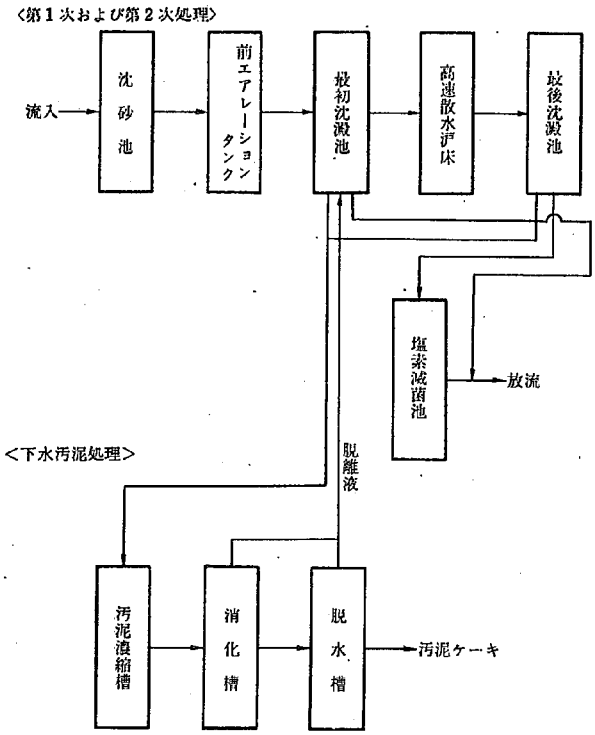
⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
332 ha	2843 ha	21,000 人	10,000 人	56,000 人	m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用) 池	(雨天時用) 1 池
スクリーン	(晴天時用) 基	(雨天時用) 1 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 台	(雨天時用) 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) 1 池	(雨天時用) 池
最初沈澱池	(晴天時用) 1 池	(雨天時用) 池
2階タンク	(晴天時用) 1 池	(雨天時用) 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 2 台	(雨天時用)
エアレーションタンク	(高級処理用) 池	(中級処理用) 池
散水沪床	(高速用) 1 池	(標準用) 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式)	(数量) 台
最後沈澱池	(活性汚泥用) 池	(散水炉床用) 1 池
滅菌池	(晴天時用) 池	(晴雨天時兼用) 1 池

⑧ フローシート



⑨ 各施設の主要諸元

前エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1	昭40	昭40.	昭40.10.1	1 池	46.2 m	2.5 m	2.5 m	288 m³	m³/日 5,415	m³/日	散気板	80	1.00			
2																
3																

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭38	昭38	昭38.11.30	1 池	D=14.0 m	m	2.75 m	107 m²	292 m³	43.96 m	5,415 m³/日	m³	クラリファイヤー	1.0 m/min	ポンプ圧送
2															
3															
4															
5															

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	撹拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日			倍	
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1	昭38	昭38	昭38.11.30	1 池	D=17.0 m	m	1.8 m	272 m²	5.0 m³	m³/日 5,415	m³/日	kg/m³/日 0.80	m³/m²/日 20	100 m	80 孔
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭38	昭38	昭38.11.30	1 池	D=14.0 m	m	1.9 m	152.0 m²	292 m³	43.96 m	m³/日	m³	クラリファイヤー	1.0 m/min	ポンプ圧送
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名 常呂川

その渇水量および平水量 1.92 m³/sec (温水量) 16.15 m³/sec (平水量)
放流位置 河口より 15.2 km (北見市東10丁目線千前150m地点)
処理水放流前の河川水のBOD 12 ppm

室蘭 市 蘭西 下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理) 昭和37年度
〃 (第2次処理) 昭和39年度
② 共用開始年月日(第1次処理) 昭和39年4月1日
③ 〃 (第2次処理) 昭和40年4月13日
④ 下水排除方式 合流式 (分流式)

⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	6.376 m³/日	13.680 m³/日	7800 m³/日	16.560 m³/日	12.787 m³/日	該当なし m³/日
第2次処理	6.376	13.680	7800	16.560	12.787	〃

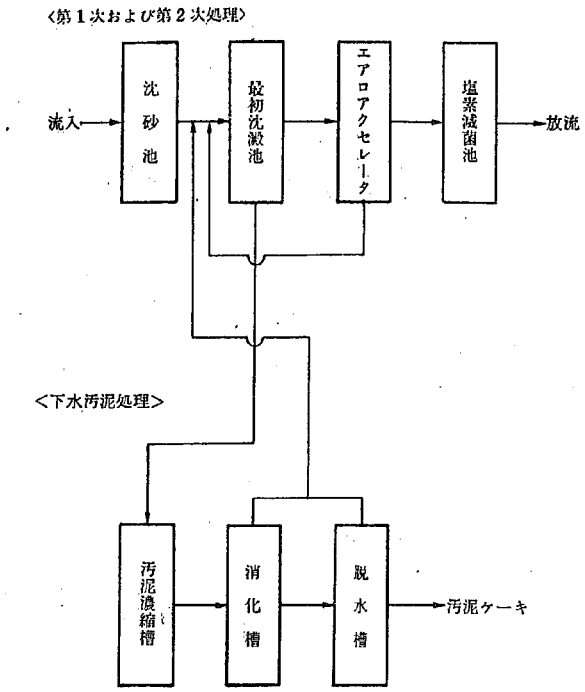
⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量 (6040)

処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
73.8 ha	103.7 ha	17.036 人	6.378 人	57.600 人	該当なし m³/日	該当なし m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設 (ポンプ場に現有の施設)

沈砂池	(晴天時用)	2 池	(雨天時用)	池
スクリーン	(晴天時用)	1 基	(雨天時用)	基
第1揚水ポンプ	(晴天時用)	3 台	(雨天時用)	台
前エアレーションタンク	(晴天時用)	池	(雨天時用)	池
最初沈澱池	(晴天時用)	1 池	(雨天時用)	池
2階タンク	(晴天時用)	池	(雨天時用)	池
第2揚水ポンプ	(汚水用)	台	(雨天時用)	
エアレーションタンク	(高級処理用)	池	(中級処理用)	池
散水沪床	(高速用)	池	(標準用)	池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式)(数量)	(住友ジャルコ式エアロアクセレータ) 1 台		
最後沈澱池	(活性汚泥用)	池	(散水炉床用)	池
滅菌池	(晴天時用)	1 池	(暗雨天時兼用)	池

⑧ フローシート



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭 37年度	昭 37年度	39. 4. 10	1 池	18.0 m	m	2.0 m	254 m²	582 m³	56.5 m	6840 m³/日	0.8 m³	クラリフィケーター(ピット型)	2 m/min	自動引抜井
2															
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1				池	m	m	m	m³	m³/日	m³/日						
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
1	昭 37年度	昭 37年度	昭 40. 6. 1	1 池	18.3 m	m	6.2 m	857 m³	410 m³	220 m²	57.5 m	6840 m³/日	攪拌式 エアロアクセレータ	1	3 倍	有
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	m	孔
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1				池	m	m	m	m²	m³	m	m³/日	m³			
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先 内浦湾
放流河川名 室蘭市船見町

その渇水量および平水量
放流位置
処理水放流前の河川水のBOD

帯広市　東部　下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理)　昭和41年
〃　(第2次処理)　昭和38年度
② 共用開始年月日(第1次処理)　昭和42年11月17日
③ 〃　(第2次処理)　昭和40年7月20日
④ 下水排除方式　(合流式)　分流式

⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	10,800 m³/日	10,800 m³/日	15,400 m³/日	15,800 m³/日	32,900 m³/日	32,900 m³/日
第2次処理	〃	〃	〃	〃	〃	〃

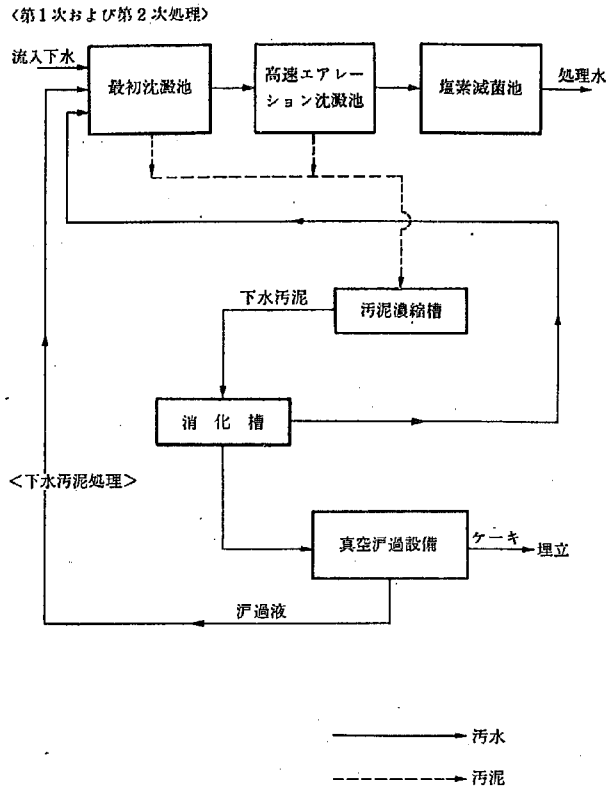
⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
181.0 ha	217.7 ha	16,670 人	572 人	28,000 人	m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用)　池	(雨天時用)　池
スクリーン	(晴天時用)　基	(雨天時用)　基
第1揚水ポンプ	(晴天時用)　台	(雨天時用)　台
前エアレーションタンク	(晴天時用)　池	(雨天時用)　池
最初沈澱池	(晴天時用)　池	(雨天時用)　1 池
2階タンク	(晴天時用)　池	(雨天時用)　池
第2揚水ポンプ	(汚水用)　台	(雨天時用)
エアレーションタンク	(高級処理用)　池	(中級処理用)　池
散水沪床	(高速用)　池	(標準用)　池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式) 住友レクトバイ エアロアクセレーター (数量)	1 台
最後沈澱池	(活性汚泥用)　池	(散水沪床用)　池
滅菌池	(晴天時用)　池	(晴雨天時兼用)　1 池

⑧ フローシート



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭41年度	昭41年度	42.11.17	1 池	20.0 m	- m	2.7 m	314 m²	850 m³	66 m	10,800 m³/日	特注鋼製スクレーパ方式 m³	83 cm/min	差圧式B形 流下	
2															
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械撹拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1				池	m	m	m	m³	m³/日	m³/日						
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部1池当り 沈澱部	水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	撹拌機の有無
1	昭39年度	昭40年度	40.7.1	1 池	21.34 m	- m	5.87 m	1,122 m³	561 m³	300 m²	67 m	10,800 m³/日	スパージャー	1	3 倍	有
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	mm	個
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1				池	m	m	m	m²	m³	m	m³/日	m³			
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名　十勝川水系帯広川支流旧帯広川
その沿水量および平水量　2 m³/min
放流位置　帯広市東11条南2丁目地先
処理水放流前の河川水のBOD　1.6 ppm

帯広市 南部 下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理) 昭和42年度
〃 (第2次処理) 〃 42 〃
② 共用開始年月日(第1次処理) 〃 43 〃 1月1日
③ 〃 (第2次処理) 〃 〃
④ 下水排除方式 合流式 (分流式)
⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	370 m³/日	2,200 m³/日	440 m³/日	4,400 m³/日	m³/日	m³/日
第2次処理	〃	〃	〃	〃		

⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

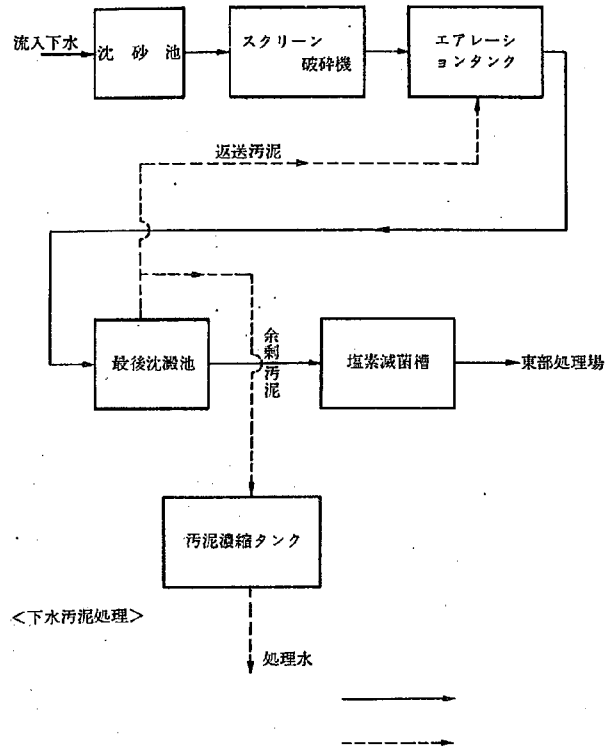
処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
11.1 ha	103.6 ha	426 人	426 人	10,000 人	m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用) 1 池	(雨天時用) 池
スクリーン	(晴天時用) 1 基	(雨天時用) 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 台	(雨天時用) 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
最初沈澱池	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
2階タンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 台	(雨天時用)
エアレーションタンク	(高級処理用) 1 池	(中級処理用) 池
散水沪床	(高速用) 池	(標準用) 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式)	(数量) 台
最後沈澱池	(活性汚泥用) 1 池	(散水炉床用) 池
滅菌池	(晴天時用) 1 池	(晴雨天時兼用) 池

⑧ フローシート

〈第1次および第2次処理〉



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	1池当りの寸法 幅	1池当りの寸法 有効水深	1池当り 有効水面積	1池当り 有効容量	1池当り 堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥 集泥機の速度	排泥方法
				池	m	m	m	m²	m³	m	m³/日	m³			
1															
2															
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	1池当りの寸法 幅	1池当りの寸法 有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	1池当り計画処理量 返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	散気式の場合 個数	散気式の場合 計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	機械攪拌式の場合 個数	機械攪拌式の場合 規格寸法
1	PB 42年度	PB 42年度	PB 43.1.1	2 池	15.7 m	4 m	4 m	478.2 m³	1,100 m³/日	275 m³/日	スパンディフューザー	10	8.5			
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	1池当り寸法 幅	1池当り寸法 有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	1池当り有効容量 沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	沈澱部1池当り 堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	エアレーション部1池当り 個数	エアレーション部1池当り 計画下水量に対する空気吹込倍率	エアレーション部1池当り 攪拌機の有無
				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日			倍	
1																
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	1池当り寸法 幅	1池当り寸法 沪材深	1池当り 有効沪過面積	1池当り 沪材総容量	計画処理量 下水量	計画処理量 返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	mm	個
1															
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	1池当りの寸法 幅	1池当りの寸法 有効水深	1池当り 有効水面積	1池当り 有効容量	1池当り 堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥 集泥機の速度	排泥方法
				池	m	m	m	m²	m³	m	m³/日	m³			
1	PB 42年度	PB 42年度	PB 43.1.1	2 池	15 m	m	1.5 m	169.6 m²	230.3 m³	90 m	2,200 m³/日	m³	自然沈降		エアリフト
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名 十勝川水系札内川支流志園川
その湧水量および平水量 0.808 m³/min
放流位置 帯広市南町9線14番地の3地先左岸
処理水放流前の河川水のBOD 0.5 p.p.m

苫小牧 都 浜町　下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理)　昭和32年度

〃　(第2次処理)

② 共用開始年月日(第1次処理)　昭和34年度

③ 〃　(第2次処理)

④ 下水排除方式　合流式　分流式

⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量		晴天時1日最大処理量		雨天時最大処理量	
	現在	計画	現在	計画	現在	計画
第1次処理	6,83 1/m³/日	11,300 m³/日	8,280 m³/日	16,950 m³/日	30,510 m³/日	30,510 m³/日
第2次処理						

⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

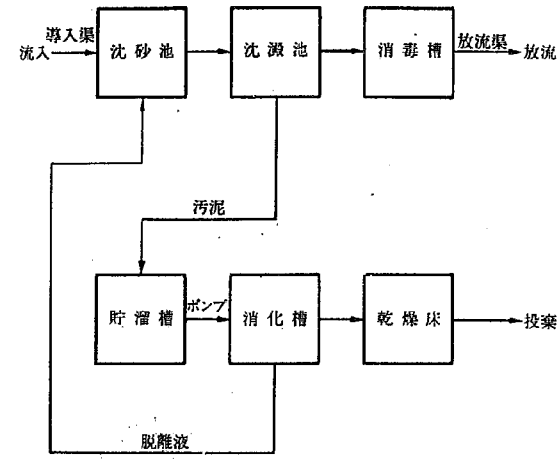
処理面積		処理人口			産業排水量	
現在	計画	現在排水人口	水洗便所使用人口	計画処理人口	現在	計画
194 ha	217 ha	28,000 人	8,160 人	45,200 人	0 m³/日	0 m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用)	1 池	(雨天時用)	池
スクリーン	(晴天時用)	2 基	(雨天時用)	基
第1揚水ポンプ	(晴天時用)	台	(雨天時用)	台
前エアレーションタンク	(晴天時用)	池	(雨天時用)	池
最初沈澱池	(晴天時用)	4 池	(雨天時用)	池
2階タンク	(晴天時用)	池	(雨天時用)	池
第2揚水ポンプ	(汚水用)	台	(雨天時用)	
エアレーションタンク	(高級処理用)	池	(中級処理用)	池
散水沪床	(高速用)	池	(標準用)	池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式)		(数量)	台
最後沈澱池	(活性汚泥用)	池	(散水沪床用)	池
滅菌池	(晴天時用)	1 池	(晴雨天時兼用)	池

⑧ フローシート

〈第1次および第2次処理〉



〈下水汚泥処理〉

⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	B2 32	B2 32	B2 34. 4. 10	4 池	24 m	4.2 m	1.769 m	100 m²	178 m³	23.2 m	2,625 m³/日	4 m³	クラリファイヤー	1. 2. 3 m/min	E.T.P 自然流下
2															
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当り有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械撹拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1				池	m	m	m	m³	m³/日	m³/日						
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	撹拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日			倍	
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	m	個
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1				池	m	m	m	m²	m³	m	m³/日	m³			
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先

放流河川名　苫小牧川

その渇水量および平水量　0.5 m³/sec　1.5 m³/sec

放流位置　苫小牧市浜町45番地地先

処理水放流前の河川水のBOD　220 ppm

大麻団地 都市	大麻	下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理) 昭和 39 年度

〃 (第2次処理) 昭和 41 年度

② 共用開始年月日(第1次処理) 昭和 40 年 12 月 1 日

③ 〃 (第2次処理) 昭和 42 年 4 月 1 日

④ 下水排除方式 合流式 (分流式)

⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量		晴天時1日最大処理量		雨天時最大処理量	
	現在	計画	現在	計画	現在	計画
第1次処理	m³/日	m³/日	m³/日	m³/日	m³/日	m³/日
第2次処理	1,250 m³	5,346 m³	5,240 m³	7,776 m³		

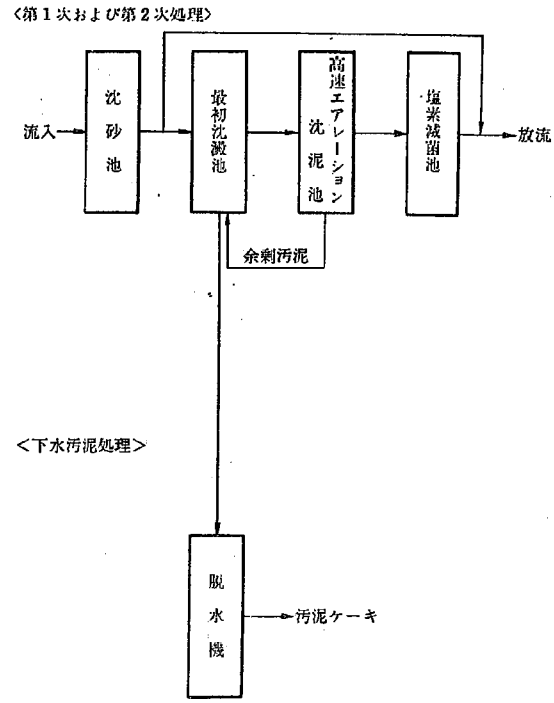
⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

処理面積		処理人口			産業排水量	
現在	計画	現在排水人口	水洗便所使用人口	計画処理人口	現在	計画
207.5 ha	207.5 ha	7,806 人	7,806 人	27,000 人	0 m³/日	0 m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用)	1 池	(雨天時用)	池
スクリーン	(晴天時用)	1 基	(雨天時用)	基
第1揚水ポンプ	(晴天時用)	4 台	(雨天時用)	台
前エアレーションタンク	(晴天時用)	池	(雨天時用)	池
最初沈澱池	(晴天時用)	2 池	(雨天時用)	池
2階タンク	(晴天時用)	池	(雨天時用)	池
第2揚水ポンプ	(汚水用)	台	(雨天時用)	
エアレーションタンク	(高級処理用)	池	(中級処理用)	池
散水沪床	(高速用)	池	(標準用)	池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式 アポロ・ポンプ・エアロ・ポンプ・エレベーター 数量)	8 台		
最後沈澱池	(活性汚泥用)	池	(散水炉床用)	池
滅菌池	(晴天時用)	1 池	(晴雨天時兼用)	池

⑧ フローシート



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭40	昭40	昭40.12.1	1 基	24 m	4 m	2.5 m	96 m²	240 m³	21.4 m	3,888 m³/日	13.3 m³	フライトコンベアー		タイマーフラッシュ弁
2	昭40	昭42	昭43.4.1	1	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃		〃
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1				池	m	m	m	m³	m³/日	m³/日						
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
1	昭41	昭41	昭42.4.1	1 基	30.2 m	7.8 m	3.5 m	510 m³	170 m³	157 m²	108 m	3,888 m³/日	スパージャリング	4	3 倍	有
2	昭41	昭42	昭43.4.1	1	30.2	7.8	3.5	510	170	157	108	3,888	〃	〃	〃	〃

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	m	個
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1				池	m	m	m	m²	m³	m	m³/日	m³			
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先

放流河川名 野津幌川

その渇水量および平水量 0.5 m³/s 1.4 m³/s

放流位置 江別市大麻

処理水放流前の河川水のBOD 2.5 ppm

盛岡都市中川原終末下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理) 昭和35年度
〃 (第2次処理) 〃 39 〃
② 共用開始年月日(第1次処理) 〃 40 〃 4月1日
③ 〃 (第2次処理) 〃 41 〃 6月1日
④ 下水排除方式 (合流式) 分流式
⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	26,680 m³/日	26,680 m³/日	49,075 m³/日	49,075 m³/日	49,764 m³/日	98,528 m³/日
第2次処理	13,340	26,680	24,537	49,075	24,882	49,764

⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

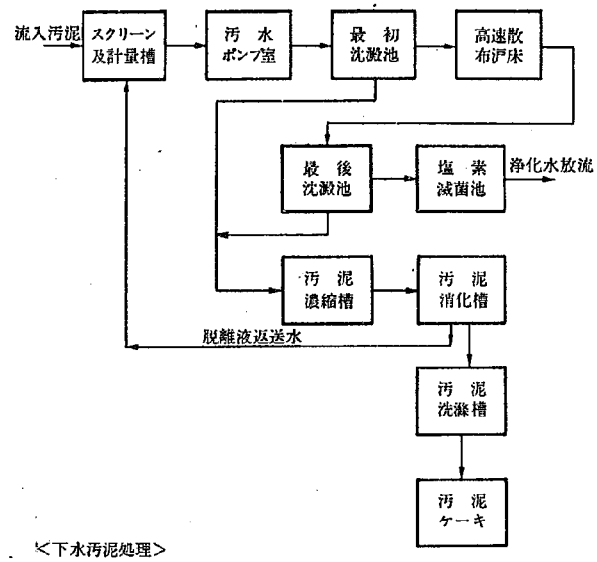
処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
378.83 ha	674.9 ha	41,409 人	244 人	116,191 人	m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

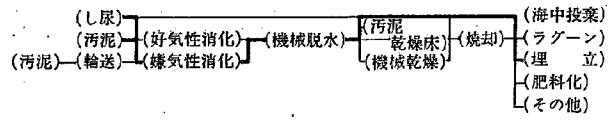
沈砂池	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
スクリーン	(晴天時用) 2 基	(雨天時用) 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 3 台	(雨天時用) 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
最初沈澱池	(晴天時用) 4 池	(雨天時用) 池
2階タンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 台	(雨天時用)
エアレーションタンク	(高級処理用) 池	(中級処理用) 池
散水沪床	(高速用) 2 池	(標準用) 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式) (数量) 台	
最後沈澱池	(活性汚泥用) 池	(散水炉床用) 4 池
滅菌池	(晴天時用) 池	(晴雨天時兼用) 1 池

⑧ フローシート

<第1次および第2次処理>



<下水汚泥処理>



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭38	昭39	昭和41	2 池	27 m	8 m	2.4 m	216 m²	518 m³	28.6 m	13,340 m³/日	19 m³	フラットトラック チェーンコンベヤ	0.3~1.2 m/min	水頭差による手操作
2	42		42.6.1	2	27	8	2.4	216	518	28.6	13,340	19			
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1				池	m	m	m	m³	m³/日	m³/日						
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m²	m²	m	m³/日			倍	
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1	昭40	昭41	昭41.6.1	2 池	24 m	m	1.8 m	452 m²	813 m³	13,340 m³/日	m³/日	1.15 kg/m³/日	14.8 m³/m²/日	50~150 mm	18 φ
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭41	昭41	昭41.6.1	4 池	27 m	4 m	2.4 m	108 m²	259 m³	14.3 m	6,670 m³/日	19 m³	フラットトラック チェーンコンベヤ	0.3~1.2 m/min	水頭差による手操作
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名 北上川

その湧水量および平水量 湧水量 15.52 m³/sec 65.72 m³/sec
放流位置 盛岡都市計画(北川改修計画)に従って実施
処理水放流前の河川水のBODは 43.115 mg/l 17 ppm (盛岡市の調査結果 1.30 ppm)

盛岡市 観武名終末下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理) 昭和41年度
〃 (第2次処理) 〃 41 〃
② 共用開始年月日(第1次処理) 〃 41 〃 7月1日
③ 〃 (第2次処理) 〃 41 〃 〃
④ 下水排除方式 (下流式) 分流式
⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	833 m³/日	833 m³/日	1,420 m³/日	1,420 m³/日	3,456 m³/日	3,456 m³/日
第2次処理	833	833	1,420	1,420	3,456	3,456

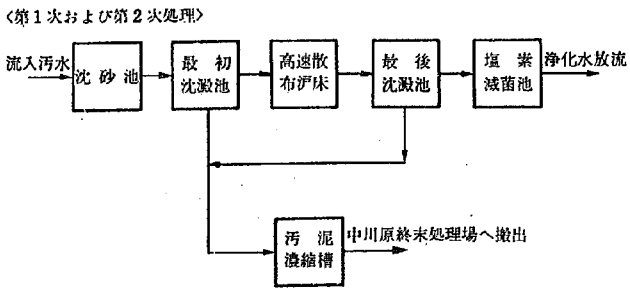
⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
24.6 ha	24.6 ha	2,376 人	2,376 人	3,400 人	m³/日	m³/日

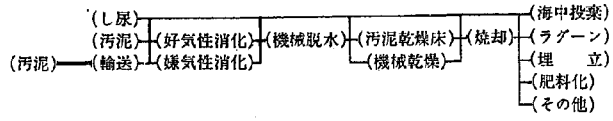
⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用) 2 池	(雨天時用) 池
スクリーン	(晴天時用) 2 基	(雨天時用) 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 3 台	(雨天時用) 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
最初沈澱池	(晴天時用) 2 池	(雨天時用) 池
2階タンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 台	(雨天時用)
エアレーションタンク	(高級処理用) 池	(中級処理用) 池
散水沪床	(高速用) 池	(標準用) 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式)	(数量) 台
最後沈澱池	(活性汚泥用) 池	(散水炉床用) / 池
減菌池	(晴天時用) 池	(晴雨天時兼用) / 池

⑧ フローシード



<下水汚泥処理>



発生汚泥は汚泥濃縮槽に送り自動車にて中川原終末処理場汚泥濃縮槽に搬出

⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭41	昭41	昭41.7.1	2 池	4.2 m	4.2 m	2.7 m	12.9 m²	47.6 m³	33.6 m	416.5 m³/日	27.9 m³	トルトムント		水圧差による制御手操作
2															
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械撹拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1				池	m	m	m	m³	m³/日	m³/日						
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	撹拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m²	m²	m	m³/日			kg	
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1	昭41	昭41	昭41.7.1	1 池	10 m	m	1.7 m	78.5 m²	133.5 m³	833 m³/日	m³/日	0.87 kg/m³/日	10.5 m³/m²/日	70～140 mm	8 φ
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭41	昭41	昭41.7.1	2 池	4.2 m	4.2 m	2.7 m	12.9 m²	47.6 m³	33.6 m	416.5 m³/日	27.9 m³	トルトムント		水圧差による制御手操作
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名 小諸葛川

その湯水量および平水量 湯水量 0.060 m³/sec 平水量 0.300 m³/sec
放流位置 盛岡市下厨川字清後
処理水放流前の河川水のBOD 昭43.11.21 現在 3.5 PPM 参考 堰上の河川水質 2.1 PPM

仙台市南蒲生　下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理)　昭和34年度
〃　(第2次処理)　昭和37年度
② 共用開始年月日(第1次処理)　昭和38年9月1日
③ 〃　(第2次処理)　昭和41年4月1日
④ 下水排除方式　(合流式)　分流式
⑤ 処理能力　167,000 m³/日

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量		晴天時1日最大処理量		雨天時最大処理量	
	現在	計画	現在	計画	現在	計画
第1次処理	100,000 m³/日	190,000 m³/日	140,000 m³/日	190,000 m³/日	3.3 m³/秒	4.6 m³/秒
第2次処理						

⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

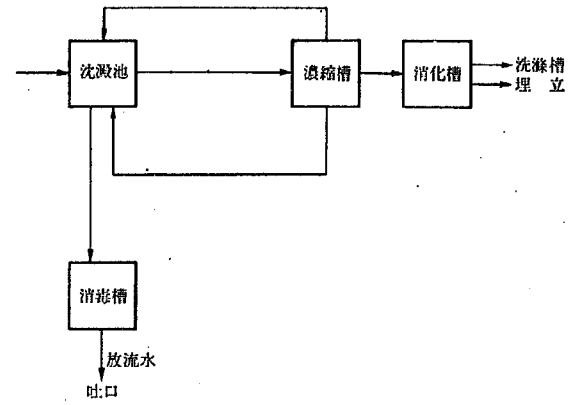
処理面積		処理人口			産業排水量	
現在	計画	現在排水人口	水洗便所使用人口	計画処理人口	現在	計画
1,723 ha	4,277 ha	224,600 人	58,941 人	483,600 人	m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

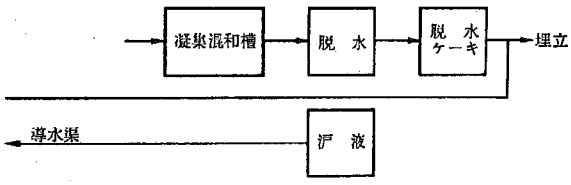
沈砂池	(晴天時用)　1 池	(雨天時用)　2 池
スクリーン	(晴天時用)　1 基	(雨天時用)　2 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用)　一 台	(雨天時用)　一 台
前エアレーションタンク	(晴天時用)　一 池	(雨天時用)　一 池
最初沈澱池	(晴天時用)　27 池	(雨天時用)　27 池
2階タンク	(晴天時用)　一 池	(雨天時用)　一 池
第2揚水ポンプ	(汚水用)　一 台	(雨天時用)　一
エアレーションタンク	(高級処理用)　一 池	(中級処理用)　一 池
散水沪床	(高速用)　一 池	(標準用)　一 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式)　(数量) 一 台	
最後沈澱池	(活性汚泥用)　一 池	(散水炉床用)　池
滅菌池	(晴天時用)　1 池	(晴雨天時兼用)　1 池

⑧ フローシート

<第1次および第2次処理>



<下水汚泥処理>



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
				池	m	m	m	m²	m³	m	m³/日	m³			
1	昭36.3.20		昭39.10.1	3	30	10	3	300	900	10	5,800	60	フラリファイヤー式	0.3~0.6 m/分	ポンプ
2	昭36.12.11		〃	3	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
3	昭40.3.20	昭40.3.20	〃	3	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
4	昭41.3.31	昭41.5.31	〃	9	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
5	昭42.3.31	昭42.5.31	〃	9	〃	〃	〃	〃	〃	30.4	〃	〃	リングベル式	〃	サイホン

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械撹拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
				池	m	m	m	m³	m³/日	m³/日						
1																
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部1池当り 沈澱部 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	撹拌機の有無
				池	m	m	m	m³	m²	m	m³/日			倍	
1															
2															

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	m	個
1															
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
				池	m	m	m	m²	m³	m	m³/日	m³			
1															
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名　仙台湾

その渇水量および平水量
放流位置
処理水放流前の河川水のBOD

山形 郡 市 笹町 下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理) 昭和36年4月1日

〃 (第2次処理) 〃

② 共用開始年月日(第1次処理) 昭和40年11月18日

③ 〃 (第2次処理)

④ 下水排除方式 合流式 分流式

⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	5,252 m³/日	20898 m³/日	6,000 m³/日	27864 m³/日	6,660 m³/日	46440 m³/日
第2次処理						

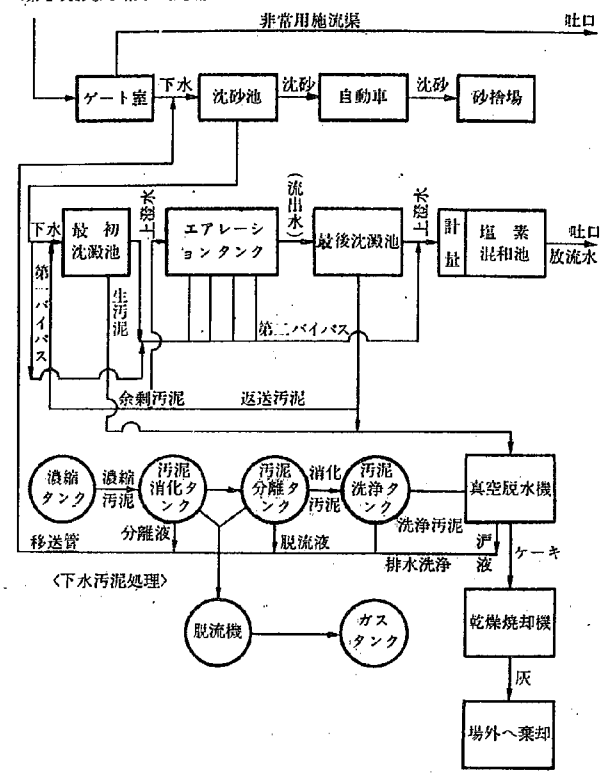
⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
188.03ha	253.29ha	52,409 人	25,117 人	77,400 人	110 m³/日	110 m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用) 2 池	(雨天時用) 池
スクリーン	(晴天時用) 1 基	(雨天時用) 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 1 台	(雨天時用) 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
最初沈澱池	(晴天時用) 1 池	(雨天時用) 池
2階タンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 1 台	(雨天時用)
エアレーションタンク	(高級処理用) 4 池	(中級処理用) 池
散水沪床	(高速用) 池	(標準用) 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式)	(数量) 台
最後沈澱池	(活性汚泥用) 池	(散水炉床用) 池
滅菌池	(晴天時用) 池	(晴雨天時兼用) 池

⑧ フローシート



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
				池	m	m	m	m²	m³	m	m³/日	m³			
1	昭37		昭40.11.18	1	30.6	18.7	2.5	572	1,431	133.5	20898	7	かき寄せ式	0.3～1.24 m/min	生汚泥ポンプ
2															
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械撹拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
				池	m	m	m	m³	m³/日	m³/日						
1	未見成															
2	40施工			2	110.0	4.65	4.0	4,092	21,515	678.4	散気板	48枚/池				
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	撹拌機の有無
				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日			倍	
1																
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	mm	孔
1															
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
				池	m	m	m	m²	m³	m	m³/日	m³			
1															
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先

放流河川名 鳥堰幹線排水路

その港水量および平水量 晴天時 0.092 m³/s 雨天時 1803 m³/s

放流位置 山形市笹町字川原田 960 (処理場放流水吐口)

処理水放流前の河川水のBOD 昼 316.1 PPm 夜 101～301 PPm

宇都宮市　田川　下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理)　昭和 39 年度
〃　(第2次処理)　昭和 37 年度
② 共用開始年月日(第1次処理)　昭和 40 年 8 月 1 日
③ 〃　(第2次処理)　昭和 40 年 8 月 1 日
④ 下水排除方式　合流式　分流式

⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量		晴天時1日最大処理量		雨天時最大処理量	
	現在	計画	現在	計画	現在	計画
第1次処理	11,840 m³/日	11,840 m³/日	17,710 m³/日	17,710 m³/日	35,520 m³/日	35,520 m³/日
第2次処理	11,840	11,840	17,710	17,710	11,840	11,840

⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

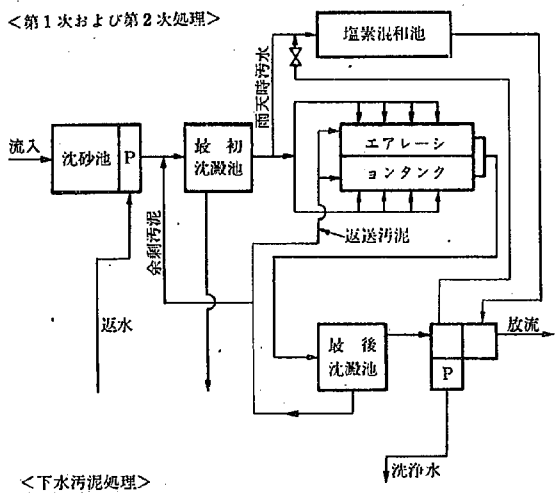
処理面積		処理人口			産業排水量	
現在	計画	現在排水人口	水洗便所使用人口	計画処理人口	現在	計画
1038 ha	1186 ha	42,800 人	8,000 人	46,000 人	m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

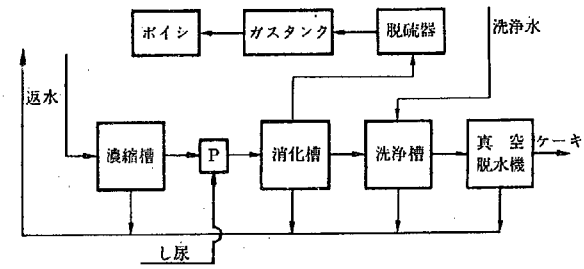
沈砂池	(晴天時用) 1 池	(雨天時用) 池
スクリーン	(晴天時用) 2 基	(雨天時用) 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 4 台	(雨天時用) 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
最初沈澱池	(晴天時用) 2 池	(雨天時用) 池
2階タンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 台	(雨天時用)
エアレーションタンク	(高級処理用) 2 池	(中級処理用) 池
散水沪床	(高速用) 池	(標準用) 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式)	(数量) 台
最後沈澱池	(活性汚泥用) 2 池	(散水沪床用) 池
滅菌池	(晴天時用) 1 池	(晴雨天時兼用) 池

⑧ フローシート

<第1次および第2次処理>



<下水汚泥処理>



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭 39	昭 39	昭 40.8.1	2 池	27.0 m	5.15 m	3.1 m	139 m²	431 m³	25.8 m	5,920 m³/日	10.1 m³	リンクマレイ式汚泥掻寄機	0.7 m/min	汚泥引抜ポンプ
2															
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1	昭 37	昭 37	昭 40.8.1	1 池	50 m	8 m	4.5 m	1,800 m³	5,920 m³/日	1,480 m³/日	散気盤	84	5			
2	昭 41	昭 41	昭 42.4.1	1	50	8	4.5	1,800	5,920	1,480	散気盤	84	5			
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	1池当り 沈澱部水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日				
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	mm	孔
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭 37	昭 38	昭 40.8.1	1 池	36 m	10 m	3.4 m	221 m²	1224 m³	76 m	8,000 m³/日	m³	汚泥掻寄機	1.0 m/min	汚泥ポンプ
2	昭 41	昭 41	昭 42.4.1	1	36	5	3.4	164	812	45	4,000	6.8	汚泥掻寄機	0.5 m/min	〃
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名　田川

その渇水量および平水量　渇水量 8 m³/sec　平水量 13 m³/sec
放流位置　右岸
処理水放流前の河川水のBOD　12

日光市 中宮祠 下水処理場

① 工事着手年度（第1次処理） 昭和37年
〃 （第2次処理）
② 共用開始年月日（第1次処理） 昭和39年10月1日
③ 〃 （第2次処理）
④ 下水排除方式 合流式 （分流式）

⑤ 処理能力

処理システム ＼ 汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	821.6 m³/日	1,376.8 m³/日	984 m³/日	2,376.8 m³/日	m³/日	m³/日
第2次処理						

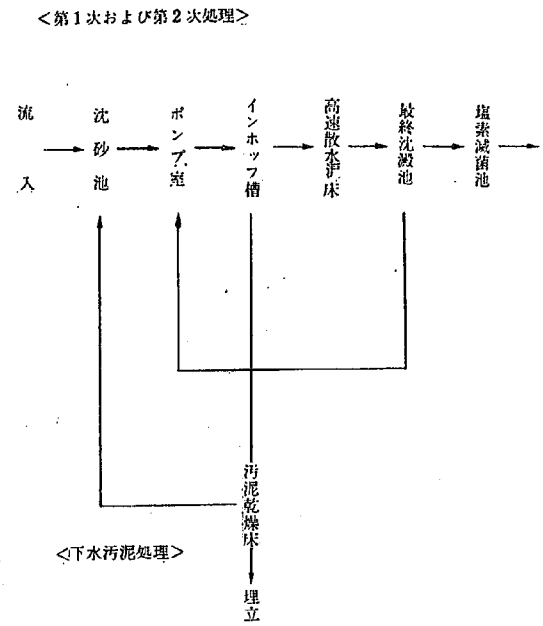
⑥ 処理面積，処理人口，産業排水量

処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
45.3 ha	45.3 ha	1,800 人	1,800 人	3,000 人	m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	（晴天時用） 2 池	（雨天時用） 池
スクリーン	（晴天時用） 2 基	（雨天時用） 基
第1揚水ポンプ	（晴天時用） 2 台	（雨天時用） 台
前エアレーションタンク	（晴天時用） 池	（雨天時用） 池
最初沈澱池	（晴天時用） 池	（雨天時用） 池
2階タンク	（晴天時用） 5 池	（雨天時用） 池
第2揚水ポンプ	（汚水用） 台	（雨天時用）
エアレーションタンク	（高級処理用） 池	（中級処理用） 池
散水沪床	（高速用） / 池	（標準用） 池
高速エアレーション沈澱池	（製造会社，商品名・型式） （数量） 台	
最後沈澱池	（活性汚泥用） 池	（散水炉床用） / 池
滅菌池	（晴天時用） / 池	（晴雨天時兼用） 池

⑧ フローシート



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池（2階タンク）

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭39	昭39	39.10.1	5 池	4.35 m	4.15 m	4.1 m	20.2 m²	47.5 m³	8.70 m	47.5 m³/日	35.4 m³	沈澱		水圧により流下
2															
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1				池	m	m	m	m³	m³/日	m³/日						
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日			%	
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1	昭37	昭39	39.10.1	1 池	13.5 m	m	1.8 m	143 m²	257 m³	1,376.9 m³/日	908.3 m³/日	1.17 kg/m³/日	20 m³/m²/日	50～60 mm	44 個
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭39	昭39	39.10.1	1 池	11 m	m	2.5 m	94.8 m²	237.5 m³	15.7 m	2,845.2 m³/日	m³	間歇式汚泥掻寄機	20 cm/min	汚水ポンプ室に水圧で流下
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名 大谷川

その渇水量および平水量 平水量 5.1 m³/sec
放流位置 けごん滝下流 白糸下
処理水放流前の河川水のBOD 9.36 PPM

日光 都市 湯元 下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理) 昭和 39 年

〃 (第2次処理)

② 共用開始年月日(第1次処理) 昭和 41 年 6 月 1 日

③ 〃 (第2次処理)

④ 下水排除方式 合流式 (分流式)

⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量		晴天時1日最大処理量		雨天時最大処理量	
	現在	計画	現在	計画	現在	計画
第1次処理	688.1 m³/日	1,368 m³/日	825 m³/日	1,638 m³/日	m³/日	m³/日
第2次処理						

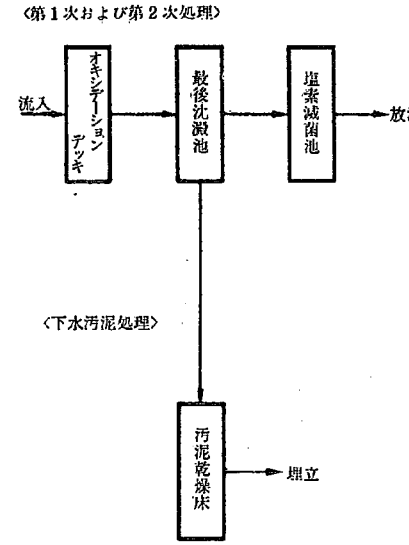
⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

処理面積		処理人口			産業排水量	
現在	計画	現在排水人口	水洗便所使用人口	計画処理人口	現在	計画
27.6 ha	27.6 ha	400 人	400 人	1,050 人	m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
スクリーン	(晴天時用) 1 基	(雨天時用) 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 2 台	(雨天時用) 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
最初沈澱池	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
2階タンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 台	(雨天時用)
エアレーションタンク	(高級処理用) 1 池	(中級処理用) 池
散水沪床	(高速用) 池	(標準用) 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式)	(数量) 台
最後沈澱池	(活性汚泥用) 2 池	(散水沪床用) 池
滅菌池	(晴天時用) 1 池	(晴雨天時兼用) 池

⑧ フローシート



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1				池	m	m	m	m²	m³	m	m³/日	m³			
2															
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1	昭39~41	昭39~40	昭41.6.1	1 池	14.4 m	5.5 m	1 m	684 m³	1,368 m³/日	400 m³/日				自製にブラッシ	2	75 1/m
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部1池当り 沈澱部	水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m²	m²	m	m³/日			%	
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	m	個
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭39~40		昭41.6.1	2 池	9.0 m	5 m	2.5 m	45 m²	112.5 m³	5 m	684 m³/日	30 m³	沈澱		水圧により流下
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先

放流河川名 湯の湖

その渇水量および平水量 平水量 0.5 m³/sec (湯川)

放流位置 湖岸

処理水放流前の河川水のBOD 4.27 PPM

前橋市 前橋	下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理) 昭和36年11月1日
〃 (第2次処理) 昭和39年6月1日(浄化槽に直送)
② 共用開始年月日(第1次処理) 昭和39年4月1日
③ 〃 (第2次処理) 昭和40年4月1日(浄化槽に下水を流入開始)
④ 下水排除方式 (合流式) 分流式

⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	10,600 m³/日	31,210 m³/日	15,200 m³/日	46,815 m³/日	25,000 m³/日	86,400 m³/日
第2次処理	10,400	31,210	13,000	46,815	13,000	86,400

⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

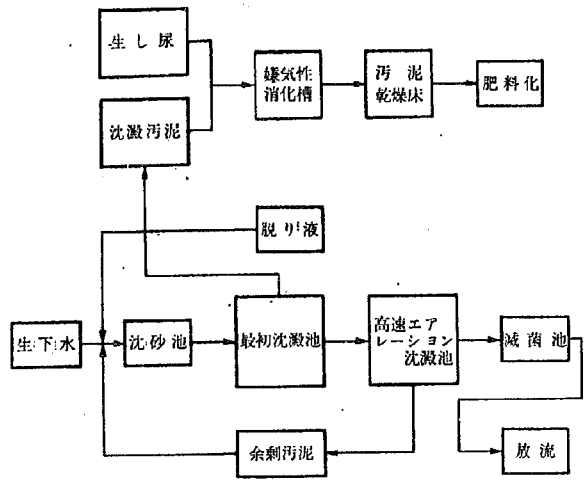
処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
334 ha	1,640 ha	42,850 人	27,220 人	120,000 人	m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

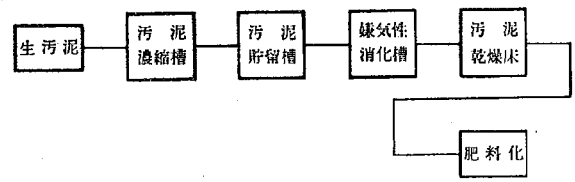
沈砂池	(晴天時用) 2 池	(雨天時用) 1 池
スクリーン	(晴天時用) 2 基	(雨天時用) 1 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 2 台	(雨天時用) 2 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
最初沈澱池	(晴天時用) 3 池	(雨天時用) 池
2階タンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 台	(雨天時用)
エアレーションタンク	(高級処理用) 池	(中級処理用) 池
散水沪床	(高速用) 池	(標準用) 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式) 石原インクルテック (数量) 3 台	
最後沈澱池	(活性汚泥用) 池	(散水炉床用) 池
減菌池	(晴天時用) 池	(晴雨天時兼用) 1 池

⑧ フローシート

第1次および第2次処理>



<下水汚泥処理>



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
				池	m	m	m	m²	m³	m	m³/日	m³			
1	昭36	昭36	昭38.4.1	1	径20		2.6	314	816	65.6	10,400		クラリフロッカー	30分/回	線形式
2	〃38	〃38	〃39.4.1	1			〃	〃	〃	〃	〃		〃	〃	〃
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
				池	m	m	m	m³	m³/日	m³/日						
1																
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日			%	
1	昭40.	昭40	昭40	1	径21.4		5.9	630	420	169	6.9	10,400	散気管 スパージャリング	1	40	有
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	m	個
1															
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
				池	m	m	m	m²	m³	m	m³/日	m³			
1															
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名 利根川

その渇水量および平水量 渇水量 50/秒 平水量 120 m³/秒
放流位置 前橋市六供町1331地先
処理水放流前の河川水のBOD 3.7 p.p.m

高崎市　城南　下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理) 創設 昭和27年度　第一次増設 昭和32年度　第二次増設 昭和40年度
〃　(第2次処理)　〃　上

② 共用開始年月日(第1次処理) 創設 昭和32年度　第一次増設 昭和36年度　第二次増設 昭和42年度

③ 〃　(第2次処理)　〃　上

④ 下水排除方式　(合流式)　(一部分流式)

⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	27,860 m³/日	41,720 m³/日	40,800 m³/日	60,600 m³/日	105,500 m³/日	147,160 m³/日
第2次処理	27,860 〃	41,720 〃	〃	〃	40,800 〃	60,600 〃

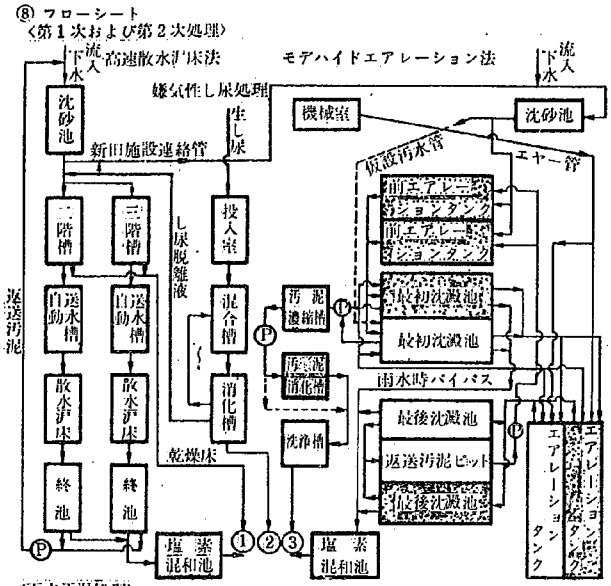
⑥ 処理面積，処理人口，産業排水量

処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
398 ha	808 ha	44,536 人	31,050 人	136,600 人	m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用) 2 池	(雨天時用) 池
スクリーン	(晴天時用) 4 基	(雨天時用) 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 台	(雨天時用) 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
最初沈澱池	(晴天時用) 1 池	(雨天時用) 池
2階タンク	(晴天時用) 2 池	(雨天時用) 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 台	(雨天時用)
エアレーションタンク	(高級処理用) 池	(中級処理用) 1 池
散水沪床	(高速用) 2 池	(標準用) 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社，商品名・型式)	(数量) 台
最後沈澱池	(活性汚泥用) 1 池	(散水炉床用) 2 池
滅菌池	(晴天時用) 1 池	(晴雨天時兼用) 1 池

⑧ フローシート



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭31	昭32	昭32.6.1	1 池	19 m	20.27 m	9.6 m	385 m²	3656 m³	26.4 m	7,000 m³/日	m³	傾斜ホッパー		自然流下手動バルブ開閉
2	昭34	35	37.3.20	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃		〃		〃
3	〃40	42	42.11.1	〃	31	10	3.2	310	985	80	13,860	37.8	フロリデエンドレススクレーパー	0.3～1.2 m/分	電動機直結ポンプ
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1	昭41	昭42	昭42.11.1	1 池	45.2列 m	5.3 2列 m	3.5 m	1590 m³	13,860 m³/日	1,386 m³/日	ディスク型ディフューザー	16×12 =192	4倍			
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m²	m²	m	m³/日			倍	
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1	昭31	昭31	昭32.6.1	1 池	φ26 m	m	1.8 m	531 m²	956 m³	7,000 m³/日	m³/日	1.2 kg/m³/日	12.8 m³/m²/日	50～80 mm	108 個
2	〃36	36	37.3.20	1	〃		1.8	531	〃	〃		〃	〃	〃	〃
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭31	昭31	昭32.6.1	2 池	11 m	11 m	4.8 m	121 m²	581 m³	40 m	3,500 m³/日	204 m³	傾斜ホッパー式		返送汚泥ポンプ
2	〃36	36	37.3.20	2	11	〃	7.8	〃	628.5	〃	3,500	402	〃上		〃
3	〃40	42	42.11.1	1	31.6	14	3.0	442.5	1,270	150	13,860	360	〃上	25 m/分	サイホン式自動吸揚装置
4															
5															

⑩ 処理水放流先

放流河川名　烏川(1級直轄河川)

その湯水量および平水量　湯水量 211,024 m³/日(141 m³/秒)　平水量 656,640 m³/日(7.6 m³/秒)

放流位置　高崎市和田多中町 550 番地2先

処理水放流前の河川水のBOD　年間平均 3 ppm (2～5 ppm)

桐生市　境野　下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理) 昭和 41年 6月 24日
〃 (第2次処理) 昭和 41年 6月 24日
② 共用開始年月日(第1次処理) 昭和 42年 6月 1日
③ 〃 (第2次処理) 昭和 42年 6月 1日
④ 下水排除方式 合流式　分流式
⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	11,200 m³/日	22,134 m³/日	18,700 m³/日	36,400 m³/日	41,000 m³/日	44,800 m³/日
第2次処理	11,000	22,134	24,625	22,134	36,250	22,134

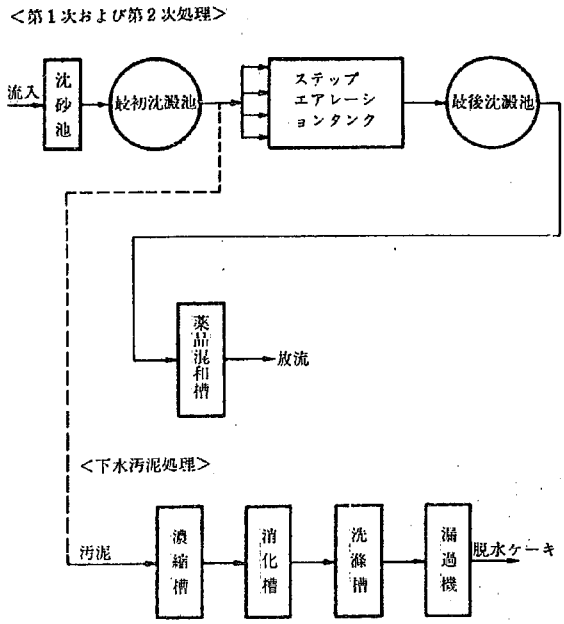
⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
140 ha	543 ha	28,000 人	13,550 人	93,000 人	m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用) 1 池	(雨天時用) 1 池
スクリーン	(晴天時用) 2 基	(雨天時用) 2 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 1 台	(雨天時用) (予備1台) 1 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
最初沈澱池	(晴天時用) 2 池	(雨天時用) 池
2階タンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 台	(雨天時用)
エアレーションタンク	(高級処理用) 2 池	(中級処理用) 池
散水沪床	(高速用) 池	(標準用) 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式)	(数量) 台
最後沈澱池	(活性汚泥用) 2 池	(散水炉床用) 池
滅菌池	(晴天時用) 池	(晴雨天時兼用) 1 池

⑧ フローシート



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭 41	昭 41	昭 42.6.1	1 池	径 21 m	m	2 m	346 m²	692 m³	11.7 m	27,900 m³/日	1.2 m³	中心駆動回転	2.5分/回転	ポンプ
2	〃 42	昭 42	〃 43.4.1	1	21		2	346	692	11.7	27,900	1.2	〃	〃	〃
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1	昭 39	昭 40	昭 40.9.1	1 池	25.3 m	16 m	3 m	1,214 m³	11,067 m³/日	2,767 m³/日	散気管	460	86			
2	〃 42	〃 42	〃 43.4.1	1	25.3	16	3	1,214	11,067	2,767	〃	416	86			
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日			%	
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	mm	個
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭 41	昭 41	昭 42.6.1	1 池	径 21 m	m	2.5 m	346 m²	865 m³	11.7 m	13,834 m³/日	1.2 m³	中心駆動回転	2.5分/回転	ポンプ
2	昭 42	昭 42	昭 43.4.1	1	21		2.5	346	865	11.7	13,834	1.2	〃	〃	〃
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名　渡良瀬川

その汚水量および平水量　汚水量 4.5 m³/sec　平水量 10.1 m³/sec
放流位置　渡良瀬川 46.6 km 付近　桐生市境野町下ミツ堀 159594 地先
処理水放流前の河川水のBOD

伊香保町 物南沢 下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理) 昭和38年10月5日

〃 (第2次処理)

② 共用開始年月日(第1次処理) 昭和41年9月1日

③ 〃 (第2次処理)

④ 下水排除方式 合流式 第1排水区分流式 第2排水区(計画)

⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量		晴天時1日最大処理量		雨天時最大処理量	
	現在	計画	現在	計画	現在	計画
第1次処理	7,200 m³/日	14,180 m³/日	9,600 m³/日	17,149 m³/日	0.12 m³/日	0.16 m³/日
第2次処理						

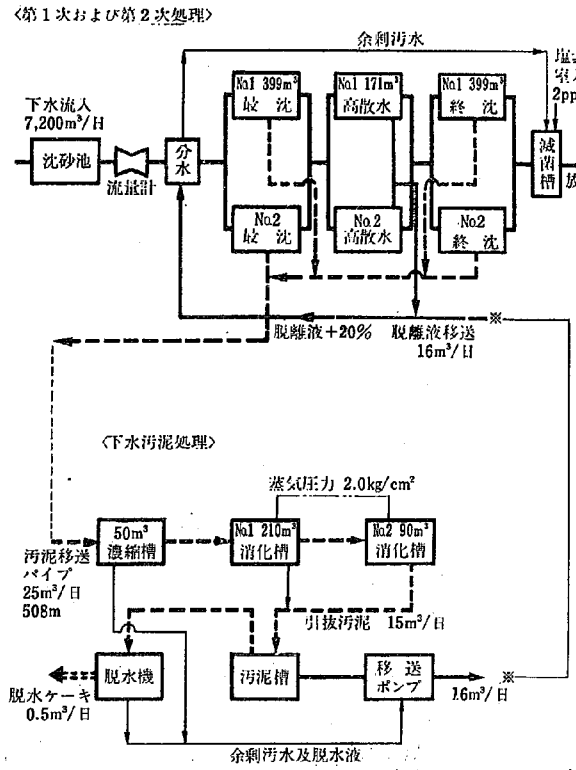
⑥ 処理面積、処理人口、産業排水量

処理面積		処理人口			産業排水量	
現在	計画	現在排水人口	水洗便所使用人口	計画処理人口	現在	計画
260 ha	908.7 ha	2,354 人	723 人	16,100 人	m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用) 1 池	(雨天時用) 1 池
スクリーン	(晴天時用) 2 基	(雨天時用) 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 台	(雨天時用) 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
最初沈澱池	(晴天時用) 2 池	(雨天時用) 池
2階タンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 台	(雨天時用)
エアレーションタンク	(高級処理用) 池	(中級処理用) 池
散水沪床	(高速用) 2 池	(標準用) 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式)	(数量) 台
最後沈澱池	(活性汚泥用) 池	(散水沪床用) 2 池
滅菌池	(晴天時用) 池	(晴雨天時兼用) 1 池

⑧ フローシート



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭38	昭38	昭41.9.1	1 池	径 13.00 m	m	3.20 m	133 m²	399 m³	42 m	4,715 m³/日	m³	回転式汚泥掻寄せ機	45 m/min	自然流下
2	〃39	〃39	〃41.9.1	1	〃13.00	〃	〃	〃	〃	42	〃		〃	〃	〃
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1				池	m	m	m	m³	m³/日	m³/日						
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m²	m²	m	m³/日			倍	
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1	昭39	昭39	昭41.9.1	2 池	径 11.00 m	m	1.8.00 m	95.0 m²	171.0 m³	9,430 m³/日	2,360 m³/日	12 kg/m³/日	49.7 m³/m²/日	40～50 mm	136 箇
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭40	昭40	昭41.9.1	2 池	径 13.00 m	m	3.20 m	133 m²	399 m³	42 m	9,430 m³/日	m³	回転式汚泥掻寄せ機	45 m/min	汚泥処理場へ移送ポンプ
2													〃		
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先

放流河川名 沼尾川

その湧水量および平水量 湧水量 m³/sec 平水量 13 m³/sec

放流位置 下流部 (吾妻川～利根川)

処理水放流前の河川水のBOD

川口市　領家　下水処理場

① 工事着手年度（第1次処理）昭和31年度
〃　（第2次処理）昭和41年度
② 共用開始年月日（第1次処理）昭和34年7月1日　37年8月1日
③ 〃　（第2次処理）
④ 下水排除方式　合流式　分流式
⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量		晴天時1日最大処理量		雨天時最大処理量	
	現在	計画	現在	計画	現在	計画
第1次処理	18,100 m³/日	18,230 m³/日	23,800 m³/日	25,200 m³/日	27,000 m³/日	50,544 m³/日
第2次処理				37,500		75,000

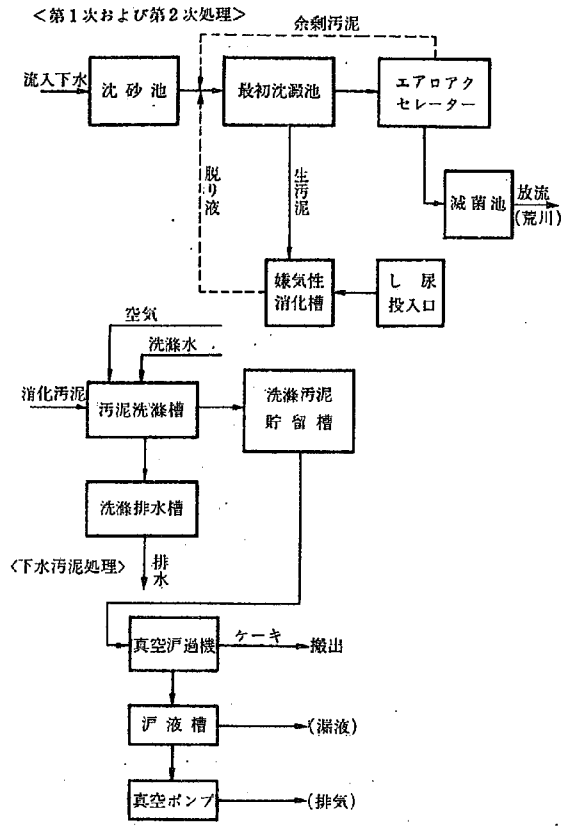
⑥ 処理面積，処理人口，産業排水量

処理面積		処理人口			産業排水量	
現在	計画	現在排水人口	水洗便所使用人口	計画処理人口	現在	計画
185 ha	1,187 ha	84,000 人	73,000 人	150,000 人	280 m³/日	280 m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	（晴天時用）	2 池	（雨天時用）	池
スクリーン	（晴天時用）	2 基	（雨天時用）	基
第1揚水ポンプ	（晴天時用）	2 台	（雨天時用）	2 台
前エアレーションタンク	（晴天時用）	池	（雨天時用）	池
最初沈澱池	（晴天時用）	2 池	（雨天時用）	池
2階タンク	（晴天時用）	池	（雨天時用）	池
第2揚水ポンプ	（汚水用）	台	（雨天時用）	
エアレーションタンク	（高級処理用）	池	（中級処理用）	池
散水沪床	（高速用）	池	（標準用）	池
高速エアレーション沈澱池	（製造会社，商品名・型式）（産業廃棄物処理プラント数量）	台		
最後沈澱池	（活性汚泥用）	池	（散水炉床用）	池
滅菌池	（晴天時用）	池	（晴雨天時兼用）	1 池

⑧ フローシート



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭32年度	昭32年度	昭34.7.1	2 池	20.6 m	m	2.7 m	314 m²	847 m³	62.8 m	晴天18,000 m³/日 雨天36,000	0.6 m³	2点式 ドロスクレッパ	21 m/分	生汚泥ポンプ引抜
2															
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1				池	m	m	m	m³	m³/日	m³/日						
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
1	昭36年度	昭36年度	昭37.8.1	2 池	20 m	m	5.1 m	1,167 m³	527 m³	250 m²	62.8 m	7,755 m³/日	スターシャンプ 空気使用	8 個		有
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	m	個
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1				池	m	m	m	m²	m³	m	m³/日	m³			
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名　荒川（一級河川）水質基準荒川水域
その湯水量および平水量　8.0 m³/s
放流位置　川口市領家町 334 之1 番地
2処理水放流前の河川水のBOD　43.PPm

飯能市前ヶ貫 下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理) 昭和38年度
〃 (第2次処理)
② 共用開始年月日(第1次処理) 昭和41年4月1日
③ 〃 (第2次処理)
④ 下水排除方式 (合流式) 分流式
⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量		晴天時1日最大処理量		雨天時最大処理量	
	現在	計画	現在	計画	現在	計画
第1次処理	3,500 m³/日	7,986 m³/日	4,000 m³/日	8,201 m³/日	5,000 m³/日	23,850 m³/日
第2次処理						

⑥ 処理面積、処理人口、産業排水量

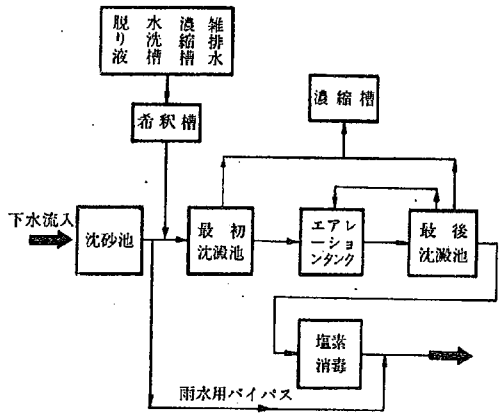
処理面積		処理人口			産業排水量	
現在	計画	現在排水人口	水洗便所使用人口	計画処理人口	現在	計画
791 ha	1,877 ha	16,500 人	1,000 人	33,000 人	600 m³/日	300 m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

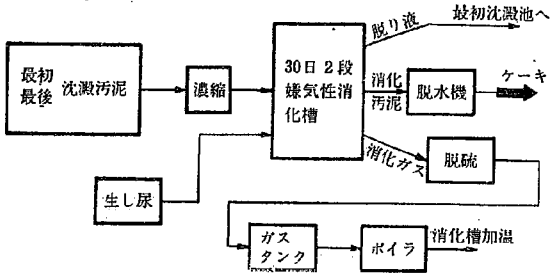
沈砂池	(晴天時用) 1 池	(雨天時用) 池
スクリーン	(晴天時用) 基	(雨天時用) 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 台	(雨天時用) 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
最初沈澱池	(晴天時用) 1 池	(雨天時用) 池
2階タンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 台	(雨天時用)
エアレーションタンク	(高級処理用) 1 池	(中級処理用) 池
散水沪床	(高速用) 池	(標準用) 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社、商品名・型式)	(数量) 台
最後沈澱池	(活性汚泥用) 1 池	(散水炉床用) 池
滅菌池	(晴天時用) 1 池	(晴雨天時兼用) 池

⑧ フローシート

<第1次および第2次処理>



<下水汚泥処理>



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭38年度	昭38年度	昭41.4.1	1 池	16 m	8 m	2 m	128 m²	256 m³	31 m	3,993 m³/日	9 m³	平行流式	0.70 m/分	ポンプ
2															
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1	昭38年度	昭38年度	昭41.4.1	1 池	20 m	15 m	4 m	1,200 m³	3,993 m³/日	998 m³/日	間間散気 提間流式	88 ヶ	6.75			
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日			倍	
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1				台	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	m	個
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭38年度	昭38年度	昭41.4.1	1 池	16 m	8 m	2.6 m	128 m²	332.8 m³	31 m	3,993 m³/日	10.8 m³	平行流式	0.35 m/分	自然流下
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名 荒川水系 荒川水域指定成利
その渇水量および平水量 渇水量 0.40 m³/sec
放流位置 飯能市前ヶ貫1番地先
処理水放流前の河川水のBOD 3.0 ppm

大宮市 南部 下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理) 昭和37年度

〃 (第2次処理)

② 共用開始年月日(第1次処理) 昭和41年4月1日

③ 〃 (第2次処理)

④ 下水排除方式 (合流式) 分流式

⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量		晴天時1日最大処理量		雨天時最大処理量	
	現在	計画	現在	計画	現在	計画
第1次処理	13,000 m³/日	20,700 m³/日	16,000 m³/日	21,600 m³/日	43,000 m³/日	54,000 m³/日
第2次処理						

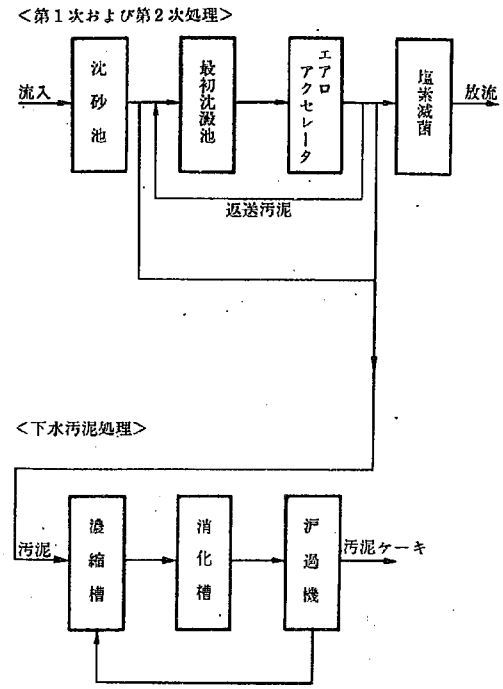
⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

処理面積		処理人口			産業排水量	
現在	計画	現在排水人口	水洗便所使用人口	計画処理人口	現在	計画
140.2 ha	365.4 ha	15,225 人	7,330 人	90,000 人	70 m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用) 2 池	(雨天時用) 2 池
スクリーン	(晴天時用) 2 基	(雨天時用) 2 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 4 台	(雨天時用) 4 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
最初沈澱池	(晴天時用) 2 池	(雨天時用) 2 池
2階タンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 台	(雨天時用)
エアレーションタンク	(高級処理用) 8 池	(中級処理用) 8 池
散水沪床	(高速用) 池	(標準用) 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式)	(数量) 台
最後沈澱池	(活性汚泥用) 池	(散水炉床用) 池
滅菌池	(晴天時用) 1 池	(晴雨天時兼用) 池

⑧ フローシート



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
				池	m	m	m	m²	m³	m	m³/日	m³			
1	昭 37	昭 37	昭 41	1	φ16	-	2.4	201	480	50.24	6,900	1	クラリファイヤー	25分/回	ポンプ圧送
2	〃 42	〃 42	〃 42	1	φ16	-	2.4	201	480	50.24	6,900	1	クラリファイヤー	25分/回	〃
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械撹拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
				池	m	m	m	m³	m³/日	m³/日						
1	昭 39	昭 40	昭 41	1	φ17.5	-	5.6	1,346	6,900	1400				エアロ・アクセレータ	1	15kW 駆動装置
2	昭 41	〃 41	〃 42	1	φ17.5	-	5.6	1,346	6,900	1400				エアロ・アクセレータ	1	15kW 〃
3	〃 42	〃 41		1	φ17.5	-	5.6	1,346	6,900	1,400				エアロ・アクセレータ	1	15kW 〃

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	撹拌機の有無
				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日			倍	
1																
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	m	個
1															
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
				池	m	m	m	m²	m³	m	m³/日	m³			
1															
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先

放流河川名 荒川

その湯水量および平水量 渇水量 1.83 m³/sec 平水量 2.03 m³/sec

放流位置 大宮市上山口新田地内

処理水放流前の河川水のBOD 30.0 ppm

川越市 滝ノ下 下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理) 昭和37年1月10日
〃 (第2次処理)
② 共用開始年月日(第1次処理) 昭和39年12月28日
③ 〃 (第2次処理)
④ 下水排除方式 (合流式) 分流式

⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量		晴天時1日最大処理量		雨天時最大処理量	
	現在	計画	現在	計画	現在	計画
第1次処理	15,000 m³/日	22,400 m³/日	23,000 m³/日	31,900 m³/日	45,000 m³/日	67,100 m³/日
第2次処理						

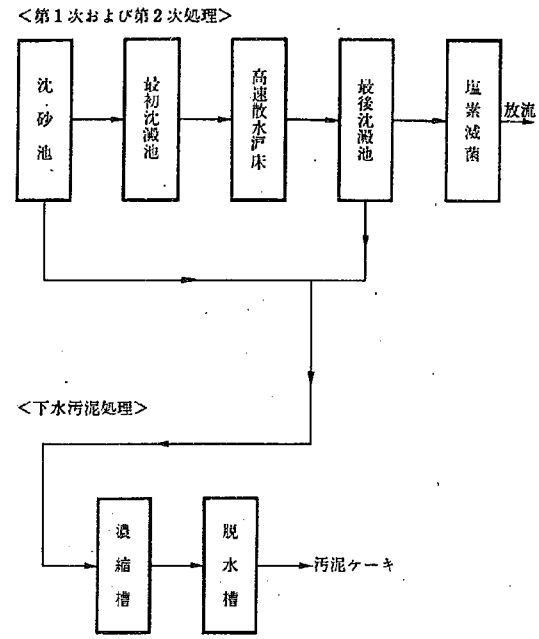
⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

処理面積		処理人口			産業排水量	
現在	計画	現在排水人口	水洗便所使用人口	計画処理人口	現在	計画
902 ha	847 ha	35,000 人	13,900 人	145,000 人	m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用) 2 池	(雨天時用) 池
スクリーン	(晴天時用) 2 基	(雨天時用) 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 台	(雨天時用) 1 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) 1 池	(雨天時用) 池
最初沈澱池	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
2階タンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 台	(雨天時用)
エアレーションタング	(高級処理用) 池	(中級処理用) 池
散水沪床	(高速用) 1 池	(標準用) 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式)	(数量) 台
最後沈澱池	(活性汚泥用) 池	(散水炉床用) 2 池
滅菌池	(晴天時用) 池	(晴雨天時兼用) 1 池

⑥ フローシート



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭38	昭39	昭39.12.28	1 池	22φ m	m	2.5 m	380 m²	950 m³	68 m	22,400 m³/日	2.8 m³	周辺駆動式汚泥掻寄機	1回転25分	自然流下
2															
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械撹拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1				池	m	m	m	m³	m³/日	m³/日						
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	撹拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日				
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1	昭38	昭39	昭39.12.28	1 池	24φ m	m	1.8 m	450 m²	810 m³	11,200 m³/日	m³/日	kg/m³/日 1.1	25 m³/m²/日	50～60 m (従来は100～150)	50 孔
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭36	昭39	昭39.12.28	1 池	22φ m	m	2.5 m	38 m²	950 m³	68 m	11,200 m³/日	2.8 m³	周辺駆動式汚泥掻寄機	1回転30分	汚泥水中ポンプ引抜き
2	〃 37	〃 39	〃 39.12.28	1	22φ		2.5	38	950	68	11,200	2.8	周辺駆動式汚泥掻寄機	1回転30分	汚泥水中ポンプ引抜き
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先

放流河川名 新河岸川 昭和40年4月1日 水質規制1級河川に昇格 成内処理水放流前の河川水のBOD平均 BOD 14 mg/l

その渇水量および平水量 渇水量 40,000 m³/日 平水量 50,000 m³/日

放流位置 川越市大字大仙波字滝の下1287番地先 期水量(ｸﾗﾝｸｲﾝ) 150,000 m³/日

川越 都市 霞ヶ関北一 下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理) 昭和39年7月25日

〃 (第2次処理)

② 共用開始年月日(第1次処理) 昭和40年3月26日

③ 〃 (第2次処理)

④ 下水排除方式 合流式 分流式

⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量		晴天時1日最大処理量		雨天時最大処理量	
	現在	計画	現在	計画	現在	計画
第1次処理	1,518 m³/日	1,800 m³/日	1,930 m³/日	2,160 m³/日	m³/日	m³/日
第2次処理						

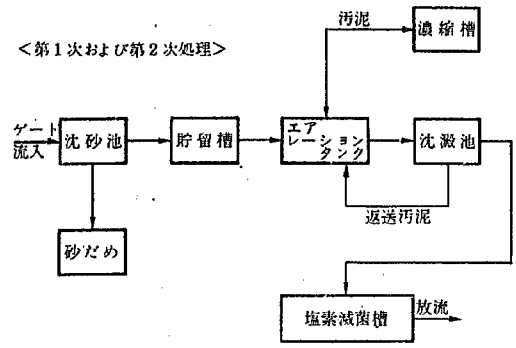
⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

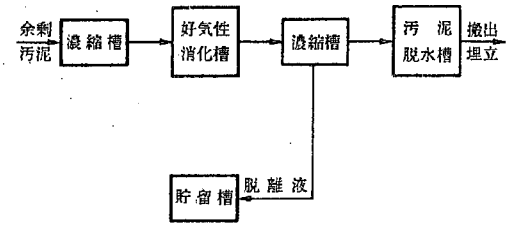
処理面積		処理人口			産業排水量	
現在	計画	現在排水人口	水洗便所使用人口	計画処理人口	現在	計画
378 ha	378 ha	6,222 人	6,222 人	7,200 人	m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用) 1 池	(雨天時用) 池
スクリーン	(晴天時用) 2 基	(雨天時用) 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 3 台	(雨天時用) 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
最初沈澱池	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
2階タンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 台	(雨天時用)
エアレーションタンク	(高級処理用) 2 池	(中級処理用) 池
散水沪床	(高速用) 池	(標準用) 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式)	(数量) 台
最後沈澱池	(活性汚泥用) 4 池	(散水炉床用) 池
滅菌池	(晴天時用) 1 池	(晴雨天時兼用) 池

⑧ フローシート





⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1				池	m	m	m	m²	m³	m	m³/日	m³			
2															
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1	昭39	昭39	昭40.3.26	2 池	25.0 m	4.65 m	3.25 m	375 m³	900 m³/日	35% m³/日	散気管	240	15			
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日			倍	
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	mm	個
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭39	昭39	昭40.3.26	4 池	7 m	7 m	1.7 m	45 m²	75 m³	14 m	450 m³/日	40 m³	自然流下		エアリフトポンプ
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先

放流河川名 小畔川 (1級河川 荒川水域内)

その湧水量および平水量 湧水量 0.2 m³/sec 平水量 0.6 m³/sec

放流位置 川越市三田字砂田 742

処理水放流前の河川水のBOD 2.9 mg/l

川越都市霞ヶ関オ二 下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理) 昭和41年度
〃 (第2次処理)
② 共用開始年月日(第1次処理) 昭和42年10月1日
③ 〃 (第2次処理)
④ 下水排除方式 合流式 (分流式)
⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量		晴天時1日最大処理量		雨天時最大処理量	
	現在	計画	現在	計画	現在	計画
第1次処理	92.9 m³/日	1,132 m³/日	122.5 m³/日	1,640 m³/日	m³/日	m³/日
第2次処理						

⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

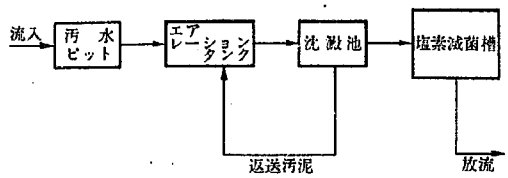
処理面積		処理人口			産業排水量	
現在	計画	現在排水人口	水洗便所使用人口	計画処理人口	現在	計画
13.6 ha	13.6 ha	645 人	645 人	4,500 人	m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

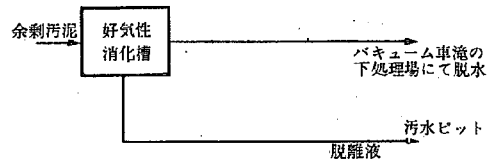
沈砂池	(晴天時用) 1 池	(雨天時用) 池
スクリーン	(晴天時用) 2 基	(雨天時用) 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 2 台	(雨天時用) 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
最初沈澱池	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
2階タンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 台	(雨天時用)
エアレーションタンク	(高級処理用) 1 池	(中級処理用) 池
散水沪床	(高速用) 池	(標準用) 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式)	(数量) 台
最後沈澱池	(活性汚泥用) 1 池	(散水炉床用) 池
滅菌池	(晴天時用) 1 池	(晴雨天時兼用) 池

⑧ フローシート

<第1次および第2次処理>



<下水汚泥処理>



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1				池	m	m	m	m²	m³	m	m³/日	m³			
2															
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1	昭42年度	昭42年度	昭42.10.1	1 池	16.2 m	7 m	4 m	443 m³	1132 m³/日	378 m³/日	ディフューザー	51	15.75			
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日			倍	
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	mm	穴
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭42	昭42	昭42.10.1	1 池	16.2 m	3.8 m	2.4 m	49.66 m²	143 m³	30.4 m	1132 m³/日	2.4 m³	リングベルト式汚泥掻寄機	0.3m~0.8m/分	エアリフトポンプ
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名 入間川(一級河川荒川水域内)
その湯水量および平水量 湯水量 0.2 m³/sec 平水量 0.8 m³/sec
放流位置 川越市大字的場2422
処理水放流前の河川水のBOD 34.6 mg/l

所沢市 所沢 下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理) 昭和37年度
〃 (第2次処理) 昭和43年度
② 共用開始年月日(第1次処理) 昭和43年6月1日
③ 〃 (第2次処理)
④ 下水排除方式 (合流式) 分流式

⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量		晴天時1日最大処理量		雨天時最大処理量	
	現在	計画	現在	計画	現在	計画
第1次処理	6,088 m³/日	8,900 m³/日	8,048 m³/日	13,860 m³/日	41,570 m³/日	62,378 m³/日
第2次処理						

⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

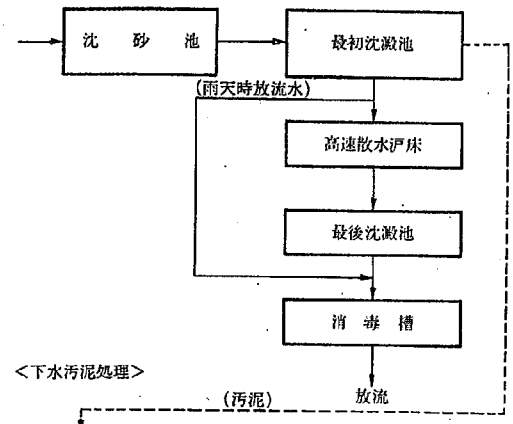
処理面積		処理人口			産業排水量	
現在	計画	現在排水人口	水洗便所使用人口	計画処理人口	現在	計画
79 ha	285 ha	24,000 人	8,000 人 (合準化槽)	45,000 人	m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

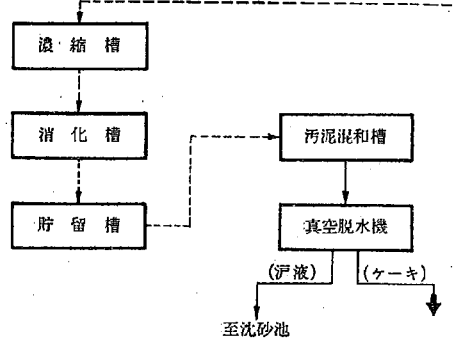
沈砂池	(晴天時用) /池	(雨天時用) 池
スクリーン	(晴天時用) /基	(雨天時用) 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) /台	(雨天時用) 2台 (他補用)
前エアレーションタンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
最初沈澱池	(晴天時用) /池	(雨天時用) /池
2階タンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 台	(雨天時用)
エアレーションタンク	(高級処理用) 池	(中級処理用) 池
散水沪床	(高速用) 2池	(標準用) 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式)	(数量) 台
最後沈澱池	(活性汚泥用) 池	(散水炉床用) /池
減菌池	(晴天時用) 池	(晴雨天時兼用) /池

⑧ フローシート

<第1次および第2次処理>



<下水汚泥処理>



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭41年度	昭41年度	昭43.6.1	2池	30 m	10 m	3.0~3.3 m	300 m²	945 m³	94.2 m	33,000 m³/日	33.4 m³	リンクベルト式	0.7 m/min	ポンプ
2															
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1				池	m	m	m	m³	m³/日	m³/日						
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日			倍	
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1	昭38年度	昭38年度	昭40.5.1	1池	20 m	m	1.8~2.0 m	314 m²	588 m³	16,500 m³/日	0 m³/日	6.8 kg/m³/日	20 m³/m²/日	50~60 mm	4本脚 ×24
2	〃41〃	〃41〃	〃43.6.1	1	20 φ		1.8~2.0	314	588	16,500	0	6.8	20	50~60	24
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭38年度	昭39年度	昭40.5.1	1池	30 m	10 m	3.0~3.3 m	300 m²	965 m³	83.4 m	33,000 m³/日	33.4 m³	リンクベルト式	0.35 m/min	ポンプ
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名 東川

その渇水量および平水量 渇水量 0.5 m³/sec 平水量 m³/sec
放流位置 所沢市大字松郷35番地
処理水放流前の河川水のBOD 28 ppm

所沢市　新所沢下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理) 昭和33年度
〃 (第2次処理)
② 共用開始年月日(第1次処理) 昭和34年4月1日
③ 〃 (第2次処理)
④ 下水排除方式　合流式　一部分流式　名称式であるが一部分流式
⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量		晴天時1日最大処理量		雨天時最大処理量	
	現在	計画	現在	計画	現在	計画
第1次処理	2416 m³/日	1200 m³/日	3744 m³/日	1800 m³/日	11070 m³/日	11088 m³/日
第2次処理						

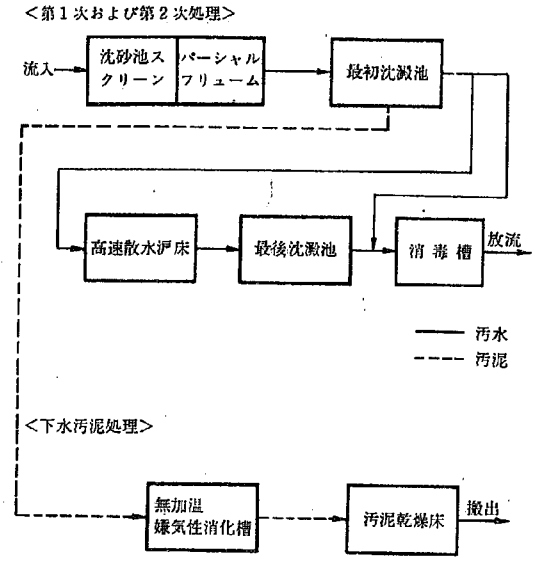
⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

処理面積		処理人口			産業排水量	
現在	計画	現在排水人口	水洗便所使用人口	計画処理人口	現在	計画
106 ha	106 ha	18,000 人	12,000 人	12,000 人	0 m³/日	0 m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用) 2 池	(雨天時用) 2 池
スクリーン	(晴天時用) 2 基	(雨天時用) 2 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 台	(雨天時用) 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
最初沈澱池	(晴天時用) 2 池	(雨天時用) 池
2階タンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 3 台	(雨天時用) 2 台
エアレーションタンク	(高級処理用) 池	(中級処理用) 池
散水沪床	(高速用) 2 池	(標準用) 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式)	(数量) 台
最後沈澱池	(活性汚泥用) 池	(散水炉床用) 2 池
滅菌池	(晴天時用) 池	(晴雨天時兼用) 1 池

⑧ フローシート



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭33年度	昭33年度	昭34.4.1	2 池	18.0 m	4.0 m	2.0 m	36.0 m²	152.0 m³	4.0 m	2097 m³/日	6.8 m³	ジブ一型掻寄機	0.3 m³/分	水圧
2															
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1				池	m	m	m	m³	m³/日	m³/日						
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日			倍	
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1	昭33年度	昭33年度	昭34.4.1	2 池	8.0 m	m	1.8 m	50.0 m²	900 m³	750 m³/日	m³/日	1.2 kg/m³/日	15.0 m³/m²/日	50～75 mm	4本腕 27
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭33年度	昭33年度	昭34.4.1	2 池	5.0 m	5.0 m	3.0 m	25.0 m²	620 m³	20.0 m	750 m³/日	14.5 m³	ホッパー付ルーム式	15 L	水圧
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名　東川

その湧水量および平水量　湧水量 0.5 m³/sec　平水量 m³/sec
放流位置　所沢市大字所沢字並木 740～2 番地
処理水放流前の河川水のBOD　28 ppm

所沢市	砂川	下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理) ―― 昭和41年度
〃 (第2次処理)
② 共用開始年月日(第1次処理) ―― 昭和41年4月1日
③ 〃 (第2次処理)
④ 下水排除方式 合流式 (分流式)
⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量		晴天時1日最大処理量		雨天時最大処理量	
	現在	計画	現在	計画	現在	計画
第1次処理	648 m³/日	825 m³/日	982 m³/日	1160 m³/日	1464 m³/日	1730 m³/日
第2次処理						

⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

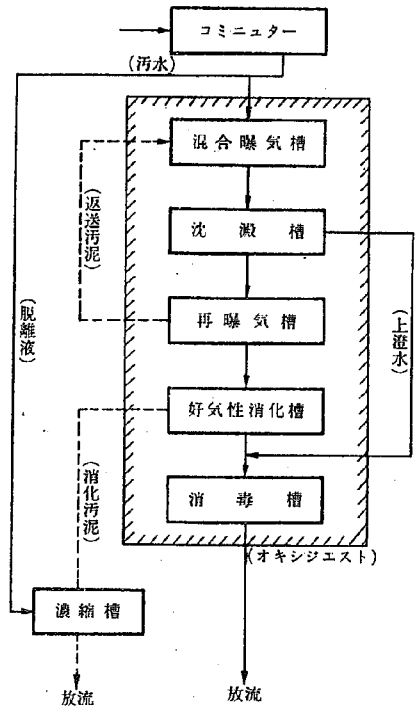
処理面積		処理人口			産業排水量	
現在	計画	現在排水人口	水洗便所使用人口	計画処理人口	現在	計画
20 ha	20 ha	3,500 人	3,500 人	人	m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
スクリーン	(晴天時用) 1 基	(雨天時用) 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) (能力 m³/分) 台	(雨天時用) 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
最初沈澱池	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
2階タンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 台	(雨天時用)
エアレーションタンク	(高級処理用) 池	(中級処理用) 池
散水沪床	(高速用) 池	(標準用) 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式) (数量) 台	
最後沈澱池	(活性汚泥用) 池	(散水炉床用) 池
滅菌池	(晴天時用) 池	(晴雨天時兼用) 池

⑧ フローシート

<第1次および第2次処理>



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
				池	m	m	m	m²	m³	m	m³/日	m³			
1															
2															
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
				池	m	m	m	m³	m³/日	m³/日						
1																
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
			年 月 日	池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日			倍	
1	41年度	41年度	41.4.1	1	13.30	—	4.85	87.5	136.5	33.7	—	825	散気管			無
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	mm	孔
1															
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
				池	m	m	m	m²	m³	m	m³/日	m³			
1															
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名 東川

その渇水量および平水量 渇水量 0.5 m³/sec
放流位置 所沢市大字下新井 北原758番地
処理水放流前の河川水のBOD 28 ppm

千葉都 ⑪ いの倉 下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理) 昭和39年1月16日
〃 (第2次処理) 仝上
② 共用開始年月日(第1次処理) 昭和39年4月
③ 〃 (第2次処理) 仝上
④ 下水排除方式 合流式 分流式
⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	359.1 m³/日	2133.6 m³/日	979 m³/日	3,048 m³/日	m³/日	m³/日
第2次処理	359.1 〃	2133.6 〃	979 〃	3,048 〃		

⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

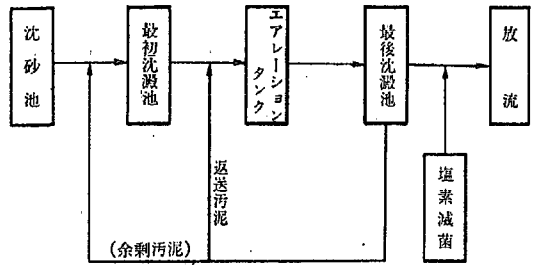
処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
70.1 ha	70.1 ha	5,800 人	5,800 人	10,160 人	m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

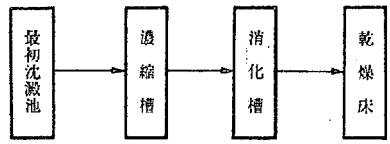
沈砂池	(晴天時用) 1 池	(雨天時用) 池
スクリーン	(晴天時用) 1 基	(雨天時用) 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 台	(雨天時用) 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
最初沈澱池	(晴天時用) 6 池	(雨天時用) 池
2階タンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 台	(雨天時用)
エアレーションタンク	(高級処理用) 2 池	(中級処理用) 池
散水沪床	(高速用) 池	(標準用) 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式) (数量) 台	
最後沈澱池	(活性汚泥用) 2 池	(散水炉床用) 池
滅菌池	(晴天時用) 1 池	(晴雨天時兼用) 池

⑧ フローシート

<第1次および第2次処理>



<下水汚泥処理>



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭38		昭39.4.1	3 池	4.6 m	2.7 m	1.87 m	71.1 m²	133.4 m³	18.8 m	355.6 m³/日	16.36 m³	泥澱		ポンプ揚泥
2	昭39		〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃		〃
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1	昭38	昭38	昭39.4	1 池	27 m	3 m	3.5 m	370 m³	1066.8 m³/日	320 m³/日	標準活性汚泥法	50	5.65			
2	〃39	〃40	〃	1	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃			
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日			倍	
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	m	個
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭38	昭38	昭39.4	1 池	9 m	m	2.5 m	127 m²	158.75 m³	25.75 m	1066.8 m³/日	8.8 m³	クラリフロッカー極高速	2 m/min	ポンプ排泥
2	〃39	〃40	〃	1	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名 都川

その渇水量および平水量 渇水量 1 m³/s 平水量 2 m³/s
放流位置 小倉田地々先
処理水放流前の河川水のBOD 10 ppm

千葉 都市	大宮	下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理) 昭和37年3月1日
〃 (第2次処理) 昭和37年12月22日
② 共用開始年月日(第1次処理) 昭和38年5月
③ 〃 (第2次処理) 昭和38年5月
④ 下水排除方式 合流式 (分流式)
⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	614.8 m³/日	1,347.5 m³/日	808 m³/日	1,825 m³/日	m³/日	m³/日
第2次処理	614.8	1,347.5	808	1,825		

⑥ 処理面積、処理人口、産業排水量

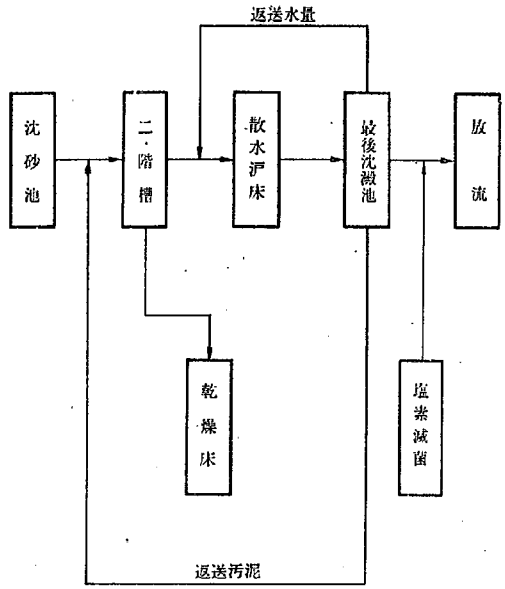
処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
55.156 ha	55.156 ha	5,900 人	5,900 人	7,000 人	m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用)	1 池	(雨天時用)	池
スクリーン	(晴天時用)	1 基	(雨天時用)	基
第1揚水ポンプ	(晴天時用)	台	(雨天時用)	台
前エアレーションタンク	(晴天時用)	池	(雨天時用)	池
最初沈澱池	(晴天時用)	池	(雨天時用)	池
2階タンク	(晴天時用)	2 池	(雨天時用)	池
第2揚水ポンプ	(汚水用)	台	(雨天時用)	
エアレーションタンク	(高級処理用)	池	(中級処理用)	池
散水沪床	(高速用)	1 池	(標準用)	池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式)		(数量)	台
最後沈澱池	(活性汚泥用)	1 池	(散水沪床用)	池
滅菌池	(晴天時用)	1 池	(晴雨天時兼用)	池

⑧ フローシート

<第1次および第2次処理>



<下水汚泥処理>

⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭37		昭38.5	1 池	15 m	2.0 m	2.2 m	57.6 m²	168.4 m³	16 m	674 m³/日	5.3 m³	沈澱		自然流下
2	〃 38		〃40.4	1	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃		〃
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1				池	m	m	m	m³	m³/日	m³/日						
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日			倍	
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1	昭37	昭37	昭38.5	1 池	10 m	m	1.8 m	81 m²	146 m³	1,825 m³/日	720 m³/日	1.2 kg/m³/日	146 m³/m²/日	50 mm	48 個
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭37	昭37	昭38.5	1 池	8 m	m	3 m	12.56 m²	115 m³	25.12 m	1,347.5 m³/日	1.04 m³	掻寄	33 r.p.m	ポンプ排泥
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名 都川

その渇水量および平水量 渇水量 1 m³/s 平水量 2 m³/sec
放流位置 大宮団地先
処理水放流前の河川水のBOD 10 P.P.m

船橋都市　習志野台　下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理)　昭和 39 年

〃　(第2次処理)　〃

② 共用開始年月日(第1次処理)　昭和 42 年 2月 10 日

③　〃　(第2次処理)　〃

④ 下水排除方式　合流式　(分流式)

⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量		晴天時1日最大処理量		雨天時最大処理量	
	現在	計画	現在	計画	現在	計画
第1次処理	4,661 m³/日	12,000 m³/日	8,770 m³/日	12,000 m³/日	7,684 m³/日	m³/日
第2次処理	4,661	12,000	8,770	12,000	7,684	

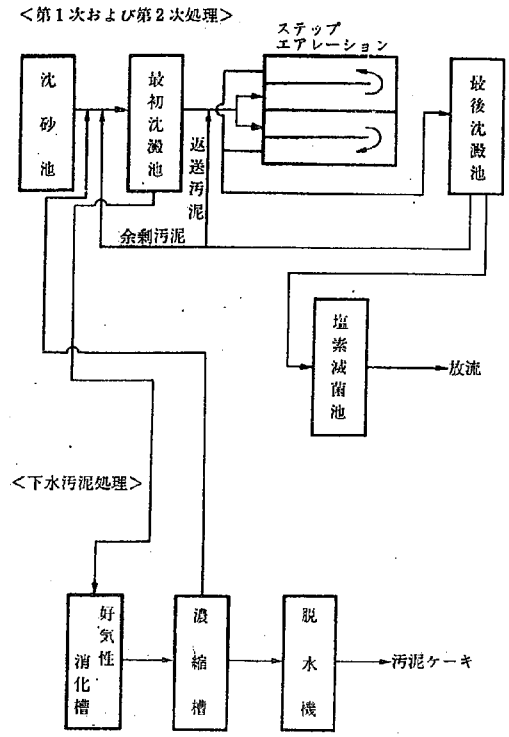
⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

処理面積		処理人口			産業排水量	
現在	計画	現在排水人口	水洗便所使用人口	計画処理人口	現在	計画
204.7 ha	246.7 ha	18,300 人	18,300 人	40,000 人	46 m³/日	46 m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用)　1 池	(雨天時用)　池
スクリーン	(晴天時用)　1 基	(雨天時用)　基
第1揚水ポンプ	(晴天時用)　4 台	(雨天時用)　台
前エアレーションタンク	(晴天時用)　池	(雨天時用)　池
最初沈澱池	(晴天時用)　4 池	(雨天時用)　池
2階タンク	(晴天時用)　池	(雨天時用)　池
第2揚水ポンプ	(汚水用)　台	(雨天時用)
エアレーションタンク	(高級処理用)　2 池	(中級処理用)　池
散水沪床	(高速用)　池	(標準用)　池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式)　(数量)　台	
最後沈澱池	(活性汚泥用)　4 池	(散水炉床用)　池
滅菌池	(晴天時用)　池	(晴雨天時兼用)　1 池

⑧ フローシート



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭39.			4 池	20 m	4.5 m	2.2 m	90 m²	198 m³	32 m	3,000 m³/日	3.2 m³			
2		昭40.	42.2.10	2									リフベル式 汚泥掻寄機	変速可能 0.1～0.7 m/min	
3		41.		4											エアーリフト
4		42.	43.6.17	2									スクレーパー式 ダブルチェンコンベアー	0.35 m/min	
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1	昭39.		42.2.10	2 池	73 m	6 m	4.5 m	1,971 m³	6,000 m³/日	1,500 m³/日						
2		昭41.	42.2.10	2							アクシヨン式 スワンプ・ディフューザー	24	2.0			
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日			倍	
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	mm	個
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭39.			4 池	20 m	4.5 m	3.1 m	126 m²	39.0 m³	43 m	3,000 m³/日	3.2 m³			
2		昭40.	42.2.10	2									リフベル式 汚泥掻寄機	変速可能 0.1～0.7 m/min	
3		41.		4											エアーリフト
4		42.	43.6.17	2									スクレーパー式 ダブルチェンコンベアー	0.35 m/min	
5															

⑩ 処理水放流先

放流河川名　後川

その湧水量および平水量

放流位置　最上流

処理水放流前の河川水のBOD　1.20 p.p.m

都 船橋 ⑪ 高根台 下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理) 34年度
〃 (第2次処理) 〃
② 共用開始年月日(第1次処理) 昭和36年9月10日
③ 〃 (第2次処理) 〃
④ 下水排除方式 合流式 分流式
⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	1.611 m³/日	2.970 m³/日	3.692 m³/日	2.970 m³/日	4.386 m³/日	m³/日
第2次処理	1.611 〃	2.970 〃	2.970 〃	2.970 〃	2.970 〃	

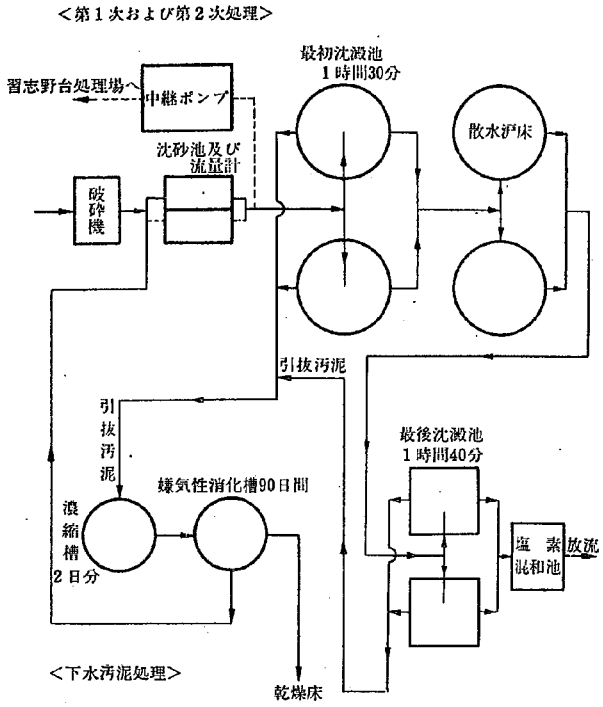
⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
63.9 ha	63.9 ha	11.840 人	11.840 人	15.000 人	m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用) 2 池	(雨天時用) 池
スクリーン	(晴天時用) 2 基	(雨天時用) 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 3 台	(雨天時用) 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
最初沈澱池	(晴天時用) 2 池	(雨天時用) 池
2階タンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 台	(雨天時用)
エアレーションタンク	(高級処理用) 池	(中級処理用) 池
散水沪床	(高速用) 2 池	(標準用) 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式) (数量) 台	
最後沈澱池	(活性汚泥用) 池	(散水炉床用) 2 池
滅菌池	(晴天時用) 池	(晴雨天時兼用) 1 池

⑧ フローシート



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	35	35	36 8 25	1 池	10 m	m	2.0 m	157 m²	314 m³	31.4 m	1.485 m³/日	0.5 m³	中心駆動式 連続掻寄機	18 m/分	汚物用ポンプ
2	37	37	37	1	10		2.0	157	314	31.4	1.485	0.5	〃	〃	〃
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1				池	m	m	m	m³	m³/日	m³/日						
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部1池当り 沈澱部	水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m²	m²	m	m³/日			倍	
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1	34	34		1 池	10 m	m	1.8 m	157 m²	220 m³	2.970 m³/日	m³/日	1.2 kg/m³/日	1.9 m³/m²/日	60 mm	48 個
2	36	36	36. 8. 25	1	10		1.8	157	220	2.970		1.2	1.9	60	48
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	34			1 池	6.5 m	6.5 m	2.8 m	42.25 m²	118.3 m³	26 m	1.485 m³/日	67.2 m³			ポンプ
2	36		36. 8. 25	1	6.5	6.5	2.8	42.25	118.3	26	1.485	67.2			ポンプ
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名 桑納川

その渇水量および平水量 不明
放流位置 上流
処理水放流前の河川水のBOD 18.6 PPM

松戸市 常盤平 下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理) 昭和 38 年
〃 (第2次処理) 昭和 38 年
② 共用開始年月日(第1次処理) 昭和 41 年 3 月
③ 〃 (第2次処理) 昭和 41 年 3 月
④ 下水排除方式 (合流式) 分流式

⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	8,400 m³/日	8,560 m³/日	18,720 m³/日	8,560 m³/日	25,200 m³/日	25,680 m³/日
第2次処理	8,400	8,560	18,720	8,560	25,200	25,680

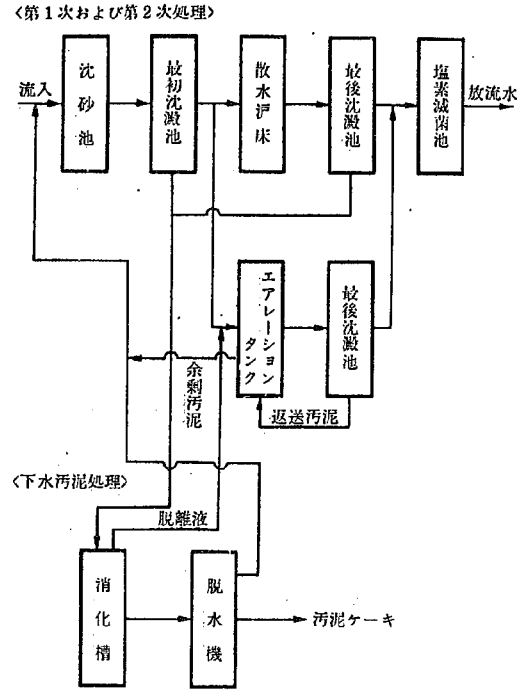
⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
176.5 ha	176.5 ha	32,000 人	32,000 人	36,000 人	0 m³/日	0 m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用)	1 池	(雨天時用)	0 池
スクリーン	(晴天時用)	3 基	(雨天時用)	0 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用)	0 台	(雨天時用)	0 台
前エアレーションタンク	(晴天時用)	0 池	(雨天時用)	0 池
最初沈澱池	(晴天時用)	2 池	(雨天時用)	0 池
2階タンク	(晴天時用)	0 池	(雨天時用)	0 池
第2揚水ポンプ	(汚水用)	6 台	(雨天時用)	0
エアレーションタンク	(高級処理用)	1 池	(中級処理用)	0 池
散水沪床	(高速用)	0 池	(標準用)	2 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式)	0	(数量)	台
最後沈澱池	(活性汚泥用)	1 池	(散水沪床用)	1 池
滅菌池	(晴天時用)	0 池	(晴雨天時兼用)	1 池

⑧ フローシート



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	1池当りの寸法 幅	1池当りの寸法 有効水深	1池当り 有効水面積	1池当り 有効容量	1池当り 堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥 集泥機の速度	排泥方法
1	昭32.	昭32.	昭32.3.	1 池	φ12 m	— m	2.0 m	114 m²	226 m³	37.7 m	3640 m³/日	— m³	中心揚寄式	20 min/回	電源手間断
2	昭41.	昭41.	昭41.3.	1	φ14	—	2.1	155	305	44.0	5182	—	中心揚寄式	20 min/回	〃
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	1池当りの寸法 幅	1池当りの寸法 有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	1池当り計画処理量 返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	散気式の場合 個数	散気式の場合 計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	機械攪拌式の場合 個数	機械攪拌式の場合 規格寸法
1	昭41.	昭41.	昭41.3.	1 池	内径 17.3 m	外径 37.5 m	3.5 m	1220.5 m³	5710 m³/日	1496 m³/日	ノズル式	96	5.3	—	—	—
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	1池当り寸法 幅	1池当り寸法 有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	沈澱部1池当り 堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m²	m²	m	m³/日			倍	
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	1池当り寸法 幅	1池当り寸法 沪材深	1池当り 有効沪過面積	1池当り 沪材総容量	計画処理量 下水量	計画処理量 返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1	昭32.	昭32.	昭32.3	2 池	11 m	— m	1.8 m	95 m²	172 m³	2850 m³/日	0 m³/日	1.16 kg/m³/日	15 m³/m²/日	135 mm	40 個
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	1池当りの寸法 幅	1池当りの寸法 有効水深	1池当り 有効水面積	1池当り 有効容量	1池当り 堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥 集泥機の速度	排泥方法
1	昭32.	昭32.	昭32.3.	1 池	12 m	— m	2.0 m	114 m²	226 m³	37.6 m	2850 m³/日	— m³	中心揚寄式	20 min/回	電動手間断
2	昭41.	昭41.	昭41.3	1	16.5	—	2.9	214	621	51.8	5710	—	〃	20 min/回	根切ポンプ
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名 放出処理水が本流となっている。

その湯水量および平水量
放流位置
処理水放流前の河川水のBOD

習志野市 袖ヶ浦 下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理) 昭和41年
〃 (第2次処理) 昭和41年
② 共用開始年月日(第1次処理) 昭和42年7月15日
③ 〃 (第2次処理) 昭和42年7月15日
④ 下水排除方式 合流式 分流式
⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	2,365 m³/日	4,500 m³/日	4,060 m³/日	9000 m³/日	m³/日	m³/日
第2次処理	2,365	4,500	4,060	9000		

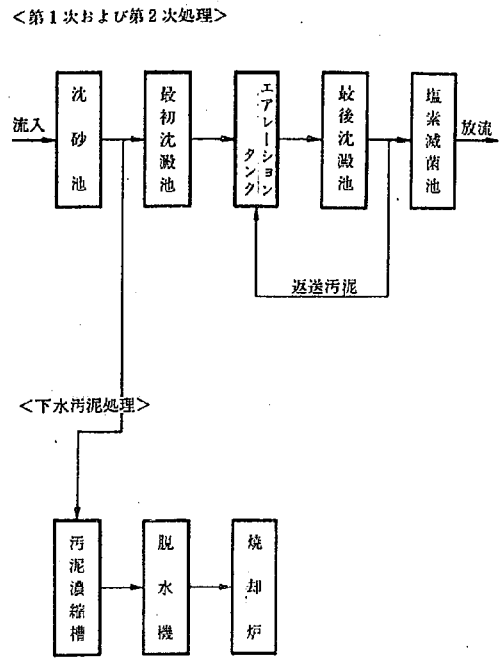
⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
164.3 ha	161.3 ha	11,178 人	11,178 人	15000 人	m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用)	2 池	(雨天時用)	池
スクリーン	(晴天時用)	1 基	(雨天時用)	基
第1揚水ポンプ	(晴天時用)	3 台	(雨天時用)	台
前エアレーションタンク	(晴天時用)	池	(雨天時用)	池
最初沈澱池	(晴天時用)	池	(雨天時用)	池
2階タンク	(晴天時用)	2 池	(雨天時用)	池
第2揚水ポンプ	(汚水用)	台	(雨天時用)	
エアレーションタンク	(高級処理用)	4 池	(中級処理用)	池
散水沪床	(高速用)	池	(標準用)	池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式)		(数量)	台
最後沈澱池	(活性汚泥用)	2 池	(散水炉床用)	池
滅菌池	(晴天時用)	1 池	(晴雨天時兼用)	池

⑧ フローシート



⑨ 各施設の主要諸元

前エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械撹拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1	昭41	昭41	昭42.7.15	2 池	1.80 m	2.0 m	2.25 m	12,150 m³	4,500 m³/日	m³/日	ディフューザー式	2	1.34			
2																

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭41	昭41	昭42.7.15	2 池	20.0 m	4.0 m	2.25 m	80.0 m²	180.0 m³	m	4,500 m³/日	m³	リンクベルト式汚泥掻寄機	0.61~1.58 m/min	自然流下
2															
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理水量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械撹拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1	昭41	昭41	昭42.7.15	4 池	19.45 m	5.0 m	4.0 m	389 m³	2250 m³/日	562.5 m³/日	旋回流形	52	4.8			
2																
3																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	mm	個
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭41	昭41	昭42.7.15	2 池	19 m	5.0 m	2.10 m	95 m²	275.5 m³	m	225.0 m³/日	m³	リンクベルト式掻寄機	0.61~1.08 m/min	エアリフト式
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名 東京湾

その沼水量および平水量
放流位置 習志野市袖ヶ浦6-1
処理水放流前の河川水のBOD 3.5 ppm

日野都市　豊田　下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理)　昭和33年 10月1日
〃　(第2次処理)　昭和39年 3月31日
② 共用開始年月日(第1次処理)　昭和34年 3月31日
③ 〃　(第2次処理)　昭和40年 3月31日
④ 下水排除方式　合流式　(分流式)
⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	3,414 m³/日	5,750 m³/日	4,631 m³/日	5,750 m³/日	m³/日	m³/日
第2次処理						

⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

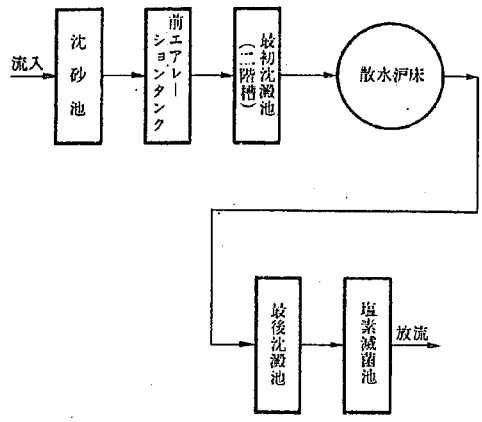
処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
129.7 ha	129.7 ha	18,376 人	18,376 人	23,000 人	m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用) 2 池	(雨天時用) 池
スクリーン	(晴天時用) 2 基	(雨天時用) 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 台	(雨天時用) 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) 1 池	(雨天時用) 池
最初沈澱池	(晴天時用) 4 池	(雨天時用) 池
2階タンク	(晴天時用) 4 池	(雨天時用) 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 2 台	(雨天時用)
エアレーションタンク	(高級処理用) 池	(中級処理用) 池
散水沪床	(高速用) 4 池	(標準用) 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式)	(数量) 台
最後沈澱池	(活性汚泥用) 3 池	(散水沪床用) 池
滅菌池	(晴天時用) 1 池	(晴雨天時兼用) 池

⑧ フローシート

<第1次および第2次処理>



⑨ 各施設の主要諸元

前エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	1池当りの寸法 幅	1池当りの寸法 有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	1池当り計画処理量 返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	散気式の場合 個数	散気式の場合 計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	機械攪拌式の場合 個数	機械攪拌式の場合 規格寸法
1	昭 37.3.31.	昭 39.3.31.	昭 37.3.31.	1 池	8.5 m	8.5 m	4.5 m	3.26 m³	5,750 m³/日	m³/日				ハイコーン型	1	11 kW
2																
3																

最初沈澱池 (二階槽)

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	1池当りの寸法 幅	1池当りの寸法 有効水深	1池当り 有効水面積	1池当り 有効容量	1池当り 堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥 集泥機の速度	排泥方法
1	昭 33.10.1		昭 34.3.31	4 池	15 m	5 m	2.45 m	75 m²	214.2 m³	5 m	1,440 m³/日	(二 m³	階槽	方式)	
2															
3															
4															
5															

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	1池当り寸法 幅	1池当り寸法 有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	1池当り有効容量 沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	沈澱部1池当り 堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	エアレーション部1池当り 個数	エアレーション部1池当り 計画下水量に対する空気吹込倍率	エアレーション部1池当り 攪拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日			倍	
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	1池当り寸法 幅	1池当り寸法 沪材深	1池当り 有効沪過面積	1池当り 沪材総容量	計画処理量 下水量	計画処理量 返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1	昭 33.10.1	昭 33.10.1	昭 35.3.31	3 池	11 m	m	1.8 m	360 m²	684 m³	4,313 m³/日	900 m³/日	1.26 kg/m³/日	14.1 m³/m²/日	100 mm	32 個
2	昭 40.3.31.	昭 40.3.31	昭 40.3.31	1	11		1.8	361	684	1,437	300	1.26	14.1	100	32
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	1池当りの寸法 幅	1池当りの寸法 有効水深	1池当り 有効水面積	1池当り 有効容量	1池当り 堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥 集泥機の速度	排泥方法
1	昭 33.10.1		昭 37.3.31	2 池	6 m	6 m	2.6 m	3.6 m²	9.3 m³	4.0 m	1,918 m³/日	m³	自然		水圧引抜
2	昭 37.3.31	昭 39.3.31	昭 37.3.31.	1	15		2.5	17.6	44.1	13.9	3,832		センターフィード スクリバー付	回転 2.0分	
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名　一級河川 浅川(多摩川水系) 水質規制有り
その渇水量および平水量　渇水量 1 m³/sec　平水量 2.2 m³/sec
放流位置　日野市豊田　番地先(多摩川合流点上流約 1km)
処理水放流前の河川水のBOD　4.1 p.p.m

町田 都市 鶴川 下水処理場	
① 工事着手年度(第1次処理)	昭和40年度
〃 (第2次処理)	〃
② 共用開始年月日(第1次処理)	昭和42年12月2日
③ 〃 (第2次処理)	〃
④ 下水排除方式	合流式 (分流式)

⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	1,332 m³/日	6,300 m³/日	m³/日	13,860 m³/日	— m³/日	— m³/日
第2次処理	1,350	3,184		18,018	—	—

⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

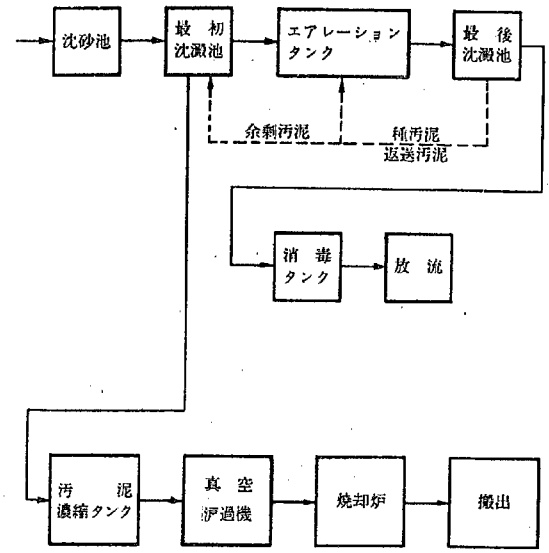
処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
102.67 ha	109.67 ha	9,823 人	9,823 人	21,000 人	0 m³/日	0 m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用) 1 池	(雨天時用) — 池
スクリーン	(晴天時用) 3(内1基は細目機) 基	(雨天時用) — 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 3(内1台予備) 台	(雨天時用) — 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) — 池	(雨天時用) — 池
最初沈澱池	(晴天時用) 4 池	(雨天時用) — 池
2階タンク	(晴天時用) — 池	(雨天時用) — 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) — 台	(雨天時用) —
エアレーションタンク	(高級処理用) 2 池	(中級処理用) — 池
散水沪床	(高速用) — 池	(標準用) — 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式)	(数量) — 台
最後沈澱池	(活性汚泥用) 4 池	(散水炉床用) — 池
滅菌池	(晴天時用) 1 池	(晴雨天時兼用) — 池

⑧ フローシート

<第1次および第2次処理>



<下水汚泥処理>

⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭和40年度		42.12.1	4 池	12.0 m	4.0 m	2.75 m	48 m²	132 m³	11.2 m	1,575 m³/日	11.9 m³			
2		昭和41年度	〃	2									リンクベルト式	1.2 m/min	サイホン式
3		〃 42 〃	43.4.1	2									〃	〃	〃
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1	昭和40年度		42.12.1	2 池	48.0 m	4.5 m	4.0 m	860 m³	4,082 m³/日	982 m³/日						
2		昭和41年度	42.12.1	2							格圧バッキ	96	34.1			
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日			倍	
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	mm	孔
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭和40年度		42.12.1	4 池	14.3 m	4 m	3 m	57.2 m²	171.5 m³	26.5 m	2,046 m³/日	11.9 m³			
2		昭和41年度	42.12.1	2									リンクベルト式	1.2 m/min	サイホン式
3		〃 44 〃	43.4.1	2									〃	〃	〃
4															
5															

⑩ 処理水放流先

放流河川名 一級河川 鶴見川水質基準適要項

その渇水量および平水量

放流位置

処理水放流前の河川水のBOD

東京 都 市 南多摩郡多摩町　下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理)　昭和36年3月
〃　(第2次処理)　〃
② 共用開始年月日(第1次処理)　昭和42年4月1日
③ 〃　(第2次処理)　〃
④ 下水排除方式　合流式　(分流式)
⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	1,015 m³/日	1,875 m³/日	1,220 m³/日	2625 m³/日	m³/日	m³/日
第2次処理	1,015	1,875	1,220	2625		

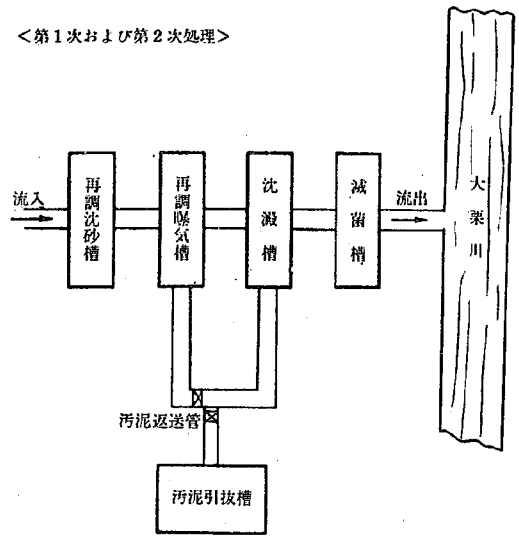
⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
96.2 ha	96.2 ha	3,612 人	3,612 人	7,500 人	m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用) 1 池	(雨天時用) 池
スクリーン	(晴天時用) 1 基	(雨天時用) 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 2 台	(雨天時用) 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
最初沈澱池	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
2階タンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 台	(雨天時用)
エアレーションタンク	(高級処理用) 2 池	(中級処理用) 池
散水沪床	(高速用) 池	(標準用) 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式)	(数量) 台
最後沈澱池	(活性汚泥用) 2 池	(散水炉床用) 池
滅菌池	(晴天時用) 1 池	(晴雨天時兼用) 池

⑧ フローシート



＜下水汚泥処理＞

バキュームカーで処理

⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭36年度	昭36年	42.4.1	1 池	2.4 m	3.5 m	2.0 m	5.84 m²	1.4 m³	5.3 m	4,204 m³/日	1.4 m³	沈澱法		水圧式自動抜
2															
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1	昭36年度	昭36年	42.4.1	2 池	16.0 m	8.0 m	4.0 m	500 m³	937.5 m³/日	72.0 m³/日				スパイラルアフレーター	ディスタ7.5kW	467×3
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m²	m²	m	m³/日			%	
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	m	個
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭36年度	昭36年	42.4.1	2 池	12.0 m	2.1 m	2.5 m	33.6 m²	84 m³	50.4 m	500 m³/日	1.71 m³	チェンコンベア式汚泥掻寄機	60 cm/min	エアーリフト
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先　東京都南多摩郡多摩町桜ケ丘40番地先　その渇水量および平水量　渇水量 0.08 m³/sec　平水量 0.16 m³/sec
放流河川名　多摩川 支流(乞田川)大栗川　放流位置　鶴ヶ岡橋上流 300m
40番地先 堰敷　処理水放流前の河川水のBOD　5.48

立川市錦町　下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理)　昭和 38 年度
〃　(第2次処理)　昭和 39 年度
② 共用開始年月日(第1次処理)　昭和 42 年 10 月
③ 〃　(第2次処理)　昭和 42 年 10 月
④ 下水排除方式　(合流式)　分流式

⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	28,000 m³/日	31,400 m³/日	33,000 m³/日	32,100 m³/日	60,150 m³/日	102,000 m³/日
第2次処理	28,000	31,400	33,000	32,100	42,800	42,800

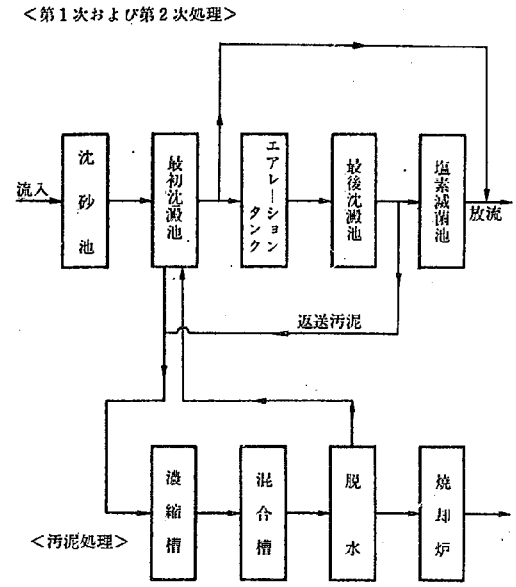
⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
333.6 ha	642.5 ha	43,000 人	2,000 人	107,000 人	m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用) 2 池	(雨天時用) 2 池
スクリーン	(晴天時用) 2 基	(雨天時用) 2 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 0 台	(雨天時用) 0 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) 0 池	(雨天時用) 0 池
最初沈澱池	(晴天時用) 8 池	(雨天時用) 8 池
2階タンク	(晴天時用) 0 池	(雨天時用) 0 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 0 台	(雨天時用) 0
エアレーションタンク	(高級処理用) 2 池	(中級処理用) 0 池
散水沪床	(高速用) 0 池	(標準用) 0 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式)	(数量) 台
最後沈澱池	(活性汚泥用) 2 池	(散水炉床用) 0 池
滅菌池	(晴天時用) 1 池	(晴雨天時兼用) 1 池

⑧ フローシート



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭38年度	41年度	42.10.2	4 池	32.0 m	4.6 m	3.0 m	147 m²	441.6 m³	24 m	2,675 m³/日	m³	リンクイルト式	0.3～1.2 m/分	サイホン式
2	42年度	42年度	43.11.	4	32.0	〃	〃	〃	〃	〃	〃		〃	〃	〃
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1	昭38年度	昭41年度	昭42.10.2	1 槽	45.0 m	7.5 m	4.5 m	4,563 m³	10,700 m³/日	2,675 m³/日	ステップエアレーション	27	6.8			
2	昭42年度	昭43年度	昭43.11.	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃			
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部1池当り 沈澱部	水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m²		m	m³/日			倍	
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	m	個
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭37年度	昭41年度	昭42.10.2	1 池	34.0 m	20.0 m	2.8 m	1,360 m²	1,900 m³	146 m	10,700 m³/日	— m³	サイホン方式	2.4 m/分	自然流下
2	昭42年度	昭43年度	昭43.11	1	〃	20.0	〃	〃	〃	〃	〃	—	〃	2.4 m/分	〃
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名　一級河川 多摩川 水質規制 有

その渇水量および平水量　渇水量 4.25 m³/sec　平水量 7.85 m³/sec
放流位置　立川市錦町 1-20-25 (日野橋より300m上流左岸)
処理水放流前の河川水のBOD

川崎市　入江崎　下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理)　昭和33年1月4日
〃　(第2次処理)　〃
② 共用開始年月日(第1次処理)　昭和36年10月26日
③ 〃　(第2次処理)　〃
④ 下水排除方式　(合流式)　分流式
⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	130,000 m³/日	136,000 m³/日	140,000 m³/日	160,000 m³/日	230,000 m³/日	315,000 m³/日
第2次処理	90,000	136,000	90,000	160,000	90,000	315,000

⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

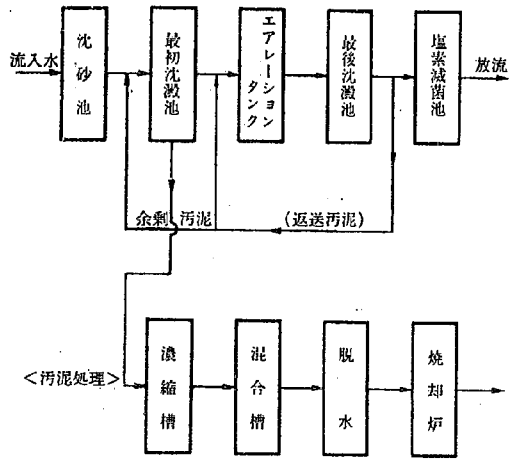
処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
1,150 ha	1,810 ha	182,626 人	78,000 人	300,000 人	33,000 m³/日	44,000 m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用) 2 池	(雨天時用) — 池
スクリーン	(晴天時用) 4 基	(雨天時用) — 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 5 台	(雨天時用) — 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) — 池	(雨天時用) — 池
最初沈澱池	(晴天時用) 4 池	(雨天時用) — 池
2階タンク	(晴天時用) — 池	(雨天時用) — 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) — 台	(雨天時用) —
エアレーションタンク	(高級処理用) 4 池	(中級処理用) — 池
散水沪床	(高速用) — 池	(標準用) — 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式) — (数量) 台	
最後沈澱池	(活性汚泥用) 4 池	(散水炉床用) — 池
滅菌池	(晴天時用) — 池	(晴雨天時兼用) 1 池

⑧ フローシート

<第1次および第2次処理>



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭33.	昭34	昭36.10.26	1 池	30.0 m	30.0 m	3.0 m	900 m²	2,700 m³	30.0 m	40,000 m³/日	224 m³	マイタン型 ブリッジ	0.6 m/min	汚泥ポンプ
2	〃36	〃37	38.7.22	1	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
3	〃38.	〃39	40.4.1	1	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
4	〃40	〃40	41.4.1	1	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1	昭33	昭34	昭36.10.26	1 池	50.0×4 m	8.5 m	5.0 m	8,500 m³	40,000 m³/日	10,000 m³/日	固定式散気板	900×500 2,160枚	6倍			
2	〃37	37	38.7.22	1	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃			
3	〃38	39	40.4.1	1	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃			
4	〃40	40	41.4.1	1	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃			

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	m	個
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭33.	昭35.	昭36.10.26.	1 池	40.0 m	20.0 m	3.0 m	800 m²	2,400 m³	132 m	40,000 m³/日	480 m³	走行型	2 m/min	ポンプ
2	〃37.	〃38	38.7.22	1	〃	〃	〃	〃	〃	160	〃	367			
3	〃38.	〃39	40.4.1	1	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃			
4	〃40.	〃40	41.4.1	1	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃			
5															

⑩ 処理水放流先

放流河川名　鶴見川(現在河川の役目はなく河口部を残して入江として存在する)

その湧水量および平水量
放流位置　河口より 約 600 m
処理水放流前の河川水のBOD　約 200 p.p.m (潮の干満によって停滞しており感潮域)

川崎 都市　生田　下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理) 昭和34年7月30日
〃 (第2次処理) 〃
② 共用開始年月日(第1次処理) 昭和35年4月1日
③ 〃 (第2次処理) 〃
④ 下水排除方式　合流式　分流式
⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量		晴天時1日最大処理量		雨天時最大処理量	
	現在	計画	現在	計画	現在	計画
第1次処理	2,200 m³/日	2,200 m³/日	3,300 m³/日	3,300 m³/日	— m³/日	— m³/日
第2次処理	1,050 m³	2,200 m³	1,600 m³	3,300 m³	—	—

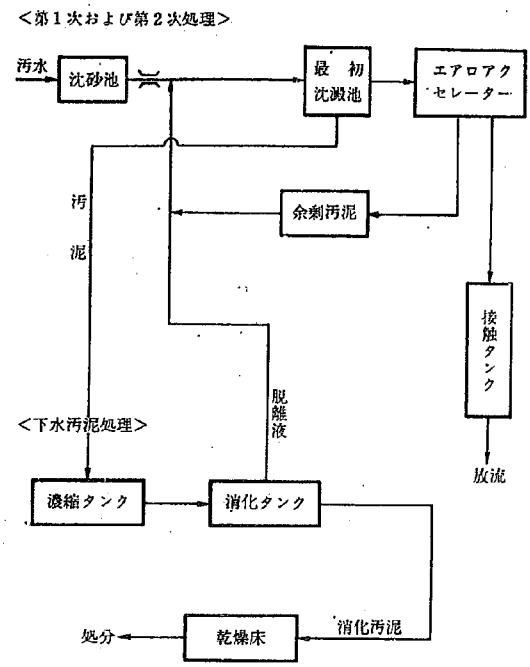
⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

処理面積		処理人口			産業排水量	
現在	計画	現在排水人口	水洗便所使用人口	計画処理人口	現在	計画
5.413 ha	5.413 ha	10,648 人	10,648 人	11,000 人	0 m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用) 2 池	(雨天時用) 池
スクリーン	(晴天時用) 2 基	(雨天時用) 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 3 台	(雨天時用) 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
最初沈澱池	(晴天時用) 2 池	(雨天時用) 池
2階タンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 台	(雨天時用)
エアレーションタンク	(高級処理用) 池	(中級処理用) 池
散水沪床	(高速用) 池	(標準用) 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式) アロアクセレーター (数量) 1 台	
最後沈澱池	(活性汚泥用) 池	(散水炉床用) 池
滅菌池	(晴天時用) 1 池	(晴雨天時兼用) 池

⑧ フローシート



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
				池	m	m	m	m²	m³	m	m³/日	m³			
1	昭34.	昭34.	昭34.9.16	1	9.2		2.0	62	124	28.9	1,580	0.5	回転式スクリュウ	1/4 r.p.m.	落差
2	〃 39	〃 39	〃 39	1	10.0		〃	76	152	31.4	1,720	〃	〃	〃	〃
3															
4															
5															

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	1時間当り水量に対する空気吹込量	攪拌機の有無
				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日		個	m³	
1	昭34.	昭34.	昭34.9.16	1	10.8	—	4.8	3.73	134	73	34	1,100	スパージャー リング	1式		有
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
				基	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	mm	個
1															
2															
3															

⑩ 処理水放流先
放流河川名　五反田川

その湧水量および平水量　平水量　6,400 m³/日
放流位置　川崎市百合丘 1丁目25番地
処理水放流前の河川水のBOD　4 PPM

横須賀 都市 上町 下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理) 昭和 39年度

〃 (第2次処理)

② 共用開始年月日(第1次処理) 昭和 41年6月10日

③ 〃 (第2次処理)

④ 下水排除方式 (合流式) 一部合流式 分流式

⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量		晴天時1日最大処理量		雨天時最大処理量	
	現在	計画	現在	計画	現在	計画
第1次処理	7000 m³/日	18,000 m³/日	8,800 m³/日	17,600 m³/日	0.61 m³/秒	1.67 m³/秒
第2次処理						

⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

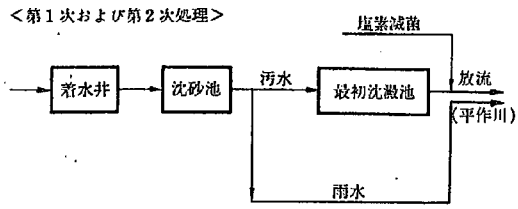
処理面積		処理人口			産業排水量	
現在	計画	現在排水人口	水洗便所使用人口	計画処理人口	現在	計画
112.9 ha	342.3 ha	8,000 人	3,600 人	40,000 人	70 m³/日	— m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

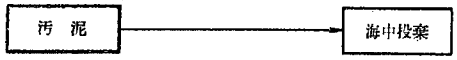
沈砂池	(晴天時用) 1 池	(雨天時用) 2池 4槽 池
スクリーン	(晴天時用) 2 基	(雨天時用) 6 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) D≒300.400 2台	(雨天時用) D≒1.000 2台
前エアレーションタンク	(晴天時用) — 池	(雨天時用) — 池
最初沈澱池	(晴天時用) 1池 2槽 池	(雨天時用) — 池
2階タンク	(晴天時用) — 池	(雨天時用) — 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) — 台	(雨天時用) —
エアレーションタンク	(高級処理用) — 池	(中級処理用) — 池
散水沪床	(高速用) — 池	(標準用) — 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式) —	(数量) 台
最後沈澱池	(活性汚泥用) — 池	(散水炉床用) — 池
滅菌池	(晴天時用) 減菌塩素法 池	(晴雨天時兼用) — 池

⑧ フローシート

<第1次および第2次処理>



<下水汚泥処理>



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭39年度	昭39年度	41.6.10	1池 (2槽)	24.0 m	9.0 m	3.0 m	216.0 m²	648.0 m³	9.0 m	8.800 m³/日	— m³	リンデベルト式	0.75 m/min	自然流下
2															
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械撹拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1				池	m	m	m	m³	m³/日	m³/日						
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	撹拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日			%	
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1				個	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	m	個
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1				池	m	m	m	m²	m³	m	m³/日	m³			
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先

放流河川名 平作川

その渇水量および平水量 渇水量 0.33 m³/sec 平水量 x m³/sec

放流位置 五郎橋上流 100m

処理水放流前の河川水のBOD 70 P.P.m

藤沢市　南部　下水処理場

① 工事着手年度（第1次処理）昭和37年度
〃　（第2次処理）昭和39年度
② 共用開始年月日（第1次処理）昭和39年8月5日
③ 〃　（第2次処理）昭和41年7月1日
④ 下水排除方式　（合流式）　（一部分流式）
⑤ 処理能力

処理システム ＼ 汚水量	晴天時1日平均処理量		晴天時1日最大処理量		雨天時最大処理量	
	現在	計画	現在	計画	現在	計画
第1次処理	22,300 m³/日	67,000 m³/日	31,900 m³/日	95,600 m³/日	89,300 m³/日	243,000 m³/日
第2次処理	14,900	67,000	14,900	67,000	14,900	67,000

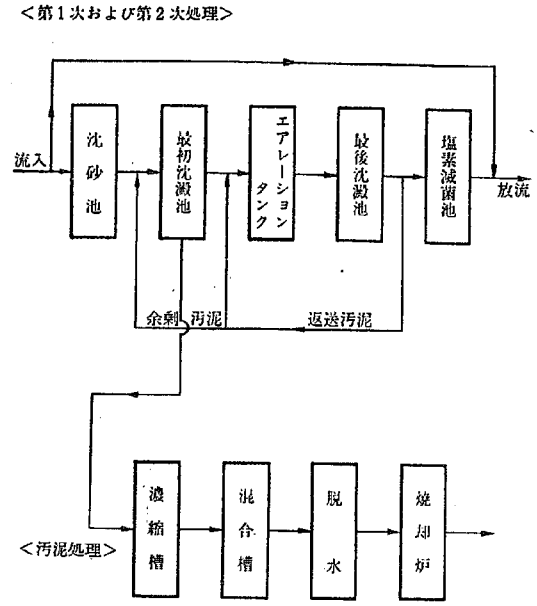
⑥ 処理面積，処理人口，産業排水量

処理面積		処理人口			産業排水量	
現在	計画	現在排水人口	水洗便所使用人口	計画処理人口	現在	計画
421.1 ha	1618.1 ha	38,000 人	38,000 人	205,000 人	m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	（晴天時用）1 池	（雨天時用）2 池
スクリーン	（晴天時用）2 基	（雨天時用）3 基
第1揚水ポンプ	（晴天時用）2 台	（雨天時用）3 台
前エアレーションタンク	（晴天時用）　池	（雨天時用）　池
最初沈澱池	（晴天時用）4 池	（雨天時用）6 池
2階タンク	（晴天時用）　池	（雨天時用）　池
第2揚水ポンプ	（汚水用）　台	（雨天時用）
エアレーションタンク	（高級処理用）4 池	（中級処理用）　池
散水沪床	（高速用）　池	（標準用）　池
高速エアレーション沈澱池	（製造会社，商品名・型式）　（数量）　台	
最後沈澱池	（活性汚泥用）4 池	（散水炉床用）　池
滅菌池	（晴天時用）1 池	（晴雨天時兼用）　池

⑧ フローシート



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭38年度	昭39年度	昭39.8.5	6 池	32 m	40 m	2.5 m	128 m²	320 m³	21 m	3720 m³/日	5.1 m³	フライトコンベアー	0.8 m/分	水位差
2															
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1	昭40年度	昭41年度	昭41.7.1	4 池	39 m	4 m	4 m	624 m³	3720 m³/日	930 m³/日	散気管（俗称螺長）		15～17			
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日			倍	
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	m	孔
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭41年度	昭41年度	昭41.7.1	6 池	32 m	4 m	3.0 m	128 m²	384 m³	41 m	3720 m³/日	13.1 m³	フライトコンベアー	0.43～0.86 m/分	水位差
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名　相模湾

その渇水量および平水量
放流位置　海一岸
処理水放流前の河川水のBOD

甲府市 住吉 下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理) 昭和34年3月16日
〃 (第2次処理) 昭和34年3月16日
② 共用開始年月日(第1次処理) 昭和37年8月1日
③ 〃 (第2次処理) 昭和37年8月1日
④ 下水排除方式 合流式 分流式

⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	14,530 m³/日	16,600 m³/日	17,160 m³/日	22,825 m³/日	30,240 m³/日	41,500 m³/日
第2次処理	14,530	16,600	17,160	22,825		

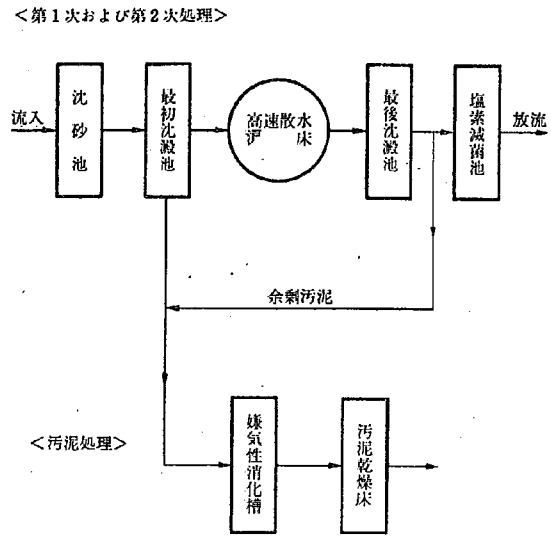
⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
3803/ha	438 ha	40,810 人	21,720 人	83,000人	m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用) 1池	(雨天時用) 1池
スクリーン	(晴天時用) 1基	(雨天時用) 2基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 台	(雨天時用) 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
最初沈澱池	(晴天時用) 3池	(雨天時用) 池
2階タンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 4台	(雨天時用) 4台
エアレーションタンク	(高級処理用) 池	(中級処理用) 池
散水沪床	(高速用) 3池	(標準用) 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式)	(数量) 台
最後沈澱池	(活性汚泥用) 池	(散水沪床用) 3池
滅菌池	(晴天時用) 池	(晴雨天時兼用) 1池

⑧ フローシート



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭36	昭36	昭37.8.1	1池	20 m	15 m	2.7 m	300 m²	810 m³	15 m	7,608 m³/日	5 m³	連続式浮渣掻寄機	2.5分	自流水圧
2	〃 38	〃 38	〃 39.5.10	1	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
3	〃 40	〃 40	〃 41.4.15	1	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1				池	m	m	m	m³	m³/日	m³/日						
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日			倍	
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1	昭34	昭34	35.5.8	1池	直径20 m	m	1.5 m	314 m²	471 m³	7,608 m³/日	0 m³/日	300 kg/m³/日	8.7 m³/m²/日	50～70 mm	8 φ
2	〃 38	〃 39	40.4.3	1	〃		〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
3	〃 40	〃 41	42.2.5	1	〃		〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭37	昭37	昭38.4.10	1池	20 m	12 m	2.7 m	240 m²	648 m³	12 m	7,608 m³/日	5 m³	連続式浮渣掻寄機	2.5分	汚泥ポンプ
2	〃 39	〃 39	昭40.4.6	2	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	5	〃	〃	〃
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名 富士川水系 濁川 1級河川
その渇水量および平水量 平水量 9.7 m³/sec
放流位置 甲府市増坪町 735番地
処理水放流前の河川水のBOD

長野 都市 川合新田 下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理) 昭和30年度

〃 (第2次処理) —

② 共用開始年月日(第1次処理) 昭和34年11月1日

③ 〃 (第2次処理) —

④ 下水排除方式 合流式 (分流式)

⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	12,600 m³/日	16,600 m³/日	16,700 m³/日	22,000 m³/日	— m³/日	— m³/日
第2次処理	—	—	—	—	—	—

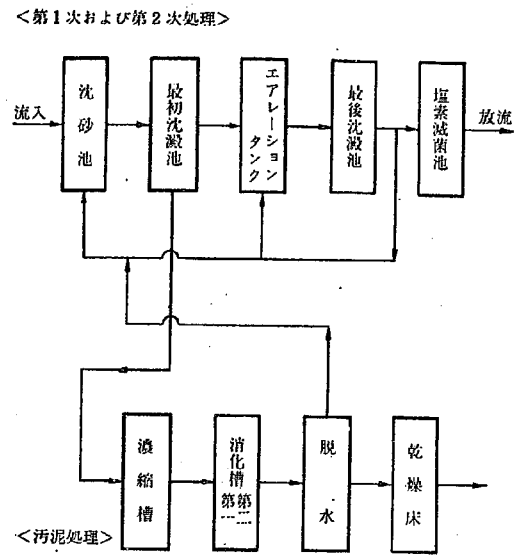
⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
283 ha	372 ha	32,000 人	32,000 人	98,000 人	— m³/日	— m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用) 2 池	(雨天時用) — 池
スクリーン	(晴天時用) 3 基	(雨天時用) — 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 4 台	(雨天時用) — 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) — 池	(雨天時用) — 池
最初沈澱池	(晴天時用) 4 池	(雨天時用) — 池
2階タンク	(晴天時用) — 池	(雨天時用) — 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) — 台	(雨天時用) —
エアレーションタンク	(高級処理用) 2 池	(中級処理用) — 池
散水沪床	(高速用) — 池	(標準用) — 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式) —	(数量) — 台
最後沈澱池	(活性汚泥用) 2 池	(散水炉床用) — 池
滅菌池	(晴天時用) 1 池	(晴雨天時兼用) — 池

⑧ フローシート



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭3.3.	昭36.	昭37.4.	2池	22 m	3.5 m	3.5 m	77.	270 m³	27.0 m	5,500 m³/日	12.0 m³	リフタ付式掻集機	0.5 m/min	自然流下
2	昭3.3	昭39.	40.4	2	22	3.5	3.5	77.	270	27.0	5,500	12.0	〃	〃	〃
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1	昭3.3.	昭36.	37.5.	1池	55 m	12 m	3.5 m	2,310 m³	11,000 m³/日	2,750 m³/日	散気板	220	26	—	—	—
2	昭3.3.	昭40.	41.4	1	55	12	3.5	2,310	11,000	2,750	〃	220	26	—	—	—
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日			倍	
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	m	孔
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭32.	昭32	33.4.	1池	18 m	— m	3.5 m	250 m²	870 m³	56 m	11,000 m³/日	8 m³	サイホン式掻集機	0.5 m/min	ポンプ
2	昭34.	昭39	40.3	1	18	—	3.5	250	870	56	11,000	8	〃	〃	〃
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先

放流河川名 犀川 140 m³/sec(平水量) 60 m³/sec(渇水量)

その渇水量および平水量

放流位置 千曲川と犀川合流点より上流へ4 km地点

処理水放流前の河川水のBOD 0.99 p.p.m

松本都⑪宮渕　下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理)　昭和34年度
〃　(第2次処理)　昭和32年度
② 共用開始年月日(第1次処理)　昭和36年度
③ 〃　(第2次処理)　昭和34年度
④ 下水排除方式　(合流式)　分流式
⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	m³/日	21,000 m³/日	20,265 m³/日	28,200 m³/日	m³/日	34,600 m³/日
第2次処理		29,800	20,265	30,000		38,500

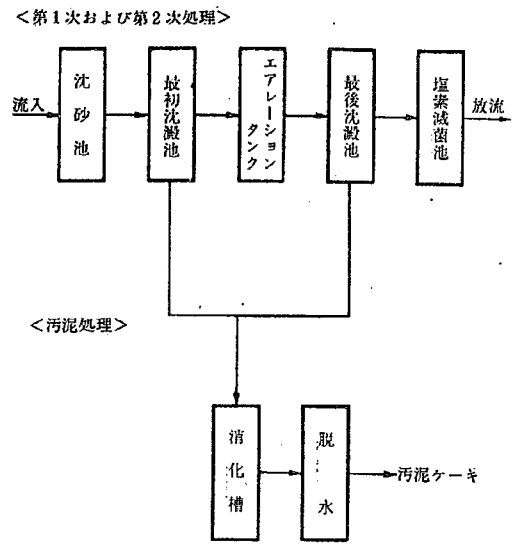
⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
130 ha	144 ha	16,000 人	11,000 人	22,000 人	m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用)　/ 池	(雨天時用)　/ 池
スクリーン	(晴天時用)　/ 基	(雨天時用)　/ 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用)　台	(雨天時用)　台
前エアレーションタンク	(晴天時用)　池	(雨天時用)　池
最初沈澱池	(晴天時用)　/ 池	(雨天時用)　池
2階タンク	(晴天時用)　池	(雨天時用)　池
第2揚水ポンプ	(汚水用)　2 台	(雨天時用)　/
エアレーションタンク	(高級処理用)　池	(中級処理用)　池
散水沪床	(高速用)　2 池	(標準用)　池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式)　(数量)　台	
最後沈澱池	(活性汚泥用)　池	(散水沪床用)　/ 池
滅菌池	(晴天時用)　/ 池	(晴雨天時兼用)　/ 池

⑧ フローシート



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	汚泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭34	昭35	昭36.3.1	1 池	40 m	24 m	2.5 m	960 m²	2,400 m³	24 m	15,000 m³/日	50 m³	クリハハイー	0.5 m/min	自然流下
2															
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1				池	m	m	m	m³	m³/日	m³/日						
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部1池当り 沈澱部 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m²	m	m³/日			%	
2															

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1	昭42	昭42	昭43.8.1	2 池	25 m	m	1.8 m	980 m²	886 m³	30,000 m³/日	m³/日	0.66 kg/m³/日	30 m³/m²/日	50～100 m	180 個
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	汚泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭37	昭37	昭38.5.1	1 池	40 m	24 m	2.5 m	960 m²	2,400 m³	24 m	30,000 m³/日	50 m³	クリハハイー	0.5 m/min	自然流下
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名　信濃川水系一級河川奈良井川

その渇水量および平水量　渇水量 50 m³/s　平水量 150 m³/s
放流位置
処理水放流前の河川水のBOD　20 PPM

飯田市 飯田 下水処理場	
① 工事着手年度(第1次処理)	昭和30年8月26日
〃 (第2次処理)	昭和31年8月27日
② 共用開始年月日(第1次処理)	昭和33年12月1日
③ 〃 (第2次処理)	昭和33年12月1日
④ 下水排除方式	合流式 (分流式)

⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	3840 m³/日	m³/日	7700 m³/日	4960 m³/日	m³/日	m³/日
第2次処理	1,140		2700	2,760		

⑥ 処理面積，処理人口，産業排水量

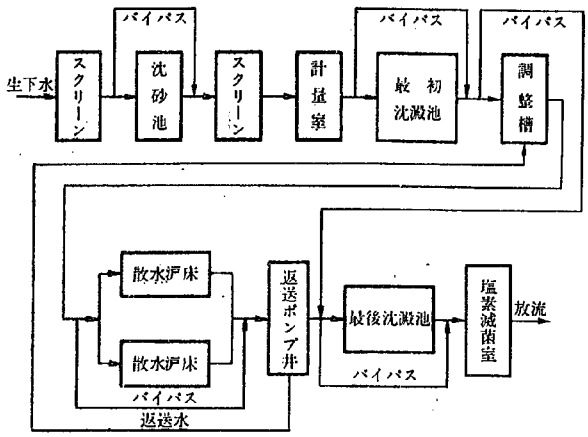
処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
147.7 ha	130.0 ha	1,8,2.14 人	13,142 人	19,500 人	m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

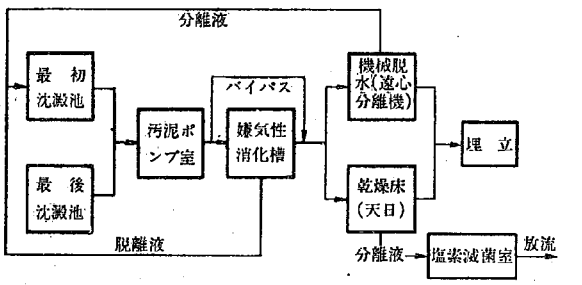
沈砂池	(晴天時用) 1 池	(雨天時用) 池
スクリーン	(晴天時用) 2 基	(雨天時用) 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 台	(雨天時用) 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
最初沈澱池	(晴天時用) 1 池	(雨天時用) 池
2階タンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 台	(雨天時用)
エアレーションタンク	(高級処理用) 池	(中級処理用) 池
散水沪床	(高速用) 2 池	(標準用) 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社，商品名・型式) (数量) 台	
最後沈澱池	(活性汚泥用) 池	(散水炉床用) 1 池
滅菌池	(晴天時用) 1 池	(晴雨天時兼用) 池

⑧ フローシート

第1次および第2次処理>



<下水汚泥処理>



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭.31	昭.32	昭33.12.1	1 池	14.0 m	m	2.8 m	177 m²	495 m³	47.2 m	2,960 m³/日	3.7 m³	機械脱水 ベルトプレス	1.2 m/分	ポンプ圧送
2															
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1				池	m	m	m	m³	m³/日	m³/日						
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m²	m²	m	m³/日			倍	
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1	昭.33	昭.33	昭33.12.1	2 池	14.0 m	m	1.8 m	308 m²	444 m³	2,960 m³/日	1,190 m³/日	1.2 kg/m³/日	2.3 m³/m²/日	50～70 mm	96 個
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭.33	昭.33	昭33.12.1	1 池	150 m	m	2.8 m	177 m²	495 m³	47.2 m	7,140 m³/日	3.7 m³	中心駆動 ベルトプレス	1.2 m/分	ポンプ
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先

放流河川名 天竜川

その渇水量および平水量 45 m³/秒 (平水量)
放流位置 飯田市松尾地籍
処理水放流前の河川水のBOD 4 PPM

下高井郡 野沢温泉 下水処理場

① 工事着手年度（第1次処理） 昭和36年
〃 （第2次処理） 〃
② 共用開始年月日（第1次処理） 昭和37年12月1日
③ 〃 （第2次処理） 〃 1 〃
④ 下水排除方式 合流式 （分流式）
⑤ 処理能力

処理システム ＼ 汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	618 m³/日	1,260 m³/日	1,040 m³/日	1,800 m³/日	m³/日	m³/日
第2次処理	618	1,260	1,040	1,800		

⑥ 処理面積，処理人口，産業排水量

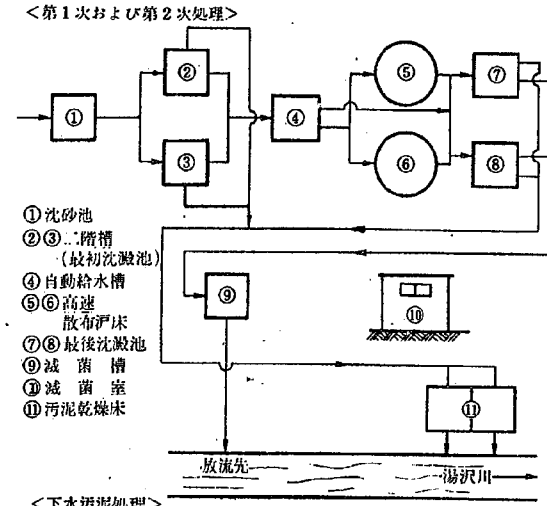
処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
3.8ha	84.65ha	1,260 人	1,260 人	6,000 人	m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	（晴天時用） 2 池	（雨天時用） 池
スクリーン	（晴天時用） 2 基	（雨天時用） 基
第1揚水ポンプ	（晴天時用） 台	（雨天時用） 台
前エアレーションタンク	（晴天時用） 池	（雨天時用） 池
最初沈澱池	（晴天時用） 2 池	（雨天時用） 池
2階タンク	（晴天時用） 池	（雨天時用） 池
第2揚水ポンプ	（汚水用） 台	（雨天時用）
エアレーションタンク	（高級処理用） 池	（中級処理用） 池
散水沪床	（高速用） 2 池	（標準用） 池
高速エアレーション沈澱池	（製造会社，商品名・型式）	（数量） 台
最後沈澱池	（活性汚泥用） 2 池	（散水沪床用） 池
滅菌池	（晴天時用） 1 池	（晴雨天時兼用） 池

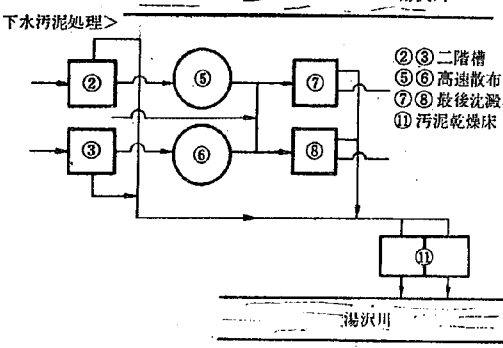
⑧ フローシート

<第1次および第2次処理>



①沈砂池
②③二階槽（最初沈澱池）
④自動給水槽
⑤⑥高速散布沪床
⑦⑧最後沈澱池
⑨滅菌槽
⑩滅菌室
⑪汚泥乾燥床

<下水汚泥処理>



②③二階槽
⑤⑥高速散布沪床
⑦⑧最後沈澱池
⑪汚泥乾燥床

⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭37年度		昭37.12.1	1 池	12 m	5.3 m	1.35 m	63.6 m²	403.8 m³	5.3 m	630 m³/日	m³	自然沈下		自然による自然沈下
2	〃 40 〃		〃 41.4.1	1	12	5.3	1.35	63.6	403.8	5.3	630		〃		〃
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1				池	m	m	m	m³	m³/日	m³/日						
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日			倍	
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1	昭37年度	昭37年度	昭37.12.1	1 池	6.3 m	m	1.8 m	31.1 m²	56.08 m³	622 m³/日	m³/日	1.2 kg/m³/日	20 m³/m²/日	10～15 mm	12 φ
2	昭40 〃	〃 40 〃	〃 41.4.1	1	6.3		1.8	31.1	56.08	622		1.2	20	10～15	40
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭37年度		昭37.12.1	1 池	5.4 m	5.4 m	4.5 m	29.16 m²	131.2 m³	21.6 m	630 m³/日	- m³	自然沈下	-	サイホンによる自然沈下
2	〃 40 〃		〃 41.4.1	1	5.4	5.4	4.5	29.16	131.2	21.6	630	-	〃	-	〃
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名 湯沢川

その湯水量および平水量 平水量 0.49 m³/sec
放流位置 終末処理場と同一場所
処理水放流前の河川水のBOD

福井 都市 境	下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理)	昭和 31 年 4 月 1 日
〃 (第2次処理)	昭和 36 年 4 月 1 日
② 共用開始年月日(第1次処理)	昭和 34 年 4 月 1 日
③ 〃 (第2次処理)	昭和 37 年 4 月 1 日
④ 下水排除方式	(合流式) 分流式

⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量		晴天時1日最大処理量		雨天時最大処理量	
	現在	計画	現在	計画	現在	計画
第1次処理	51,000 m³/日	70,000 m³/日	55,000 m³/日	84,000 m³/日	145,000 m³/日	232,000 m³/日
第2次処理	45,000 m³	70,000 m³	45,000 m³	84,000 m³	45,000 m³	84,000 m³

⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

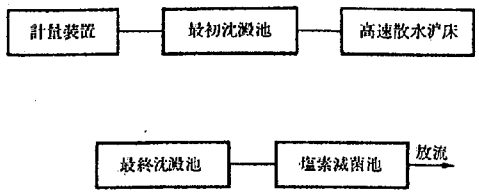
処理面積		処理人口			産業排水量	
現在	計画	現在排水人口	水洗便所使用人口	計画処理人口	現在	計画
730 ha	921 ha	100,000 人	48,000 人	192,000 人	13,000 m³/日	18,000 m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

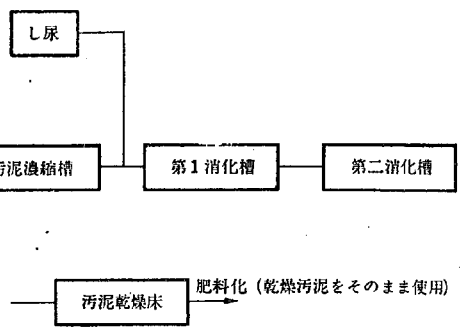
沈砂池	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
スクリーン	(晴天時用) 基	(雨天時用) 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 台	(雨天時用) 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
最初沈澱池	(晴天時用) 3 池	(雨天時用) 池
2階タンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 3 台	(雨天時用)
エアレーションタンク	(高級処理用) 池	(中級処理用) 池
散水沪床	(高速用) 5 池	(標準用) 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式)	(数量) 台
最後沈澱池	(活性汚泥用) 池	(散水炉床用) 3 池
滅菌池	(晴天時用) 池	(晴雨天時兼用) 1 池

⑧ フローシート

<第1次および第2次処理>



<下水汚泥処理>



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	33	33	昭 34.4.1	1 池	41.0 m	19.0 m	2.50 m	612 m²	1,530 m³	98.7 m	18,360 m³/日	12.8 m³	リンクベルト掻寄機	60 cm/分	汚泥ポンプ
2	〃		〃	1	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	34.7.0			〃
3	35	35	昭 36.4.1	1	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	8.9	リンクベルト掻寄機	60 cm/分	〃
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械撹拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1				池	m	m	m	m³	m³/日	m³/日						
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	撹拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日			倍	
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
イ1	36	36	昭 37.4.1	1 池	21.6 m	m	1.8 m	343 m²	653.4 m³	9,075 m³/日	m³/日	1.2 kg/m³/日	25.0 m³/m²/日	50～60 mm	52 孔
ロ2	37	37	〃 38.4.1	1	〃		〃	〃	〃	〃		1.2	〃	80～100	48
ハ3	38	38	〃 40.4.1	1	〃		〃	〃	〃	〃		〃	〃	50～60	78
ニ4	39	39	〃 40.4.1	1	〃		〃	〃	〃	〃		〃	〃	〃	83
ホ5	41	41	〃 42.4.1	1	〃		〃	〃	〃	〃		〃	〃	〃	83

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	37	37	昭 38.4.1	1 池	32.8 m	15.9 m	2.50 m	460 m²	1,150 m³	169.8 m	13,400 m³/日	10 m³	リンクベルト掻寄機	60 cm/分	汚泥ポンプ
2	40	40	〃 41.4.1	1	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
3	42			1	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
4															
5															

⑩ 処理水放流先

放流河川名 1級河川日野川(指定水域の指定を受けず)

その渇水量および平水量 5.6 m³/s 280 m³/s

放流位置 丸頭香川との合流点より上流 2.8 km

処理水放流前の河川水のBOD 1.8 ppm

富山市 牛島 下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理) 昭和35年
〃 (第2次処理) 〃 37年
② 共用開始年月日(第1次処理) 〃 37年9月1日
③ 〃 (第2次処理) 〃 38年4月1日
④ 下水排除方式 (合流式) 分流式
⑤ 処理能力 (昭和42年度実績値)

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	20,000 m³/日	43,700 m³/日	20,400 m³/日	48,120 m³/日	48,720 m³/日	48,840 m³/日
第2次処理	〃	〃	〃	〃	26,000	18,120

⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

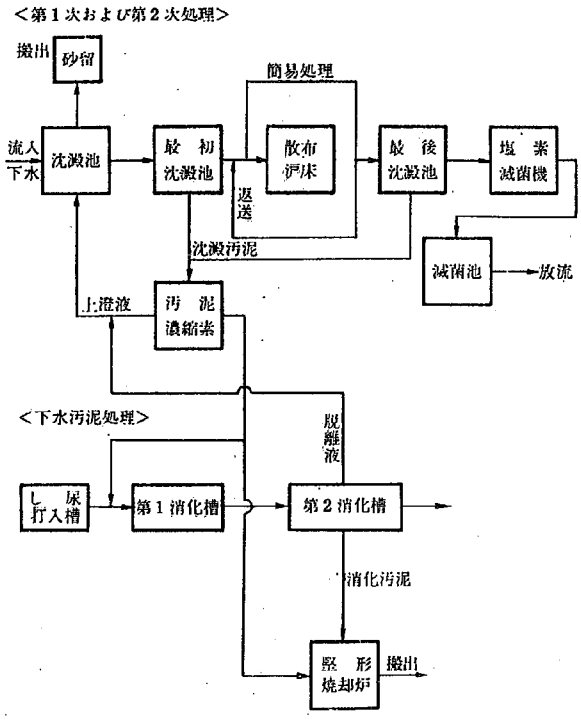
処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
237 ha	277 ha	36,320 人	10,878 人	44,400 人	m³/日	1 m³/日

事業所5.1

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用) 1 池	(雨天時用) 池
スクリーン	(晴天時用) 自動掻揚式 1 基	(雨天時用) 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 2 台	(雨天時用) 3 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) 該当なし 池	(雨天時用) 池
最初沈澱池	(晴天時用) 2 池	(雨天時用) 池
2階タンク	(晴天時用) 該当なし 池	(雨天時用) 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 4 台	(雨天時用)
エアレーションタンク	(高級処理用) 該当なし 池	(中級処理用) 池
散水沪床	(高速用) 2 池	(標準用) 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式) 該当なし (数量) 台	
最後沈澱池	(活性汚泥用) 該当なし 池	(散水炉床用) 2 池
滅菌池	(晴天時用) 池	(晴雨天時兼用) 1 池

⑧ フローシート



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭35	昭36	昭37.9	1 池	径20 m	m	3 m	314 m²	942 m³	66.57 m	24,930 m³/日	98.5 m³	中心駆動クラリファイヤー	3分1.5 m/min	水圧電動式
2	'38	'39	'40.4	1	'20		3	314	942	66.57	24,930	98.5	〃	〃	
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1				池	m	m	m	m³	m³/日	m³/日						
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日			kg/m³/日	
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1	昭37	昭37	昭38.4	1 池	径24 m	m	1.8 m	452 m²	810 m³	18,120 m³/日	3,824 m³/日	1.1 kg/m³/日	21.0 m³/m²/日	65～75 mm	16K 個
2	'37	'37	'41.4	1	径24		1.8	452	810	19,120	3,824	1.1	21.0	65～75	16K
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭37	昭37	昭38.4	1 池	20 m	m	3 m	314 m²	942 m³	66.57 m	24,930 m³/日	98.5 m³	中心駆動クラリファイヤー	1.5分1.5 m/min	水圧電動式
2	'37	'37	'40.4	1	20		3	314	942	66.57	24,930	98.5	〃	〃	
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名 いたち川

その湯水量および平水量 12 m³/sec (平水量)
放流位置 神通川との合流点より約1.5km上流
処理水放流前の河川水のBOD 10.1 ppm

高岡市	四屋	下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理) 昭和34年度

〃 (第2次処理) —

② 共用開始年月日(第1次処理) 昭和40年4月1日

③ 〃 (第2次処理)

④ 下水排除方式 (合流) 分流式 —

⑤ 処理能力 26,000 m³/日

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量		晴天時1日最大処理量		雨天時最大処理量	
	現在	計画	現在	計画	現在	計画
第1次処理	20,000 m³/日	52,000 m³/日	26,000 m³/日	75,000 m³/日	40,000 m³/日	84,000 m³/日
第2次処理						

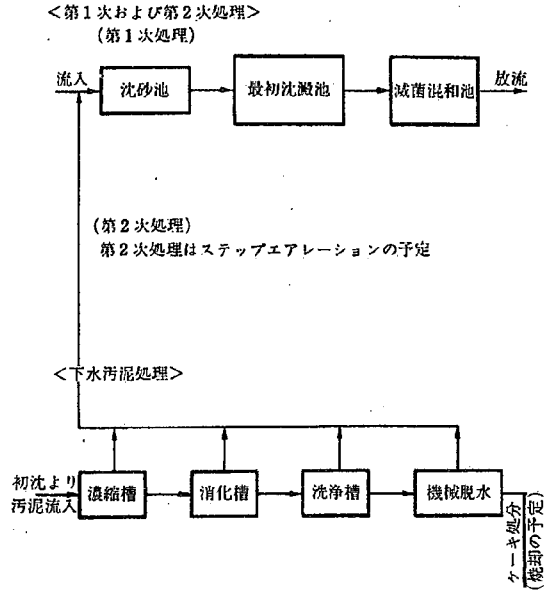
⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

処理面積		処理人口			産業排水量	
現在	計画	現在排水人口	水洗便所使用人口	計画処理人口	現在	計画
186 ha	723 ha	38,000 人	5,000 人	107,000 人	m³/日	1,232 m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用) 1 池	(雨天時用) 池
スクリーン	(晴天時用) 1 基	(雨天時用) 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 2 台	(雨天時用) 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
最初沈澱池	(晴天時用) 1 池	(雨天時用) 池
2階タンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 台	(雨天時用)
エアレーションタンク	(高級処理用) 池	(中級処理用) 池
散水沪床	(高速用) 池	(標準用) 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式)	(数量) 台
最後沈澱池	(活性汚泥用) 池	(散水炉床用) 池
滅菌池	(晴天時用) 池	(晴雨天時兼用) 1 池

⑧ フローシート



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
				池	m	m	m	m²	m³	m	m³/日	m³			
1	昭35	昭37	昭40.4.1	1	33.84	-	2.8	882	2467	103.6	40,000		クラリファイヤー	0.5 m/min	水圧式 連続排泥
2															
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
				池	m	m	m	m³	m³/日	m³/日						
1																
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
				池	m	m	m	m³	m²	m²	m	m³/日			倍	
1																
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
				基	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	m	孔
1															
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
				基	m	m	m	m²	m³	m	m³/日	m³			
1															
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先

放流河川名 小矢部川

その渇水量および平水量

放流位置 河口より 6 km

処理水放流前の河川水のBOD

新潟市　船見　下水処理場

① 工事着手年度（第1次処理）　昭和36年度
〃　（第2次処理）　昭和38年度
② 共用開始年月日（第1次処理）　昭和42年4月1日
③ 〃　（第2次処理）　〃
④ 下水排除方式　（合流式）　分流式　－

⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	19,000 m³/日	36,980 m³/日	19,000 m³/日	44,880 m³/日	19,000 m³/日	108,960 m³/日
第2次処理	19,000	36,980	19,000	44,880	19,000	44,880.

⑥ 処理面積，処理人口，産業排水量

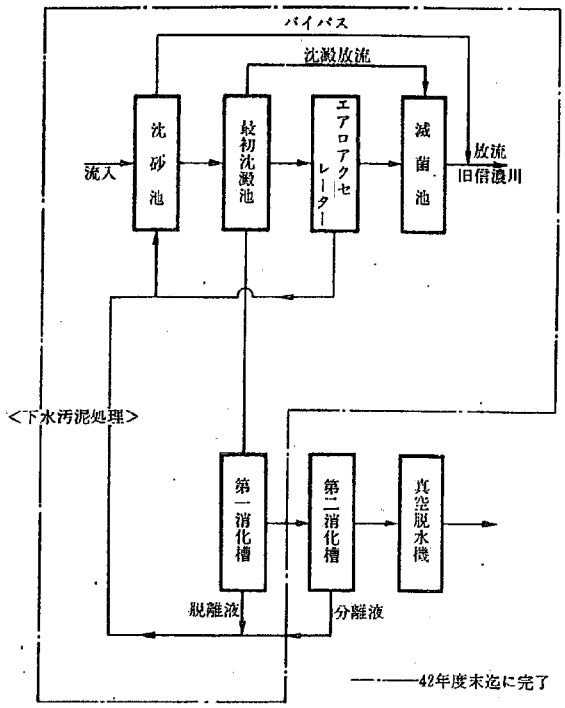
処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
100 ha	411.9 ha	16,600 人	4,000 人	66,000 人	0 m³/日	0 m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	（晴天時用）1 池	（雨天時用）　池
スクリーン	（晴天時用）1 基	（雨天時用）　基
第1揚水ポンプ	（晴天時用）2 台	（雨天時用）　台
前エアレーションタンク	（晴天時用）　池	（雨天時用）　池
最初沈澱池	（晴天時用）1 池	（雨天時用）　池
2階タンク	（晴天時用）　池	（雨天時用）　池
第2揚水ポンプ	（汚水用）　台	（雨天時用）
エアレーションタンク	（高級処理用）　池	（中級処理用）　池
散水沪床	（高速用）　池	（標準用）　池
高速エアレーション沈澱池	（製造会社，商品名・型式）荏原インフィルコ エンロフクセレータ（数量）2台	
最後沈澱池	（活性汚泥用）　池	（散水沪床用）　池
滅菌池	（晴天時用）　池	（晴雨天時兼用）1 池

⑧ フローシート

<第1次および第2次処理>



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭36年度	昭37年度	42.4.1	1 池	径 18 m	m	3 m	254.5 m²	764 m³	57 m	13,470 m³/日	5 m³	クラリファイヤー	2回/時	F式タイマー
2															
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械撹拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1				池	m	m	m	m³	m³/日	m³/日						
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	撹拌機の有無
1	昭38.	38.	42.4.1	1 池	径 14.33 m	m	4.88 m	392 m³	209 m²	136 m²	50 m	17,490 m³/日	コンベンショナルとエンベアの併用	1	3 倍	有
2	42.	42.	43.4.1	1	16.33		4.88	392	209	136	50	17,490	〃	1	3	有

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	m	個
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1				池	m	m	m	m²	m³	m	m³/日	m³			
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先

放流河川名　一級河川　旧信濃川

その湯水量および平水量　湯水量 0.47 m³/sec　平水量 380 m³/sec
放流位置　新潟市入船町4丁目3,778番地の地先（河口）
処理水放流前の河川水のBOD　16.7～3.32　平均 8.59 p.p.m

岐阜市 中部 下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理) 昭和9年7月25日
〃 (第2次処理) 昭和9年7月25日
② 共用開始年月日(第1次処理) 昭和12年7月
③ 〃 (第2次処理) 昭和12年7月
④ 下水排除方式 合流式 (分流式)
⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	m³/日	m³/日	m³/日	m³/日	m³/日	m³/日
第2次処理	64,891	46,500	94,048	66,430		

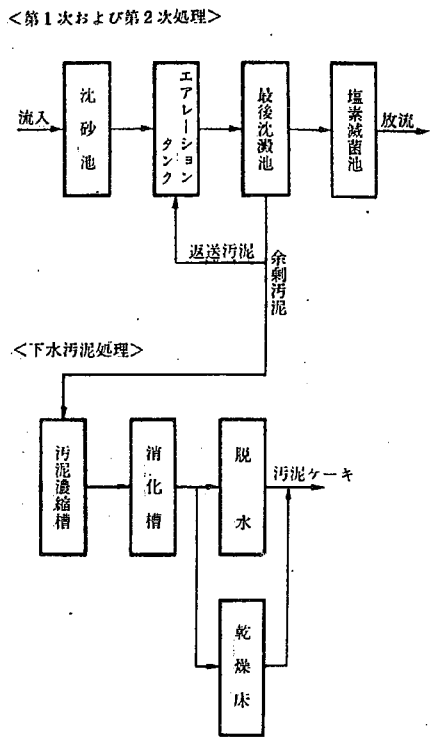
⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
2013ha	2443ha	125,396人	127,616人	154,000人	8140m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用) 2 池	(雨天時用) 池
スクリーン	(晴天時用) 2 基	(雨天時用) 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 6 台	(雨天時用) 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
最初沈澱池	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
2階タンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 台	(雨天時用)
エアレーションタンク	(高級処理用)(活性)・1 池	(中級処理用) 池
散水沪床	(高速用) 池	(標準用) 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式) (数量) 台	
最後沈澱池	(活性汚泥用) 25 池	(散水炉床用) 池
滅菌池	(晴天時用) 2 池	(晴雨天時兼用) 池

⑧ フローシート



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1				池	m	m	m	m²	m³	m	m³/日	m³			
2															
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1	昭12年度	昭12年度	昭12.7	2 池	55 m	6.2 m	4 m	1,250 m³	5,813 m³/日	1,744 m³/日	散気板	1,248	6			
2	〃		〃	3		12.8	4	2,600	11,625	2488	〃	3,744	6			
3		散気施設	〃													
4	〃	昭13年度 建工株式会社	〃													
5	〃	昭33年度 建工株式会社	〃													
6	〃	昭35年度 建工株式会社	〃													

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	m	個
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭34年度		昭35.4.6	9 池	7 m	7 m	6.8 m	49 m²	337 m³	25 m	2,345 m³/日	41 m³	自然沈降式		エアリフト式
2	昭10,~18		〃 12.7	16	7	7	6.8	49	337	25	2,325	41	〃		〃
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名 荒田川 (一級河川長良川水系)

その渇水量および平水量 平水量 1.80m³ 渇水量 不明
放流位置 岐阜市柳年町東海道線鉄橋下
処理水放流前の河川水のBOD 11.2 p.p.m

岐阜市　北部　下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理)　昭和37年7月15日
〃　(第2次処理)　昭和41年11月21日
② 共用開始年月日(第1次処理)　昭和41年7月1日
③ 〃　(第2次処理)　昭和43年5月1日
④ 下水排除方式　合流式　分流式

⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量		晴天時1日最大処理量		雨天時最大処理量	
	現在	計画	現在	計画	現在	計画
第1次処理	m³/日	m³/日	m³/日	m³/日	m³/日	m³/日
第2次処理	2,746	30,660	5,390	65,700		

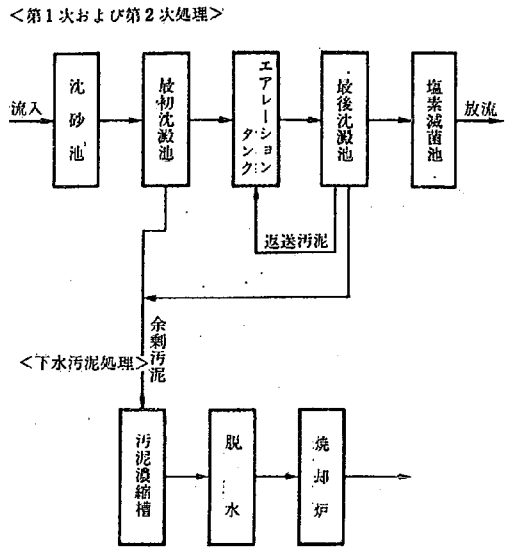
⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

処理面積		処理人口			産業排水量	
現在	計画	現在排水人口	水洗便所使用人口	計画処理人口	現在	計画
164 ha	6.6 ha	11,160 人	11,017 人	94,000 人	0 m³/日	33 m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用)	2 池	(雨天時用)	池
スクリーン	(晴天時用)	2 基	(雨天時用)	基
第1揚水ポンプ	(晴天時用)	3 台	(雨天時用)	台
前エアレーションタンク	(晴天時用)	池	(雨天時用)	池
最初沈澱池	(晴天時用)	4 池	(雨天時用)	池
2階タンク	(晴天時用)	池	(雨天時用)	池
第2揚水ポンプ	(汚水用)	台	(雨天時用)	
エアレーションタンク	(高級処理用)	池	(中級処理用)	池
散水沪床	(高速用)	池	(標準用)	池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式)		(数量)	台
最後沈澱池	(活性汚泥用)	2 池	(散水炉床用)	池
滅菌池	(晴天時用)	1 池	(晴雨天時兼用)	池

⑧ フローシート



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭37.3.31 (第1次第1期工事)	合流工事	昭41.7.1 (第1次第1期工事)	4 池	27.0 m	2.8 m	2.5 m	97 m²	247 m³	27 m	247 m³/日	4.78 m³	フライト式	0.3～1.0 m/分	汚泥ポンプ
2	昭42.3.31 (第1次第2期工事)		〃 41.7.1												
3	(第1次第3期工事)	合流工事	〃												
4		昭43.3.31 活性汚泥処理工事	〃												
5		昭43.3.31 デリケート工事	〃												
6		〃 汚泥乾燥ベッド工事	〃												
7		昭50.3.31 機械工事	〃												
8															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1	昭41.11.21 第1次第1期工事		昭44.4.1	1 池	12.0 m	1.0 m	4.8 m	3,000 m³	14,350 m³/日	4,600 m³/日	散気板	672	6			
2	昭43.3.31 活性汚泥処理工事		〃													
3	昭43.3.31 デリケート工事		〃													
4		昭41.11.21 第1次第1期工事	〃													
5		〃 第1次第2期工事	〃													
6		〃 第1次第3期工事	〃													
7																

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭41.11.21 第1次第1期工事		昭43.5.1	2 池	35 m	8.0 m	3.7 m	247 m²	874 m³	48.6 m	9,476 m³/日	7.0 m³	リンクベルト式	0.3～1.0 m/分	汚泥ポンプ(専用)
2	昭43.3.31 汚泥処理設備	昭43.3.31 活性汚泥処理	〃												
3		〃 活性汚泥処理	〃												
4		〃 デリケート工事	〃												
5															

⑩ 処理水放流先

放流河川名　伊自良川(一級河川長良川水系)

その場水量および平水量　平水量 7.44 m³　渇水量(不明)

放流位置　岐阜市旦島

処理水放流前の河川水のBOD　1.83

水質基準(2)

大垣市 築捨 下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理) 昭和29年度
〃 (第2次処理)
② 共用開始年月日(第1次処理) 昭和36年5月28日
③ 〃 (第2次処理)
④ 下水排除方式 合流式 (分流式)
⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	6,900 m³/日	19,000 m³/日	9,200 m³/日	26,200 m³/日	m³/日	m³/日
第2次処理						

⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

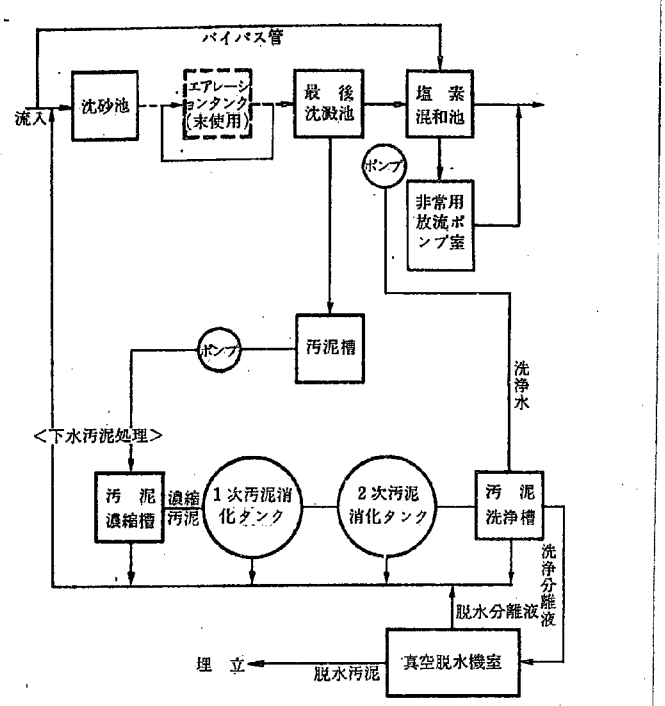
処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
141.1 ha	607.1 ha	28,731 人	28,731 人	70,200 人	m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用) 2 池	(雨天時用) 池
スクリーン	(晴天時用) 1 基	(雨天時用) 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 2 台	(雨天時用) 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
最初沈澱池	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
2階タンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 台	(雨天時用)
エアレーションタンク	(高級処理用) 2 池	(中級処理用) 池
散水沪床	(高速用) 池	(標準用) 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式)	(数量) 台
最後沈澱池	(活性汚泥用) 1 池	(散水炉床用) 池
滅菌池	(晴天時用) 1 池	(晴雨天時兼用) 池

⑧ フローシート

<第1次および第2次処理>



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
				池	m	m	m	m²	m³	m	m³/日	m³			
1															
2															
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
				池	m	m	m	m³	m³/日	m³/日						
1	昭36年度			1	88.6	4.8	4.2	1,786	4,700	14,200						
2	〃			下部												
3	〃			1池												

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
				池	m	m	m	m³	m²	m²	m	m³/日			倍	
1																
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	mm	個
1															
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
				池	m	m	m	m²	m³	m	m³/日	m³			
1	昭34年度		昭36.5.28	1	29.0	14.6	2.74	470	1,280	70	9,100	39	リンクベルト式	6.0cm/min	重力式
2		昭35年度	〃	1池									特殊連続式		
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名 水門川(一級河川)

その渇水量および平水量 6.0 m³/sec および 7.0 m³/sec
放流位置 大垣市築捨町見飯
処理水放流前の河川水のBOD 4.1 mg/l (10月以前6ヶ月間の平水時の平均数値)

瑞浪市 瑞浪	下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理)

〃 (第2次処理) 昭和37年度

② 共用開始年月日(第1次処理)

③ 〃 (第2次処理) 昭和40年1月1日

④ 下水排除方式 合流式 分流式

⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量		晴天時1日最大処理量		雨天時最大処理量	
	現在	計画	現在	計画	現在	計画
第1次処理	m³/日	m³/日	m³/日	m³/日	m³/日	m³/日
第2次処理	4,500	4,500	4,500	4,500	4,500	4,500

⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

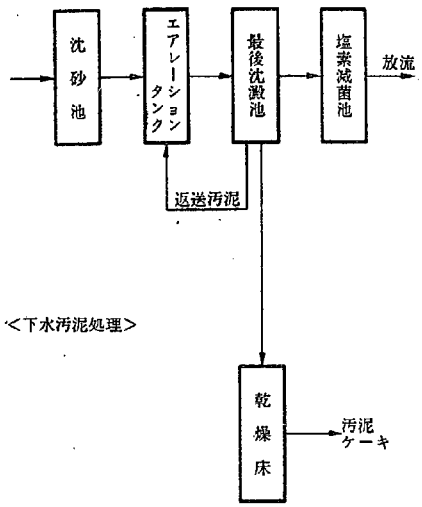
処理面積		処理人口			産業排水量	
現在	計画	現在排水人口	水洗便所使用人口	計画処理人口	現在	計画
44.7 ha	95.3 ha	2,500 人	2,500 人	15,000 人	90 m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用) 1 池	(雨天時用) 池
スクリーン	(晴天時用) 1 基	(雨天時用) 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 台	(雨天時用) 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
最初沈澱池	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
2階タンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 台	(雨天時用)
エアレーションタンク	(高級処理用) 2 池	(中級処理用) 池
散水沪床	(高速用) 池	(標準用) 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式) (数量) 台	
最後沈澱池	(活性汚泥用) 2 池	(散水炉床用) 池
減菌池	(晴天時用) 1 池	(晴雨天時兼用) 池

⑧ フローシート

<第1次および第2次処理>



<下水汚泥処理>

⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
				池	m	m	m	m²	m³	m	m³/日	m³			
1															
2															
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1	昭38年度	昭38年度	昭40.1.1	2 池	20 m	9.4 m	3 m	400 m³	2,740 m³/日	87.5 m³/日	旋回流式	360	3～5			
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日			%	
1																
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	m	穴
1															
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭38年度	昭38年度	昭40.1.1	2 池	10 m	10 m	4.5 m	100 m²	400 m³	40 m	4,500 m³/日	400 m³	自然流下	—	圧送
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先

放流河川名 一級河川土岐川

その渇水量および平水量 渇水量 0.9 m³/秒 平水量 3 m³/秒

放流位置 瑞浪市小田町字河原 462 番地

処理水放流前の河川水のBOD 1.8 mg/l

関都市関	下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理) 昭和38年10月1日

〃 (第2次処理)

② 共用開始年月日(第1次処理) 昭和42年2月10日

③ 〃 (第2次処理)

④ 下水排除方式 合流式 分流式

⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	875 m³/日	14,644 m³/日	1,371 m³/日	22,320 m³/日	1,756 m³/日	22,320 m³/日
第2次処理		14,644		22,320		22,320

⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
33.7 ha	303.88 ha	4,025 人	4,025 人	62,500 人	m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用) 2 池	(雨天時用) 池
スクリーン	(晴天時用) 2 基	(雨天時用) 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 2 台	(雨天時用) 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
最初沈澱池	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
2階タンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 台	(雨天時用)
エアレーションタンク	(高級処理用) 1 池	(中級処理用) 池
散水沪床	(高速用) 池	(標準用) 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式)	(数量) 台
最後沈澱池	(活性汚泥用) 2 池	(散水炉床用) 池
滅菌池	(晴天時用) 1 池	(晴雨天時兼用) 池

⑧ フローシート

<第1次および第2次処理>
<第1次処理>

流入下水 → スクリーン沈砂池 → 最後沈澱池 → 塩素消毒 → 処理水

<下水汚泥処理>

沈澱汚泥 —車→ 埋立

⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1				池	m	m	m	m²	m³	m	m³/日	m³			
2															
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械撹拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1	昭42			1 池	19.4 m	20.4 m	3.5 m	1,367 m³	7,812 m³/日	2343 m³/日						
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部1池当り 沈澱部	水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	撹拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日				
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	mm	個
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭38		昭42.2.10	1 池	36 m	7 m	3.4 m	242 m²	826 m³	48 m	7,812 m³/日	m³			
2	42			1	36	7	3.5	242	826	48	7,812				
3		昭42	昭42.2.10										ダイヤ式	2.5 m/m	ダイヤ
4															
5															

⑩ 処理水放流先

放流河川名 神保川

その渇水量および平水量 平水量 44.18 m³/sec

放流位置 門和賀橋下 2.6 km

処理水放流前の河川水のBOD 1.2 mg/l

富士市 吉原 下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理) 昭和36年4月1日
〃 (第2次処理) 昭和41年4月1日
② 共用開始年月日(第1次処理) 昭和40年4月1日
③ 〃 (第2次処理) 昭和42年4月1日
④ 下水排除方式 合流式 分流式

⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	3,770 m³/日	4,760 m³/日	4,050 m³/日	7,200 m³/日	8,000 m³/日	14,200 m³/日
第2次処理	3,770	4,760	4,050	6,000	6,000	6,000

⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

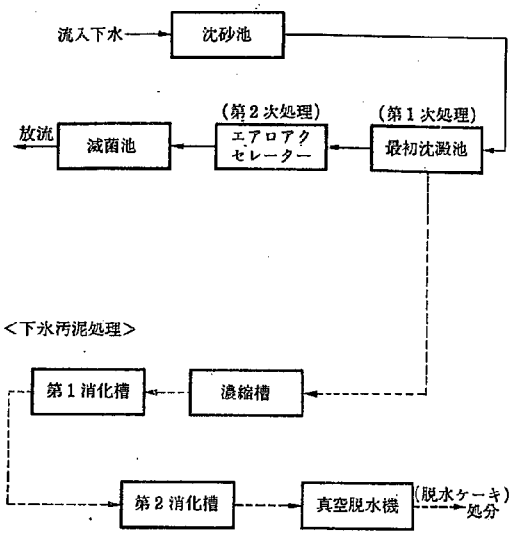
処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
76.6 ha	178.4 ha	12,500 人	6,670 人	24,000 人	m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用) 1 池	(雨天時用) 池
スクリーン	(晴天時用) 1 基	(雨天時用) 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 3 台	(雨天時用) 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
最初沈澱池	(晴天時用) 1 池	(雨天時用) 池
2階タンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 台	(雨天時用)
エアレーションタンク	(高級処理用) 池	(中級処理用) 池
散水沪床	(高速用) 池	(標準用) 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式) 荏原製作所 ECS (数量) 1 台	
最後沈澱池	(活性汚泥用) 池	(散水炉床用) 池
滅菌池	(晴天時用) 1 池	(晴雨天時兼用) 池

⑧ フローシート

<第1次および第2次処理>



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭36	昭36	昭40.4.1	1 池	16.0 m	m	2.2 m	20.4 m²	420 m³	m	8,840 m³/日	2 m³	回転式	3m/分	水頭差
2															
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1				池	m	m	m	m³	m³/日	m³/日						
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
1	昭41	昭41	昭42.4.1	1 池	18.3 m	m	4.00 m	770 m³	216 m³	m²	m	6,000 m³/日	機械攪拌式	1	3 倍	有
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	m	個
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1				池	m	m	m	m²	m³	m	m³/日	m³			
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名 静岡県富士市和田川

その渇水量および平水量 34 m³/秒 0.794 m³
放流位置 静岡県富士市大字伝法字下地 215～3地先
処理水放流前の河川水のBOD 13.6 mg/l

浜松市 中部 下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理) 昭和42年度
〃 (第2次処理) 昭和36年度
② 共用開始年月日(第1次処理) —
③ 〃 (第2次処理) 昭和37年8月1日
④ 下水排除方式 (合流式) 分流式
⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	m³/日	125,346 m³/日	m³/日	174,488 m³/日	m³/日	217,268 m³/日
第2次処理	21,000	125,346	25,000	174,488	31,000	217,642

⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

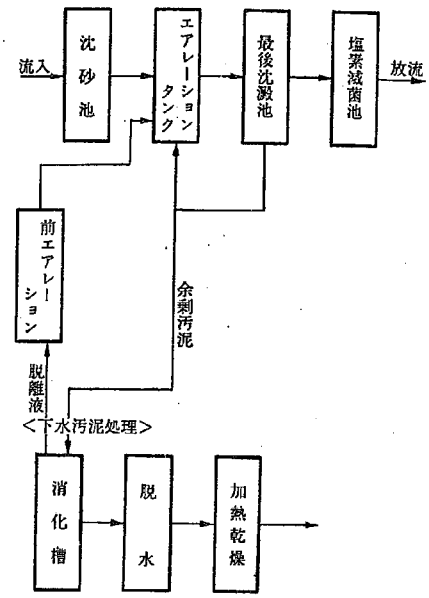
処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
16.6 ha	127 ha	27,000 人	14,300 人	210,700 人	1,2 m³/日	7,1 m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用) 2 池	(雨天時用) 池
スクリーン	(晴天時用 満月2 細目2 基	(雨天時用) 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 3 台	(雨天時用) 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
最初沈澱池	(晴天時用) 4 池	(雨天時用) 池
2階タンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 台	(雨天時用)
エアレーションタンク	(高級処理用) 2 池	(中級処理用) 池
散水沪床	(高速用) 池	(標準用) 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式) (数量) 台	
最後沈澱池	(活性汚泥用) 6 池	(散水炉床用) 池
滅菌池	(晴天時用) 1 池	(晴雨天時兼用) 池

⑧ フローシート

<第1次および第2次処理>



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭42	建設中		4 池	33 m	10 m	2.5 m	330 m²	825 m³	645 m	12,900 m³/日	10 m³	リンクベルト式	1 m/min	ポンプ引抜
2															
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1	昭37	昭37	昭37.8.1	1/2 池	44 m	24 m	4 m	5,280 m³	24,800 m³/日	64,440 m³/日	散気盤	864	4.4			
2	〃 39	〃 39	'40.4.1	1/2	44	24	4	5,280	24,800	64,440	〃	864	4.4			
3	〃 41	〃 41	'40.4.1	1	44	24	4	5,280	24,800	64,440	〃	1,728	4.4			

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日			倍	
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1				基	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	m	個
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭36	昭36	昭37.8.1	1 池	28 m	10 m	3 m	280 m²	640 m³	47 m	10,744 m³/日	8 m³	リンクベルト式	1 m/min	ポンプ引抜
2	〃 39	〃 39	'40.4.1	2	28	10	3	280	640	47	10,744	8	リンクベルト式	〃	〃
3	〃 42	〃 42	'43.6.1	3	28	10	3	280	640	47	10,744	8	リンクベルト式	〃	〃
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名 馬込川
その湯水量および平水量 湯水量 7 m³/sec 平水量 12.5 m³/sec
放流位置 広内町地内
処理水放流前の河川水のBOD 8.5 PPM

浜松市　弥生　下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理)

〃　(第2次処理)　昭和40年度

② 共用開始年月日(第1次処理)

③　〃　(第2次処理)　昭和40年11月1日

④ 下水排除方式　合流式　(分流式)

⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	— m³/日	— m³/日	— m³/日	— m³/日	— m³/日	— m³/日
第2次処理	500	600	700	810	—	—

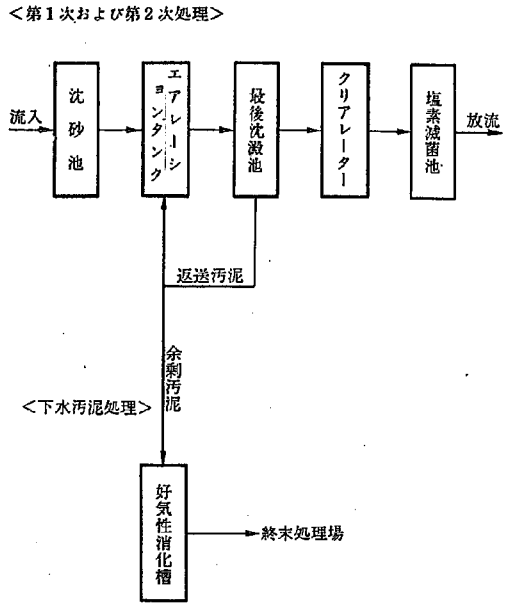
⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
18.7 ha	18.7 ha	900 人	900 人	1,800 人	— m³/日	— m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用)　1 池	(雨天時用)　池
スクリーン	(晴天時用)　1 基	(雨天時用)　基
第1揚水ポンプ	(晴天時用)　2 台	(雨天時用)　台
前エアレーションタンク	(晴天時用)　— 池	(雨天時用)　池
最初沈澱池	(晴天時用)　— 池	(雨天時用)　池
2階タンク	(晴天時用)　— 池	(雨天時用)　池
第2揚水ポンプ	(汚水用)　— 台	(雨天時用)
エアレーションタンク	(高級処理用)　1 池	(中級処理用)　池
散水沪床	(高速用)　— 池	(標準用)　池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式)　(数量)　台	
最後沈澱池	(活性汚泥用)　1 池	(散水炉床用)　池
減菌池	(晴天時用)　1 池	(晴雨天時兼用)　池

⑧ フローシート



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1				池	m	m	m	m²	m³	m	m³/日	m³			
2															
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1	昭40年	昭40年	昭40.11.1	1 池	4.65 m	14 m	3.2 m	210 m³	600 m³/日	600 m³/日	散気管	42	15	—	—	—
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日			%	
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	m	個
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭40.	昭40.	40.11.1	1 池	4.65 m	4.65 m	1.8 m	21.6 m²	39 m³	16 m	600 m³/日	21.6 m³	—	—	ポンプ設備
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先

放流河川名　新川

その場水量および平水量　場水量 0.7 m³/sec　平水量 1.2 m³/sec

放流位置　富塚町地内

処理水放流前の河川水のBOD　4. ppm.

浜松市 遠州浜 下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理) —

〃 (第2次処理) 昭和40年度

② 共用開始年月日(第1次処理) —

③ 〃 (第2次処理) 昭和41年4月18

④ 下水排除方式 合流式 (分流式)

⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量		晴天時1日最大処理量		雨天時最大処理量	
	現在	計画	現在	計画	現在	計画
第1次処理	— m³/日	— m³/日	— m³/日	— m³/日	— m³/日	— m³/日
第2次処理	600	5,700	900	7,400	—	—

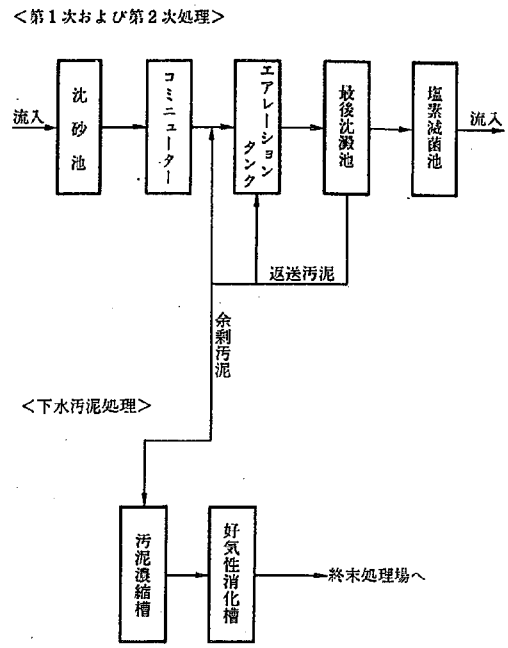
⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

処理面積		処理人口			産業排水量	
現在	計画	現在排水人口	水洗便所使用人口	計画処理人口	現在	計画
20 ha	64.3 ha	2,000 人	2,000 人	14,000 人	— m³/日	— m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用) 1 池	(雨天時用) 池
スクリーン	(晴天時用) 1 基	(雨天時用) 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 2 台	(雨天時用) 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) — 池	(雨天時用) 池
最初沈澱池	(晴天時用) — 池	(雨天時用) 池
2階タンク	(晴天時用) — 池	(雨天時用) 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) — 台	(雨天時用)
エアレーションタンク	(高級処理用) 6 池	(中級処理用) 池
散水沪床	(高速用) — 池	(標準用) 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式)	(数量) — 台
最後沈澱池	(活性汚泥用) 2 池	(散水炉床用) 池
滅菌池	(晴天時用) 1 池	(晴雨天時兼用) 池

⑧ フローシート



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
				基	m	m	m	m²	m³	m	m³/日	m³			
1															
2															
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1	昭40.	昭40.	昭41.4.1	6 基	6.5 m	6.5 m	2.7 m	114 m³	2,580 m³/日	960 m³/日	—	—	—	ロータ式	6	103 r.p.m
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
				基	m	m	m	m³	m²	m²	m	m³/日			倍	
1																
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
				基	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	m	孔
1															
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
				基	m	m	m	m²	m³	m	m³/日	m³			
1	昭40.	昭40.	昭41.4.1	2 基	10 m	10 m	2 m	100 m²	200 m³	31.4 m	2,850 m³/日	1.65 m³	中央駆動式	0.079 r.p.m	ポンプ設備
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先

放流河川名 馬込川

その渇水量および平水量 渇水量 8 m³/sec 平水量 14 m³/sec

放流位置 江の島町地内

処理水放流前の河川水のBOD 3.5 p.p.m

静岡 都市 高松 下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理) 昭和33年 (消化槽関係 昭和33年3月1日)

〃 (第2次処理)

② 共用開始年月日(第1次処理) 昭和35年11月1日 (消化槽関係 昭和36年4月1日)

③ 〃 (第2次処理)

④ 下水排除方式 (合流式) 分流式

⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量		晴天時1日最大処理量		雨天時最大処理量	
	現在	計画	現在	計画	現在	計画
第1次処理	77,400 m³/日	103,200 m³/日	116,100 m³/日	154,800 m³/日	132,400 m³/日	143,200 m³/日
第2次処理						

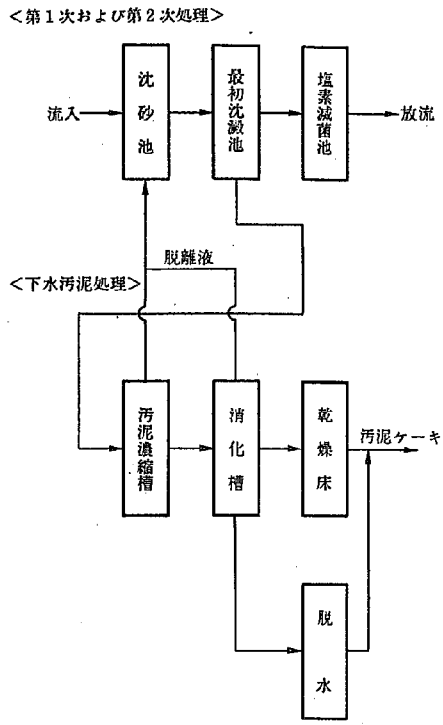
⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

処理面積		処理人口			産業排水量	
現在	計画	現在排水人口	水洗便所使用人口	計画処理人口	現在	計画
468.0 ha	658.0 ha	94,000 人	48,000 人	400,000 人	— m³/日	78,740 m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用) 2 池	(雨天時用) 1 池
スクリーン	(晴天時用) 2 基	(雨天時用) 1 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 2 台	(雨天時用) 2 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
最初沈澱池	(晴天時用) 3 池	(雨天時用) 池
2階タンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 台	(雨天時用)
エアレーションタンク	(高級処理用) 池	(中級処理用) 池
散水沪床	(高速用) 池	(標準用) 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式)	(数量) 台
最後沈澱池	(活性汚泥用) 池	(散水炉床用) 池
滅菌池	(晴天時用) 池	(晴雨天時兼用) 池

⑧ フローシート



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭33年度	昭33年度	昭33.11.1	1 池	36.0 m	m	3.0 m	1.020 m²	3.060 m³	337 m	晴天平均 25,325 m³/日	汚泥溜 13.7 m³	凝集剤フロック形成	2.28 m/分	排泥ポンプ 150φ mm
2	35 〃	35 〃	36.4.2	1	36.0		3.0	1.020	3.060	337	25,325	13.7	全上	全上	全上
3	41 〃	41 〃	42.3.31	1	40.0	20.5	3.0	1.020	3.060	288	25,325	48.6	ミーチェ型 ブリッジ付	1.20 m/分	全上 φ100 mm
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1				池	m	m	m	m³	m³/日	m³/日						
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
1				基	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日			倍	
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	mm	個
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1				池	m	m	m	m²	m³	m	m³/日	m³			
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先

放流河川名 二級河川浜川

その渇水量および平水量 1.402 m³/秒 4.201 m³/秒

放流位置 駿河湾 (河口上流)

処理水放流前の河川水のBOD 7.69 P.P.M.

熱海 都市 錦ヶ浦 下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理) 昭和 38年度

〃 (第2次処理)

② 共用開始年月日(第1次処理) 昭和 40年8月1日

③ 〃 (第2次処理)

④ 下水排除方式 合流式 (分流式)

⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	7842 m³/日	30,000 m³/日	11,130 m³/日	36,000 m³/日	m³/日	m³/日
第2次処理						

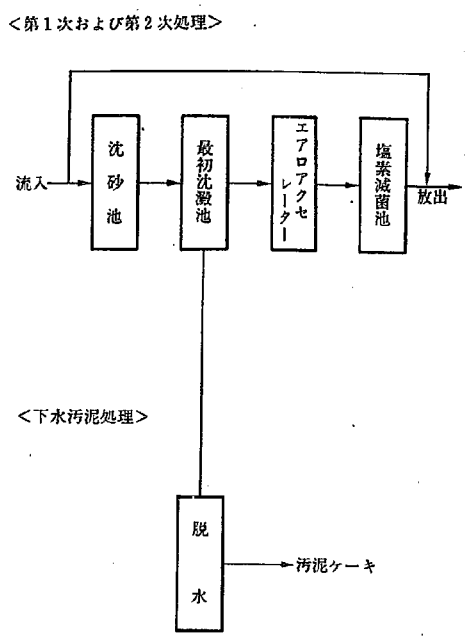
⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
62.4 ha	242.6 ha	13,200 人	8,800 人	30,000 人	m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用) 2 池	(雨天時用) 池
スクリーン	(晴天時用) 1 基	(雨天時用) 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 2 台	(雨天時用) 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
最初沈澱池	(晴天時用) 4 池	(雨天時用) 池
2階タンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 台	(雨天時用)
エアレーションタンク	(高級処理用) 4 池	(中級処理用) 池
散水沪床	(高速用) 池	(標準用) 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式 ディロアクセレレーター 数量) 4 台	
最後沈澱池	(活性汚泥用) 池	(散水炉床用) 池
滅菌池	(晴天時用) 1 池	(晴雨天時兼用) 池

⑧ フローシート



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭40年度	昭41年度	昭40.8.1.	4 池	37 m	5.4 m	2.5 m	200 m²	500 m³	26 m	2,000 m³/日	8.5 m³	リンスベルト式 (ブラストコンベアー)	1.2 m/min	重力式 自然流下
2															
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1				池	m	m	m	m³	m³/日	m³/日						
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
1	昭40年度	昭41年度	昭40.8.1	4 池	22 m	10.5 m	4.5 m	615 m³	208 m³	132.3 m²	5.5 m	6,000 m³/日	攪拌式	2	3～4 倍	有
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	m	孔
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1				池	m	m	m	m²	m³	m	m³/日	m³			
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先

放流河川名 相模湾

その湾水量および平水量 東京湾 中等潮位 −0.907

放流位置 相模湾内熱海湾外.

処理水放流前の河川水のBOD 4.14 p.p.m.

藤枝市　藤岡団地　下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理)　昭和39年10月1日
〃　(第2次処理)　〃
② 共用開始年月日(第1次処理)　昭和40年8月1日
③ 〃　(第2次処理)　〃
④ 下水排除方式　合流式　(分流式)　-
⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量		晴天時1日最大処理量		雨天時最大処理量	
	現在	計画	現在	計画	現在	計画
第1次処理	(注)16.9 m³/日	1040 m³/日	(注)16.9 m³/日	1040 m³/日	(注)16.9 m³/日	1040 m³/日
第2次処理	〃	1040	〃	1040	〃	1040

⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

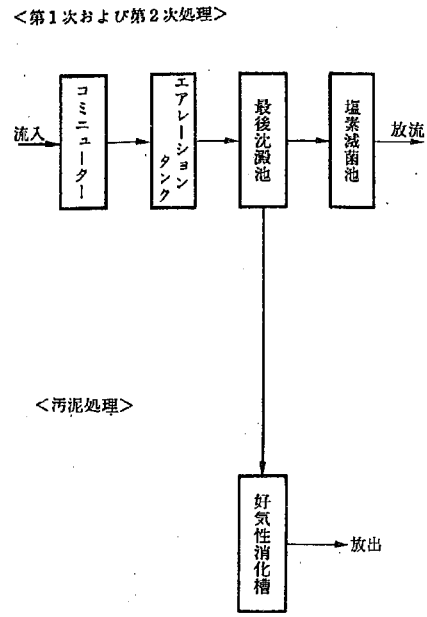
処理面積		処理人口			産業排水量	
現在	計画	現在排水人口	水洗便所使用人口	計画処理人口	現在	計画
33.18 ha	33.18 ha	2952 人	2952 人	5200 人	0 m³/日	0 m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用)	池	(雨天時用)	池
スクリーン	(晴天時用)	1 基	(雨天時用)	基
第1揚水ポンプ	(晴天時用)	2 台	(雨天時用)	台
前エアレーションタンク	(晴天時用)	池	(雨天時用)	池
最初沈澱池	(晴天時用)	池	(雨天時用)	池
2階タンク	(晴天時用)	池	(雨天時用)	池
第2揚水ポンプ	(汚水用)	2 台	(雨天時用)	
エアレーションタンク	(高級処理用)	1 池	(中級処理用)	池
散水沪床	(高速用)	池	(標準用)	池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式)		(数量)	台
最後沈澱池	(活性汚泥用)	1 池	(散水炉床用)	池
滅菌池	(晴天時用)	1 池	(晴雨天時兼用)	池

(注) 16.9 配管不良のため汚水が非常に多く流量不明なお。現在は(揚水量 1.75 M³/min ポンプ1時間のうち 10分運転をする。方法で流水を流入水自然枯に流入している) 1.75 m³/min × 10 × 24 = 3100 m³/日

⑧ フローシート



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1				池	m	m	m	m²	m³	m	m³/日	m³			
2															
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1	昭39.10.14	昭39.10.14	昭40.8.1	1 池	13.2 m	4.6 m	2.6 m	174 m³	1040 m³/日	m³/日	ディフューザー方式	3段 (数量5/7日)	1:2			
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日			倍	
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	m	個
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭39.10.14	昭39.10.14	昭40.8.1	1 池	13.2 m	4.6 m	4.9 m	42 m²	140 m³	27.8 m	1040 m³/日	m³			エアリフト式
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名　二級河川 葉梨川

その渇水量および平水量　9 M³/min　90 M³/min
放流位置　中流
処理水放流前の河川水のBOD　3 P.P.m

袋井 都市	袋井	下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理) 昭和40年度

〃 (第2次処理)

② 共用開始年月日(第1次処理) 昭和40年12月

③ 〃 (第2次処理)

④ 下水排除方式 合流式 (分流式)

⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量		晴天時1日最大処理量		雨天時最大処理量	
	現在	計画	現在	計画	現在	計画
第1次処理	41.7 m³/日	37.4 m³/日	50 m³/日	166 m³/日	305 m³/日	m³/日
第2次処理						

⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

処理面積		処理人口			産業排水量	
現在	計画	現在排水人口	水洗便所使用人口	計画処理人口	現在	計画
9.3 ha	9.3 ha	238 人	238 人	1700 人	m³/日	m³/日

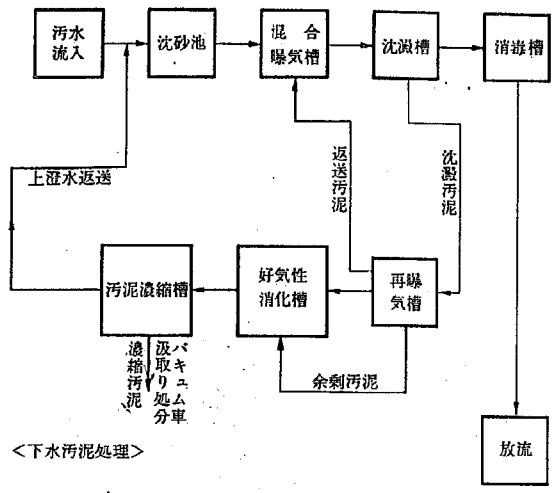
⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用) 1 池	(雨天時用) 池
スクリーン	(晴天時用) 1 基	(雨天時用) 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 台	(雨天時用) 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
最初沈澱池	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
2階タンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 2 台	(雨天時用)
エアレーションタンク	(高級処理用) 1 池	(中級処理用) 池
散水沪床	(高速用) 池	(標準用) 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式)	(数量) 台
最後沈澱池	(活性汚泥用) 池	(散水炉床用) 池
滅菌池	(晴天時用) 1 池	(晴雨天時兼用) 池

⑧ フローシート

<第1次および第2次処理>

袋井市汚水処理場フロシート (柳原)



<下水汚泥処理>

該当なし

⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
				池	m	m	m	m²	m³	m	m³/日	m³			
1															
2															
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
				池	m	m	m	m³	m³/日	m³/日						
1																
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日			倍	
1	昭40年度	昭40年度	昭40年12月	1				110	74	21.2		374	デフューザー	6	1.42	なし
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	mm	個
1															
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
				池	m	m	m	m²	m³	m	m³/日	m³			
1															
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先

放流河川名 蟬尾川

その湧水量および平水量 0.01 m³/秒, 0.02 m³/秒

放流位置

処理水放流前の河川水のBOD 0.7 p.p.m.

清水町 都市 徳倉住宅団地　下水処理場

① 工事着手年度（第1次処理）昭和 39年
〃　（第2次処理）〃
② 共用開始年月日（第1次処理）昭和 41年4月1日
③ 〃　（第2次処理）昭和 41年4月1日
④ 下水排除方式　合流式　（分流式）
⑤ 処理能力

処理システム ＼ 汚水量	晴天時1日平均処理量		晴天時1日最大処理量		雨天時最大処理量	
	現在	計画	現在	計画	現在	計画
第1次処理	393 m³/日	800 m³/日	720 m³/日	2,000 m³/日	720 m³/日	2,000 m³/日
第2次処理	393	800	720	2,000	720	2,000

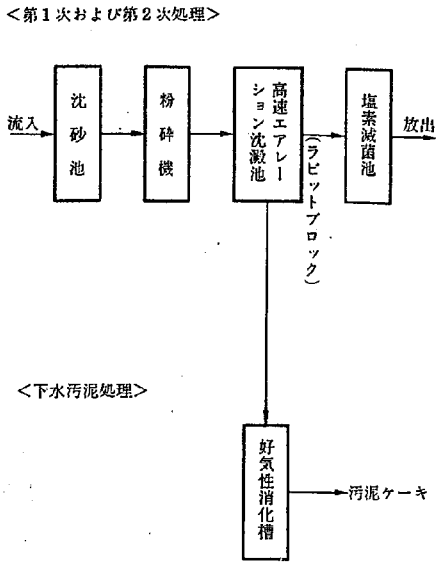
⑥ 処理面積，処理人口，産業排水量

処理面積		処理人口			産業排水量	
現在	計画	現在排水人口	水洗便所使用人口	計画処理人口	現在	計画
16.1 ha	16.1 ha	1,800 人	1,800 人	4,000 人	m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	（晴天時用）1 池	（雨天時用）　池
スクリーン	（晴天時用）1 基	（雨天時用）　基
第1揚水ポンプ	（晴天時用）　台	（雨天時用）　台
前エアレーションタンク	（晴天時用）　池	（雨天時用）　池
最初沈澱池	（晴天時用）　池	（雨天時用）　池
2階タンク	（晴天時用）　池	（雨天時用）　池
第2揚水ポンプ	（汚水用）1 台	（雨天時用）
エアレーションタング	（高級処理用）1 池	（中級処理用）　池
散水沪床	（高速用）　池	（標準用）　池
高速エアレーション沈澱池	（製造会社，商品名・型式）　（数量）　台	
最後沈澱池	（活性汚泥用）1 池	（散水炉床用）　池
滅菌池	（晴天時用）1 池	（晴雨天時兼用）　池

⑧ フローシート



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1				池	m	m	m	m²	m³	m	m³/日	m³			
2															
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械撹拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1	昭40.	昭40.	昭41.4.1	1 池	11.0 m	3.6 m	2.6 m	100 m³	393 m³/日	m³/日	散気式	2/系 1系				
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	撹拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日			倍	
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	mm	個
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭40.	昭40.	昭41.4.1	1 池	11.0 m	3.0 m	3.9 m	33.6 m²	92 m³	11.0 m	800 m³/日	7.3 m³			バキュームカーにて搬出
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名　一級河川 狩野川

その渇水量および平水量　渇水量 19.9 m³/秒　平水量 29.0 m³/秒
放流位置　静岡県駿東郡清水町下徳倉地先
処理水放流前の河川水のBOD 3.55 p.p.m.

豊橋市野田　下水処理場

① 工事着手年度（第1次処理）　昭和 8 年
〃　（第2次処理）　昭和 9 年
② 共用開始年月日（第1次処理）　昭和 10 年 8 月 16 日
③ 〃　（第2次処理）　昭和 10 年 8 月 16 日
④ 下水排除方式　（合流式）　分流式

⑤ 処理能力

処理システム ＼ 汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	37.196 m³/日	37.200 m³/日	53.736 m³/日	53.000 m³/日	62.170 m³/日	72.000 m³/日
第2次処理	37.198	37.200	39.528	53.000	—	—

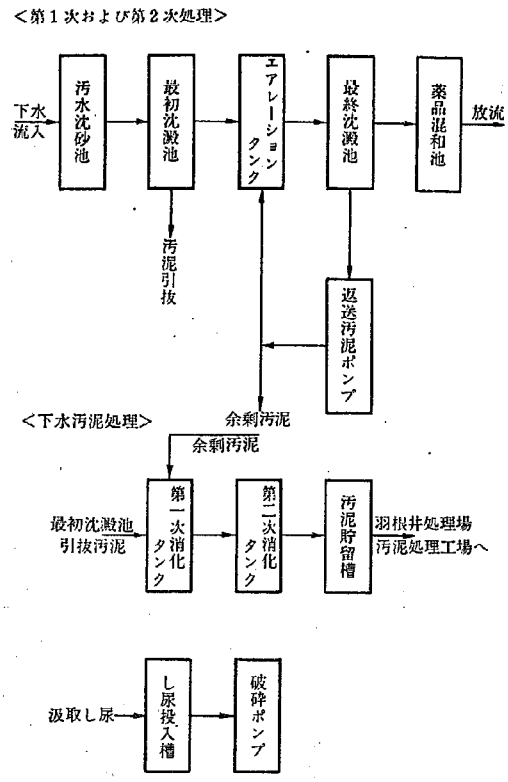
⑥ 処理面積，処理人口，産業排水量

処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
478.8 ha	531.7 ha	62.540 人	49.142 人	160,000 人	— m³/日	— m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	（晴天時用）	1 池	（雨天時用）	池
スクリーン	（晴天時用）	1 基	（雨天時用）	基
第1揚水ポンプ	（晴天時用）	6 台	（雨天時用）	台
前エアレーションタンク	（晴天時用）	— 池	（雨天時用）	池
最初沈澱池	（晴天時用）	21 池	（雨天時用）	池
2階タンク	（晴天時用）	— 池	（雨天時用）	池
第2揚水ポンプ	（汚水用）	— 台	（雨天時用）	
エアレーションタンク	（高級処理用）	24 池	（中級処理用）	池
散水沪床	（高速用）	— 池	（標準用）	池
高速エアレーション沈澱池	（製造会社，商品名・型式）		（数量）	台
最後沈澱池	（活性汚泥用）	3 池	（散水炉床用）	池
滅菌池	（晴天時用）	1 池	（晴雨天時兼用）	池

⑧ フローシート



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭9.	昭9.	10.8.6	2 池	19.8 m	19.8 m	2.4 m	392 m²	999.7 m³	39.6 m	18.600 m³/日	0.6 m³	クラリファイヤー	1回転 3.4分	汚泥ポンプ引抜
2															
3															
4															
5															

ステップ　エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械撹拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1	昭9.	昭9.	10.8.16	24 池	7.3 m	7.3 m	深さ 3.4 m 側壁	226.09 m³	8.300 m³/日	2.325 m³/日				ドルフ式スタッフ・ミキサ シンドラクラス	24	
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	撹拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日			倍	
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	m	孔
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭9.	昭9.	10.8.16	2 池	18.3 m	18.3 m	2.45 m	334.89 m²	820.48 m³	48 m	12.400 m³/日	0.4 m³	ドルー式クラリファイヤ	1回転 30分	汚泥ポンプ引抜
2	36.	37.	10.8.16	1	18.3	18.3	2.45	334.89	820.48	48	12.400	0.4	エバライン・フィルコクラリファイヤー	〃	〃
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名　豊川水系一級河川 豊川

その渇水量および平水量　平水量 103 m³/sec　雨天時 2300 m³/sec
放流位置　豊橋市三ッ相町 43の2番地先
処理水放流前の河川水のBOD　19～21

豊橋 都市 羽根井 下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理) 昭和32年
〃 (第2次処理) 〃
② 共用開始年月日(第1次処理) 昭和34年
③ 〃 (第2次処理)
④ 下水排除方式 (合流式) 分流式
⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	16,701 m³/日	22,800 m³/日	21,020 m³/日	32,200 m³/日	42,432 m³/日	61,900 m³/日
第2次処理	16,701	22,800	21,020	32,200	—	—

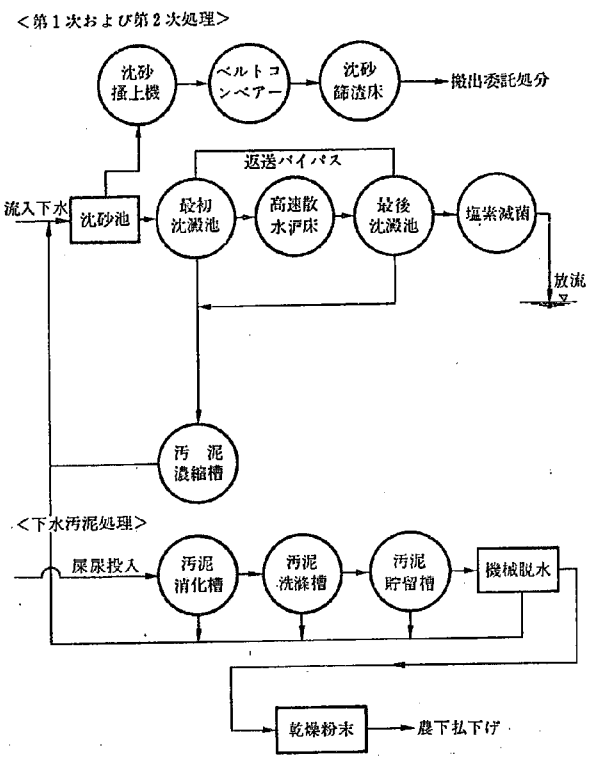
⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
288.9 ha	321.4 ha	38,476 人	30,119 人	50,000 人	— m³/日	— m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用) 1 池	(雨天時用) 池
スクリーン	(晴天時用) 1 基	(雨天時用) 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 4 台	(雨天時用) 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) — 池	(雨天時用) 池
最初沈澱池	(晴天時用) 1 池	(雨天時用) 池
2階タンク	(晴天時用) — 池	(雨天時用) 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) — 台	(雨天時用)
エアレーションタンク	(高級処理用) — 池	(中級処理用) 池
散水沪床	(高速用) 4 池	(標準用) 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式)	(数量) 台
最後沈澱池	(活性汚泥用) — 池	(散水炉床用) 2 池
滅菌池	(晴天時用) — 池	(晴雨天時兼用) 池

⑧ フローシート



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭32.3.31	昭33.12.28	昭34.1.20	1 池	(径) 21 m	m	3.0 m	346 m²	1,039 m³	67.5 m	23,800 m³/日	0.85 m³	掻寄機	21 sec/m	汚泥ポンプ
2															
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1				池	m	m	m	m³	m³/日	m³/日						
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日			%	
2																

高速散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1	昭32.3.31	昭33.12.28	昭34.1.20	2 池	(径) 20 m	— m	1.8 m	314.2 m²	565.2 m³	11,900 m³/日	— m³/日	1.2 kg/m³/日	11,900 m³/日	70 mm	96 孔
2	昭32.3.31	昭33.3.31	昭33.4.1	2	(径) 20	—	1.8	314.2	565.2	11,900	—	1.2	11,900	70	96
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭32.3.31	昭33.12.28	昭34.1.20	1 池	(径) 21 m	— m	3.0 m	346 m²	1,039 m³	67.5 m	11,900 m³/日	0.85 m³	クラリファイヤー	21 sec/m	汚泥ポンプ
2	昭32.3.31	昭33.3.31	昭33.4.1	1	(径) 21	—	3.0	346	1,039	67.5	11,900	0.85	クラリファイヤー	21 sec/m	
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名 柳生川運河

その他水量および平水量 平水量 21.0 m³/sec 雨天時 134.5 m³/sec
放流位置 豊橋市羽根井町 81番地先
処理水放流前の河川水のBOD 36.8～89.7

岡崎市　偉生センター下水処理場

① 工事着手年度（第1次処理）昭和 33 年
〃　（第2次処理）昭和 34 年
② 共用開始年月日（第1次処理）昭和37年7月13日
③ 〃　（第2次処理）昭和37年7月13日
④ 下水排除方式　合流式　分流式　-
⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	15,500 m³/日	12,800 m³/日	17,700 m³/日	16,000 m³/日	21,150 m³/日	48,000 m³/日
第2次処理	15,500	12,800	17,700	16,000	21,150	16,000

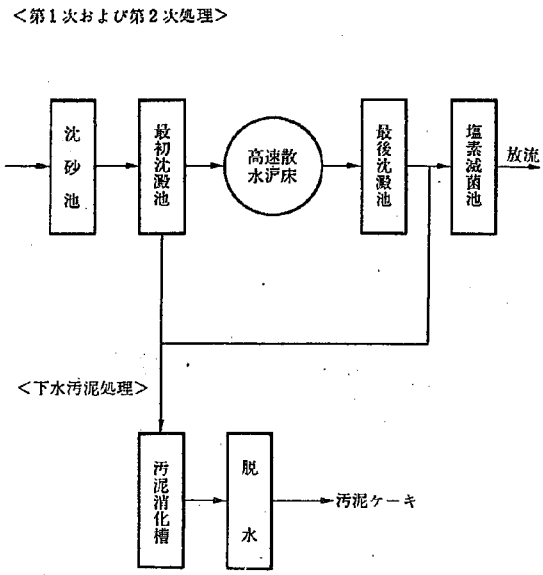
⑥ 処理面積，処理人口，産業排水量

処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
403 ha	403 ha	58,000 人	17,000 人	64,000 人	53 m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	（晴天時用）1 池	（雨天時用）　池
スクリーン	（晴天時用）1 基	（雨天時用）　基
第1揚水ポンプ	（晴天時用）1 台	（雨天時用）4 台
前エアレーションタンク	（晴天時用）　池	（雨天時用）　池
最初沈澱池	（晴天時用）1 池	（雨天時用）　池
2階タンク	（晴天時用）　池	（雨天時用）　池
第2揚水ポンプ	（汚水用）　台	（雨天時用）
エアレーションタング	（高級処理用）　池	（中級処理用）　池
散水沪床	（高速用）2 池	（標準用）　池
高速エアレーション沈澱池	（製造会社，商品名・型式）　（数量）　台	
最後沈澱池	（活性汚泥用）　池	（散水炉床用）1 池
滅菌池	（晴天時用）　池	（晴雨天時兼用）1 池

⑧ フローシート



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭和 33	昭和 36	昭和 37 7 13	1 池	21.2 m	- m	3.00 m	670 m²	2.009 m³	917 m	2.009 m³/日	5.8 m³	油圧型 スクリュー	30.6 m/分	水圧による自然流下
2															
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1				池	m	m	m	m³	m³/日	m³/日						
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日			倍	
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1	昭和 34.35	昭和 36	昭和 37 7 13	1 池	25.80 m	m	1.80 m	523 m²	941.4 m³	8,000 m³/日	m³/日	1.2 kg/m³/日	15.4 m³/m²/日	50～60 mm 100～150 m	80 孔
2	昭和 36.37	昭和 37	昭和 37 7 13	1	25.80		1.80	523	941.4	8,000		1.2	15.4	〃	80
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭和 34	昭和 36	昭和 37 7 13	1 池	21.2 m	m	3.00 m	670 m²	2.009 m³	917 m	2.009 m³/日	5.8 m³	油圧型 スクリュー	30.6 m/分	水圧による自然流下
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名　一級河川乙川

その渇水量および平水量　0.7 m³/sec　2.9 m³/sec
放流位置　岡崎市八帖町字立鳴地先
処理水放流前の河川水のBOD

一宮 都市 東部 下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理)

〃 (第2次処理) 昭和34年度

② 共用開始年月日(第1次処理)

③ 〃 (第2次処理) 昭和35年11月26日

④ 下水排除方式 (合流式) 分流式

⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	m³/日	m³/日	m³/日	m³/日	27,390 m³/日	28,500 m³/日
第2次処理	30,314	39,000	45,120	48,000	31,000	48,000

⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

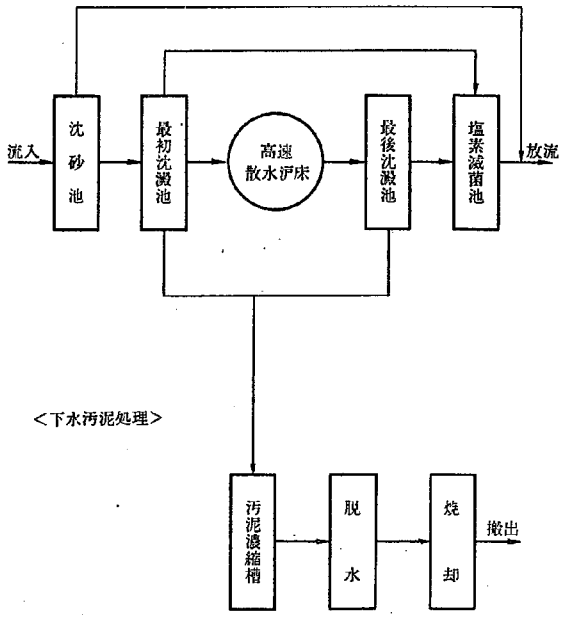
処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
184.3 ha	219 ha	29,000 人	19,300 人	36,000 人	1,000 m³/日	3,000 m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用) 1 池	(雨天時用) 1 池
スクリーン	(晴天時用) 1 基	(雨天時用) 1 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 6 台	(雨天時用) 3 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
最初沈澱池	(晴天時用) 1 池	(雨天時用) 1 池
2階タンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 4 台	(雨天時用)
エアレーションタンク	(高級処理用) 池	(中級処理用) 池
散水沪床	(高速用) 3 池	(標準用) 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式)	(数量) 台
最後沈澱池	(活性汚泥用) 池	(散水炉床用) 3 池
滅菌池	(晴天時用) 池	(晴雨天時兼用) 1 池

⑧ フローシート

<第1次および第2次処理>



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭34.	昭35.	昭35.11.26	1 池	35 m	20 m	3.2 m	700 m²	2,240 m³	20 m	38,250 m³/日	56 m³	ミアー式フラリフライヤー	1.2 r/分	ライマーによる差圧排泥
2	36	40	41.4.1	1	35	20	3.2	700	2,240	20	38,250	56	〃	〃	〃
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械撹拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1				池	m	m	m	m³	m³/日	m³/日						
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	撹拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日			倍	
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1	昭34.	昭35	35.11.26	1 池	φ25 m	m	1.5 m	490 m²	735 m³	11,000 m³/日	0 m³/日	1.2 kg/m³/日	22.4 m³/m²/日	60~80 mm	120 穴
2	36.	36	37.4.1	1	〃		〃	〃	〃	〃	0	〃	〃	〃	〃
3	42.	42	43.4.1	1	φ28		1.5	615	925	15,000	0	1.2	22.4	60~80	186

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭34.	昭35.	35.11.26	1 池	φ22 m	m	3.5 m	380 m²	1,330 m³	69 m	11,000 m³/日	2.6 m³	中央駆動式フラリフライヤー	1/60 RPH	ライマーによる差圧排泥
2	36.	36.	37.4.1	1	〃		〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
3	42.	42.	43.4.1	1	φ25		3.5	490	1,710	79	15,000	3.0	〃	〃	〃
4															
5															

⑩ 処理水放流先

放流河川名 2級河川 青木川

その渇水量および平水量 渇水量 450,000 m³/日 平水量 650,000 m³/日

放流位置 一宮市丹陽町三ッ井字下平 384番地先

処理水放流前の河川水のBOD 9 PPM.

一宮都市 西部終末 下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理) 昭和37年10月24日
〃 (第2次処理)
② 共用開始年月日(第1次処理) 昭和39年2月1日
③ 〃 (第2次処理)
④ 下水排除方式 (合流式) 分流式
⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	27283 m³/日	47,000 m³/日	37,540 m³/日	68,000 m³/日	48,152 m³/日	103,000 m³/日
第2次処理						

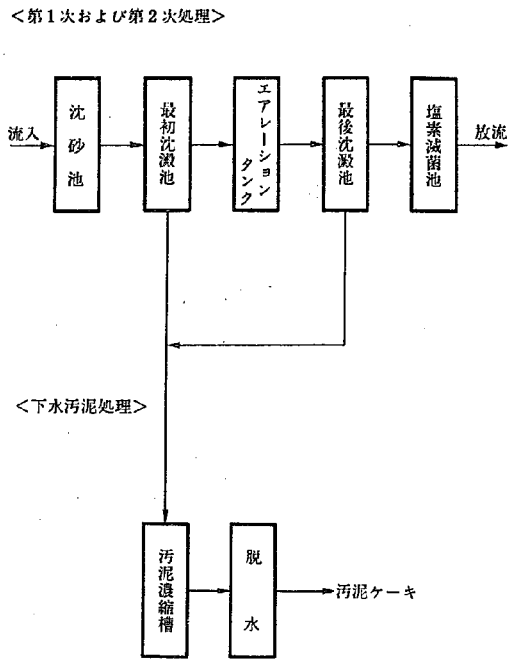
⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
216 ha	260 ha	32,000 人	18,400 人	44,000 人	22 m³/日	45 m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用) 1 池	(雨天時用) 池
スクリーン	(晴天時用) 1 基	(雨天時用) 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 3 台	(雨天時用) 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
最初沈澱池	(晴天時用) 3 池	(雨天時用) 池
2階タンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 台	(雨天時用)
エアレーションタンク	(高級処理用) 池	(中級処理用) 池
散水沪床	(高速用) 池	(標準用) 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式) (数量) 台	
最後沈澱池	(活性汚泥用) 池	(散水炉床用) 池
滅菌池	(晴天時) 1 池	(晴雨天時兼用) 池

⑧ フローシート



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭37	昭38	昭39.2.1	1 池	9.25 m	m	3.5 m	490 m²	1,710 m³	79 m	23,000 m³/日	2.6 m³	ウエルポイント式	1/40 rpm	ダイヤフラムポンプ自動排泥
2	37	39	40.4.1	1	〃		〃	〃	〃	〃	23,000	2.6	〃	〃	〃
3	42	42	43.4.1	1	9.28		3.5	620	2,170	88	24,000	3.0	〃	〃	〃
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1				池	m	m	m	m³	m³/日	m³/日						
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日			倍	
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	mm	個
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1				池	m	m	m	m²	m³	m	m³/日	m³			
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名 日光川

その湧水量および平水量 湧水量 100,000 m³/日 平水量 400,000 m³/日
放流位置 一宮市萩原町花井方字西川新田10番地
処理水放流前の河川水のBOD 68 PPM

愛知県　幡豆郡　知立町　牛田　下水処理場

① 工事着手年度（第1次処理）　昭和60年4月1日
〃　（第2次処理）　〃
② 共用開始年月日（第1次処理）　昭和61年10月1日
③ 〃　（第2次処理）　〃
④ 下水排除方式　合流式　（分流式）

⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	1,178 m³/日	2,300 m³/日	1,798 m³/日	3,300 m³/日	1,798 m³/日	3,300 m³/日
第2次処理	〃	〃	〃	〃	〃	〃

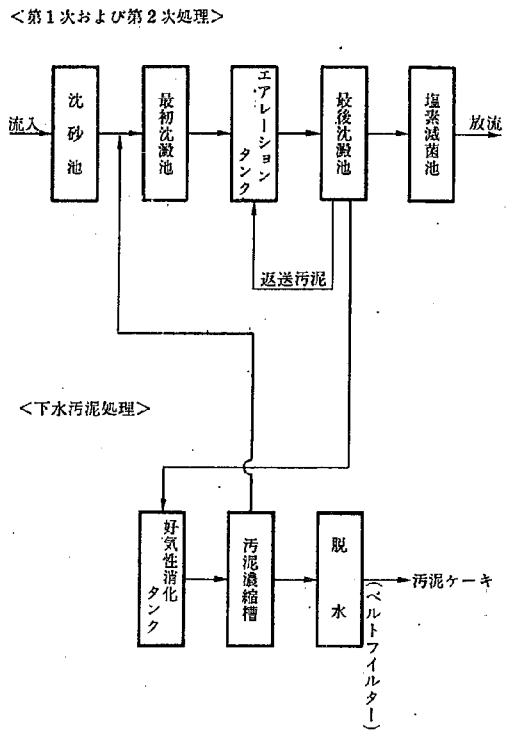
⑥ 処理面積，処理人口，産業排水量

処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
54 ha	54 ha	8,018 人	8,018 人	10,000 人	m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	（晴天時用）　2 池	（雨天時用）　池
スクリーン	（晴天時用）　2 基	（雨天時用）　基
第1揚水ポンプ	（晴天時用）　3 台	（雨天時用）　台
前エアレーションタンク	（晴天時用）　池	（雨天時用）　池
最初沈澱池	（晴天時用）（特殊型）　池	（雨天時用）　池
2階タンク	（晴天時用）　池	（雨天時用）　池
第2揚水ポンプ	（汚水用）　台	（雨天時用）
エアレーションタンク	（高級処理用）　池	（中級処理用）　2 池
散水沪床	（高速用）　池	（標準用）　池
高速エアレーション沈澱池	（製造会社，商品名・型式）　（数量）　台	
最後沈澱池	（活性汚泥用）　2 池	（散水炉床用）　池
滅菌池	（晴天時用）　1 池	（晴雨天時兼用）　池

⑧ フローシート



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1				池	m	m	m	m²	m³	m	m³/日	m³			
2															
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1	昭 41.3.31.	41.3.31.	41.10.1	2 池	10.00 m	10.00 m	4.50 m	1,650 m³	412.50 m³/日	m³/日				シフトレックス式	2基	ヨーコン70型
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日			倍	
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	m	個
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭 41.3.31.	41.3.31	41.10.1	2 池	14.00 m	4.00 m	2.60 m	56.00 m²	146.60 m³	22.50 m	1650 m³/日	600 m³	リンクベルト式	0.3～0.6m/分	手動引抜弁
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名　一級河川 天竹川水系　二級河川 猿渡川

その渇水量および平水量　渇水量　m³/s
放流位置　愛知県碧海郡知立町大字牛田字カト田33番地の1地先
処理水放流前の河川水のBOD

春日井 都市 高蔵寺終末　下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理)　昭和39年度
〃　(第2次処理)
② 共用開始年月日(第1次処理)　昭和43年5月18日
③ 〃　(第2次処理)
④ 下水排除方式　合流式　(分流式)
⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	771 m³/日	27,250 m³/日	887 m³/日	36,630 m³/日	m³/日	m³/日
第2次処理						

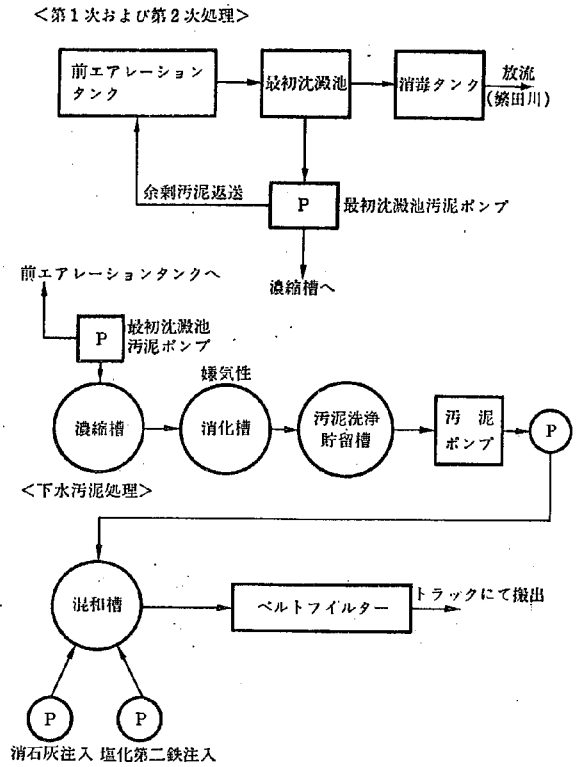
⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
97.35 ha	702 ha	4,030 人	4,030 人	68,000 人	0 m³/日	0 m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用) 3 池	(雨天時用) 池
スクリーン	(晴天時用) 2 基	(雨天時用) 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 2 台	(雨天時用) 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) 1 池	(雨天時用) 池
最初沈澱池	(晴天時用) 1 池	(雨天時用) 池
2階タンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 台	(雨天時用)
エアレーションタンク	(高級処理用) 池	(中級処理用) 池
散水沪床	(高速用) 池	(標準用) 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式)	(数量) 台
最後沈澱池	(活性汚泥用) 池	(散水炉床用) 池
滅菌池	(晴天時用) 1 池	(晴雨天時兼用) 池

⑧ フローシート



⑨ 各施設の主要諸元

前エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	1池当りの寸法 幅	1池当りの寸法 有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理水量 下水流入量	1池当り計画処理水量 返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	散気式の場合 個数	散気式の場合 計画下水量に対する空気吹込倍率	機械撹拌式の場合 装置の種類	機械撹拌式の場合 個数	機械撹拌式の場合 規格寸法
1	昭40年度	昭42年度	43.5.18	1 池	55 m	450 m	3.00 m	716 m³	36,630 m³/日	m³/日	スワイプ デイフューザー	120				
2																
3																

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	1池当りの寸法 幅	1池当りの寸法 有効水深	1池当り 有効水面積	1池当り 有効容量	1池当り 堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥 集泥機の速度	排泥方法
1	昭40年度	昭42年度	43.5.18	1 池	24 m	8 m	2.5 m	192 m²	480 m³	40 m	7326 m³/日	20 m³	リンクベルト	0.65/mm	溢流
2															
3															
4															
5															

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	1池当り寸法 幅	1池当り寸法 有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部1池当り 沈澱部 水面積	沈澱部1池当り 堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	エアレーション部1池当り 個数	エアレーション部1池当り 計画下水量に対する空気吹込倍率	エアレーション部1池当り 撹拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m²	m	m³/日			倍	
2															

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	1池当り寸法 幅	1池当り寸法 沪材深	1池当り 有効沪過面積	1池当り 沪材総容量	計画処理量 下水量	計画処理量 返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	mm	個
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	1池当りの寸法 幅	1池当りの寸法 有効水深	1池当り 有効水面積	1池当り 有効容量	1池当り 堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥 集泥機の速度	排泥方法
1				池	m	m	m	m²	m³	m	m³/日	m³			
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名　二級河川庄内川水系、二級河川繁田川

その湧水量および平水量　資料なきため不明
放流位置　愛知県春日井市気噴町荒子地内
処理水放流前の河川水のBOD　5.2 ppm

津島市 郡 市 津島	下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理)　昭和36年度.

〃　(第2次処理)

② 共用開始年月日(第1次処理)　昭和39年12月1日

③ 〃　(第2次処理)

④ 下水排除方式　(合流式)　分流式

⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量		晴天時1日最大処理量		雨天時最大処理量	
	現在	計画	現在	計画	現在	計画
第1次処理	17,896 m³/日	23,204 m³/日	18,498 m³/日	26,720 m³/日	42,650 m³/日	73,304 m³/日
第2次処理						

⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

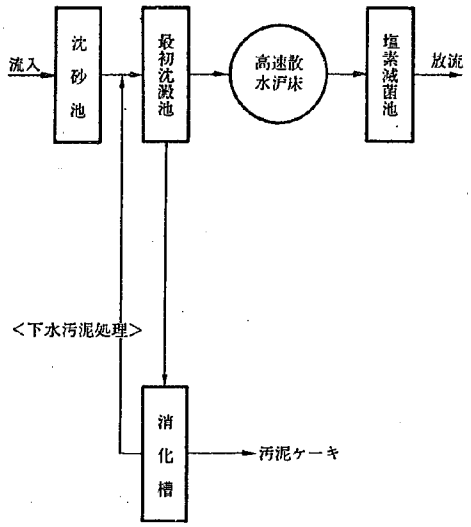
処理面積		処理人口			産業排水量	
現在	計画	現在排水人口	水洗便所使用人口	計画処理人口	現在	計画
67 ha	128.86 ha	4,600 人	350 人	58,600 人	1,048 m³/日	1,000 m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用)　1 池	(雨天時用)　池
スクリーン	(晴天時用)　2 基	(雨天時用)　基
第1揚水ポンプ	(晴天時用)　2 台	(雨天時用)　1 台
前エアレーションタンク	(晴天時用)　池	(雨天時用)　池
最初沈澱池	(晴天時用)　1 池	(雨天時用)　池
2階タンク	(晴天時用)　池	(雨天時用)　池
第2揚水ポンプ	(汚水用)　台	(雨天時用)
エアレーションタンク	(高級処理用)　池	(中級処理用)　池
散水沪床	(高速用)　1 池	(標準用)　池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式)　(数量)　台	
最後沈澱池	(活性汚泥用)　池	(散水沪床用)　池
滅菌池	(晴天時用)　1 池	(晴雨天時兼用)　池

⑧ フローシート

<第1次および第2次処理>



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭36年度	昭36年度	昭39.12.1	1 池	23φ m	m	2.5 m	407.25 m²	1,018.13 m³	72.26 m	12,216 m³/日	169.1 m³	掻寄	0.6 m/min	
2															
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1				池	m	m	m	m³	m³/日	m³/日						
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日			倍	
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1	昭36年度	昭36年度	昭39.12.1.	1 池	23φ m	m	1.8 m	1,629 m²	2,932 m³	29,435 m³/日	m³/日	0.859 kg/m³/日	15 m³/m²/日	50~60 mm	96 個
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1				池	m	m	m	m²	m³	m	m³/日	m³			
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先

放流河川名　日光川　2級河川

その渇水量および平水量

放流位置　津島市越津町字新田 1641の1番地地先.

処理水放流前の河川水のBOD

四日市 都市 日永 下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理) 昭和39年度
〃 (第2次処理) 昭和36年度
② 共用開始年月日(第1次処理) 昭和41年7月20日
③ 〃 (第2次処理) 〃
④ 下水排除方式 (合流式) 分流式

⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	11,145 m³/日	11,145 m³/日	13,280 m³/日	13,280 m³/日	33,965 m³/日	33,965 m³/日
第2次処理	〃	〃	〃	〃	〃	〃

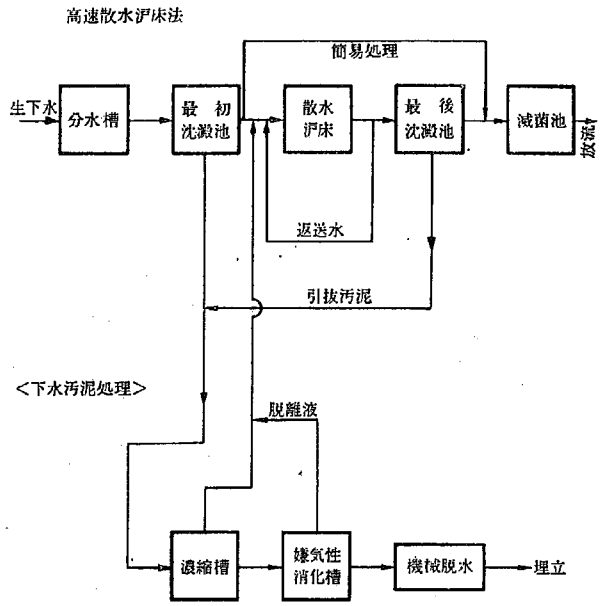
⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
281.0 ha	183.8 ha	26,160 人	4,730 人	53,120 人	m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
スクリーン	(晴天時用) 基	(雨天時用) 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 台	(雨天時用) 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
最初沈澱池	(晴天時用) 1 池	(雨天時用) 池
2階タンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 台	(雨天時用)
エアレーションタンク	(高級処理用) 池	(中級処理用) 池
散水沪床	(高速用) 2 池	(標準用) 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式)	(数量) 台
最後沈澱池	(活性汚泥用) 池	(散水炉床用) 1 池
滅菌池	(晴天時用) 池	(晴雨天時兼用) 1 池

⑧ フローシート



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭39.	昭39.	41.7.20	1 池	22 m	m	2.4 m	380.0 m²	912.0 m³	69.0 m	11,145 m³/日	193.2 m³	駆動駆動式	0.03 r.p.m	水位差
2															
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1				池	m	m	m	m³	m³/日	m³/日						
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日			倍	
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1	昭36.	昭38	41.7.20	1 池	22.0 m	m	1.8 m	380.0 m²	684.0 m³	4,578 m³/日	4,673 m³/日	1.27 kg/m³/日	19 m³/m²/日	60 mm	120 個
2	〃	〃	〃	1	〃		〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭40.	昭40.	41.7.20	1 池	22 m	m	2.4 m	380.0 m²	912.0 m³	69.0 m	11,145 m³/日	193.2 m³	駆動駆動式	0.03 rpm	水位差
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名 2級河川天白川 水系鹿化川

その渇水量および平水量
放流位置 四日市市大字日永字北浜 473番地先
処理水放流前の河川水のBOD 5.8 mg/l

四日市市 高花平 下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理) 昭和 36年度
〃 (第2次処理) 〃
② 共用開始年月日(第1次処理) 昭和 37年4月1日
③ 〃 (第2次処理) 〃 37年4月1日
④ 下水排除方式 合流式 分流式

⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量		晴天時1日最大処理量		雨天時最大処理量	
	現在	計画	現在	計画	現在	計画
第1次処理	1,800 m³/日	1,800 m³/日	2,240 m³/日	2,240 m³/日	m³/日	m³/日
第2次処理	1,800	1,800	2,240	2,240		

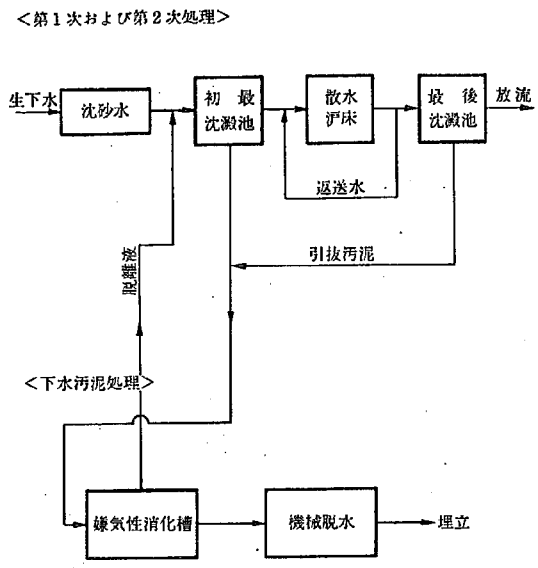
⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

処理面積		処理人口			産業排水量	
現在	計画	現在排水人口	水洗便所使用人口	計画処理人口	現在	計画
22.3 ha	33.3 ha	4,380 人	4,380 人	6,000 人	m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用) 2 池	(雨天時用) 池
スクリーン	(晴天時用) 2 基	(雨天時用) 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 台	(雨天時用) 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
最初沈澱池	(晴天時用) 2 池	(雨天時用) 池
2階タンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 台	(雨天時用)
エアレーションタンク	(高級処理用) 池	(中級処理用) 池
散水沪床	(高速用) 1 池	(標準用) 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式)	(数量) 台
最後沈澱池	(活性汚泥用) 池	(散水炉床用) 2 池
滅菌池	(晴天時用) 池	(晴雨天時兼用) 池

⑧ フローシート



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭36	昭36	昭37.4.1	2 池	4.4 m	4.4 m	2.0 m	30.24 m²	60.4 m³	22.0 m	900 m³/日	40.4 m³	トントレント		水位差
2															
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械撹拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1				池	m	m	m	m³	m³/日	m³/日						
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	撹拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m²	m²	m	m³/日			倍	
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1	昭36	昭36	昭37.4.1	1 池	10 m	m	1.8 m	78.5 m²	141.3 m³	1,800 m³/日	m³/日	1.1 kg/m³/日	24 m³/m²/日	40 mm	440 孔
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭36	昭36	昭37.4.1	1 池	4.4 m	4.4 m	2.0 m	30.25 m²	60.4 m³	22.0 m	900 m³/日	40.4 m³	トントレント		水位差
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名 農業排水路稲田川
(下流二級河川天白川水系天白川)

その渇水量および平水量
放流位置 四日市市八王子町字南野 1889の2番地先
処理水放流前の河川水のBOD 0.8 mg/l

四日市 都市 朝明 下水処理場	
① 工事着手年度(第1次処理)	昭和60年度
〃 (第2次処理)	昭和00年度
② 共用開始年月日(第1次処理)	昭和41年5月1日
③ 〃 (第2次処理)	昭和41年5月1日
④ 下水排除方式	合流式 (分流式)

⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量		晴天時1日最大処理量		雨天時最大処理量	
	現在	計画	現在	計画	現在	計画
第1次処理	1,460 m³/日	1,460 m³/日	2,160 m³/日	2,160 m³/日	m³/日	m³/日
第2次処理	〃	〃	〃	〃		

⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

処理面積		処理人口			産業排水量	
現在	計画	現在排水人口	水洗便所使用人口	計画処理人口	現在	計画
42.3 ha	42.3 ha	1,290 人	1,290 人	6,000 人	m³/日	m³/日

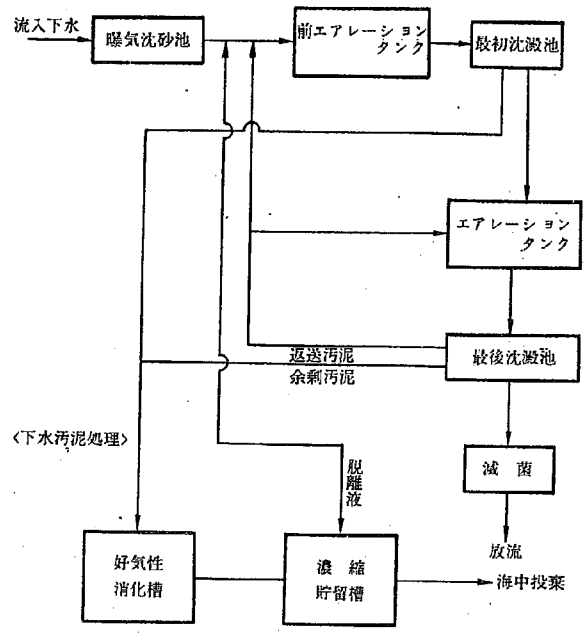
⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用) 1 池	(雨天時用) 池
スクリーン	(晴天時用) 2 基	(雨天時用) 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 台	(雨天時用) 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) 1 池	(雨天時用) 池
最初沈澱池	(晴天時用) 1 池	(雨天時用) 池
2階タンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 台	(雨天時用)
エアレーションタンク	(高級処理用) 1 池	(中級処理用) 池
散水沪床	(高速用) 池	(標準用) 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式)	(数量) 台
最後沈澱池	(活性汚泥用) 1 池	(散水沪床用) 池
滅菌池	(晴天時用) 1 池	(晴雨天時兼用) 池

⑧ フローシート

<第1次および第2次処理>

活性汚泥ステップエアレーション法



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1				池	m	m	m	m²	m³	m	m³/日	m³			
2															
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1				池	m	m	m	m³	m³/日	m³/日						
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日			%	
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1				基	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	mm	個
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭33.	昭34.	36.10.26	1 池	40.0 m	20.0 m	3.0 m	800 m²	2,400 m³	132 m	40,000 m³/日	480 m³	走行型 [illegible]	2 m/min	サイフォン
2	37.	38.	38.7.22	1	〃	〃	〃	〃	〃	160	〃	368	〃	〃	〃
3	38.	39.	40.4.1	1	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
4	40.	42.	41.4.1	1	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
5															

⑩ 処理水放流先

放流河川名　朝明川(現在河川の役目はなく河口部一部を残して入江として存在する.)

その渇水量および平水量

放流位置　河口より約600m

処理水放流前の河川水のBOD　約200 p.p.m (潮の干満によって停滞している感潮水域の水)

福知山市　福知山　下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理)　昭和37年度
〃　(第2次処理)　〃　40　〃
② 共用開始年月日(第1次処理)　〃　42年4月1日
③　〃　(第2次処理)　〃　〃
④ 下水排除方式　合流式　分流式

⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量		晴天時1日最大処理量		雨天時最大処理量	
	現在	計画	現在	計画	現在	計画
第1次処理	7,240 m³/日	6,300 m³/日	18,380 m³/日	9,000 m³/日	7,240 m³/日	18,800 m³/日
第2次処理	7,200	6,300	7,200	6,300	7,200	6,300

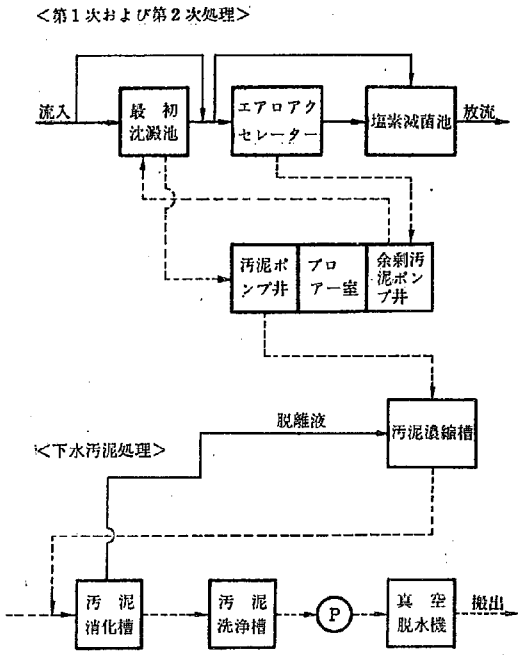
⑥ 処理面積，処理人口，産業排水量

処理面積		処理人口			産業排水量	
現在	計画	現在排水人口	水洗便所使用人口	計画処理人口	現在	計画
6.6 ha	124 ha	8,000 人	900 人	20,500 人	m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用)　2 池	(雨天時用)　3 池
スクリーン	(晴天時用)　2 基	(雨天時用)　3 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用)　1 台	(雨天時用)　4 台
前エアレーションタンク	(晴天時用)　池	(雨天時用)　池
最初沈澱池	(晴天時用)　池	(雨天時用)　池
2階タンク	(晴天時用)　池	(雨天時用)　池
第2揚水ポンプ	(汚水用)　台	(雨天時用)
エアレーションタンク	(高級処理用)　池	(中級処理用)　池
散水沪床	(高速用)　池	(標準用)　池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社，商品名・型式 [illegible] (数量) 1 台	
最後沈澱池	(活性汚泥用)　池	(散水炉床用)　池
滅菌池	(晴天時用)　1 池	(晴雨天時兼用)　池

⑧ フローシート



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭40	昭40	昭42.4.1	1	径14.0 m	2.6 m	3.0 m	44 m²	m²	m	6,300 m³/日	m³	フライトバケット	1.75 m/分	自動排泥式 (ポンプ吸出し)
2															
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械撹拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1				池	m	m	m	m³	m³/日	m³/日						
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	撹拌機の有無
1	昭40	昭41	昭42.4.1	1 池	径17.4 m	m	4.2 m	807 m³	30 m³	235 m²	44.6 m	6,300 m³/日		1	2.4 倍	有
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	m	個
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1				池	m	m	m	m²	m³	m	m³/日	m³			
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名　由良川支流和久川 枝川 弘法川

その渇水量および平水量　渇水量 0.218 m³/s　平水量 0.638 m³/sec
放流位置　福知山市荒河小字野尻 121 番地
処理水放流前の河川水のBOD　16.0 PPM

岸和田 都市	磯の上	下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理) 昭和35年度
〃 (第2次処理) 昭和35年度
② 共用開始年月日(第1次処理)
③ 〃 (第2次処理)
④ 下水排除方式 合流式 分流式
⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量		晴天時1日最大処理量		雨天時最大処理量	
	現在	計画	現在	計画	現在	計画
第1次処理	10,000 m³/日	38,500 m³/日	12,000 m³/日	53,900 m³/日	15,000 m³/日	147,000 m³/日
第2次処理	10,000	38,500	12,000	53,900	15,000	147,000

⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

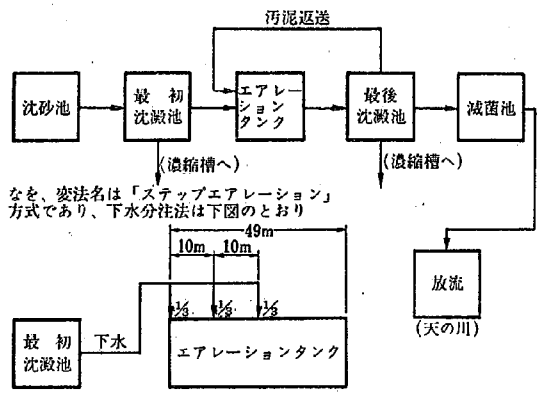
処理面積		処理人口				産業排水量	
現在	計画	現在排水人口	水洗便所使用人口	計画処理人口		現在	計画
1342 ha	4545 ha	20,000 人	人	75,000 人		m³/日	17935 m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

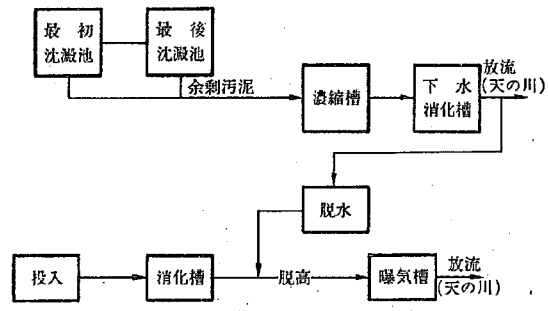
沈砂池	(晴天時用) 4 池	(雨天時用) 2 池
スクリーン	(晴天時用) 2 基	(雨天時用) 2 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 2 台	(雨天時用) 2 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
最初沈澱池	(晴天時用) 4 池	(雨天時用) 池
2階タンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 台	(雨天時用)
エアレーションタング	(高級処理用) 2 池	(中級処理用) 池
散水沪床	(高速用) 池	(標準用) 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式)	(数量) 台
最後沈澱池	(活性汚泥用) 2 池	(散水炉床用) 池
滅菌池	(晴天時用) 池	(晴雨天時兼用) 池

⑧ フローシート

<第1次および第2次処理>



<下水汚泥処理>



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭 39			2 池	30 m	5 m	3 m	150 m²	450 m³	26 m	481 m³/日	31 m³	かき寄せ	0.6 m/分	引き抜き
2	〃 40			2	30	5	3	150	450	26	481	31			
3		昭 41													
4		〃 42													
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械撹拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1	昭 40			1 池	47 m	8.5 m	4.5 m	220.5 m³	9,570 m³/日	2,853 m³/日	旋回流式	134	4.9			
2		昭 41														
3	〃 42	〃 42		1	47	8.5	4.5	220.5	9,510	2,853	〃	〃	〃			

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部 沈澱部	水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	撹拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日			倍	
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	m	個
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭 39			1 池	30 m	5 m	3 m	150 m²	450 m³	30 m	9,510 m³/日	31 m³	かき寄せ	0.6 m/分	引き抜き
2	〃 40			1	30	5	3	150	450	30	9,510	31	〃	〃	〃
3		41													
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名 天の川

その混水量および平水量
放流位置 岸和田市春木町磯の上町地内
処理水放流前の河川水のBOD 35 PPM.

堺市 三宅 下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理)	昭和34年
〃 (第2次処理)	昭和37年
② 共用開始年月日(第1次処理)	昭和40年3月5日
③ 〃 (第2次処理)	昭和40年3月5日
④ 下水排除方式	(合流式) 分流式

⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量		晴天時1日最大処理量		雨天時最大処理量	
	現在	計画	現在	計画	現在	計画
第1次処理	77,900 m³/日	77,900 m³/日	101,900 m³/日	101,900 m³/日	233,700 m³/日	233,700 m³/日
第2次処理	51,940	77,900	64,403	101,900	155,820	233,700

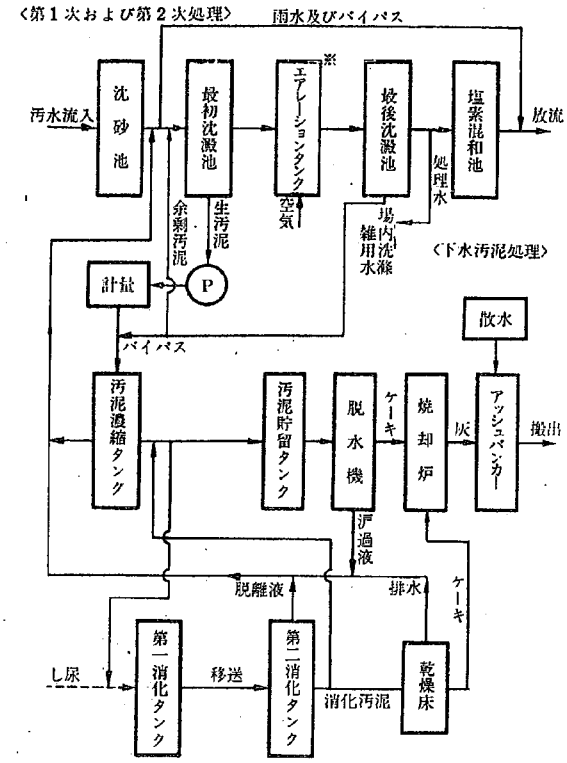
⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

処理面積		処理人口			産業排水量	
現在	計画	現在排水人口	水洗便所使用人口	計画処理人口	現在	計画
311.0 ha	738.3 ha	55,000 人	12,000 人	200,000 人	m³/日	23,700 m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用) 2 池	(雨天時用) 池
スクリーン	(晴天時用) 2 基	(雨天時用) 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 4 台	(雨天時用) 2 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
最初沈澱池	(晴天時用) 6 池	(雨天時用) 池
2階タンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 台	(雨天時用)
エアレーションタング	(高級処理用) 4 池	(中級処理用) 池
散水沪床	(高速用) 池	(標準用) 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式)	(数量) 台
最後沈澱池	(活性汚泥用) 4 池	(散水炉床用) 池
滅菌池	(晴天時用) 池	(晴雨天時兼用) 1 池

⑧ フローシート



活性汚泥法（ステップエアーレション）
※一次処理水¼Qを50m毎に流入

⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭35	昭35	昭40.3.5	2 池	長33 m × 2水路	4.00 m	3.00 m	264 m²	792 m³	69.6 m	12,980 m³/日	13.48 m³	リンクベルト式	約0.3～1.2 m/分	水頭排泥
2	〃40	〃40	40.12.1	4	長33 × 2水路	4.00	3.00	〃	〃	66.2	〃	13.88	〃	〃	〃
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1	昭38	昭38	昭40.3.5	2 池	長50 × 4列 m	4.00 m	4.00 m	3200 m³	12,980 m³/日	3,245 m³/日	散気管	一池当り 200	20 倍			
2	昭40	〃40	40.10.1	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃		
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日			倍	
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	mm	穴
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭37	昭37	昭40.3.5	2 池	長33 × 4水路 m	4.00 m	3.10 m	528 m²	1,636 m³	139.2 m	12,980 m³/日	55.7 m³	リンクベルト式	約0.3～1.2 m/分	水頭排泥
2	40	40	40.10.1	2	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先

放流河川名 一級河川 大和川

その渇水量および平水量

放流位置 大和川河口左岸（堺市松屋大和川通4丁地先）

処理水放流前の河川水のBOD

堺市　津久野下水処理場

① 工事着手年度（第1次処理）昭和35年度
〃（第2次処理）〃
② 共用開始年月日（第1次処理）昭和37年8月31日
③ 〃（第2次処理）〃
④ 下水排除方式　一部合流式　分流式
⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	1.475 m³/日	1.475 m³/日	2.112 m³/日	2.112 m³/日	0.062 m³/日	0.062 m³/日
第2次処理	1.478	1.478	2.112	2.112	0.062	1.062

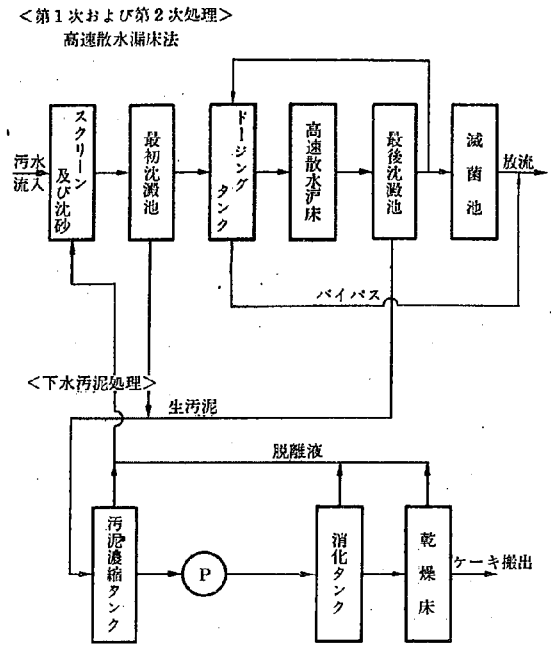
⑥ 処理面積，処理人口，産業排水量

処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
71.0 ha	71.0 ha	11,000 人	11,000 人	12,800 人	m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	（晴天時用）1 池	（雨天時用）　池
スクリーン	（晴天時用）1 基	（雨天時用）　基
第1揚水ポンプ	（晴天時用）4 台	（雨天時用）　台
前エアレーションタンク	（晴天時用）　池	（雨天時用）　池
最初沈澱池	（晴天時用）2 池	（雨天時用）　池
2階タンク	（晴天時用）　池	（雨天時用）　池
第2揚水ポンプ	（汚水用）　台	（雨天時用）
エアレーションタンク	（高級処理用）　池	（中級処理用）　池
散水沪床	（高速用）2 池	（標準用）　池
高速エアレーション沈澱池	（製造会社，商品名・型式）　（数量）　台	
最後沈澱池	（活性汚泥用）　池	（散水炉床用）2 池
滅菌池	（晴天時用）1 池	（晴雨天時兼用）　池

⑧ フローシート



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭35年度	昭35年度	昭37.8.31	2 池	10.0 m	3.00 m	2.00 m	30 m²	60 m³	10.7 m	737 m³/日	3.08 m³	リンクベルト	30 cm/sec	水頭排泥
2															
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械撹拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1				池	m	m	m	m³	m³/日	m³/日						
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	撹拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m²	m²	m	m³/日			%	
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1	昭35年度	昭35年度	昭37.8.31	1 池	φ8.00 m	m	1.8 m	40 m²	60 m³	737 m³/日	317 m³/日	1.2 kg/m³/日	11 m³/m²/日	50～100 mm	38 個
2	〃36	〃36	〃	1	〃		〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭35年度	昭35年度	昭37.8.31	1 池	4.00 m	4.00 m	2.00 m	2.400 m²	4.8 m³	8.0 m	737 m³/日	14.7 m³			水頭排泥
2	〃36	〃36	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃			〃
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名　二級河川　石津川

その渇水量および平水量　平水量 0.87 m³/sec
放流位置　堺市津久野町3丁目773番地先
処理水放流前の河川水のBOD　2.0 PPM

川口 市 建設部下水道課 下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理) 昭和 34 年
〃 (第2次処理) 〃 34 年
② 共用開始年月日(第1次処理) 〃 41 年 4 月 1 日
③ 〃 (第2次処理) 〃 41 年 4 月 1 日
④ 下水排除方式 合流式 分流式

⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	25,100 m³/日	25,100 m³/日	38,700 m³/日	38,700 m³/日	15,000 m³/日	77,800 m³/日
第2次処理	25,900	25,900	25,900	25,900	25,900	77,800

⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

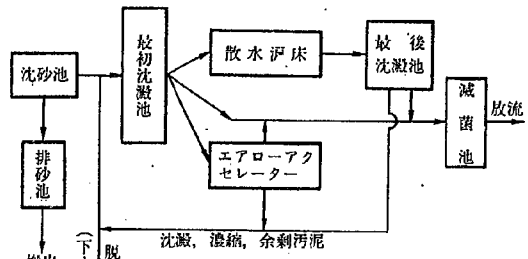
処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
232 ha	232 ha	70,000 人	7,000 人	70,000 人	m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

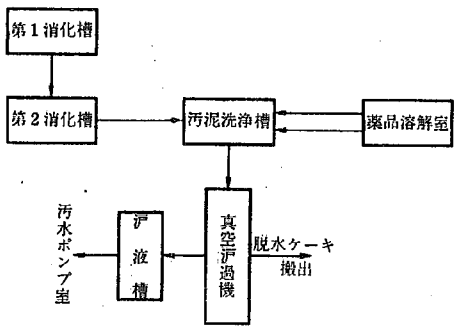
沈砂池	(晴天時用) 1 池	(雨天時用) 池
スクリーン	(晴天時用) 2 基	(雨天時用) 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 2 台	(雨天時用) 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
最初沈澱池 円形放射流型	(晴天時用) 2 池	(雨天時用) 池
2階タンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 3 台	(雨天時用)
エアレーションタンク	(高級処理用) 池	(中級処理用) 池
散水沪床	(高速用) 2 池	(標準用) 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式)	(数量) 2 台
最後沈澱池	(活性汚泥用) 池	(散水炉床用) 池
滅菌池	(晴天時用) 1 池	(晴雨天時兼用) 池

⑧ フローシート

<第1次および第2次処理>



<下水汚泥処理>



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭 38	昭 38	昭 41.5.1	1 池	24 m	m	2.5 m	452 m²	1130 m³	78.5 m	6,475 m³/日	m³	用途形動型汚泥掻寄機	2.545 m/min	周期排泥
2	〃 41	〃 41	〃 42.6.3	1	24		2.5	452	1130	78.5	6,475		〃	2.545 m/min	〃
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1				池	m	m	m	m³	m³/日	m³/日						
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
1	昭 40	昭 40	昭 41.5.1	1 池	17 m	m	5.5	6.20 m³	262 m²	127 m	53.38 m	6,475 m³/日			2.66 倍	有
2	〃 41	〃 41	〃 42.6.3	1	17		5.5	6.20	262	127	53.38	6,475			2.66	有

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1	昭 38	昭 38	昭 39.1.20	1 池	20 m	m	1.8 m	314 m²	565.2 m³	6,475 m³/日	m³/日	kg/m³/日	21 m³/m²/日	75 mm	312 箇
2	〃 41	〃 41	〃 42.6.3	1	20		1.8	314	565.2	6,475		1.2	21	75	312
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭 40	昭 40	昭 41.5.1	1 池	24 m	m	2.5 m	452 m²	1,130 m³	78.5 m	12,950 m³/日	m³	用途形動型汚泥掻寄機	2.545 m/min	自動排泥
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名 西三荘排水路

その湧水量および平水量 1 m³/s 5 m³/s
放流位置 川口市南平方東通1丁目101番地先
処理水放流前の河川水のBOD 87.25 ppm

枚方市香里 下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理) 昭和32年6月
〃 (第2次処理) 〃
② 共用開始年月日(第1次処理) 昭和33年11月10日
③ 〃 (第2次処理) 〃
④ 下水排除方式 合流式 分流式

⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	4,700 m³/日	6,800 m³/日	8,000 m³/日	10,000 m³/日	m³/日	m³/日
第2次処理	〃	〃	〃	〃		

⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

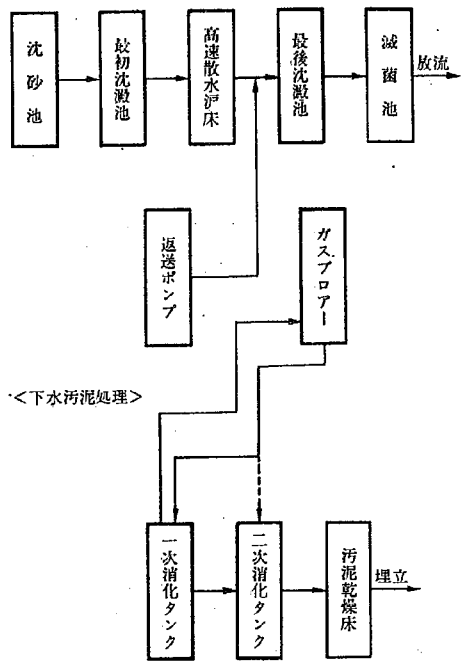
処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
44.2 ha	44.2 ha	24,400 人	24,400 人	30,000 人	m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用) 3 池	(雨天時用) 池
スクリーン	(晴天時用) 4 基	(雨天時用) 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 台	(雨天時用) 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
最初沈澱池	(晴天時用) 4 池	(雨天時用) 池
2階タンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 4 台	(雨天時用)
エアレーションタンク	(高級処理用) 池	(中級処理用) 池
散水沪床	(高速用) 8 池	(標準用) 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式) (数量) 台	
最後沈澱池	(活性汚泥用) 池	(散水炉床用) 4 池
滅菌池	(晴天時用) 1 池	(晴雨天時兼用) 池

⑧ フローシート

<第1次および第2次処理>



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭32	昭32	昭33.11.10	3 池	14 m	4 m	2.7 m	300 m²	810 m³	20 m	810 m³/日	810 m³	連続式矩形ダブルホッパー式		平行流式
2	37	37	38.4.1	1	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃		〃
3	39	39	40.4.1	1	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃		〃
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械撹拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1				池	m	m	m	m³	m³/日	m³/日						
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	撹拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m²	m²	m	m³/日			倍	
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1	昭32	昭32	昭33.11.10	2 池	11 m	m	1.8 m	416 m²	749 m³	m³/日	2328 m³/日	kg/m³/日	9.2 m³/m²/日	10～15 mm	4 φ
2	37	37	38.4.1	1	17		1.8	416	749		1728		9.2	10～15	4
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭32	昭32	昭33.11.10	1 池	7.0 m	7.0 m	1.6 m	196 m²	314 m³	28 m	470 m³/日	314 m³			平行流式
2	33	33	34.4.1	1	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃			〃
3	37	37	38.4.1	2	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃			〃
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名 藤田川(二級河川)
その渇水量および平水量 0.1 m³/日
放流位置 枚方市野 2731 番地
処理水放流前の河川水のBOD

豊中市 原田 下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理) 昭和 40年 1月 16日
〃 (第2次処理) 昭和 40年 1月 16日
② 共用開始年月日(第1次処理) 昭和 41年 4月 1日
③ 〃 (第2次処理) 昭和 41年 4月 1日
④ 下水排除方式 合流式 分流式

⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1処理	31,150 m³/日	62,300 m³/日	80,788 m³/日	80,788 m³/日	378,173 m³/日	378,173 m³/日
第2処理	31,150	62,300	31,150	62,300	31,150	62,300

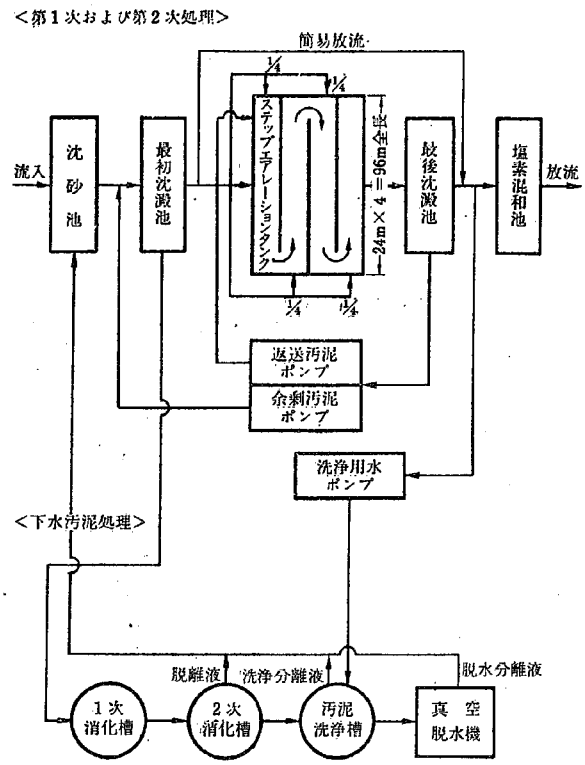
⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
740.5ha	1,200.8ha	78,200 人	54,100 人	2,110,000 人	m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用) 1池	(雨天時用) 3池
スクリーン	(晴天時用) 1基	(雨天時用) 3基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 600%/分 3台	(雨天時用) 80%/分 3台
前エアレーションタンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
最初沈澱池	(晴天時用) 2池	(雨天時用) 池
2階タンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 台	(雨天時用)
エアレーションタンク	(高級処理用) 2池	(中級処理用) 池
散水沪床	(高速用) 池	(標準用) 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式) (数量) 台	
最後沈澱池	(活性汚泥用) 2池	(散水炉床用) 池
滅菌池	(晴天時用) 池	(晴雨天時兼用) 1池

⑧ フローシート



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭40	昭40	昭41.4.1	2池	26 m	16 m	2.5 m	416 m²	1040 m³	237.6 m	15,570 m³/日	27.3 m³	リンクベルト式連続掻寄機	0.3～1.2 m/分	サイフォン
2															
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1	昭40	昭40	昭41.4.1	2池	2.40×2箇所 m	6.0 m	4.5 m	2,520 m³	15,570 m³/日	2,800 m³/日	散気板	1,008	7.8			
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日			%	
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	m	個
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭40	昭40	昭41.4.1	2池	27 m	24 m	2.5 m	6,481 m²	1,620 m³	324 m	30,152 m³/日	40.85 m³	リンクベルト式連続掻寄機	0.3～1.2 m/分	サイフォン
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名 1級河川 猪名川
その沿水量および平水量 346,000 m³/日
放流位置 猪名川 千里川合流点より上流 100 m
処理水放流前の河川水のBOD 5.5 ppm

池田市神田津園 下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理) 昭和38年4月1日
〃 (第2次処理) 〃 38年4月1日
② 共用開始年月日(第1次処理) 〃 43年6月1日
③ 〃 (第2次処理) 〃 43年6月1日
④ 下水排除方式 (合流式) 分流式
⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	6,800 m³/日	35,000 m³/日	m³/日	42,500 m³/日	21,000 m³/日	104,972 m³/日
第2次処理	6,800	35,000		42,500	10,000	69,984

⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

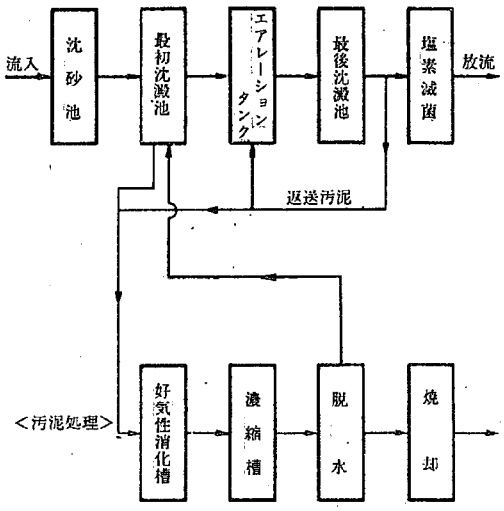
処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
1681 ha	706.6 ha	1,329 人	796 人	100,000 人	m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用) 1 池	(雨天時用) 1 池
スクリーン	(晴天時用) 晴雨天時兼用 2 基	(雨天時用) 2 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 2 台	(雨天時用) 1000φ軸流ポンプ 1 台 450φ斜流 1 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
最初沈澱池	(晴天時用) 2 池	(雨天時用) 池
2階タンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 台	(雨天時用)
エアレーションタング	(高級処理用) 2 池	(中級処理用) 池
散水沪床	(高速用) 池	(標準用) 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式)	(数量) 台
最後沈澱池	(活性汚泥用) 2 池	(散水炉床用) 池
滅菌池	(晴天時用) 池	(晴雨天時兼用) 2 池

⑧ フローシート

<第1次および第2次処理>



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭40.3.31	昭40.3.31	昭43.6.1	2 池	20 m	4.0 m	2.9 m	140 m²	435 m³	12.4 m	7,000 m³/日	m³	リンクベルト式	0.6 m/min 1.20 〃	エアーリフト
2															
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1	昭40.3.31	昭40.3.31	昭43.6.1	2 池	24 m	4.0 m	4.4 m	787.4 m³	34,992 m³/日	1,740 m³/日	サーボスパイラルチューブエアレータ	700	2.3			
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日			%	
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	m	個
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭40.3.31	昭40.3.31	昭43.6.1	2 池	IF 30.0 m 2F 28.0	4.8 m 4.8	1.8 m 1.8	144.0 m²	880.8 m³	23.5 m	8,748 m³/日	m³	リンクベルト式	0.8 m/min 0.92 m/min	エアーリフト
2														1.38 m/min	
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名 飛行場外郭水路を経て猪名川へ

その渇水量および平水量
放流位置 池田市豊島南二丁目217番地
処理水放流前の河川水のBOD 25～30 ppm

吹田市　正雀　下水処理場

① 工事着手年度（第1次処理）昭和36年度
〃　（第2次処理）昭和37年度
② 共用開始年月日（第1次処理）昭和38年8月1日
③ 〃　（第2次処理）昭和38年4月1日
④ 下水排除方式　合流式　分流式
⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	11,650 m³/日	30,535 m³/日	17,000 m³/日	38,168 m³/日	m³/日	38,168 m³/日
第2次処理	11,650	30,535	17,000	38,168		38,168

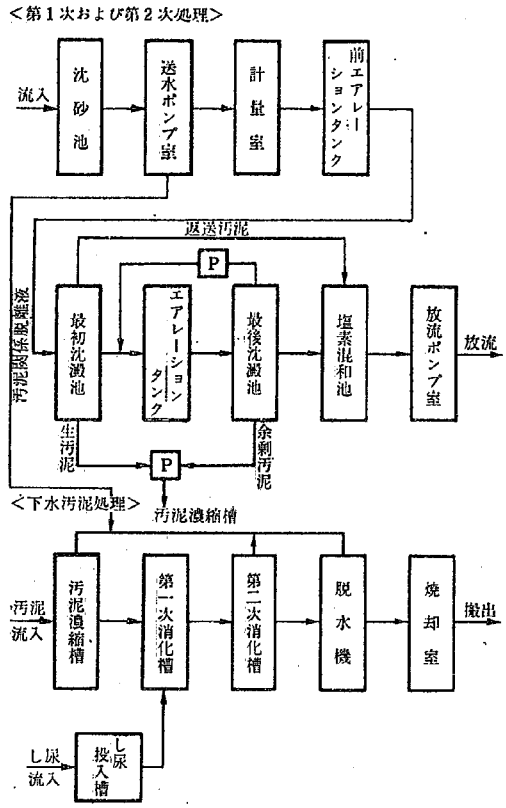
⑥ 処理面積，処理人口，産業排水量

処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
757 ha	757 ha	61,877 人	61,877 人	100,000 人	m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	（晴天時用）2 池	（雨天時用）2 池
スクリーン	（晴天時用）　基	（雨天時用）　基
第1揚水ポンプ	（晴天時用）5 台	（雨天時用）5 台
前エアレーションタンク	（晴天時用）2 池	（雨天時用）2 池
最初沈澱池	（晴天時用）6 池	（雨天時用）6 池
2階タンク	（晴天時用）　池	（雨天時用）　池
第2揚水ポンプ	（汚水用）　台	（雨天時用）
エアレーションタング	（高級処理用）2 池	（中級処理用）2 池
散水沪床	（高速用）　池	（標準用）　池
高速エアレーション沈澱池	（製造会社，商品名・型式）　（数量）　台	
最後沈澱池	（活性汚泥用）12 池	（散水炉床用）12 池
滅菌池	（晴天時用）1 池	（晴雨天時兼用）1 池

⑧ フローシート



⑨ 各施設の主要諸元

前エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1			昭38.8.1	1池	6 m	12.80 m	4.0 m	336 m³	m³/日	m³/日	スパイラルディフューザー	分岐4×2×26 2基	0.72			
2			38.4.1	1	6	〃	〃	〃			〃	〃	〃			
3																

最初沈澱池

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	汚泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1			昭38.8.1	3池	28.0 m	4.00 m	3.0 m	112 m²	336 m³	m	m³/日	m³	リンクベルト式スライド型	0.3～0.6 m/分	サイホン式
2			〃 37.4.1	3	28.0	4.00	3.0	112	336				〃	〃	〃
3															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1			昭38.4.1	2池	72.0 m	9.0 m	4.5 m	2,916 m³	27,230 m³/日	8,168 m³/日	スパイラルディフューザー	13基	5			
2																
3																
4																

散水沪床

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	m	孔
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	汚泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1			昭38.4.1	12池	24.0 m	4.1 m	3.0 m	97.2 m²	324.72 m³	3×50×0.60 21.m m	3,930 m³/日	m³	リンクベルト式スライド型	0.3～0.7 m/分	サイフォン
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名　正雀川

その河水量および平水量　ごくわずかし，50 m³/秒
放流位置　国鉄ガード下（直前）
処理水放流前の河川水のBOD 20.49 ppm

富田林市　金岡　下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理)　昭和42年1月24日
〃　(第2次処理)　昭和42年1月24日
② 共用開始年月日(第1次処理)　昭和42年12月20日
③ 〃　(第2次処理)　昭和43年5月1日
④ 下水排除方式　合流式　(分流式)
⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量		晴天時1日最大処理量		雨天時最大処理量	
	現在	計画	現在	計画	現在	計画
第1次処理	6000 m³/日	1200 m³/日	900 m³/日	9300 m³/日	m³/日	m³/日
第2次処理						

⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

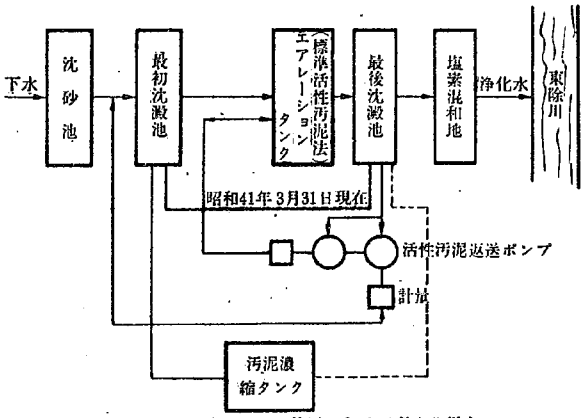
処理面積		処理人口			産業排水量	
現在	計画	現在排水人口	水洗使用人口	計画処理人口	現在	計画
145 ha	216.4 ha	3,000 人	3,000 人	31,000 人	m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用) 1 池	(雨天時用) 池
スクリーン	(晴天時用) 2 基	(雨天時用) 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 台	(雨天時用) 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
最初沈澱池	(晴天時用) 2 池	(雨天時用) 池
2階タンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 台	(雨天時用)
エアレーションタンク	(高級処理用) 池	(中級処理用) 池
散水沪床	(高速用) 池	(標準用) 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式)	(数量) 台
最後沈澱池	(活性汚泥用) 2 池	(散水炉床用) 池
滅菌池	(晴天時用) 1 池	(晴雨天時兼用) 池

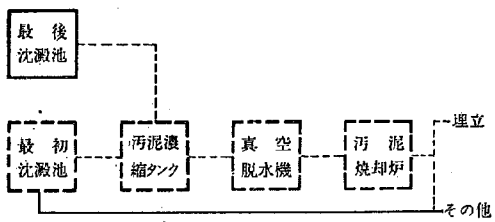
⑧ フローシート

<第1次および第2次処理>



注　エアレーションタンクの使用はS43.5月より行う

<下水汚泥処理>



注　実線は現在(昭和43年11月)
点線は昭和44年度より実施

⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭42.3.30	昭43.3.30	昭43.5.1	2 池	23 m	4.6 m	3 m	103.6 m²	310.8 m³	25 m	5,000 m³/日	20.7 m³	リンクベルト式	0.7 m/min	濃縮槽へ送
2															
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1	昭43.3.30	昭43.3.30	昭43.5.1	2 池	50 m	6 m	4.4 m	1302 m³	5,000 m³/日	1250 m³/日	旋回流	24 本	4.6			
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日			%	
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	mm	個
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭42.3.30	昭43.3.30	昭43.5.1	2 池	36 m	4.6 m	3.2 m	164.5 m²	526.4 m³	47 m	5,000 m³/日	20.7 m³	リンクベルト式	0.7 m/min	濃縮槽へ送
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先　1級河川
放流河川名　東除川

その渇水量および平水量　500 m³/day ～ 2000 m³/day
放流位置　受山地より下流 3 km
処理水放流前の河川水のBOD　5.0

吹田市　川面　下水処理場

① 工事着手年度（第1次処理）　昭和36年11月13日
〃　（第2次処理）
② 共用開始年月日（第1次処理）　昭和40年7月1日
③ 〃　（第2次処理）
④ 下水排除方式　合流式　分流式

⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	12,216 m³/日	36,648 m³/日	18,324 m³/日	43,597 m³/日	36,648 m³/日	109,944 m³/日
第2次処理						

⑥ 処理面積，処理人口，産業排水量

処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
45.812 ha	231.813 ha	23,666 人	現在 7,770 人	70,196 人	0 m³/日	8,648 m³/日

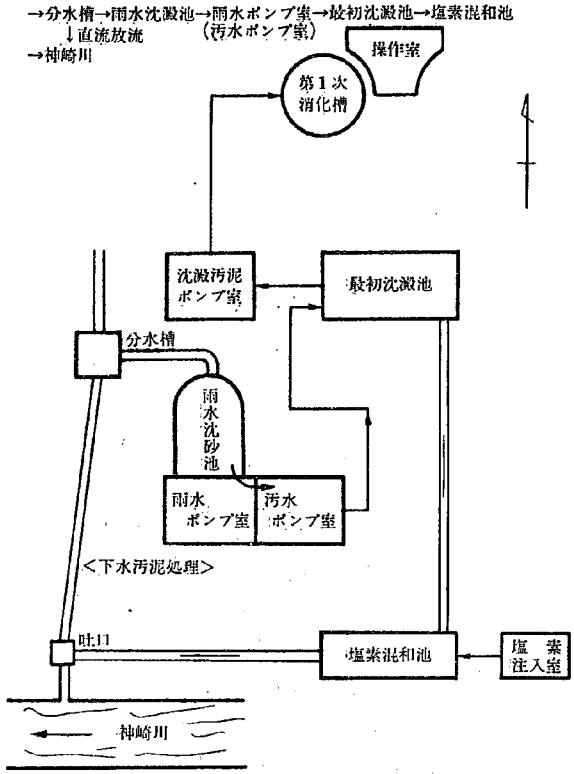
⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	（晴天時用）　池	（雨天時用）　3 池
スクリーン	（晴天時用）　基	（雨天時用）　3 基
第1揚水ポンプ	（晴天時用）　2 台	（雨天時用）　3 台
前エアレーションタンク	（晴天時用）　池	（雨天時用）　池
最初沈澱池	（晴天時用）　2 池	（雨天時用）　池
2階タンク	（晴天時用）　池	（雨天時用）　池
第2揚水ポンプ	（汚水用）　台	（雨天時用）　台
エアレーションタンク	（高級処理用）　池	（中級処理用）　池
散水沪床	（高速用）　池	（標準用）　池
高速エアレーション沈澱池	（製造会社，商品名・型式）　（数量）　台	
最後沈澱池	（活性汚泥用）　池	（散水炉床用）　池
滅菌池	（晴天時用）　1 池	（晴雨天時兼用）　池

⑧ フローシート

<第1次および第2次処理>

→分水槽→雨水沈澱池→雨水ポンプ室→最初沈澱池→塩素混和池
↓直流放流　（汚水ポンプ室）
→神崎川



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
				池	m	m	m	m²	m³	m	m³/日	m³			
1	昭40.3.25	昭41.3.31	昭40.7.1	2	30.85	4.2	3.0	129.57	388.71	30.85	6.108	9.25	浮流搔寄機	0.6 m/min	沈澱汚泥ポンプ
2															
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
				池	m	m	m	m³	m³/日	m³/日						
1																
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日				
1																
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	m	個
1															
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
				池	m	m	m	m²	m³	m	m³/日	m³			
1															
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名　神崎川

その渇水量および平水量
放流位置　吹田市川岸町22番1号
処理水放流前の河川水のBOD　38.21 ppm（放流口より上流における47年度測定の平均値）

加古川市	尾上	下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理) 昭和 40 年度
〃 (第2次処理) 昭和 41 年度
② 共用開始年月日(第1次処理) 昭和 42 年 6 月 1 日
③ 〃 (第2次処理) 昭和 43 年 6 月 1 日
④ 下水排除方式 (合流式)・一部分流式・分流式
⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	9,300 m³/日	10,700 m³/日	11,300 m³/日	14,206 m³/日	21,000 m³/日	19,700 m³/日
第2次処理	9,300	10,700	11,300	14,206	14,206	14,206

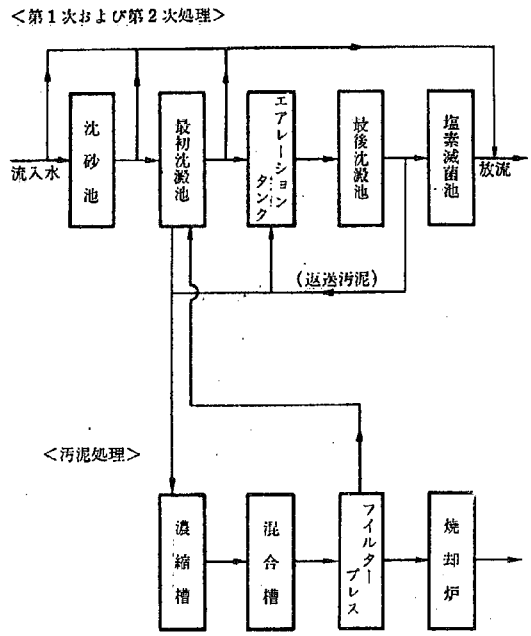
⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
240 ha	417.41 ha	32,000 人	13,000 人	45,000 人	— m³/日	— m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用) 1 池	(雨天時用) 池
スクリーン	(晴天時用) 1 基	(雨天時用) 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 2 台	(雨天時用) 2 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
最初沈澱池	(晴天時用) 2 池	(雨天時用) 池
2階タンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 台	(雨天時用)
エアレーションタンク	(高級処理用) 1 池	(中級処理用) 池
散水沪床	(高速用) 池	(標準用) 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式)	(数量) 台
最後沈澱池	(活性汚泥用) 3 池	(散水沪床用) 池
滅菌池	(晴天時用) 池	(晴雨天時兼用) 1 池

⑧ フローシート



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭40.	昭41.	42.6.1	2 池	34.0 m	4.74 m	2.4 m	166.3 m²	415 m³	38.0 m	5.340 m³/日	10.96 m³	リンダバイ式	1.0 m	ポンプ
2															
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1	昭41.	昭41.	42.6.1	1 池	34 m	6.74 m	4.0 m	1,950 m³	11,129 m³/日	2,781 m³/日	散気管	340	3.7			
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日			%	
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	mm	個
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭41.	昭41.	昭43.6.1	3 池	34.9 m	5.1 m	2.5 m	178.0 m²	445 m³	40 m	35.60 m³/日	10.64 m³	リンダバイ式	0.23~0.76 m/min	ポンプ
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名 白川

その渇水量および平水量 渇水量 2.8 m³/sec 平水量 7.2 m³/sec
放流位置 加古川市尾上町養田字養田開拓1627地先
処理水放流前の河川水のBOD 4.97

高砂 都市 東宮町　下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理)　昭和 34年 12月 28日
〃　(第2次処理)　昭和 34年 12月 28日
② 共用開始年月日(第1次処理)　昭和 40年 11月 1日
③ 〃　(第2次処理)　昭和 40年 11月 1日
④ 下水排除方式　(合流式)　分流式
⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	7,500 m³/日	11,615 m³/日	9,900 m³/日	14,645 m³/日	18,500 m³/日	36,300 m³/日
第2次処理	7,500	11,615	9,900	14,645	14,645	18,645

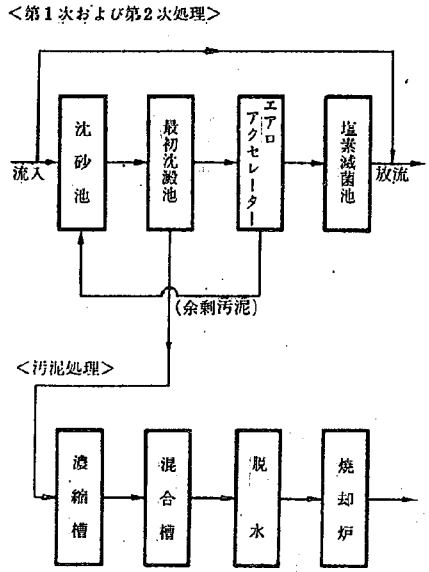
⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
60 ha	76 ha	12,500 人	1,040 人	50,500 人	— m³/日	— m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用) 1 池	(雨天時用) 1 池
スクリーン	(晴天時用) 2 基	(雨天時用) 2 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 4 台	(雨天時用) 2 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) — 池	(雨天時用) — 池
最初沈澱池	(晴天時用) 2 池	(雨天時用) — 池
2階タンク	(晴天時用) — 池	(雨天時用) — 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) — 台	(雨天時用) —
エアレーションタンク	(高級処理用) — 池	(中級処理用) — 池
散水沪床	(高速用) — 池	(標準用) — 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式) アクセラレーター (数量) 2 台	
最後沈澱池	(活性汚泥用) — 池	(散水炉床用) — 池
滅菌池	(晴天時用) 1 池	(晴雨天時兼用) — 池

⑧ フローシート



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭36.	昭38	37. 6. 1	1 池	15 m	— m	3 m	176 m²	530 m³	46 m	5,807 m³/日	0.3 m³	クラリファイヤー	15分/回	汚泥ポンプ
2	41.	41.	42. 6. 1	〃	〃	—	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1				池	m	m	m	m³	m³/日	m³/日						
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
1	昭37.	昭37.	41. 6. 1	1 池	16 m	14.5 m	4.73 m	660 m³	240 m³	170 m²	58.4 m	5,807 m³/日	散気管	2	4 倍	有
2	40.	42.	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	mm	個
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1				池	m	m	m	m²	m³	m	m³/日	m³			
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先 瀬戸内海
放流河川名 播磨灘

その渇水量および平水量
放流位置　高砂市高砂町東宮町 高砂港内
処理水放流前の河川水のBOD 4.30

尼崎市　東部　下水処理場

① 工事着手年度（第1次処理）　昭和33年度
〃　（第2次処理）　昭和41年度
② 共用開始年月日（第1次処理）　昭和38年4月1日
③ 〃　（第2次処理）　昭和42年8月1日
④ 下水排除方式　合流式　分流式
⑤ 処理能力

処理システム ＼ 汚水量	晴天時1日平均処理量		晴天時1日最大処理量		雨天時最大処理量	
	現在	計画	現在	計画	現在	計画
第1次処理	82,438 m³/日	82,438 m³/日	113,112 m³/日	113,112 m³/日	164,876 m³/日	164,871 m³/日
第2次処理	82,438	82,438	113,112	113,112	164,876	164,871

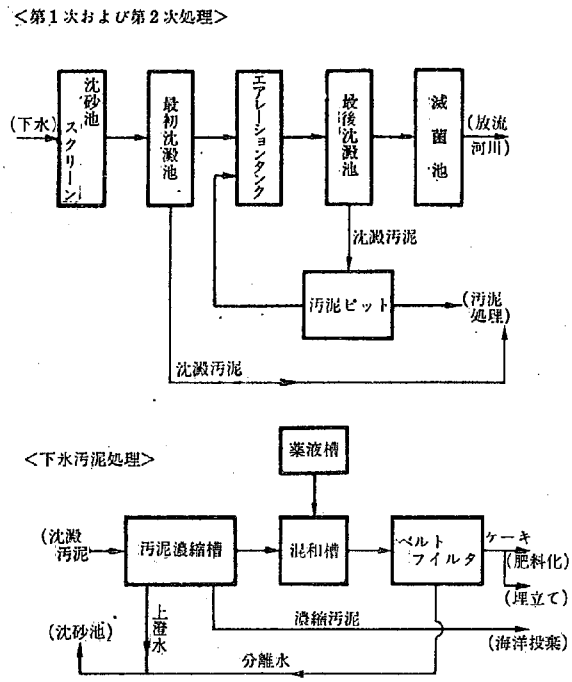
⑥ 処理面積，処理人口，産業排水量

処理面積		処理人口			産業排水量	
現在	計画	現在排水人口	水洗便所使用人口	計画処理人口	現在	計画
600 ha	807.2 ha	160,000 人	50,000 人	227,200 人	10,[illegible] m³/日	12,[illegible] m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	（晴天時用）　2 池	（雨天時用）　4 池
スクリーン	（晴天時用）　2 基	（雨天時用）　4 基
第1揚水ポンプ	（晴天時用）　3 台	（雨天時用）　6 台
前エアレーションタンク	（晴天時用）　池	（雨天時用）　池
最初沈澱池	（晴天時用）　6 池	（雨天時用）　池
2階タンク	（晴天時用）　池	（雨天時用）　池
第2揚水ポンプ	（汚水用）　台	（雨天時用）
エアレーションタンク	（高級処理用）　池	（中級処理用）　池
散水沪床	（高速用）　池	（標準用）　池
高速エアレーション沈澱池	（製造会社，商品名・型式）　（数量）　台	
最後沈澱池	（活性汚泥用）　池	（散水炉床用）　池
滅菌池	（晴天時用）　池	（晴雨天時兼用）　池

⑧ フローシート



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭36	昭37	昭38.4.1	2 池	38 m	10 m	3.3 m	380 m²	1,250 m³	124 m	13,733 m³/日	25 m³	リンベルト式	60 cm/min	自動弁
2	〃 37	〃 37	〃40.4.1	平成2	38	10	3.3	380	1,250	124	13,733	25	リンクベルト式	60 cm/min	〃
3		〃 40	〃41.4.1	2									リンクベルト式	60 cm/min	〃
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1	昭41	昭42	昭42.8.1	1 池	37 m	8 m	4.5 m	5,328 m³	27,473 m³/日	6,867 m³/日	ディフューザー	560	5.5			
2	〃 42	〃 43	〃43.8.1	1	37	8	4.5	5,328	27,473	6,867	〃	560	5.5			
3	〃 43	〃 43	〃43.8.1	1	37	8	4.5	5,328	27,473	6,867	〃	560	5.5			

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日				
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	m	孔
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭41	昭41	昭42.8.1	2 池	58 m	10 m	3.4～3.9 m	580 m²	2,110 m³	106 m	25,760 m³/日	25 m³	リンクベルト式	0.6 m/min	自動弁
2	〃 42	〃 43	〃43.8.1	2	58	10	3.4～3.9	580	2,110	106	25,760	25	リンクベルト式	〃	〃
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名　一級河川　左門殿川

その渇水量および平水量　渇水量　平水量　30 m³/sec
放流位置　尼崎市東本町1丁目地先
処理水放流前の河川水のBOD　70 mg/l.

兵庫県　都市　東　下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理)　昭和 41年度
〃　(第2次処理)　〃
② 共用開始年月日(第1次処理)　昭和 42年 3月25日
③ 〃　(第2次処理)　〃
④ 下水排除方式　合流式　(分流式)
⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	1528 m³/日	2688 m³/日	2328 m³/日	2940 m³/日	m³/日	m³/日
第2次処理	〃	〃	〃	〃		

⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

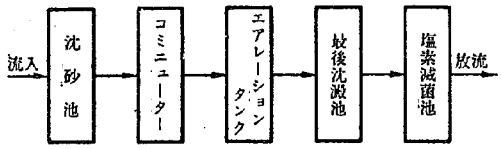
処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
2683 ha	2683 ha	5,120 人	5,820 人	9,600 人	m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用)	1 池	(雨天時用)	池
スクリーン	(晴天時用)	1 基	(雨天時用)	基
第1揚水ポンプ	(晴天時用)	− 台	(雨天時用)	台
前エアレーションタンク	(晴天時用)	− 池	(雨天時用)	池
最初沈澱池	(晴天時用)	− 池	(雨天時用)	池
2階タンク	(晴天時用)	− 池	(雨天時用)	池
第2揚水ポンプ	(汚水用)	− 台	(雨天時用)	
エアレーションタンク	(高級処理用)	3 池	(中級処理用)	池
散水沪床	(高速用)	− 池	(標準用)	池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式)		(数量)	台
最後沈澱池	(活性汚泥用)	2 池	(散水炉床用)	池
滅菌池	(晴天時用)	1 池	(晴雨天時兼用)	池

⑧ フローシート

<第1次および第2次処理>



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
				池	m	m	m	m²	m³	m	m³/日	m³			
1															
2															
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1	昭41.	昭42.	昭42.3.25	3 池	20 m	4 m	4 m	480 m³	638 m³/日	269 m³/日	ディスクフューザ	44	200			
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日			%	
1																
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	m	個
1															
2															
3															

最後沈澱池

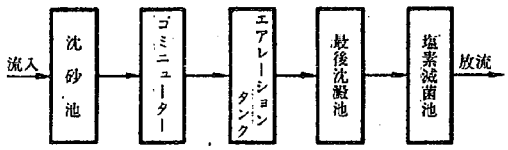
No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭41.	昭42.	昭42.3.25	2 池	11 m	3.6 m	3 m	39.6 m²	118.8 m³	10.5 m	720 m³/日	4 m³	フィベルト式	0.50m/min	デレスコ・ヒッシュバルブ
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名　山田川

その湧水量および平水量
放流位置　神戸市垂水区南多聞台 8丁目
処理水放流前の河川水のBOD　9.2 PPM

⑧ フローシート

<第1次および第2次処理>



兵庫県 都市 西鶴子 下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理) 昭和 39 年度

〃 (第2次処理) 昭和 39 年度

② 共用開始年月日(第1次処理) 昭和 39 年 10 月 1 日

③ 〃 (第2次処理) 昭和 39 年 10 月 1 日

④ 下水排除方式 合流式 (分流式)

⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	968 m³/日	952 m³/日	1035 m³/日	1360 m³/日	m³/日	m³/日
第2次処理	〃	〃	〃	〃		

⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
18.16 ha	18.16 ha	3,400 人	3,400 人	3,400 人	m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用) 1 池	(雨天時用) 池
スクリーン	(晴天時用) 1 基	(雨天時用) 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 台	(雨天時用) 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
最初沈澱池	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
2階タンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 台	(雨天時用)
エアレーションタンク	(高級処理用) 池	(中級処理用) 池
散水沪床	(高速用) 2 池	(標準用) 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式) (数量) 台	
最後沈澱池	(活性汚泥用) 2 池	(散水炉床用) 池
滅菌池	(晴天時用) 1 池	(晴雨天時兼用) 池

⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
				池	m	m	m	m²	m³	m	m³/日	m³			
1															
2															
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1	昭39.	昭39.	昭39.10.1	2 池	8 m	6 m	4.3 m	206.4 m³	476 m³/日	183 m³/日	ディスクフューザー	24	7			
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日				
1																
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	m	個
1															
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭39.	昭39.	昭39.10.1	2 池	6 m	3.5 m	3.3 m	21 m²	69.3 m³	19 m	61.9 m³/日	12 m³	エアリフト	0.15 m/min	エアリフト
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先

放流河川名 山田川

その渇水量および平水量

放流位置 神戸市垂水区南多聞台3丁目

処理水放流前の河川水のBOD 9.4 p.p.m.

奈良市 大安寺 下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理)

〃 (第2次処理) 昭和35年度

② 共用開始年月日(第1次処理)

③ 〃 (第2次処理) 昭和40年11月15日

④ 下水排除方式 (合流式) 分流式

⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	m³/日	m³/日	m³/日	m³/日	m³/日	m³/日
第2次処理	8,470	21,000	10,557	31,000	31,500	62,000

⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

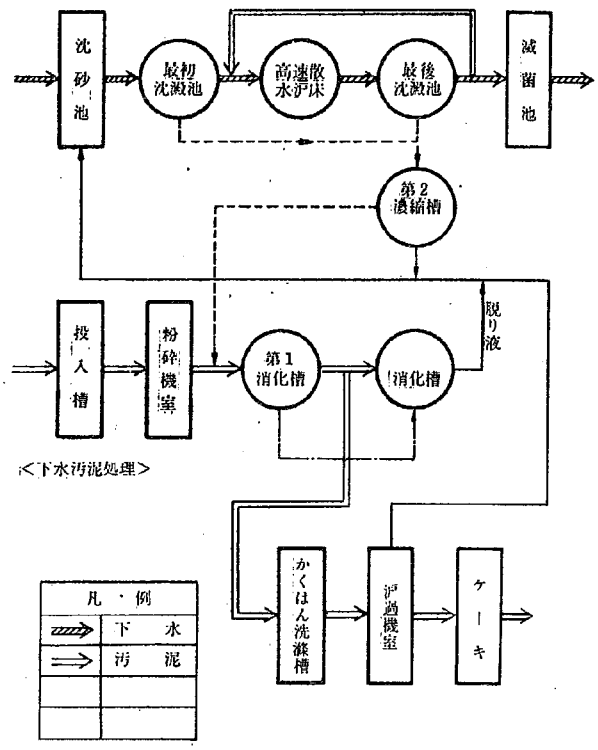
処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
105 ha	847 ha	16,000 人	3,000 人	100,000 人	m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用) 2 池	(雨天時用) 池
スクリーン	(晴天時用) 2 基	(雨天時用) 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 3 台	(雨天時用) 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
最初沈澱池	(晴天時用) 1 池	(雨天時用) 池
2階タンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 2 台	(雨天時用)
エアレーションタンク	(高級処理用) 池	(中級処理用) 池
散水沪床	(高速用) 1 池	(標準用) 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式)	(数量) 台
最後沈澱池	(活性汚泥用) 池	(散水沪床用) 1 池
滅菌池	(晴天時用) 池	(晴雨天時兼用) 1 池

⑧ フローシート

<第1次および第2次処理>



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭26	昭28	昭40.11.15	1 池	φ26 m	m	1.6~2.6 m	530 m²	1,300 m³	85 m	10,500 m³/日	1.4 m³	クラリファイヤ	1.5~6 r/H	水圧差を利用
2															
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1				池	m	m	m	m³	m³/日	m³/日						
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日			倍	
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1	昭36	昭37	昭40.11.15	1 池	φ26 m	m	2.4 m	530 m²	1272 m³	21,000 m³/日	m³/日	kg/m³/日 20	80 m³/m²/日	60~100 mm	150 孔
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭36	昭37	昭40.11.15	1 池	φ26 m	m	1.6~2.6 m	530 m²	1,300 m³	85 m	10,500 m³/日	1.4 m³	クラリファイヤ	1.5~6 r/H	水圧差を利用
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先

放流河川名 菰川

その湯水量および平水量

放流位置

処理水放流前の河川水のBOD 5.8 ppm

奈良 都市 富雄 下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理)

〃 (第2次処理) 昭和38年度

② 共用開始年月日(第1次処理)

③ 〃 (第2次処理) 昭和41年4月1日

④ 下水排除方式 合流式 分流式 一部合流式

⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	m³/日	m³/日	m³/日	m³/日	m³/日	m³/日
第2次処理	1,800 m³	10,000 m³	8,500	12,400	4,300	18,400

⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

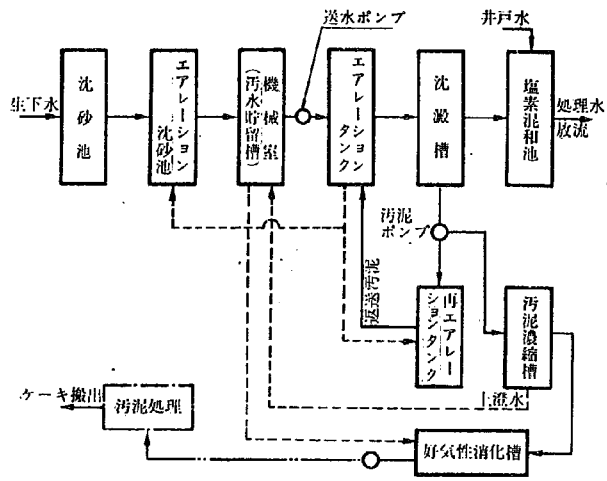
処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
132 ha	680 ha	12,760 人	8,000 人	40,000 人	m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

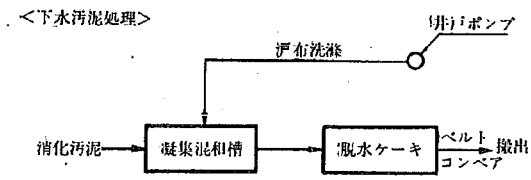
沈砂池	(晴天時用) 1 池	(雨天時用) 池
スクリーン	(晴天時用) 1 基	(雨天時用) 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 台	(雨天時用) 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) 1 池	(雨天時用) 池
最初沈澱池	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
2階タンク	(晴天時用) 1 池	(雨天時用) 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 2 台	(雨天時用)
エアレーションタンク	(高級処理用) 2 池	(中級処理用) 池
散水沪床	(高速用) 池	(標準用) 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式)	(数量) 台
最後沈澱池	(活性汚泥用) 3 池	(散水沪床用) 池
滅菌池	(晴天時用) 池	(晴雨天時兼用) 1 池

⑧ フローシート

<第1次および第2次処理>



<下水汚泥処理>



⑨ 各施設の主要諸元

前エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1	昭38	昭37	昭41.4.1	1 池	24.1 m	6.0 m	3.3 m	477 m³	8,100 m³/日	m³/日	高圧旋回流式	4	10	—	—	—
2																
3																

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1	昭38	昭37	昭41.4.1	2 池	24.1 m	6.0 m	3.3 m	477 m³	2,700 m³/日	m³/日	高圧旋回流式	4	10	—	—	—
2																
3																
4																
5																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日			倍	
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	mm	孔
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	汚泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭38	昭38	昭41.4.1	3 池	21.5 m	3.5 m	3.0 m	75 m²	248 m³	3.5 m	4,700 m³/日	10.5 m³	フライトコンベヤー	0.4~0.6m/分	汚泥ポンプ
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先

放流河川名 富雄川

その渇水量および平水量

放流位置

処理水放流前の河川水のBOD 2.8 ppm

姫路 都市	新姫路	下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理)　昭和 40 年度
〃　(第2次処理)　〃
② 共用開始年月日(第1次処理)　昭和 42 年 4 月 1 日
③ 〃　(第2次処理)　〃
④ 下水排除方式　(合流式)　分流式

⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量		晴天時1日最大処理量		雨天時最大処理量	
	現在	計画	現在	計画	現在	計画
第1次処理	m³/日	m³/日	m³/日	m³/日	m³/日	m³/日
第2次処理	22,875	32,600	25,600	46,500	27,800	97,800

⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

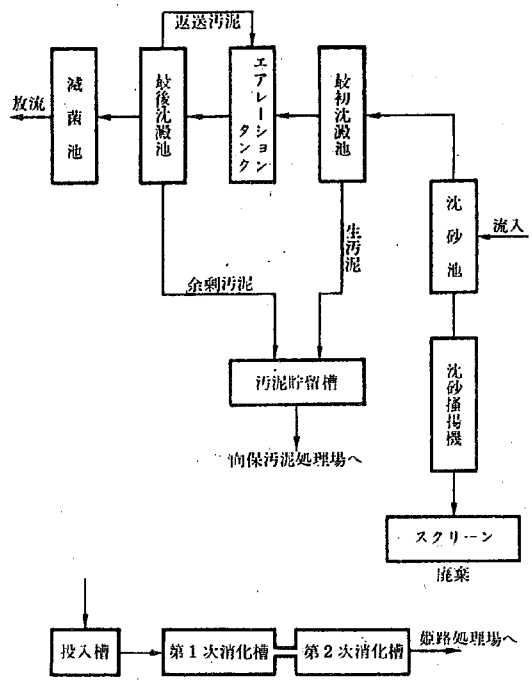
処理面積		処理人口			産業排水量	
現在	計画	現在排水人口	水洗便所使用人口	計画処理人口	現在	計画
602 ha	925 ha	56,000 人	32,000 人	112,000 人	5600 m³/日	21,192 m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用) 1 池	(雨天時用) 池
スクリーン	(晴天時用) 1 基	(雨天時用) 1 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 2 台	(雨天時用) 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
最初沈澱池	(晴天時用) 2 池	(雨天時用) 池
2階タンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 台	(雨天時用)
エアレーションタンク	(高級処理用) 池	(中級処理用) 池
散水沪床	(高速用) 池	(標準用) 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式 [illegible] (数量) 2池	
最後沈澱池	(活性汚泥用) 池	(散水沪床用) 池
滅菌池	(晴天時用) 1 池	(晴雨天時兼用) 池

⑧ フローシート

<第1次および第2次処理>



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭 41	昭 41	昭42.4.1	2 池	21.4 m	7.6 m	3.12 m	162.6 m²	507.5 m³	50 m	8150 m³/日	32.6 m³	リンクベルト	0.9 m/min	エアーリフト
2															
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1				池	m	m	m	m³	m³/日	m³/日						
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	1池当り計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
1	昭 41	昭 41	昭42.4.1	2 池	45 m	8.56 m	2.6 m	503.0 m³	486.0 m³	171.0 m²	90.6 m	8150 m³/日	片側散気施回式	180 本	5 倍	無
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	m	孔
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1				池	m	m	m	m²	m³	m	m³/日	m³			
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名　船場川
その渇水量および平水量　平水量 0.5 m³/sec
放流位置　姫路市千代田町字八木
処理水放流前の河川水のBOD　8.9 ppm

⑧ フローシート

姫路市 旧姫路 下水処理場	
① 工事着手年度(第1次処理)	昭和31年度
〃 (第2次処理)	〃
② 共用開始年月日(第1次処理)	昭和33年4月1日
③ 〃 (第2次処理)	〃
④ 下水排除方式	(合流式) 分流式

⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量		晴天時1日最大処理量		雨天時最大処理量	
	現在	計画	現在	計画	現在	計画
第1次処理	m³/日	m³/日	m³/日	m³/日	m³/日	m³/日
第2次処理	6947	13.400	12.000	19.140	15.000	40.200

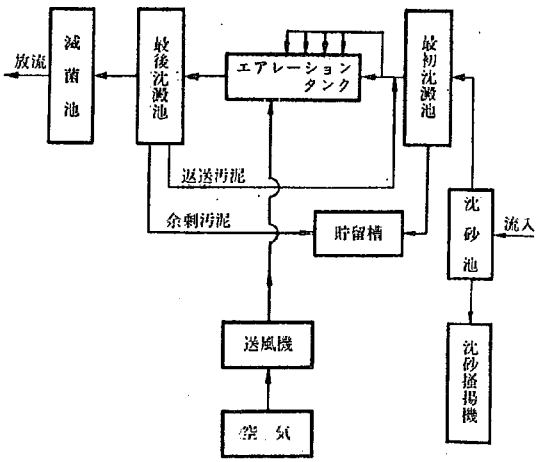
⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

処理面積		処理人口			産業排水量	
現在	計画	現在排水人口	水洗便所使用人口	計画処理人口	現在	計画
ha	ha	人	人	人	m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用) 1 池	(雨天時用) 池
スクリーン	(晴天時用) 1 基	(雨天時用) 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 2 台	(雨天時用) 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
最初沈澱池	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
2階タンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 台	(雨天時用)
エアレーションタンク	(高級処理用) 2 池	(中級処理用) 池
散水沪床	(高速用) 池	(標準用) 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式)	(数量) 台
最後沈澱池	(活性汚泥用) 2 池	(散水沪床用) 池
滅菌池	(晴天時用) 1 池	(晴雨天時兼用) 池

<第1次および第2次処理>



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭31		昭33.4.1	1池	13.0 m	6.0 m	5.0 m	780 m²	390.0 m³	6.0 m	13.400 m³/日	120 m³	ホッパー		エアリフト
2															
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械撹拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1	昭31	昭32	昭33.4.1	2池	40.0 m	6.0 m	5.0 m	1200.0 m³	6.700 m³/日	1.700 m³/日	片側散気 旋回式	200枚	4.0 倍			
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	撹拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日			倍	
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	mm	孔
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭31		昭33.4.1	2池	13.0 m	6.0 m	5.0 m	78.0 m²	390.0 m³	6.0 m	6.700 m³/日	200 m³	ホッパー		エアリフト
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先

放流河川名 船場川

その渇水量および平水量 平水量 0.5 m³/sec

放流位置 姫路市4代田町字八木

処理水放流前の河川水のBOD 8.9 P.P.m

姫路市 飾磨 下水処理場	
① 工事着手年度(第1次処理)	昭和33年度
〃 (第2次処理)	
② 共用開始年月日(第1次処理)	昭和37年4月1日
③ 〃 (第2次処理)	〃
④ 下水排除方式	(合流式) 分流式

⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量		晴天時1日最大処理量		雨天時最大処理量	
	現在	計画	現在	計画	現在	計画
第1次処理	m³/日	m³/日	m³/日	m³/日	m³/日	m³/日
第2次処理	8,175	8,000	15,840	11,556	27,860	24,000

⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

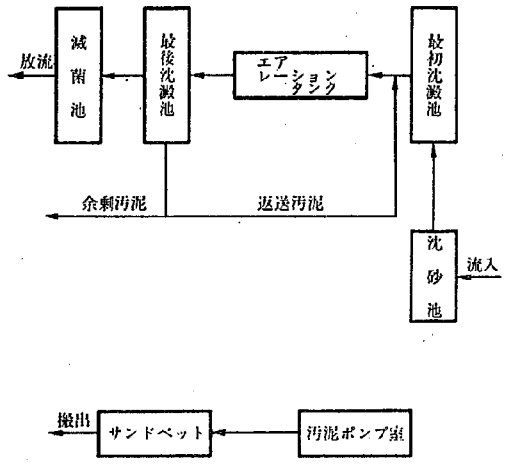
処理面積		処理人口			産業排水量	
現在	計画	現在排水人口	水洗便所使用人口	計画処理人口	現在	計画
28 ha	27 ha	16,000 人	6,000 人	27,000 人	0 m³/日	0 m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用) 1 池	(雨天時用) 池
スクリーン	(晴天時用) 1 基	(雨天時用) 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 2 台	(雨天時用) 2 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
最初沈澱池	(晴天時用) 1 池	(雨天時用) 池
2階タンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 台	(雨天時用)
エアレーションタンク	(高級処理用) 1 池	(中級処理用) 池
散水沪床	(高速用) 池	(標準用) 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式) (数量) 台	
最後沈澱池	(活性汚泥用) 1 池	(散水沪床用) 池
滅菌池	(晴天時用) 1 池	(晴雨天時兼用) 池

⑧ フローシート

<第1次および第2次処理>



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭34.		昭37.4.1	1 池	10.0 m	6.0 m	4.7 m	60.0 m²	282.0 m³	6.0 m	8,000 m³/日	54 m³	ホッパー		人力
2															
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	対流下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1	昭34.	昭34.	昭37.4.1	1 池	43.0 m	6.0 m	4.6 m	1,200 m³	8,000 m³/日	2,000 m³/日	片側散気式	200 枚	5 倍			
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	対流下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日			倍	
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	mm	個
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭34.	昭34	昭37.4.1	1 池	13.4 m	6.0 m	4.4 m	80.6 m²	362.0 m³	6.0 m	8000 m³/日	90.0 m³	ホッパー		汚泥ポンプ
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先 瀬戸内海
放流河川名

その湯水量および平水量
放流位置 姫路市飾磨区細江
処理水放流前の河川水のBOD

姫路市網干　下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理)　昭和35年度
〃　(第2次処理)　〃
② 共用開始年月日(第1次処理)　昭和39年4月1日
③ 〃　(第2次処理)
④ 下水排除方式　(合流式)　分流式
⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	m³/日	m³/日	m³/日	m³/日	m³/日	m³/日
第2次処理	1896	36,000	3,600	47,400	8,784	90,000

⑥ 処理面積，処理人口，産業排水量

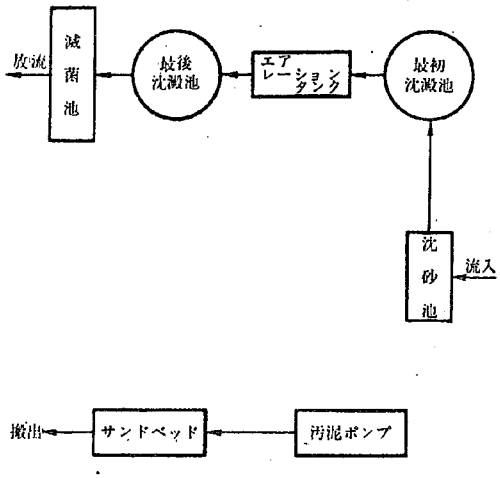
処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
39 ha	969 ha	2,000 人	1,000 人	18,000 人	0 m³/日	5000 m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用)　1 池	(雨天時用)　池
スクリーン	(晴天時用)　1 基	(雨天時用)　基
第1揚水ポンプ	(晴天時用)　3 台	(雨天時用)　1 台
前エアレーションタンク	(晴天時用)　池	(雨天時用)　池
最初沈澱池	(晴天時用)　1 池	(雨天時用)　池
2階タンク	(晴天時用)　池	(雨天時用)　池
第2揚水ポンプ	(汚水用)　台	(雨天時用)
エアレーションタンク	(高級処理用)　1 池	(中級処理用)　池
散水沪床	(高速用)　池	(標準用)　池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社，商品名・型式)　(数量)　台	
最後沈澱池	(活性汚泥用)　1 池	(散水沪床用)　池
滅菌池	(晴天時用)　1 池	(晴雨天時兼用)　池

⑧ フローシート

<第1次および第2次処理>



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭38.	昭38	昭39.4.1	1 池	8.0 m	m	3.9 m	78.5 m²	306.0 m³	31.4 m	4,800 m³/日	40.0 m³	クリファイヤー	2.0 r.p.m	汚泥ポンプ
2															
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1	昭38.	昭38	昭39.4.1	1 池	34.0 m	6.0 m	4.8 m	977.0 m³	4,800 m³/日	1,310 m³/日	特殊型散気板回式	204枚	5倍			
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日			倍	
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	m	孔
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭38	昭38	昭39.4.1	1 池	8.5 m	m	3.6 m	132.0 m²	475.0 m³	39.3 m	4,800 m³/日	40.0 m³	クリファイヤー	2.0 r.p.m	汚泥ポンプ
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名：瀬戸内海

その渇水量および平水量
放流位置　姫路市網干と興浜字味岡
処理水放流前の河川水のBOD

臼山市 九日西 下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理) 昭和34年度

〃 (第2次処理) 昭和36年度

② 共用開始年月日(第1次処理) 昭和38年1月

③ 〃 (第2次処理) 昭和40年5月

④ 下水排除方式 (合流式) 分流式

⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量		晴天時1日最大処理量		雨天時最大処理量	
	現在	計画	現在	計画	現在	計画
第1次処理	33,160 m³/日	69,000 m³/日	88,920 m³/日	69,000 m³/日	— m³/日	107,500 m³/日
第2次処理	〃	〃	88,920	〃	—	〃

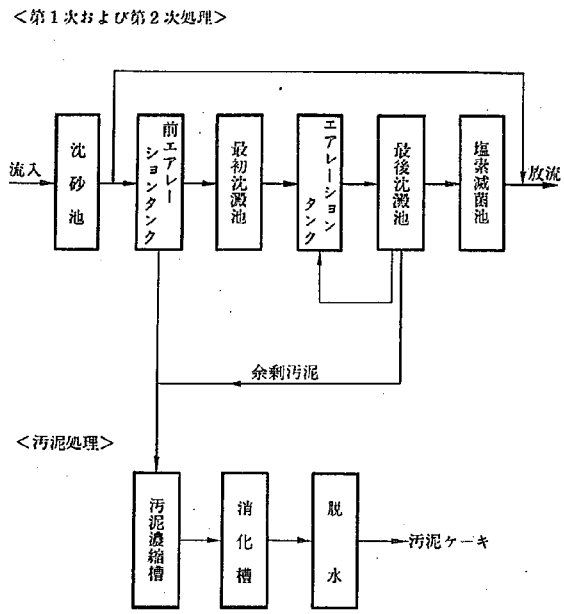
⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

処理面積		処理人口			産業排水量	
現在	計画	現在排水人口	水洗便所使用人口	計画処理人口	現在	計画
109.7 ha	311.2 ha	76,900人	24,600 人	165,000 人	12336 m³/日	0 m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用) 1 池	(雨天時用) 池
スクリーン	(晴天時用) 1 基	(雨天時用) 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 3 台	(雨天時用) 2 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) 1 池	(雨天時用) 池
最初沈澱池	(晴天時用) 1 池	(雨天時用) 池
2階タンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 台	(雨天時用)
エアレーションタンク	(高級処理用) 池	(中級処理用) 1 池
散水沪床	(高速用) 池	(標準用) 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式)	(数量) 台
最後沈澱池	(活性汚泥用) 1 池	(散水炉床用) 池
滅菌池	(晴天時用) 1 池	(晴雨天時兼用) 池

⑧ フローシート



⑨ 各施設の主要諸元

前エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1	昭42.	42	昭42.3.20.	1 池	33.8 m	2.8 m	3.7 m	350 m³	107,500 m³/日	m³/日	散気管	42ヶ	0.2ヶ			
2																
3																

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭42年	昭42.	昭42.3.20	1 池	32.0 m	33.0 m	3.45 m	1,060 m²	3,657 m³	152 m	107,500 m³/日	58.7 m³	スクレパー方式	0.25~1.0 m/min	汚泥ポンプ
2															
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1	昭39年	昭37.	昭40.5	1 池	44.0 m	34.8 m	4.5 m	6,200 m³	69,000 m³/日	6,000 m³/日	ディフューザー方式	936	5	—	—	—
2																
3																

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	m	孔
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭36.	昭37.	昭38.1	1 池	42.0 m	27.0 m	3.2 m	1,130 m²	3,616 m³	267 m	60,000 m³/日	90.7 m³	スクレパー式	0.25~1.0 m/min	汚泥吸引機 ポンプ引抜
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先

放流河川名 九日川 水質基準 なし

その渇水量および平水量 渇水量 1,382,400 m³/日 平水量 4,692,800 m³/日

放流位置 七岩河口より上流約 4.5 km

処理水放流前の河川水のBOD 5.8 ppm

岡山市 高島 下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理) 昭和40年度
〃 (第2次処理) 〃
② 共用開始年月日(第1次処理) 昭和41年6月10
③ 〃 (第2次処理)
④ 下水排除方式 合流式 (分流式)
⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量		晴天時1日最大処理量		雨天時最大処理量	
	現在	計画	現在	計画	現在	計画
第1次処理	1,183 m³/日	1,155 m³/日	1,600 m³/日	1,155 m³/日	— m³/日	— m³/日
第2次処理	1,183	1,155	1,600	1,155	—	—

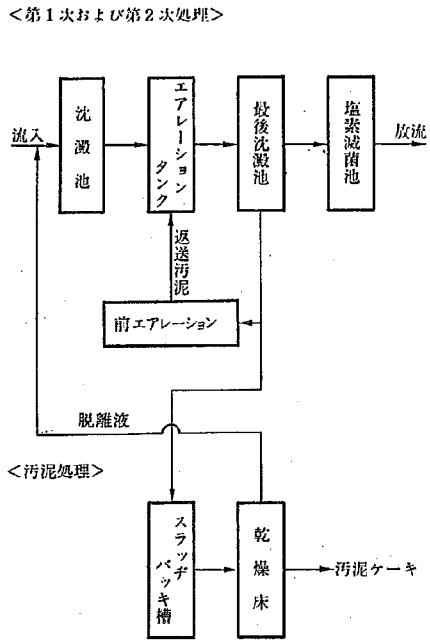
⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

処理面積		処理人口			産業排水量	
現在	計画	現在排水人口	水洗便所使用人口	計画処理人口	現在	計画
72.3 ha	35.0 ha	2,000 人	2,000 人	7,000 人	— m³/日	— m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用) 1 池	(雨天時用) 池
スクリーン	(晴天時用) 1 基	(雨天時用) 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 2 台	(雨天時用) 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) — 池	(雨天時用) 池
最初沈澱池	(晴天時用) — 池	(雨天時用) 池
2階タンク	(晴天時用) — 池	(雨天時用) 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) — 台	(雨天時用)
エアレーションタンク	(高級処理用) 1 池	(中級処理用) 池
散水沪床	(高速用) — 池	(標準用) 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式) —	(数量) 台
最後沈澱池	(活性汚泥用) 1 池	(散水炉床用) 池
滅菌池	(晴天時用) 1 池	(晴雨天時兼用) 池

⑧ フローシート



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
				池	m	m	m	m²	m³	m	m³/日	m³			
1															
2															
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1	昭41年度	昭41年度	昭41.6.20	1 池	17.0 m	4.6 m	3.0 m	234.0 m³	1,155 m³/日	693 m³/日	散気管	40本	2.5			
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部1池当り 沈澱部 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
				池	m	m	m	m³	m²	m	m³/日				
1															
2															

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	mm	孔
1															
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭41年度	昭41年度	昭41.6.20	1 池	10.5 m	4.6 m	2.25 m	48.3 m²	109.0 m³	41.0 m	1,155 m³/日	2.7 m³	スクレパー方式	0.2～1.0 m/min	汚泥溜枯槽およびポンプ・ホッパー
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名 百間川 水質基準無し

その渇水量および平水量 平水量 28 m³/sec
放流位置 新田用水路
処理水放流前の河川水のBOD 5.0 ppm

倉敷市　倉敷　下水処理場

① 工事着手年度（第1次処理）　昭和 33 年度
〃　（第2次処理）　昭和 41 年度
② 共用開始年月日（第1次処理）　昭和 35 年 6 月 1 日
③ 〃　（第2次処理）　昭和 42 年 4 月 1 日
④ 下水排除方式　（合流式）　分流式
⑤ 処理能力

処理システム ＼ 汚水量	晴天時1日平均処理量		晴天時1日最大処理量		雨天時最大処理量	
	現在	計画	現在	計画	現在	計画
第1次処理	8,400 m³/日	7,920 m³/日	12,000 m³/日	10,890 m³/日	24,000 m³/日	38,016 m³/日
第2次処理	〃	〃	12,000	〃	12,000	10,890

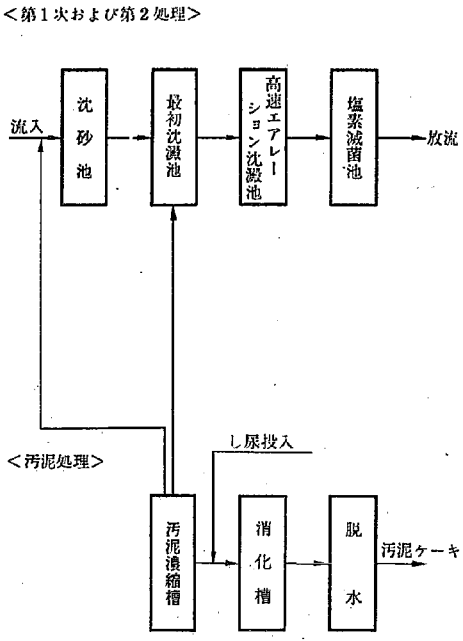
⑥ 処理面積，処理人口，産業排水量

処理面積		処理人口			産業排水量	
現在	計画	現在排水人口	水洗便所使用人口	計画処理人口	現在	計画
109.1 ha	123 ha	26,000 人	13,000 人	33,000 人	m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	（晴天時用）1 池	（雨天時用）2 池
スクリーン	（晴天時用）粗目、細目 2 基	（雨天時用）粗目、細目 4 基
第1揚水ポンプ	（晴天時用）2 台	（雨天時用）2 台
前エアレーションタンク	（晴天時用）池	（雨天時用）池
最初沈澱池	（晴天時用）2 池	（雨天時用）池
2階タンク	（晴天時用）池	（雨天時用）池
第2揚水ポンプ	（汚水用）台	（雨天時用）
エアレーションタンク	（高級処理用）池	（中級処理用）池
散水沪床	（高速用）池	（標準用）池
高速エアレーション沈澱池	（製造会社，商品名・型式）荏原ケミカルエクロアクセレータ Model	（数量）2 台
最後沈澱池	（活性汚泥用）池	（散水沪床用）池
滅菌池	（晴天時用）池	（晴雨天時兼用）1 池

⑧ フローシート



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭 34	昭 34	35. 6. 1	1 池	15 m	m	3.1 m	175 m²	543 m³	47,100 m	3,960 m³/日	m³	回転式かき寄せ式	2.36 m/分	ポンプ排水
2	36	36	37. 4. 1	1	〃		3.1	175	543	47,100	〃		〃	〃	〃
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1				池	m	m	m	m³	m³/日	m³/日						
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌機の有無
1	昭 41.	41.	42. 10. 1	池	15 m	m	5.1 m	573 m³	190 m²	136 m²	47.10 m	4,000 m³/日	スパージャー	1	4.18 倍	有
2	42.	42			15		〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	1	〃	有

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	m	孔
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1				池	m	m	m	m²	m³	m	m³/日	m³			
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名　広瀬川　倉敷川

その湯水量および平水量　湯水量 1.3 m³/秒　平水量 4.1 m³/秒
放流位置　倉敷市 白楽町 242番地之 広瀬川
処理水放流前の河川水のBOD 4.0 ppm

広島市　千田　下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理)　昭和32年度
〃　(第2次処理)　昭和40年度
② 共用開始年月日(第1次処理)　昭和36年4月1日
③ 〃　(第2次処理)
④ 下水排除方式　合流式　分流式
⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	33,800 m³/日	35,000 m³/日	48,300 m³/日	50,000 m³/日	1,215 m³/秒	1,215 m³/秒
第2次処理						

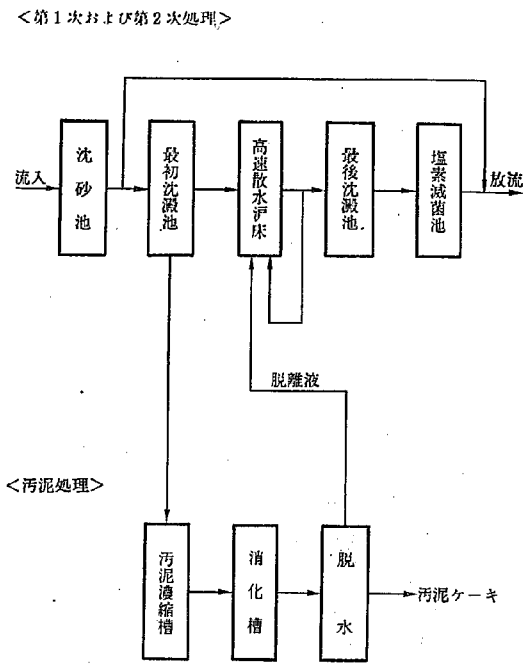
⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
450 ha	483 ha	82,500 人	43,100 人	100,000 人	m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用) 2 池	(雨天時用) 1 池
スクリーン	(晴天時用) 2 基	(雨天時用) 1 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 4 台	(雨天時用) 4 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
最初沈澱池	(晴天時用) 2 池	(雨天時用) 池
2階タンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 台	(雨天時用)
エアレーションタンク	(高級処理用) 池	(中級処理用) 池
散水沪床	(高速用) 池	(標準用) 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式)	(数量) 台
最後沈澱池	(活性汚泥用) 池	(散水炉床用) 池
滅菌池	(晴天時用) 1 池	(晴雨天時兼用) 池

⑧ フローシート



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭34	昭35	昭36.4.1	2 池	33 m	m	2.5 m	804 m²	2,010 m³	102.5 m	17,500 m³/日	m³	クラリフロッキュレーター(周辺駆動)	50分/回転	汚泥ポンプによる
2															
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1				池	m	m	m	m³	m³/日	m³/日						
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m²	m²	m	m³/日			倍	
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	m	孔
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1				池	m	m	m	m²	m³	m	m³/日	m³			
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名　太田川 祇川 京橋川
その渇水量および平水量　2.1 m³/秒　7.3 m³/秒 (平水量)
放流位置　広島市南千田東町
処理水放流前の河川水のBOD　1.4 ppm

福山市 都市 新浜 下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理) 昭和36年度
〃 (第2次処理) 〃
② 共用開始年月日(第1次処理) 昭和41年11月1日
③ 〃 (第2次処理) 〃
④ 下水排除方式 (合流式) 分流式

⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	31,000 m³/日	38,300 m³/日	32,970 m³/日	44,600 m³/日	93,000 m³/日	116,500 m³/日
第2次処理	—	38,300	—	44,600	—	116,500

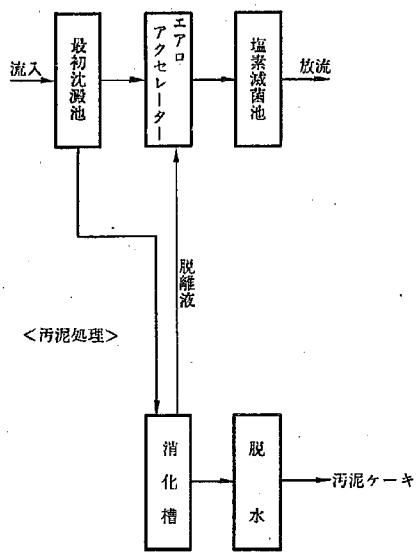
⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
48.8 ha	411.77 ha	39,900 人	3,000 人	70,300 人	1,000 m³/日	23,500 m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用) — 池	(雨天時用) 2 池
スクリーン	(晴天時用) — 基	(雨天時用) 2 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 2 台	(雨天時用) 3 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) — 池	(雨天時用) — 池
最初沈澱池	(晴天時用) 2 池	(雨天時用) — 池
2階タンク	(晴天時用) 1 池	(雨天時用) — 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) — 台	(雨天時用) —
エアレーションタンク	(高級処理用) — 池	(中級処理用) — 池
散水沪床	(高速用) — 池	(標準用) — 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式 住友ベンクルエアロ エアロ・アクセレーター)	(数量) 1 台
最後沈澱池	(活性汚泥用) — 池	(散水炉床用) — 池
滅菌池	(晴天時用) — 池	(晴雨天時兼用) 2 池

⑧ フローシート



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭 40.3.31	41.3.31	41.11.1	2 池	32 m	12 m	2.4 m	384 m²	922 m³	12 m	17,150 m³/日	41 m³	ミューチュアル 汚泥掻寄機	0.3 m/min	自動排泥
2															
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1				池	m	m	m	m³	m³/日	m³/日						
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
1	昭 40.3.31	昭 41.3.31	昭 41.11.1	1 池	79.0 m	16.0 m	5.0 m	2,005 m³	570 m³	380 m²	140 m	8,500 m³/日	スパーミキサーリング	2	3 倍	有
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1				基	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	m	孔
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1				池	m	m	m	m²	m³	m	m³/日	m³			
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名 福山港(瀬戸内海)

その湧水量および平水量
放流位置 新浜町二丁目地先
処理水放流前の河川水のBOD 満潮 3.22 P.P.M. 干潮 2.76 P.P.M.

都市	下水処理場
徳山	徳山

① 工事着手年度(第1次処理) 昭和38年10月12日
〃 (第2次処理) 昭和39年5月30日
② 共用開始年月日(第1次処理) 昭和41年10月1日
③ 〃 (第2次処理) 昭和41年10月1日
④ 下水排除方式 合流式 分流式
⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	18,000 m³/日	12,500 m³/日	20,500 m³/日	17,500 m³/日	38,000 m³/日	37,500 m³/日
第2次処理	16,000	12,500	16,000	17,500	16,000	17,500

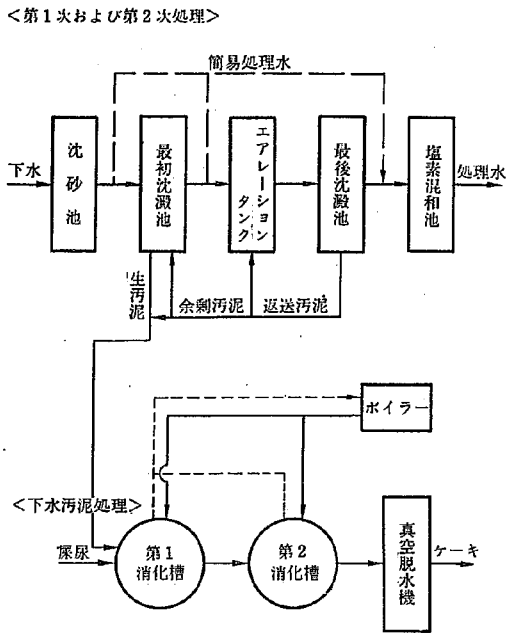
⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
189 ha	571 ha	23,000 人	5,000 人	75,000 人	m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用) 2 池	(雨天時用) 池
スクリーン	(晴天時用) 1 基	(雨天時用) 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 3 台	(雨天時用) 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
最初沈澱池	(晴天時用) 2 池	(雨天時用) 池
2階タンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 台	(雨天時用)
エアレーションタンク	(高級処理用) 2 池	(中級処理用) 池
散水沪床	(高速用) 池	(標準用) 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式) (数量) 台	
最後沈澱池	(活性汚泥用) 2 池	(散水炉床用) 池
滅菌池	(晴天時用) 1 池	(晴雨天時兼用) 池

⑧ フローシート



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭39年度	昭40年度	昭41.10.1	1 池	27 m	8 m	2.7 m	216 m²	583.20 m³	54 m	31,250 m³/日 10,416	28 m³	リクベルト式	0.7 m/min	連続式 手動バルブ操作
2	〃	〃	〃	1	27	8	2.7	216	583.20	54	10,416	28	〃	〃	
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械撹拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1	昭39年度	昭40年度	昭41.10.1	1 池	27×2 m	5.5 m	4 m	1,628 m³	6,250 m³/日	1,625 m³/日	散気筒	220	4			
2	〃 42 〃	〃 42 〃	〃 43.6.1	1	27×2	5.5	4	1,628	6,250	1,625	旋回流式	220	4			
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	撹拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日			倍	
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	mm	孔
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭39	昭40	昭41.10.1	1 池	22 m	9 m	2.5 m	288 m²	720 m³	75 m	6250 m³/日	24.6 m³	リクベルト式	0.35 m/min	連続自然流下
2	〃 42	〃 42	〃 43.6.1	1	22	9	2.5	288	720	75	6250	24.6	リクベルト式	0.35 m/min	連続自然流下
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名 徳山湾
その渇水量および平水量
放流位置 徳山市晴海町 0.1 番地地先
処理水放流前の河川水のBOD 13 ppm

宇部市 都市居能 下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理) 昭和33年4月
〃 〃 (第2次処理) 〃
② 共用開始年月日(第1次処理) 昭和36年4月29日
③ 〃 (第2次処理) 〃
④ 下水排除方式 (合流式) 分流式
⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	7,590 m³/日	15,180 m³/日	11,385 m³/日	22,770 m³/日	22,770 m³/日	45,540 m³/日
第2次処理	〃	〃	11,385	〃	〃	〃

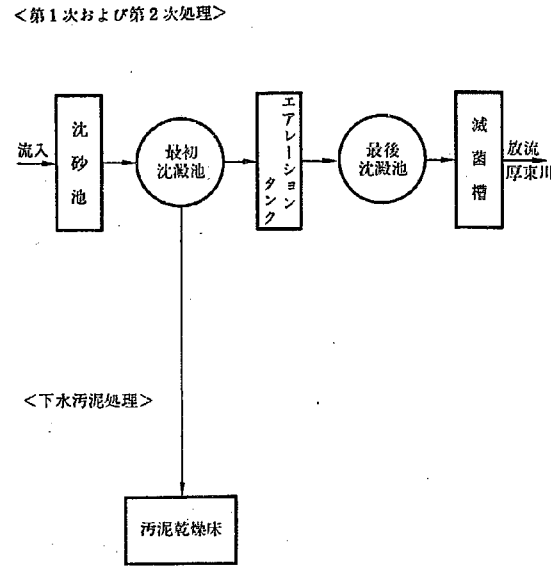
⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
178.8 ha	280.3 ha	27,000 人	12,000 人	66,000 人	m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用) 1 池	(雨天時用) 2 池
スクリーン	(晴天時用) 1 基	(雨天時用) 2 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 2 台	(雨天時用) 1 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
最初沈澱池	(晴天時用) 1 池	(雨天時用) 池
2階タンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 台	(雨天時用)
エアレーションタンク	(高級処理用) 1 池	(中級処理用) 池
散水沪床	(高速用) 池	(標準用) 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式)	(数量) 台
最後沈澱池	(活性汚泥用) 1 池	(散水炉床用) 池
滅菌池	(晴天時用) 1 池	(晴雨天時兼用) 池

⑧ フローシート



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭36.	昭36.	昭36.4.29	1 池	15.6 m	m	2.5 m	190 m²	475 m³	47 m	7,500 m³/日	2 m³	フリクション	1/3.5 r.p.m	水位差排泥 ポンプ排泥
2															
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械撹拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1	昭36.	昭36.	昭36.4.29	1 池	36 m	35×3連 m	4 m	1828 m³	7,500 m³/日	2250 m³/日	散気盤	660 ヵ	5			
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	撹拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日			倍	
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	mm	個
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭36.	昭36.	昭36.4.29	1 池	20φ m	m	2.7 m	314 m²	848 m³	62.8 m	7,500 m³/日	2 m³	フリクション	1/3 r.p.m	水位差排泥
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名 厚東川 (2級河川)

その渇水量および平水量
放流位置 海より1.5km上流
処理水放流前の河川水のBOD

宇部市 芝中沖 下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理) 昭和36年4月
〃 (第2次処理) 〃
② 共用開始年月日(第1次処理) 昭和39年4月
③ 〃 (第2次処理) 〃
④ 下水排除方式 (合流式) 分流式
⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	14,260 m³/日	28,520 m³/日	21,390 m³/日	42,780 m³/日	42,780 m³/日	85,560 m³/日
第2次処理	〃	〃	〃	〃	〃	〃

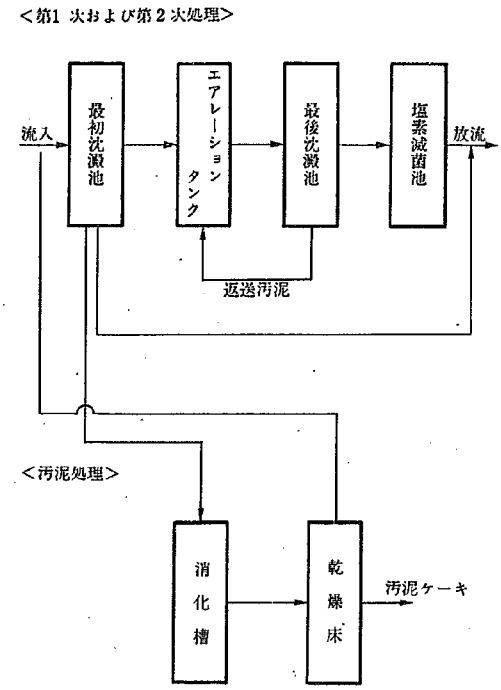
⑥ 処理面積,処理人口,産業排水量

処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
281.2 ha	682.3 ha	38,000 人	22,000 人	124,000 人	m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
スクリーン	(晴天時用) 基	(雨天時用) 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 台	(雨天時用) 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
最初沈澱池	(晴天時用) 1 池	(雨天時用) 池
2階タンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 台	(雨天時用)
エアレーションタンク	(高級処理用) 1 池	(中級処理用) 池
散水沪床	(高速用) 池	(標準用) 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式) (数量) 台	
最後沈澱池	(活性汚泥用) 1 池	(散水炉床用) 池
滅菌池	(晴天時用) 1 池	(晴雨天時兼用) 池

⑧ フローシート



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭37.	昭37.	38.10.17	1 池	28 m	4.5×4連 m	2.4 m	500 m²	1,200 m³	100 m	15,000 m³/日	17.5 m³	チェーンコンベア式スラッジコレクター	0.2～0.8 m/min	消化槽へポンプ揚送
2															
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1	昭38.	昭38.	38.10.17	1 池	50 m	4.5×4連 m	4 m	3,600 m³	15,000 m³/日	4,500 m³/日	散気筒	896	5倍			
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日			%	
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	mm	個
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭38.	昭38.	38.10.17	1 池	32 m	4.5×4連 m	3.6 m	550 m²	2,000 m³	120 m	15,000 m³/日	25 m³	サイホン式吸上掃流機	0.3～1.2 m/min	サイホン吸上排泥ポンプ場送
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名 周防灘

その渇水量および平水量
放流位置 ソーダ沖岸壁
処理水放流前の河川水のBOD

下関市 筋ヶ浜 下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理) 昭和36年度
〃 〃 (第2次処理) 昭和38年度
② 共用開始年月日(第1次処理) 昭和40年11月1日
③ 〃 (第2次処理) 〃
④ 下水排除方式 合流式 (分流式)
⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	7800 m³/日	36,500 m³/日	11,700 m³/日	35,000 m³/日	m³/日	m³/日
第2次処理	〃	〃	〃	〃		

⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

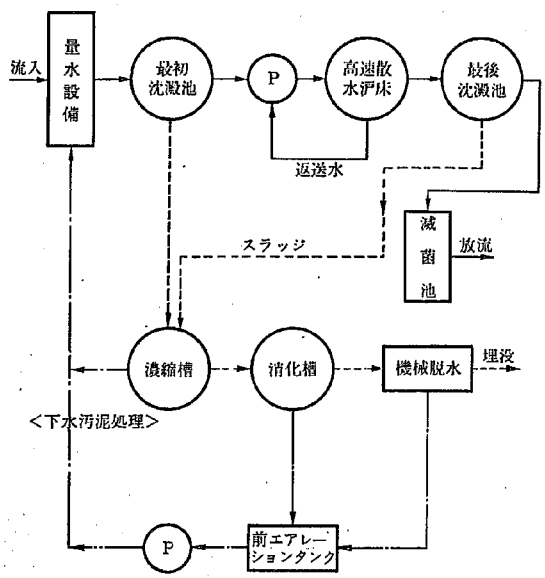
処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
103.1 ha	534.8 ha	24,300 人	4,200 人	100,000 人	170 m³/日	2345 m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
スクリーン	(晴天時用) 基	(雨天時用) 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 台	(雨天時用) 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
最初沈澱池	(晴天時用) 1 池	(雨天時用) 池
2階タンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 台	(雨天時用)
エアレーションタンク	(高級処理用) 池	(中級処理用) 池
散水沪床	(高速用) 1 池	(標準用) 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式)	(数量) 台
最後沈澱池	(活性汚泥用) 池	(散水沪床用) 1 池
滅菌池	(晴天時用) 1 池	(晴雨天時兼用) 池

⑧ フローシート

<第1次および第2次処理>



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭36.	昭38.	昭40.	1 池	径 26 m	m	2.9 m	530 m²	1,463 m³	84.7 m	17,500 m³/日	3.0 m³	ダイヤフラムポンプ	163 m/時	手動ポンプ
2															
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1				池	m	m	m	m³	m³/日	m³/日						
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日			倍	
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1	昭37.	昭37.	40.11.1	1 池	径 26 m	m	1.8 m	530 m²	954 m³	11,700 m³/日	4,320 m³/日	1.2 kg/m³/日	22 m³/m²/日	60~80 mm	161 孔
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭38.	昭38.	昭40.	1 池	径 26 m	m	2.9 m	530 m²	1,463 m³	84.7 m	17,500 m³/日	3 m³	ダイヤフラムポンプ	163 m/時	手動ポンプ
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先 海洋 (日本海響灘)
放流河川名

その場水量および平水量
放流位置 30m沖合
処理水放流前の河川水のBOD 0~8 ppm

長門市 仙崎　下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理)　昭和36年
〃　〃　(第2次処理)　〃
② 共用開始年月日(第1次処理)　昭和42年8月1日
③ 〃　(第2次処理)　〃
④ 下水排除方式　(合流式)　分流式

⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	m³/日	m³/日	m³/日	m³/日	3,264 m³/日	7,114 m³/日
第2次処理	1,632	3,557	1,960	4,265	1,960	4,265

⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

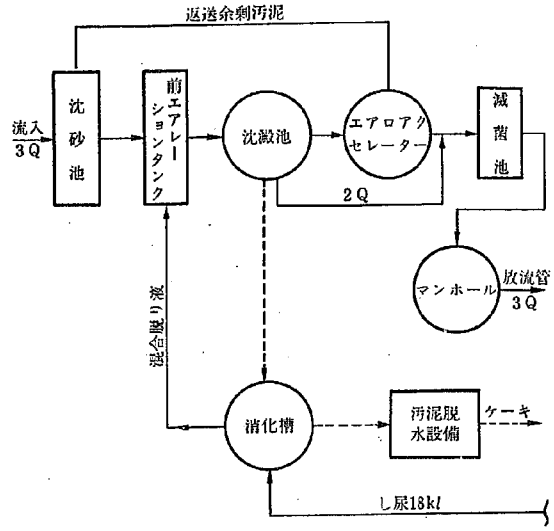
処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
210 ha	472.6 ha	3,600 人	1,000 人	4,830 人	450 m³/日	224 m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用) 1 池	(雨天時用) 0 池
スクリーン	(晴天時用) 1 基	(雨天時用) 0 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 2 台	(雨天時用) 2 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) 1 池	(雨天時用) 0 池
最初沈澱池	(晴天時用) 1 池	(雨天時用) 0 池
2階タンク	(晴天時用) 0 池	(雨天時用) 0 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 0 台	(雨天時用) 0
エアレーションタンク	(高級処理用) 1 池	(中級処理用) 0 池
散水沪床	(高速用) 0 池	(標準用) 0 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式)	(数量) 台
最後沈澱池	(活性汚泥用) 0 池	(散水炉床用) 0 池
滅菌池	(晴天時用) 1 池	(晴雨天時兼用) 0 池

⑧ フローシート

<第1次および第2次処理>



<下水汚泥処理>

⑨ 各施設の主要諸元

前エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	1池当りの寸法 幅	1池当りの寸法 有効水深	1池当り有効容量	1池当り計画処理量 ~~下水流入量~~	1池当り計画処理量 返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	散気式の場合 個数	散気式の場合 計画下水量に対する空気吹込倍率	機械撹拌式の場合 装置の種類	機械撹拌式の場合 個数	機械撹拌式の場合 規格寸法
1	昭42	昭42	昭42.10.1	1 池	4 m	25 m	3.0 m	30 m³	1648 m³/日	m³/日	散気管	4				
2																
3																

最初沈澱池

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	1池当りの寸法 幅	1池当りの寸法 有効水深	1池当り 有効水面積	1池当り 有効容量	1池当り 堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥 集泥機の速度	排泥方法
1	昭37.	昭37.	昭42.10.1	1 池	φ8 m	– m	2.5 m	50 m²	125 m³	25.1 m	1648 m³/日	フラリフアイヤー m³	1/20 RPM	1/20 RPM	自動
2															
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	1池当りの寸法 幅	1池当りの寸法 有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	1池当り計画処理量 返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	散気式の場合 個数	散気式の場合 計画下水量に対する空気吹込倍率	機械撹拌式の場合 装置の種類	機械撹拌式の場合 個数	機械撹拌式の場合 規格寸法
1	昭38	昭41	昭42.8.1	1 池	φ10.5 m	m	4.55 m	343 m³	1,650 m³/日	m³/日	散気管	1	62	—	—	—
2																
3																

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	1池当り寸法 幅	1池当り寸法 沪材深	1池当り 有効沪過面積	1池当り 沪材総容量	計画処理量 下水量	計画処理量 返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	mm	孔
1															
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	1池当りの寸法 幅	1池当りの寸法 有効水深	1池当り 有効水面積	1池当り 有効容量	1池当り 堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥 集泥機の速度	排泥方法
				池	m	m	m	m²	m³	m	m³/日	m³			
1															
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名　深川湾

その混水量および平水量
放流位置　仙崎 1220 番地先海面
処理水放流前の河川水のBOD　海水

長門市 俵山湯町 下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理)

〃 (第2次処理) 昭和36年度

② 共用開始年月日(第1次処理)

③ 〃 (第2次処理) 昭和37 8月1日

④ 下水排除方式 合流式 (分流式)

⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量		晴天時1日最大処理量		雨天時最大処理量	
	現在	計画	現在	計画	現在	計画
第1次処理	m³/日	m³/日	m³/日	m³/日	m³/日	m³/日
第2次処理	450	450	1,350	1,350	1,350	1,350

⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

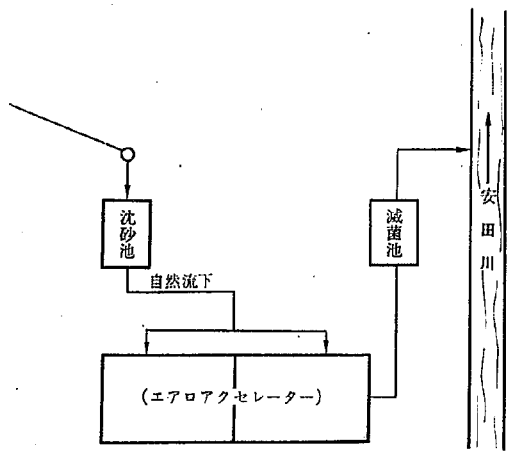
処理面積		処理人口			産業排水量	
現在	計画	現在排水人口	水洗便所使用人口	計画処理人口	現在	計画
4.36 ha	4.36 ha	1,200 人	1,200 人	2,500 人	0 m³/日	0 m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用) 1 池	(雨天時用) 0 池
スクリーン	(晴天時用) 1 基	(雨天時用) 0 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 0 台	(雨天時用) 0 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) 0 池	(雨天時用) 0 池
最初沈澱池	(晴天時用) 0 池	(雨天時用) 0 池
2階タンク	(晴天時用) 0 池	(雨天時用) 0 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 0 台	(雨天時用) 0
エアレーションタンク	(高級処理用) 1 池	(中級処理用) 0 池
散水沪床	(高速用) 0 池	(標準用) 0 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式)	(数量) 0 台
最後沈澱池	(活性汚泥用) 0 池	(散水炉床用) 0 池
滅菌池	(晴天時用) 1 池	(晴雨天時兼用) 0 池

⑧ フローシート

<第1次および第2次処理>



<下水汚泥処理>

⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
				池	m	m	m	m²	m³	m	m³/日	m³			
1															
2															
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1	昭36.	昭36	37. 8. 1	2 池	10 m	8.6 m	3.5 m	300 m³	225 m³/日	m³/日	散気管	2	2	インペラー付	2	1.00φ
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
				基	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日			倍	
1																
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
				基	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	mm	個
1															
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
				池	m	m	m	m²	m³	m	m³/日	m³			
1															
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先

放流河川名 木屋川水系 安田川 5m3/s

その渇水量および平水量

放流位置 長門市俵山字湯の仲 5.046

処理水放流前の河川水のBOD 2ppm

小郡市長谷　下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理)　昭和36年度
〃　(第2次処理)　昭和37年度
② 共用開始年月日(第1次処理)　昭和42年9月1日
③ 〃　(第2次処理)　〃
④ 下水排除方式　(合流式)　分流式
⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量		晴天時1日最大処理量		雨天時最大処理量	
	現在	計画	現在	計画	現在	計画
第1次処理	3,750 m³/日	6,410 m³/日	9,150 m³/日	9,150 m³/日	16,000 m³/日	19,230 m³/日
第2次処理	3,200	6,410	3,200	6,410	3,200	6,410

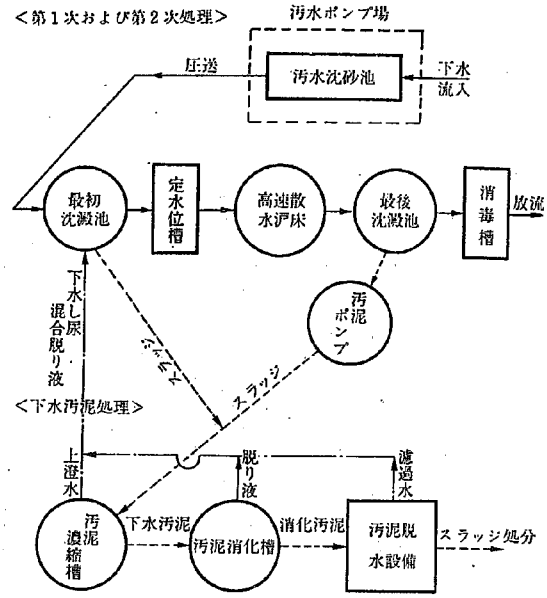
⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

処理面積		処理人口			産業排水量	
現在	計画	現在排水人口	水洗便所使用人口	計画処理人口	現在	計画
16.00 ha	60.85 ha	3,000 人	800 人	26,000 人	m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用) 1 池	(雨天時用) 2 池
スクリーン	(晴天時用) 2 基	(雨天時用) 4 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 2 台	(雨天時用) 2 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) − 池	(雨天時用) − 池
最初沈澱池	(晴天時用) 1 池	(雨天時用) − 池
2階タンク	(晴天時用) − 池	(雨天時用) − 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) − 台	(雨天時用) −
エアレーションタンク	(高級処理用) − 池	(中級処理用) − 池
散水沪床	(高速用) 1 池	(標準用) − 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式)	(数量) − 台
最後沈澱池	(活性汚泥用) − 池	(散水炉床用) 1 池
滅菌池	(晴天時用) − 池	(晴雨天時兼用) 1 池

⑧ フローシート



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭37.	昭37.	42.9.1	1 池	D=11.2 m	m	2.7 m	98.5 m²	266 m³	35.2 m	3,200 m³/日	0.5 m³	升型駆動式汚泥掻寄機	1回転 12分	手動
2															
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1				池	m	m	m	m³	m³/日	m³/日						
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部1池当り 沈澱部	水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日			倍	
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1	昭37年度	昭32年度	昭42.9.1.	1 池	D=14.4 m	m	1.8 m	163 m²	29.5 m³	3,200 m³/日	m³/日	1.2 kg/m³/日	20 m³/m²/日	60~80 mm	32 個
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭32年度	昭39年度	昭42.9.1	1 池	D=11.3 m	− m	2 m	100 m²	200 m³	35 m	3,200 m³/日	0.5 m³	升型駆動式汚泥掻寄機	1回転 13分	汚泥ポンプ
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名　新川排水路

その渇水量および平水量　渇水量 5,000 m³/日　平水量 12,000 m³
放流位置
処理水放流前の河川水のBOD　放流先平均 BOD 8.2 ppm.

徳島市　中央　下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理)　昭和35年度
〃　(第2次処理)
② 共用開始年月日(第1次処理)　昭和38年10月1日
③ 〃　(第2次処理)
④ 下水排除方式　(合流式)　分流式

⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	17,344 m³/日	27,800 m³/日	36,000 m³/日	54,000 m³/日	0.42 m³/日	1.86 m³/日
第2次処理						

⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

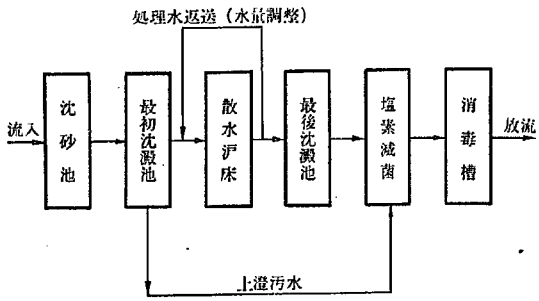
処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
284.4 ha	600.2 ha	47,400 人	17,613 人	150,000 人	m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

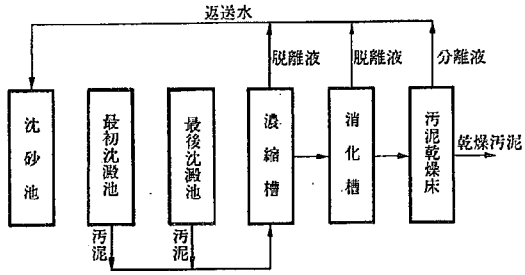
沈砂池	(晴天時用) 1 池	(雨天時用) 1 池
スクリーン	(晴天時用) 1 基	(雨天時用) 1 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 4 台	(雨天時用) 4 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
最初沈澱池	(晴天時用) 4 池	(雨天時用) 池
2階タンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 2 台	(雨天時用)
エアレーションタンク	(高級処理用) 池	(中級処理用) 池
散水沪床	(高速用) 2 池	(標準用) 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式)	(数量) 台
最後沈澱池	(活性汚泥用) 池	(散水炉床用) 2 池
滅菌池	(晴天時用) 1 池	(晴雨天時兼用) 池

⑧ フローシート

<第1次および第2次処理>



<下水汚泥処理>



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭35	昭38	38.10.1	2 池	30 m	8 m	3.5 m	240 m²	840 m³	66.5 m	8,000 m³/日	7.5 m³	かき寄せ(リンクベルト式)	0.3 m/min	汚泥ポンプ
2	35	38	38.10.1	2	30	8	3.5	240	840	66.5	8,000	7.5	かき寄せ(リンクベルト式)	0.3 m/min	〃
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械撹拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1				池	m	m	m	m³	m³/日	m³/日						
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	撹拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日			倍	
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	mm	孔
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭37	昭37	昭38.10.1	2 池	46 m	8 m	2.5 m	208 m²	520 m³	75 m	8,000 m³/日	7.5 m³	かき寄せ(リンクベルト式)	0.3 m/min	汚泥ポンプ
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先

放流河川名　2級河川御座船川

その湧水量および平水量　渇水常時 105 m³　平水量 250 m³
放流位置　御座船川河口より上流 800 m（徳島市南昭和町4丁目地番地）
処理水放流前の河川水のBOD　渇水時 27.42 PPM　平水時 27.77 PPM

松山都市・松山 下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理) 昭和33年度
〃 (第2次処理) 〃 38年度
② 共用開始年月日(第1次処理) 〃 37年7月10日
③ 〃 (第2次処理) 〃 39年5月22日
④ 下水排除方式 (合流式) 分流式
⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量		晴天時1日最大処理量		雨天時最大処理量	
	現在	計画	現在	計画	現在	計画
第1次処理	35,027 m³/日	43,280 m³/日	43,260 m³/日	64,800 m³/日	43,260 m³/日	129,888 m³/日
第2次処理	31,031	43,280	38,042	64,800	38,042	86,460

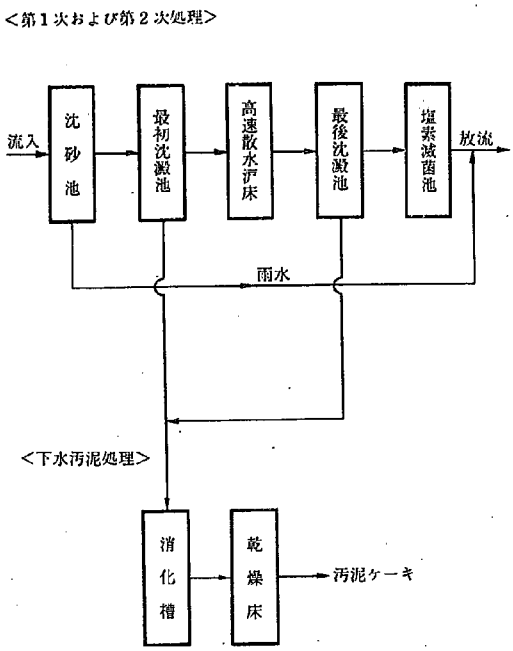
⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

処理面積		処理人口			産業排水量	
現在	計画	現在排水人口	水洗便所使用人口	計画処理人口	現在	計画
45 ha	846 ha	47,400 人	14,700 人	157,000 人	1,000 m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用) 1 池	(雨天時用) 2 池
スクリーン	(晴天時用) 3 基	(雨天時用) 2 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 5 台	(雨天時用) 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
最初沈澱池	(晴天時用) 2 池	(雨天時用) 池
2階タンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 台	(雨天時用)
エアレーションタンク	(高級処理用) 池	(中級処理用) 池
散水沪床	(高速用) 3 池	(標準用) 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式)	(数量) 台
最後沈澱池	(活性汚泥用) 池	(散水炉床用) 2 池
滅菌池	(晴天時用) 1 池	(晴雨天時兼用) 池

⑧ フローシート



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭.34 (エアレ兼用)	昭35	昭37.7.10	1 池	径36.0 m	m	2.0~2.9 m	1,015 m²	3,043 m³	1.15 m	43,280 m³/日	11.1 m³	フリクションヤー	2.1 m/分	ポンプ引抜
2	昭40	〃 40	〃 41.4.28	1	〃 36.0		〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1				池	m	m	m	m³	m³/日	m³/日						
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日			倍	
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1	昭38	昭38	昭39.5.22	1 池	径30 m	m	1.5 m	689.9 m²	1,034.9 m³	21,648.0 m³/日	10,820 m³/日	1.4 kg/m³/日	31 m³/m²/日	100~150 mm	296 個
2	39	39	40.4.17	1	〃		〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
3	41	41	42.4.3	1	〃		〃	704.7	1,047.1	〃	〃	〃	〃	〃	297

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭38	昭38	昭39.5.22	1 池	径30 m	m	2.0~3.6 m	706 m²	2,331 m³	96 m	21,660 m³/日	10.8 m³	フリクションヤー	2.1 m/分	ポンプ引抜
2	〃 42	〃 42 (ドロ掻兼)	〃 42.4.13	1	〃		〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名 2級河川 宮前川支流 中の川
その渇水量および平水量 0~0.8 m³/sec
放流位置 松山市生石町字有境 531番地 地先
処理水放流前の河川水のBOD 10 ppm

高松市 福岡 下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理) 昭和 33 年度
〃 (第2次処理) 〃 39 年度
② 共用開始年月日(第1次処理) 〃 39 年 4 月 1 日
③ 〃 (第2次処理) 〃 40 年 4 月 1 日
④ 下水排除方式 (合流式) 分流式

⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	44,000 m³/日	45,000 m³/日	40,000 m³/日	50,000 m³/日	150,000 m³/日	150,000 m³/日
第2次処理	34,000	45,000	37,500	50,000	37,500	50,000

⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

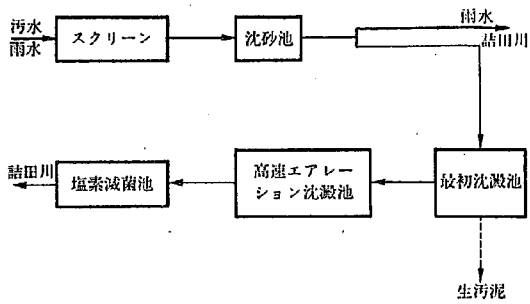
処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
685 ha	914 ha	98,000 人	23,000 人	140,000 人	7,000 m³/日	8,000 m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

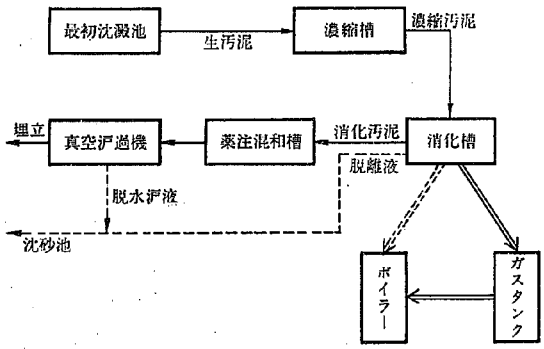
沈砂池	(晴天時用) 2 池	(雨天時用) 1 池
スクリーン	(晴天時用) 3 基	(雨天時用) 2 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 2 台	(雨天時用) 2 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
最初沈澱池	(晴天時用) 4 池	(雨天時用) 池
2階タンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 台	(雨天時用)
エアレーションタンク	(高級処理用) 池	(中級処理用) 池
散水沪床	(高速用) 池	(標準用) 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式)	(数量) 3 台
最後沈澱池	(活性汚泥用) 池	(散水炉床用) 池
滅菌池	(晴天時用) 池	(晴雨天時兼用) 1 池

⑧ フローシート

<第1次および第2次処理>



<下水汚泥処理>



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭38年度	昭38年度	昭39.4.1	2 池	30 m	9.5 m	3.3 m	285 m²	940.5 m³	69 m	11,250 m³/日	3.5 m³	フライトコンベアー	10 m/min	サイホン
2	〃41 〃	〃41 〃	〃42.4.1	2	30	9.5	3.3	285	940.5	69	11,250	3.5	〃	10 m/min	〃
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1				池	m	m	m	m³	m³/日	m³/日						
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
1	昭39年度	昭39年度	昭40.4.1	2 池	30 m	18 m	4.5 m	1,126 m³	481 m³	27 m²	60 m	11,250 m³/日	散気管	264	7 %	無
2	〃40 〃	〃40 〃	〃41.4.1	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
3	〃42 〃	〃42 〃	〃43.4.1	〃	〃	30	〃	〃	937	〃	100	〃	〃	〃	〃	〃

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	m	孔
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1				池	m	m	m	m²	m³	m	m³/日	m³			
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名 詰田川 御坊川水系 2級河川
その渇水量および平水量
放流位置 詰田川河口 左岸
処理水放流前の河川水のBOD 1.55 PPM

福岡市 中部 下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理) 昭和35年度
〃 (第2次処理) 〃
② 共用開始年月日(第1次処理) 昭和41年7月1日
③ 〃 (第2次処理) 〃
④ 下水排除方式 (合流式) 分流式
⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	48,000 m³/日	200,000 m³/日	71,000 m³/日	242,960 m³/日	m³/日	360,000 m³/日
第2次処理	48,000	200,000	71,000	242,960	71,000	242,960

⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

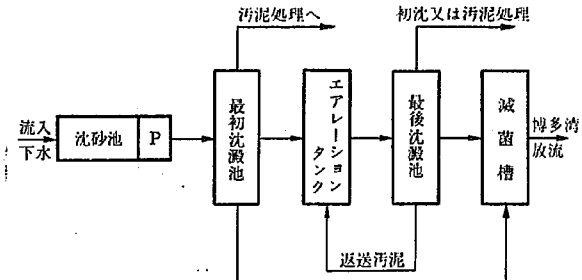
処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
1,481ha	2,346ha	114,000 人	36,000 人	370,000 人	m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

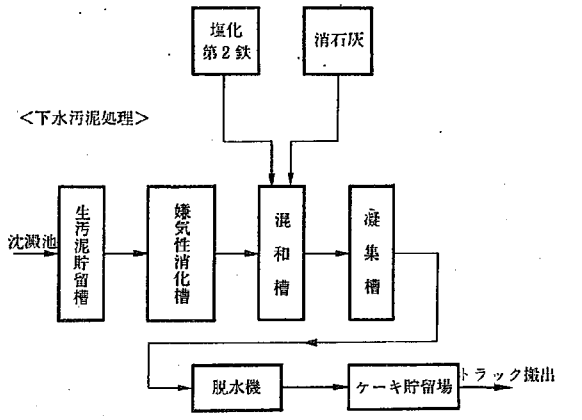
沈砂池	(晴天時用)	4 池	(雨天時用)	池
スクリーン	(晴天時用)	4 基	(雨天時用)	基
第1揚水ポンプ	(晴天時用)	2 台	(雨天時用)	台
前エアレーションタンク	(晴天時用)	池	(雨天時用)	池
最初沈澱池	(晴天時用)	2 池	(雨天時用)	池
2階タンク	(晴天時用)	池	(雨天時用)	池
第2揚水ポンプ	(汚水用)	台	(雨天時用)	
エアレーションタンク	(高級処理用)	2 池	(中級処理用)	池
散水沪床	(高速用)	池	(標準用)	池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式)		(数量)	台
最後沈澱池	(活性汚泥用)	2 池	(散水炉床用)	池
滅菌池	(晴天時用)	1 池	(晴雨天時兼用)	池

⑧ フローシート

<第1次および第2次処理>



<下水汚泥処理>



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	PB 38.8.10		PB 41.7.1	2 池	39.7 m	19.8 m	3.4 m	786 m²	2672 m³	27.4 m	120,000 m³/日	1 m³			
2		PB 39.2.27	41.7.1	2	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	ﾘﾝｸﾞｼｭﾗｰﾄﾞ式	0.7 m/min	自然圧送式(水頭差)
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1	PB 39.8.16		PB 41.7.1	2 池	46.0 m	7.0 m	4.4 m	4,742 m³	200,000 m³/日	40,000 m³/日						
2		PB 41.5.10	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	散気器	ディフューザー 4.46	4～7			
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部1池当り 沈澱部 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m²	m²	m	m³/日			倍	
2															

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	mm	個
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	PB 40.2.9		PB 41.7.1	2 池	23.7 m	38.10 m	2.83 m	716 m²	2,472 m³	23 m	120,000 m³/日	1.08 m³			
2		PB 41.5.10	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	ﾘﾝｸﾞｼｭﾗｰﾄﾞ式	0.35 m/min	ﾌﾟﾚｽｺｰﾄﾞ式
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名 博多湾

その渇水量および平水量
放流位置
処理水放流前の河川水のBOD

福岡市　西永　下水処理場

① 工事着手年度（第1次処理）　昭和41年度
〃　（第2次処理）　〃
② 共用開始年月日（第1次処理）　昭和42年11月1日
③ 〃　（第2次処理）　〃
④ 下水排除方式　合流式　分流式

⑤ 処理能力

処理システム ＼ 汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	98 m³/日	2476 m³/日	140 m³/日	2676 m³/日	m³/日	m³/日
第2次処理	〃	〃	〃	〃		

⑥ 処理面積，処理人口，産業排水量

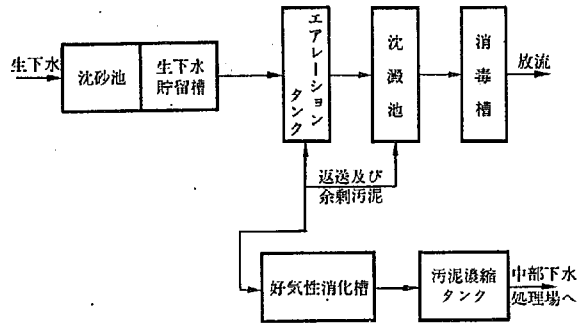
処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
35 ha	34 ha	1,400 人	1,400 人	8,000 人	m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

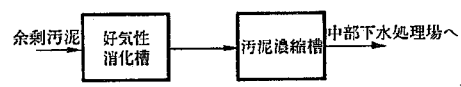
沈砂池	（晴天時用）　1 池	（雨天時用）　池
スクリーン	（晴天時用）　1 基	（雨天時用）　基
第1揚水ポンプ	（晴天時用）　3 台	（雨天時用）　台
前エアレーションタンク	（晴天時用）　池	（雨天時用）　池
最初沈澱池	（晴天時用）　池	（雨天時用）　池
2階タンク	（晴天時用）　池	（雨天時用）　池
第2揚水ポンプ	（汚水用）　台	（雨天時用）
エアレーションタンク	（高級処理用）　2 池	（中級処理用）　池
散水沪床	（高速用）　池	（標準用）　池
高速エアレーション沈澱池	（製造会社，商品名・型式）　（数量）　台	
最後沈澱池	（活性汚泥用）　2 池	（散水炉床用）　池
滅菌池	（晴天時用）　池	（晴雨天時兼用）　1 池

⑧ フローシート

<第1次および第2次処理>



<下水汚泥処理>



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
				池	m	m	m	m²	m³	m	m³/日	m³			
1															
2															
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械撹拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
				池	m	m	m	m³	m³/日	m³/日						
1	昭42	昭42	昭42.11.1	2	16.00	6.50	4.00	416.0	2476.0	772.8	散気式旋回流方式	6ボイド (416.0m²)	✓			
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	撹拌機の有無
				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日			倍	
1																
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	mm	個
1															
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
				池	m	m	m	m²	m³	m	m³/日	m³			
1	昭42	昭42	昭42.11.1	2	8.00	8.00	2.50	64.0	160.0	32.0	1,288.0		中心駆動式ロータリー式	周速 1.2 m/min	エアーリフト
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名

その湧水量および平水量
放流位置
処理水放流前の河川水のBOD

長崎 都市 茂里町 下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理) 昭和34年度
〃 (第2次処理) 昭和37年度
② 共用開始年月日(第1次処理) 昭和36年12月1日(簡易処理)
③ 〃 (第2次処理) 昭和39年9月10日(高級処理)
④ 下水排除方式 合流式 (分流式)
⑤ 処理能力 ( )は1期計画

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量		晴天時1日最大処理量		雨天時最大処理量	
	現在	計画	現在	計画	現在	計画
第1次処理	11,000 m³/日	(22,960) 9,100 m³/日	11,000 m³/日	(22,960) 9,100 m³/日	11,000 m³/日	(22,960) 9,100 m³/日
第2次処理	11,000	(22,960) 11,500	11,000	(22,960) 11,500	11,000	(22,960) 11,500

⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

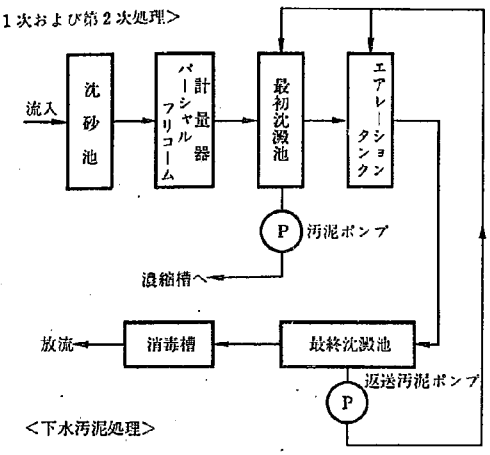
処理面積		処理人口			産業排水量	
現在	計画	現在排水人口	水洗便所使用人口	計画処理人口	現在	計画
106.0 ha	(313.1) 186.0 ha	36,700 人	14,300 人	(62,000) 20,160 人	m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用)	2 池	(雨天時用)	池
スクリーン	(晴天時用)	2 基	(雨天時用)	基
第1揚水ポンプ	(晴天時用)	— 台	(雨天時用)	台
前エアレーションタンク	(晴天時用)	— 池	(雨天時用)	池
最初沈澱池	(晴天時用)	3 池	(雨天時用)	池
2階タンク	(晴天時用)	— 池	(雨天時用)	池
第2揚水ポンプ	(汚水用)	3 台	(雨天時用)	
エアレーションタンク	(高級処理用)	2 池	(中級処理用)	池
散水沪床	(高速用)	— 池	(標準用)	池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式)		(数量)	台
最後沈澱池	(活性汚泥用)	2 池	(散水炉床用)	池
滅菌池	(晴天時用)	1 池	(晴雨天時兼用)	池

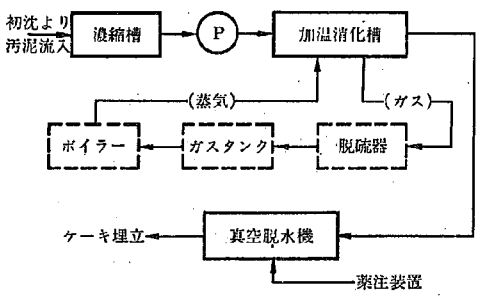
⑧ フローシート

<第1次および第2次処理>



<下水汚泥処理>

印は清掃設施を利用　Pは汚泥ポンプ



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭34.		36.12.1	3 池	20 m	5 m	2.5 m	100 m²	250 m³	5 m	3030 m³/日	6.5 m³			
2		昭35.	36.12.1	1									リンクベルト	0.3m/分～1.0m/分	ポンプ引抜
3		昭36.	37.4.1	2									〃	〃	〃
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1	昭37.			2 池	25 m	7 m	4 m	1,260 m³	5,735 m³/日	1,434 m³/日						
2	昭38	継続		別帯工事(組合施)												
3		逆組長崎市 昭37. 継続	39.9.10								散気盤	(2池分) 702枚	5.1倍			

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部1池当り 沈澱部	水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日			倍	
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	mm	孔
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭38.		39.9.10	2 池	27 m	9.2 m	2.48.4 m	993.6 m²	89 m³	6.840 m	18.8 m³/日	m³			
2		昭39.	39.9.10	2									リンクベルト	0.2m/分～0.48m/分	ポンプによる引抜
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名 浦上川

その渇水量および平水量 49,800 m³/日
放流位置 長崎市茂里町36
処理水放流前の河川水のBOD 24.2 p.p.m.

滑石町 道ノ尾地区 下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理) 昭和38年度
〃 (第2次処理) 昭和39年度
② 共用開始年月日(第1次処理) 昭和40年9月1日
③ 〃 (第2次処理) 昭和40年9月1日
④ 下水排除方式 合流式 (分流式)
⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	800 m³/日	4,000 m³/日	800 m³/日	4,000 m³/日	m³/日	4,000 m³/日
第2次処理	800	4,000	800	4,000		4,000

⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

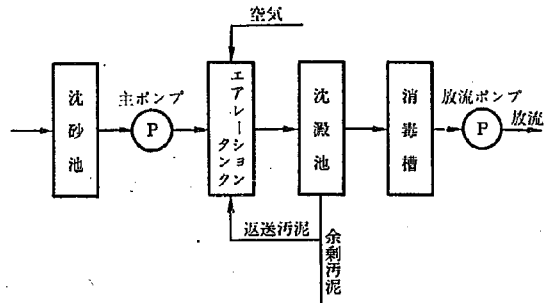
処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
17.0 ha	17.0 ha	20,000 人	4,000 人	20,000 人	m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用)	2 池	(雨天時用)	池
スクリーン	(晴天時用)	2 基	(雨天時用)	基
第1揚水ポンプ	(晴天時用)	3 台	(雨天時用)	台
前エアレーションタンク	(晴天時用)	− 池	(雨天時用)	池
最初沈澱池	(晴天時用)	− 池	(雨天時用)	池
2階タンク	(晴天時用)	− 池	(雨天時用)	池
第2揚水ポンプ	(汚水用)	− 台	(雨天時用)	
エアレーションタンク	(高級処理用)	2 池	(中級処理用)	池
散水沪床	(高速用)	− 池	(標準用)	池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式)	—	(数量)	台
最後沈澱池	(活性汚泥用)	2 池	(散水炉床用)	池
滅菌池	(晴天時用)	1 池	(晴雨天時兼用)	池

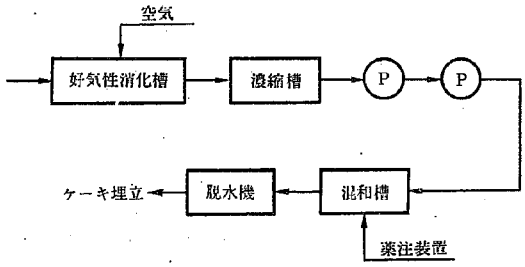
⑧ フローシート

<第1次および第2次処理>



好気性消化槽へ

注＝曝気槽の前に返送汚泥のみを再曝気する槽（再曝気槽）がありますが、当処理場においては曝気槽と再曝気槽を1槽にして運転しておりますので、実際の運転状況に合ったフロシートを図示します。



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
				池	m	m	m	m²	m³	m	m³/日	m³			
1															
2															
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械撹拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
				池	m	m	m	m³	m³/日	m³/日						
1	昭39.		昭40.9.1	2	6	22	3.78	500	2000	2000						
2		昭39.	40.9.1	1							散気ノズル	78	6.4倍			
3		昭40	41.4.1	1							〃	78	6.4倍			

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部1池当り 沈澱部 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	撹拌機の有無
				池	m	m	m	m³	m²	m	m³/日			%	
1															
2															

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	m	個
1															
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
				池	m	m	m	m²	m³	m	m³/日	m³			
1	昭39.		40.9.1	2	10	10	3.5	100	350	36	2,000	0			
2		昭39.	40.9.1	2									中央標準ピ・セン・ホ・ル式	回転 3 m/分	エアーリフト
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名 浦上川上流

その湧水量および平水量 30.2 m³/日
放流位置 長崎市住吉町20番地地先
処理水放流前の河川水のBOD 12.0 ppm

佐世保 都市 千尽（ちつくし） 下水処理場

① 工事着手年度（第1次処理） 昭和34年度

〃 （第2次処理） 昭和32年度

② 共用開始年月日（第1次処理） 昭和36年7月1日

③ 〃 （第2次処理） 〃

④ 下水排除方式 合流式 分流式

⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量		晴天時1日最大処理量		雨天時最大処理量	
	現在	計画	現在	計画	現在	計画
第1次処理	8,112 m³/日	32,064 m³/日	m³/日	m³/日	m³/日	m³/日
第2次処理	8,112	32,064				

⑥ 処理面積，処理人口，産業排水量

処理面積		処理人口			産業排水量	
現在	計画	現在排水人口	水洗便所使用人口	計画処理人口	現在	計画
337.3ha	466.85ha	46,700 人	37,780 人	152,700 人	0 m³/日	0 m³/日

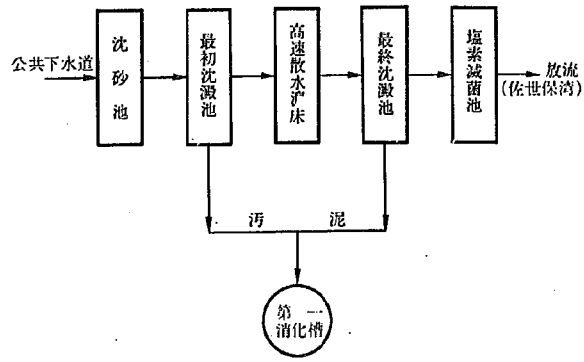
⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	（晴天時用） 1 池	（雨天時用）	池
スクリーン	（晴天時用） 3 基	（雨天時用）	基
第1揚水ポンプ	（晴天時用）	台	（雨天時用） 台
前エアレーションタンク	（晴天時用）	池	（雨天時用） 池
最初沈澱池	（晴天時用）（内1池一部稼働中） 2	池	（雨天時用） 池
2階タンク	（晴天時用）	池	（雨天時用） 池
第2揚水ポンプ	（汚水用）	台	（雨天時用）
エアレージョンタンク	（高級処理用）	池	（中級処理用） 池
散水沪床	（高速用）（内1池一部稼働中） 2	池	（標準用） 池
高速エアレーション沈澱池	（製造会社，商品名・型式）	（数量）	台
最後沈澱池	（活性汚泥用）	池	（散水炉床用）（内1池一部稼働） 2 池
滅菌池	（晴天時用）	池	（晴雨天時兼用） 1 池

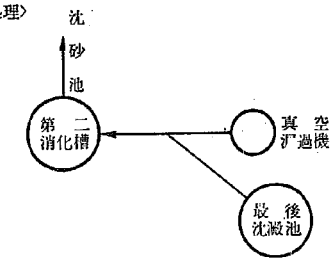
（　）は建設中のためである。

⑧ フローシート

〈第1次および第2次処理〉



〈下水汚泥処理〉



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	一部 昭和34	一部 昭34	昭36.9.1	第1期分 1	径 19.0 m	m	2.7 m	283 m²	764 m³	59.6 m	8,112 m³/日	汚泥溜 3.0 m³	フラリファイヤー	1/25 回転/分	汚泥ポンプ
2	一部 昭35	一部 昭35	〃												
3	〃	一部 昭34	昭41.4.1												
4	一部 昭40	一部 昭40	〃	第2期分 1	有効長 25.3 m	有効巾 12.0	3.0	306	918	89.1	11,976	汚泥溜 28.2	フライトコンベアー	可変減速機付 0.2～0.8 m/分	汚泥ポンプ
5	一部 昭41	一部 昭41	昭42.4.1												

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1	一部 昭32		昭36.9.1	第1期分 1	24.0 m	m	1.8 m	452 m²	1,017 m³	8,112 m³/日	0 m³/日	1.05 kg/m³/日	18.0 m³/m²/日	50～80 mm	99 孔
2	一部 昭33	一部 昭33	〃												
3	一部 昭34		〃												
4	一部 昭35	一部 昭35	〃	池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	mm	孔
5		一部 昭37	昭44.4.1												
6	一部 昭42	一部 昭42	〃	第2期分 1	38.0		1.8	612	4,187	11,976	0	1.05	19.5	上段 50～80 下段 100～150	138
7	計			池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	mm	孔
8		（註）	昭43	土木工事 機械工事	6,830千円 2,160千円	で第一期まで完了する。									
9															

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日			倍	
2																

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	一部 昭32	一部 昭33	昭36.9.1	第1期分 1	径 19.0 m	m	2.7 m	283 m²	764 m³	59.6 m	8,112 m³/日	汚泥溜 3.0 m³	フラリファイヤー	1/25 回転/分	汚泥ポンプ
2	一部 昭33	一部 昭33	〃												
3	一部 昭34		〃												
4	一部 昭37	一部 昭39	昭40.4.1	第2期分 1	有効長 30.5	13.05	2.5	398	995	106.8	11,976	汚泥溜 41.6	フライト式コンベアー	可変減速 0.2～0.8 m/分	汚泥ポンプ
5	一部 昭40		昭41.4.1												

⑩ 処理水放流先

放流河川名 佐世保湾

その渇水量および平水量

放流位置 佐世保湾

処理水放流前の河川水のBOD

熊本市 運合寺 下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理) 昭和37年
〃 (第2次処理) 昭和43年
② 共用開始年月日(第1次処理) 昭和43年1月6日
③ 〃 (第2次処理) 昭和48年4月1日
④ 下水排除方式 (合流式) 分流式
⑤ 処理能力 現在の計画による事

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	12,600 m³/日	61,740 m³/日	15,100 m³/日	74,088 m³/日	m³/日	176,464 m³/日
第2次処理		61,740		74,088		176,464

⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

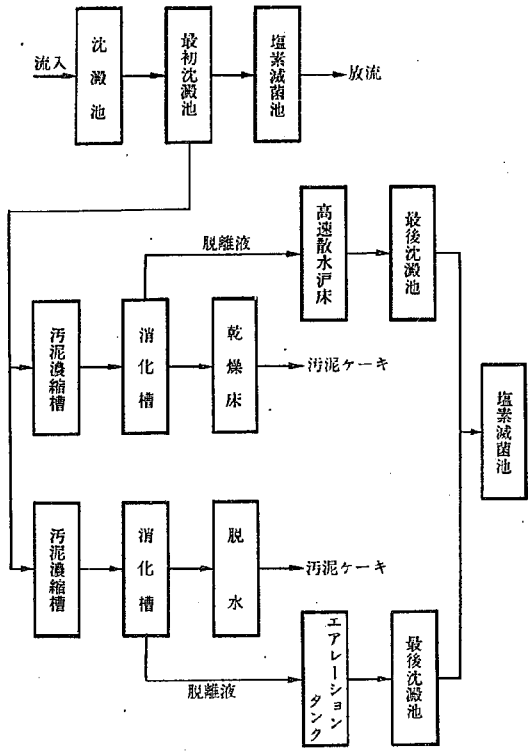
処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
1825 ha	1,288 ha	42,000 人	3,500 人	105,800 人	m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用) 2 池	(雨天時用) 池
スクリーン	(晴天時用) 2 基	(雨天時用) 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 1 台	(雨天時用) 2 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
最初沈澱池	(晴天時用) 4 池	(雨天時用) 池
2階タンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 台	(雨天時用)
エアレーションタンク	(高級処理用) 池	(中級処理用) 池
散水沪床	(高速用) 池	(標準用) 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式) (数量) 台	
最後沈澱池	(活性汚泥用) 池	(散水炉床用) 池
滅菌池	(晴天時用) 1 池	(晴雨天時兼用) 池

⑧ フローシート

<第1次および第2次処理>



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭37	昭42	昭42.12	4 池	37.0 m	7.1 m	2.3 m	208 m²	708.6 m³	62.2 m	24,588 m³/日	7.2 m³	全コレクター式スクレーパー	0.6 m/min	サイフォン
2															
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械撹拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1				池	m	m	m	m³	m³/日	m³/日						
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	撹拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日			倍	
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	m	穴
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1				池	m	m	m	m²	m³	m	m³/日	m³			
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名 一級河川 河川

その渇水量および平水量 6m³/sec 16.77 m³/sec
放流位置 熊本市運合寺920番地地先
処理水放流前の河川水のBOD 7.8 ppm

別府市 山田 下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理) 昭和26年度
〃 (第2次処理)
② 共用開始年月日(第1次処理)昭和33年12月1日
③ 〃 (第2次処理)
④ 下水排除方式 合流式 (分流式)

⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	363 m³/日	11,000 m³/日	m³/日	m³/日	m³/日	m³/日
第2次処理						

⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

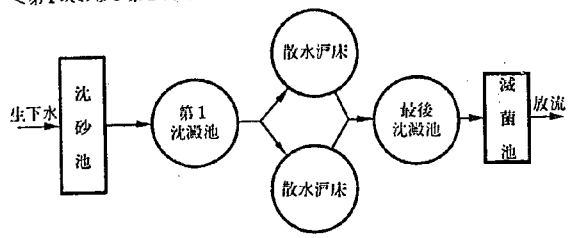
処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
1073 ha	235 ha	16,200 人	4,500 人	24,400 人	m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

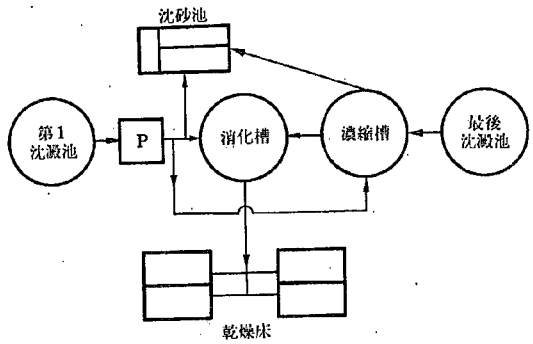
沈砂池	(晴天時用) 2 池	(雨天時用) 池
スクリーン	(晴天時用) 1 基	(雨天時用) 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 3 台	(雨天時用) 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
最初沈澱池	(晴天時用) 1 池	(雨天時用) 池
2階タンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 台	(雨天時用)
エアレーションタンク	(高級処理用) 池	(中級処理用) 池
散水沪床	(高速用) 2 池	(標準用) 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式) (数量) 台	
最後沈澱池	(活性汚泥用) 1 池	(散水炉床用) 池
滅菌池	(晴天時用) 1 池	(晴雨天時兼用) 池

⑧ フローシート

<第1次および第2次処理>



<下水汚泥処理>



消化槽 1池
濃縮槽 〃
ガスタンク 1基
乾燥床 4床

⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭29年度	昭30年度	昭33.12.1	1 池	径22.0 m	m	2.4 m	379 m²	947 m³	49 m	11,000 m³/日	3.5 m³	クラリファイヤー	4.8 M/min	ポンプ
2															
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
				池	m	m	m	m³	m³/日	m³/日						
1																
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日			倍	
1																
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
				池						m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日		個
1	昭30年度	昭30年度	昭33.12.1	1 池	径18.0 m	m	1.8 m	240 m²	450 m³	4,400 m³/日	400 m³/日	1.0 kg/m³/日	20 m³/m²/日	40~60 mm	42 個
2	〃38 〃	〃38	昭39.4.1	1	〃		〃	〃	〃	〃	〃	〃	20	〃	34
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭40年度	昭41年度	昭42.4.1	1 池	径22.0 m	m	2.4 m	379 m²	947 m³	49 m	11,000 m³/日	3.5 m³	クラリファイヤー	2.1/min	ポンプ
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名 東川見川(朝倉川水系2級河川)
その渇水量および平水量 0.99 m³/sec(渇水量) 2.43 m³/sec(平水量)
放流位置 河口より上流約 450 m
処理水放流前の河川水のBOD 2.4 PPM

鹿児島 郡 市 錦江　　下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理)

〃　(第2次処理)　昭和27年11月18日

② 共用開始年月日(第1次処理)

③ 〃　(第2次処理)　昭和30年11月29日

④ 下水排除方式　合流式　(分流式)

⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量		晴天時1日最大処理量		雨天時最大処理量	
	現在	計画	現在	計画	現在	計画
第1次処理	m³/日	m³/日	m³/日	m³/日	m³/日	m³/日
第2次処理	22,000	38,400	29,000	46,000		

⑥ 処理面積,処理人口,産業排水量

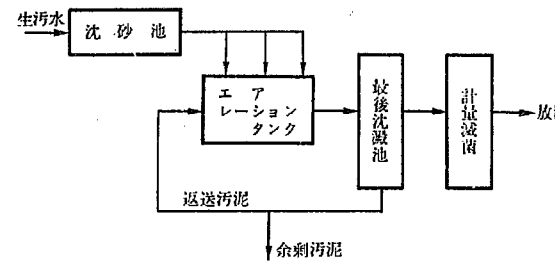
処理面積		処理人口			産業排水量	
現在	計画	現在排水人口	水洗便所使用人口	計画処理人口	現在	計画
660 ha	850 ha	130,000 人	120,000 人	160,000 人	m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

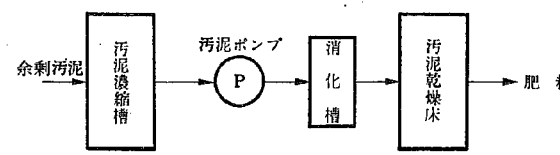
沈砂池	(晴天時用)　2 池	(雨天時用)　池
スクリーン	(晴天時用)　2 基	(雨天時用)　基
第1揚水ポンプ	(晴天時用)　4 台	(雨天時用)　台
前エアレーションタンク	(晴天時用)　池	(雨天時用)　池
最初沈澱池	(晴天時用)　池	(雨天時用)　池
2階タンク	(晴天時用)　池	(雨天時用)　池
第2揚水ポンプ	(汚水用)　台	(雨天時用)
エアレーションタンク	(高級処理用)　3 池	(中級処理用)　池
散水沪床	(高速用)　池	(標準用)　池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式)　(数量)　台	
最後沈澱池	(活性汚泥用)　9 池	(散水炉床用)　池
滅菌池	(晴天時用)　池	(晴雨天時兼用)　池

⑧ フローシート

〈第1次および第2次処理〉



〈下水汚泥処理〉



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
				池	m	m	m	m²	m³	m	m³/日	m³			
1															
2															
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械撹拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
				池	m	m	m	m³	m³/日	m³/日						
1	昭30.3.31	昭30.3.31	昭30.11.29	1	120	4	4	1920	9100	2300	散気盤	368	7.8t			
2	35.3.31	36.3.31	36.4.1	1	120	4	4	1920	9100	2300	〃	368	7.8t			
3	39.3.31	40.3.31	40.4.1	1	162	4	4	2340	11200	3000	〃	346	7.8t			

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	撹拌機の有無
				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日			倍	
1																
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	mm	個
1															
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
				池	m	m	m	m²	m³	m	m³/日	m³			
1	30.3.31		30.11.29	3	8	8	6.3	192	890	8		296	ホッパー式による自然排泥		電動弁による汚泥排出間
2	36.3.31		36.4.1	3	8	8	6.3	192	890	8		296	〃 〃		〃 〃
3	39.3.31		40.4.1	3	8	11	6.0	264	1089	10		313	〃 〃		〃 〃
4															
5															

⑩ 処理水放流先

放流河川名　甲突川河口

その渇水量および平水量　15万立方メートル

放流位置　鹿児島市錦江町27番地先

処理水放流前の河川水のBOD　22 p.p.m.

東京都港区芝浦	下水処理場

① 工事着手年度（第1次処理）　大正 13 年
〃　（第2次処理）　昭和 11 年
② 共用開始年月日（第1次処理）　昭和 6 年
③ 〃　（第2次処理）　昭和 14 年
④ 下水排除方式　（合流式）　分流式
⑤ 処理能力

処理システム ＼ 汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	415,000 m³/日	816,000 m³/日	770,000 m³/日	1,020,000 m³/日	1,370,000 m³/日	1,810,000 m³/日
第2次処理	415,000	816,000	770,000	1,020,000	770,000	1,020,000

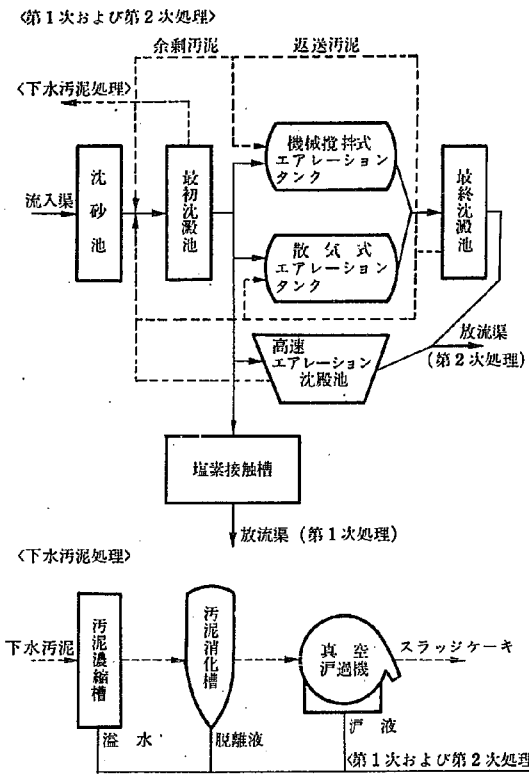
⑥ 処理面積，処理人口，産業排水量

処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
2112 ha	3,20 ha	1,365,300 人	1,365,300 人	1,030,000 人	53,400 m³/日	— m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	（晴天時用）	8 池	（雨天時用）	池
スクリーン	（晴天時用）	8 基	（雨天時用）	基
第1揚水ポンプ	（晴天時用）	14 台	（雨天時用）	台
前エアレーションタンク	（晴天時用）	0 池	（雨天時用）	池
最初沈澱池	（晴天時用）	4 池	（雨天時用）	池
2階タンク	（晴天時用）	0 池	（雨天時用）	池
第2揚水ポンプ	（汚水用）	0 台	（雨天時用）	
エアレーションタンク	（高級処理用）	20 池	（中級処理用）	池
散水沪床	（高速用）	0 池	（標準用）	池
高速エアレーション沈澱池	（製造会社，商品名・型式）	（数量） 4 台		
最後沈澱池	（活性汚泥用）	16 池	（散水炉床用）	0 池
滅菌池	（晴天時用）	0 池	（晴雨天時兼用）	0 池

⑧ フローシート



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭2.7月度	昭2.7月度	昭6.	3 池	41.72 m	41.72 m	3.66 5.57 m	2,080 m²	7,640 m³	31.5 m	215,000 m³/日	14.6 m³	永松掻寄式	1/30 r.p.m	ポンプ吸揚
2	昭9.	昭9.	昭10.	1	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	送送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械撹拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1	昭12.月度	昭12.年度	昭13.	8 池	81.2 m	9.8 m	5.6 m	3,920 m³	m³/日	m³/日				ミックレックス式	4	
2	昭32.	昭33.	昭34	6	80.0×4	6.7	4.1	8,000			散気板	2625				
3	35.	36.	37.	4	〃	〃	〃	〃			〃	2625				
4	33.	37.	38.	2	〃	〃	〃	〃			〃	〃				

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	撹拌機の有無
1	昭36.月度	昭36.年度	昭37.	2 池	40.0 m	16.0 m	4.1 m	2,000 m³	2,000 m³	400 m²	160.0 m	16,400 m³/日	散気管	4	倍	有
2	37.	37.	38.	2	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	4		〃

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	m	個
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭12年度	昭13年度	昭14.	4 池	40.0 m	20.0 m	3.6 4.6 m	800 m²	3,330 m³	227.0 m	m³/日	— m³	サイホン式	2.43 %/分	ポンプ吸揚
2	32.	32.	33.	4	〃	〃	〃	〃	〃	〃		—	〃	〃	〃
3	36.	36.	37.	6	〃	〃	〃	〃	〃	〃		—	〃	〃	〃
4	36.	37.	37.	2	〃	〃	〃	〃	〃	〃		—	〃	〃	〃
5							〃								

⑩ 処理水放流先
放流河川名　高浜運河

その渇水量および平水量
放流位置　東京都港区港南 1-2
処理水放流前の河川水のBOD　—

東京都 荒川 三河島 下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理) 大正2年
〃 (第2次処理) 大正2年
② 共用開始年月日(第1次処理) 大正12年
③ 〃 (第2次処理) 大正12年
④ 下水排除方式 (合流式) 分流式
⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	218,000 m³/日	416,000 m³/日	373,000 m³/日	520,000 m³/日	643,000 m³/日	910,000 m³/日
第2次処理	218,000	416,000	373,000	520,000	373,000	520,000

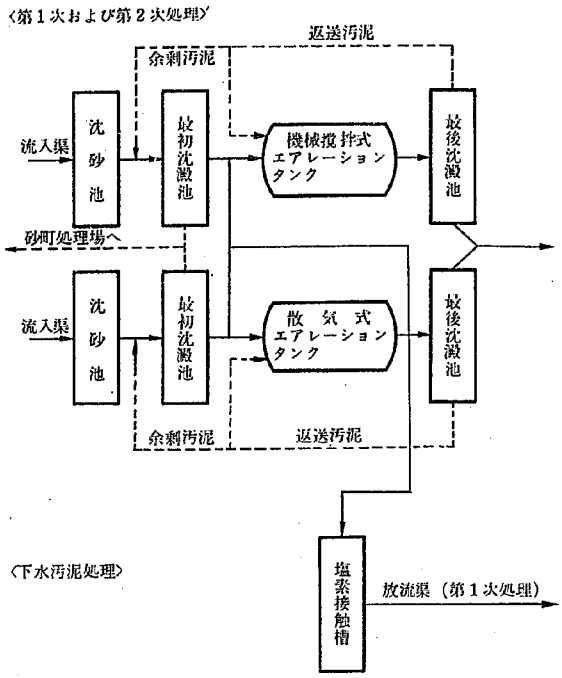
⑥ 処理面積、処理人口、産業排水量

処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
2,160 ha	2,936 ha	618,300 人	618,300 人	1,120,000 人	m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用)	2 池	(雨天時用)	0 池
スクリーン	(晴天時用)	2 基	(雨天時用)	0 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用)	10 台	(雨天時用)	0 台
前エアレーションタンク	(晴天時用)	2 池	(雨天時用)	0 池
最初沈澱池	(晴天時用)	15 池	(雨天時用)	0 池
2階タンク	(晴天時用)	0 池	(雨天時用)	0 池
第2揚水ポンプ	(汚水用)	0 台	(雨天時用)	0
エアレーションタンク	(高級処理用)	19 池	(中級処理用)	0 池
散水沪床	(高速用)	0 池	(標準用)	0 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式)		(数量)	0 台
最後沈澱池	(活性汚泥用)	19 池	(散水炉床用)	0 池
滅菌池	(晴天時用)	0 池	(晴雨天時兼用)	1 池

⑧ フローシート



⑨ 各施設の主要諸元

前エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	1池当りの寸法 幅	1池当りの寸法 有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 ~~下水流入量~~	1池当り計画処理量 ~~返送汚泥量~~	散気式の場合 散気方法	散気式の場合 個数	散気式の場合 計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	機械攪拌式の場合 個数	機械攪拌式の場合 規格寸法
1	昭61年度	昭61年度	昭42	2 池	108.3 m	6.8 m	4.2 m	3,093 m³	187,000 m³/日	m³/日	散気筒	660 枚		—	—	—
2																
3																

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	1池当りの寸法 幅	1池当りの寸法 有効水深	1池当り 有効水面積	1池当り 有効容量	1池当り 堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥 集泥機の速度	排泥方法
1	昭11年度	昭13年度	昭13	2 池	84 m	13.4+21 m	2.87 m	1,562 m²	4,440 m³	40.0 m	41,300 m³/日	18.0 m³	杉山式	1.0 m P.M	自然流下
2	〃 32 〃	〃 37 〃	〃 38	2	38	18.6-21.4	2.61-3.43	615.6	1,820	15.0	27,180	14.0	リンクベルト式	0.2 m/分	ポンプ吸揚
3	〃 32 〃	〃 33 〃	〃 34	2		16.2	2.7-2.5								
4	〃 38 〃	〃 38 〃	〃 40	2	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
5	〃 39 〃	〃 40 〃	〃 41	2	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
6	〃 41 〃	〃 41 〃	〃 42	4	〃	〃	〃	〃	〃	〃	42,400	42.0	〃	〃	〃
7	〃 42 〃	〃 42 〃	〃 43	1	36	26	3.05-3.35	936	2,875	28.0					

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	1池当りの寸法 幅	1池当りの寸法 有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	1池当り計画処理量 返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	散気式の場合 個数	散気式の場合 計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	機械攪拌式の場合 個数	機械攪拌式の場合 規格寸法
1	昭9年度	昭11年度	昭12	3 池	34.75 m	21.2+12 m	1.5 m	2,400 m³	m³/日	m³/日				パドル式	24 枚	
2	〃 11 〃	〃 11 〃	12	2	〃	〃	〃	〃						〃	〃	
3	〃 12 〃	〃 13 〃	13	2	〃	〃	〃	〃						〃	〃	
4	〃 31 〃	〃 31 〃	32	5 池	〃 m	〃 m	〃 m	〃 m³	m³/日	m³/日				〃	〃	
5	〃 34 〃	〃 38 〃	36	2	75.0×4	7.35	4.2	2,260			散気板	2,592 枚				
6	〃 38 〃	〃 39 〃	39	2	〃	〃	〃	〃			〃	2,365				
7	〃 40 〃	〃 40 〃	41	2 池	〃 m	〃 m	〃 m	〃 m³	m³/日	m³/日						
8	〃 42 〃	〃 42 〃	43	1	75.0×4	6.3	4.3	8,110			〃	2,457				
9																

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	1池当りの寸法 幅	1池当りの寸法 有効水深	1池当り 有効水面積	1池当り 有効容量	1池当り 堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥 集泥機の速度	排泥方法
1	昭10年度	昭11年度	昭12年度	4 池	33.0 m	18.0 m	3.0 m 4.3	594 m²	2,200 m³	18.0 m	m³/日	m³	杉山式	1.87 m/分	ポンプ吸揚
2	12	12	13	4	〃	〃	〃	〃	〃	〃			〃	〃	〃
3	34	35	36	3	40.0	24.0	3.3 3.7	960	3,360	500.0		18.2	リンクベルト式	1.35 〃	〃
4	38	38	40	3	〃	〃	〃	〃	〃	〃		〃	〃	〃	〃
5	41	41	42	3	〃	〃	〃	〃	〃	〃		〃	〃	〃	〃

⑩ 処理水放流先
放流河川名 荒川

その湧水量および平水量 —
放流位置 東京都荒川区 荒川 8.25
処理水放流前の河川水のBOD —

東京都 砂町 下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理) 大正14年
〃 (第2次処理) 昭和33年
② 共用開始年月日(第1次処理) 昭和5年
③ 〃 (第2次処理) 昭和34年
④ 下水排除方式 合流式 (分流式)

⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	275.000 m³/日	504.000 m³/日	343.600 m³/日	630.000 m³/日	343.600 m³/日	1,090.000 m³/日
第2次処理	275.000	504.000	343.600	630.000	343.600	630.000

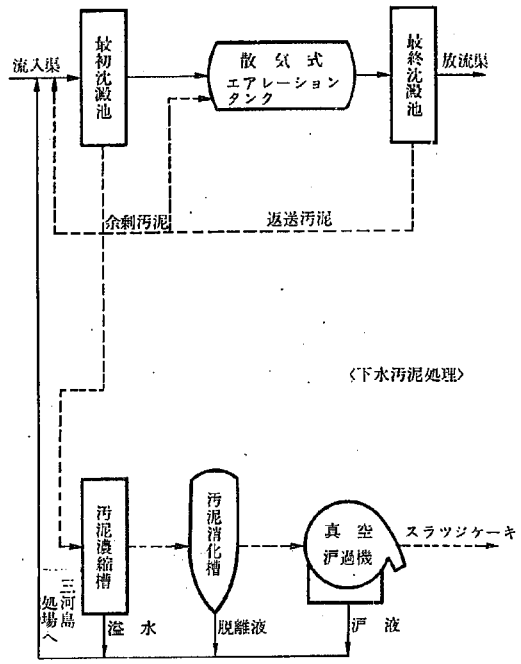
⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
1.681 km²	3.777 km²	353.600 人	353.600 人	840.000 人	67.000 m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用) 0 池	(雨天時用) 0 池
スクリーン	(晴天時用) 2 基	(雨天時用) 0 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 6 台	(雨天時用) 0 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) 0 池	(雨天時用) 0 池
最初沈澱池	(晴天時用) 7 池	(雨天時用) 0 池
2階タンク	(晴天時用) 0 池	(雨天時用) 0 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 0 台	(雨天時用) 0
エアレーションタンク	(高級処理用) 7 池	(中級処理用) 4 池
散水沪床	(高速用) 0 池	(標準用) 0 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式)	(数量) 0 台
最後沈澱池	(活性汚泥用) 10 池	(散水炉床用) 0 池
減菌池	(晴天時用) 0 池	(晴雨天時兼用) 1 池

⑧ フローシート



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭33年度	昭33年度	昭34	1 池	36.0 m	- m	3.7 m	1.013 m²	3.800 m³	182.0 m	50.450 m³/日	17.7 m³	真空吸着式	1/60 r.p.m	ポンプ吸揚
2	〃 34 〃	〃 34 〃	〃 35	1	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
3	〃 35 〃	〃 35 〃	〃 36	1	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
4	〃 36 〃	〃 36 〃	〃 37	2	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
	〃 41 〃	〃 41 〃	〃 42	2	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
	〃 42 〃	〃 42 〃	〃 43	2	40.0	25.2	2.0〜3.4	1.008	3.225	120.0	40.910	22.9	リンベルト式	0.7 m/分	〃
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1	昭33年度	昭34年度	昭35	4 池	30.0×4 m	6.3 m	4.2 m	3.460 m³	m³/日	m³/日	散気板	2.592 m²	27 %			
2	〃 35 〃	〃 35 〃	〃 36	2	〃	〃	〃	〃			〃	3.024 〃				
	〃 36 〃	〃 37 〃	〃 37	2	〃	〃	〃	〃			〃	3.528 〃				
3	〃 41 〃	〃 42 〃	〃 43	1	45.0×8	6.0	4.2	3.070			〃	3.150 〃				
	〃 42 〃	〃 〃	〃 〃	1	〃	〃	〃	〃			〃	〃				

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部1池当り 沈澱部	水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m²	m²	m	m³/日			%	
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	m	個
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭34年度	昭34年度	昭35年度	4 池	45.0 m	25.0 m	4.6 m	1.125 m²	4.000 m³	320.0 m	m³/日	21.0 m³	リンベルト式	0.35 m/分	自動吸揚
2	〃 36 〃	〃 36	〃 37	2	〃	〃	〃	〃	〃	〃		〃	〃	〃	〃
3	〃 36 〃	〃 37	〃 38	2	〃	〃	〃	〃	〃	〃		〃	〃	〃	〃
4	〃 42 〃	〃 42	〃 43	2	35.0	25.0	4.6	0.875	2.625	276.0		18.5	〃	〃	〃
5	〃 42 〃	-	-	2	〃	〃	〃	〃	〃	〃		〃	-	-	-

⑩ 処理水放流先
放流河川名 東京湾

その渇水量および平水量 —
放流位置 東京都江東区南砂町 9-2 地先
処理水放流前の河川水のBOD —

東京都 小台 下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理) 昭和32年
〃 (第2次処理) 〃
② 共用開始年月日(第1次処理) 昭和37年
③ 〃 (第2次処理) 〃
④ 下水排除方式 (合流式) 分流式
⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	286,000 m³/日	336,000 m³/日	358,000 m³/日	420,000 m³/日	640,000 m³/日	750,000 m³/日
第2次処理	286,000	336,000	358,000	420,000	358,000	420,000

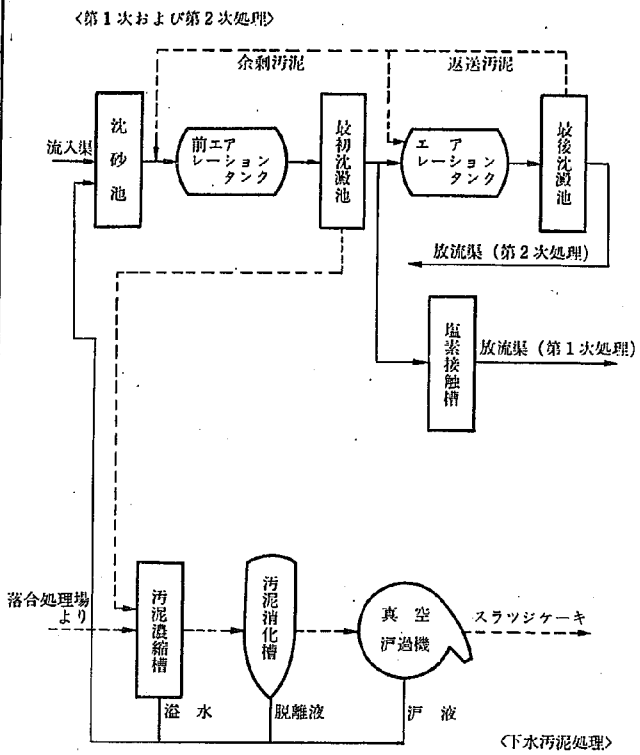
⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
3,021 ha	3,619 ha	496,700 人	496,700 人	770,000 人	55,000 m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用)	3 池	(雨天時用)	0 池
スクリーン	(晴天時用)	3 基	(雨天時用)	0 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用)	7 台	(雨天時用)	0 台
前エアレーションタンク	(晴天時用)	2 池	(雨天時用)	0 池
最初沈澱池	(晴天時用)	6 池	(雨天時用)	0 池
2階タンク	(晴天時用)	0 池	(雨天時用)	0 池
第2揚水ポンプ	(汚水用)	0 台	(雨天時用)	0
エアレーションタンク	(高級処理用)	8 池	(中級処理用)	0 池
散水沪床	(高速用)	0 池	(標準用)	0 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式)		(数量)	0 台
最後沈澱池	(活性汚泥用)	8 池	(散水沪床用)	0 池
滅菌池	(晴天時用)	0 池	(晴雨天時兼用)	1 池

⑧ フローシート



〈下水汚泥処理〉

⑨ 各施設の主要諸元

前エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械撹拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1	昭33年度	昭35年度	昭37.	1 池	41.42 m	6.0 m	4.4 m	2,700 m³	210,000 m³/日	m³/日	散気筒	440本				
2	37.	39.	40.	1	〃	〃	〃	〃	〃		〃	〃				
3																

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭33年度	昭35年度	昭37.	2 池	50.0 m	20.0 m	3.6 5.0 m	1,000 m²	3,400 m³	20.0 m	70,000 m³/日	20.4 m³	リングベルト式	0.7 m/分	ポンプ吸場
2	33.	38.	37.	1	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
3	37.	39.	40.	3	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械撹拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1	昭34年度	昭35年度	昭37年	2 池	70.0×4 m	6.3 m	4.2 m	7,140 m³	m³/日	m³/日	散気板	2,268枚				
2	34.	38.	40.	〃	〃	〃	〃	〃			〃	〃				
3	39	39	40	4	〃	〃	〃	〃			〃	〃				

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	mm	孔
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭34年度	昭36年度	昭37年	2 池	50.0 m	20.0 m	4.0 5.4 m	1,000 m²	3,900 m³	3/2.9 m	m³/日	20.4 m³	リングベルト式	0.3 m	ポンプ吸場
2	34.	38.	40.	2	〃	〃	〃	〃	〃	〃		〃	〃	〃	〃
3	39.	39.	40.	4	〃	〃	〃	〃	〃	〃		〃	〃	〃	〃
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名 荒川

その渇水量および平水量
放流位置 東京都足立区宮城 2-1-14 地先
処理水放流前の河川水のBOD

東京都市落合 下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理) 昭和35年
〃 (第2次処理) 〃
② 共用開始年月日(第1次処理) 昭和37年
③ 〃 (第2次処理) 〃
④ 下水排除方式 (合流式) 分流式

⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	180,000 m³/日	360,000 m³/日	225,000 m³/日	450,000 m³/日	315,000 m³/日	720,000 m³/日
第2次処理	180,000	360,000	225,000	450,000	225,000	450,000

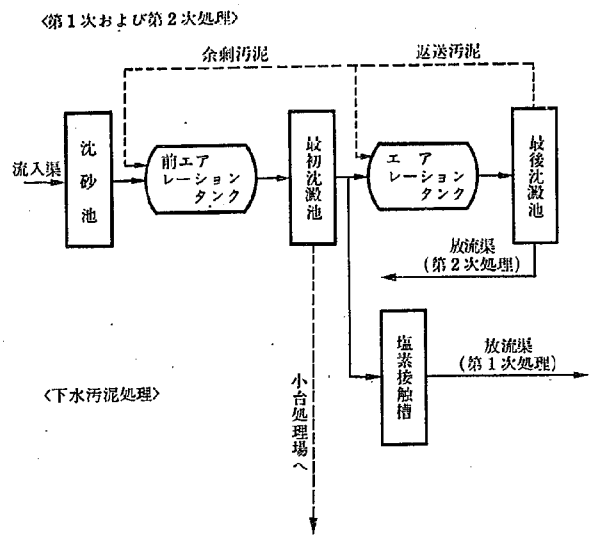
⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
3206 ha	6151 ha	505,400 人	505,400 人	1,230,000 人	4000 m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用)	5 池	(雨天時用)	0 池
スクリーン	(晴天時用)	5 基	(雨天時用)	0 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用)	10 台	(雨天時用)	0 台
前エアレーションタンク	(晴天時用)	2 池	(雨天時用)	0 池
最初沈澱池	(晴天時用)	4 池	(雨天時用)	0 池
2階タンク	(晴天時用)	0 池	(雨天時用)	0 池
第2揚水ポンプ	(汚水用)	0 台	(雨天時用)	0
エアレーションタンク	(高級処理用)	4 池	(中級処理用)	0 池
散水沪床	(高速用)	0 池	(標準用)	0 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式)		(数量)	0 台
最後沈澱池	(活性汚泥用)	5 池	(散水炉床用)	池
滅菌池	(晴天時用)	0 池	(晴雨天時兼用)	1 池

⑧ フローシート



⑨ 各施設の主要諸元

前エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	1池当りの寸法 幅	1池当りの寸法 有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	1池当り計画処理量 返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	散気式の場合 個数	散気式の場合 計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	機械攪拌式の場合 個数	機械攪拌式の場合 規格寸法
1	昭36年度	昭38年度	昭39	2 池	40.0×2 m	5.4 m	4.0~4.5 m	1,940 m³	m³/日	112,500 m³/日	散気筒	432 ケ				

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	1池当りの寸法 幅	1池当りの寸法 有効水深	1池当り 有効水面積	1池当り 有効容量	1池当り 堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥 集泥機の速度	排泥方法
1	昭36年度	昭38年度	昭39	2 池	40.0 m	20.0 m	2.8~3.8 m	800 m²	2,560 m³	20.0 m	56,250 m³/日	22.8 m³	リンクベルト式	0.7 m/分	ポンプ吸揚
2	〃 36 〃	〃 41 〃	〃 42	2	〃	〃	〃 ~ 〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	1池当りの寸法 幅	1池当りの寸法 有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	1池当り計画処理量 返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	散気式の場合 個数	散気式の場合 計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	機械攪拌式の場合 個数	機械攪拌式の場合 規格寸法
1	昭37年度	昭38年度	昭39年	2 池	3.96×8 m	6.3 m	4.55 m	7,080 m³	m³/日	m³/日	散気板	270 ケ				
2	〃 〃	〃 41 〃	〃 42	2	〃	〃	〃	〃			〃					
3																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	1池当り寸法 幅	1池当り寸法 沪材深	1池当り 有効沪過面積	1池当り 沪材総容量	計画処理量 下水量	計画処理量 返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	m	孔
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	1池当りの寸法 幅	1池当りの寸法 有効水深	1池当り 有効水面積	1池当り 有効容量	1池当り 堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥 集泥機の速度	排泥方法
1	昭38年度	昭38年度	昭39	2 池	40.0 m	20.0 m	2.3~2.8 m	800 m²	4,240 m³	160.0 m	m³/日	535 m³	リンクベルト式	0.35 m/分	ポンプ吸揚
2	〃 38 〃	〃 40 〃	〃 41	2	〃	〃	〃	〃	〃	〃		〃	〃	〃	〃
3	〃 38 〃	〃 41 〃	〃 42	1	〃	〃	〃	〃	〃	〃		〃	〃	〃	〃
4	〃														
5	〃														

⑩ 処理水放流先
放流河川名 神田川

その渇水量および平水量 —
放流位置 東京都千代田区上落合 12-40 地先
処理水放流前の河川水のBOD —

東京都 森ヶ崎 下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理) 昭和37年
〃 (第2次処理) 〃
② 共用開始年月日(第1次処理) 昭和42年
③ 〃 (第2次処理) 〃
④ 下水排除方式 合流式 分流式

⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	92,000 m³/日	248,000 m³/日	40,000 m³/日	1,060,000 m³/日	40,000 m³/日	1,860,000 m³/日
第2次処理	92,000	248,000	40,000	1,060,000	40,000	1,060,000

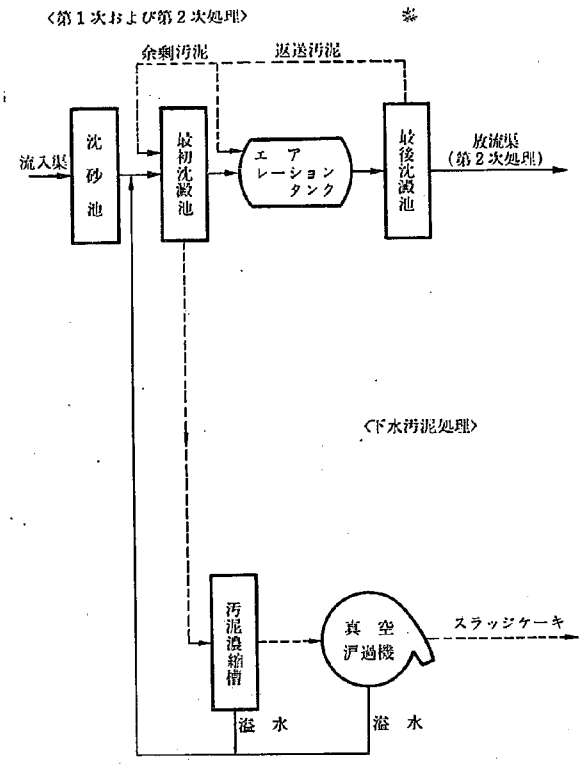
⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
1,440ha	2,332ha	30,200 人	30,200 人	1,320,000 人	400 m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用) 2 池	(雨天時用) 2 池
スクリーン	(晴天時用) 2 基	(雨天時用) 2 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 3 台	(雨天時用) 4 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) 0 池	(雨天時用) 0 池
最初沈澱池	(晴天時用) 2 池	(雨天時用) 0 池
2階タンク	(晴天時用) 0 池	(雨天時用) 0 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 0 台	(雨天時用) 0
エアレーションタンク	(高級処理用) 2 池	(中級処理用) 0 池
散水沪床	(高速用) 0 池	(標準用) 0 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式)	(数量) 0 台
最後沈澱池	(活性汚泥用) 2 池	(散水炉床用) 0 池
滅菌池	(晴天時用) 0 池	(晴雨天時兼用) 0 池

⑧ フローシート



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭41年度	昭41年度	昭42	1 池	48.0 m	24.4 m	3.25 m	1,170 m²	3,810 m³	24.4 m	122,400 m³/日	14.0 m³	リフバット式	0.7 m/分	ポンプ吸揚
2	〃41〃	〃42		3	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1				池	m	m	m	m³	m³/日	m³/日						
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日				
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	mm	個
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1				池	m	m	m	m²	m³	m	m³/日	m³			
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名 東京湾

その渇水量および平水量 —
放流位置 東京都大田区大森南5-2地先
処理水放流前の河川水のBOD —

横浜市 中部 下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理) 昭和 34年4月
〃 (第2次処理) 〃 34年4月
② 共用開始年月日(第1次処理) 〃 37年7月
③ 〃 (第2次処理) 〃 37年7月
④ 下水排除方式 (合流式) 分流式

⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	63,400 m³/日	66,800 m³/日	108,600 m³/日	84,200 m³/日	113,300 m³/日	25,900 m³/日
第2次処理	44,060	66,800	44,100	84,200	50,400 m³/日	

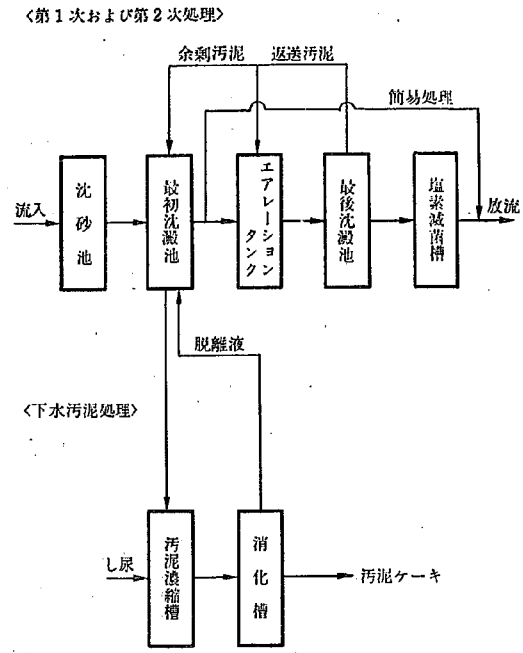
⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
948 ha	2740 ha	111,700 人	81,600 人	162,000 人	m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用) 1 池	(雨天時用) 1 池
スクリーン (粗目)	(晴天時用) 2 基	(雨天時用) 9 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 4 台	(雨天時用) 5 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
最初沈澱池	(晴天時用) 6 池	(雨天時用) 池
2階タンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 台	(雨天時用)
エアレーションタンク	(高級処理用) 4 池	(中級処理用) 池
散水沪床	(高速用) 池	(標準用) 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式)	(数量) 台
最後沈澱池	(活性汚泥用) 4 池	(散水炉床用) 池
滅菌池	(晴天時用) 池	(晴雨天時兼用) 池

⑧ フローシート



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭34	昭36	昭37.7.1	6	28.0 m	9.0 m	2.7 m	217 m²	802 m³	57.5 m	10,800 m³/日	7.5 m³	リンクベルト式スクレーパー	0.2～0.8 m/分	自重水圧由来
2	昭41	〃 41	〃42.7.1	6	33.0	9.0	2.7	217	802	57.5	10,800	7.5	〃	0.2～0.8 m/分	自重水圧由来
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1	昭34	昭36	昭37.7.1	2	80.0 m	6.5 m	5.0 m	2,600 m³	16,200 m³/日	4050 m³/日	スクリングディフューザー	768本	6			
2	〃 41	〃 41	〃42.7.1	2	80.0	7.0	5.0	2,800	16,200	4050	〃	768本	6			
3											(ダンプ式散気装置)					

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日			倍	
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1				基	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	mm	穴
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭35	昭36	昭37.7.1	2	34.0 m	13.8 m	3.5 m	469 m²	1642 m³	156 m	16,200 m³/日	m³	可動汚泥管	差動式速度 0.1～0.8 m/分	主動式ポンプ
2	〃 41	〃 41	〃42.7.1	2	34.0	13.8	3.5	469	1642	156	16,200		可動汚泥管	〃	
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名 横浜港(代替海面)
その混水量および平水量 (干満の影響あり)
放流位置 河口
処理水放流前の河川水のBOD 6.6 mg/l

横浜 都市 南部 下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理) 昭和37年度

〃 (第2次処理) 〃

② 共用開始年月日(第1次処理) 昭和40年7月1日

③ 〃 (第2次処理) 〃

④ 下水排除方式 (合流式) 分流式

⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	78,000 m³/日	268,000 m³/日	141,960 m³/日	487,760 m³/日	312,000 m³/日	1,072,000 m³/日
第2次処理	70,000	268,000	141,960	487,760	141,960	487,760

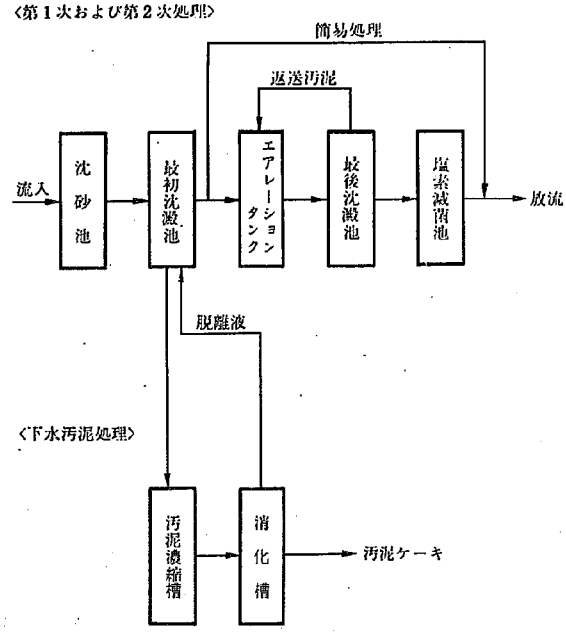
⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
352.8 ha	2,081 ha	69,500 人	36,600 人	670,000 人	m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用) 2 池	(雨天時用) 2 (晴天時と205 m³/日用) 池
スクリーン	(晴天時用) 4 基	(雨天時用) 4 (〃) 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 4 台	(雨天時用) 4 (〃) 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
最初沈澱池	(晴天時用) 4 池	(雨天時用) 4 (〃) 池
2階タンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 台	(雨天時用)
エアレーションタンク	(高級処理用) 2 池	(中級処理用) 池
散水沪床	(高速用) 池	(標準用) 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式)	(数量) 台
最後沈澱池	(活性汚泥用) 4 池	(散水炉床用) 池
滅菌池	(晴天時用) 池	(晴雨天時兼用) 1 池

⑧ フローシート



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭38.	昭39.	昭40.7.1.	4 池	34.0 m	13.5 m	3.35 m	486 m²	1,628 m³	105 m	22,333 m³/日	12 m³	リンクベルト式汚泥掻寄機	0.2～0.8 標準0.3 m/min	フリード型ポンプ自動引抜
2															
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1	昭39.	昭40.	昭41.7.19	2 池	152.0 m	7.5 m	5.0 m	5,700 m³	22,333 m³/日	5,583 m³/日	スパイラルフロー(ナッシ多孔拡散管)	1,466 本	6倍			
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
1				池	〃 m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日			倍	
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	mm	個
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭39.	昭40.	昭41.7.19.	4 池	45.0 m	13.8 m	3.5 m	621.0 m²	2,173 m³	177 m	22,330 m³/日	15 m³	ラックベルト式汚泥掻寄機	0.2～0.8 標準0.3 m/min	サイフォン式(バルブ付越流管)
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先

放流河川名 横浜 根岸湾

その沿水量および平水量

放流位置

処理水放流前の河川水のBOD 7.6 mg/l

名古屋 都市 堀留 下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理) 昭和3年
〃 (第2次処理) 〃
② 共用開始年月日(第1次処理) 昭和5年9月
③ 〃 (第2次処理) 〃
④ 下水排除方式 (合流式) 分流式
⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	56,000 m³/日	140,000 m³/日	63,000 m³/日	210,000 m³/日	m³/日	m³/日
第2次処理	〃	〃	〃	〃		

⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

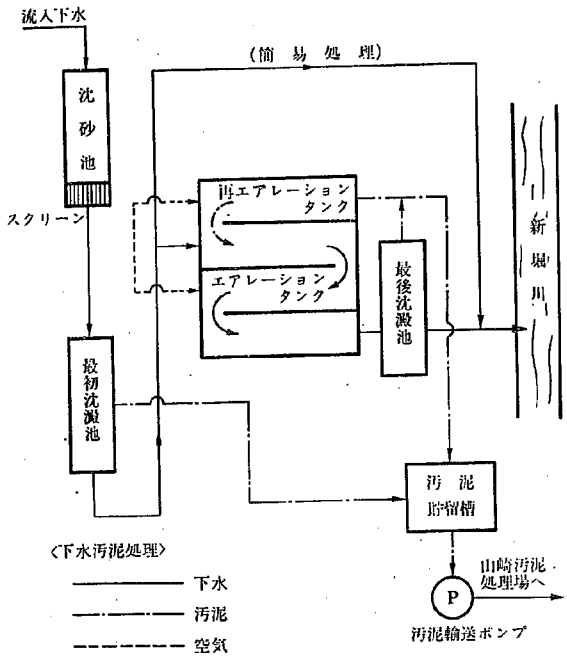
処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
1290.9 ha	1298.9 ha	177,000 人	129,000 人	312,000 人	m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用)	4 池	(雨天時用)	池
スクリーン	(晴天時用)	4 基	(雨天時用)	基
第1揚水ポンプ	(晴天時用)	台	(雨天時用)	台
前エアレーションタンク	(晴天時用)	池	(雨天時用)	池
最初沈澱池	(晴天時用)	2 池	(雨天時用)	池
2階タンク	(晴天時用)	池	(雨天時用)	池
第2揚水ポンプ	(汚水用)	台	(雨天時用)	
エアレーションタンク	(高級処理用)	8 池	(中級処理用)	池
散水沪床	(高速用)	池	(標準用)	池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式)		(数量)	台
最後沈澱池	(活性汚泥用)	16 池	(散水沪床用)	池
滅菌池	(晴天時用)	1 池	(晴雨天時兼用)	池

⑧ フローシート

〈第1次および第2次処理〉



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
				池	m	m	m	m²	m³	m	m³/日	m³			
1	昭5	昭5	昭5.9	2	16.36	3.94	3.01	64.5	245.8	3.48	30,000	98	リンクベルト	3.1 m/sec	エアーリフト
2															
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
				池	m	m	m	m³	m³/日	m³/日		本				
1	昭5	昭5	昭5.9	8	141.75	2.12	4.8	1,142	7,000	1,950	散気板	1256	3.3			
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日			倍	
1																
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	mm	孔
1															
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
				池	m	m	m	m²	m³	m	m³/日	m³			
1	昭5	昭5	昭5.9	16	6.06	6.06	9.60	36.72	18.0	18	3,500	64	普通流 ポンプ		エアーリフト
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名 新堀川
その渇水量および平水量
放流位置 名古屋市中区東川端町 1-48地先
処理水放流前の河川水のBOD 43

名古屋市　名城　下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理)　昭和38年
〃　(第2次処理)　昭和38年
② 共用開始年月日(第1次処理)　昭和40年4月1日
③ 〃　(第2次処理)　昭和40年4月1日
④ 下水排除方式　合流式　分流式

⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量		晴天時1日最大処理量		雨天時最大処理量	
	現在	計画	現在	計画	現在	計画
第1次処理	60,000 m³/日	100,000 m³/日	90,000 m³/日	145,000 m³/日	m³/日	m³/日
第2次処理	60,000	100,000	90,000	145,000		

⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

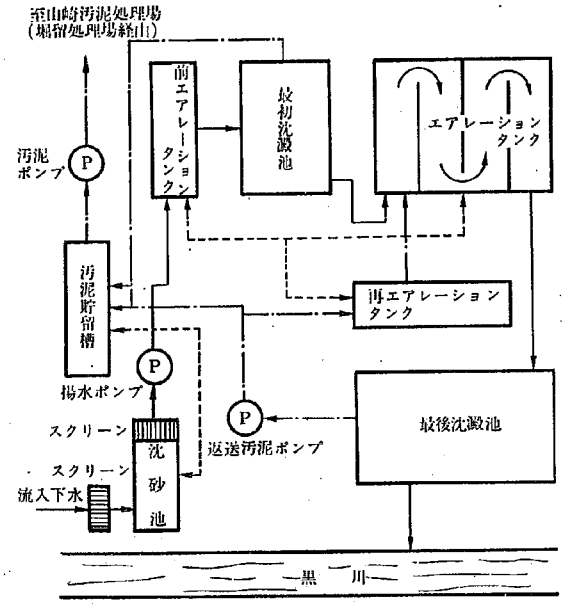
処理面積		処理人口			産業排水量	
現在	計画	現在排水人口	水洗便所使用人口	計画処理人口	現在	計画
1098 ha	1499 ha	149,000 人	90,000 人	180,000 人	m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用)	1 池	(雨天時用)	池
スクリーン	(晴天時用)	3 基	(雨天時用)	基
第1揚水ポンプ	(晴天時用)	4 台	(雨天時用)	台
前エアレーションタンク	(晴天時用)	1 池	(雨天時用)	池
最初沈澱池	(晴天時用)	7 池	(雨天時用)	池
2階タンク	(晴天時用)	池	(雨天時用)	池
第2揚水ポンプ	(汚水用)	台	(雨天時用)	
エアレーションタンク	(高級処理用)	3 池	(中級処理用)	池
散水沪床	(高速用)	池	(標準用)	池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式)		(数量)	台
最後沈澱池	(活性汚泥用)	12 池	(散水炉床用)	池
滅菌池	(晴天時用)	池	(晴雨天時兼用)	池

⑧ フローシート

〈第1次および第2次処理〉



——— 下水
—·—·— 汚泥
- - - - 空気

〈下水汚泥処理〉

⑨ 各施設の主要諸元

前エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 ~~下水流入量~~	~~返送汚泥量~~	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械撹拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1	昭39	昭39	昭40.4	1 池	40 m	2.2 m	2.25 m	198 m³	60,000 m³/日	m³/日	散気箱	39	1.2			
2																
3																

最初沈澱池

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭39	昭39	昭40.4	7 池	31.5 m	4.7 m	3.5 m	148 m²	518 m³	39 m	8,576 m³/日	10 m³	リンクベルト	0.5 m/min	水位差
2															
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械撹拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1	昭39	昭39	昭40.4	3 池	100 m	4.7 m	4.5 m	2,115 m³	20,000 m³/日	5,000 m³/日	散気管	6,000 本	21.6			
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	mm	穴
1															
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭39	昭39	昭40.4	12 池	35 m	4.7 m	3.5 m	164 m²	575 m³	39 m	5,000 m³/日	34 m³	リンクベルト	0.5 m/sec	水位差
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名　黒川

その渇水量および平水量
放流位置　名古屋市北区名城町101地先
処理水放流前の河川水のBOD　36

名古屋 都市 西山 下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理) 昭和 33 年
〃 (第2次処理) 〃
② 共用開始年月日(第1次処理) 昭和 34 年 7 月 31 日
③ 〃 (第2次処理)
④ 下水排除方式 合流式 (分流式)
⑤ 処理能力 4050 m³/day

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	4,050 m³/日	4,050 m³/日	6,000 m³/日	6,000 m³/日	m³/日	m³/日
第2次処理	4,050	4,050	6,000	6,000		

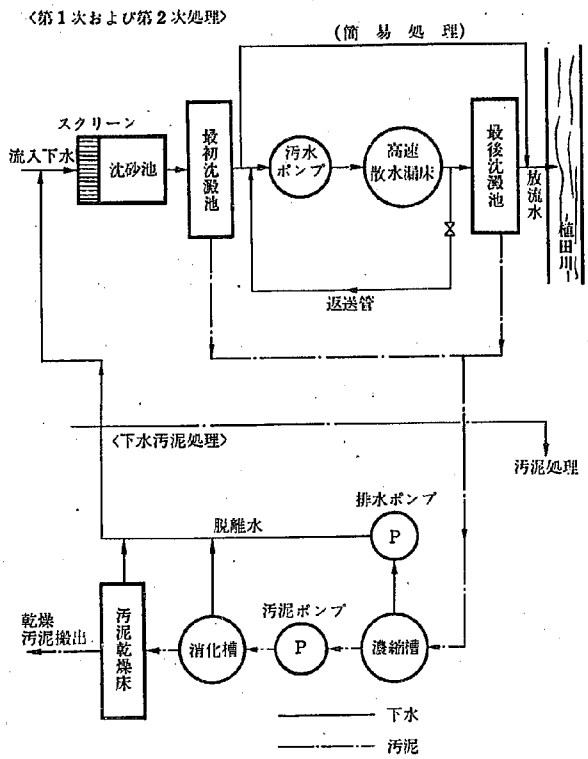
⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
98.0 ha	98.0 ha	12,000 人	12,000 人	18,000 人	m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用) 2 池	(雨天時用) 池
スクリーン	(晴天時用) 2 基	(雨天時用) 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 3 台	(雨天時用) 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
最初沈澱池	(晴天時用) 2 池	(雨天時用) 池
2階タンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 台	(雨天時用)
エアレーションタンク	(高級処理用) 池	(中級処理用) 池
散水沪床	(高速用) 1 池	(標準用) 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式)	(数量) 台
最後沈澱池	(活性汚泥用) 池	(散水炉床用) 2 池
滅菌池	(晴天時用) 池	(晴雨天時兼用) 1 池

⑧ フローシート



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	1池当りの寸法 幅	1池当りの寸法 有効水深	1池当り 有効水面積	1池当り 有効容量	1池当り 堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥 集泥機の速度	排泥方法
1	昭33	昭33	昭34.7	2 池	16.0 m	4.0 m	2.72 m	64 m²	174 m³	4 m	2,030 m³/日	14.5 m³	リングベルト	0.6 m/min	水位差
2															
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	1池当りの寸法 幅	1池当りの寸法 有効水深	1池当り有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	1池当り計画処理量 返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	散気式の場合 個数	散気式の場合 計画下水量に対する空気吹込倍率	機械撹拌式の場合 装置の種類	機械撹拌式の場合 個数	機械撹拌式の場合 規格寸法
				池	m	m	m	m³	m³/日	m³/日						
1																
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	1池当り寸法 幅	1池当り寸法 有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	1池当り有効容量 沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	沈澱部1池当り 堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	エアレーション部1池当り 個数	エアレーション部1池当り 計画下水量に対する空気吹込倍率	エアレーション部1池当り 撹拌機の有無
				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日			倍	
1																
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	1池当り寸法 幅	1池当り寸法 沪材深	1池当り 有効沪過面積	1池当り 沪材総容量	計画処理量 ~~下水量+返送水量~~	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1	昭33	昭33	昭34.7	1 池	16.0 m	m	1.8 m	200 m²	360 m³	4,050 m³/日	1.5 kg/m³/日	20.3 m³/m²/日	75 mm	71 個
2														
3														

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	1池当りの寸法 幅	1池当りの寸法 有効水深	1池当り 有効水面積	1池当り 有効容量	1池当り 堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥 集泥機の速度	排泥方法
1	昭33	昭33	昭34-7	2 池	16.0 m	4.0 m	2.72 m	64 m²	174 m³	13.5 m	2,030 m³/日	14.5 m³	リングベルト	0.6 m/min	水位差
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名 植田川

その湯水量および平水量 平水量 0.9 m³/sec
放流位置 名古屋市千種区新町 3-63 地先
処理水放流前の河川水のBOD .25 (PPm).

名古屋 市 熱田 下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理) 昭和3年
〃 (第2次処理) 昭和3年
② 共用開始年月日(第1次処理) 昭和5年6月
③ 〃 (第2次処理)
④ 下水排除方式 合流式 分流式
⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	21,000 m³/日	75,000 m³/日	27,000 m³/日	112,000 m³/日	m³/日	m³/日
第2次処理	21,000	75,000	27,000	112,000		

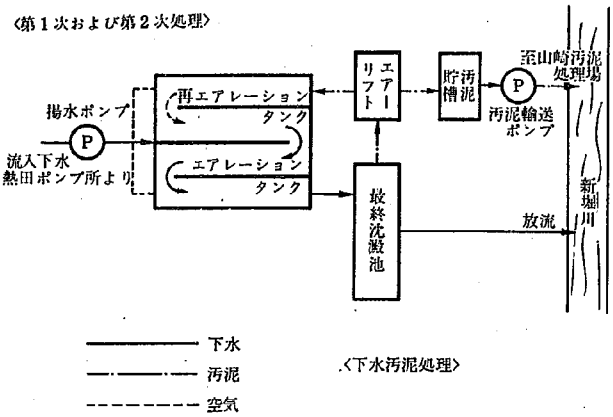
⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
536.0 ha	536.0 ha	57,000 人	47,000 人	97,000 人	m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
スクリーン	(晴天時用) 基	(雨天時用) 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 1 台	(雨天時用) 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
最初沈澱池	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
2階タンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 台	(雨天時用)
エアレーションタンク	(高級処理用) 2 池	(中級処理用) 池
散水沪床	(高速用) 池	(標準用) 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式)	(数量) 台
最後沈澱池	(活性汚泥用) 3 池	(散水炉床用) 池
滅菌池	(晴天時用) 池	(晴雨天時兼用) 池

⑧ フローシート



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
				池	m	m	m	m²	m³	m	m³/日	m³			
1															
2															
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
				池	m	m	m	m³	m³/日	m³/日						
1	昭和5年度	5	5.9	2	151	4.2	4.63	2,936	10,500	3,150	散気板	632枚	4.5			
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日			倍	
1																
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	mm	個
1															
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
				池	m	m	m	m²	m³	m	m³/日	m³			
1	昭5	昭5	5.9	8	5.3	5.3	9.08	281	151	12.9	2,625	4.22	重力流 集泥バー		エアーリフト
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名 新堀川

その渇水量および平水量
放流位置 名古屋市熱田区花表町3-222地先
処理水放流前の河川水のBOD 5.8

名古屋市　伝馬町下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理)　昭和7年
〃　(第2次処理)　昭和38年
② 共用開始年月日(第1次処理)　昭和9年5月
③ 〃　(第2次処理)
④ 下水排除方式　合流式　分流式
⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	80,000 m³/日	80,000 m³/日	100,000 m³/日	100,000 m³/日	m³/日	m³/日
第2次処理	80,000	80,000	100,000	100,000		

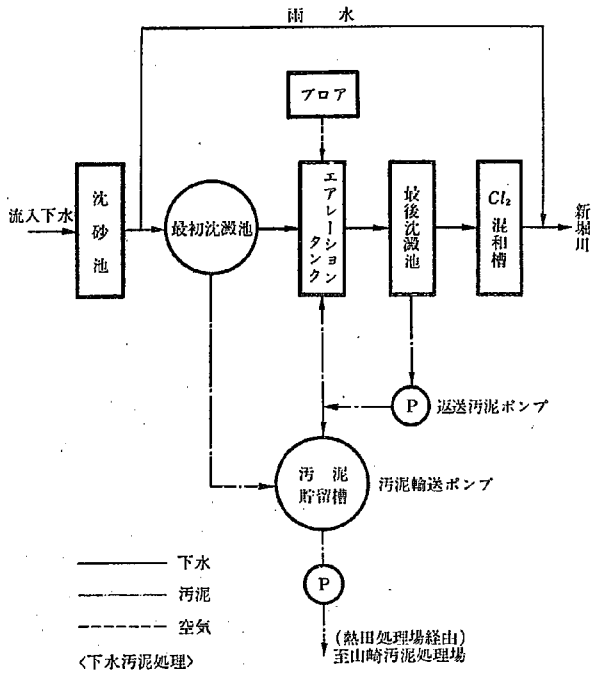
⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
988.0 ha	988.0 ha	146,000 人	145,000 人	178,000 人	m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用) 3 池	(雨天時用) 池
スクリーン	(晴天時用) 3 基	(雨天時用) 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 3 台	(雨天時用) 4 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
最初沈澱池	(晴天時用) 2 池	(雨天時用) 池
2階タンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 台	(雨天時用)
エアレーションタンク	(高級処理用) 4 池	(中級処理用) 池
散水沪床	(高速用) 池	(標準用) 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式) (数量) 台	
最後沈澱池	(活性汚泥用) 10 池	(散水炉床用) 池
滅菌池	(晴天時用) 2 池	(晴雨天時兼用) 池

⑧ フローシート



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭9	昭9	昭9.10	2 池	24 m	m	3.00 m	491 m²	1,498 m³	78.5 m	15,000 m³/日	4 m³	中央駆動式スクレーパー	1回転/時	水位差
2	41	41	41	2	24		3.75	491	1,841	78.5	40,000	4	〃	〃	〃
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1	昭40	昭40	昭41	2 池	90.0 m	6.0 m	4.0 m	2,700 m³	40,000 m³/日	10,000 m³/日	散気盤	784 枚	4.40			
2	41	41	42	2	90.0	6.0	4.0	2,700	40,000	10,000	〃	〃	〃			
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション槽	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日			倍	
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	m	個
2															
3															

最後沈澱池(2階層)

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭40	昭40	昭41	4 池	26.00 m	4.80 m	3.12 m	1,248.0 m²	3,744 m³	27 m	3,640 m³/日	16.8 m³	リンクベルト	0.4 m/min	水位差
2	40	40	41	4	31.00	4.80	3.00	1,448.0	4,464	〃	4,340	〃	〃	〃	〃
3	41	41	42	4	26.00	4.80	3.12	1,248.0	3,744	〃	3,640	〃	〃	〃	〃
4	41	41	42	4	31.00	4.80	3.00	1,448.0	4,464	〃	4,350	〃	〃	〃	〃
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名　新堀川

その汚水量および平水量　平水量 0.9 m³/sec
放流位置　名古屋市瑞穂区熱田東町字呼続1-1地先
処理水放流前の河川水のBOD　5.4

名古屋 都市 山崎 下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理) 昭和 32年 12月
〃 (第2次処理) 〃 39年
② 共用開始年月日(第1次処理) 昭和 35年 9月 1日
③ 〃 (第2次処理) 〃 39年 4月 1日
④ 下水排除方式 (合流式) 分流式
⑤ 処理能力

処理システム ＼ 汚水量	晴天時1日平均処理量		晴天時1日最大処理量		雨天時最大処理量	
	現在	計画	現在	計画	現在	計画
第1次処理	m³/日	m³/日	m³/日	m³/日	m³/日	m³/日
第2次処理	100,000	120,000	120,000	180,000		

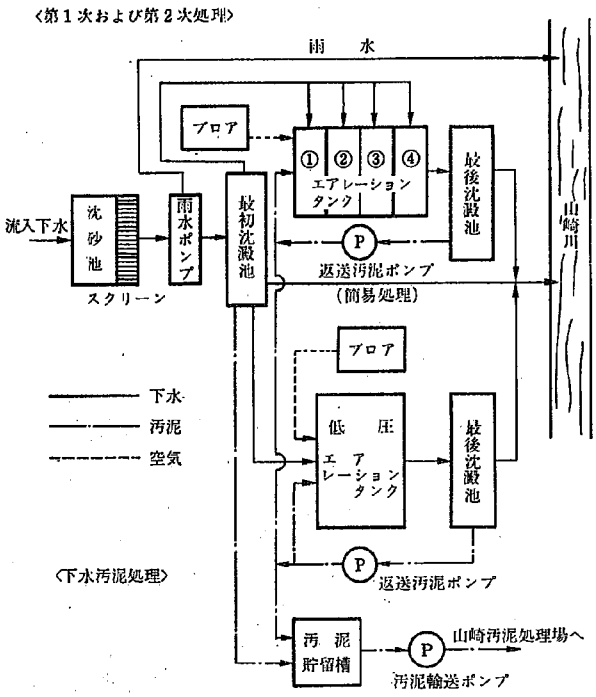
⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

処理面積		処理人口			産業排水量	
現在	計画	現在排水人口	水洗便所使用人口	計画処理人口	現在	計画
2,128 ha	1,255 ha	217,000 人	141,000 人	236,000 人	m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用)	2 池	(雨天時用)	2 池
スクリーン	(晴天時用)	2 基	(雨天時用)	2 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用)	4 台	(雨天時用)	4 台
前エアレーションタンク	(晴天時用)	池	(雨天時用)	池
最初沈澱池	(晴天時用)	3 池	(雨天時用)	池
2階タンク	(晴天時用)	池	(雨天時用)	池
第2揚水ポンプ	(汚水用)	台	(雨天時用)	
エアレーションタンク	(高級処理用) 高圧低圧各7池		(中級処理用)	池
散水沪床	(高速用)	池	(標準用)	池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式)		(数量)	台
最後沈澱池	(活性汚泥用)	7 池	(散水炉床用)	池
減菌池	(晴天時用)	1 池	(晴雨天時兼用)	池

⑧ フローシート



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭 32	昭 35	昭 35.9.1	3 池	30 m	18 m	3.40 m	540 m²	1836 m³	18 m	30,000 m³/日	13 m³	リンクベルト式	0.2~0.6 m/sec	水圧差圧タイマー
2															
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械撹拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1	昭 35	昭 38	昭 38.12	1 池	43 m	3.95 m	5.0 m	680 m³	4500 m³/日	1125 m³/日	低圧拡回流式	1	8.7			
2	〃	昭 40	41.3.16	1	192	8.9	〃	6520	55,500	13,875	高圧(散気管)	1080	5.5			
3	〃	〃 40	41.6.13	1	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃			

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	撹拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日			%	
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	mm	個
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭 32	昭 35	昭 35.9	1 池	30 m	18 m	2.65 m	540 m²	1,410 m³	96 m	9,000 m³/日	13 m³	リンクベルト式 掻寄機	0.2~0.6 m/sec	汚泥ポンプ 汚泥集積槽
2	39	39	41.3.16	2	45	14.95	3.75	668	2,500	150	18,500	20	〃	〃	〃
3	40	40	41.1.13	2	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
4	41	41	42.5	2	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名 山崎川

その場水量および平水量 平水量 25 m³/sec 場水 BOD 34 豊水 BOD 18
放流位置 市内南区豊田町忠次中の割地先
処理水放流前の河川水のBOD 26

名古屋市 鳴子 下水処理場

① 工事着手年度（第1次処理） 昭和 35 年
〃 （第2次処理） 昭和 35 年
② 共用開始年月日（第1次処理） 昭和 37 年 7月 21 日
③ 〃 （第2次処理）
④ 下水排除方式 合流式 （分流式）
⑤ 処理能力

処理システム ＼ 汚水量	晴天時1日平均処理量		晴天時1日最大処理量		雨天時最大処理量	
	現在	計画	現在	計画	現在	計画
第1次処理	m³/日	m³/日	m³/日	m³/日	m³/日	m³/日
第2次処理	1,400	1,400	2,000	2,000		

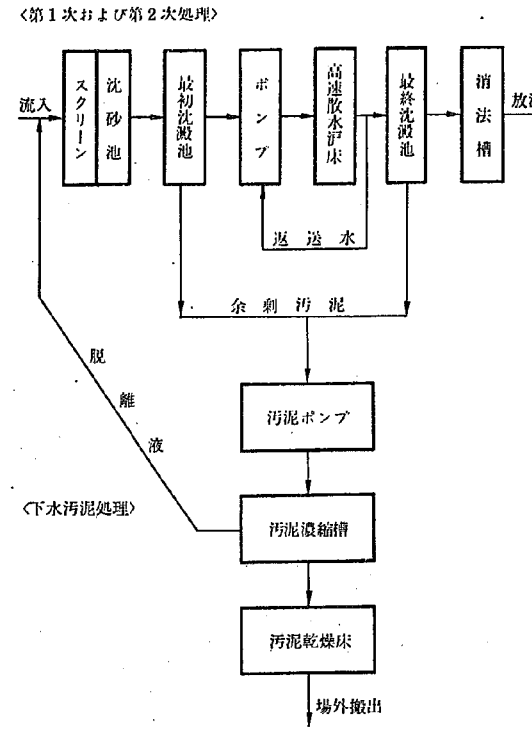
⑥ 処理面積，処理人口，産業排水量

処理面積		処理人口			産業排水量	
現在	計画	現在排水人口	水洗便所使用人口	計画処理人口	現在	計画
47.4 ha	47.4 ha	9,000 人	9,000 人	10,000 人	m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	（晴天時用） 1 池	（雨天時用） — 池
スクリーン	（晴天時用） 1 基	（雨天時用） — 基
第1揚水ポンプ	（晴天時用） — 台	（雨天時用） — 台
前エアレーションタンク	（晴天時用） — 池	（雨天時用） — 池
最初沈澱池	（晴天時用） 2 池	（雨天時用） — 池
2階タンク	（晴天時用） — 池	（雨天時用） — 池
第2揚水ポンプ	（汚水用） 2 台	（雨天時用）
エアレーションタンク	（高級処理用） — 池	（中級処理用） — 池
散水沪床	（高速用） 2 池	（標準用） — 池
高速エアレーション沈澱池	（製造会社，商品名・型式）	（数量） — 台
最後沈澱池	（活性汚泥用） — 池	（散水炉床用） 2 池
滅菌池	（晴天時用） 1 池	（晴雨天時兼用） — 池

⑧ フローシート



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
				池	m	m	m	m²	m³	m	m³/日	m³			
1	36. 3. 31			2	10	3	2	30	60	10.5	700	4	リンアベリ式汚泥掻寄機	0～0.6 m/m	手動弁
2															
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
				池	m	m	m	m³	m³/日	m³/日						
1																
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日			%	
1																
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	m	孔
1	36. 3. 31	36. 3. 31	37. 7. 21	1	φ8	—	1.8	50	90	700				50	
2	37. 3. 31	37. 3. 31	37. 7. 21	1	8		1.8	50	90	700				50	
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
				池	m	m	m	m²	m³	m	m³/日	m³			
1	37. 3. 31			2	φ5.6		1.8	24.6	44.35	17.6	700	8	—	—	手動弁
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名 藤川

その渇水量および平水量
放流位置 名古屋市緑区鳴子町17目地先
処理水放流前の河川水のBOD

都市		下水処理場
名古屋市	露橋	

① 工事着手年度（第1次処理）　昭和 3年
〃　（第2次処理）　昭和 3年
② 共用開始年月日（第1次処理）　昭和 7年 3月
③ 〃　（第2次処理）
④ 下水排除方式　（合流式）　分流式
⑤ 処理能力

処理システム ＼ 汚水量	晴天時1日平均処理量		晴天時1日最大処理量		雨天時最大処理量	
	現在	計画	現在	計画	現在	計画
第1次処理	118,000 m³/日	120,000 m³/日	125,000 m³/日	180,000 m³/日	4,250 m³/日	4,250 m³/日
第2次処理	65,000 〃	〃	97500			

⑥ 処理面積，処理人口，産業排水量

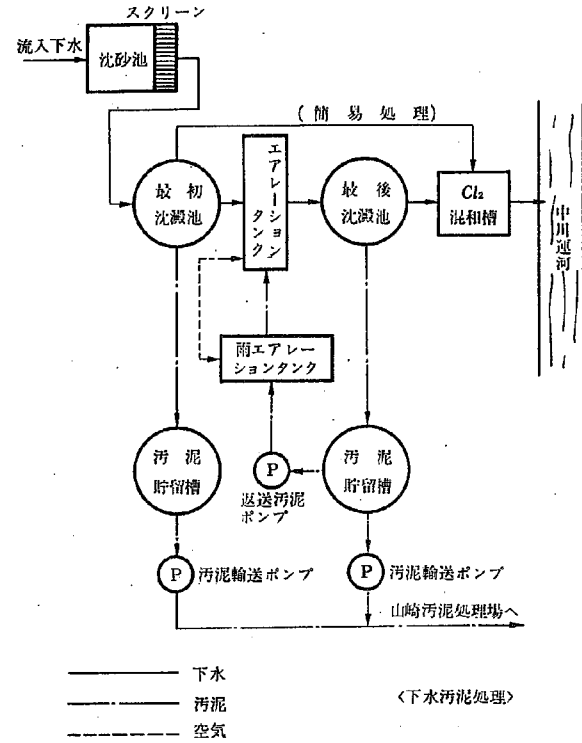
処理面積		処理人口			産業排水量	
現在	計画	現在排水人口	水洗便所使用人口	計画処理人口	現在	計画
755 ha	755 ha	136,000 人	93,240 人	182,000 人	m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	（晴天時用）　2 池	（雨天時用）　2 池
スクリーン	（晴天時用）　2 基	（雨天時用）　2 基
第1揚水ポンプ	（晴天時用）　3 台	（雨天時用）　2 台
前エアレーションタンク	（晴天時用）　池	（雨天時用）　池
最初沈澱池	（晴天時用）　1 池	（雨天時用）　池
2階タンク	（晴天時用）　池	（雨天時用）　池
第2揚水ポンプ	（汚水用）　台	（雨天時用）
エアレーションタンク	（高級処理用）　3 池	（中級処理用）　池
散水沪床	（高速用）　池	（標準用）　池
高速エアレーション沈澱池	（製造会社，商品名・型式）　（数量）　台	
最後沈澱池	（活性汚泥用）　2 池	（散水炉床用）　池
滅菌池	（晴天時用）　1 池	（晴雨天時兼用）　池

⑧ フローシート

〈第1次および第2次処理〉



〈下水汚泥処理〉

⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
					m	m	m	m²	m³	m	m³/日	m³			
1				1 池	50		4.05	1,954	7,540	157	100,000		中央駆動式汚泥掻寄機	0.6 m/min	バルブ引抜き
2															
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
					m	m	m	m³	m³/日	m³/日						
1	昭和11年度			1 池	112	8	4	3,584	23,100	5,765	散気板	396	3.5			
2	〃			1	138	8	4	4,416	28,600	7,150	〃	530	3.5			
3	〃			1	138	4	4	2,208	13,300	3,450	〃	5/284	3.5			

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日			%	
1																
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	m	穴
1															
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
					m	m	m	m²	m³	m	m³/日	m³			
1	昭和11年度			2 池	35		3.86	962	3,720	110	37500		中央駆動式汚泥掻寄機	0.6 m/min	バルブ引抜き
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名　堀川（中川運河）

その渇水量および平水量　毛水量 0.2 m³/sec
放流位置　名古屋市中川区広井町地先
処理水放流前の河川水のBOD　名古屋市中川区松重町地先 17 ppm

名古屋市 千年 下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理) 昭和33年
〃 (第2次処理) 昭和40年
② 共用開始年月日(第1次処理) 昭和39年4月1日
③ 〃 (第2次処理) 昭和41年5月31日
④ 下水排除方式 (合流式) 分流式
⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	80,000 m³/日	100,000 m³/日	95,000 m³/日	125,000 m³/日	8,145 m³/日	8,145 m³/日
第2次処理	60,000		80,000			

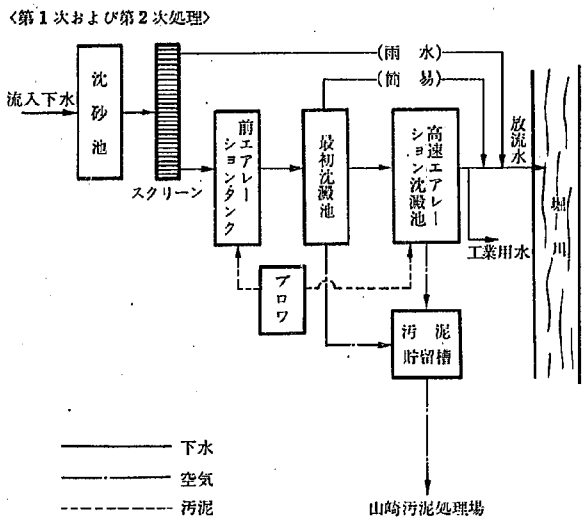
⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
1142ha	1811ha	142,000 人	70,000 人	178,000 人	m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用) 2 池	(雨天時用) 4 池
スクリーン	(晴天時用) 2 基	(雨天時用) 8 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 4 台	(雨天時用) 6 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) 1 池	(雨天時用) 池
最初沈澱池	(晴天時用) 4 池	(雨天時用) 池
2階タンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 台	(雨天時用)
エアレーションタンク	(高級処理用) 池	(中級処理用) 池
散水沪床	(高速用) 池	(標準用) 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式) 除厚インターナルコンタクト (数量) 15台	
最後沈澱池	(活性汚泥用) 池	(散水炉床用) 池
滅菌池	(晴天時用) 池	(晴雨天時兼用) 池

⑧ フローシート



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	1池当りの寸法 幅	1池当りの寸法 有効水深	1池当り 有効水面積	1池当り 有効容量	1池当り 堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥 集泥機の速度	排泥方法
1	昭35	昭36	昭39.4.1	4 池	30.0 m	12.0 m	4.0 m	360.0 m²	1440.0 m³	83.2 m	25,000 m³/日	12 m³	リンクコルト式	0.6 m/min	バルブ引抜
2															
3															
4															
5															

前エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	1池当りの寸法 幅	1池当りの寸法 有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	1池当り計画処理量 返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	散気式の場合 個数	散気式の場合 計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	機械攪拌式の場合 個数	機械攪拌式の場合 規格寸法
1	昭35	昭39	昭39.4.1	1 池	43.9 m	5.0 m	3.74 m	914.43 m³	m³/日	1,000,000 m³/日	高圧旋回流	100本	60倍			
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	1池当り寸法 幅	1池当り寸法 有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	1池当り有効容量 沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	沈澱部1池当り 堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	エアレーション部1池当り 個数	エアレーション部1池当り 計画下水量に対する空気吹込倍率	エアレーション部1池当り 攪拌機の有無
1	昭40	昭39~40	昭41.5.31	8 池	17.0 m	9.0 m	5.3 m	526 m³	170 m³	107 m²	38.5 m	3,750 m³/日	機械攪拌(インペラ使用)	1	7.2 倍	有
2	昭41	〃 41	〃41.5.31	7	17.0	9.0	5.3	526	170	107	38.5	3,750	機械攪拌(インペラ使用)	1	7.2	有

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	1池当り寸法 幅	1池当り寸法 沪材深	1池当り 有効沪過面積	1池当り 沪材総容量	計画処理量 下水量	計画処理量 返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	mm	個
1															
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	1池当りの寸法 幅	1池当りの寸法 有効水深	1池当り 有効水面積	1池当り 有効容量	1池当り 堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥 集泥機の速度	排泥方法
				池	m	m	m	m²	m³	m	m³/日	m³			
1															
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名 堀川

その湧水量および平水量 平水量 3.1 m³
放流位置 名古屋市熱田区千年町平田地先
処理水放流前の河川水のBOD 27.0 ppm

名古屋市 岩塚 下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理) 昭和34年
〃 (第2次処理) 昭和42年
② 共用開始年月日(第1次処理) 昭和37年4月1日
③ 〃 (第2次処理) 昭和44年7月31日予定
④ 下水排除方式 (合流式) 分流式
⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	100,000 m³/日	150,000 m³/日	150,000 m³/日	225,000 m³/日	19.16 m³/日	16. m³/日
第2次処理						

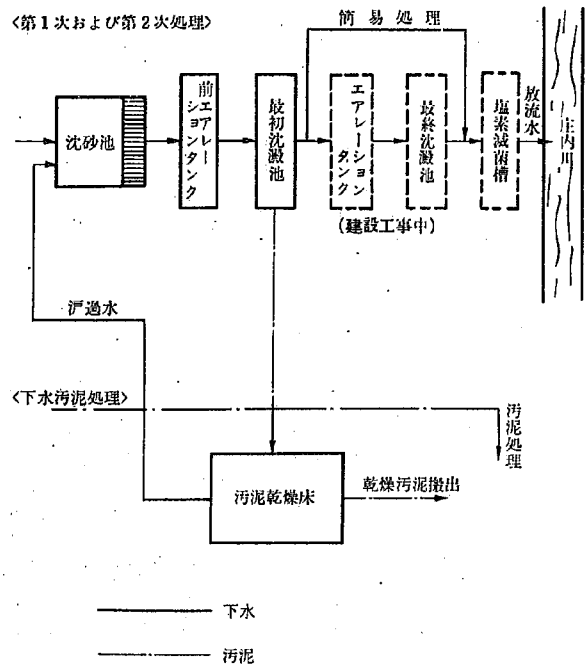
⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
1970 ha	2287 ha	297,000 人	228,000 人	386,000 人	m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用) 2 池	(雨天時用) 3 池
スクリーン	(晴天時用) 2 基	(雨天時用) 6 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 4 台	(雨天時用) 7 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) 2 池	(雨天時用) 池
最初沈澱池	(晴天時用) 8 池	(雨天時用) 池
2階タンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 台	(雨天時用)
エアレーションタンク	(高級処理用) 池	(中級処理用) 池
散水沪床	(高速用) 池	(標準用) 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式)	(数量) 台
最後沈澱池	(活性汚泥用) 池	(散水沪床用) 池
滅菌池	(晴天時用) 池	(晴雨天時兼用) 池

⑧ フローシート



⑨ 各施設の主要諸元

前エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1	昭38	昭38		1 池	60.0 m	5.0 m	4.5 m	1,350 m³	75,000 m³/日	m³/日						
2	昭40	昭40		1	60.0	5.0	4.5	1,350	75,000							
3																

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭38	昭38		2 池	30.0 m	12.0 m	3.45 m	360.0 m²	1,242 m³	55 m	18,750 m³/日	12 m³	リングベルト式	0.6 m/min	バルブ引抜き
2	〃40	〃40		2	30.0	12.0	3.45	360.0	1,242	55	18,750	12	リングベルト式	0.6 m/min	バルブ引抜き
3	〃41	〃41		4	30.0	12.0	3.45	360.0	1,242	55	18,750	12	リングベルト式	0.6 m/min	バルブ引抜き
4															
5															

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日				
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	m	個
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1				池	m	m	m	m²	m³	m	m³/日	m³			
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名 庄内川

その渇水量および平水量 平水量 8.1 m³/sec
放流位置 名古屋市中村区岩塚町字本陣屋敷地先
処理水放流前の河川水のBOD 14

京都市 鳥羽 下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理) 昭和10年5月 昭和34年 昭和39年 昭和40年
〃 (第2次処理) 同上 昭和36年 同上 同上

② 共用開始年月日(第1次処理) 昭和37年8月15日, 昭和41年4月1日 昭和42年度

③ 〃 (第2次処理) 同上 同上 同上

④ 下水排除方式 (合流式) 分流式

⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	386,120 m³/日	300,000 m³/日	509,200 m³/日	350,600 m³/日	172 m³/秒	16.4 m³/秒
第2次処理	291,650	300,000	353,860			

⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

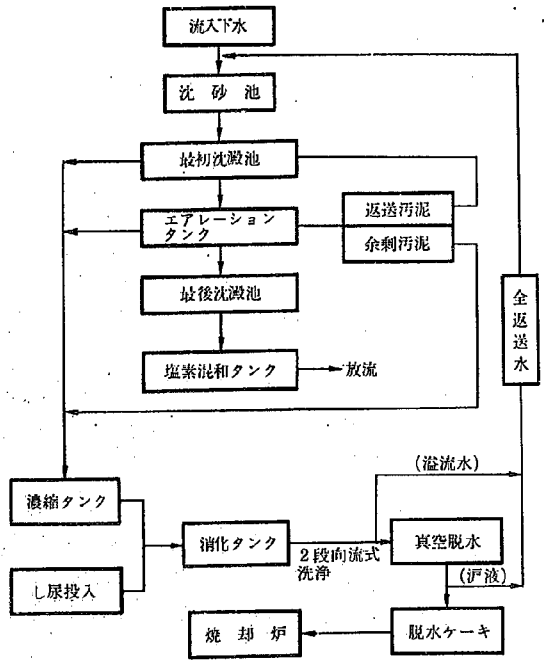
処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
2,776 ha	1,953 ha	556,110 人	378,900 人	345,500 人	12,900 m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用) 2 池	(雨天時用) 2 池
スクリーン	(晴天時用) 6 基	(雨天時用) 4 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 5 台	(雨天時用) 4 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
最初沈澱池	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
2階タンク	(晴天時用) 20 池	(雨天時用) 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 台	(雨天時用)
エアレーションタンク	(高級処理用) 13 池	(中級処理用) 池
散水沪床	(高速用) 池	(標準用) 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式) (数量) 台	
最後沈澱池	(活性汚泥用) 19 池	(散水炉床用) 池
滅菌池	(晴天時用) 池	(晴雨天時兼用) 1 池

⑧ フローシート

〈第1次および第2次処理〉



〈下水汚泥処理〉

⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1			昭14.4	2	42.67 m	42.67 m	3.66 m	1,821 m²	6,615 m³	32.35 m	39,000 m³/日	— m³	ドル式	0.06 r.p.m	汚泥ポンプ
2	昭33.3.31	昭34.3.31	39.3.25	12	47.00	6.00	3.60	282	1,015	22.5	6,500	3.0	リンクベルト式	0.3～1.2 m/min	汚泥ポンプ
3	40.3.31	41.3.31	41.4.1	3	42.00	18.00	3.00	756	2,268	98.4	24,000	5.0	リンクベルト式	0.6 m/min	汚泥ポンプ
4	42.2.27	42.3.31	42.5.15	3	42.00	18.00	3.00	756	2,268	98.4	24,000	5.0	リンクベルト式	0.6 m/min	汚泥ポンプ
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1/2			昭14.4	6池	105 m / 100	9.0 m / 4.5	4.25 m / 4.25	3,775 m³ / 1,913	13,100 m³/日 (合流下水含む)	3,250 m³/日 (タンク)	拡散式	5,760 / 470	4			
3	昭37.3.31	昭39.3.31	昭39.8.25	3	246	6.0	4.25	6,100	26,000	6,500	〃	4,760	4.3			〃
4	〃40.3.31	〃41.3.31	〃41.10.7	3	246	8.4	4.25	8,038	36,000	9,000	〃	3,692	4.3			
5	〃41.2.31	〃42.3.31	〃42.4.1	2	246	8.4	4.25	8,038	36,000	9,000	〃	2,592	4.3			

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日			倍	
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	m	穴
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1			昭14.4	2	37.62 m	37.62 m	2.46 m	1567.7 m²	5,700 m³	28.8 m	39,000 m³/日	6.4 m³	ドル式	0.058 r.p.m	汚泥ポンプ
2	昭37.3.31	昭41.3.31	37.8.25	1	42.00	6.00	3.60	252	900	34.67	8,667	3.0	リンクベルト式	0.2～0.6 m/min	汚泥ポンプ
3	〃40.3.31	〃41.3.31	〃41.10.7	4	46.00	12.90	3.20	593.4	1,875	45.0	18,000	—	真空式	0.8～2.2 m/min	汚泥ポンプ
4	〃42.2.27	〃42.3.31	〃42.4.1	4	46.00	12.90	3.20	593.4	1,875	45.0	18,000	—	〃	〃	汚泥ポンプ
5															

⑩ 処理水放流先

放流河川名 西高瀬川-淀川 (1級河川)

その渇水量および平水量

放流位置 京都市南区上鳥羽江川町

処理水放流前の河川水のBOD 58.8 PPm

京都市 吉祥院 下水処理場

① 工事着手年度（第1次処理） 昭和39年度
〃 （第2次処理） 昭和41年度
② 共用開始年月日（第1次処理） 昭和9年1月10日 昭和42年3月27
③ 〃 （第2次処理） 同上 同上
④ 下水排除方式 （合流式） 分流式
⑤ 処理能力

処理システム ＼ 汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	62,940 m³/日	92,900 m³/日	46,545 m³/日	109,200 m³/日	10.16 m³/日	15,426 m³/日
第2次処理	59,460	80,800				1.27

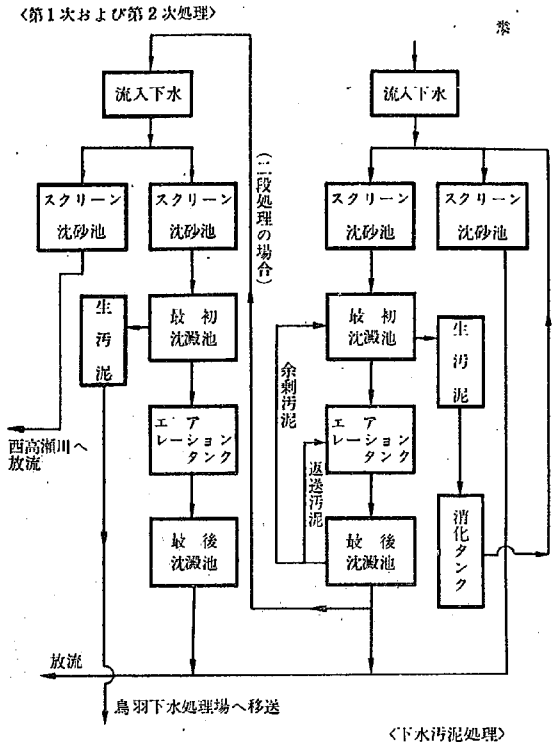
⑥ 処理面積，処理人口，産業排水量

処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
285 ha	581 ha	42,100 人	11,100 人	169,200 人	47,150 m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	（晴天時用）	4 池	（雨天時用）	4 池
スクリーン	（晴天時用）	4 基	（雨天時用）	3 基
第1揚水ポンプ	（晴天時用）	9 台	（雨天時用）	6 台
前エアレーションタンク	（晴天時用）	池	（雨天時用）	池
最初沈澱池	（晴天時用）	3 池	（雨天時用）	池
2階タンク	（晴天時用）	1 池	（雨天時用）	池
第2揚水ポンプ	（汚水用）	台	（雨天時用）	
エアレーションタンク	（高級処理用）	16 池	（中級処理用）	池
散水沪床	（高速用）	池	（標準用）	池
高速エアレーション沈澱池	（製造会社，商品名・型式）		（数量）	台
最後沈澱池	（活性汚泥用）	4 池	（散水炉床用）	池
減菌池	（晴天時用）	1 池	（晴雨天時兼用）	池

⑧ フローシート



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭9.1.10	昭9.1.10	昭9.1.10	1 池	24.38 m	24.38 m	2.74 m	594.4 m²	1,630 m³	m	9,772 m³/日	58.2 m³	トルク式	2.4 m/分	汚泥ポンプ
2	昭42.3.末	昭42.3.末	昭43.3.27	4 基	36.0	12.0	2.8	1,435	3,585	24	43,020	8.0	ワイヤロープ式	0.3～1.0 m/分	〃
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械撹拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1	昭9.1.10	昭9.1.10	昭9.1.10	3 池	27.27 m	9.09 m	4.55 m	1,128 m³	7,800 m³/日	1,950 m³/日	散気板	594枚	7.56			
2	〃42.3.末	〃42.3.末	〃43.3.27	10	27.7	8.1	4.5	1,374	35,582	21,370	散気筒	3000本	5.04			
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	撹拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日				
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	m	孔
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭9.1.10	昭9.1.10	昭9.1.10	1 池	18.28 m	18.28 m	3.65 m	334.5 m²	1,221 m³	14.3 m	8,768 m³/日	21.3 m³	トルク式	1.8 m/分	汚泥ポンプ
2	〃42.3.末	〃42.3.末	〃43.3.27	3	44.0	16.6	3.45	730.4	2,518	23.5	36,613	8	ワイヤロープ式	0.3～1.0 m/分	〃
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名 西高瀬川－淀川（1級河川）
その湯水量および平水量
放流位置 京都市南区吉祥院東浦町5.
処理水放流前の河川水のBOD 103.0 ppm

大阪市 大野 下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理) 昭和41年度
〃 (第2次処理)
② 共用開始年月日(第1次処理) 昭和42年11月1日
③ 〃 (第2次処理)
④ 下水排除方式 (合流式) 分流式
⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	201,000 m³/日	172,000 m³/日	238,000 m³/日	204,000 m³/日	334,000 m³/日	344,000 m³/日
第2次処理						

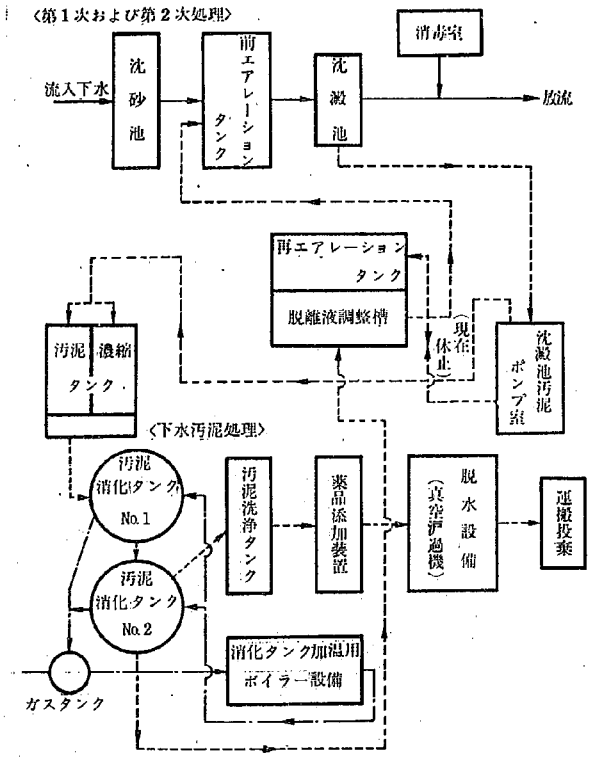
⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
786 ha	540 ha	206,000 人	28,000 人	385,000 人	7,116 m³/日	122,000 m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用) 2 池	(雨天時用) 5 池
スクリーン	(晴天時用) 4 基	(雨天時用) 5 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 4 台	(雨天時用) 7 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) 1 池	(雨天時用) 池
最初沈澱池	(晴天時用) 4池 2階タンク 8池	(雨天時用) 池
2階タンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 台	(雨天時用)
エアレーションタンク	(高級処理用) 池	(中級処理用) 池
散水沪床	(高速用) 池	(標準用) 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式) (数量) 台	
最後沈澱池	(活性汚泥用) 池	(散水炉床用) 池
滅菌池	(晴天時用) 池	(晴雨天時兼用) 池

⑧ フローシート



⑨ 各施設の主要諸元

前エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1	昭41	昭42	昭42.11.1	1 池	208.0 m	6.6 m	5.0 m	6,860 m³	172,000 m³/日	m³/日	スパージャー	960	0.8			
2																
3																

最初沈澱池

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭41	昭42	昭42.11.1	4 池	長 44.25 m	7.6 m	2.76 m	340 m²	935 m³	52 m	19,900 m³/日	7.2 m³	スラッジコレクタ (リンクベルト式)	0.6 m/分	水頭差圧式
2	昭41	昭42	42.11.1	4 〃	52.00	7.6	2.5	395	988	52	23,100	7.2	〃	〃	〃
3															
4															
5															

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日			倍	
2																

散水沪床

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	mm	個
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1				池	m	m	m	m²	m³	m	m³/日	m³			
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名 神崎川

その渇水量および平水量 平水量 7 m³/sec
放流位置 西淀川区大和田西6丁目地内
処理水放流前の河川水のBOD

大阪	都市	中浜（東）	下水処理場

① 工事着手年度（第1次処理）　昭和32年2月
〃（第2次処理）　〃
② 共用開始年月日（第1次処理）　昭和35年5月
③ 〃（第2次処理）　〃
④ 下水排除方式　（合流式）　分流式
⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	m³/日	m³/日	m³/日	m³/日	m³/日	m³/日
第2次処理	47,700	82,000	55,000	96,000	66,050	164,000

⑥ 処理面積，処理人口，産業排水量

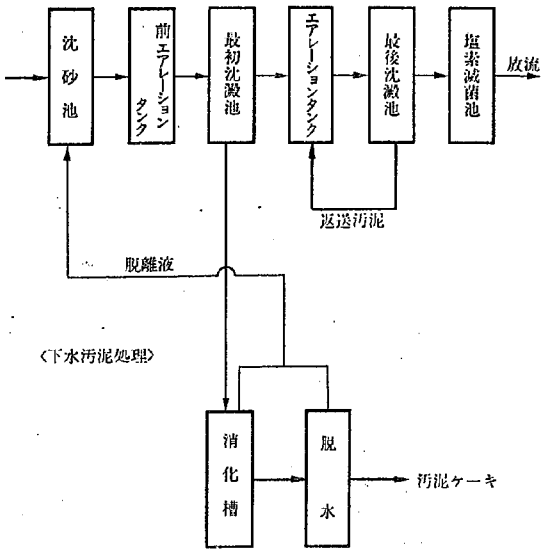
処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
1525 ha	4714 ha	352,000 人	254,000 人	685,000 人	6,427 m³/日	48,000 m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	（晴天時用）	3 池	（雨天時用）	11 池
スクリーン	（晴天時用）	3 基	（雨天時用）	11 基
第1揚水ポンプ	（晴天時用）	4 台	（雨天時用）	15 台
前エアレーションタンク	（晴天時用）	1 池	（雨天時用）	池
最初沈澱池	（晴天時用）	4 池	（雨天時用）	池
2階タンク	（晴天時用）	池	（雨天時用）	池
第2揚水ポンプ	（汚水用）	台	（雨天時用）	
エアレーションタンク	（高級処理用）	2 池	（中級処理用）	池
散水沪床	（高速用）	池	（標準用）	池
高速エアレーション沈澱池	（製造会社，商品名・型式）		（数量）	台
最後沈澱池	（活性汚泥用）	18 池	（散水沪床用）	池
滅菌池	（晴天時用）	池	（晴雨天時兼用）	池

⑧ フローシート

〈第1次および第2次処理〉



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭34	昭34	昭35.5	4 池	42 m	6 m	3 m	238 m²	714 m³	24 m	13,250 m³/日	約 20 m³	シーダー用5	0.4～0.6 m/min	水頭差圧式 手動引抜弁
2															
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1	昭34	昭34	昭35.5	2 池	55 m	18 m	4.5 m	4455 m³	26,500 m³/日	7,950 m³/日	散気板	3,406	8.2			
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m²	m²	m	m³/日				
2																

前エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 ~~下水流入量~~	~~返送汚泥量~~	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1	昭35	昭35	昭35.5	1 池	27.5 m	7.5 m	4.5 m	930 m³	19,000 m³/日	m³/日	散気板	100枚	0.5			
2																
3																

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭34	昭34	昭35.5	18 池	24 m	4.5 m	3.3 m	93 m²	308 m³	25 m	2,945 m³/日	15 m³	連続フライト式（リンクベルト式）	0.3～1.2 m/min	フロート式リンクベルトによる連続抽出 水頭差圧式
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名　平野川

その渇水量および平水量　平水量 12 m³/sec
放流位置　土城東区北中浜町2丁目
処理水放流前の河川水のBOD　70 ppm

大阪 都市 中浜（西） 下水処理場

① 工事着手年度（第1次処理） 昭和35年度

〃 （第2次処理）

② 共用開始年月日（第1次処理） 昭和38年10月

③ 〃 （第2次処理）

④ 下水排除方式 （合流式） 分流式

⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量		晴天時1日最大処理量		雨天時最大処理量	
	現在	計画	現在	計画	現在	計画
第1次処理	165,509 m³/日	157,000 m³/日	118,500 m³/日	184,500 m³/日	216,945 m³/日	314,000 m³/日
第2次処理						

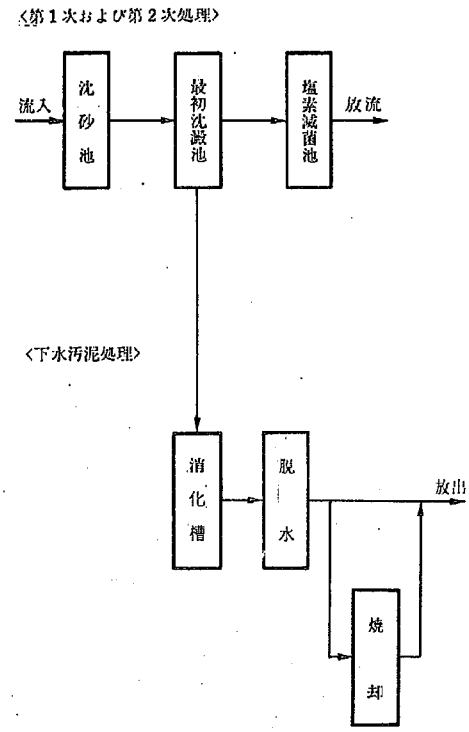
⑥ 処理面積，処理人口，産業排水量（中浜(東)処理場の項に一括して計上）

処理面積		処理人口			産業排水量	
現在	計画	現在排水人口	水洗便所使用人口	計画処理人口	現在	計画
ha	ha	人	人	人	m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	（晴天時用） 2 池	（雨天時用） 3 池
スクリーン	（晴天時用） 2 基	（雨天時用） 3 基
第1揚水ポンプ	（晴天時用） 4 台	（雨天時用） 5 台
前エアレーションタンク	（晴天時用） 池	（雨天時用） 池
最初沈澱池	（晴天時用） 12 池	（雨天時用） 池
2階タンク	（晴天時用） 池	（雨天時用） 池
第2揚水ポンプ	（汚水用） 台	（雨天時用）
エアレーションタンク	（高級処理用） 池	（中級処理用） 池
散水沪床	（高速用） 池	（標準用） 池
高速エアレーション沈澱池	（製造会社，商品名・型式）	（数量） 台
最後沈澱池	（活性汚泥用） 池	（散水炉床用） 池
滅菌池	（晴天時用） 池	（晴雨天時兼用） 池

⑧ フローシート



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
				池	m	m	m	m²	m³	m	m³/日	m³		m/min	
1	昭38	昭38	昭38.10	12	43.5	4.2	2.50	160	404		1,308.0	約20	連続フライト式（ロクベルト式）	0.6	自動弁（水頭差圧式）
2															
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
				池	m	m	m	m³	m³/日	m³/日						
1																
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日			倍	
1																
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	mm	個
1															
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
				池	m	m	m	m²	m³	m	m³/日	m³			
1															
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先

放流河川名 中2腹屋川

その渇水量および平水量 平水量 5 m³/sec

放流位置 大阪市北中浜町1丁目地内

処理水放流前の河川水のBOD 82.0 ppm

大阪 都市 放出 下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理) 昭和39年度

〃 (第2次処理)

② 共用開始年月日(第1次処理) 昭和42年 10月1日

③ 〃 (第2次処理)

④ 下水排除方式 (合流式) 分流式

⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	28,000 m³/日	110,100 m³/日	m³/日	128,400 m³/日	m³/日	229,200 m³/日
第2次処理						

⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

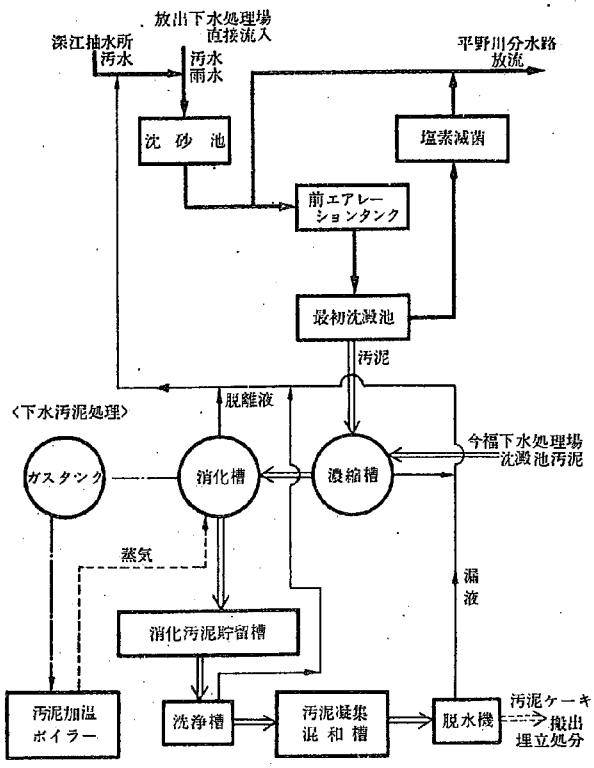
処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
58 ha	83.7 ha	100,300 人	3,200 人	314,000 人	m³/日	28,270 m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用) 2 池	(雨天時用)晴天時用に準用 池
スクリーン	(晴天時用) 4 基	(雨天時用) 〃 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 5 台	(雨天時用) 1 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) 7 池	(雨天時用) 0 池
最初沈澱池	(晴天時用) 7 池	(雨天時用) 0 池
2階タンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 台	(雨天時用)
エアレーションタンク	(高級処理用) 池	(中級処理用) 池
散水沪床	(高速用) 池	(標準用) 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式)	(数量) 台
最後沈澱池	(活性汚泥用) 池	(散水炉床用) 池
滅菌池	(晴天時用) 池	(晴雨天時兼用) 池

⑧ フローシート

〈第1次および第2次処理〉



⑨ 各施設の主要諸元

前エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1	昭42	昭42	昭42.10.1	7池	6 m	7.6 m	4.5 m	205 m³	7,793 m³/日	m³/日	スパージャー	154	0.6			
2																
3																

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭42	昭42	昭42.10.1	7池	22 m	7.6 m	2.6 m	167.2 m²	435 m³	42 m	7,793 m³/日	16 m³	スラッジコレクター	0.6 m/min	ダイヤ-自動引抜(水理表示式)
2															
3															
4															
5															

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日			倍	
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	m	個
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1				池	m	m	m	m²	m³	m	m³/日	m³			
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先

放流河川名 平野川分水路(城東運河)

その渇水量および平水量 平水量 4 m³/sec

放流位置 城東区永田東2丁目地内

処理水放流前の河川水のBOD

大阪都市　住吉　下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理)　昭和35年
〃　(第2次処理)　昭和36年
② 共用開始年月日(第1次処理)　昭和39年12月1日
③ 〃　(第2次処理)　〃
④ 下水排除方式　(合流式)　分流式
⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	m³/日	m³/日	m³/日	m³/日	m³/日	m³/日
第2次処理	69,400 m³/日	181,000 m³/日	810,000 m³/日	212,000 m³/日	150,900 m³/日	362,000

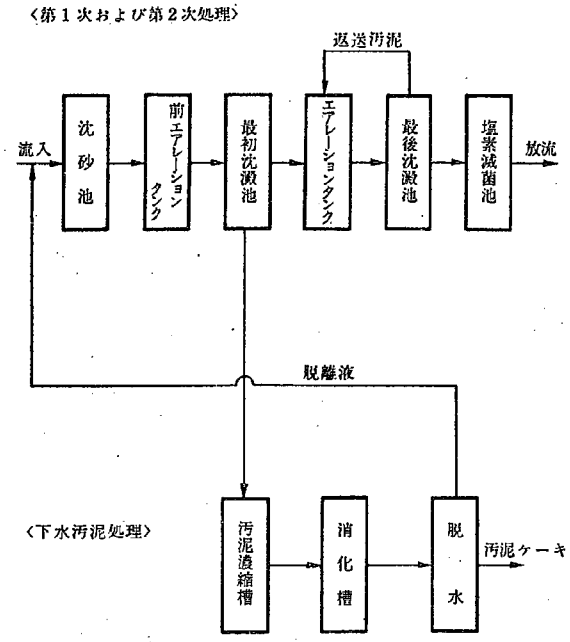
⑥ 処理面積，処理人口，産業排水量

処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
525 ha	1724 ha	238,000 人	50,000 人	317,000 人	1,926 m³/日	25,000 m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用) 2 池	(雨天時用) 2 池
スクリーン	(晴天時用) 4 基	(雨天時用) 4 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 2 台	(雨天時用) 7 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) 10 池	(雨天時用) 池
最初沈澱池	(晴天時用) 5 池	(雨天時用) 池
2階タンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 台	(雨天時用)
エアレーションタンク	(高級処理用) 6 池	(中級処理用) 池
散水沪床	(高速用) 池	(標準用) 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社，商品名・型式)	(数量) 台
最後沈澱池	(活性汚泥用) 5 池	(散水炉床用) 池
滅菌池	(晴天時用) 池	(晴雨天時兼用) 池

⑧ フローシート



⑨ 各施設の主要諸元

前エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 ~~平水流入量~~	~~返送汚泥量~~	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1	昭37.	昭37.	昭39.10.1	10 池	6 m	3.8 m	3.2 m	72.96 m³	5,500 m³/日	m³/日	散気板	160	0.65			
2																

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭37	昭39	昭39.12.1	5 池	25.8 m	7.9 m	3.2 m	180 m²	576 m³	42 m	11,000 m³/日	30 m³	リングベルト式	0.6 m/min	タイマー運転によち自動(水頭差式)
2															
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1	昭37	昭39	昭39.12.1	6 池	51.1 m	6.5 m	4.5 m	1495 m³	9,166 m³/日	2,750 m³/日	散気板	1785	7.9			
2																
3																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	mm	穴
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭37	昭39	昭39.12.1	5 池	50 m	7.9 m	3.3 m	350 m²	1,154 m³	84 m	11,000 m³/日	37 m³	リングベルト式	0.45/min	水位差による自然流下
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名　住吉川

その渇水量および平水量　平水量　0.5 m³/sec
放流位置　住吉区南加賀屋町 336地区内
処理水放流前の河川水のBOD

都 大阪 ㊤	千島	下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理) 昭和35年度
〃 (第2次処理)
② 共用開始年月日(第1次処理) 昭和38年10月5日
③ 〃 (第2次処理)
④ 下水排除方式 合流式 分流式
⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	53,600 m³/日	79,000 m³/日	63,000 m³/日	93,000 m³/日	94,250 m³/日	158,000 m³/日
第2次処理						

⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

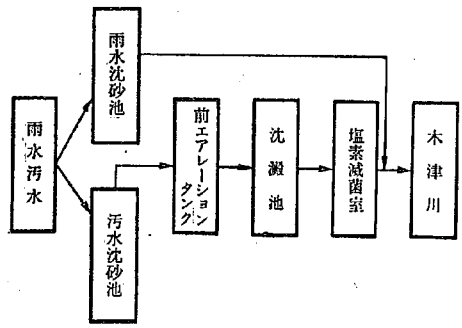
処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
400 ha	587 ha	69,000 人	469,000 人	176,000 人	3,002 m³/日	3,408 m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

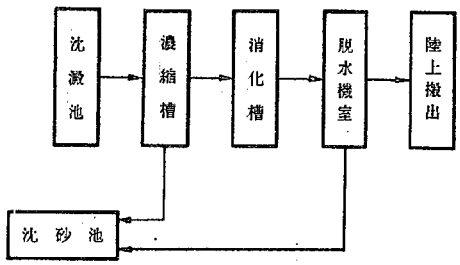
沈砂池	(晴天時用) 2 池	(雨天時用) 2 池
スクリーン	(晴天時用) 2 基	(雨天時用) 2 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 4 台	(雨天時用) 3 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) 2 池	(雨天時用) 池
最初沈澱池	(晴天時用) 12 池	(雨天時用) 池
2階タンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 台	(雨天時用)
エアレーションタンク	(高級処理用) 池	(中級処理用) 池
散水沪床	(高速用) 池	(標準用) 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式)	(数量) 台
最後沈澱池	(活性汚泥用) 池	(散水炉床用) 池
滅菌池	(晴天時用) 池	(晴雨天時兼用) 池

⑧ フローシート

〈第1次および第2次処理〉



〈下水汚泥処理〉



⑨ 各施設の主要諸元

前エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1	昭37	昭38	昭38.10.15	2 池	72 m	25 m	4.5 m	810 m³	38,500 m³/日	m³/日	スパージョー	120	0.8			
2																
3																

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭37	昭38	昭38.10.15	12 池	36 m	4.3 m	2.57 m	134 m²	3.45 m³	14 m	6,584 m³/日	13.5 m³	リンクベルト式	0.6 m/分	タイマーによる自動抽取(水頭差圧式)
2															
3															
4															
5															

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日			倍	
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	m	個
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1				池	m	m	m	m²	m³	m	m³/日	m³			
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名 木津川

その渇水量および平水量 平水量 30 m³/sec
放流位置 大正区千島町2丁目地内
処理水放流前の河川水のBOD 13.2 ppm

大阪 都市 岡 下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理) 昭和32年度

〃 (第2次処理)

② 共用開始年月日(第1次処理) 昭和36年4月1日

③ 〃 (第2次処理)

④ 下水排除方式 (合流式) 分流式

⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	92,900 m³/日	119,900 m³/日	108,000 m³/日	140,000 m³/日	129,600 m³/日	237,800 m³/日
第2次処理						

⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

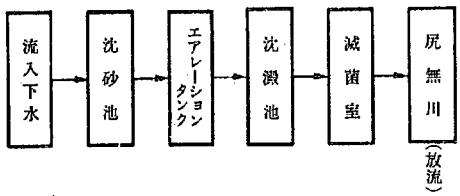
処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
786 ha	786 ha	142,000 人	80,000 人	265,000 人	4,665 m³/日	58,900 m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

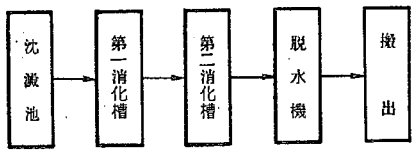
沈砂池	(晴天時用) 4 池	(雨天時用) 池
スクリーン	(晴天時用) 4 基	(雨天時用) 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 4 台	(雨天時用) 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) 1 池	(雨天時用) 池
最初沈澱池	(晴天時用) 6 池	(雨天時用) 池
2階タンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 台	(雨天時用)
エアレーションタンク	(高級処理用) 池	(中級処理用) 池
散水沪床	(高速用) 池	(標準用) 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式)	(数量) 台
最後沈澱池	(活性汚泥用) 池	(散水炉床用) 池
滅菌池	(晴天時用) 池	(晴雨天時兼用) 池

⑧ フローシート

〈第1次および第2次処理〉



〈下水汚泥処理〉



⑨ 各施設の主要諸元

前エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	1池当りの寸法 幅	1池当りの寸法 有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	1池当り計画処理量 返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	散気式の場合 個数	散気式の場合 計画下水量に対する空気吹込倍率	機械撹拌式の場合 装置の種類	機械撹拌式の場合 個数	機械撹拌式の場合 規格寸法
1	昭34	昭35	昭36.4.1	1 池	100 m	3.75 m	4.5 m	1,688 m³	121,000 m³/日	— m³/日	散気板	772	0.8			
2																
3																

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	1池当りの寸法 幅	1池当りの寸法 有効水深	1池当り 有効水面積	1池当り 有効容量	1池当り 堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥 集泥機の速度	排泥方法
1	昭34	昭35	昭36.4.1	6 池	60.4 m	7.5 m	3.0 m	398 m²	1,197 m³	30 m	20,200 m³/日	24.2 m³	モーター刮ラ	0.4～0.6 m/分	水頭差圧式
2															
3															
4															
5															

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	1池当り寸法 幅	1池当り寸法 有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	1池当り有効容量 沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	沈澱部1池当り 堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	エアレーション部1池当り 個数	エアレーション部1池当り 計画下水量に対する空気吹込倍率	エアレーション部1池当り 攪拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日			倍	
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	1池当り寸法 幅	1池当り寸法 沪材深	1池当り 有効沪過面積	1池当り 沪材総容量	計画処理量 下水量	計画処理量 返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	mm	個
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	1池当りの寸法 幅	1池当りの寸法 有効水深	1池当り 有効水面積	1池当り 有効容量	1池当り 堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥 集泥機の速度	排泥方法
1				池	m	m	m	m²	m³	m	m³/日	m³			
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先

放流河川名 尻無川

その沼水量および平水量 平水量 30 m³/sec

放流位置 港区市岡浜通6丁目地内

処理水放流前の河川水のBOD

大阪 郡 市　海老江　下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理)　昭和6年度

〃　(第2次処理)　〃

② 共用開始年月日(第1次処理)　昭和15年4月10日

③ 〃　(第2次処理)　〃

④ 下水排除方式　合流式　分流式

⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	288,400 m³/日	m³/日	201,520 m³/日	m³/日	273,700 m³/日	m³/日
第2次処理	116,990 〃	273,000	176,000	322,000	176,000 〃	546,000 〃

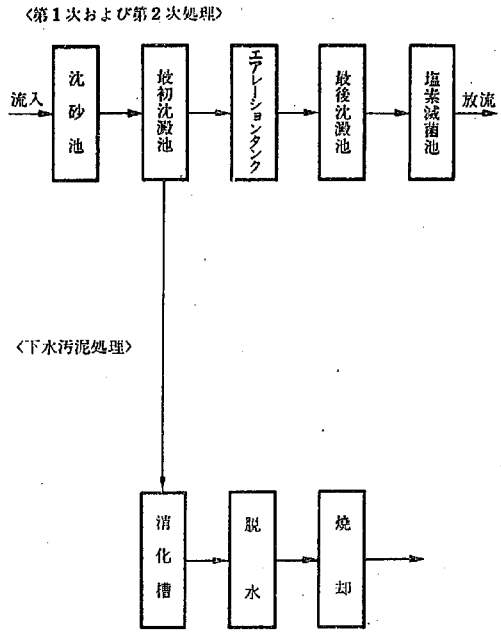
⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
1,215 ha	1,215 ha	227,000 人	173,000 人	546,000 人	60,946 m³/日	115,000 m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用) 2 池	(雨天時用) 池
スクリーン	(晴天時用) 2 基	(雨天時用) 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 6 台	(雨天時用) 11 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
最初沈澱池	(晴天時用) 11 池	(雨天時用) 池
2階タンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 3 台	(雨天時用)
エアレーションタンク	(高級処理用) 池	(中級処理用) 3 池
散水沪床	(高速用) 池	(標準用) 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式)	(数量) 台
最後沈澱池	(活性汚泥用) 3 池	(散水炉床用) 池
滅菌池	(晴天時用) 池	(晴雨天時兼用) 池

⑧ フローシート



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭 14	昭 14	昭15.4.10	2 池	24.38 m	24.38 m	3.66 m	580 m²	2,125 m³	18.7 m	44,000 m³/日	3.5 m³	ドルブ型かき寄せ機	1回転 1/30分	水頭差圧式
2	〃 38	〃 38	〃 40.4	3	7.60	50.00	4.00	380	1,520	116.5	21,000	31.0	リンクベルト式	0.25～0.6 m/分	〃
3	〃 42	〃 42	〃 43.5	6	7.90	25.00	3.00	277	830	66	26,000	24.6	〃	0.6 m/分	〃
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1	昭 14	昭 14	昭15.4.10	3 池	345.0 m	5.44 m	4.55 m	8540 m³	28,300 m³/日	8,790 m³/日	散気板	5,327	7.3			
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日			倍	
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	m³	個
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭 14	昭 14	昭15.4.10	3 池	27.44 m	27.44 m	3.89 m	740 m²	2,863 m³	110 m	29,300 m³/日	3.5 m³	ドルブ型かき寄せ機	1回転/30分	水位差
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先

放流河川名　中津川

その渇水量および平水量　平水量 9 m³/sec

放流位置　福島区下島町地内

処理水放流前の河川水のBOD

大阪 都市	津守	下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理)　昭和 6 年度

〃　(第2次処理)　〃

② 共用開始年月日(第1次処理)　昭和 15 年 4 月 10 日

③ 〃　(第2次処理)　〃

④ 下水排除方式　合流式　分流式

⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量		晴天時1日最大処理量		雨天時最大処理量	
	現在	計画	現在	計画	現在	計画
第1次処理	m³/日	m³/日	m³/日	m³/日	m³/日	m³/日
第2次処理	309,909 m³	393,000 m³	352,000 m³	447,000 m³	578,800 m³	786,000 m³

⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

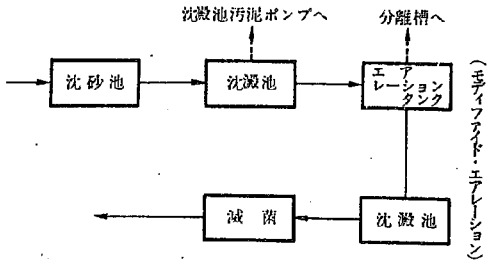
処理面積		処理人口			産業排水量	
現在	計画	現在排水人口	水洗便所使用人口	計画処理人口	現在	計画
1,875 ha	1,956 ha	395,000 人	298,000 人	950,000 人	3,082 m³/日	51,220 m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

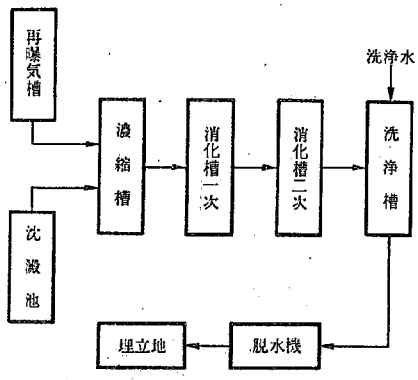
沈砂池	(晴天時用)晴雨兼用 2 池	(雨天時用) 1 池
スクリーン	(晴天時用) 8 基	(雨天時用) 3 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 7 台	(雨天時用) 18 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) 0 池	(雨天時用) 池
最初沈澱池	(晴天時用) 2 池	(雨天時用) 池
2階タンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 台	(雨天時用)
エアレーションタンク	(高級処理用) 池	(中級処理用) 6 池
散水沪床	(高速用) 池	(標準用) 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式)	(数量) 台
最後沈澱池	(活性汚泥用) 3 池	(散水沪床用) 池
滅菌池	(晴天時用) 池	(晴雨天時兼用) 池

⑧ フローシート

〈第1次および第2次処理〉



〈下水汚泥処理〉



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭 14	昭 14	昭15.4.10	2 池	27.44 m	27.44 m	4.16 m	737 m²	3,070 m³	25 m	71,500 m³/日	854 m³	円形 掻寄機	3.75 m/分	水位差
2															
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械撹拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1	昭 14	昭 14	昭和 15.4.10	6 池	267 m	5.7 m	4.5 m	6848.6 m³	23,800 m³/日	2,380 m³/日	旋回流式	240 個	5.1	回転式	240 個	
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	撹拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日			倍	
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	m	孔
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭 14	昭 14	昭和 15.4.10	3 池	33.53 m	33.53 m	3.98 m	1,100 m²	4388 m³	134 m	47,700 m³/日	1,121 m³	ドリル型掻寄機	4.61 m/分	水頭差圧式
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先

放流河川名　木津川

その渇水量および平水量　平水量 30 m³/sec

放流位置　西成区津守町西五丁目地内

処理水放流前の河川水のBOD

大阪 都 今福 下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理) 昭和 37 年度

〃 (第2次処理)

② 共用開始年月日(第1次処理) 昭和 41 年度 6月1日

③ 〃 (第2次処理)

④ 下水排除方式 (合流式) 分流式

⑤ 処理能力

処理システム ＼ 汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	210,800 m³/日	157,000 m³/日	263,000 m³/日	189,000 m³/日	269,000 m³/日	319,000 m³/日
第2次処理						

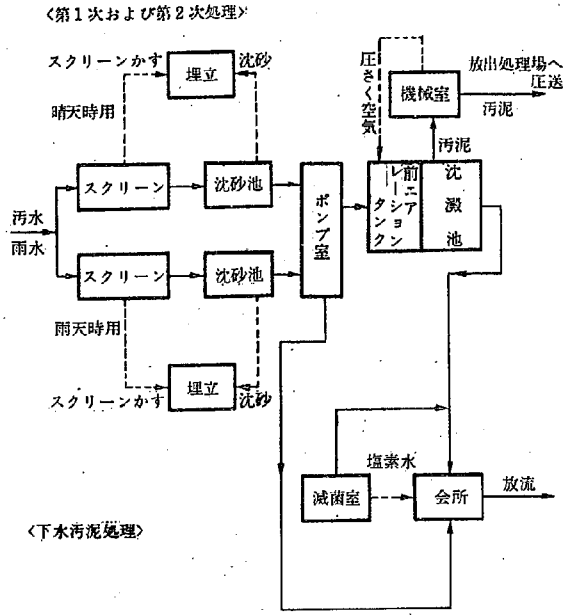
⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
601 ha	1,297 ha	271,000 人	80,000 人	443,000 人	17,524 m³/日	80,000 m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用) 2 池	(雨天時用) 5 池
スクリーン	(晴天時用) 6 基	(雨天時用) 15 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 5 台	(雨天時用) 5 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) 1 池	(雨天時用) 池
最初沈澱池	(晴天時用 $\frac{\text{長}}{\text{幅}}$ 25/7.9) 10 池	(雨天時用) 池
2階タンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 台	(雨天時用)
エアレーションタンク	(高級処理用) 池	(中級処理用) 池
散水沪床	(高速用) 池	(標準用) 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式)	(数量) 台
最後沈澱池	(活性汚泥用) 池	(散水炉床用) 池
滅菌池	(晴天時用) 池	(晴雨天時兼用) 池

⑧ フローシート



⑨ 各施設の主要諸元

前エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	1池当りの寸法 幅	1池当りの寸法 有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	1池当り計画処理量 返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	散気式の場合 個数	散気式の場合 計画下水量に対する空気吹込倍率	機械撹拌式の場合 装置の種類	機械撹拌式の場合 個数	機械撹拌式の場合 規格寸法
1	昭 39	昭 40	昭 41.6.1	1 池	4 m	12.3 m	5.6 m	2,755 m³	157,000 m³/日	m³/日	スパージャ	145	0.69			
2																
3																

最初沈澱池

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	1池当りの寸法 幅	1池当りの寸法 有効水深	1池当り 有効水面積	1池当り 有効容量	1池当り 堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥 集泥機の速度	排泥方法
1	昭 39	昭 40	昭 41.6.1	上 5 池 下 5	上 37.30 m 下 23.65	上 7.9 m 下 7.9	上 2.95 m 下 3.00	上 295 m² 下 345	上 811 m³ 下 1,035	上 45.6 m 下 45.6	上下 m³/日 31400	上下 29 m³	スラッジ 3.79 (リンクベルト式)	0.6 m/min	タイマーにより自動掃取 (サイフォン式)
2															
3															
4															
5															

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	1池当り寸法 幅	1池当り寸法 有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部1池当り 沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	沈澱部1池当り 堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	エアレーション部1池当り 個数	エアレーション部1池当り 計画下水量に対する空気吹込倍率	エアレーション部1池当り 撹拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日			倍	
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	1池当り寸法 幅	1池当り寸法 沪材深	1池当り 有効沪過面積	1池当り 沪材総容量	計画処理量 下水量	計画処理量 返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	mm	個
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	1池当りの寸法 幅	1池当りの寸法 有効水深	1池当り 有効水面積	1池当り 有効容量	1池当り 堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥 集泥機の速度	排泥方法
1				池	m	m	m	m²	m³	m	m³/日	m³			
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先

放流河川名 淀屋川

その渇水量および平水量 平水量 5 m³/sec

放流位置 城東区今福南3丁目地内

処理水放流前の河川水のBOD

神戸市 中部 下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理) 昭和26年 (し尿処理施設)
〃 (第2次処理) 〃 (〃)
② 共用開始年月日(第1次処理) 昭和30年7月31日 (〃)
③ 〃 (第2次処理) 〃 (〃)
④ 下水排除方式 合流式 分流式
⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量		晴天時1日最大処理量		雨天時最大処理量	
	現在	計画	現在	計画	現在	計画
第1次処理	64,887 m³/日	97,428 m³/日	93,079 m³/日	139,788 m³/日	163,629 m³/日	245,689 m³/日
第2次処理	81,186	97,428	116,485	139,788	204,738	245,689

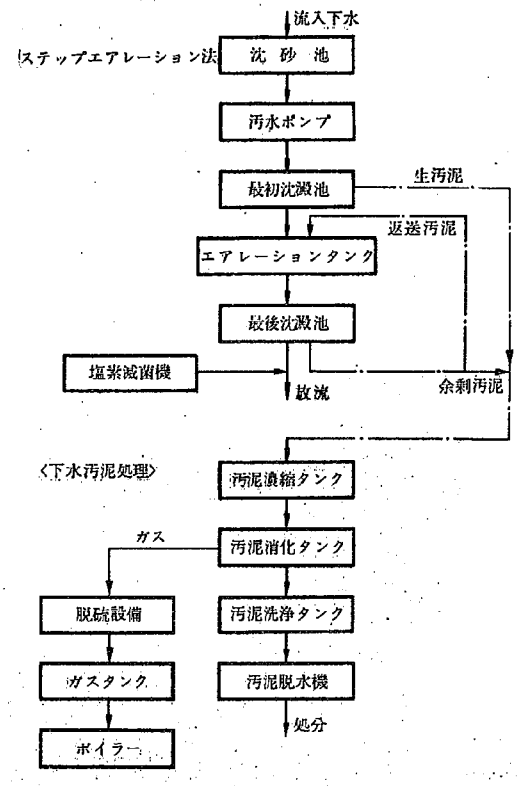
⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

処理面積		処理人口			産業排水量	
現在	計画	現在排水人口	水洗便所使用人口	計画処理人口	現在	計画
1261.6 ha	1374.8 ha	182,670 人	182,670 人	353,000 人	2000 m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用) 2 池	(雨天時用) 池
スクリーン	(晴天時用) 2 基	(雨天時用) 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 3 台	(雨天時用) 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
最初沈澱池	(晴天時用) 2 池	(雨天時用) 池
2階タンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 台	(雨天時用)
エアレーションタンク	(高級処理用) 5 池	(中級処理用) 池
散水沪床	(高速用) 池	(標準用) 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式)	(数量) 台
最後沈澱池	(活性汚泥用) 5 池	(散水炉床用) 池
滅菌池	(晴天時用) 池	(晴雨天時兼用) 池

⑧ フローシート



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1				池	m	m	m	m²	m³	m	m³/日	m³			
2															
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1				池	m	m	m	m³	m³/日	m³/日						
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日			倍	
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1				基	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	m	孔
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	33 36		33. 11. 1 37. 4. 1	2 池 3	35.0 m 35.1	13.8 m 13.4	3.7 m 3.72	483.0 m² 470.34	1,787.1 m³ 1,749.7	214.0 m 255.5	18,970.5 m³/日 19,352.4	m³	走行式サイホン ハリケイ社式フクロ	1～3 m/分 43～13 m/分	自然流下 〃
2	36	33	44. 4. 1(1962) 33. 11. 1	1 1	35.1	13.4	3.72	470.34	1,749.7	225.5	19,352.4	18.3	18.3	未設置	〃
3		34	35. 4. 1	1											
4		36	37. 4. 1	1											
5		40	41. 4. 1	1											
		41	42. 4. 1	1											

⑩ 処理水放流先
放流河川名 兵庫運河
その湾水量および平水量
放流位置 神戸市兵庫区今出在家町
処理水放流前の河川水のBOD

神戸市 西部 下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理) 昭和33年 (し尿処理施設)
〃 (第2次処理) 〃 (〃)
② 共用開始年月日(第1次処理) 昭和36年4月1日 (〃)
③ 〃 (第2次処理) 〃 (〃)
④ 下水排除方式 合流式 分流式
⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量		晴天時1日最大処理量		雨天時最大処理量	
	現在	計画	現在	計画	現在	計画
第1次処理	33,300 m³/日	133,200 m³/日	42,050 m³/日	168,200 m³/日	60,948 m³/日	243,792 m³/日
第2次処理	33,300	133,200	42,050	168,200	60,948	243,792

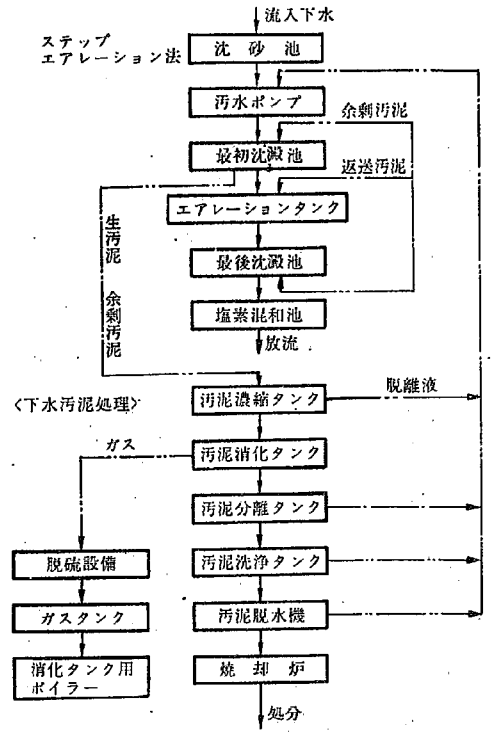
⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

処理面積		処理人口			産業排水量	
現在	計画	現在排水人口	水洗便所使用人口	計画処理人口	現在	計画
186.86 ha	1,200 ha	44,575 人	44,575 人	350,000 人	0 m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用)	3 池	(雨天時用)	池
スクリーン	(晴天時用)	2 基	(雨天時用)	基
第1揚水ポンプ	(晴天時用)	5 台	(雨天時用)	台
前エアレーションタンク	(晴天時用)	池	(雨天時用)	池
最初沈澱池	(晴天時用)	1 池	(雨天時用)	池
2階タンク	(晴天時用)	池	(雨天時用)	池
第2揚水ポンプ	(汚水用)	台	(雨天時用)	
エアレーションタンク	(高級処理用)	2 池	(中級処理用)	池
散水沪床	(高速用)	2 池	(標準用)	池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式)		(数量)	台
最後沈澱池	(活性汚泥用)	2 池	(散水炉床用) 1 (休止中)	池
滅菌池	(晴天時用)	1 池	(晴雨天時兼用)	池

⑧ フローシート



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭33.	—	昭33.11.1	1 池	20.0 m	20.0 m	3.6 m	400.0 m²	1,440.0 m³	20 m	33,496 m³/日	87.2 m³	中央駆動式フクリフェアー	周速 2.3 m/分	自然流下
2	—	昭34.	昭33.11.1	1											
3	昭35.	—	昭39.4.1	2	20.3	18.0	3.6	364.4	1,314.4	110.6	33,284	12.3	リンクベルト式フライトコンベヤ	0.3～1.2 m/分	自然流下
4	—	昭38.	昭39.4.1	1											
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1	昭33.	—	昭33.11.1	2 池	125.0 m	7.0 m	4.5 m	3937.5 m³	17,298 m³/日	3,457 m³/日	散気盤	1,560	7.2			
2	昭35.	—	昭39.4.1	3	〃	〃	4.5	〃	〃	〃	〃	3,150	〃			
3	〃	—	昭43.4.1	1	〃	5.0	4.0	2,500.0	10,983	2,197	〃	未設置	〃			
4	—	昭33	33.11.1	2 池	m	m	m	m³	m³/日	m³/日						
5	—	〃 38	39.4.1	1												
6	—	〃 40	41.4.1	1												
7	—	〃 42	43.4.1	1												

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	m	個
1															
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	40		42.11.1	2 池	44.0 m	12.0 m	3.3 m	528.0 m²	1742.4 m³	181.3 m	21468.4 m³/日	24.7 m³	リンクベルト式フライトコンベヤ	0.6～2.4 m/分	サイホン
2		41	42.11.1	2											
3	35		36.4.1	1	14.0 φ		3.3	153.9	507.9	43.8	6480～4536.0	102.0	中央駆動式汚泥かき寄機	周速 1.9 m/分	汚泥ポンプ
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名 大阪湾

その湯水量および平水量
放流位置 神戸市長田区南駒栄町1番地
処理水放流前の河川水のBOD

神戸 都市 多聞ポンプ 下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理) 昭和38年
〃 (第2次処理) 〃
② 共用開始年月日(第1次処理) 昭和39年4月1日
③ 〃 (第2次処理) 〃
④ 下水排除方式 合流式 (分流式)
⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量 現在	晴天時1日平均処理量 計画	晴天時1日最大処理量 現在	晴天時1日最大処理量 計画	雨天時最大処理量 現在	雨天時最大処理量 計画
第1次処理	828 m³/日	828 m³/日	1,188 m³/日	1,188 m³/日	2,088 m³/日	2088 m³/日
第2次処理	828	828	1,188	1,188	2,088	2088

⑥ 処理面積,処理人口,産業排水量

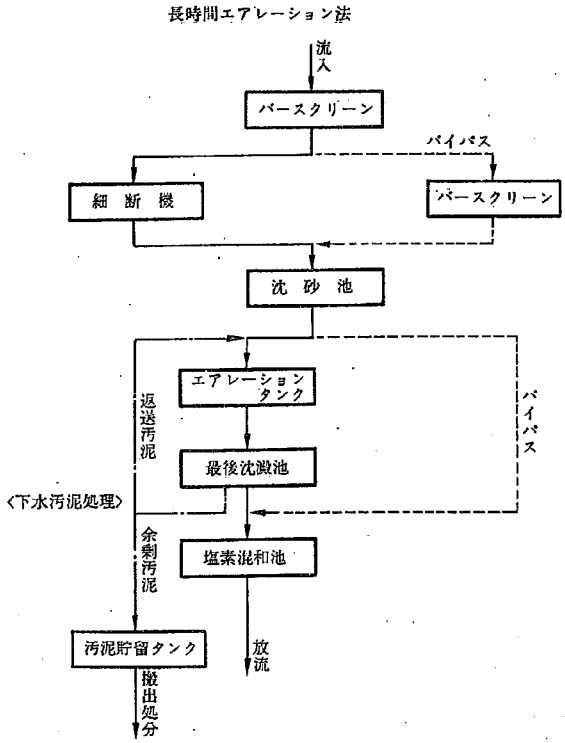
処理面積 現在	処理面積 計画	処理人口 現在排水人口	処理人口 水洗便所使用人口	処理人口 計画処理人口	産業排水量 現在	産業排水量 計画
12.9 ha	12.9 ha	3,150 人	3,150 人	3,000 人	m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用) 1 池	(雨天時用) 池
スクリーン	(晴天時用) 1 基	(雨天時用) 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 台	(雨天時用) 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
最初沈澱池	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
2階タンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 2 台	(雨天時用)
エアレーションタンク	(高級処理用) 2 池	(中級処理用) 池
散水沪床	(高速用) 池	(標準用) 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式)	(数量) 台
最後沈澱池	(活性汚泥用) 2 池	(散水炉床用) 池
滅菌池	(晴天時用) 1 池	(晴雨天時兼用) 池

⑧ フローシート

〈第1次および第2次処理〉



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭39.	39—	40.4.1	1 池	23.7 m	23.7 m	3.3 m	561.7 m²	1853.6 m³	21.0 m	33,300.0 m³/日	62.5 m³	ナンキ式動式掻寄機	日連 2.7 m/分	自然流下
2															
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1	昭38	昭38	39.4.1	2 池	9.5 m	7.0 m	4.5 m	299.3 m³	414.0 m³/日	414.0 m³/日	ディスクフューザ	44	16.9			
2	昭40.	—	42.11.1	2	113.3	7.2	4.5	3,265.1	13,176.8	9,293.6	散気筒	1,920	12			
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日			倍	
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1	昭35.	35—	36.4.1	1 基	直径 24.5 m	— m	1.5 m	164.4 m²	246.6 m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	50～60 mm	穴
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭38	昭38	39.4.1	2 池	7.0 m	3.0 m	3.55 m	21.0 m²	149.1 m³	6.0 m	828.0 m³/日	4.5 m³	リングベルト式フライトコンベヤ	0.3～0.8 m/分	エアリフトポンプ
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名 山田川

その場水量および平水量
放流位置 神戸市垂水区多聞町
処理水放流前の河川水のBOD

神戸 都市	多聞ポンプ	下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理) 昭和39年
〃 (第2次処理) 〃
② 共用開始年月日(第1次処理) 昭和40年6月1日
③ 〃 (第2次処理) 〃
④ 下水排除方式 合流式 (分流式)
⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量		晴天時1日最大処理量		雨天時最大処理量	
	現在	計画	現在	計画	現在	計画
第1次処理	1,104 m³/日	1,104 m³/日	1,584 m³/日	1,584 m³/日	2,784 m³/日	2,784 m³/日
第2次処理	1,104	1,104	1,584	1,584	2,784	2,784

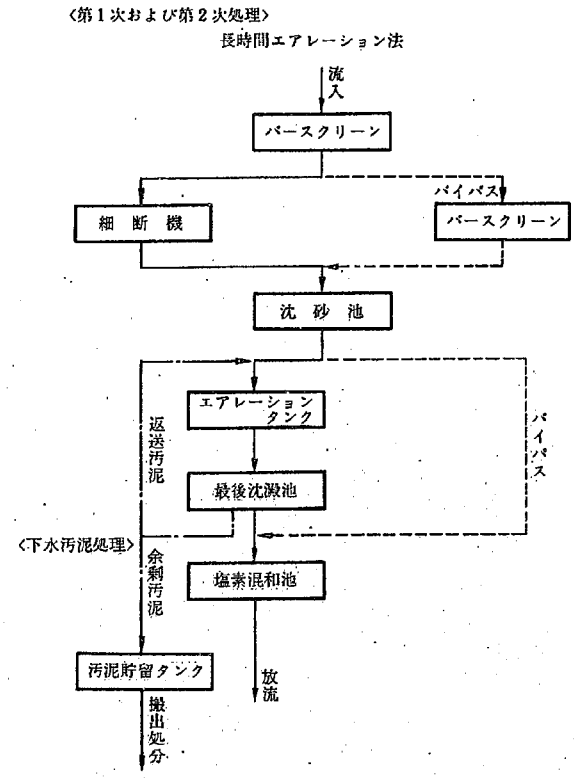
⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

処理面積		処理人口			産業排水量	
現在	計画	現在排水人口	水洗便所使用人口	計画処理人口	現在	計画
28.5 ha	28.5 ha	3,977 人	3,977 人	4,000 人	m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用) 1 池	(雨天時用) 池
スクリーン	(晴天時用) 1 基	(雨天時用) 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 台	(雨天時用) 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
最初沈澱池	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
2階タンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 台	(雨天時用)
エアレーションタンク	(高級処理用) 2 池	(中級処理用) 池
散水沪床	(高速用) 池	(標準用) 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式)	(数量) 台
最後沈澱池	(活性汚泥用) 2 池	(散水炉床用) 池
滅菌池	(晴天時用) 1 池	(晴雨天時兼用) 池

⑧ フローシート



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1				池	m	m	m	m²	m³	m	m³/日	m³			
2															
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1	昭39	昭39	40.6.1	4 池	7.5 m	6.0 m	4.5 m	202.5 m³	552 m³/日	552 m³/日	アイスクフューザー	64	17.6			
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日			倍	
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	m	個
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭39	昭39	40.6.1	2 池	8.0 m	4.5 m	3.5 m	36.0 m²	256.0 m³	4.5 m	1,104 m³/日	7.6 m³	リンダーベルトスクライトコンベヤ	0.3～0.8 m/分	エアリフトポンプ
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名 山田川
その渇水量および平水量
放流位置 神戸市垂水区多聞町
処理水放流前の河川水のBOD

神戸 都市 北須磨オ一 下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理) 昭和41年
〃 (第2次処理) 〃
② 共用開始年月日(第1次処理) 昭和42年12月1日
③ 〃 (第2次処理) 〃
④ 下水排除方式 合流式 分流式
⑤ 処理能力

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量		晴天時1日最大処理量		雨天時最大処理量	
	現在	計画	現在	計画	現在	計画
第1次処理	1,000 m³/日	1,000 m³/日	1,500 m³/日	1,500 m³/日	3,480 m³/日	3,480 m³/日
第2次処理	1,000	1,000	1,500	1,500	3,480	3,480

⑥ 処理面積, 処理人口, 産業排水量

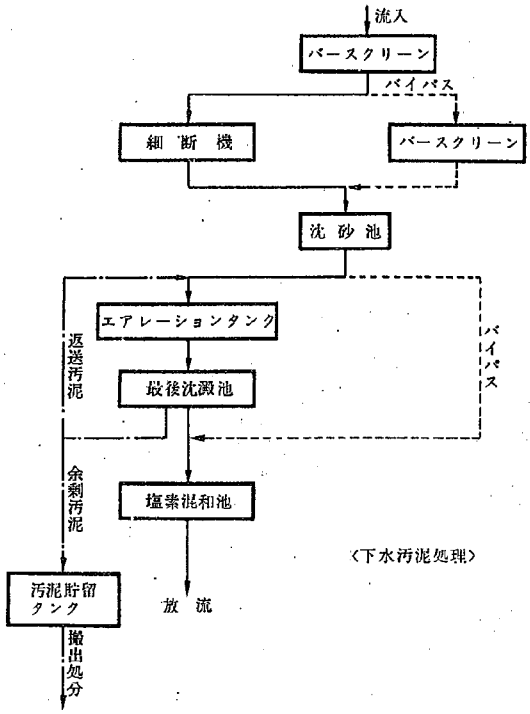
処理面積		処理人口			産業排水量	
現在	計画	現在排水人口	水洗便所使用人口	計画処理人口	現在	計画
41.8 ha	41.8 ha	1,214 人	1,214 人	5,000 人	m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用) 1 池	(雨天時用) 池
スクリーン	(晴天時用) 1 基	(雨天時用) 基
第1揚水ポンプ	(晴天時用) 台	(雨天時用) 台
前エアレーションタンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
最初沈澱池	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
2階タンク	(晴天時用) 池	(雨天時用) 池
第2揚水ポンプ	(汚水用) 台	(雨天時用)
エアレーションタンク	(高級処理用) 2 池	(中級処理用) 池
散水沪床	(高速用) 池	(標準用) 池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式)	(数量) 台
最後沈澱池	(活性汚泥用) 2 池	(散水炉床用) 池
滅菌池	(晴天時用) 1 池	(晴雨天時兼用) 池

⑧ フローシート

長時間エアレーション法



〈下水汚泥処理〉

⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1				池	m	m	m	m²	m³	m	m³/日	m³			
2															
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣工年度	機械工事竣工年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1	昭42	昭42	昭42.12.1	2 池	10.0 m	10.0 m	4.35 m	435.0 m³	500 m³/日	500 m³/日				ヨーコーン	2	コーン径 1940 ㎜ 出力 24 HP 25 KW
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
1				池	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日			倍	
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
1				池	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	mm	個
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭42	昭42	昭42.12.1	2 池	11.0 m	3.5 m	2.45 m	38.5 m²	94.3 m³	7.0 m	1.000 m³/日	7.1 m³	リングベルト式フライトコンベヤ	0.2~0.8 m/分	エアリフトポンプ
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名 上 横 川

その湧水量および平水量
放流位置 神戸市須磨区多井畑町字割谷
処理水放流前の河川水のBOD

神戸 都市 東灘 下水処理場

① 工事着手年度(第1次処理) 昭34 (し尿処理施設)
〃 (第2次処理) 〃 (〃)
② 共用開始年月日(第1次処理) 昭和37年10月1日
③ 〃 (第2次処理) 〃
④ 下水排除方式 合流式 (分流式) 一部合流式
⑤ 処理能力(現在はし尿処理施設を利用)

処理システム＼汚水量	晴天時1日平均処理量		晴天時1日最大処理量		雨天時最大処理量	
	現在	計画	現在	計画	現在	計画
第1次処理	10,000 m³/日	212,800 m³/日	10,000 m³/日	268,800 m³/日	10,000 m³/日	744,576 m³/日
第2次処理	10,000	212,800	10,000	268,800	10,000	744,576

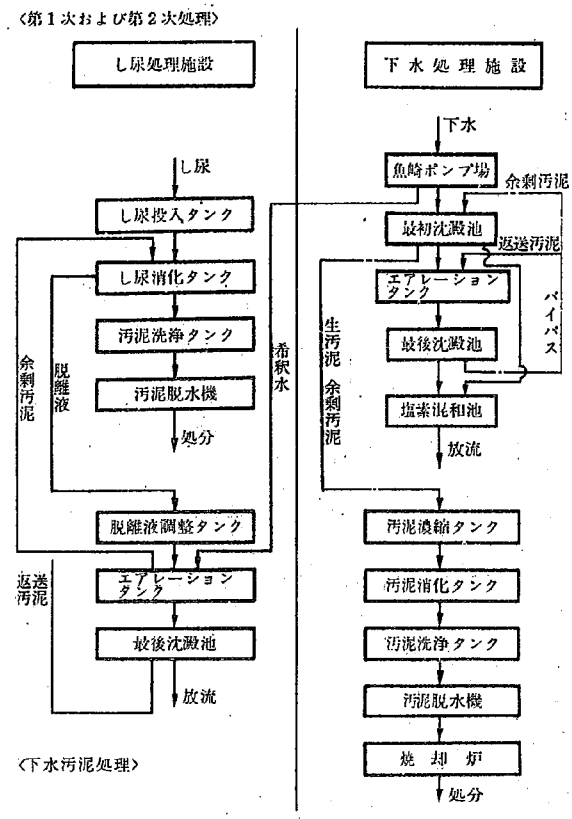
⑥ 処理面積、処理人口,産業排水量

処理面積		処理人口			産業排水量	
現在	計画	現在排水人口	水洗便所使用人口	計画処理人口	現在	計画
123.5 ha	250.1 ha	13,268 人	13,268 人	560,000 人	0 m³/日	m³/日

⑦ 下水処理場の現有施設

沈砂池	(晴天時用)	池	(雨天時用)	池
スクリーン	(晴天時用)	基	(雨天時用)	基
第1揚水ポンプ	(晴天時用)	台	(雨天時用)	台
前エアレーションタンク	(晴天時用)	池	(雨天時用)	池
最初沈澱池	(晴天時用)	2 池	(雨天時用)	池
2階タンク	(晴天時用)	池	(雨天時用)	池
第2揚水ポンプ	(汚水用)	台	(雨天時用)	
エアレーションタンク	(高級処理用)(し尿汚泥混合処理用)	池	(中級処理用)	池
散水沪床	(高速用)	池	(標準用)	池
高速エアレーション沈澱池	(製造会社, 商品名・型式)		(数量)	台
最後沈澱池	(活性汚泥用)(し尿汚泥用)	池	(散水炉床用)	池
滅菌池	(晴天時用)(〃)	池	(晴雨天時兼用)	池

⑧ フローシート



⑨ 各施設の主要諸元

最初沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	昭42			2 池	上 29.0 m 下 32.9	上 9.0 m 下 9.0	上 3.25 m 下 3.85	上 269.1 m² 下 269.1	上 874.6 m³ 下 1184.4	未設置 m	1,3696.5 m³/日	14.7 m³	未設置		自然流下
2															
3															
4															
5															

エアレーションタンク

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長	幅	有効水深	1池当りの有効容量	1池当り計画処理量 下水流入量	返送汚泥量	散気式の場合 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	機械攪拌式の場合 装置の種類	個数	規格寸法
1	昭37	昭37	37.10.1	2 池	60.0 m	5.0 m	4.5 m	1274.6 m³	4985.0 m³/日	1248.8 m³/日	散気管	480	15.1			
2																
3																

高速エアレーション沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り有効容量 エアレーション部	沈澱部	沈澱部1池当り 水面積	堰長	1池当り計画処理水量	エアレーション部1池当り 散気方法	個数	計画下水量に対する空気吹込倍率	攪拌機の有無
				基	m	m	m	m³	m³	m²	m	m³/日			倍	
1																
2																

散水沪床

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当り寸法 長さまたは径	幅	沪材深	1池当り 有効沪過面積	沪材総容量	計画処理量 下水量	返送水量	計画BOD負荷率	計画散水量	沪材の大きさ	散水孔の数
				基	m	m	m	m²	m³	m³/日	m³/日	kg/m³/日	m³/m²/日	mm	個
1															
2															
3															

最後沈澱池

No.	土木工事竣功年度	機械工事竣功年度	共用開始年月日	池数	1池当りの寸法 長さまたは径	幅	有効水深	1池当り 有効水面積	有効容量	堰長	1池当り計画処理水量	1池当りのホッパー容量	集泥 集泥方法	集泥機の速度	排泥方法
1	37		37.10.1	4 池	9.0 m	9.0 m	2.72 m	60.8 m²	163.9 m³	31.2 m	3217.5 m³/日	51.8 m³	ドルトムント式		エアリフトポンプ
2															
3															
4															
5															

⑩ 処理水放流先
放流河川名 大阪湾
その湾水量および平水量
放流位置 神戸市東灘区魚崎町樋屋浜横屋
処理水放流前の河川水のBOD

§1. はじめに

近年における大都市への人口の集中と工業生産量の急激な増加は、一方に於いて上水および工業用水の需要増による新らたなる水資源の開発を必要とし、他方において大中都市およびその郊外に多量の家庭下水と工場排水を発生させることになつた。このため都市内河川を貫流する河川の多くはその水質の汚濁が極度に進行して住民のリクレーションの場としての地位から転落し、とくに大都市内の河川では隅田川などのように河底からの硫化水素の発生によつて付近住民の健康や財産までもおびやかされるケースさえ認められるようになつた。また都市の用水源として利用されている河川もその上流部に住宅団地、工業団地などが数多く造成され、それらの団地からの下水によつて河川の水質が汚濁の一途をたどり、河川水が水資源としての水質的な価値を年々低下させているケースも数多く認められている。

このような現状に鑑み、都市およびその周辺地区からの下水、工場排水、雨水などを排除して処理したうえ無害なものとして河川などの公共用水域に放流させる使命をもつ下水道は局地的な生活環境整備のための施設としての効用のほか、大局的にも公共用水域の水質汚濁防止のための最も有効な、かつ経済的な対策として、更にすすんで水資源の開発とその保全のための最も有力な手段として取り扱われるようになつてきた。

このような観点から大都市およびその周辺の河川は下水道工事の進捗の状況を加味して、その水質基準の適用が考慮され、また水資源として重要な河川の水質を、その流域内から排出されるすべての家庭下水、工場排水などによる汚濁から守る決め手としての下水道の効用が広く認識されるようになつた。そして下水道は河川などの公共用水域の水質汚濁防止のため、さらには水資源の質的保全をもその目的として各地で建設工事が行なわれている。

わが国における下水道事業は昭和３８年度を初年度とする第１次下水道整備５ケ年計画および昭和４２年度を初年度とする第２次下水道整備５ケ年計画によつて本格化し、事業量は年々急激に増加している。このような膨大な事業を推進する支えとなる調査研究の重要性も増加した。調査研究を業務とする土木研究所では昭和４２年度より下水道事業調査費の配布を受けて、合理的・経済的な下水道の計画・設計に必要な調査研究を開始した。そのうち昭和４２～３年度の２ケ年間にわたつて実施した「雨天時下水排除の合理的設計に関する調査」では下水管渠の計画設計に必要な流出係数、流達時間、雨天時下水水質の調査などを行ない、その調査結果はすでに報告済である。

昭和４２年６月の下水道行政の一元化によつて下水処理場に関する行政を建設省が担当して実施することとなつた。これにより、下水道は管渠から下水処理場まで一貫した計画設計および工事を行なうべきであるという下水道関係者の念願はかなえられた。この新らたに建設省がその行政を担当することとなつた下水処理場内の各施設の計画設計は常に良質の処理水質を安

価な建設費および維持管理費でうることができるより多くの調査研究を必要とするものである。調査研究は、下水道技術の中心をなすものであり設計基準および維持管理指針の作成には、数多くの資料が必要とされる。しかしわが国では実際規模の施設を用いて現実に則した各種資料を得るため実施した調査研究は極く僅かしかなく、しかも組織的に実施したこの種の調査研究は全くないためこれが下水処理場設計および維持管理のための技術の進歩をはばんでいるとさえいえる。このようなことから今後建設を予定される数多くの下水処理場の計画・設計および維持管理のために必要な各種資料をうることが下水道技術のうえで急務とされる問題の1つとなつている。その資料収集の始めとして、すでに建設、運転が行なわれている処理場をふりかえり、我が国における処理の実態を把握し、基本的な技術問題に関する調査を行なうことも、我が国の実情に合つた合理的な施設の計画を行なう上で非常に重要な意義をもつものと確信している。

このような観点から建設省では、本年度より、下水道事業調査費による調査の一つとして「下水処理施設設計の合理化のための調査」に着手し、下水処理の計画および設計の合理化をはかるため、現況処理施設の詳細な機能調査を実施し、できるだけ、広範囲にわたつて、技術的な諸問題についての検討を行なうこととした。本年度の調査は、その第1の段階として現在運転が行なわれている全国各下水処理場の大略の実態を把握する目的で、各処理方法、建設費、維持管理費、流入下水量あるいは、処理施設の機能、放流先水域などについての現況調査を行なつたものである。

調査は、調査用紙の配布による回答を主体とし、回答を寄せられた１６０ヶ所の下水処理場の資料について集計解析を行なつたものである。調査の性格上個々のデータについては、不完全なもの、不十分なものもみられ、また、資料の膨大さ、あるいはその多様性のために、完全には、現況を把握しきれない点、整理の行ない得ない点もあつたが、我が国における下水処理場の大略の現況、あるいは問題点のいくつかを把握することができたと考えている。

なお、ここで調査に協力していただいた都道府県下水道関係部局、関係市町村ならびに各処理場の関係者に深く感謝の意を表する次第である。

§ 2. 既設の下水処理場の概要

本調査において対象とした下水処理場は、昭和４３年４月現在で公共下水道の認可を受けている全処理場である。供用開始直後であるため十分な運転をするにいたらない処理場など数下水処理場を除いて、１６０ケ所の下水処理場が調査の対象とされた。これらの下水処理場によつて処理される汚水量は、１日当り５８０万m³、その処理人口は1,１００万人を越えている。個々の下水処理場は、建設年月、規模、処理方式、またその地域の特性など種々の背景が異なつているものであるが、これらを一まとめにした一覧表を付表－１に示し、その概要についてのべる。

２－１　各処理方式ならびに規模別の分類

表２－１、２－２は全下水処理場を処理方式ごとに分類したものである。表－２－１は、計画人口ごとに、表－２－２は計画処理量ごとに分類し各処理方式とその規模について比較を行なつたものである。

我が国における下水の処理方法は、活性汚泥法、散水濾床法、簡易処理法に大別され、これ以外の処理方法は行なわれていない。表にみられる如く、我が国においては、活性汚泥法を用いたものが非常に多く、１０７処理場で全体の６６％を占め高速散水濾床法２３％（３８処理場）、簡易処理法１１％（１８処理場）の順となつている。活性汚泥法は、従来からの標準活性汚泥法の他に、種々の変法を含んでおりその中で、ステップエアレーション変法、モデフアイド。エアレーション変法、長時間エアレーション法などが採用されている。なかでもステップエアレーション変法が多く行なわれている。また、エアレーションタンクと最後沈殿池とが一体となつた、高速エアレーション沈殿池法（商品名、エアロアクセレーター．ラピット．ブロック．オキシジエスターなど）も比較的広範囲に用いられている。これらを規模別にみると、標準活性汚泥法は全体的に行なわれている。ニューヨーク市で開発された活性汚泥変法であるステップエアレーション変法、あるいは、中級処理であるモデフアイドエアレーション法は、比較的大きな処理場に採用されている。また、発生汚泥量が少ないが電力料金が高額になるといわれる長時間エアレーション法は、小規模な住宅団地の処理場に限られている。高速エアレーション沈殿池は、計画人口２０万人以下の処理場では全般的に採用されているが、これは、この処理法がコンパクト化されており、比較的、用地面積が少なくてすむことに主な原因があると考えられる。

散水濾床法は３８ケ所の処理場で採用されているが、これらは全て高速散水濾床法である。計画人口２０万人（計画日平均処理量で１０万m³／日）までの中規模の下水処理場に数多くみられる。三河島下水処理場で古くから採用され、維持管理が簡単で、運転コストが安い標準散

水濾床法は多くの利点を有するが、用地の関係から姿を消し、現在この処理法を採用しているところはない。

簡易処理法（沈殿放流）は、計画人口３万人以上の中規模以上の処理場で行なわれているが、これらの大部分は将来標準活性汚泥法などの２次処理施設を増設する計画を有するものである。

全体的にみた場合、規模別の下水処理場数は小規模下水処理場といわれる計画人口３万人までのものが５１処理場（全体の３１％）あり、２０万人以上の計画人口を有する大規模な下水処理場は３４処理場（２０％）であり、小規模な処理場が比較的多い。小規模下水処理場をさらに詳しくみると、計画人口が５千人以下の下水処理場が１３ヶ所、５千～１万人の下水処理場が１１ヶ所、１～３万人の処理場が２７処理場となつている。これらの多くはいわゆる団地の処理場であるが一般には、小規模な処理場は、建設費、維持管理費とも不経済であり、維持管理が不十分になり易い。また、流入下水の日変動が激しく、計画容量をオーバーし易い欠点をもつため良好な処理水質の維持が困難となる場合が多い。現在までのところでは、これらの小規模な下水処理場は、種々の要因で建設されてきたものであろうが、良質の水質を得るための維持管理が非常に困難な点に鑑みて将来は綜合的な計画のもとに、できるだけ集約化した大型の下水処理場で処理を行なう方向に向うことが必要であろう。

表２－１　下水処理場の処理方式ならびに規模別の分類（計画人口当）

処理方式		合計	(千人) 1～5	(千人) 5～10	(千人) 10～30	(千人) 30～100	(千人) 100～200	(千人) 200以上	備考
活性汚泥法 107	標準活性汚泥法	48	3	6	11	11	9	8	
	ステップエアレーション変法	26	-	-	-	7	4	15	
	モデファイド・エアレーション変法	4	-	-	-	-	2	2	
	その他の変法	4	3	1	-	-	-	-	オキシデーションデイッチ法 長時間エアレーション法
	高速エアレーション沈殿池	25	5	1	4	9	5	1	商品名 エアロアクセレーター、ラピッドブロック、オキシジエスターなど
高速散水濾床法		38	2	3	11	12	10	-	全て高速散水濾床
簡易処理法		18	-	-	1	6	3	8	
合計		163	13	11	27	45	33	34	合計数が多いのは、１処理場で複数の処理方式を採用しているためである。

表２－２　下水処理場の処理方式ならびに規模別の分類（計画日平均処理量当）

処理方式		合計	(千m³) 0～1	(千m³) 1～5	(千m³) 5～10	(千m³) 10～30	(千m³) 30～100	(千m³) 100～200	(千m³) 200以上	全体に占める割合（%）	
活性汚泥法 107	標準活性汚泥法	48	2	14	7	8	9	5	3	29.4	活性汚泥法として65.6%
	ステップエアレーション変法	26	-	-	-	5	9	5	7	15.9	
	モデフアイドエアレーション変法	4	-	-	-	-	2		2	2.5	
	その他の変法（長時間エアレーション等）	4	1	3	-	-	-	-	-	2.5	
	高速エアレーション沈澱池法	25	3	4	4	7	5	1	1	15.3	
高速散水濾床法		38	1	9	6	16	6	-	-	23.3	
簡易処理法		18	-	1	-	4	6	7	-	11.1	
合計		163	7	31	17	40	37	18	13	100	

２－２　最近における処理方法の傾向

ここで、第１次５ケ年計画が開始された昭和３８年以降に、建設、供用開始された下水処理場について、その処理方法の傾向をみてみる。

表２－３は昭和３８年以降に建設された下水処理場数を処理方式ごとに分類したものである。

昭和３８年以降に新たに供用開始された下水処理場は、１１０ケ所の下水処理場にのぼり、全体の約７０％を占め、最近において、処理場が急ピッチで建設されていることがわかる。（ここでいう、供用開始年というのは、実際運転が行なわれ始めた年度を指し、１次処理と２次処理の供用開始年が異なる場合は、最近における処理方法の採用の傾向をみるために、２次処理開始年度をとつた。また、３８年以前に供用が開始された処理場で新たに拡張を行なつた場合については、同様の理由からここでは対象外とした。これらは付表－１に一括して記入してある）。

表にみられるごとく、活性汚泥法を採用している処理場は全体の７０％を占め、現段階で簡易処理を行なつている処理場の将来の２次処理方式を考慮に入れれば、ますます増加していく傾向がみられる。

一方高速散水濾床法は、１７％程度であり、４２年以降には２処理場が建設されただけで全体として減少していく傾向にある。

これは、高速散水濾床法が、活性汚泥法に比べて広い用地面積を必要とすること、その処理能力が、活性汚泥法に比較して劣るため、放流水域の側からの問題があること、臭気、はえ等の問題が起り易いということなどによるのであろうが、散水濾床法には維持管理のし易さ、その経済性などに多くの利点もあり、用地の確保ができる中程度以下の処理場では、標準法の採用などを含めて、その利用を検討すべきであろう。また逆に、用地の確保が困難であるという

理由のみから、十分な調査および検討を行なわずに、コンパクトな処理法を採用することはつつしまなければならない。

処理方式の決定にあたつては、各処理法およびその変法の意味をよく理解し、建設費、維持管理費等を十分検討した上で将来に悔を残さないようにすることが必要である。

表２－３　昭和３８年以降に供用開始された処理場

処理方式＼年度(年)		38	39	40	41	42	43(※)	計	全体に占める比率
活性汚泥法	標準活性汚泥法	-	5	6	11	12	1	35	31.8(%)
	ステップエアレーション変法	2	5	3	2	3	1	16	14.5
	モデフアイドエアレーション変法	-	-	1	-	-	-	1	0.8
	その他（長時間エアレーション等）	-	1	1	1	1	-	4	3.6
	高速エアレーション沈澱池	-	-	9	6	6	-	21	19.2
高速散水濾床法		4	3	3	6	2	1	19	17.3
簡易処理法		1	2	2	5	2	2	14	12.8
合計		7	16	25	31	26	5	110	

単位、処理場数
年度は　供用開始年
（※）４３年については、総数ではない。

２－３　工場排水の流入する処理場

下水道の計画区域およびその周辺の工場排水をどのようにするかという問題は、下水道の計画の上で大きな問題となる。初期における下水道は、家庭下水の処理が中心であつたが、工業の発達とともに、多くの下水処理場において、工場排水を受け入れて処理することはさけられないものとなつている。これは、工場廃水の処理を行なう上で家庭下水との共同処理が、最も経済的で、処理もし易い場合が多いことによるのであるが、周辺の水質汚濁を防止する上からも下水道管理者は可能なかぎり下水道に工場排水を受け入れる努力をする必要がある。しかしながら、工場排水は、多種多様なものであり、それぞれ、性質、濃度、水量を異にしているため、工場排水の受入れを行なう下水処理場では、設計の段階で処理方式を検討し、設計容量を十分に見込んでおく必要があり、これらの調査を怠ると、過負荷あるいは、処理能力の低下といつたトラブルを引きおこすことになる。これらについての詳細な論議は、別にゆずるとして、ここでは、我が国の公共下水道における、工場排水の受入れの現況を調査結果をもとに簡単にのべる。

現在公共下水道で、工場排水が流入する下水処理場は、５２ケ所であり、これは全体の３３％を占める。（付表－１参照）これら処理場に流入する工場排水は、多種にわたるものであり、処理に大きな影響を与えない排水の場合もあり、薬品による前処理を必要としている場合もある。家庭下水との流入比も種々であり、その流入量も正確に把まれていない場合が多いが最大の場合では、工場排水の流入量が家庭下水量の８０％を越えている下水処理場がある。

設計の段階で、工場排水の流入を見込んでおくことの必要性は、前述した通りであるが、今回の調査では、工場排水の流入する下水処理場のうちで、設計に工場排水量を特に見込んでいる下水処理場は、２２処理場でありこれは工場排水の流入する下水処理場の約４０％にあたる。即ち、約６０％の下水処理場が、設計時に工場排水の流入を全く見込んでいないということであり、下水処理場の計画の段階では、予測しえなかつたにせよ現実に設計流量を超加する結果となつており（付表－１）施設の拡張等を行なわなければならない場合もかなりみられる。

２－４　し尿の直接投入の行なわれている下水処理場

下水道の完備していない多くの都市において、し尿の処理は、大きな問題である。一般には、し尿処理場での処理、山林、海洋などへの投棄処分によりその解決がはかられているが、その処理量が限度にある場合は、一時的な解決策として、バーキューム車を用いて集められたし尿を下水処理場近くで管渠に投入する、あるいは、屎尿消化槽からの脱離液を場内で投入するなどして下水と混合して処理を行なつている場合がある。今回の調査によると、こうした形で生じた尿が投入されている下水処理場は、３１処理場（全体の約１８％）みられた。

このように多くの都市において、し尿が直接投入されているわけであるが、これによる流入負荷量もかなり大きくなる場合がみられ下水処理場の側からみた場合に、これは処理水を悪化させる原因となつている。

いずれにせよ、この問題は下水道の完全な普及、これに伴なう水洗化が完備すれば解決する問題であるため、現状においては、やむを得ない策と考えられるが、このような場合は、下水処理場での運転操作を注意して、処理水を悪化させない努力を払わなければならない。

２－５　計画汚水量について

下水処理場の規模は、処理すべき下水の量（計画汚水量）によつて決定される。計画汚水量は、通常次の手順から算出される。

① 計画人口の決定

② １人１日最大汚水量の決定

１人１日最大汚水量は、上水道の計画給水量以上として決定されるが、その標準値は、計画人口によつて異なり、通常は以下の値とされる。

計画人口（千人）	計画１人１日最大給水量（ℓ／人）
１０以下	１００～１５０
５０以下	１５０～２５０
５００以下	２５０～３５０
５００以上	３５０以上

（工場用水、温泉は別に考慮）

③　計画１日最大汚水量（①×②）の決定

④　計画１日平均汚水量の決定

（⑤　計画時間最大汚水量の決定）

⑥　工場排水量の決定

⑦　地下水量の決定

（下水道施設基準）

これらからわかるように、計画汚水量算定の基礎となるのは、計画人口および１人当りの汚水量、工場排水量である。工場排水の流入する場合に、考慮を払う必要性は、前にのべた通りであるが、１人当りの汚水量を正確に算定しておくことも非常に重要である。これが不正確であると、計画が完了した場合、あるいは、その途上で施設は、過負荷の状態となり、完全な機能を果すことができず、一方あまり過大な量を見込むことも不経済であることは明らかである。

しかしながら上述したように、汚水量は、上水の給水量を基準としたものであり、地下水、あるいは、海水等の混入などから、不正確になり易い要素をもつたものである。設計時に決定される計画汚水量は、工場排水を考慮しない場合は、１人当りの計画汚水量として表わすことができる。

$$1\text{人当り計画汚水量}(m^3/\text{人}) = \frac{\text{計画日平均処理量}(m^3)}{\text{計画処理人口}(\text{人})}$$

また、同様にして現在流入している汚水量と処理人口の関係から、１人当りの汚水量を算出することができる。

$$1\text{人当りの汚水量}(m^3/\text{人}) = \frac{\text{現在日平均処理量}(m^3)}{\text{現在排水人口}\ (\text{人})}$$

このようにして求めた計画汚水量／人と、現況の汚水量との関係を付表－１に示した。同表にみられるごとく、設計上用いられている汚水量は、処理場の規模、あるいは、計画区域の種々の特性などにより種々の値を示している。１人当りの計画汚水量とその数は、以下のようになつている。

１人当りの計画汚水量	数
１００～１５０（ℓ／人）	8
１５１～２００	１８
２０１～２５０	４０
２５１～３００	３５
３０１～３５０	１２
３５１～４００	１２
４０１～４５０	9
４５１～５００	2
５０１～５５０	7
５５１～６００	3
６００以上（主として温泉地）	１０
計	１５６

（註）設計時に工場排水量を見込んでいる場合はその分を差引いて１人当りの計画汚水量を算出した。

一方、表には、現在の流入している汚水量を示したが、かなりの下水処理場において、流入汚水量が計画である汚水量を上まわつている場合が見受けられる。そして極端な場合には、計画人口の受入れが３０％程度で流入量が計画量を上まわつてしまつている場合がある。このような場合においては、計画完成時に過負荷の問題が生じるのは明らかであるが、この原因として考えられているのは、

① 地下水、海水等の管渠への浸入
② かんがい用水等の地表水の流入
③ 雨水吐などからの河川水の浸入
④ 計画時に考慮していない工場排水の受入
⑤ 計画区域外の下水の受入
⑥ 冷房用水等の大量流入
⑦ 人口１人当りの使用水量の見積りのあやまり
⑧ その他（し尿の投入など）

などである。表２－１の備考欄に、計画汚水量を上まわつて流入している下水処理場について、その主たる原因を示したが、多くの場合その原因は、管渠内への地下水の過剰な量の流入と工場排水の受入れに求められる。

こうした、設計流量の超過という問題は、設計計画段階での調査を十分に行なうこと、管渠の施工及び維持管理を十分に行なうことによつて、ほとんどの場合はさけることができる。それ故このような超過が起らないように計画の進捗段階で現時点での処理には問題がない場合においても、常に流入量の現況を把握して適正な対策を行なうようにしなければならない。

2－6　流入水質と処理水質からみた場合の各施設の除去機能について

処理施設の除去機能をマクロな形で把えようとする場合、その目安とされるのは、処理施設に流入する水質と処理水の水質との関係（除去率）あるいは、処理水の水質そのものである。

これらの値は、流入水の水質あるいは、処理の方法によつて異なるものであるが、処理方法ごとの目安としては従来つぎの値がとられている。

処理方法		除去率	
		BOD	浮物（S.S）
簡易処理	普通沈澱法	25～35	30～40
中級処理	高速散水濾床法 モデフアイドエアレーション法	65～75	65～75
高級処理	標準散水濾床法	75～85	70～80
	標準活性汚泥法外	85～95	80～90

以上の範囲でのＢＯＤおよび浮遊物（以下ＳＳという）除去率が得られていれば一応施設の機能が発揮されていると考えることができるわけである。流入水の水質が極端に高い場合、あるいは低い場合には、ＢＯＤおよびＳＳ除去率のみで現施設の機能を単純には、評価できないわけであるが、この場合は、処理水の水質である濃度によつて判断をしなければならない。

（下水道法によれば、処理水の水質として、高級処理の場合でＢＯＤ　２０ppm以下、ＳＳで７０ppm以下、中級処理の場合にＢＯＤ６０ppm、ＳＳで１２０ppm、簡易処理でＢＯＤ120ppm以下、ＳＳ１５０ppm以下という基準の数値が定められており、処理水がこの範囲内にあるかどうかも、判断の基準とすることができよう。）

こうした観点から、マクロな意味で処理場の処理機能が発揮されているかどうかをみるために、各処理施設ごとに、流入水質と流出水質及びその除去率についての整理を行なつてみたがその結果はごく一部の例外を除いて全般的には良好であつた。

また下水処理場によつては、第１次処理施設のない場合、（２３処理場）あるいは逆に前エアレーション施設を有している場合（１７処理場）などがあるが、これらの下水処理場の除去効率については、他の場合との比較において、今回の資料のみでははつきりとした差を見出すことができなかつた。

今回の調査は、４３年９月～４４年２月までの間に各下水処理場ごとにそれぞれ１回のみの採水および水質調査を行なつたものである。したがつて、これが年間を通しての平均的な値と考えることには、問題があり、この資料のみをもつて処理機能が良好であると即断することは危険である。

2－7　処理水の放流先の状況について

下水処理場からの処理水の放流先水面の状況は、処理方式の決定のための大きな要因となる。このため放流水域の利用状況に加えて、放流水域の現在の水質ならびに渇水量、さらには同一水域に放流される他の汚濁源からの汚水の放流をも考慮した将来水質の状況を十分に予測しておくことが必要である。

下水処理場の建設による処理水の放流は局所的には放流水面の水質を悪化させる場合があるが、総合的にはその水質汚濁防止に果す役割は大きいし、また、そうでなければならない。しかしながら、局所的なトラブルを少しでも少なくするためには放流位置の選定には十分慎重でなければならない。

ここでは、現在の下水処理場の放流先の水質とその放流先の現況をのべる。

付表－２に我が国の下水処理場の処理水の水量と、放流先の現況ならびに、それが河川である場合の平水量及び渇水量、処理水放流直上流のＢＯＤについて、一覧表にしたものである。

ＢＯＤの測定は、４２年秋の調査にそれぞれ一回測定したものであり、年間の平均水質の代表値ではないが、ある程度、放流先の水質の状況を表現しているものと考えられる。また、表中の空欄は、調査表に回答がなかつたものである。

２－７－１　放流先の水域状況について

付表－２に、放流先の水域の一覧表を示した。これによれば放流水域は、河川である場合が大部分をしめており臨海都市においては、海ないしは、湾が放流先となつている。海に放流しているところは２２個所で１４％を占め、残りは、河川（感潮域を含む）ないしは水路、湖等である。このように、ほとんどの場合は、いわゆる内陸部で放流されているため、河川に流入後の放流水の挙動が何らかの形で問題になるものと考えられる。このため、放流河川の水量、水質と処理水の水量水質の関係が放流水面における希釈効果を考慮するため重要な問題となつている。

２－７－２　放流水面の水量・水質と処理水の水量水質の関係

処理水の水質と放流水面の水質について見ると放流水域の水質でＢＯＤが、処理水のＢＯＤを上まわつている場合が７０数ケ所にのぼり、これは、全体の約半数を占めている。即ち約半数の処理場では、処理水が放流水面よりもきれいであるという結果が得られた。これは結局のところ放流河川の水質が極端に悪化しているということであり、このようなケースは、特に大都市あるいは工業都市の河口部に集中している。これは、その流域の下水道整備が完全に出来ていないことによる工場排水、家庭下水の河川への直接放流が多いことに帰因している。この流域の下水道整備が完全に行なわれれば、このような現象は解消されるのは当然である。

しかしながら、約半数の下水処理場においては、下水処理水の水質は、放流先の水質よりＢＯＤが高く、放流水域の固有流量による希釈の効果を期待しているわけである。付表－２にみられる如く、これらの河川は、処理水量に比して固有流量が多く十分な希釈効果を果せるも

のから、渇水時において処理水量とほとんど同じ程度になるものまで様々であり、下水処理場の放流水により局所的に河川水質を悪化させている。下水処理場の建設が多くの下水を１個所に集中させることによつてかえつて水質汚濁を招くということがあつてはならないため、下水処理場の位置及び処理方式の決定にあたつては、放流水域の水質水量、さらには、その自浄作用などを考慮して、将来においても水質汚濁防止の機能を十分に果すように留意することが、建設後に十分な維持管理を行なうことと併せて重要なことである。

§ 3. 下水処理場の建設工事費

下水処理場の設計計画にあたつて、最も重要な問題の一つは、処理方式の決定である。

処理方式の決定は、処理すべき排水の水質および水量、放流水面の要求する水質、用地面積、維持管理にかけうる人員及び経費など多くの点を加味して、綜合的に行なわれるべきものであるが、同時に、処理施設の建設工事費を把握しておくことも財政計画を立てる上から非常に重要である。本章において、前にあげた、全国の下水処理場の調査結果をもとに、建設工事費についての検討を行なつた。

下水処理場の建設費は大略以下のものに分類できる。

(1) 沈砂池およびスクリーン関係建設費

(2) ポンプ施設建設費

(3) 一次処理施設建設費（主として最初沈澱池）

(4) 二次処理施設（エアレーションタンク、散水濾床及び最後沈澱池など）建設費

(5) 塩素滅菌関係施設建設費

(6) 場内各種配管などの建設費

(7) 汚泥処理関係施設建設費

(8) 設計調査費

(9) 用地費

(1)、(2)は、管渠の計画で変るものであり、汚泥処理施設は別に取り扱うものとして、ここでは、最も重要な、一次、二次処理施設について、各単位処理施設ごとに調査結果の解析を行なつた。

建設工事費の算定にあたつては、処理場の各単位施設の土木工事費及び機械工事費の合計をもつて、単位施設の建設工事費とした。前述した如くこれは、一次、二次処理施設のみの建設工事費であり、活性汚泥法の建設工事費という場合は、一般に最初沈澱池・エアレーションタンク及び最後沈澱池の建設費の合計を指しており、汚泥処理関係、ポンプ関係の建設費あるいは、用地費、調査設計費といつたものも含んでいない。したがつて処理場全体の建設工事費を考える場合は、これらの費用を加えなければならない。

我が国における下水処理場の建設は大正１２年の三河島（東京都）下水処理場にはじまり、吉祥寺院下水処理場（京都市）昭和９年、露橋下水処理場（名古屋市）の昭和１１年、など戦前の処理場もかなりの数にのぼる。建設工事費は、物価、人件費の変動に大きく左右されるものであり、このような大正末期から現在にわたる長い年数にわたつて、建設されてきた各下水処理場を同列において比較することは、多少問題であるが、ここでは、建設省計画局作成の建設工事費、換算係数表を用いて、全資料を昭和４０年単価に換算して建設工事費の補正を行なつた。以下に換算係数表を示す。

年度は昭和

年度	係数	年度	係数	年度	係数
11	502.4	22	9.076	33	1.445
12	415.2	23	4.331	34	1.369
13	374.3	24	2.858	35	1.295
14	323.7	25	2.485	36	1.155
15	283.2	26	1.969	37	1.106
16	258.4	27	1.867	38	1.077
17	248.4	28	1.770	39	1.040
18	215.7	29	1.613	40	1.000
19	157.3	30	1.606	41	0.926
20	46.84	31	1.497	42	0.893
21	23.16	32	1.422	43	

各施設の建設工事費は、規模による影響を大きくうけ、規模が小さい場合は割高に、大きい場合は割安になると考えられるため、規模別の分類を行なうこととした。

下水処理場の規模を表わす示標としては、計画人口、あるいは、計画日平均処理量が適当である。したがつて、下水処理場内各施設の単位建設費は、計画人口当り、計画日平均処理場当りで算出することとした。これらの数値は以下の式によつて算出される。

$$\text{計画人口1人当建設費}\ (\text{千円}/\text{人}) = \frac{\text{建設費（土木工事費＋機械工事費）}\ (\text{千円}) \times \text{換算係数}}{\text{計画人口}\ (\text{人})}$$

$$\text{計画日平均処理量当建設費}\ (\text{千円}/\text{m}^3) = \frac{(\quad 〃 \quad) \times \quad 〃}{\text{計画日平均処理量}\ (\text{m}^3)}$$

ここで用いた計画人口は、現在完成して運転中の施設に対応する計画人口という意味であり、計画の全てが完成していない下水処理場については、完成して運転中の施設に対する計画人口を用いた。

以下に各処理施設ごとの建設工事費についての比較検討を行なつた。

3－1　各処理方法ごとに要した建設工事費について

図3－1～図3－8までに、このようにして求めた建設費と各処理方法の関係を示した。図3－1～3－4までが計画処理費当りの建設工事費、図3－5～3－8までが計画人口当りの建設工事費と、計画処理量、計画人口の関係である。図3－1～3－3までと図3－5～3－7までに各処理プロセスごとの関係を図示し、図3－4,図3－8には、それぞれをまとめたものを図示した。

なお、ここでいう処理方法というのは、次のものを意味している。

活性汚泥方法　（最初沈澱池＋エアレーションタンク＋最後沈澱池）

高速散水濾床方法　（最初沈澱池＋散水濾床＋最後沈澱池）

したがつて、この場合のプロセスごとの建設費というのは、処理に必要な各単位施設の建設工事費の合計ということになる。

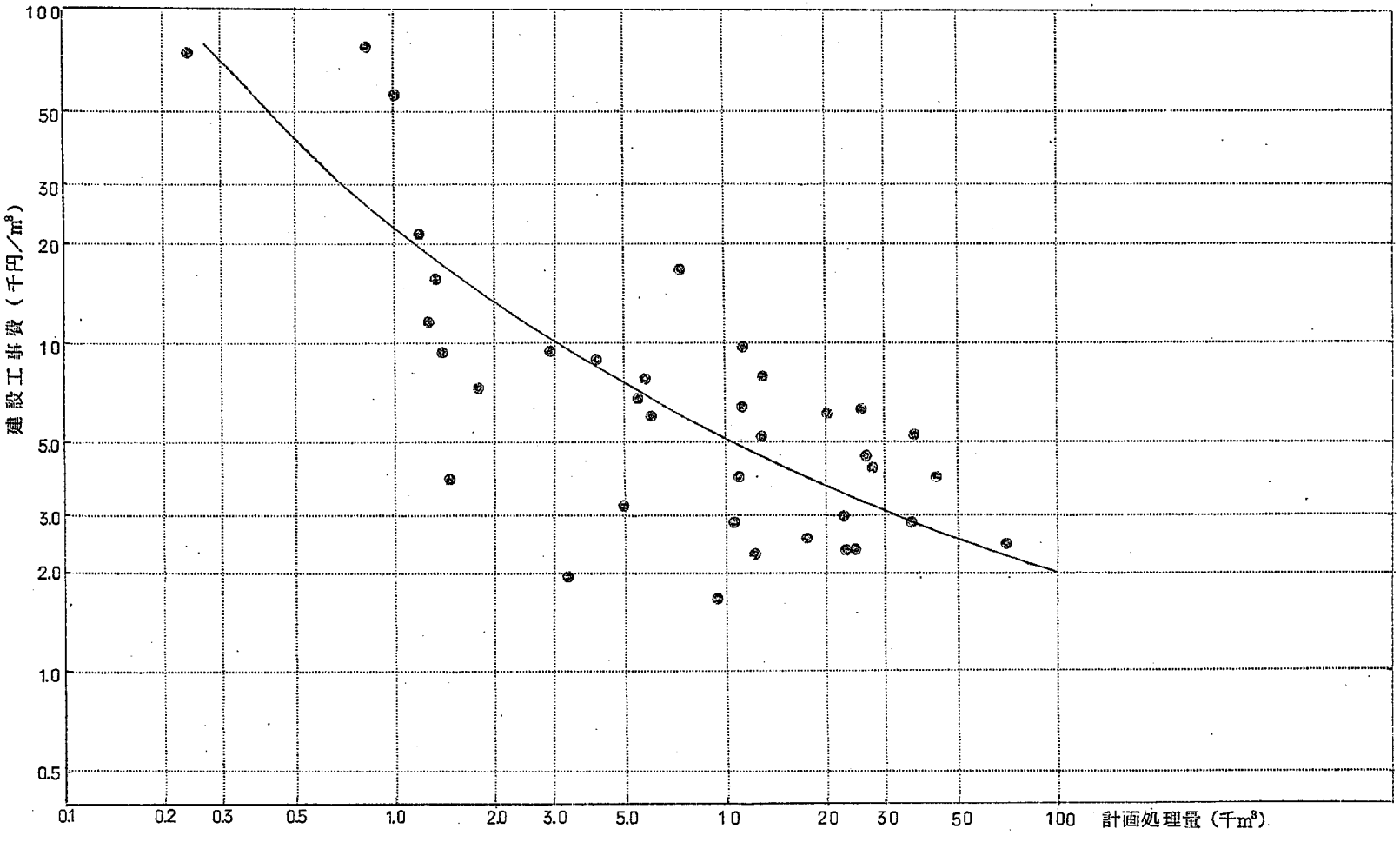
建設工事費は、各都市の特性（大都市であるか中都市であるか）あるいは、農村部であるか都市部であるかといつた地域的なもの）あるいは、下水処理場建設地の特性（工事の難易に関係するもの）によつて変動するため、同じ規模、同じ処理方式の場合でも同一であるとはいえない。また、同一単位処理施設の場合においても、その処理方式の差、たとえば、沈澱池を考える場合においては、エアレーションタンクにつながるものであるか、散水濾床につながるものであるか、あるいは、最初沈澱池のみで、一つの処理系（簡易処理）を形成しているものであるかによつて必要とされる容量が異なるものであり、更に円形であるか方形のものであるかという形状の違いによつても差はでてくるものである。

また、外観を考慮して、施設を設計する場合には、建設費は、当然割高になるのであるが、ここではこれらのうちで、前エアレーションタンクの有無、最初沈澱池の有無といつた明らかに構成要素の異なるもののみを除外して集計を行なつたものである。

3－1－1　高速散水濾床法に要した建設工事費

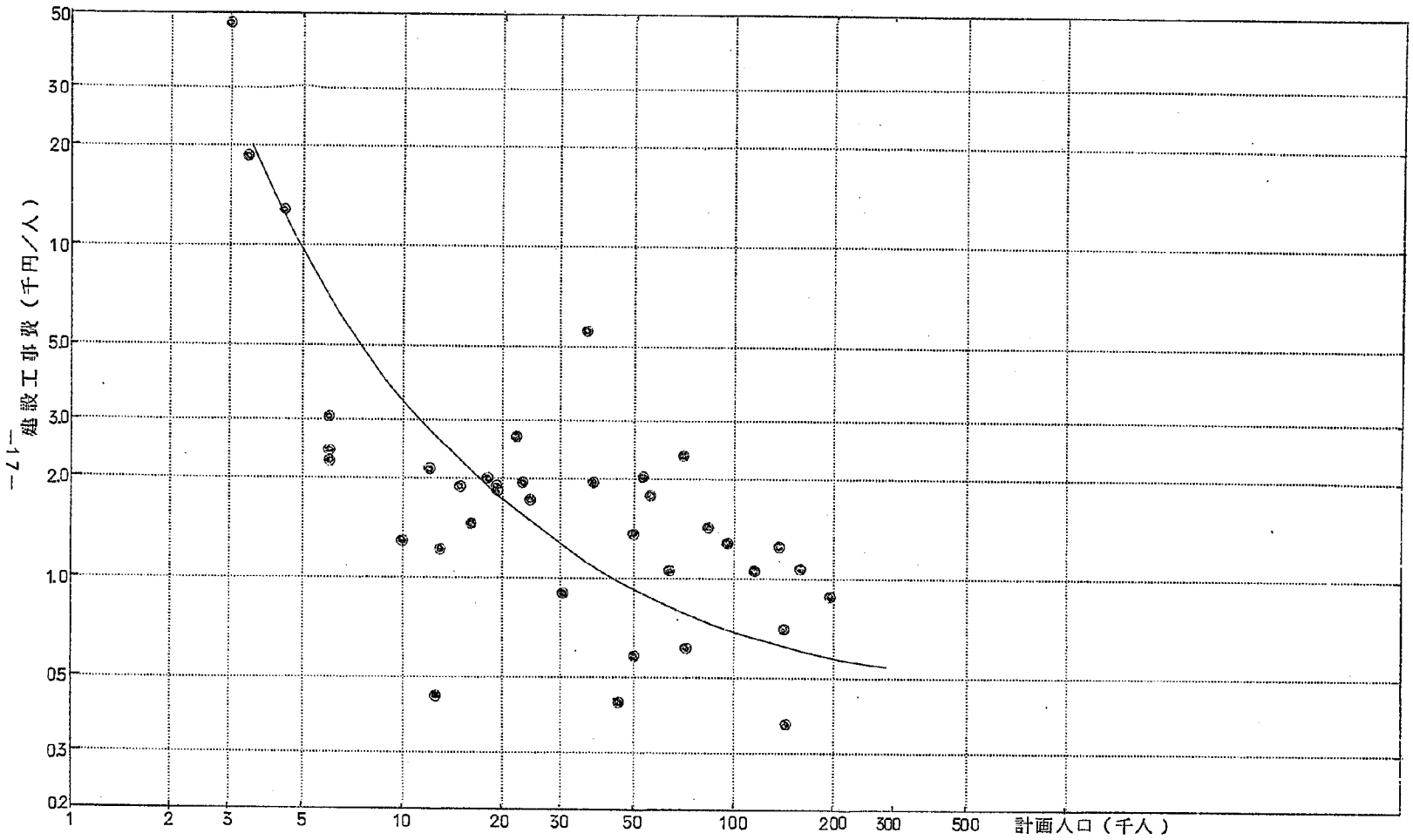
図3－1は散水濾床法に要した計画日平均処理量1㎥当りの建設費と処理場の計画処理量の関係を図示したものであり、図3－5は、計画人口1人当りの建設工事費と計画人口の関係を示したものである。図にみられるように、かなりのバラツキがみられるが、これは、前に述べたような各種要素によるものと考えられる。規模が大きくなるにつれて、建設工事費が安くなる傾向がみられ、散水濾床法の場合は、特にその傾向が強く、施設が大きいほど割安となつていることがわかる。計画人口でみた場合、5,000人程度の小規模な下水処理場で人口1人当りの建設費に9500円／人を要しているのに対し、計画人口10,000人となると3,400円／人で1/3以下となり50,000人の下水処理場では950円／人と5000人の場合の1/10でありその規模による建設費の低下は著しいものがある。

計画日平均処理量でこれをみた場合も同様であり、処理量3,000㎥／日の下水処理場の場合に、1㎥当りの建設工事費が10,500円要しているのに対し、10,000㎥／日の場合には、4,800円／㎥、日平均処理量が30,000㎥／日の下水処理場では2,800円／㎥となり、3,000㎥／日の下水処理場の場合の約1/4の費用で建設が行なわれている。これらの値は図にみられる如く、平均的なものであり、個々の都市、個々の下水処理場において異るものであり、その最大最小の巾は、かなり大きいものであるが、これらについては、表3－1、表3－2に、他の処理方式の場合とともに一覧表にして示した。



図－3－1　計画処理量1m³当に要する建設工事費

散水濾床法（初沈＋濾床＋後沈）の場合

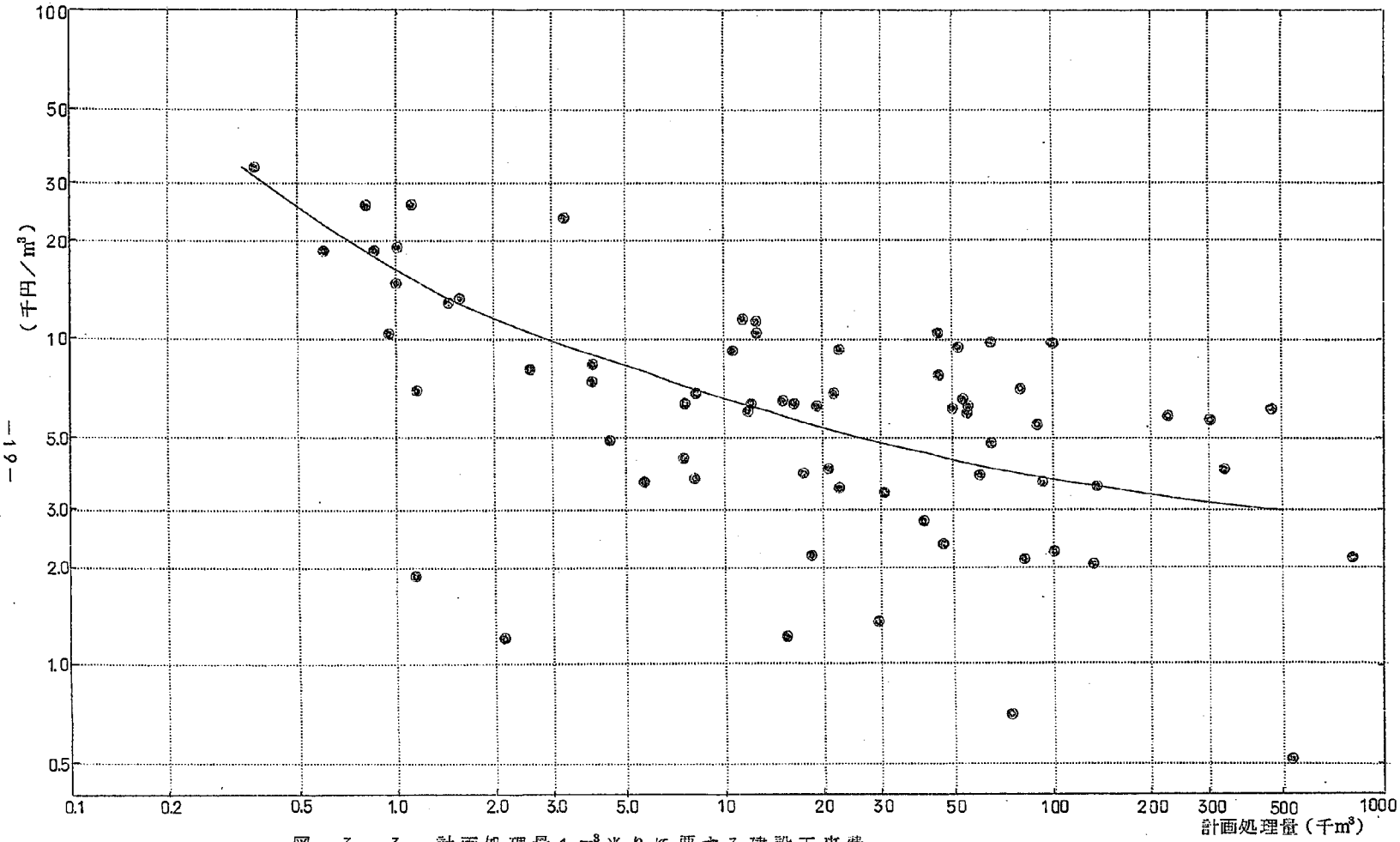


図－3－2　計画人口1人当に要する建設工事費
散水濾床法（初沈＋濾床＋後沈）の場合

3－1－2　活性汚泥法に要した建設工事費

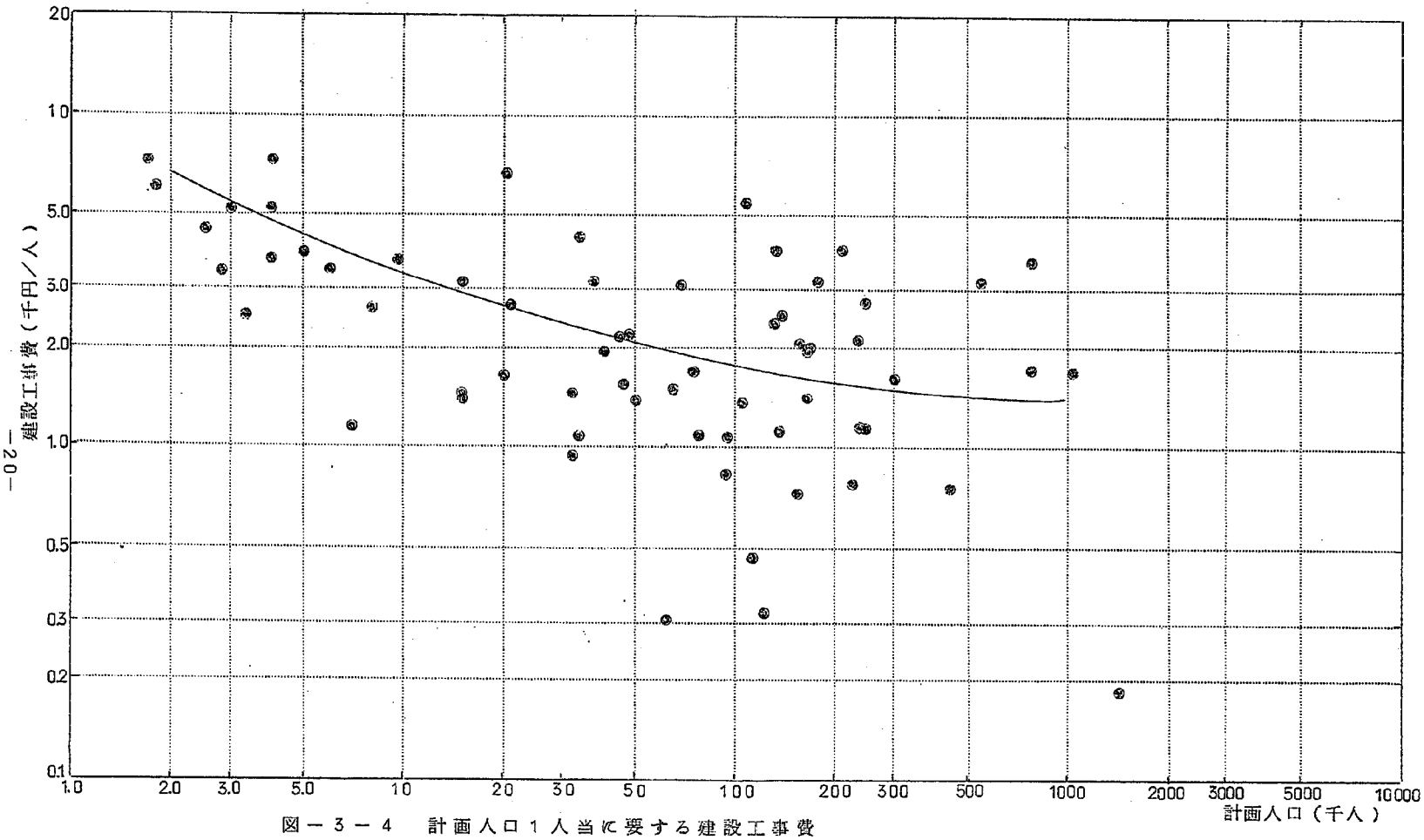
活性汚泥法の場合に要した建設工事費を、計画日平均処理量1㎥当りに要した工事費と下水処理場の計画処理量の関係、計画人口1人当りに要した工事費と処理場の計画人口との関係に分けて図示したのが、図3－2および図3－6である。活性汚泥法の場合は、標準活性汚泥法の他に、ステップエアレーション変法あるいは、モデフアイドエアレーション変法などが含まれており、これらはそれぞれ設計容量が若干異つてくるがこれらの間の詳細な建設費の評価は別に行なうものとして、ここでは、活性汚泥法として一まとめにしてとりあげた。

活性汚泥法の場合も散水濾床法の場合と同様に規模が大になるにつれて、建設費が安くなる傾向がみられる。活性汚泥法の場合は、小規模な下水処理場（計画人口2千人程度）から大規模な下水処理場（計画人口で100万人程度）まで、その範囲は広いが、この間の工事費の低下率は比較的ゆるやかであり、計画日平均処理量で10万㎥／日計画人口で30万人を越す場合その建設費の差はほとんどみられなくなつている。これは、活性汚泥法の場合に大きな役割を果すエアレーションタンクがその構造において散水濾床の場合ほど規模による差を受け難いためであると推察される。しかしながら、なお、規模による経済性は大きく、計画人口5,000人の下水処理場で1人当りの建設費は4,200円　50,000人の下水処理場で2,000円／人と50%以下になり、50万人の計画人口を有する下水処理場では、1,400円／人となつており、5,000人の場合の⅓の建設費で施設の建設が行なわれている。（計画人口30万人からは、建設費がほとんど変らないのは前述した通りである）



図－3－3　計画処理量1 m³当りに要する建設工事費

活性汚泥法（初沈＋エアレーションタンク＋後沈）



図－3－4　計画人口1人当に要する建設工事費

活性汚泥法の場合（初沈＋エアレーションタンク＋後沈）

3－1－3　両処理方式の建設費の比較

図3－5および図3－6は高速散水濾床法の場合と活性汚泥法の場合に要した建設工事費について、計画処理量と計画人口ごとに比較したものを示す。

両図にみられる如く、予想された如く全般的には散水濾床法の方が建設費が安い。施設が小規模になる場合計画日平均処理量で2,500㎥／日以下、計画人口で10,000　人以下の処理場では、散水濾床法の場合の方が安いという結果が得られているが、これは、この大きさの散水濾床法の下水処理場の場合にいわゆる二階槽が使われているためこの影響があること、構造物の形式から小型の場合に、エアレーションタンクの建設費が割安となるためであると思われる。

これは、表3－3における、エアレーションタンクと、散水濾床の建設費の比較からも明らかである。

これらの間の比較は表3－1に示した。

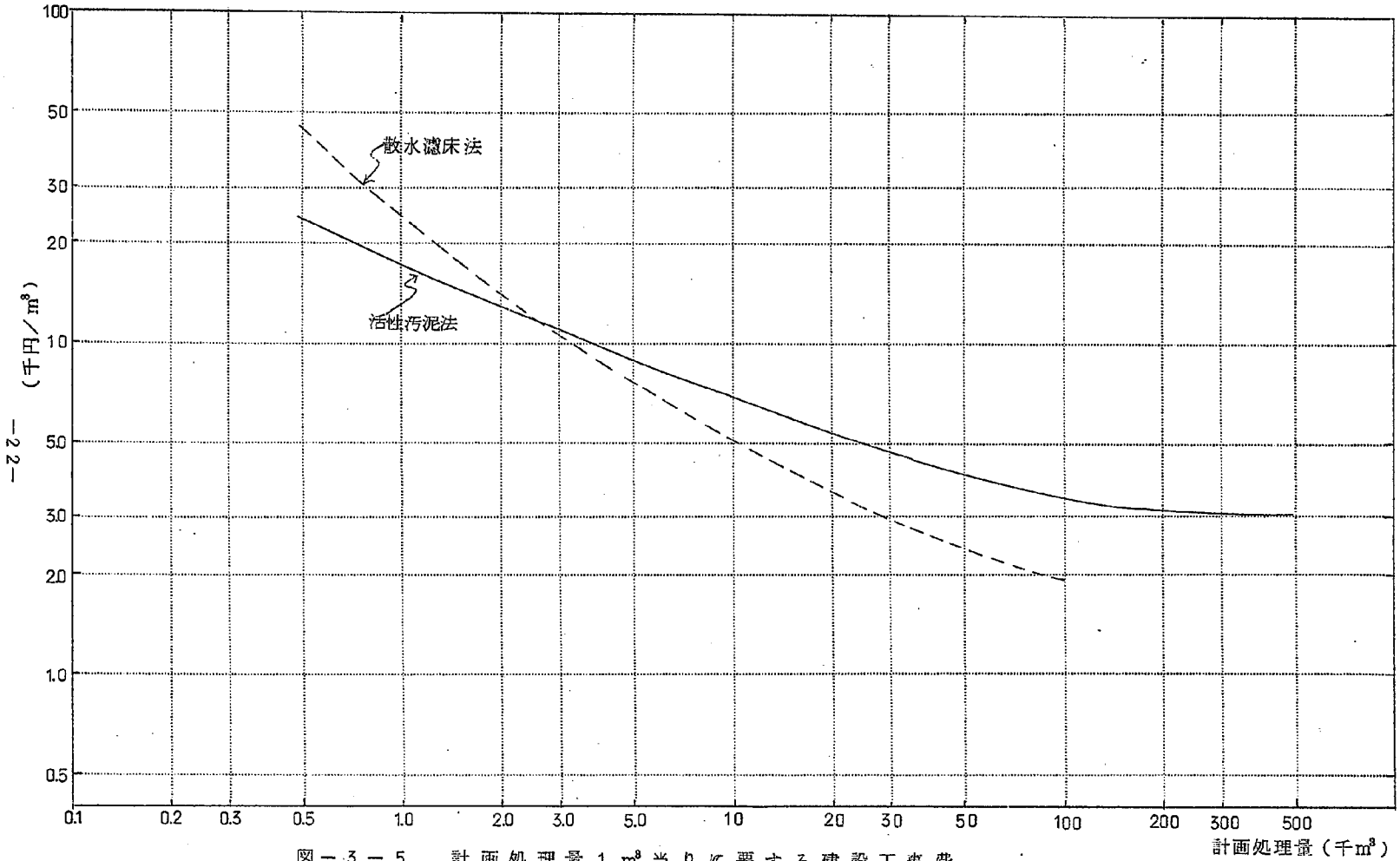
表3－1　各プロセスごとの計画人口1人当に要する建設工事費

計画人口（千人）	活性汚泥プロセス 最小～平均～最大			散水汚泥プロセス 最小～平均～最大		
2	5.3	6.6	7.0	—		
3				(25)		
5	2.5	4.2	6.8	3.0	9.5	2.4
10	1.6	3.2	6.0	1.4	3.4	8.2
30	0.94	2.3	5.6	0.65	1.3	2.4
50	0.75	2.0	5.2	0.48	0.95	1.7
100	0.6	1.8	4.8	0.38	0.68	1.2
300	0.46	1.5	4.2	200千人 0.34	0.55	0.9
500	0.43	1.4	3.9	—		
1,000	0.40	1.4	3.7	—		

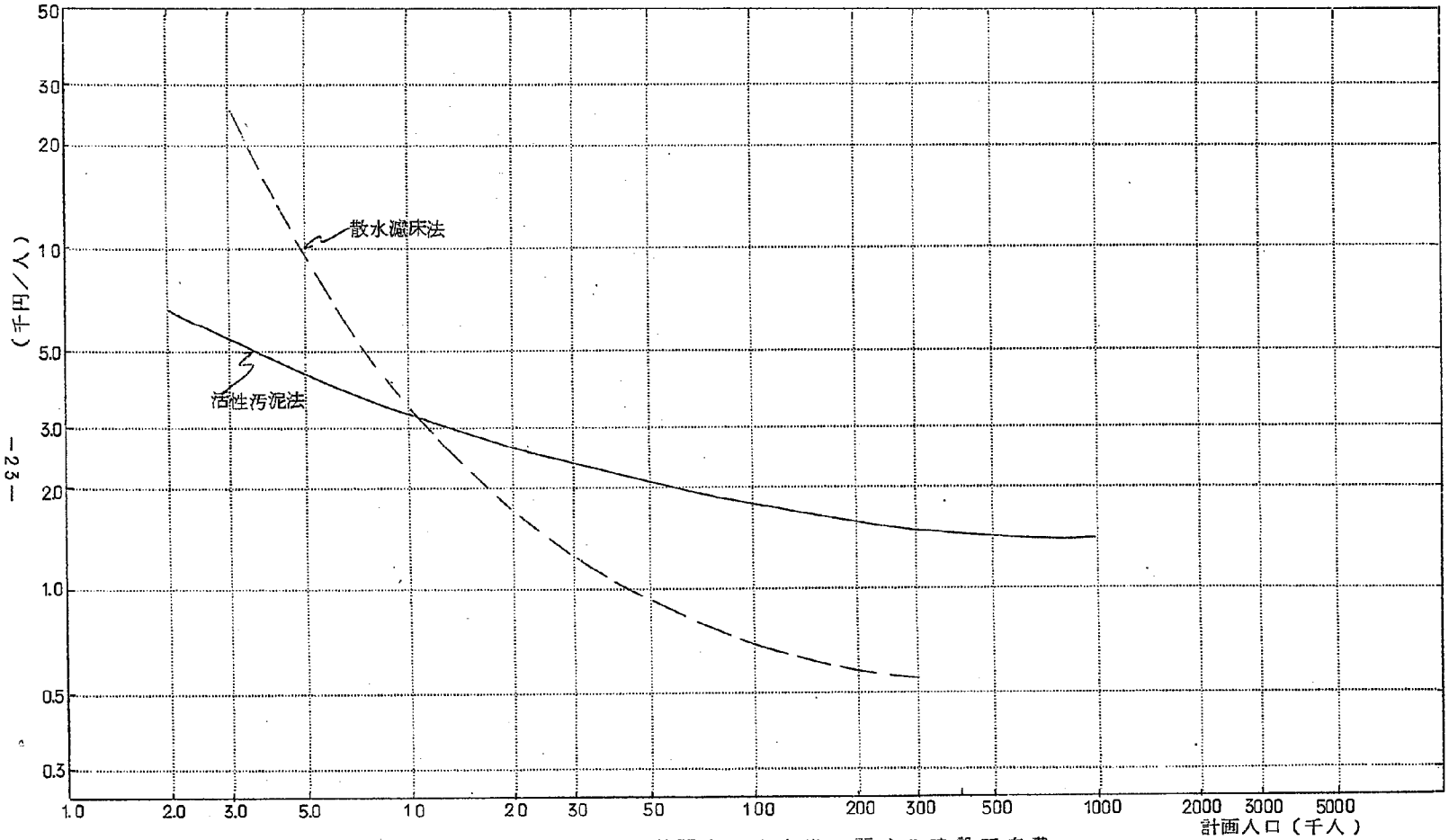
表3－2　計画処理量1㎥当りに要する建設工事費

計画処理量（千㎥／日）	活性汚泥法 最小～平均～最大			散水濾床法 最小～平均～最大		
0.5	12	24	52	22	45	
1.0	7.8	17	34	12	24	54
3.0	5.2	11	21	5.2	10.5	23
5.0	4.2	9	17	3.7	7.2	14
10.0	3.4	7.5	12.5	2.7	4.8	9.5
30.0	2.3	4.8	9.2	1.6	2.8	5.2
50.0	1.9	4.0	8.0	1.4	2.4	4.2
100.0	1.7	3.4	7.0	1.1	1.9	3.2
300.0	1.3	3.2	6.0	—		
500.0	1.3	3.0	5.8	—		

（単位　千円/人）



図－3－5　計画処理量1m³当りに要する建設工事費



図－３－６　各プロセスごとの計画人口１人当に要する建設工事費

3－2　各単位施設ごとに要した建設工事費

つぎに、各処理方法のプロセスを形成する単位施設について、その建設工事費の算出を行なつた。

ここでいう単位施設とは、最初沈澱池、エアレーションタンク、散水濾床、最後沈澱池、および、前エアレーションタンクである。なお、表3－3には、各単位施設当りの建設費の一覧表を示した。

3－2－1　最初沈澱池建設工事費

図3－7に計画人口1人当りに要する最初沈澱池の建設工事費と計画人口との関係を示した。図中では、散水濾床法の場合、活性汚泥法の場合に分けてある。一般には、散水濾床法の場合と活性汚泥法の場合では、最初沈澱池の容量が同一計画人口の場合でも異なるはずであるが（滞留時間でそれぞれ2.0時間および1.5時間が標準とされている）同図に示したように、両者の建設費の差ははつきりと見出すことはできなかつた。

最初沈澱池の場合は、各下水処理場により1人当りの建設費に大きな差がみられ特に小規模な施設の場合は最小と最大との間に10倍近い差がみられた。

これらは、土木工事の難易あるいは、汚泥排除方式の差などからくる機械工事費の差などに大きな原因があるものと考えられる。

3－2－2　高速散水濾床に要した建設工事費

図3－9に高速散水濾床建設に要した建設工事費を示した。散水濾床の形状は全て円形であつた。

高速散水濾床の建設費にも規模による経済性がみられ計画人口2千人の散水濾床では、1人当りの建設費が2,400円1万人で1,000円／人、10万人を越えると300円／人以下となつている。

3－2－3　エアレーションタンクに要した建設工事費

図3－8にエアレーションタンクの建設に要した工事費と下水処理場の規模の関係を示した。図にみられるようにかなりのバラツキがみられるが、規模による経済性はこの場合も同様である。図中で標準活性汚泥法の場合とステップエアレーション変法の場合を色分けしてあるが、同図でみられるようにはつきりとした差は見出すことはできなかつた。これは、両者の構造の違いによる建設費の差よりも他の要因が大きくきいているためと思われる。

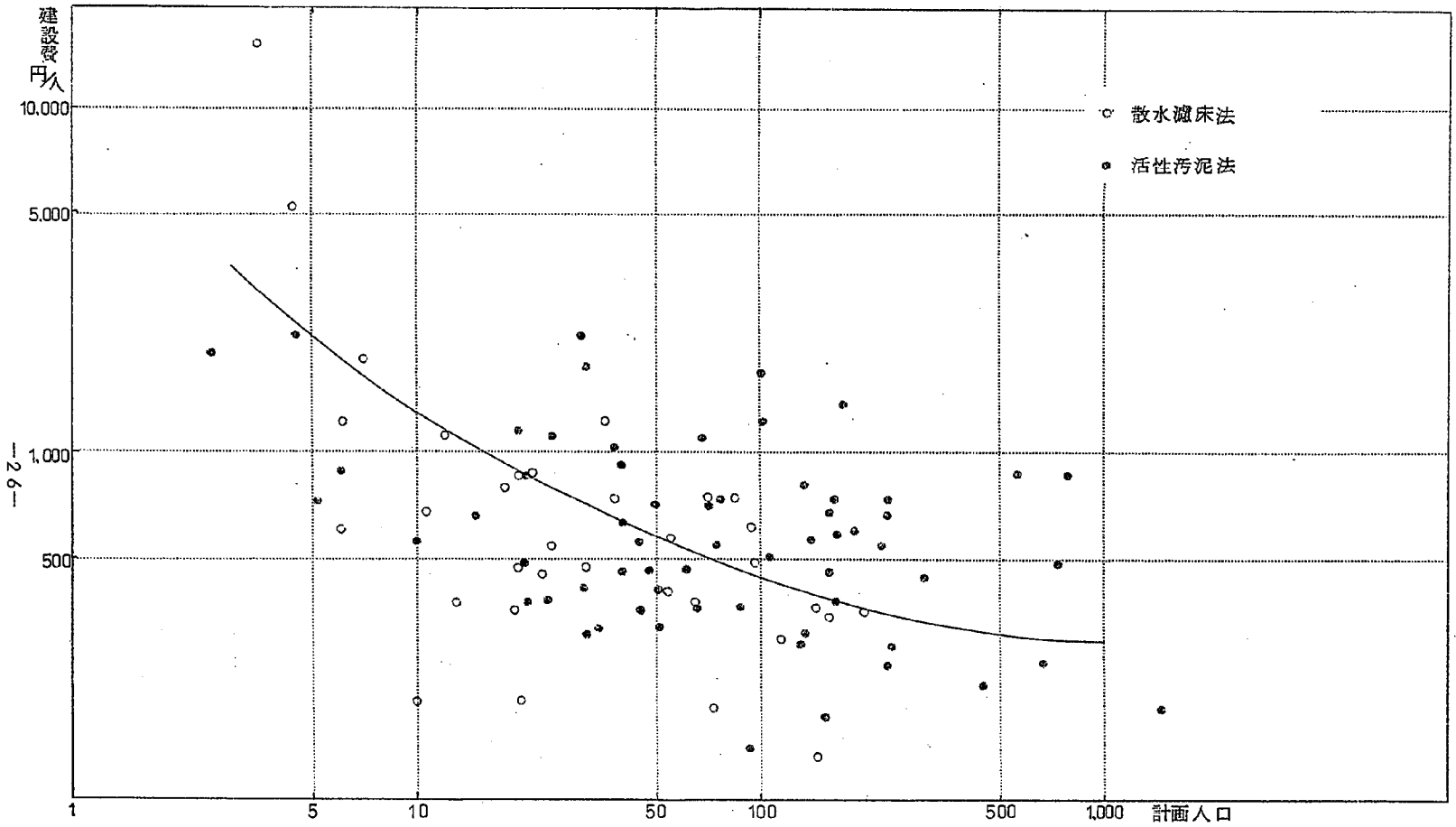
3－2－4　最後沈澱池に要した建設工事費

図3－10に最後沈澱池の建設に要した工事費を示した。同図にみられる如く、散水濾床法の場合の方が活性汚泥法の場合よりも若干安いようである。

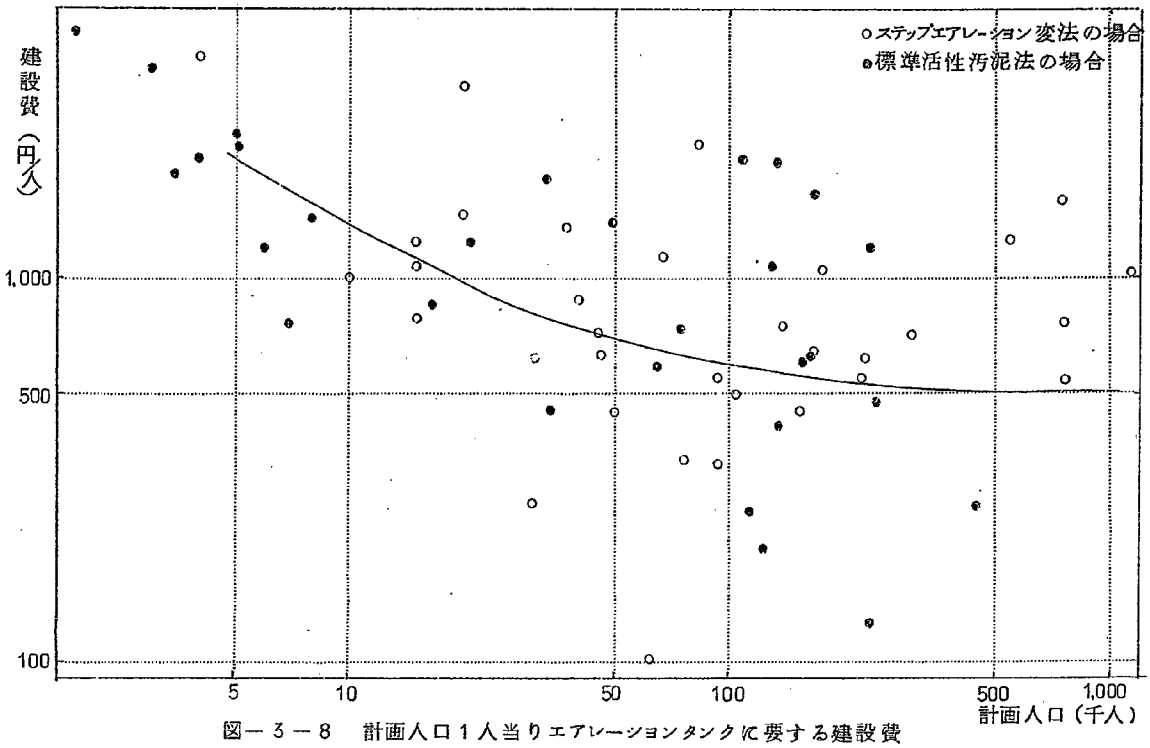
表3－3　各単位施設当建設費（計画人口当）

計画人口	最初沈殿池			エアレーションタンク			散水濾床			最後沈殿池		
(10^3人)	最小	(平均)	最大	最小	(平均)	最大	最小	(平均)	最大	最小	(平均)	最大
2	1.2	3.5	15				1.8	2.4	3.4	0.75	1.4	3.4
5	0.8	2.2	7	1.3	2.0	3.4	0.98	1.6	2.4	0.58	1.2	2.4
10	0.56	1.4	3.8	0.7	1.4	2.5	0.52	1.0	1.6	0.45	0.9	1.8
30	0.32	0.75	1.8	0.37	0.8	1.7	0.24	0.52	1.0	0.3	0.6	1.2
50	0.28	0.6	1.3	0.29	0.7	1.5	0.17	0.39	0.86	0.28	0.52	1.1
100	0.21	0.45	1.0	0.22	0.6	1.3	0.12	0.28	0.70	0.24	0.44	0.85
300	0.17	0.33	0.72	0.14	0.54	1.1	0.09	0.24	0.52	0.18	0.34	0.66
500		0.31			0.5	1.1				0.16	0.32	0.60
1000		0.29			0.5	1.08						

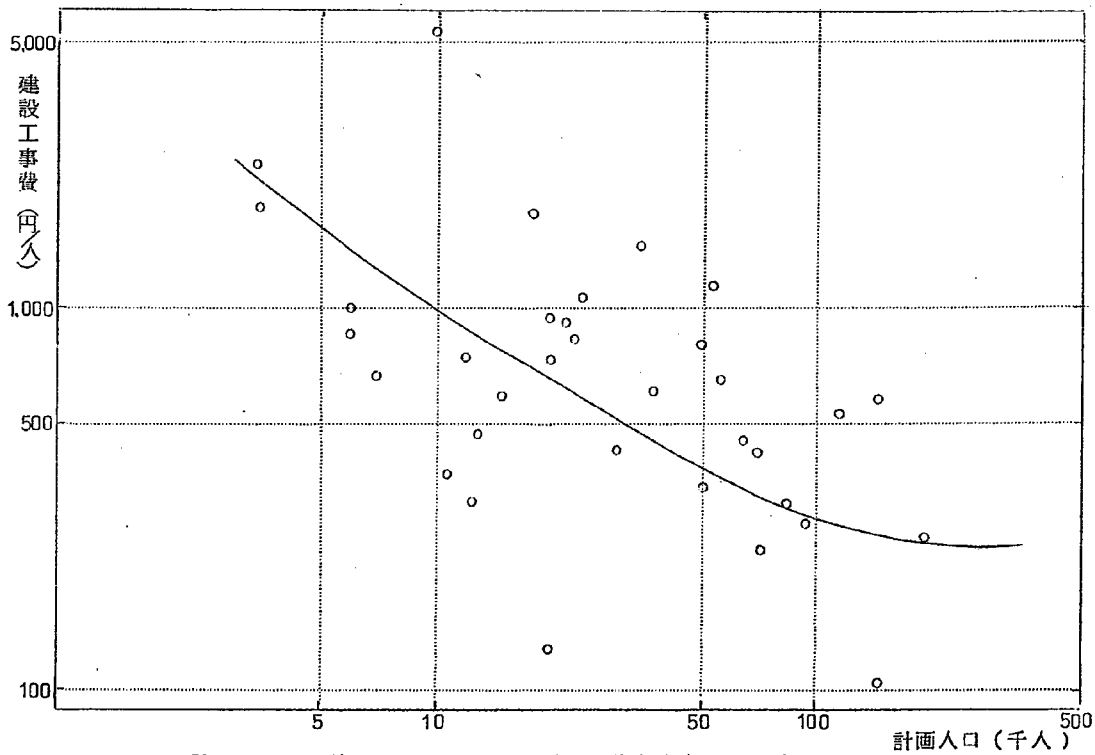
（10^3円/人）



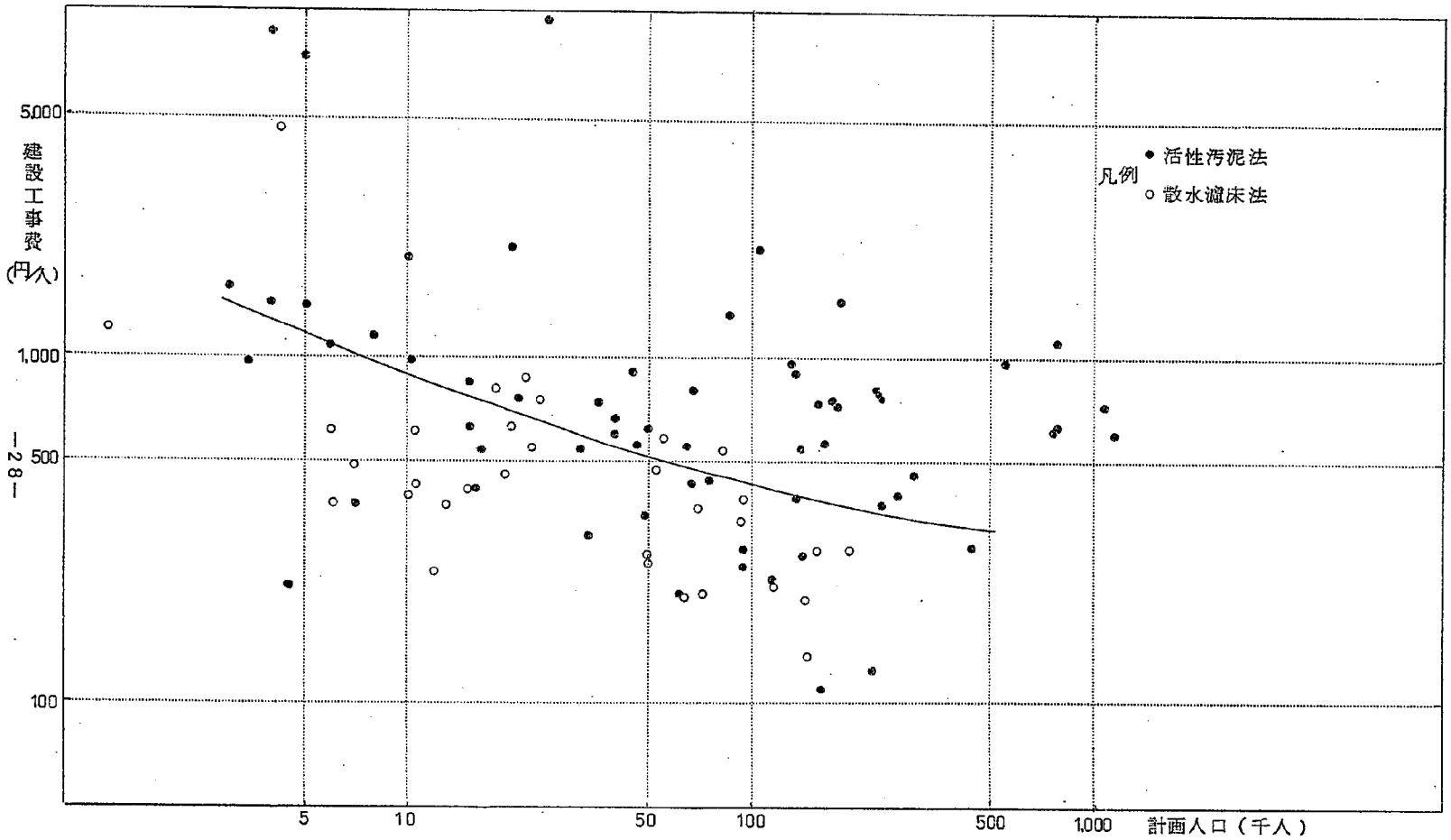
図－3－7　最初沈澱池建設費



図－３－８　計画人口１人当りエアレーションタンクに要する建設費



図－３－９　計画人口１人当りに要する散水濾床の建設費



図－3－10　計画人口1人当りに要する最後沈澱池建設費

3－3　汚泥処理施設の建設費について

ここまでに、下水処理に要した建設費についての評価を行なつてきたが、下水処理場の建設費を考える場合、汚泥処理施設関係の建設費も大きな割合を占めることは、周知の通りである。汚泥処理施設関係の建設費については、昭和43年度に土木学会が行なつた「下水汚泥の処分方法に関する研究報告書」の建設費に関するデータを使用して、下水処理施設建設費中に占める汚泥処理施設の建設費をみてみることにする。

表3－4は、汚泥処理の方法を

① 乾燥床

② 濃縮 → 脱水

③ 濃縮 → 脱水 → 焼却

④ 嫌気性消化 → 乾燥床

⑤ 濃縮 → 嫌気性消化 → 脱水

⑥ 濃縮 → 嫌気性消化 → 脱水 → 焼却

という代表的な6種類のプロセスに分けて両者の建設費を比較したものである。下水及び汚泥の処理量は、同報告書中の活性汚泥法の場合で1000対11，散水濾床の場合の1000対41という汚泥の発生割合に応じて、同一規模で比較できるように対比させてある。

同表にみられるように、汚泥処理に占める建設費の割合は高く、乾燥床のみの場合を除き、活性汚泥法で27～55％、散水濾床法の場合で15～35％を占めており、下水処理に加えて、合理的な汚泥処理の方策を図ることの必要性が大きいことがわかる。

表 3 − 4　下水処理建設費中に占める汚泥処理施設建設費の割合

	下水処理施設（汚泥施設含まず）建設費		汚泥処理施設建設費												
	下水量	建設費	汚泥量	（乾燥床）		（濃縮）↓（脱水）		（濃縮）↓（脱水）↓（焼却）	d／a+d	（嫌消）↓（乾燥床）		（濃縮）↓（嫌消）↓（脱水）		（濃縮）↓（嫌消）↓（脱水）↓（焼却）	
	m³／日	千円 a	m³／日	千円 b	b／a+b	千円 c	c／a+c	千円 d	d／a+d	千円 e	e／a+e	千円 f	f／a+f	千円 g	g／a+g
活性汚泥法	1,000	19,600	11	2,860	0.13	9,500	0.33	—	—	23,000	0.55	22,000	0.53	—	—
	10,000	73,000	110	5,400	0.07	28,600	0.27	45,600	0.39	—	—	73,000	0.50	83,400	0.53
	100,000	270,000	1,100	—	—	105,000	0.28	169,000	0.38	—	—	254,000	0.49	292,000	0.52
散水濾床法	1,000	17,000	4	1,040	0.06	3,450	0.17	—	—	8,600	0.33	8,000	0.32	—	
	10,000	58,000	41	1,960	0.03	10,400	0.15	16,600	0.22	—	—	26,500	0.31	30,500	0.34
	100,000	200,000	410	—	—	38,000	0.16	61,000	0.23	—	—	92,000	0.32	106,000	0.35

§4. 下水処理場の維持管理費

維持管理費は、昭和42年度の実績をもとに算出することにし、各処理場ごとに、人件費ならびに、その他の諸経費に分類して調査を行なつた。

年間維持管理費は、以下のものの合計から算出される。

(1) 人件費

技術者　給与等支払額

現場操作員　〃

人　夫　〃

その他　〃

(2) 請負作業　支払金額

(3) 電　力　料　〃

(4) 燃料購入費

(5) 塩素購入費

(6) 薬品購入費

(7) そ　の　他　支払金額

維持管理費は、以上のものの合計の他に、広い意味では、施設等の原価償却費を含めて考慮する必要があるが、施設ごとに、耐用年数のとり方に差があり、また、建設年度の差等から、一律に建設費から算出することに問題があると考えられるので、ここでは、とりあげないこととした。また、処理場によつては、汚泥処理に要する費用と下水処理に要する費用の分離を行なえない場合もみられたが、ここでは、下水処理に要する費用のみをとりあげることとし分離のできない分は、除外して資料の集計を行なつた。

また、以上の合計によつて得られた額は、全て、下水の処理に要する費用であると考えた。

維持管理に要する費用は、処理する下水の水量によつて定まるものであるが、単位流量の処理に要する費用は、その処理方式、あるいは、建設費の場合と同様に下水処理場の規模によつて、異なるものと考えられる。

ここでは、維持管理（処理）に要する経費を現在の日平均処理量（千m³／日）を示標として整理することにし、下水1m³を処理するために必要な維持管理費を各処理法ごとに算出し、下水処理場の規模（日平均処理量で表示される）別に分類して比較を行なつた。

$$\text{下水1m}^3\text{処理に要する維持管理費（円／m}^3\text{）} = \frac{\text{年間維持管理費（千円／年）}}{\text{年間総処理量　（千m}^3\text{／年）}}$$

4－1　下水処理場の年間総維持管理費

前述したような方法で算出した下水1㎥当りの処理費（維持管理費）を各処理方法ごとに分類して比較を行なつてみる。

4－1－1　高速散水濾床法に要する年間総維持管理費

図4－1に高速散水濾床法の場合に要する下水1㎥当りに要する処理費用（維持管理費）と下水処理場の規模（日平均処理量で表わす）との関係を示した。

図にみられる如く、建設費の場合と同様に規模による経済性がみられ、処理施設の規模が大きくなるにつれて処理費用が割安となる。

たとえば、日平均処理量が1×10³㎥／日の処理場では1㎥当りの処理費用が7.7円要しているのに対し、5×10³㎥／日の下水処理場では3.6円／㎥、10×10³㎥／日の場合には、2.5円／㎥、30×10³㎥／日になると1.4円／㎥となり、大量に処理する場合に処理費用は非常に安くなつており、30×10³㎥／日の場合は1×10³㎥／日の場合の1/5以下である。

これらの値は、他の場合と同様に、一括して表4－1に示した。

表4－1　処理水1㎥当りに要する維持管理費（規模別分類）

日平均処理量	活性汚泥法			散水濾床法			簡易処理		
(千㎥/日)	最小	平均	最大	最小	平均	最大	最小	平均	最大
0.5	4.6	11.5	19.2		—			—	
1.0	3.6	8.2	14.2	4.9	7.7	10.4		—	
3.0	2.5	4.9	9.6	2.2	4.7	7.9		—	
5.0	1.8	4.4	8.2	1.8	3.6	6.9		—	
10.0	1.5	3.3	6.6	1.2	2.5	5.8	1.6	3.3	4.4
30.0	1.0	2.4	4.9	0.66	1.4	3.8	0.79	1.6	2.4
50.0	0.90	2.0	4.4		—		0.55	1.1	1.8
100.0	0.82	1.8	3.8		—		0.38	0.69	1.2
300.0	0.63	1.5	3.0		—			—	
500.0		1.3			—			—	

単位（円／㎥）

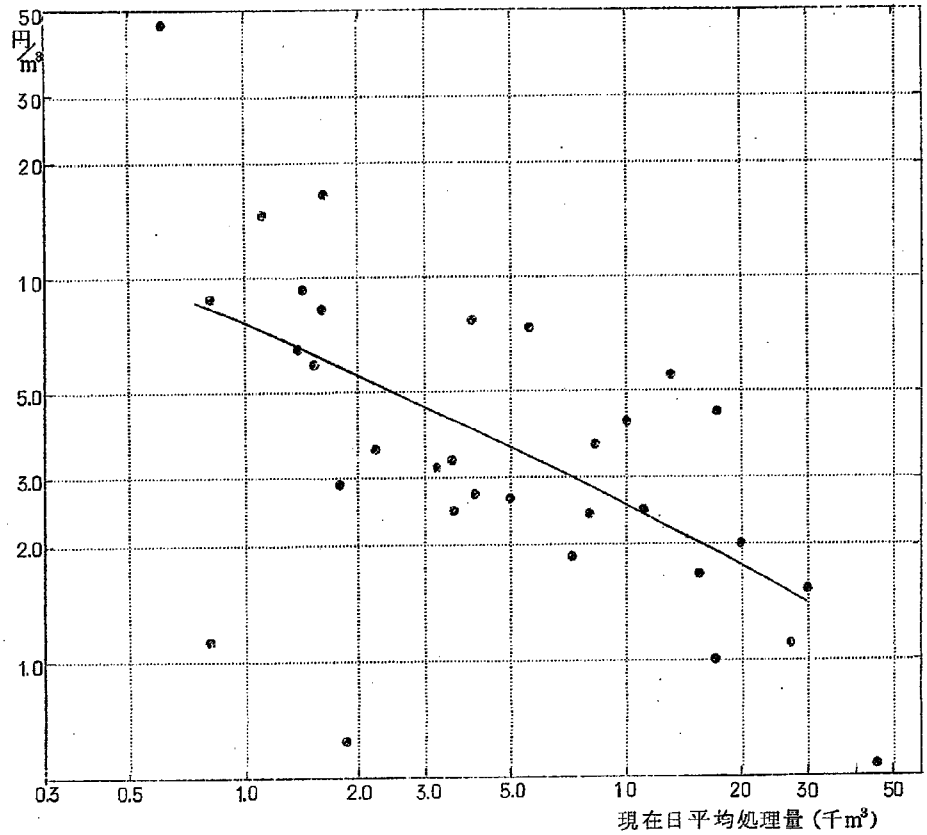


図４－１　下水１m³処理に要する総維持管理費（高速散水濾床の場合）

４－１－２　活性汚泥法に要する年間総維持管理費

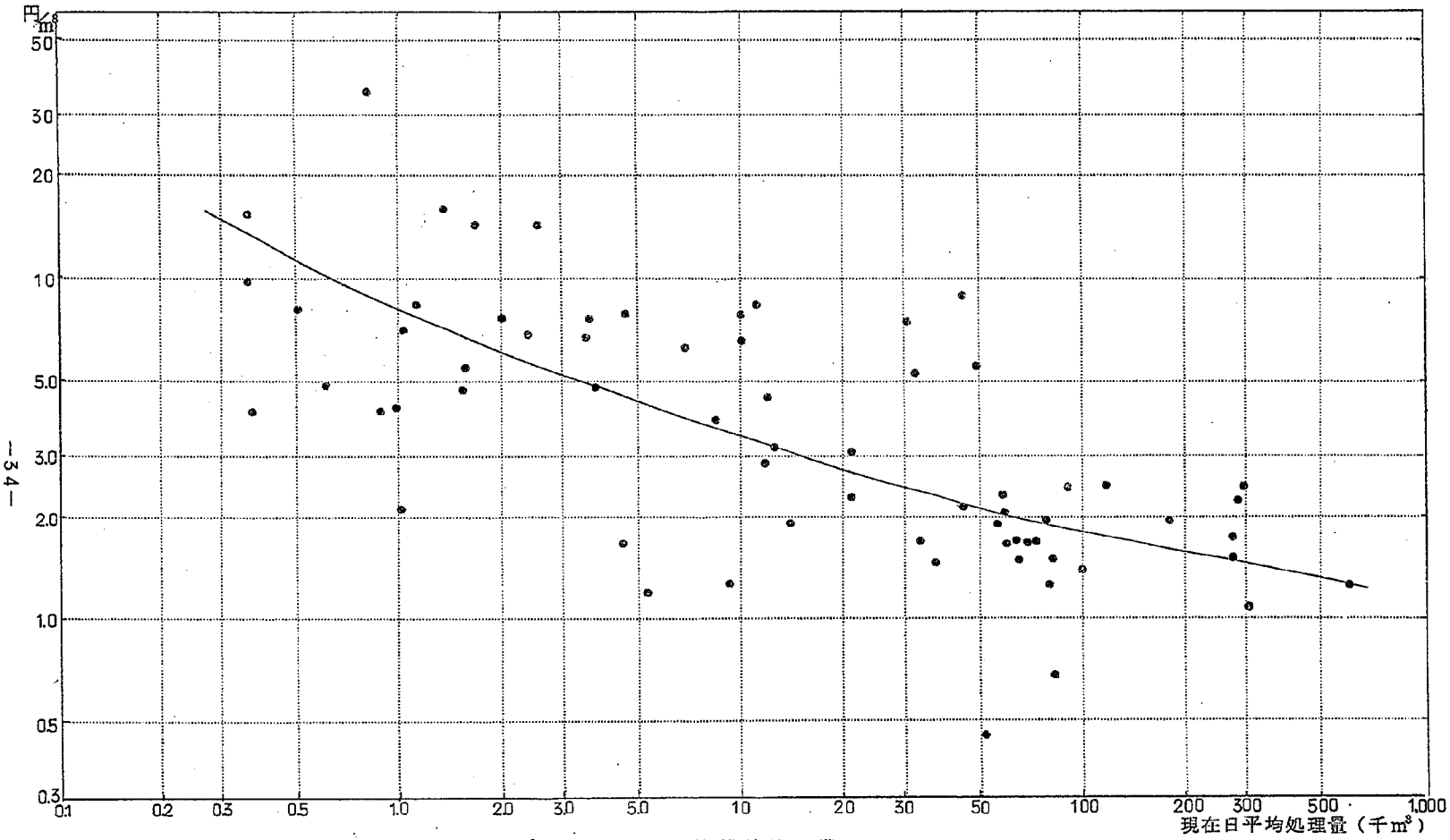
図４－２は活性汚泥法の場合に要する下水１m³当りに要する処理費用と下水処理場の規模の関係を示した。

図にみられるように、活性汚泥法の場合にも散水濾床法の場合と同様に規模による経済性がみられる。

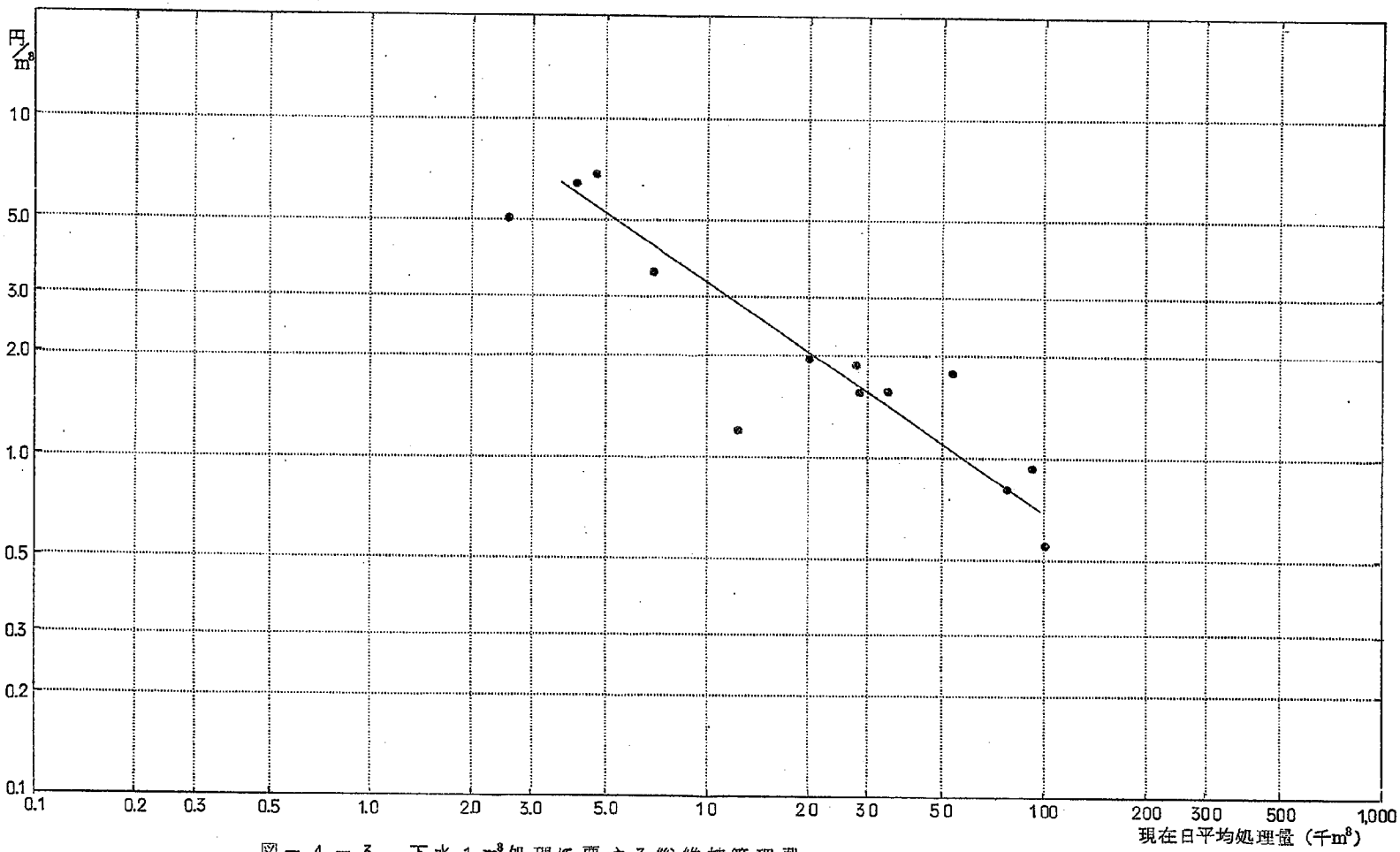
活性汚泥法の場合は、標準法の他に、ステップエアレーション等の変法も含まれている。

１×１０³ m³／日の小規模な下水処理場の場合、下水１m³処理に要する経費は8.２円であるが、規模が大きくなるにつれて処理に要する経費は安くなり、５×１０³ m³／日になると4.4円／m³、１０×１０³ m³／日の場合は、3.３円／m³、５０×１０³ m³／日の処理場では2.０円／m³、５００×１０³ m³／日の大処理場では1.３円／m³となる。

日平均処理量が５×１０³ m³／日の場合に要する経費を１とすると、５０×１０³ m³／日の場合には0.４５、５００×１０³ m³／日の場合は、0.３０であり、規模による経済性の効果は無視しえないものがあろう。



図－4－2　下水1m³処理に要する総維持管理費
（活性汚泥法の場合）



図－４－３　下水１m³処理に要する総維持管理費
（簡易処理の場合）

4－1－3　簡易処理に要する年間総維持管理費

簡易処理法の場合を図4－3に示した。

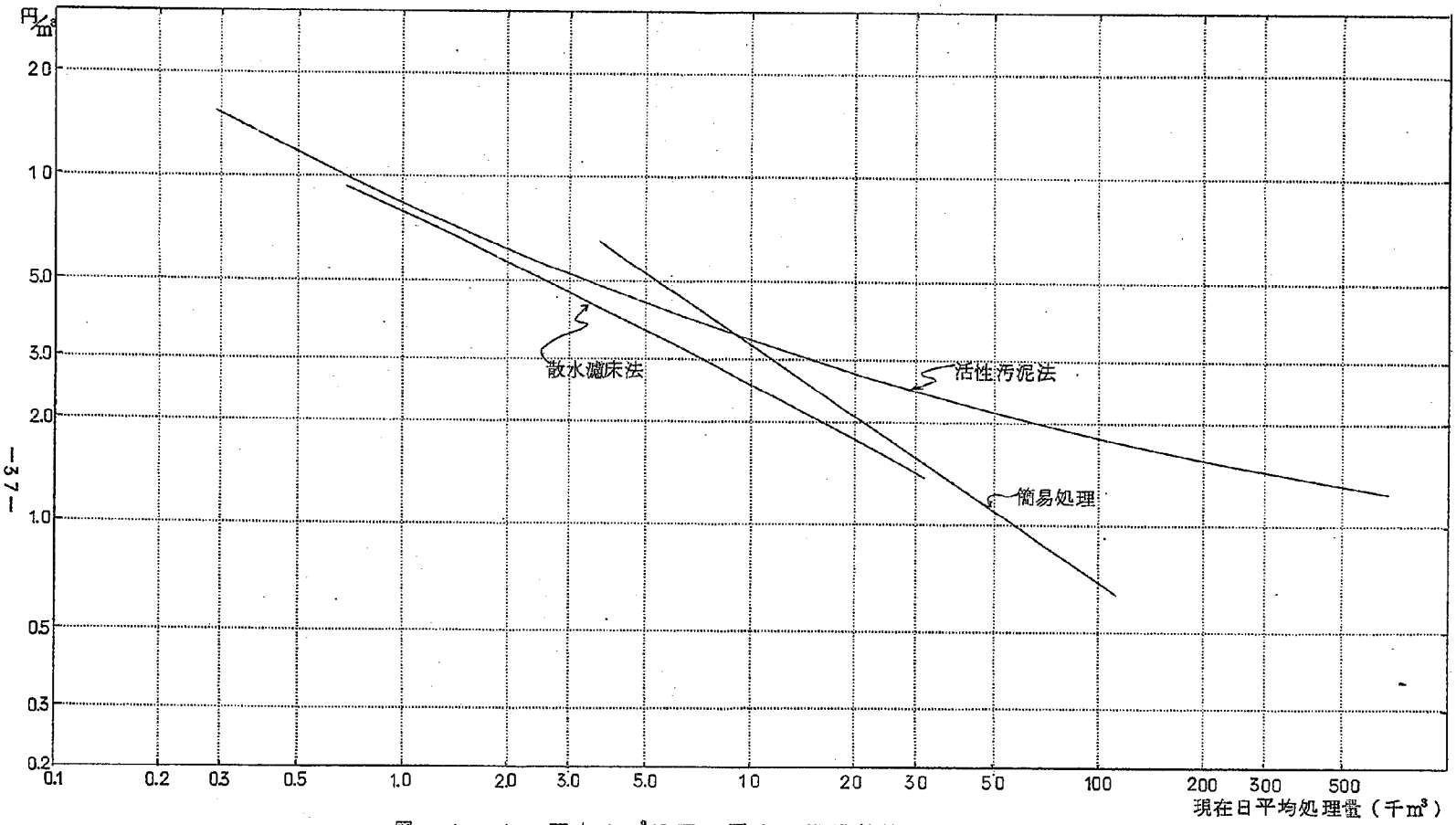
図にみられるように簡易処理を採用している下水処理場は日平均処理量10×10³～100×10³ m³／日の比較的大きな処理場に限られている。この場合も他の場合と同様に処理量が多くなると1m³当りに要する処理費用は低下している。日平均処理量が10×10³ m³／日の処理場では3.3円／m³、50×10³ m³／日の処理場で1.1円／m³、100×10³ m³／日の下水処理場で0.69円／m³となつている。

4－1－4　各処理方式による年間総維持管理費

表4－1および図4－4に下水処理に要する年間維持管理費を各処理方法ごとに分類して示した。

図にみられる如く、維持管理費は、活性汚泥法によるものが最も高く、散水濾床法、簡易処理法を上まわつている。これは、前述した様に、活性汚泥法の場合の電力料が他の場合に比して高いことによるものである。簡易処理法が比較的高い値を示しているが、これは、他の場合に比して、人件費がほとんど変らないこと、電力費は安いが、今回の調査の場合には、補修等の請負作業に経費を要している場合が多かつたことによるものと思われる。

維持管理費に要する経費は、長期間にわたつて、継続して必要とされるものであるため、処理方法の選定にあたつては、十分に調査を行なつて、無駄のない、合理的な方法を採用するようにしなければならない。



図－4－4　下水1m³処理に要する総維持管理費

4－2　下水処理に要する人件費

下水処理に要する維持管理費（あるいは処理費）のうちで、大きな割合を占めるのは、人件費である。

下水処理場の維持管理にたずさわるのは、技術者、現場作業員あるいは、人夫などであるが、各下水処理場ごとに、これらの占める割合は異なり、技術者あるいは現場作業員を中心として、処理を行なう場合あるいは、人夫を多く使用している場合などがある。ここでは、これらの割合は下水処理場の規模あるいは、処理方法に包含されるものと考えて、処理費用に占める人件費についての集計を行なつた。

図4－5～4－7は、下水1㎥処理に要する人件費と下水処理場の日平均処理量との関係を、散水濾床法、活性汚泥法、簡易処理法の場合について図示したものである。図にみられるように人件費は、各処理法の場合とも総維持管理費の場合と同様に規模の増加とともに低下していく傾向がみられる。これらの値については、表4－2に一覧表にして示した。同表にみられる如く、日平均処理量が10×10³㎥／日の下水処理場においては、各処理方法ともその人件費は、1.3～1.4円／㎥でありほゞ同じ値を示している。日平均処理量がこれより大きい場合あるいは、小さい場合には、それぞれの処理方法ごとの差が表われている。日平均処理量が1,000㎥／日の処理場では、下水1㎥の処理に活性汚泥法で3.9円／㎥、散水濾床で4.9円／㎥となつている。これらの間の差異は、下水処理場が大きくなるにつれて少なくなり、5～10×10³㎥／日程度の場合には、両者の差異はほとんどみられず、30×10³㎥／日を越えると、活性汚泥法に要する経費が、0.88円／㎥と高速散水濾床（0.66円／㎥）の場合よりも高くなつている。また、簡易処理に要する人件費が他の二次処理を行なう場合に比較して高いことは注目されよう。これらの間の関係は図4－8に図示した。

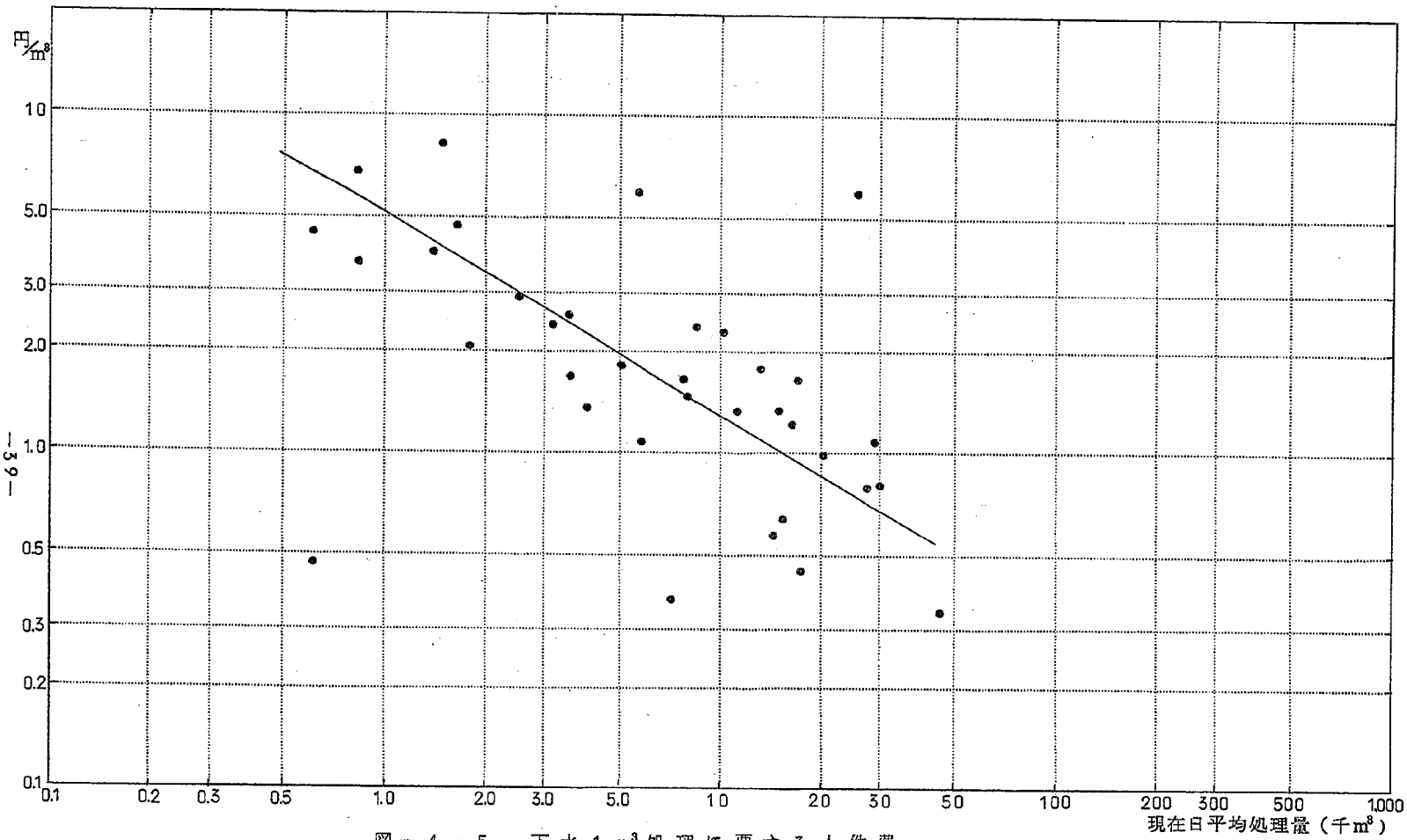
次に、総維持管理の中に占める人件費の割合を表4－2に示した。同表にみられる如く各処理法の場合とも日平均処理量が多くなるに従つて、人件費の占める割合が減少する傾向がみられる。活性汚泥法の場合は35～50%、散水濾床法の場合で50～63%、簡易処理法の場合で、36～42%程度が、人件費であることがわかる。

以上からわかるように下水処理に占める人件費の割合は非常に大きく、人件費の節減が維持管理費の節約につながるものと考えられる。

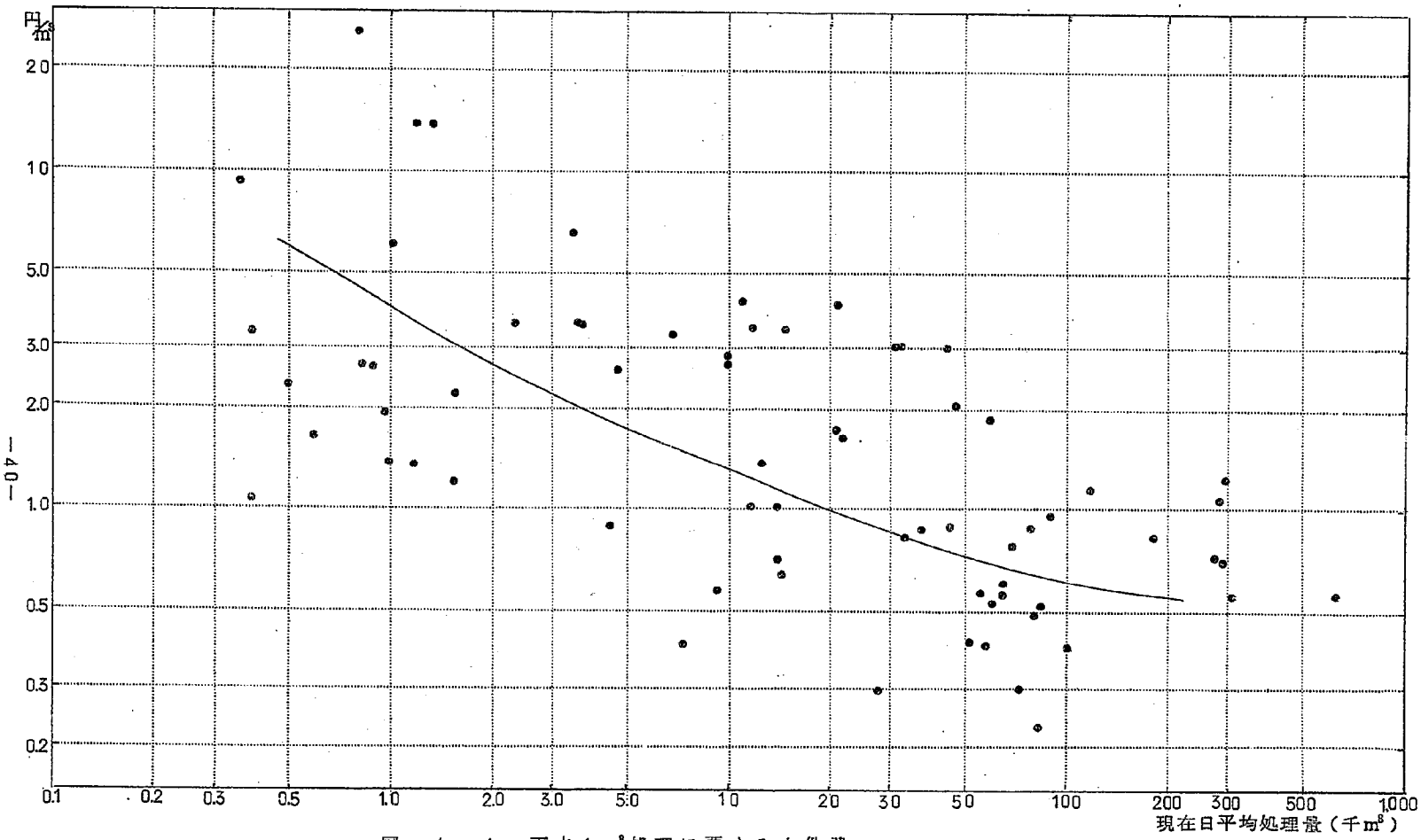
表4－2　下水1㎥処理に要する人件費

日平均処理量（千㎥／日）	活性汚泥法	散水濾床法	簡易処理法
0.5			－
1.0	3.8	4.9	－
3.0	2.2	2.6	－
5.0	2.0	2.0	－
10	1.4	1.3	1.4
30	0.88	0.65	0.63
50	0.71	－	0.41
100	0.63	－	0.25
300	0.55	－	－
500	0.55	－	－

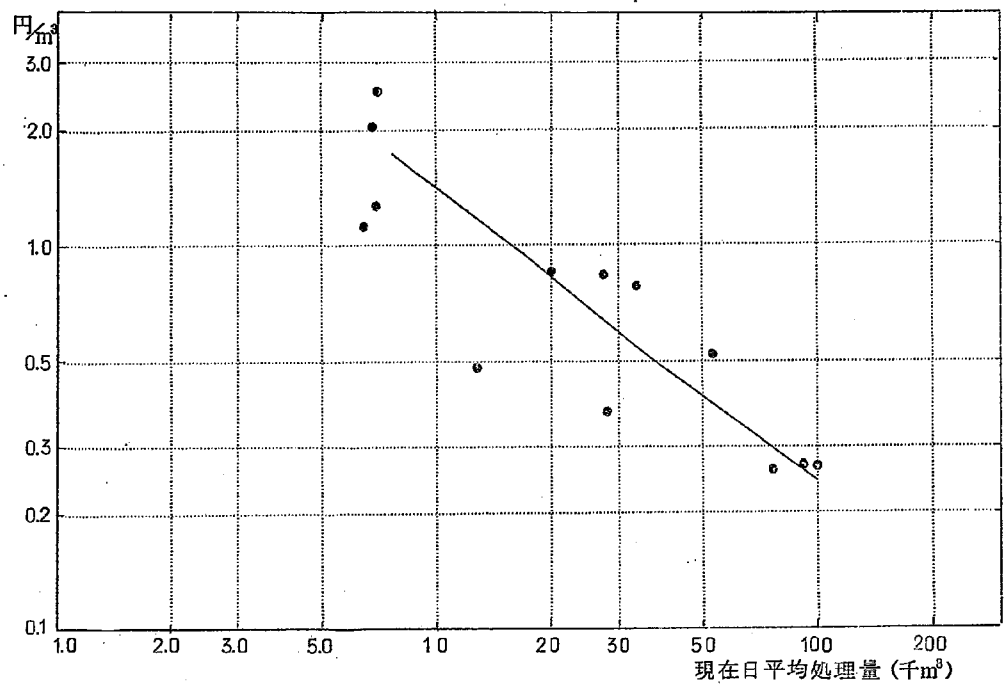
単位（円／㎥）



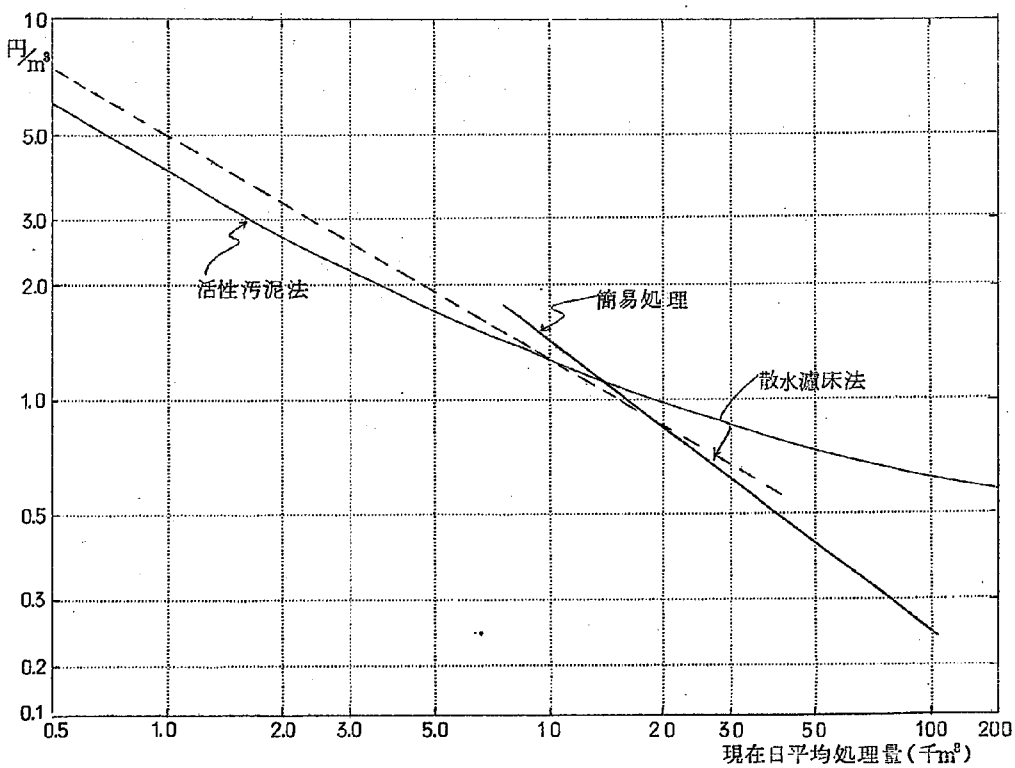
図－4－5　下水1m³処理に要する人件費
（高速散水濾床法の場合）



図－４－６　下水１m³処理に要する人件費
（活性汚泥法の場合）



図－４－７　下水１m³処理に要する人件費
（簡易処理の場合）



図－４－８　下水１m³処理に要する人件費

4－3　下水処理に要する電力料

下水処理場において要する維持管理費のうちで人件費の他に、電力料も大きな比重を占めている。

ここでは、人件費の場合と同様に、電力料についてもその規模別、処理法別の比較を行なつた。

図4－9～4－11に、各処理法ごとの、下水1㎥当の処理に要する電力料と、日平均処理量との関係を示した。また、図4－12および表4－3は、各処理法ごとの所要電力料の比較を行なつたものである。

電力料の場合も各処理法とも、それぞれ規模の増加とともに、安くなる傾向がみられ、規模の差によつては、10倍近くの費用で処理を行なつていることがわかる。

1㎥当りの下水の処理に要する電力料は、活性汚泥法が最も高く、散水濾床法の場合の2倍以上、簡易処理法の場合の5倍以上を要している。

維持管理費に占める電力料の割合であるが、表4－3にみられる如く、活性汚泥法の場合で34～38％、散水濾床の場合で15～21％、簡易処理法の場合で11～15％であり、活性汚泥法関係の場合に電力料の占める割合が高くなつているのが注目される。

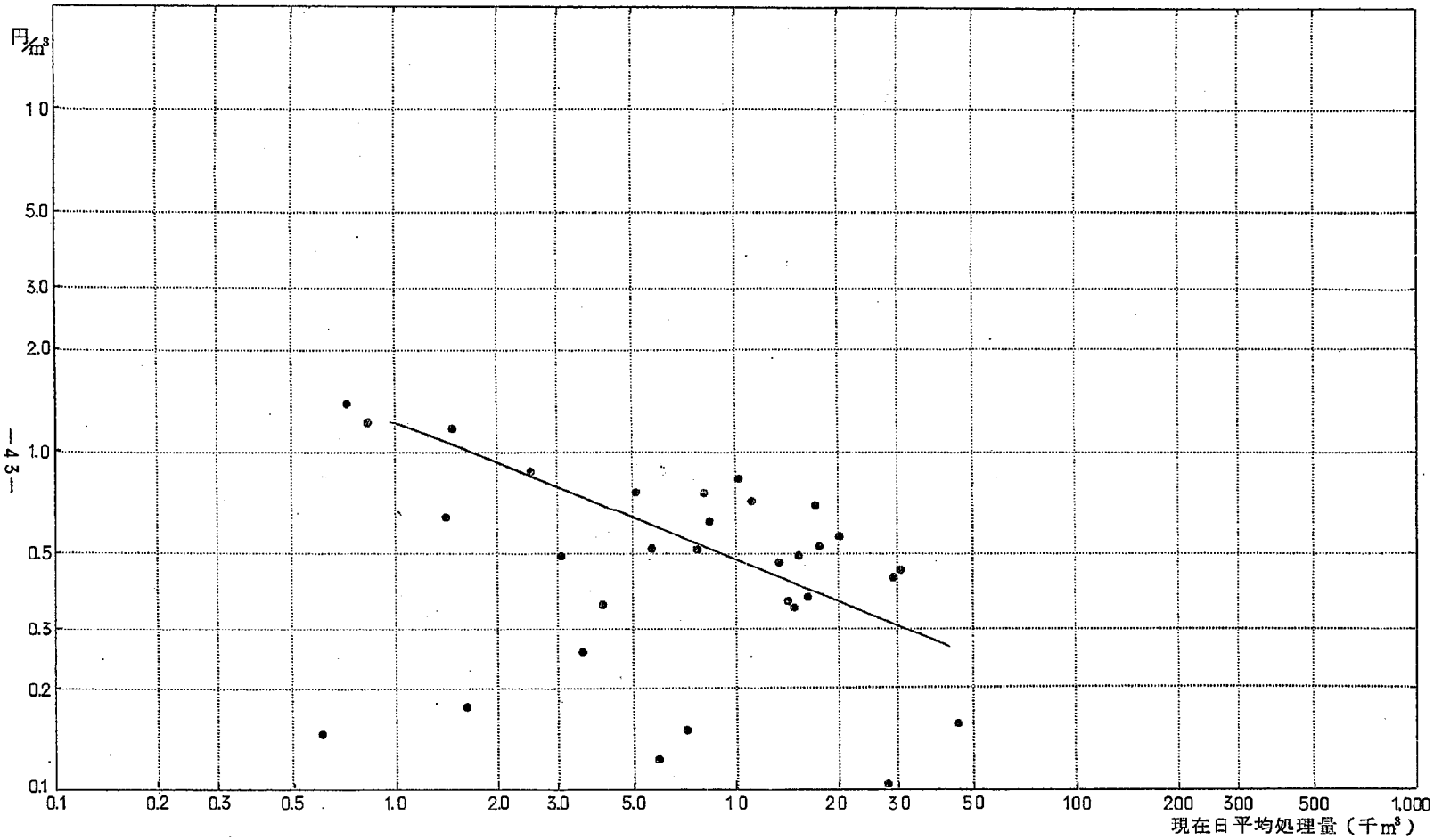
したがつて、活性汚泥法とその他の処理法との処理費用の差は、電力料の差によるものが大きいと考えられる。

表4－3にみられる如く、処理量が多くなると、各処理法の場合とも電力料の占める割合が大きくなつていく。これは、大規模施設の場合には、場内照明等による電力消費が多くなつていること、あるいは施設の大型化による損失が若干あるためであること、さらに大型化した場合に人件費の占める割合が小さくなつていくためであろう。

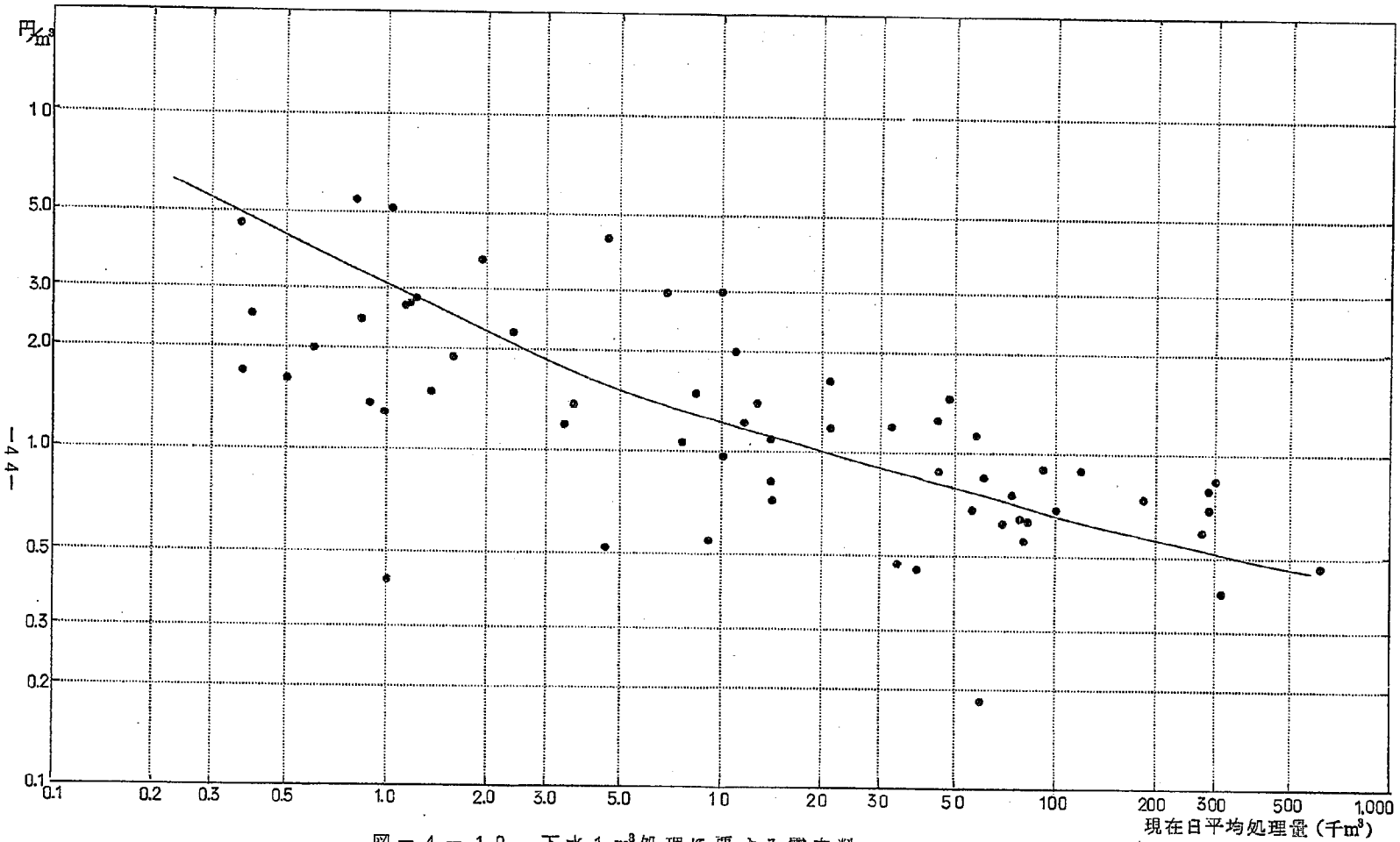
表4－3　下水1㎥処理に要する電力料

日平均処理量（千㎥／日）	活性汚泥法	散水濾床法	簡易処理法
0.5	－	－	－
1.0	3.0	1.2	－
3.0	1.9	0.77	－
5.0	1.5	0.63	0.36
10	1.2	0.47	0.19
30	0.88	0.30	0.15
50	0.77	－	0.10
100	0.66	－	－
300	0.52	－	－
500	0.42	－	－

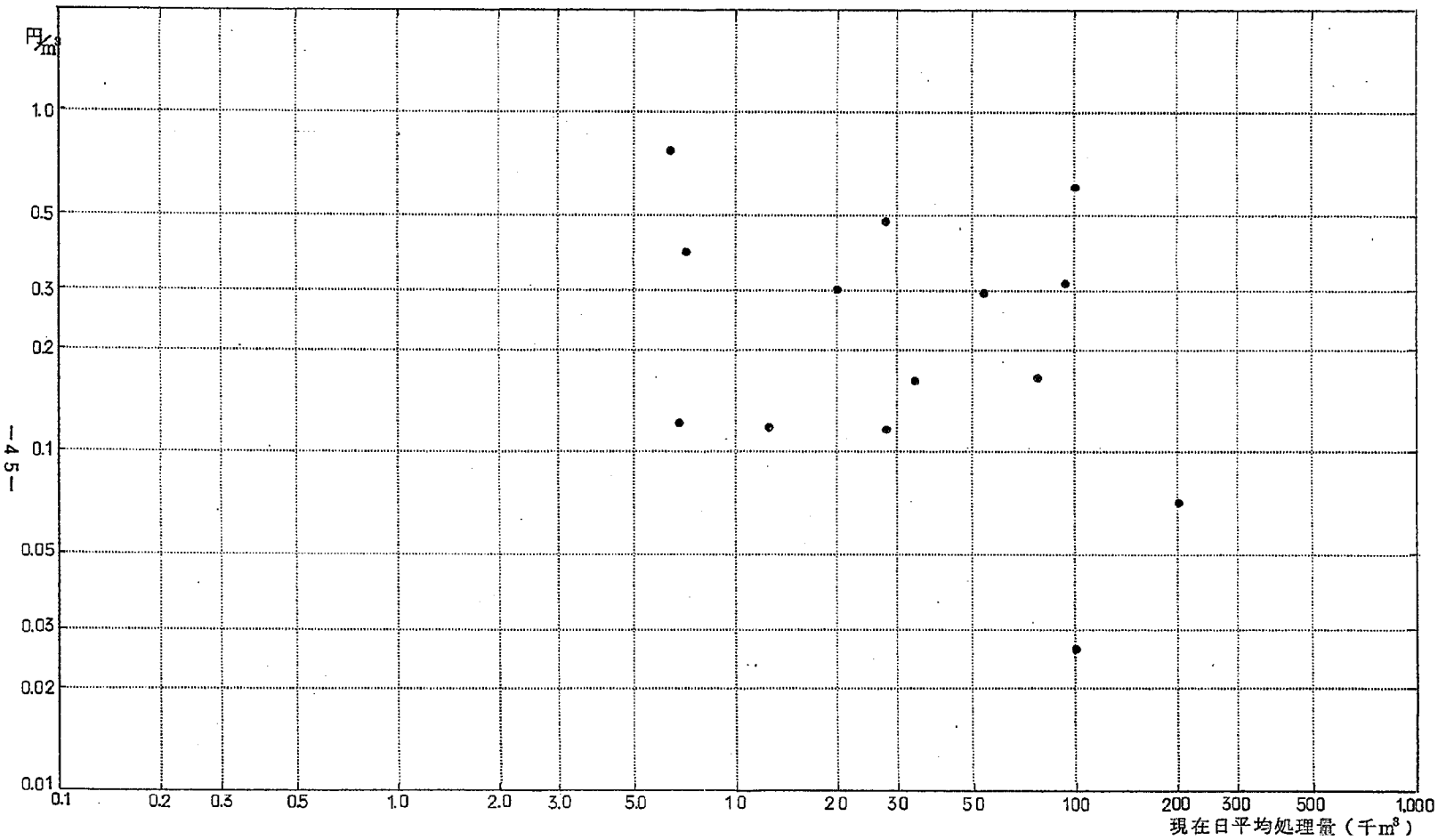
（単位 円／㎥）



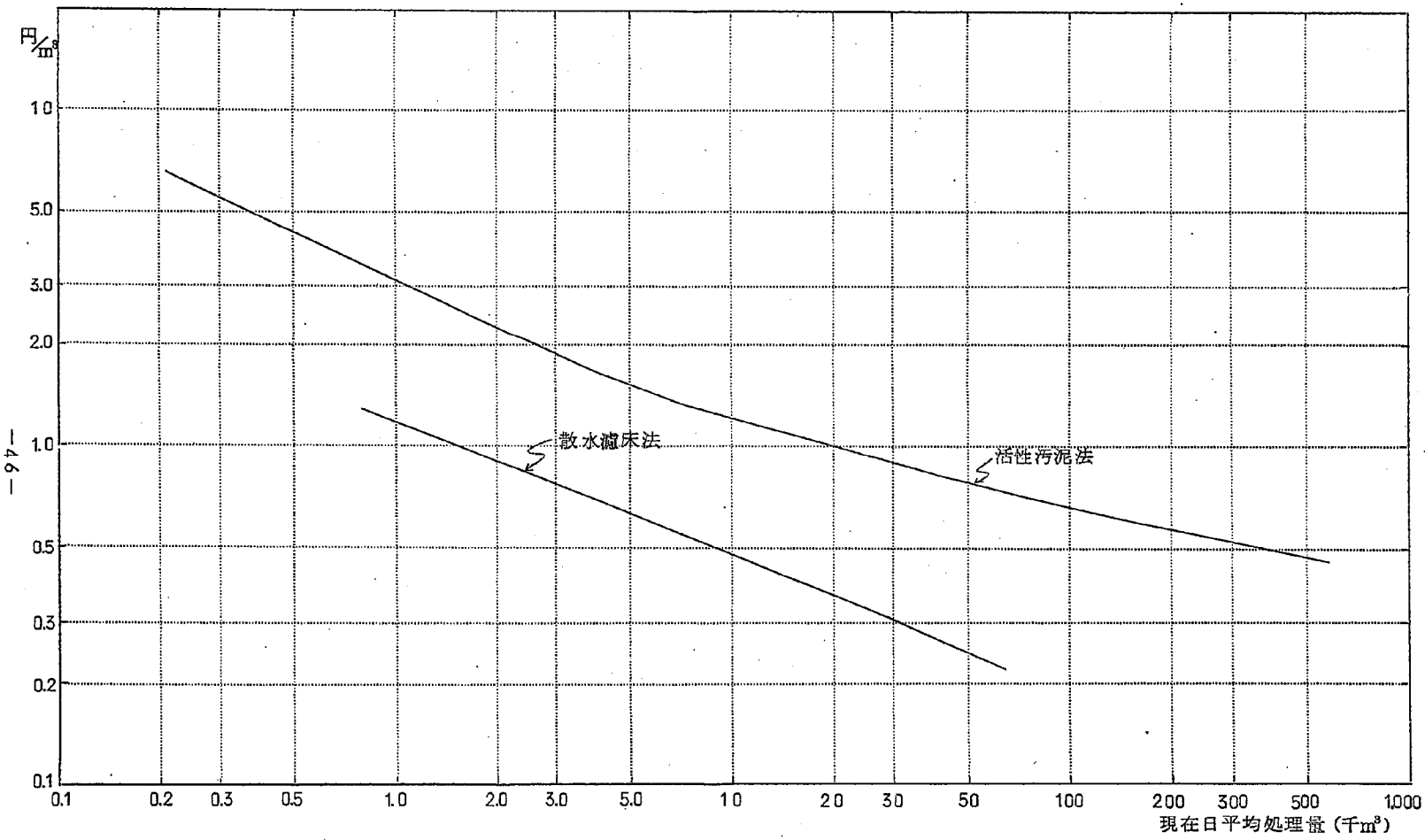
図－４－９　下水１m³処理に要する電力料
（高速散水濾床の場合）



図－４－１０　下水１m³処理に要する電力料
（活性汚泥法の場合）



図－４－１１　下水１m³処理に要する電力料
（簡易処理の場合）



図－4－12　下水1.m³処理に要する電力料

4－4　汚泥処理に要する維持管理費

（３－５）の場合と同様の資料を用いて、汚泥処理に要する維持管理費の整理を行なつた。

表４－４に、各汚泥処理方法ごとに要する維持管理費を示す。同表にみられる如く、汚泥処理の場合においても規模による経済性は大きく、処理量が多くなるにつれて、汚泥１㎥当りの処理費用は著しく低下していくことがわかる。

汚泥の処理処分に関する問題は、今後重要性を増していく問題であるため、下水の処理と同様に、汚泥処理についての長期的な考慮を常に払う必要があろう。

表 4 － 4　　維 持 管 理 費 （年間）

処理形態 注1	処理規模 (処理量m³／日)	処理場数	維持管理費項目別比率(%) 電力	薬品	燃料	消耗品	人件費	補修費	単価 千円／m³／日	備考
(乾)—	0～50	4	—	—	—	0～17 (8)	55～100 (78)	0～27 (14)	13～52 (31)	注2
	51～500	—	—	—	—	—	—	—	—	
	501～	1	—	—	—	13	88	—	11	
—(濃)—(好)—	0～50	2	4～28 (16)	34～45 (39)	—	3～10 (6)	27～47 (37)	2 (2)	39～260 (150)	注3 6,000
	51～500	—	—	—	—	—	—	—	—	
	501～	2	7～15 (11)	11～50 (30)	—	2～4 (3)	37～70 (54)	0～4 (2)	35～59 (47)	1,800
—(好)—(濃)—(機)—	0～50	1	56	1	—	1	44	18	150	
	51～500	4	1～55 (21)	0～2 (1)	0～9 (4)	0～41 (11)	25～74 (44)	5～48 (19)	64～173 (81)	
	501～	—	—	—	—	—	—	—	—	
—(嫌)	0～50	1	56	1	—	1	44	18	150	
	51～500	3	1～55 (25)	0～2 (1)	0～9 (3)	0～3 (1)	27～94 (48)	50～48 (22)	4～32 (17)	
	501～	—	—	—	—	—	—	—	—	
—(濃)—(嫌)—	0～50	—	—	—	—	—	—	—	—	
	51～500	1	17	1	9	41	25	7	32	
	501～	—	—	—	—	—	—	—	—	
—(嫌)—(好)—	0～50	6	10～15 (13)	0～5 (1)	0～6 (2)	0～52 (12)	23～80 (52)	0～53 (20)	16～85 (43)	
	51～500	4	12～43 (21)	0～3 (2)	2～17 (9)	0～5 (2)	30～67 (56)	7～12 (10)	9～24 (20)	
	501～	1	97	—	—	3	—	—	0	
—(濃)—(嫌)—(好)—	0～50	3	0～11 (5)	—	—	3～26 (11)	61～96 (74)	2～28 (10)	18～43 (28)	
	51～500	4	8～40 (29)	0～5 (1)	0～33 (8)	0～40 (12)	22～84 (43)	2～9 (7)	5～13 (8)	
	501～	—	—	—	—	—	—	—	—	
—(嫌)—(機)—	0～50	4	1～6 (4)	0～24 (7)	0～ 7 (3)	1～20 (10)	46～72 (61)	5～23 (15)	102～332 (180)	4,600
	51～500	11	3～32 (16)	0～25 (12)	0～26 (9)	0～14 (6)	15～95 (49)	0～34 (8)	30～110 (58)	1,500
	501～	3	4～24 (11)	3～25 (11)	2～10 (5)	0～24 (12)	39～68 (56)	2～10 (5)	12～34 (20)	510
—(濃)—(嫌)—(機)—	0～50	2	8～10 (9)	0～22 (11)	9～14 (12)	2～18 (10)	53～57 (55)	2～5 (3)	156～243 (200)	9,900
	51～500	11	5～31 (16)	0～22 (6)	2～10 (4)	1～16 (5)	21～81 (54)	0～29 (15)	27～142 (57)	2,560
	501～	7	10～31 (18)	0～41 (16)	0～3 (1)	1～18 (7)	10～74 (46)	5～18 (12)	12～40 (24)	1,080

注1. 処理形態で用いる略号は次の意味を表わす。(乾)—乾燥床、(濃)—濃縮、(好)—好気性消化、(嫌)—嫌気性消化、(機)—機械脱水、(焼)—焼却炉

注2. （　）の数字は平均値　　注3. ケーキ（含水率70%）1m³／日当り維持管理費（平均値）

§5. 下水処理場流入負荷量について

下水処理場に流入する下水の負荷量及びその日変動の状態を把握しておくことは、下水処理場の計画設計、更に、適正な運転操作を行なう上で非常に重要である。

我国においては、下水処理場の設計を行なう場合、流入負荷量という概念は、まだ一般的ではなく、設計にあたつては、流入する下水量を基準とするのが普通である。

しかしながら、流入下水を受入れる下水処理場の側から考える場合においては、問題とされるのは、下水量よりも流入負荷量であり、負荷量と下水量の間には、かなり密接な相関があるというものの、負荷量及び変動の形態を正確につかんでおくことは設計及び運転操作を行なう上で意味があるばかりでなく、むしろ、負荷量を中心に設計を行なう方が、実状に即しているといえる。現在のところ、設計に使い得る人口当量（家庭下水、工場排水）についての資料、日変動に関しての調査資料は共に少なく、各種の処理方法の変動に対する応答も十分に解明されていないのが実情であるがここでは、調査資料をもとに、下水処理場流入負荷量の現況をあげて、その問題点について述べた。

5—1 流入負荷量の変動

下水処理場に流入する下水の水質水量が1日のうちで、時間を追つて変化することは、よく知られている。

下水の発生が人間の活動と直接に結びついたものであるため、日変化があるのは、当然であるが、この変動巾は、その都市の種々の特性による影響をうけ、各下水処理場ごとに異つた値を示すのが普通である。図5—1～図5—10に処理場に流入する下水のBOD負荷量及びSS負荷量の日変化の状態についての代表的な例を示した。

一般には、大都市ほどその日変化は、少なく、中小都市又は、住宅団地の下水処理場ではその変動量が大きくなることは、容易に推察されるが、図示した数例においてもその傾向がうかがえる。

流入負荷量または流入下水量の時間変化の平均値と時間最大値の比を変動比とすることにすると、

$$\text{流入変動比}=\frac{\text{時間最大値}}{\text{日平均値}}$$

で表わされる。

大都市ほどこの変動比は1に近く、変動の大きい中小都市や、住宅団地の処理場では、この値はそれより大きな値を示すことが予想される。

施設基準によれば、処理場の各施設の容量は、汚水量で計算されるが、計画下水量の決定に

は、次の手順が示されている。

1. 沈砂池（合流式の場合は最初沈澱池以降）は計画１日平均汚水量で設計する。
2. 計画１日平均汚水量の決定にあたつては、中小都市の場合で計画１日最大汚水量の７０%、大都市および工業都市の場合で８０%を標準とする。

このように、下水処理場は、１日平均汚水量で設計されるのが普通であるが、２における数値を用いて、流入下水量に対する変動比を求めると、1.６２（大都市）～2.１５（中小都市）となり、設計下水量に対して、1.６倍から２倍程度の下水が流入する時間のあることを想定していることがわかる。

図５－１０は全国の下水処理場における現在処理人口及び現在処理面積と流入下水変動比との関係をプロットしたものである。これによれば、明らかに、処理場の規模（現在処理人口あるいは面積で表わされる）と変動比の間には、相関関係がみられ、規模が大きくなるに従つて変動比は小さくなる。

全体として変動比の値は2.５以下であり従来の流量の変動に対する考え方は、おおむね妥当であると考えて差支えないようである。同図において、変動比が１に非常に近いケースが多いのは、下水処理場への流入は、一般には、沈砂池からポンプアップされていること、また、各下水処理場ともポンプの定量運転を、努めて行なうようにしているためであり、実際に管渠に流入する下水量の変動は、これとは異つた挙動を示していることは充分予想される。

ここで、同図から流入下水量変動比と処理人口および処理面積の関係を求めると

人口 (×10³人)	変動比	処理面積 ha	変動比
１２0以上	1.5 以下	８００以上	1.5 以下
１２０～２０	1.７５以下	８００～２００	1.７５〃
２０～１０	2.0 〃	２００～ ５０	2.0 〃
１０以下	2.5 〃	５０以下	2.5 〃

となる。

次に、流入負荷量について、同様の関係を図５－１１，５－１２に示す。この場合も先の流入下水量の場合と同様に、変動比は規模が大きくなるにつれて、小さくなる傾向を示しているが、変動比そのものは、流入下水量の場合に比してかなり大きい。

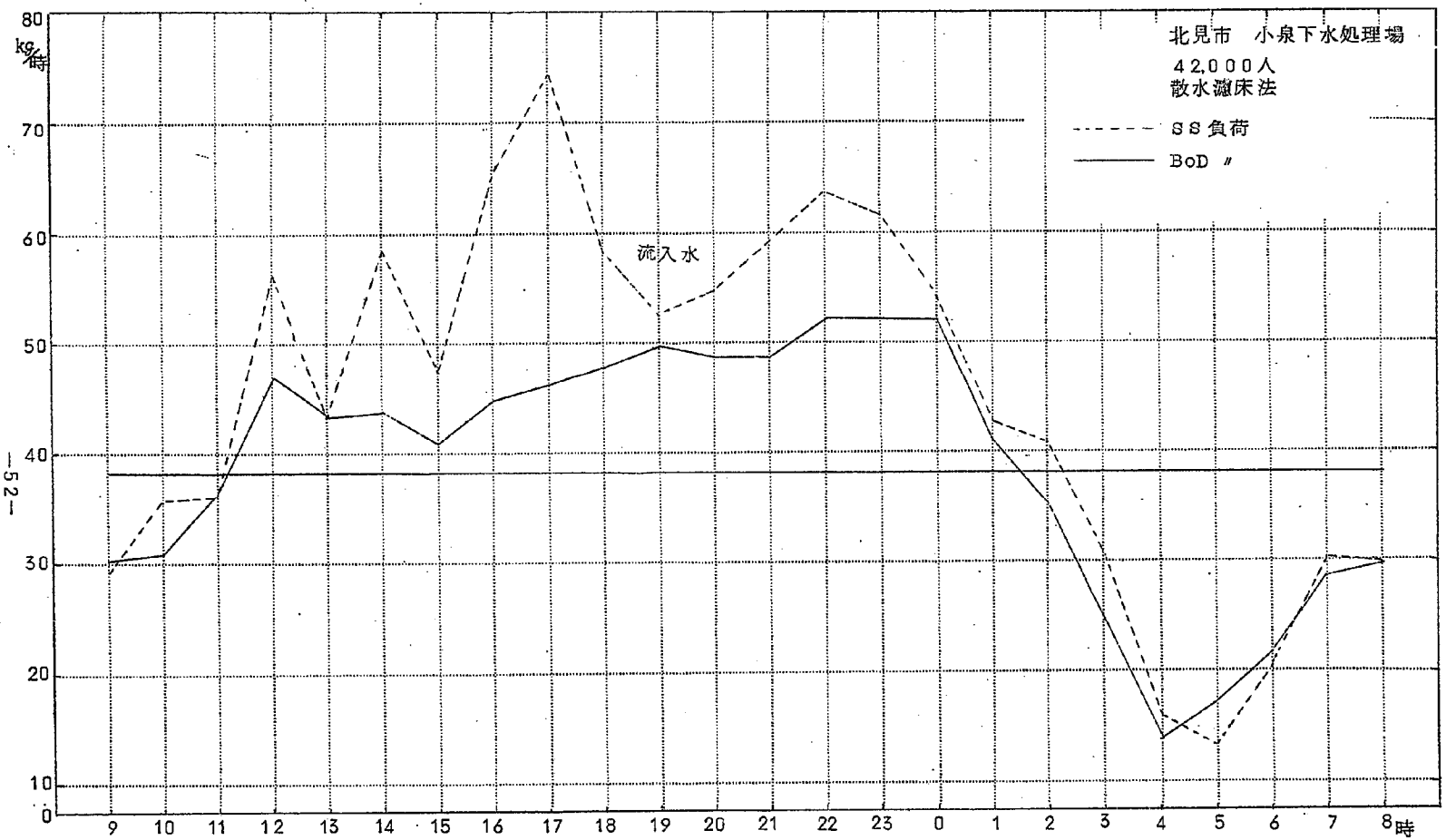
これは、日平均負荷量に対して、時間最大負荷量の割合が流入下水量の場合よりも大きくなることを示しており、その最大は4.３倍にも達している。

流入下水量の場合と同様にして、変動比と処理人口、および面積との関係を求めると、

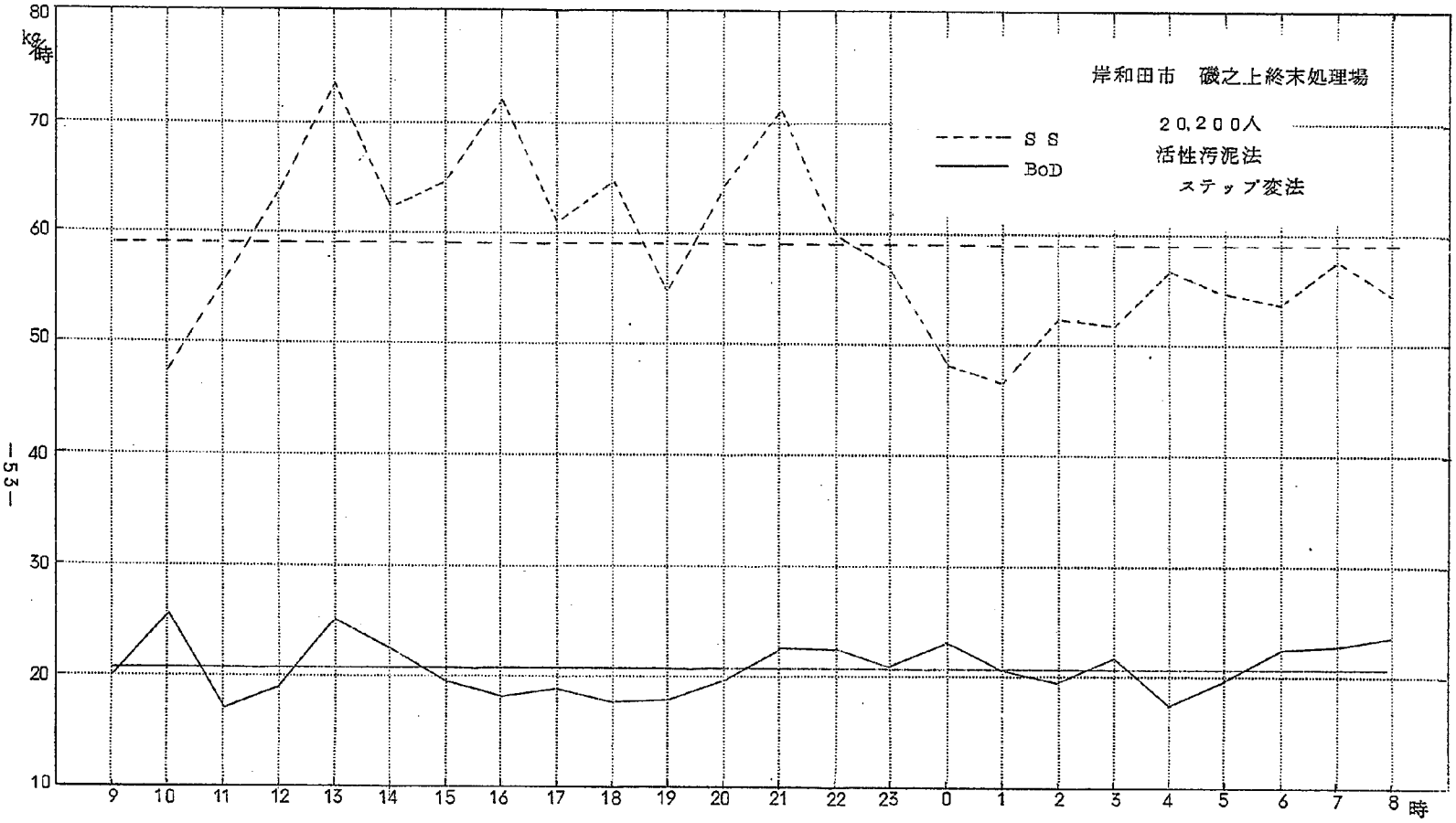
人口 (×10³人)	変動比	面積 (ha)	変動比
３００以上	2.0 以下	４００以上	2.２５以下
３００～５０	2.２５以下	４００～１００	2.２５～3.７５以下
５０～１０	2.２５～3.２５以下	１００以下	3.７５以下
１０以下	3.７５以下		

となり、流入下水量で考える場合よりも５０％程度変動巾が大きくなつていることがわかる。下水処理場内各施設が有する浄化機構がどの程度まで負荷の変動に耐えられるか、あるいは、運転操作がどこまで、これに追従できるかという点については、未だ充分に解明されていない。このため変動比をどの程度までとることができるかという点についての調査を十分に行なう必要があろうが、いずれにせよ流入下水量を基準として設計するのは、危険側であり、流入負荷量の概念を用いて設計・計画を行なう必要がある。

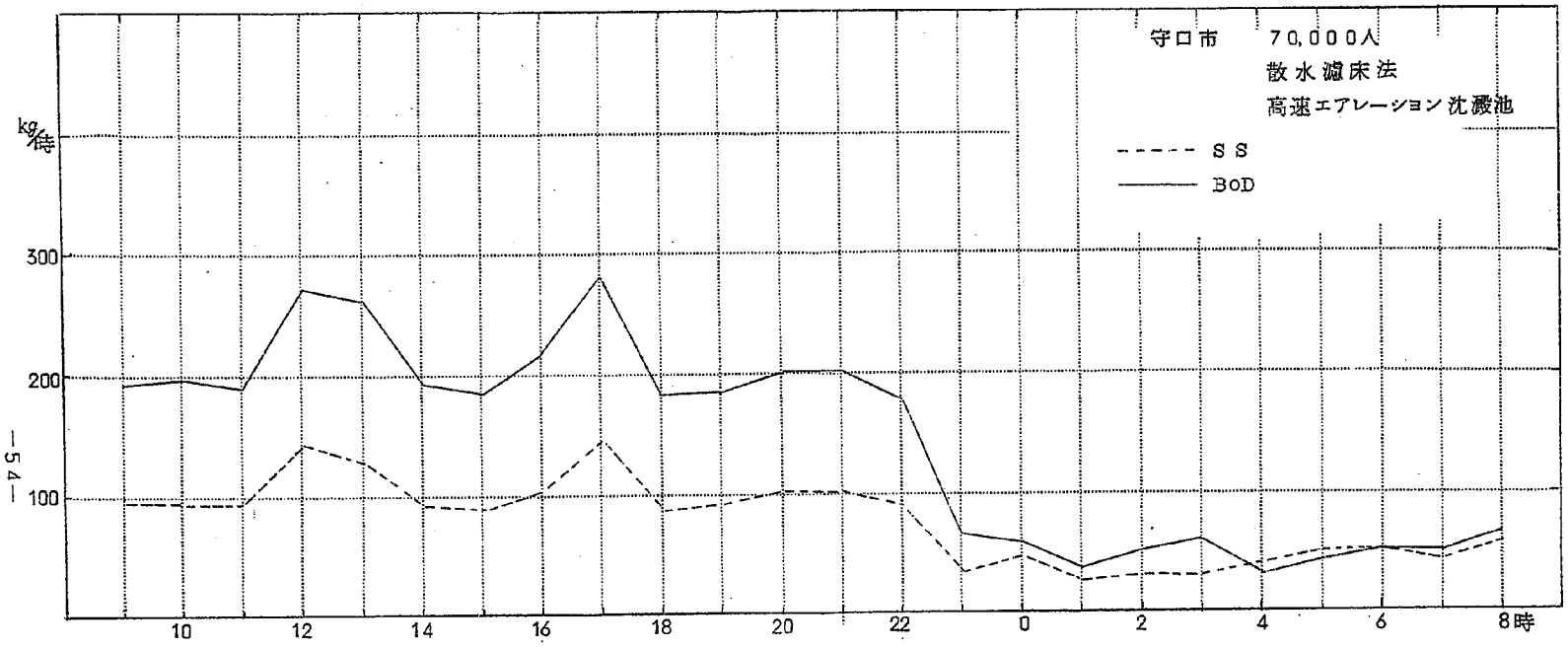
現況では、かなりの処理場について、はげしい流入負荷量の日変動がみられるため、適正な処理を行なうためには、変動比をできるだけ１に近くとること（設計を１日平均下水量よりも大きくすること）が望ましいといえる。



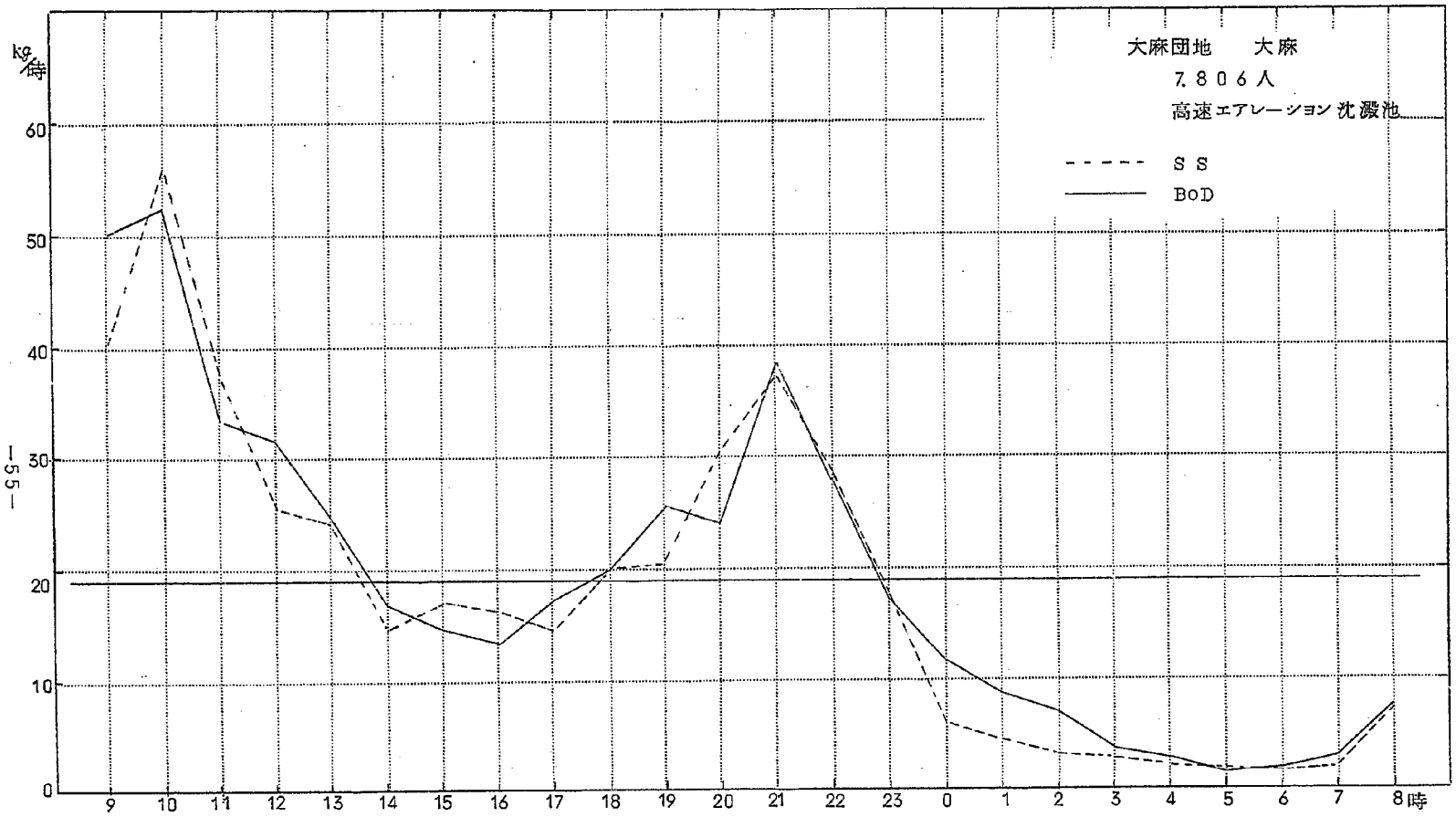
図－5－1　流入負荷量の日変動


岸和田市　磯之上終末処理場
20,200人
活性汚泥法
ステップ変法
SS
BoD
kg/時
80
70
60
50
40
30
20
10
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
0
1
2
3
4
5
6
7
8
時

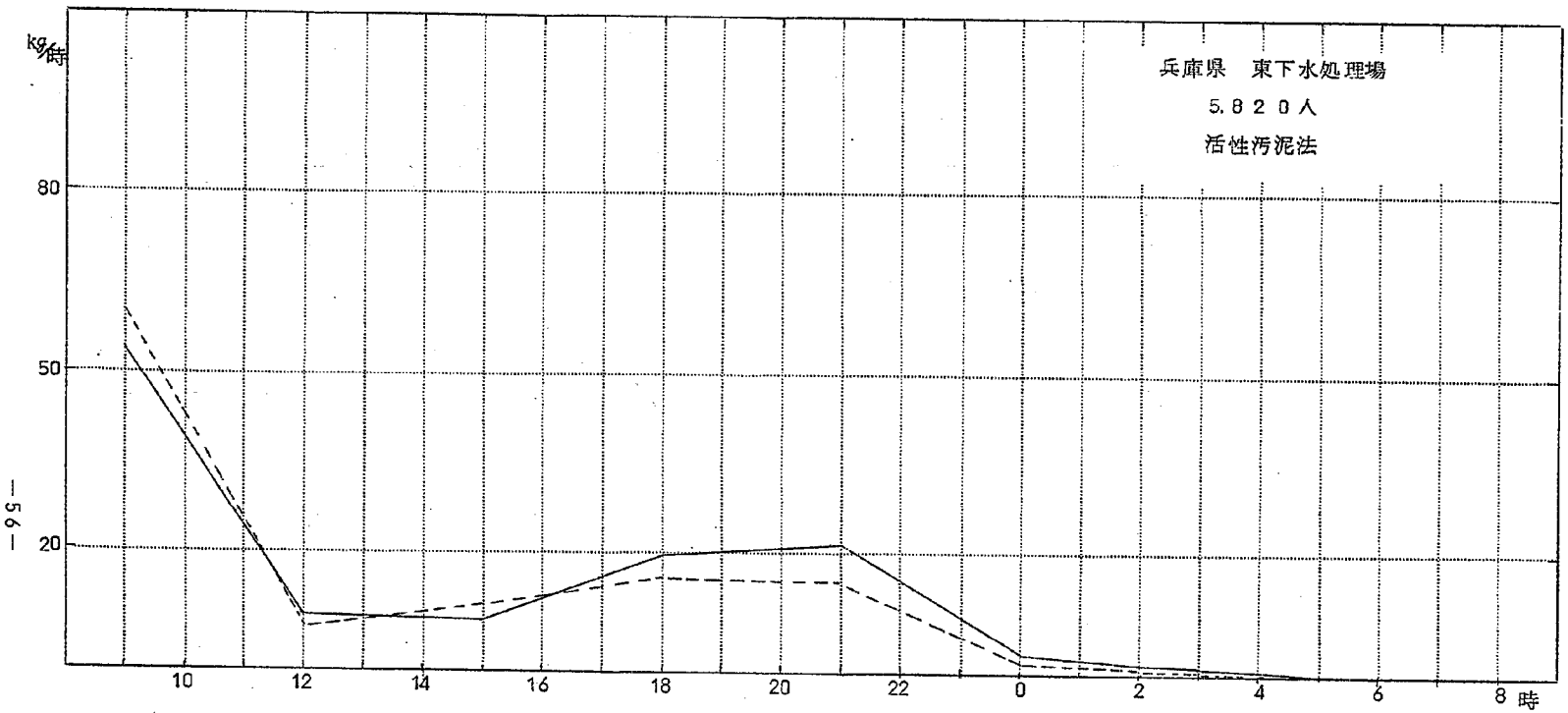
図－5－2


守口市　70,000人
散水濾床法
高速エアレーション沈澱池
SS
BOD
kg/時
300
200
100
10
12
14
16
18
20
22
0
2
4
6
8時

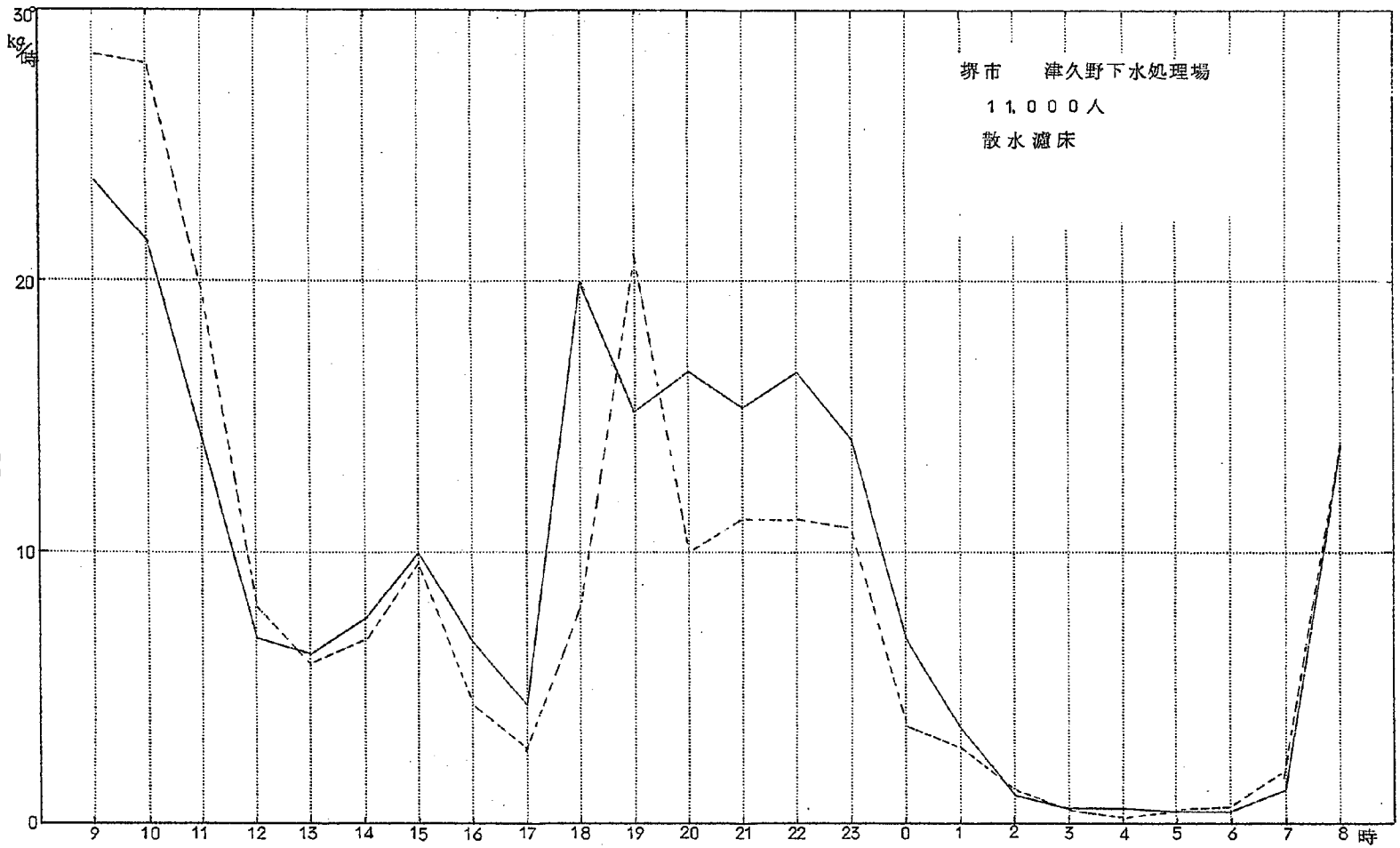
図－5－3


大麻団地　大麻
7,806人
高速エアレーション沈澱池
SS
BOD
kg/時
60
50
40
30
20
10
0
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
0
1
2
3
4
5
6
7
8時

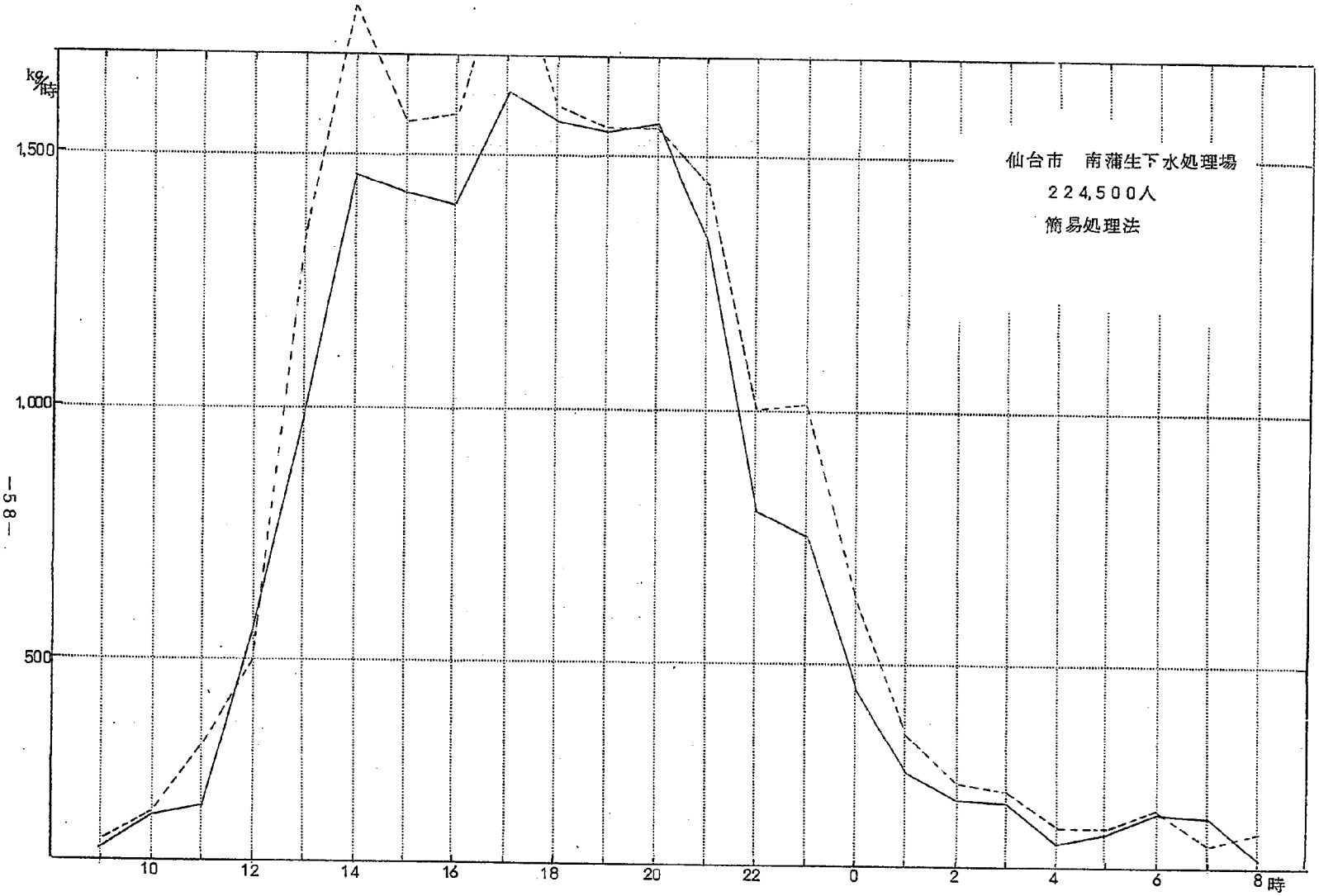
図－5－4



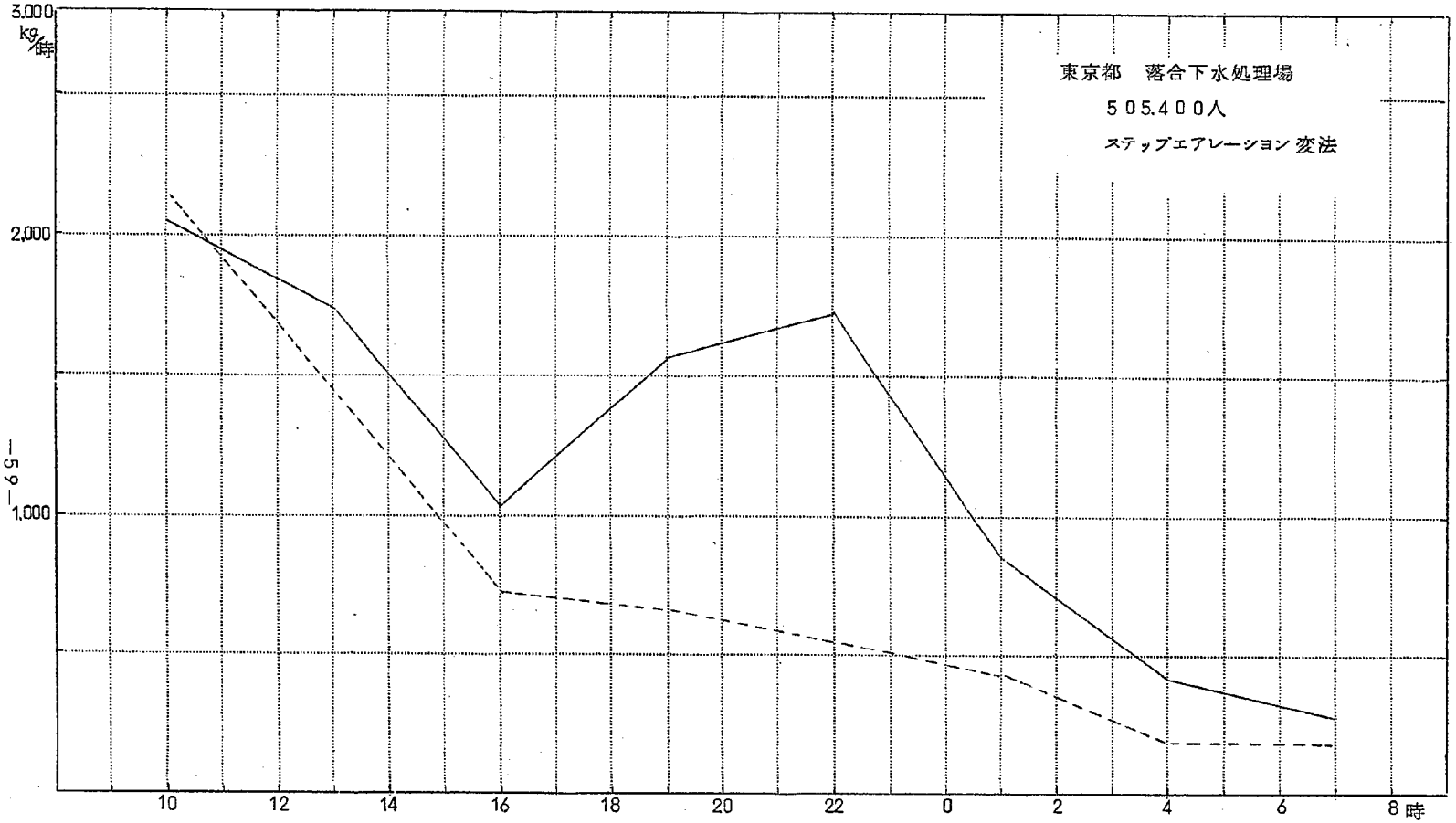
図－5－5


堺市　津久野下水処理場
11,000人
散水濾床
kg/時
30
20
10
0
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
0
1
2
3
4
5
6
7
8
時

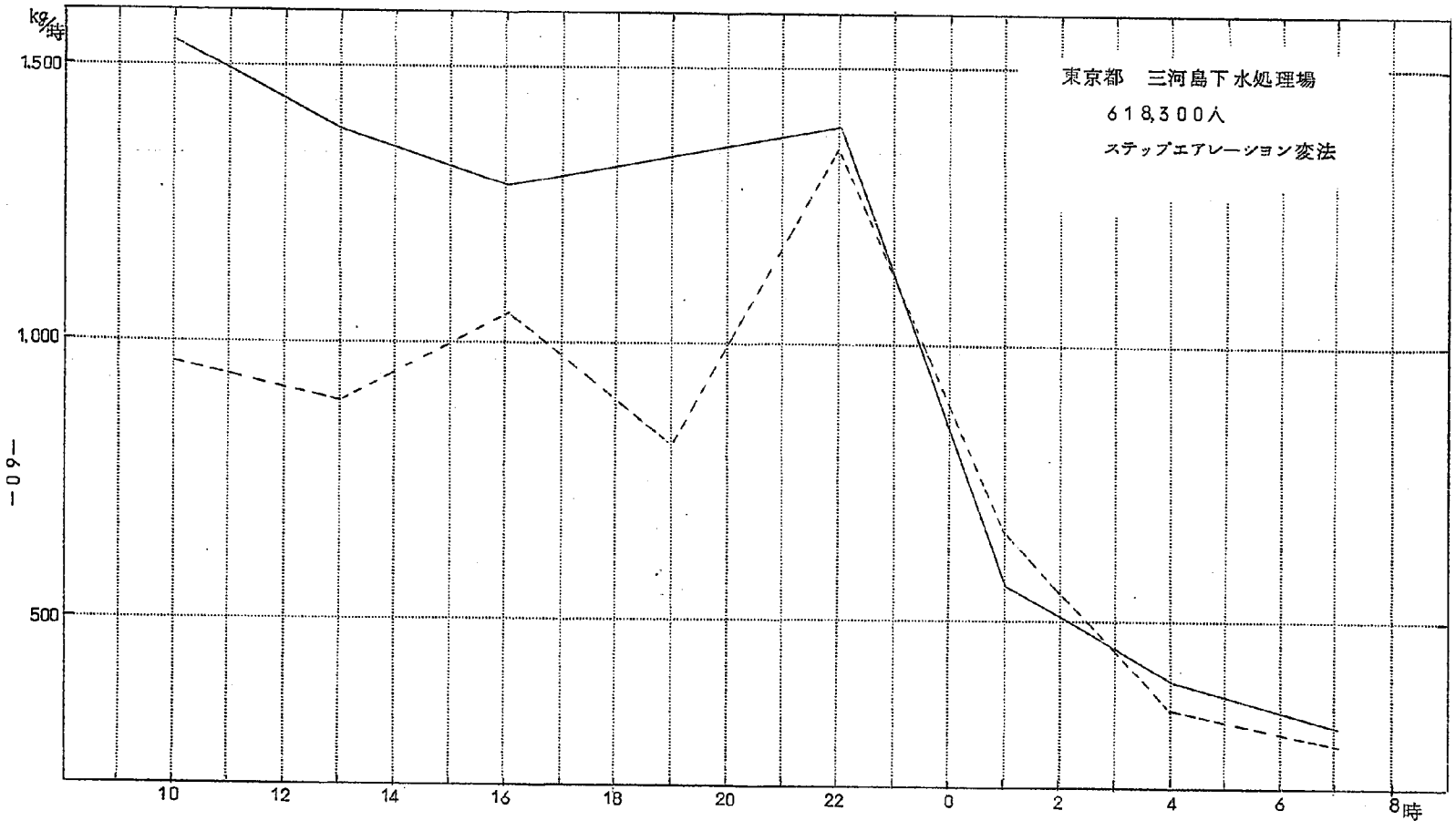
図－5－6


kg/時
1,500
1,000
500
10
12
14
16
18
20
22
0
2
4
6
8時
仙台市　南蒲生下水処理場
224,500人
簡易処理法

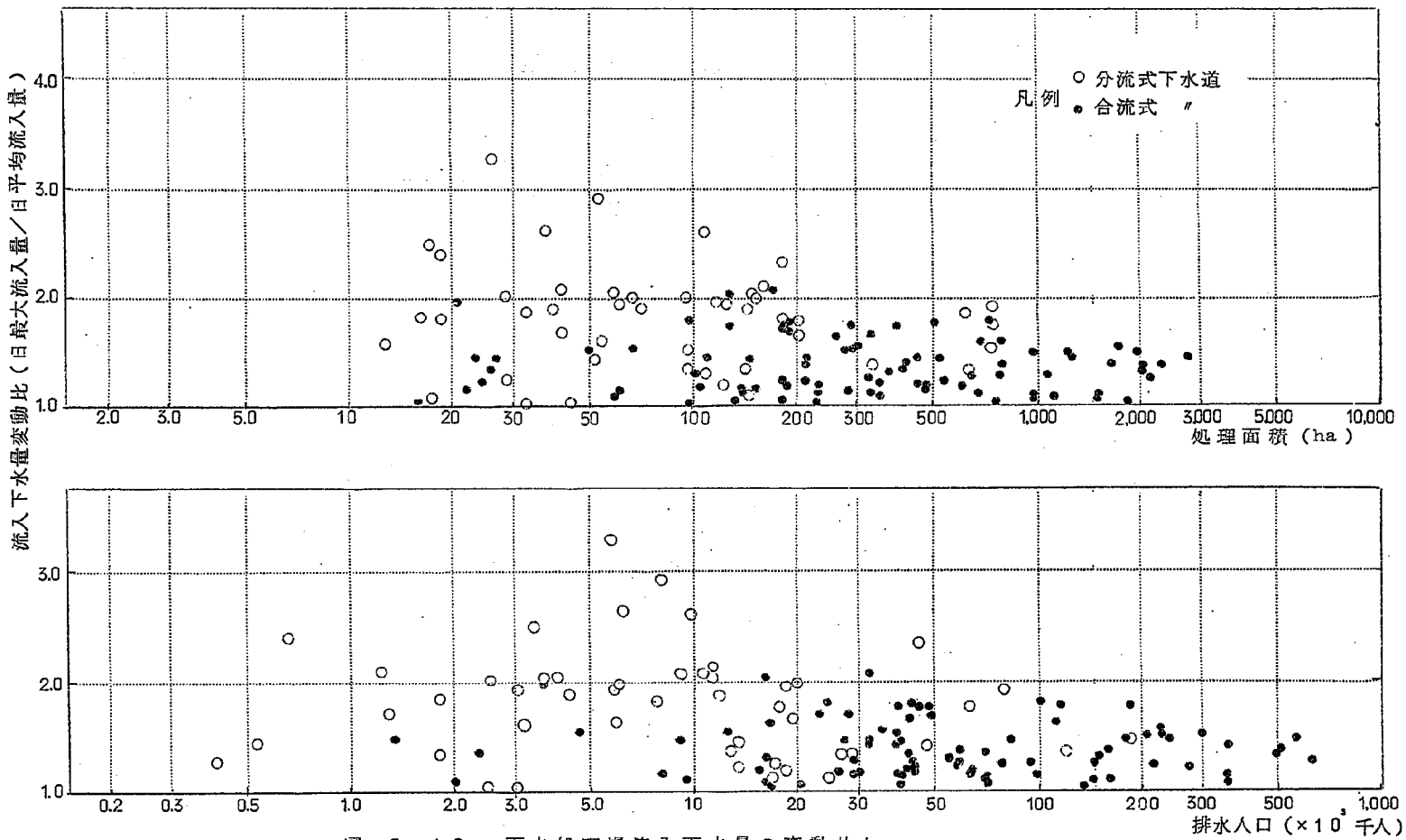
図－5－7


3,000
kg/時
2,000
1,000
東京都　落合下水処理場
505,400人
ステップエアレーション変法
10
12
14
16
18
20
22
0
2
4
6
8 時

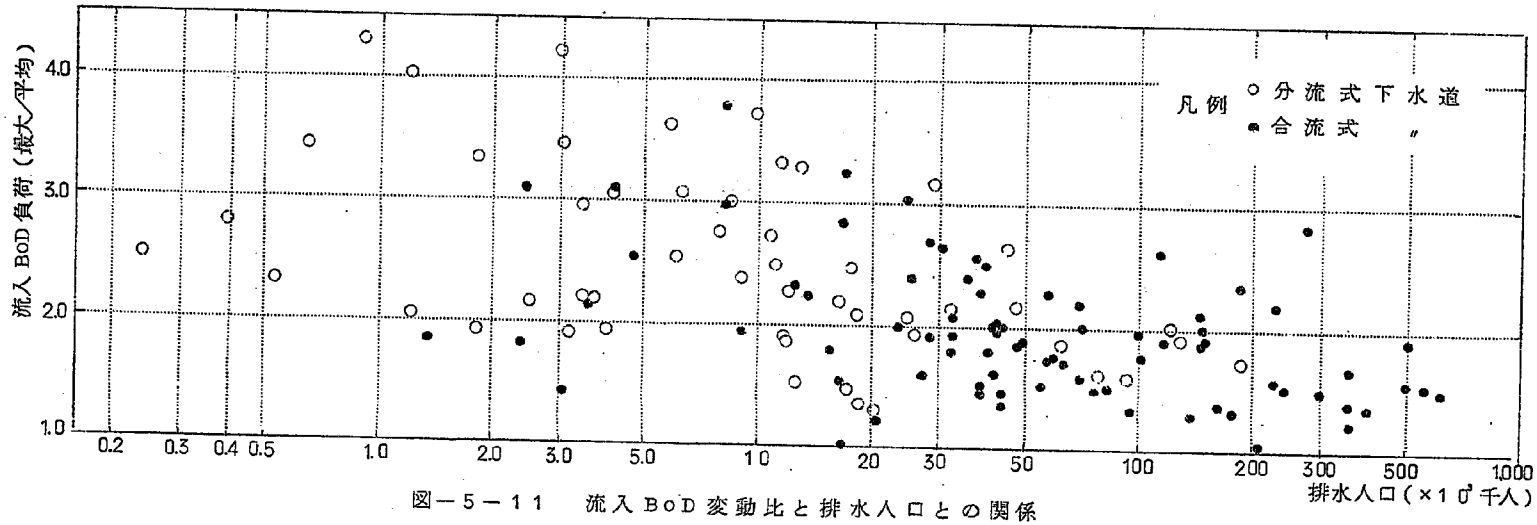
図－5－8


kg/時
1,500
1,000
500
東京都　三河島下水処理場
618,300人
ステップエアレーション変法
10
12
14
16
18
20
22
0
2
4
6
8時

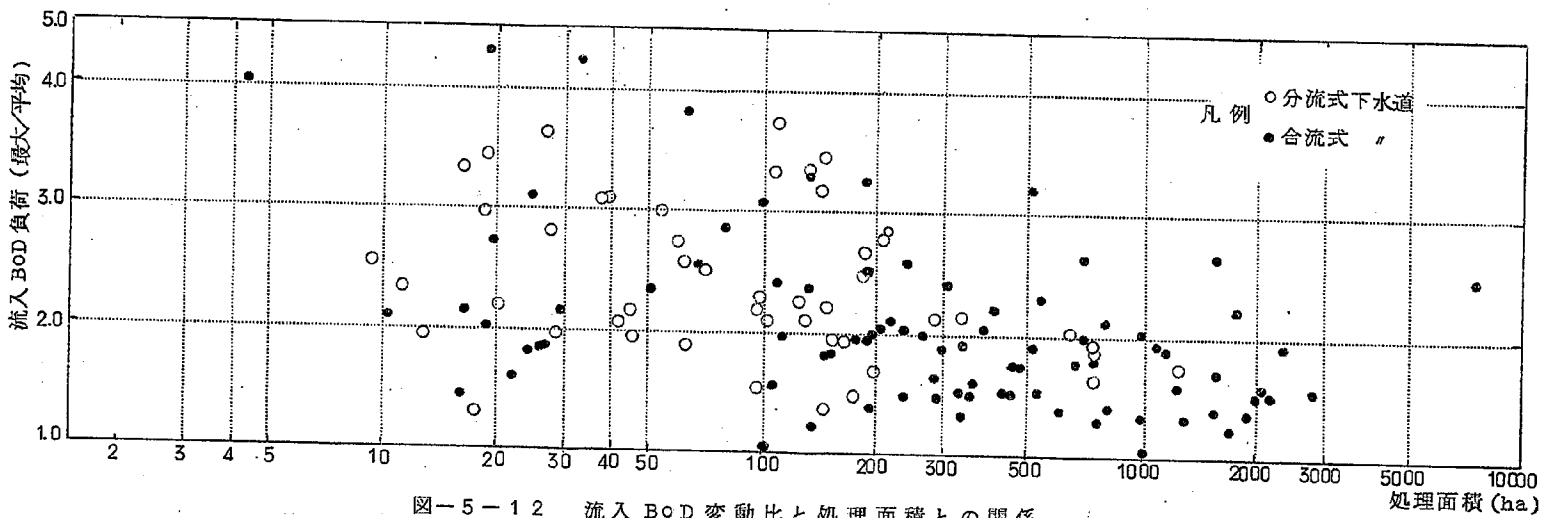
図－5－9



図－５－１０　下水処理場流入下水量の変動比と
処理面積及び排水人口との関係



図－5－11　流入BOD変動比と排水人口との関係



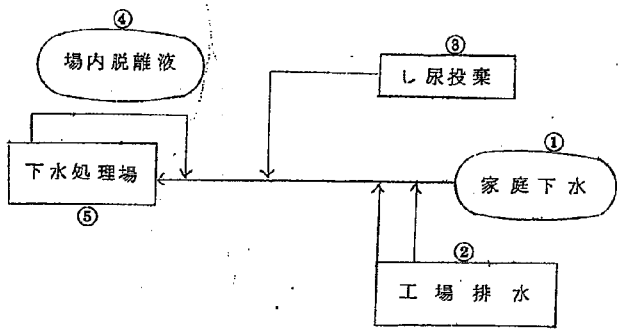
図－5－12　流入BOD変動比と処理面積との関係

5－2　家庭下水の人口当量について

下水処理場に流入する負荷の人口当量について知ることは、処理場の計画設計の上で重要なものであり、これを用いて、各種工場排水の人口換算当量の推定、河川などに流入する汚濁負荷量などの推定を行なうことができる。

本調査においては、下水処理場に流入する負荷量の側から家庭下水の人口当量を求めることを試みた。

下水処理場に流入する負荷量は次のようになる。



したがつて下水処理場に流入する家庭下水の負荷量は

流入　　家庭下水①負荷量＝総流入⑤負荷量－（工場排水負荷量②＋し尿投入量③＋脱離液④）

として測定されるはずである。

算定の精度をよくするためには、②、③、④が流入しないものが望ましい。
我が国においては、かなりの数の下水処理場（約３３％）は、工場排水を多かれ少なかれ受入れているが、それぞれの下水処理場で工場排水の排水量、濃度についての正確な資料が得られなかつたため、家庭下水の人当負荷量の算定にあたつては、工場廃水の混入しない、分流式下水道の処理場をその対象とした。流入各種負荷量についての資料を付表－３に示す。

このようにして求めた５９処理場についての負荷の人口当量と、処理面積、人口密度との関係を図５－１３～図５－１８に示す。

また付表－３にこれらの詳細を示した。

図にみられるごとく、人口当量は、ＢＯＤで１１～７０g／人／日、ＳＳで１３～８６g／人／日、排水量で１２３～４７４ℓ／人／日というように、かなりの差がみられるが、これらの値を平均すると、

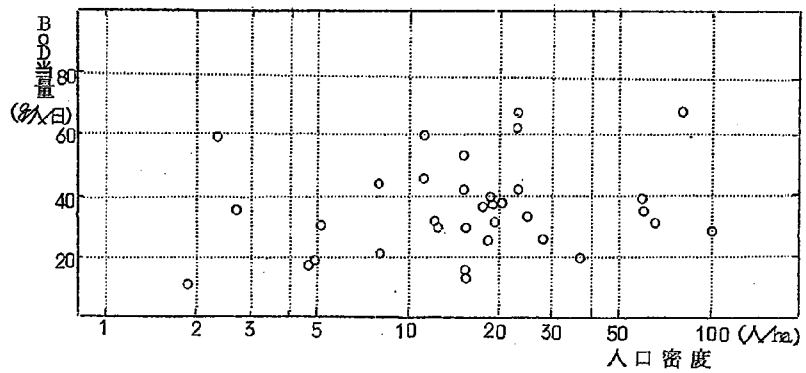
処理±流入ＢＯＤ負荷量	３９.５g／人／日
ＳＳ　負荷	４１.８g／人／日
排　水　量	２６３ℓ／人／日

となり従来の調査結果から求められた数値にかなり近いものが得られた。

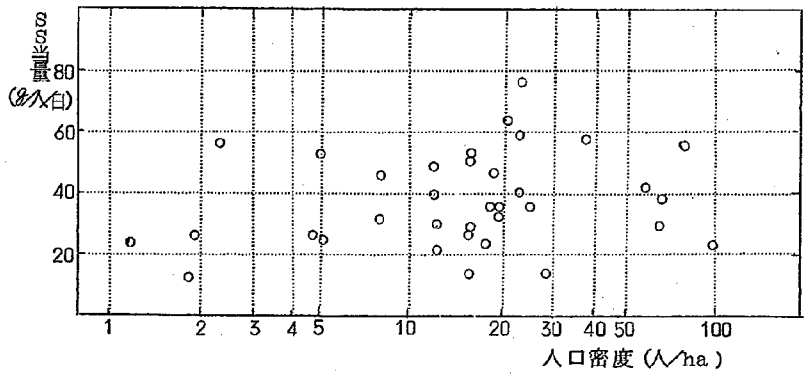
家庭下水の平均流入水質は　　BOD　　150 ppm

SS　　160 ppm

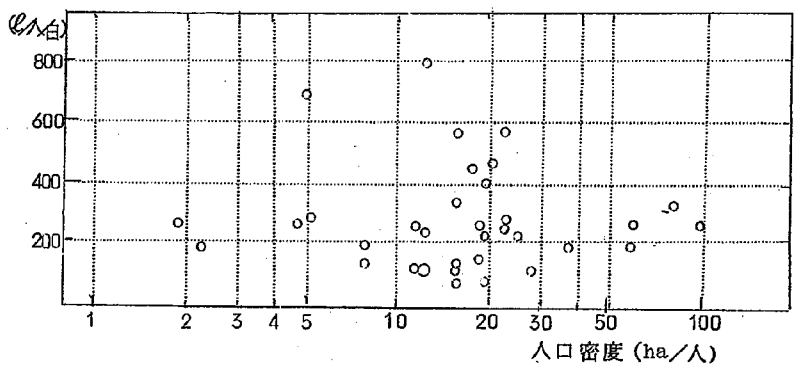
程度となる。



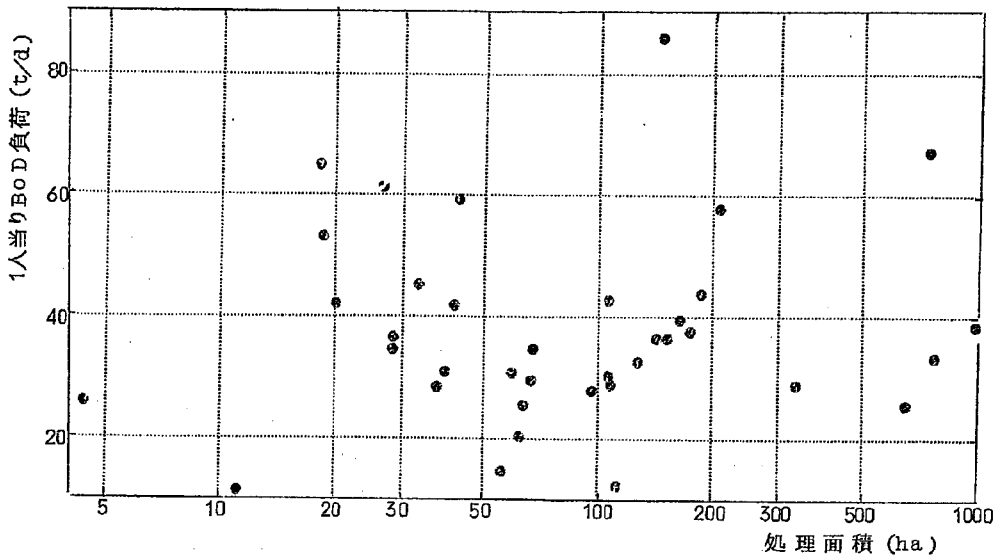
図—5—13　ＢＯＤ人口当量と処理場所在都市の人口密度の関係



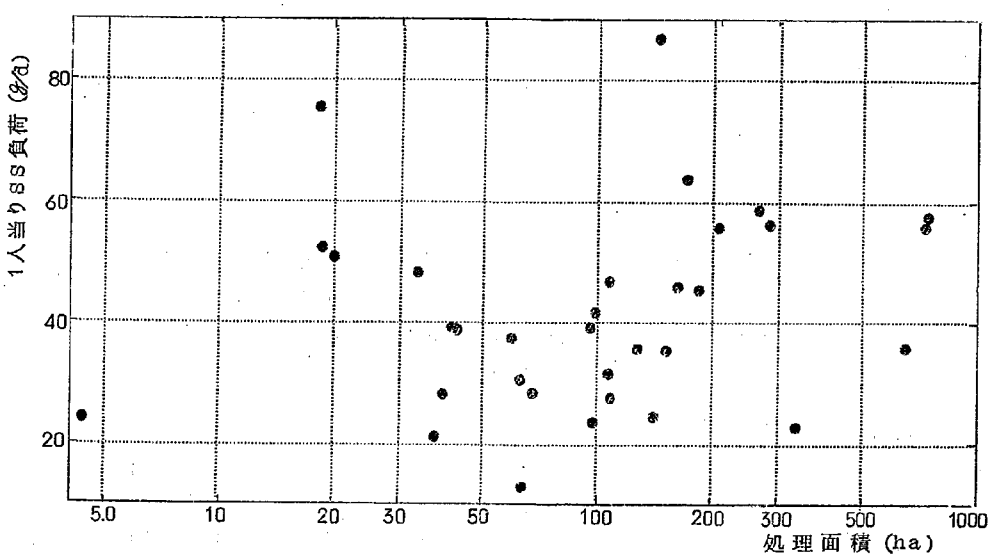
図—5—14　ＳＳ人口当量と処理場所在都市の人口密度の関係



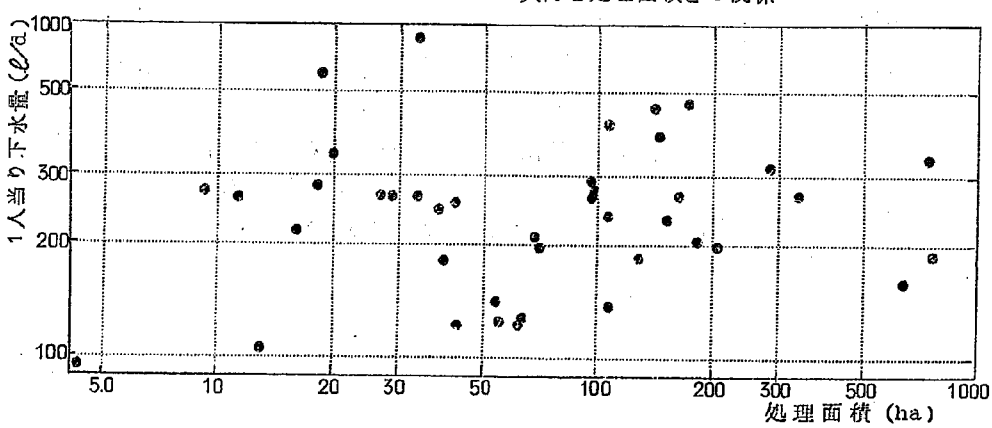
図—5—15　１人当り排水量と人口密度の関係



図－５－１６　１人当りＢｏＤ負荷と処理面積の関係



図－５－１７　１人当りＳＳ負荷と処理面積との関係



図－５－１８　１人当りの下水量と処理面積との関係

§6. 現況施設の処理機能について

前章までに，現況下水処理場の建設，維持管理費ならびに，流入下水の水質，水量に関する実態についての考察をすすめてきたが，処理施設の優劣あるいは，管理の良悪の論議を行なう場合その決め手となるのはその処理機能が，十分に発揮されているかどうかということである。換言すれば各単位施設ごとのそれぞれの機能を，流入下水水質あるいは下水量の変化に対応させて，十分に発揮できるように考慮して設計し運転操作を行なうことが，どの程度までできるかということである。

今回の調査の対象とした下水処理場は，１６０ケ所にのぼるが，その全ての下水処理場が十分な機能を果しているとはいえない。この理由は，流入水の負荷が過剰となりその設計値をオーバーしている場合，流入下水量および負荷量の変動がはげしくて，処理機能が十分に発揮できない場合，工場排水等が混入する場合，あるいは，一般的に必要な，維持管理上の種々の作業を怠たっている場合など色々であるが，結局のところは，設計上の問題（将来の人口あるいは，工場排水流入量等の増加による負荷量の増加へ配慮を含めて）と運転開始後の維持管理の問題とに大別することができる。以下にこれらを個々にとらえて論議を行なう。

従来施設の容量を決定するにあたって設計上用いられてきた数値（たとえば滞留時間，水面積負荷率など）は，実験室で小型の装置を用いて定められたもの，あるいは，諸外国における下水処理場の実際上の経験などから定められたものが主であり，これらは，それぞれ十分に意義があるものであるが，現在，実際に運転操作が行なわれている多くの下水処理場における，処理機能の調査結果をもとにして，いわゆる実際の施設におけるこれらの数値というものを知り，これをさらに設計条件にまでフィードバックさせるということも重要なことである。

いわゆる処理機能というものは，除去効率あるいは除去量で表わすことができ，そのための指標としては，ＢＯＤおよびＳＳを考えるのが適当である。

一般的に，下水処理場における除去率の論議を行なう場合，個々の下水処理場ごとに，流入水質あるいは下水量の状況，維持管理の状態，あるいは，施設の設計容量に対する現在の流入割合など多くの外的条件が異なっているため，これらを，一律に滞留時間あるいは，水面積負荷率，あるいは，空気量などといった，設計及び操作条件によってとり扱うのには，問題があるが，今回の調査では，こうした点の関連性を結びつけて，論議する十分な資料が得られなかったので，外的な条件については，これらをできるだけ分離して一般的な考察を加え，設計，操作条件については，他の外的条件が一定であるものとして，個々の下水処理場ごとのデータを一律にとりあげて，除去効率の評価を行なうようにした。

使用したＢＯＤならびにＳＳの測定結果は，４３年９月～４４年１月までの間に各下水処理場で，それぞれ一回づつ調査を行なったものであり，これが，年間を通じての平均値を表わしてい

るとはいえず，また，その大部分の測定は各々の下水処理場が独自に行なっているため，データの種々の意味での代表性というものについては，若干の問題点はあるが，一応ここでは，その値をそれぞれの下水処理場の機能を表現しているものとしてとり扱うこととした。

また，ここでいう除去率は，１日に施設に流入する下水の総負荷量（各時間ごとに水質×水量として負荷量を算出し１日の総量を求めたもの）が施設内で除去される割合であり，除去量は流入総負荷量と流出負荷量の差から算出したものである。

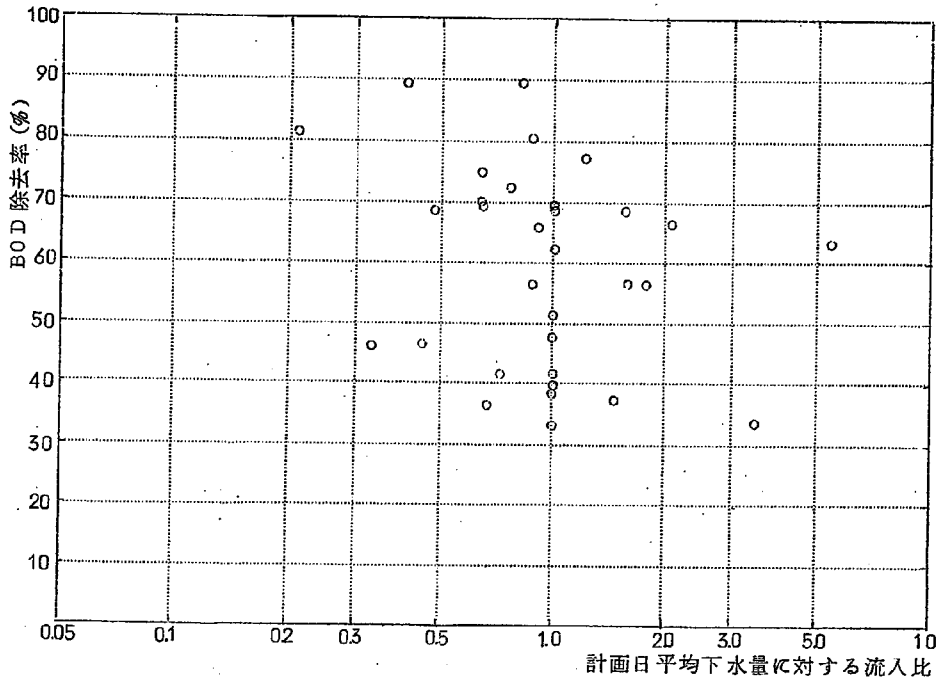
６－１　流入下水量，流入負荷量等の外的条件と除去効率，との関係

ここでは，前述した設計あるいは操作条件とは別な要因が処理効率に与える影響について概略の考察を加えることとする。

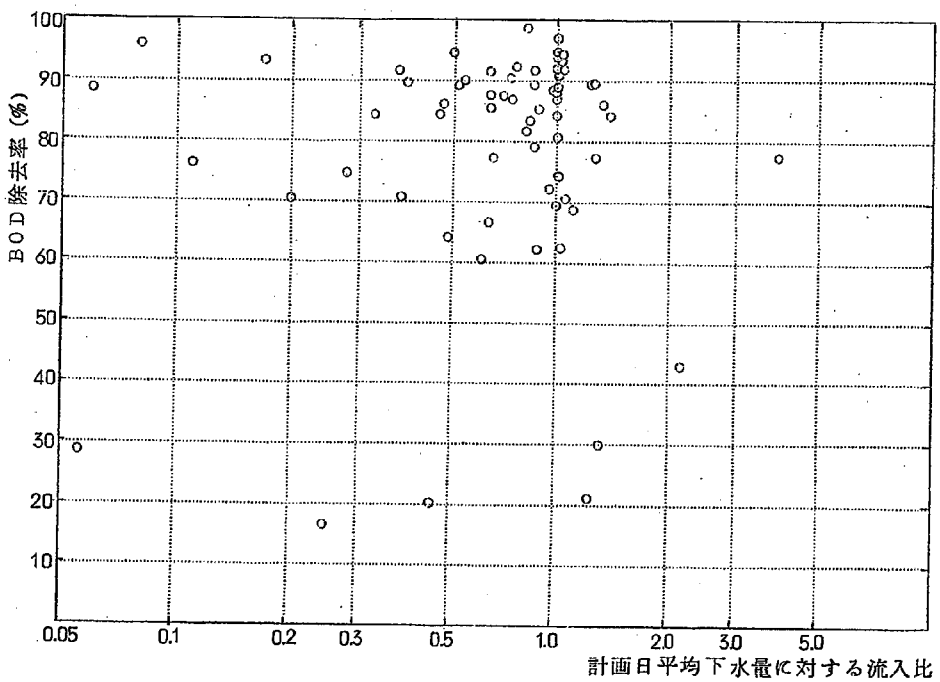
６－１－１　施設の計画容量に対する現在の流入量の割合が除去効率に与える影響

下水処理場が完成し，供用開始された場合，各汚濁源からの汚水の完全な受入に至るまでには相当の時間がかかるのが普通である。初期においては，設計値を大巾に下まわる下水量を処理することになる。さらに，供用後相当に年月の経った処理場，あるいは，設計段階において考慮していなかった汚濁源からの汚水を受入れざるを得なくなった処理場においては，逆に設計値を上まわる下水を処理せざるを得なくなることがある。これはいわゆる過負荷の状態であり，処理機能が低下し処理水質の劣下という好ましからざる状態が生じてくる。

計画値を下回る場合については，現時点では一応は問題がないわけであるが，ここでは，施設の計画容量に対する流入比が，処理効率にどのように影響しているかについて整理を行なってみた。図－６－１に散水沪床法の場合，図－６－２に活性汚泥法の場合の計画容量と現在の流入量の比（流入比）とＢＯＤ除去効率との関係を示した。計画容量に対して流入下水量が少ないということは，施設にその分の余裕があるということであって設計上の諸数値にゆとりがあること，過負荷の場合にはこの逆であるため，流入比が大きくなれば除去効率が低下するものと考えられる。図にみられるように今回の調査では，一般的にＢＯＤ除去率が良好であったが，流入比が１を越える場合（いわゆる過負荷の状態）には，その除去効率の低下がはっきりと認められる。



図－6－1　施設の計画容量に対する流入比と処理効率の関係
散　水　濾　床　法



図－6－2　施設の計画容量に対する流入比と処理効率の関係
活　性　汚　泥　法

6－1－2　流入負荷変動比と除去効率

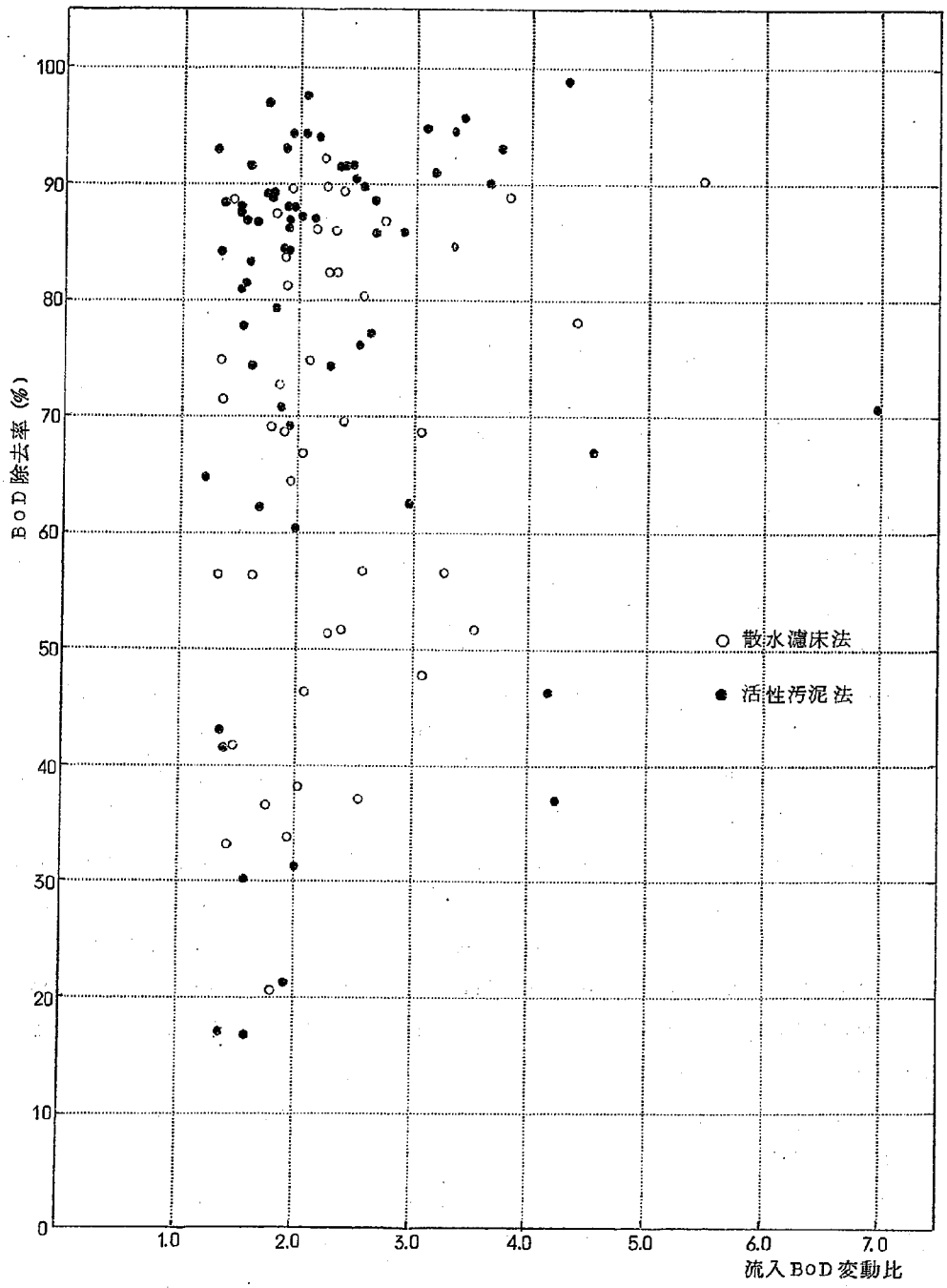
前章において下水処理場に流入する負荷量の変動についての論議を行なってきたが，ここでは，この変動が処理の機構あるいは除去率にどのように影響するかについて流入ＢＯＤの変動比との関係をみてみる。図－6－3は流入負荷変動比と除去率との関係をそれぞれの処理法の場合について，示したものである。図にみられるように処理水質の調査結果からみてその除去率は一般に非常に良く変動比と除去率の間には特に関係がないようにみえる。

この原因として考えられるのは

1. 流入ＢＯＤ負荷量そのものの値が設計値を下まわつていてその変動が大きな影響を与えるに至らない。
2. 変動比が３程度までは，処理機構に影響を与えない。
3. 日平均除去率では，ここで考えている変動比というものに対するレンジが大きすぎる。
4. 調査日に特に運転操作に注意を払った。

などによるものであろう。

しかしながら，負荷の変動が処理の機能に影響するということは，十分に考えられることであり，処理場の設計にあたっては基本的な問題であると考えられるため，実験室での実験を含めて充分な調査をする必要がある。



図－６－３　流入ＢＯＤ変動比とＢＯＤ除去率の関係

6－2　設計及び操作条件と除去効率との関係

ここまでに，下水処理場における流入下水量，流入負荷量等の外的条件が除去効率に与える影響について概観してきたが，ここでは，処理施設の容量及びその運転操作と除去率がどのような関係にあるかについての整理を行なってみた。ここでいう設計条件というのは，施設の滞留時間，あるいは水面積負荷率といった設計上の数値としてとりあげることのできるものを指し操作条件というのは，空気量あるいは，ＭＬＳＳ濃度，あるいはＭＬＳＳ当りのＢＯＤ負荷という，操作上で示標となる数値を指している。以下に各単位施設ごとに，これらの調査結果をのべる。

６－２－１　才１次処理施設（最初沈澱池）の機能

才１次処理施設（最初沈澱池）の機能は，浮遊物の沈澱除去ならびに，これに伴なうＢＯＤ除去を行なうことにある。このため，最初沈澱池の機能を表わす場合は，沈澱効率に影響する。水面積負荷率あるいは，滞留時間とＳＳ，あるいはＢＯＤ除去率の関係で示すのが一般的である。現行の施設基準によれば，滞留時間は各処理方式により異なるが，活性汚泥法の場合で1.5時間程度散水沪床法で2.0時間，簡易処理では3.0時間をとるのが目安とされ，その除去率は，ＳＳで３０～４０％，ＢＯＤで２５～３５％が見込まれており水面積負荷率は３０～５０m^3／m^2／日としてとるのを標準として設計されている。

実際の下水処理場では，これらの間の関係はどのようであろうか。前節で取上げたような若干の問題があるが，これらの間の関係を図示したのが図－６－４ないし図－６－１５である。

図－６－４ないし図－６－７は，ＳＳ除去率と水面積負荷率の関係，図－６－８ないし図－６－１１はＳＳ除去率と滞留時間の関係を示したものである。また図－６－１２ないし図－６－１５はＢＯＤ除去率と水面積負荷率の間の関係を示した。

従来，除去率と滞留時間あるいは，水面積負荷率を考える場合において，流入下水の濃度との関係にはあまり考慮が払われていない。たとえば，流入下水のＳＳ濃度が，１００ppmである場合と２００ppmである場合を比較すると除去率をどちらも４０％とすると流出水の濃度は６０ppmあるいは１２０ppmとなり，２倍の濃度差を生じることとなる。したがって，実際の下水処理場の設計を行なう場合においては，流入水の濃度を想定して除去率を定め施設の容量が決定されることになる。しかしながら，流入下水の濃度が除去率に与える影響は大きく，一般には，同じ条件のもとでも流入水の濃度が高い場合には，除去率は良くなり，低い場合には，除去率はこの逆となるのが普通である。

したがって，流出水に要求される濃度から，除去率を定めこれによって，施設の容量を定める場合においても流入水の濃度を考慮して，その値を決定する必要がある。

図－６－４ないし図－６－１１は，こうした点を考慮して各下水処理場の最初沈澱池における実測値を流入水の濃度別に分類して，その除去効率と，水面積負荷率あるいは滞留時間との関係を示したものである。

流入水ＳＳ濃度は，０～１００ｐｐｍ，１０１～２００ｐｐｍ，２０１～５００ppm，５００ｐｐｍ以上の４段階に分類した。図－６－４ないし図－６－１１にみられるように，流入水のＳＳ濃度が高くなると，除去効率は良好となる。

水面積負荷率でみた場合においては

流入 SS 濃度 (ppm)	水面積負荷率 (m^3/m^2/日)	SS 除去率 (%)
０～１００	３０～５０	２７～４２
１０１～２００	〃	３２～４６
２０１～５００	〃	４３～６５
５００以上	〃	７５～８５

となり，流入水のＳＳ濃度が，２００ｐｐｍを越すと除去率は，非常に良好となるのがわかる。家庭下水を主体とした下水処理場においては，流入水の平均ＳＳ濃度は，１５０ｐｐｍ程度であるため，標準とされる３０～５０m^3/m^2／日の水面積負荷率においては，ＳＳ除去率は３０～４５％の範囲にあり，これは，現在想定している数値より若干高めであるが，ＳＳ除去率はほゞ一致する。しかしながら，２００ｐｐｍを越す高いＳＳ濃度の流入水が想定される場合には，ここでみられるように除去率は有利となり，３０～５０m^3/m^2／日の水面積負荷率の場合で４０～８０％までの除去率を想定できるため，設計にあたっては，流入水の濃度に応じて，水面積負荷率を変えていく必要性があろう。

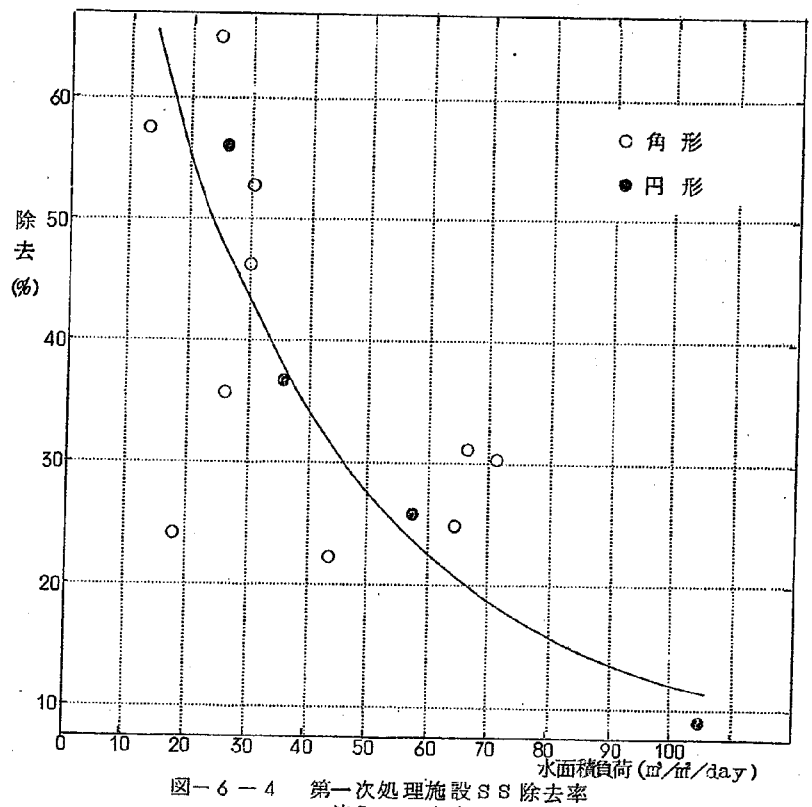
滞留時間で考えた場合もこの傾向は同様であり濃度別に滞留時間と除去率の分類を行なうと

滞流時間	流入水 SS (ppm)			
	０～１００	１０１～２００	２００～５００	５００以上
1(hr)	２０ (%)	２５ (%)	３２ (%)	４７ (%)
1.5	２６	３５	４３	６０以上
2	３３	４２	５２	〃
3	４４	５５	６０	〃

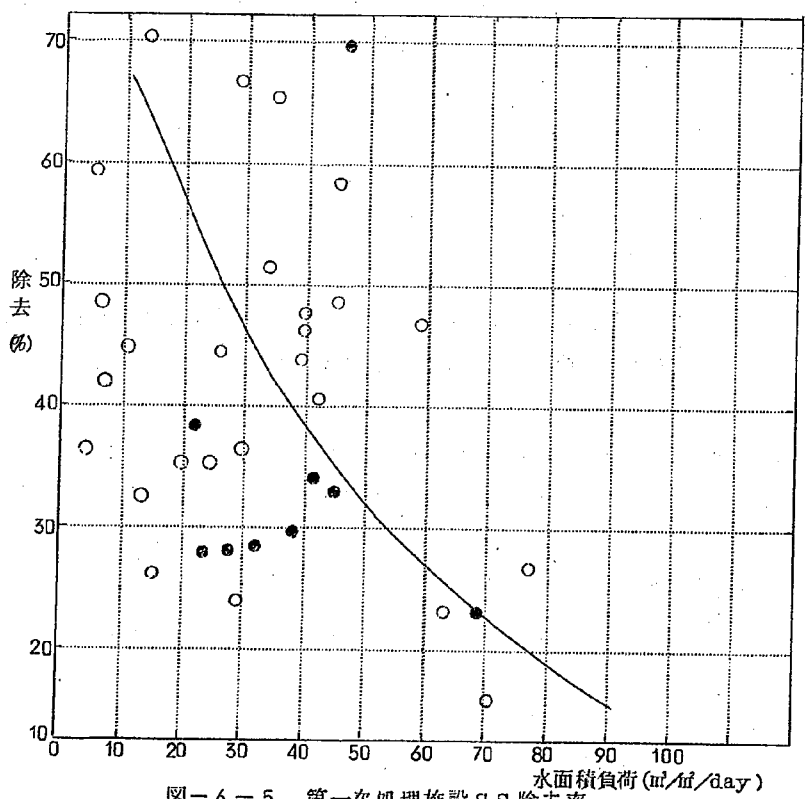
となり，流入水の濃度による除去率の差がみられる。全体的にみれば，除去率は滞留時間１.５～３時間の間で２５～４５％程度期待でき，おゝむね設計数値に合致した値を示していると考えられる。

図－６－１２ないし図－６－１５は，ＢＯＤの場合について，除去率と水面積負荷率の関係を流入ＢＯＤ濃度に分類して図示したものである。ＢＯＤの場合は，ＳＳの場合ほど流入水の濃度による除去率の変化は顕著ではなく，水面積負荷率３０～５０m^3/m^2／日の間では，２５～４０％程度の除去率が期待できることがわかる。

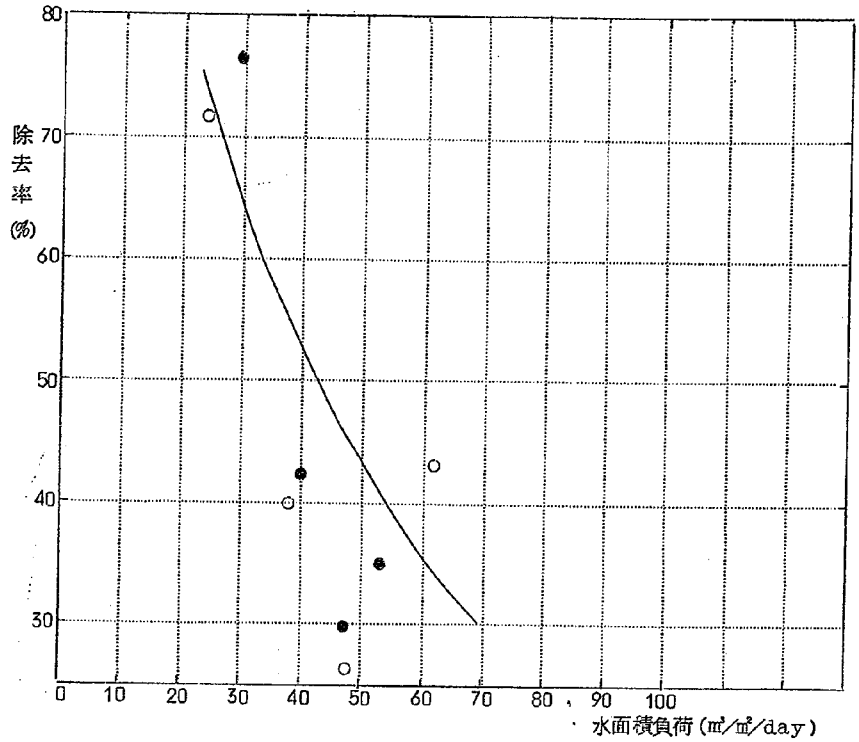
円型沈澱池と方型沈澱池による除去効率の差について，沈澱池は，円型沈澱池と方型沈澱池の両方が用いられており，その優劣が種々の立場から論じられているが，その除去効率の差については，今回の資料では明らかにすることができなかった。（円型，方型の場合については図中に色分けして記入してある）さらに詳細な調査を行なう必要がある。



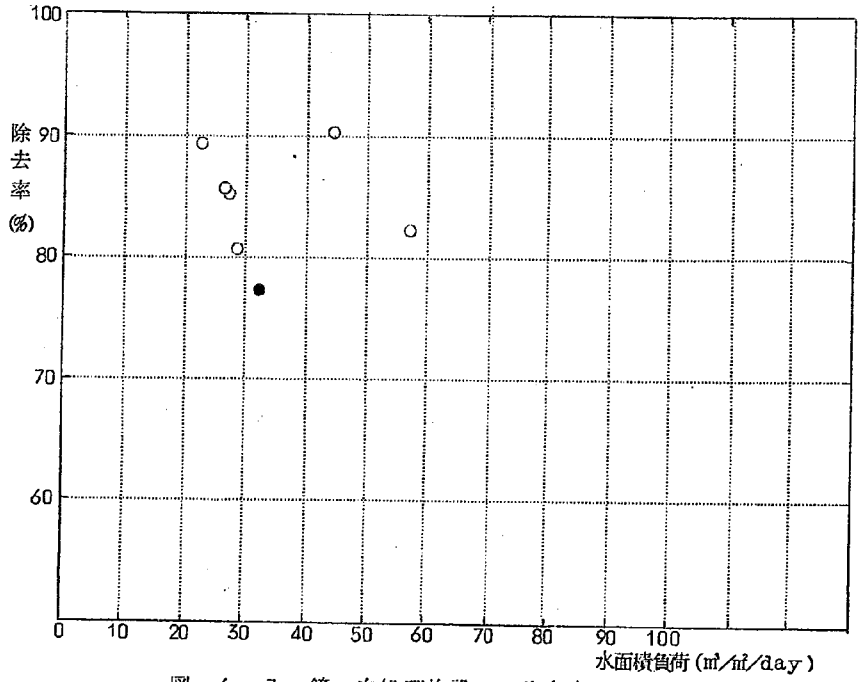
図－６－４　第一次処理施設ＳＳ除去率
流入ＳＳ濃度　０～１００ＰＰｍ



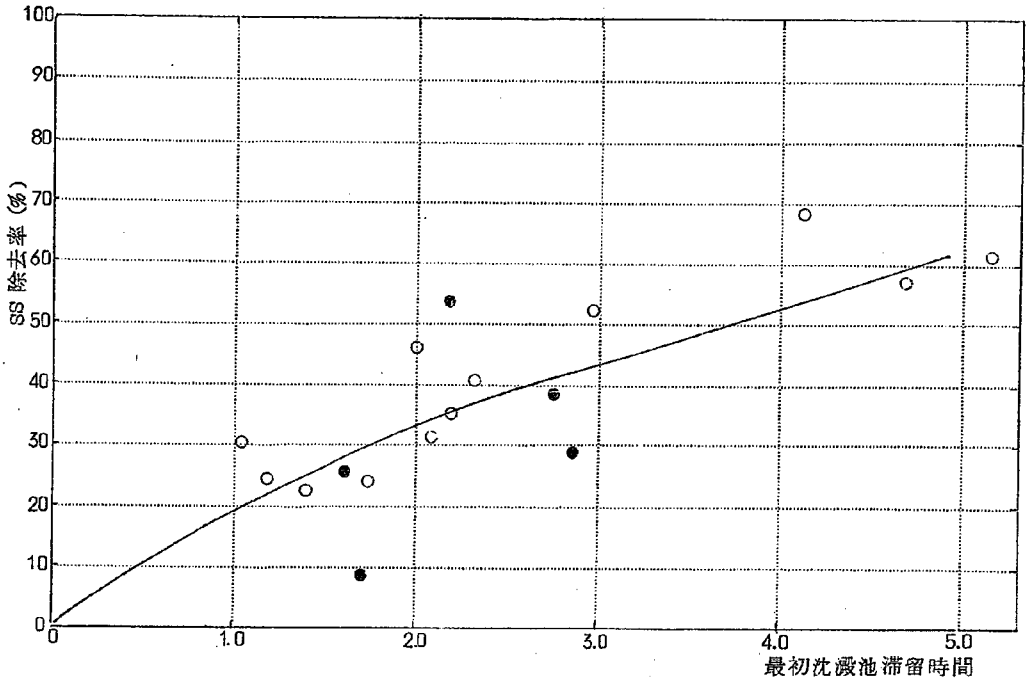
図－６－５　第一次処理施設ＳＳ除去率
流入ＳＳ濃度　１０１～２００ＰＰｍ



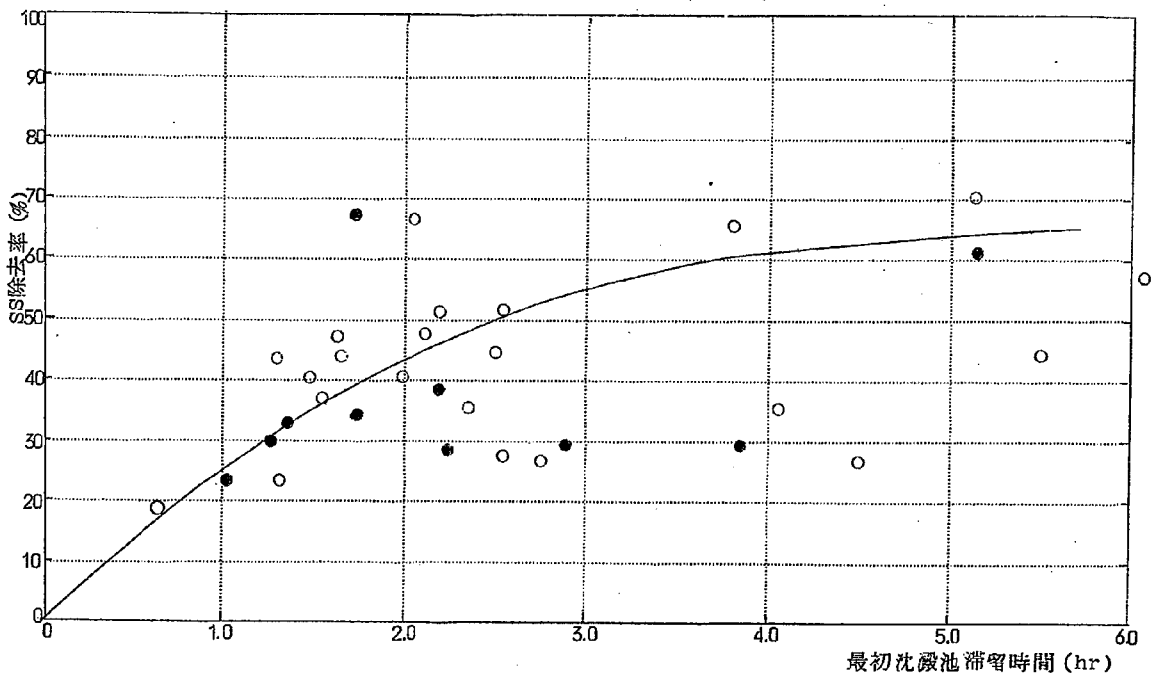
図－６－６　第一次処理施設ＳＳ除去率
流入ＳＳ濃度　201～500PPm



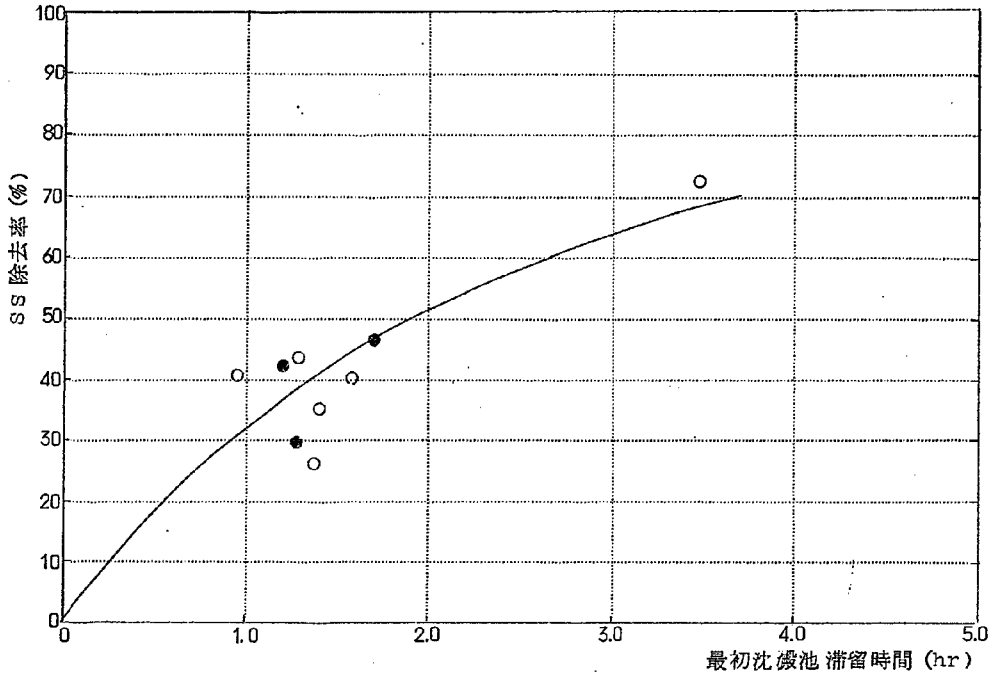
図－６－７　第一次処理施設ＳＳ除去率
流入ＳＳ濃度　５００PPm以上



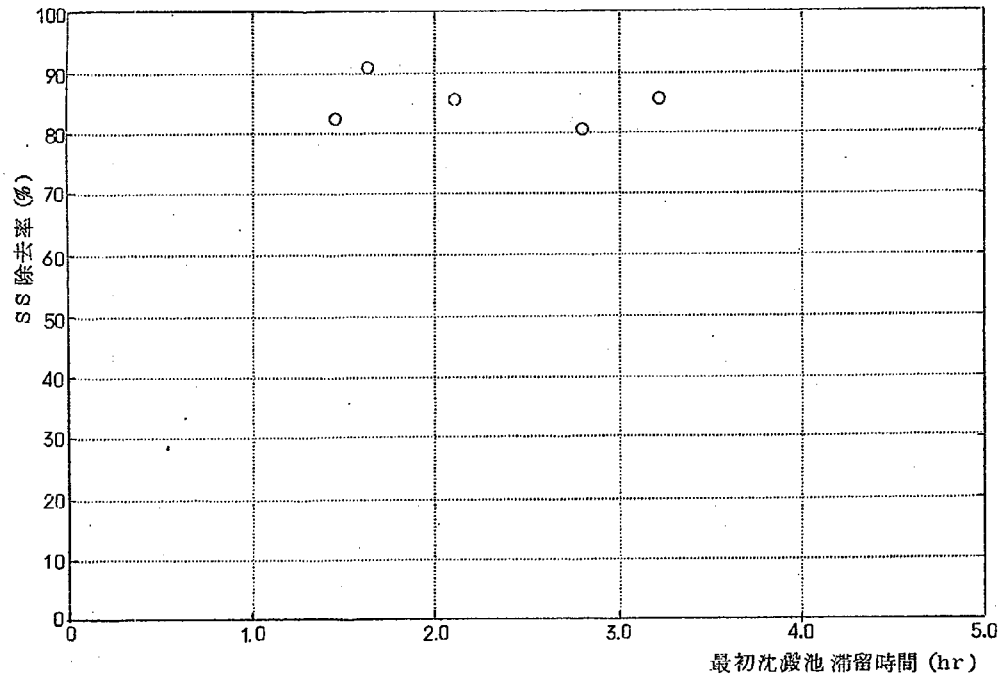
図－６－８　流入 SS 濃度　0～１００PPm



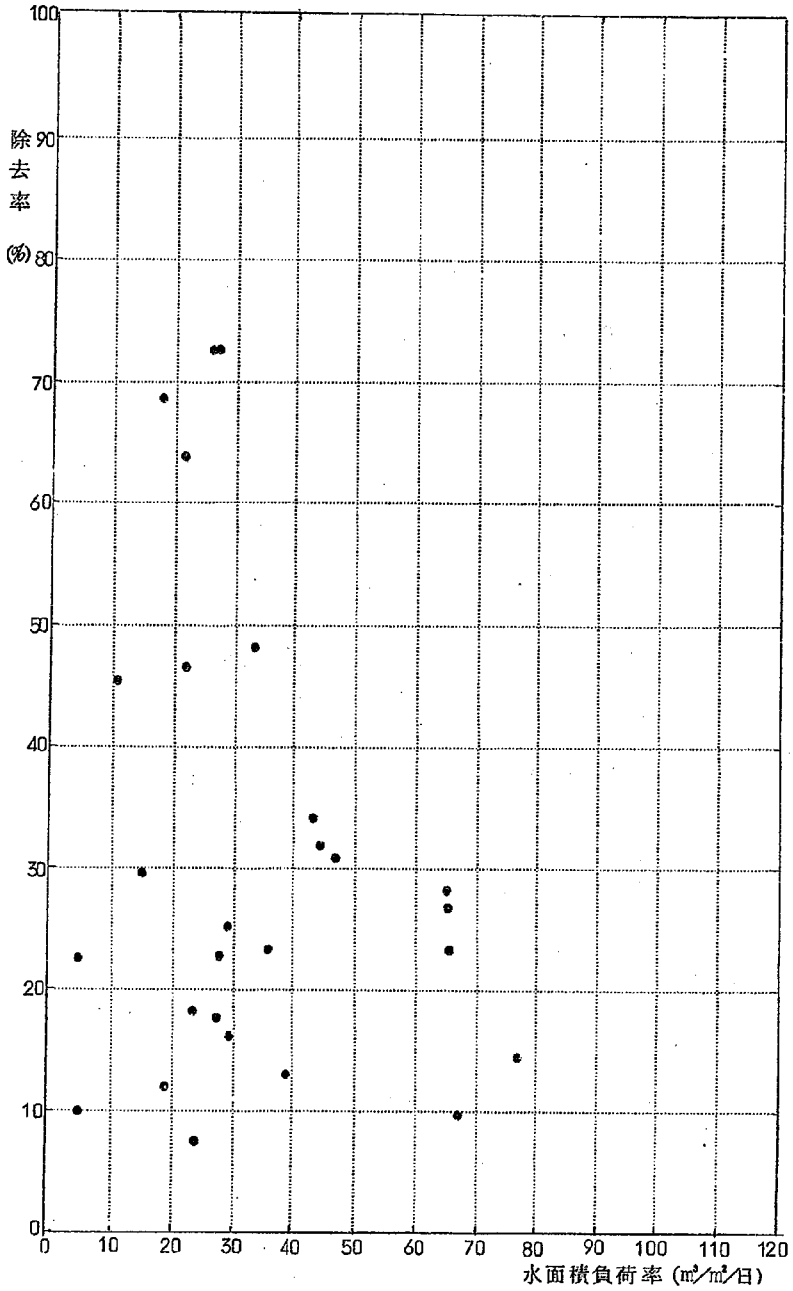
図－６－９　流入 SS 濃度　101~200PPm



図－6－10　流入SS濃度 201~500PPm

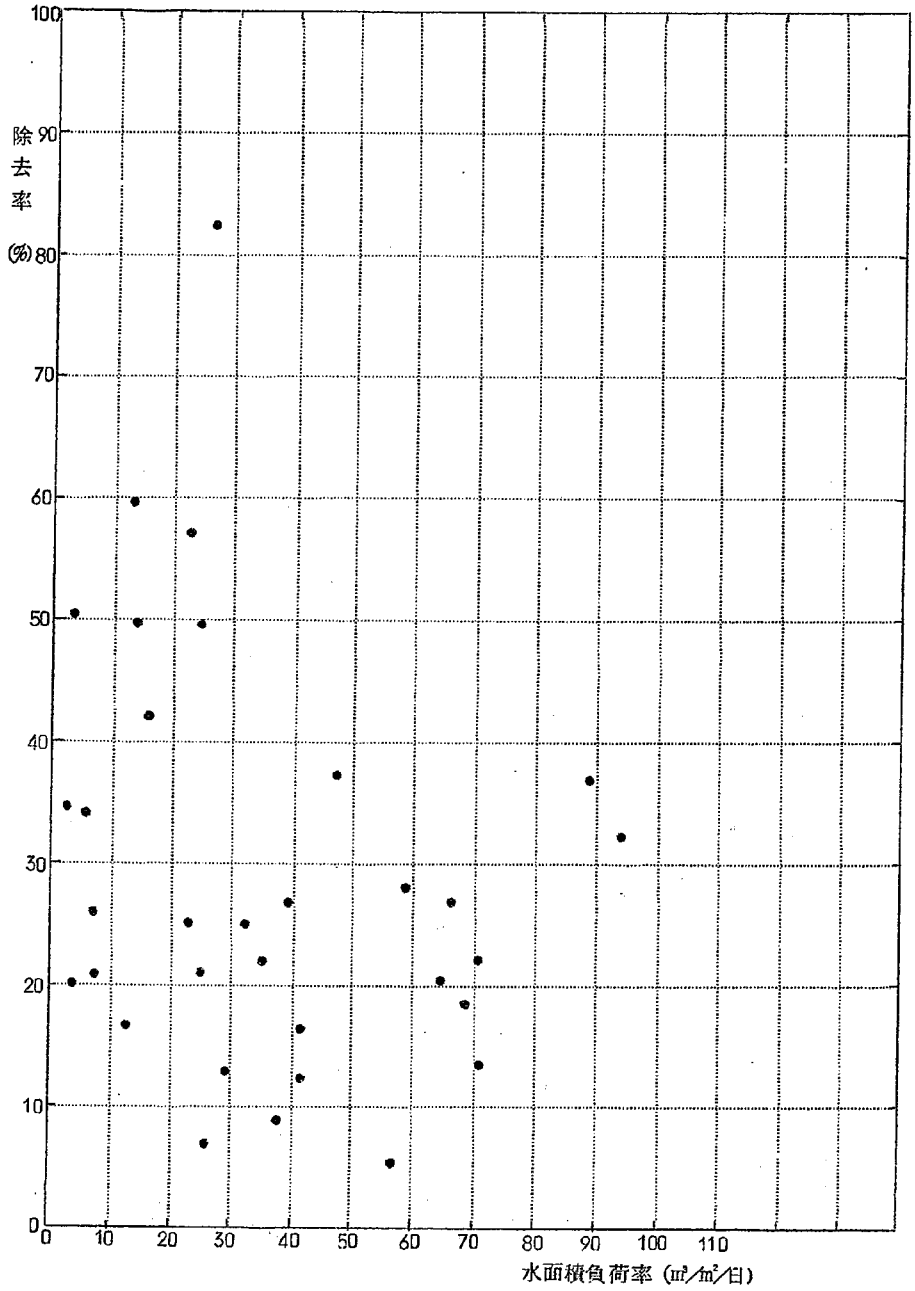


図－6－11　流入SS濃度　500以上

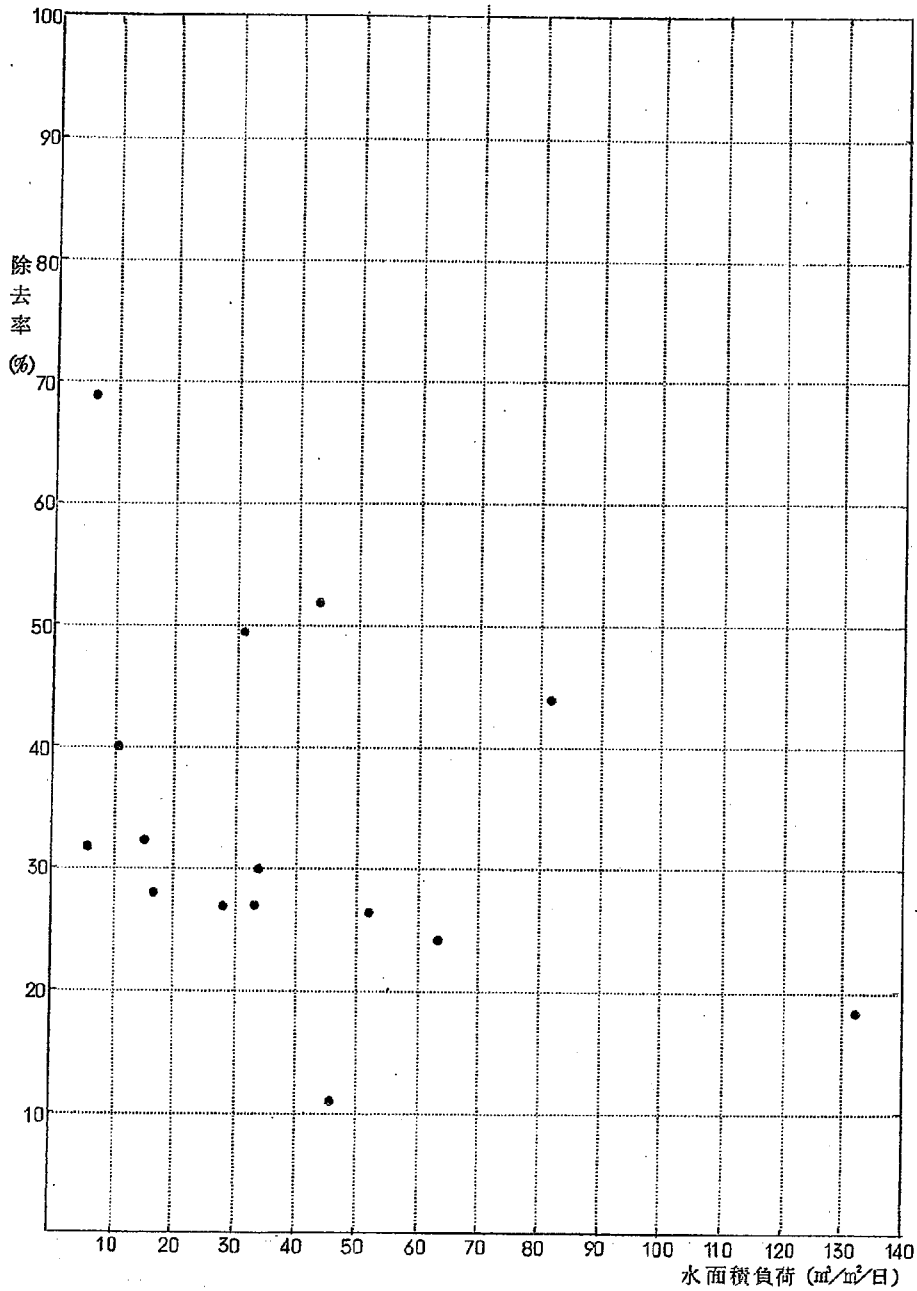


図－６－１２　第一次処理施設ＢＯＤ除去率

流入BoD濃度　０～１００PPm

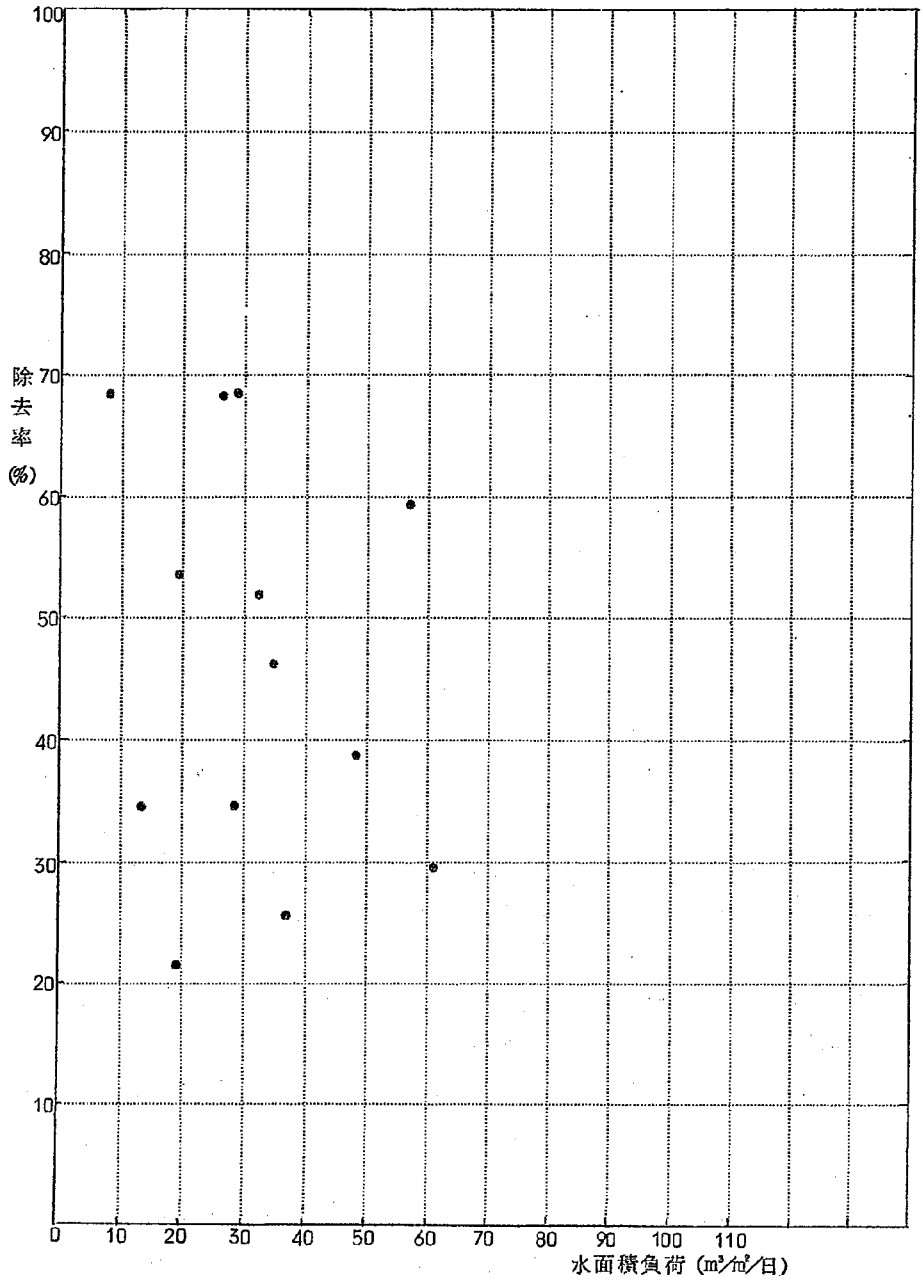


図－6－13　第一次処理施設ＢｏＤ除去率
流入BoD濃度　101～150PPm



図－６－１４　第一次処理施設ＢｏＤ除去率

流入ＢｏＤ濃度　１５１～２００ＰＰｍ



図－６－１５　第一時処理施設ＢＯＤ除去率

流入ＢＯＤ濃度　２０１ppm以上

6－2－2　才2次処理施設の機能について

才2次処理施設の機能を考える場合には散水沪床と最後沈澱池，活性汚泥法におけるエアレーションタンクと最後沈澱池の組合せがあるが，これらを分けて考えることにする。

ｉ）高速散水沪床法の場合

高速散水沪床の場合その機能（除去効率）に影響を与える因子としては，沪床の形状，沪材の大きさ，つみ具合，あるいは沪床の深さといった，形態的なものと，散水量という操作上のものとに分けて考えることができる。

今回の調査では，前者の形態的なものと，散水沪床の除去効率との関係は把むに至らなかったため，散水量と除去効率について述べることにする。

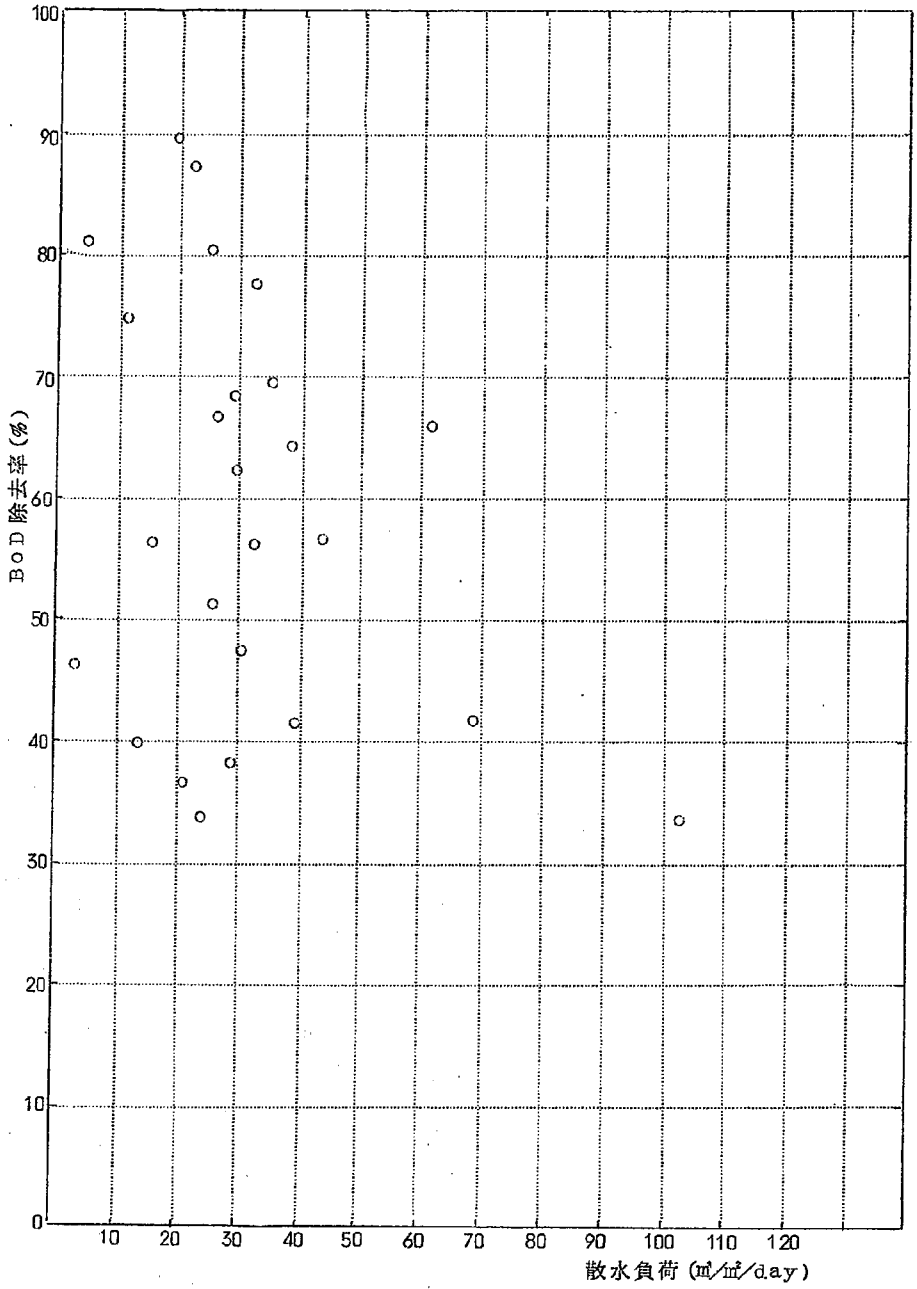
高速散水沪床の場合は流入下水のＢＯＤによって散水負荷量が異なるがその範囲は１５～２５ m^3/m^2／日，ＢＯＤ負荷は，1.2 Kg／m^3／日以下とすることが基準として定められており，この範囲内での操作を行なえば一応６５～７５％のＢＯＤ除去率が得られるものとされている。

図－６－１６および図－６－１７に散水負荷とＢＯＤ除去率の関係，ＢＯＤ負荷と除去ＢＯＤの関係を示す。

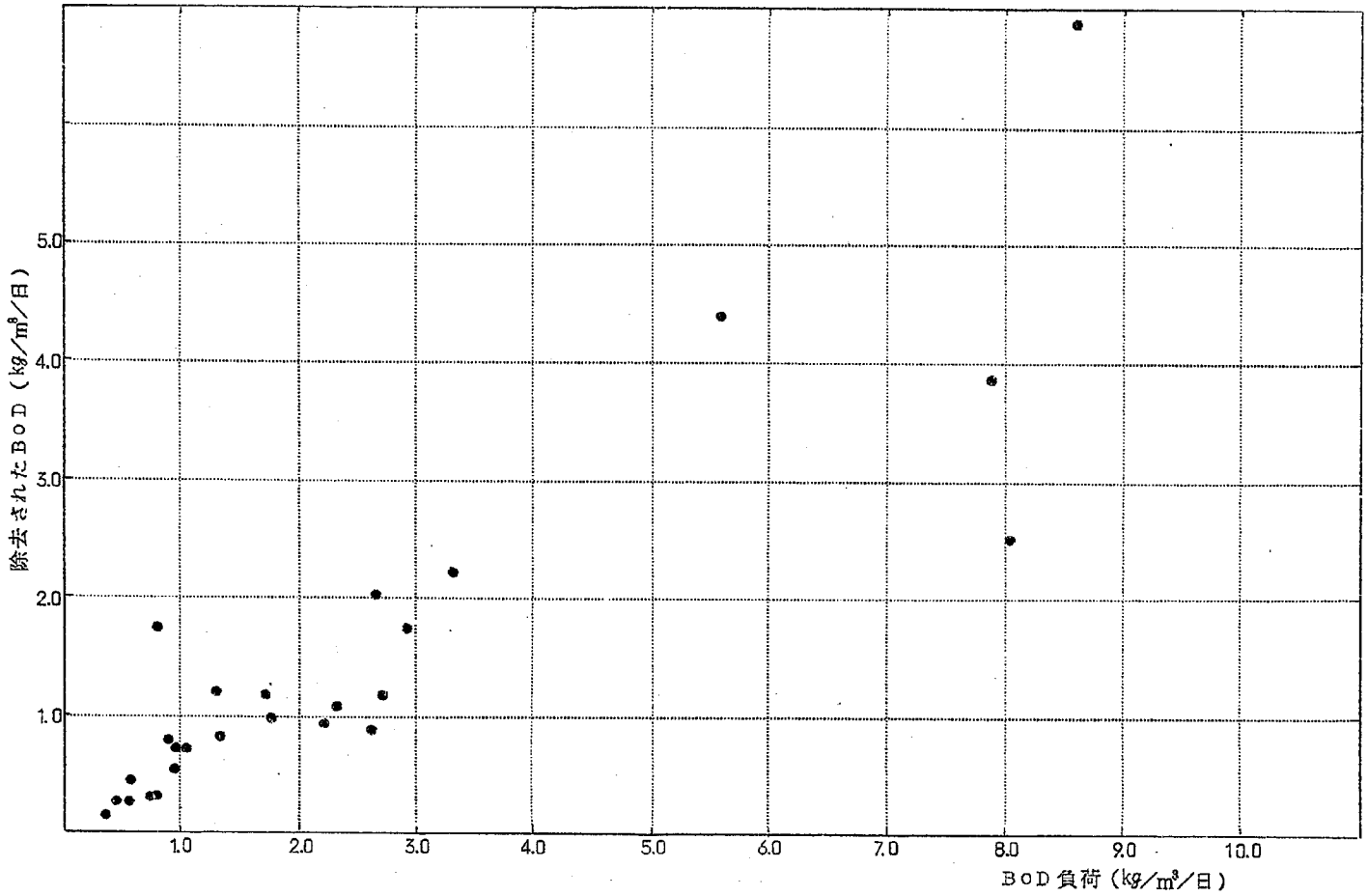
図－６－１６にみられるように，大部分の高速散水沪床法を有する下水処理場が上記の散水量の範囲で運転を行なっている。しかしながら３０ m^3/m^2／日以上の強度の散水負荷で処理を行なっている下水処理場もかなりの数にのぼり全体の約３０％を占めている。特に６０ m^3/m^2／日という高負荷による運転を行なっている下水処理場は全て住宅団地の下水処理場であった。全体としては，散水負荷が大きくなればＢＯＤ除去率が低下する傾向がみられるが，散水負荷が１０～３０ m^3/m^2／日の間では，除去率が良い場合，悪い場合まちまちである。これは，ＢＯＤの除去率が散水負荷だけによるものではなく，沪床の形状又は流入水ＢＯＤの濃度あるいはＢＯＤ負荷に影響されているためであると考えられる。

図－６－１７はＢＯＤ負荷と除去ＢＯＤ量の関係を示したものである。図にみられる如く，かなりの下水処理場においてＢＯＤ負荷が過負荷の状態（1.2 Kg／m^3／日）となっており全体の半数にのぼっている。図にみられる如く，ＢＯＤ負荷が1.5 Kg／m^3／日を越えるとその除去量は低下していくため，高負荷運転による問題がかなり生じているものと考えられる。特に負荷の高い5.5 Kg／m^3／日の下水処理場はいずれも住宅団地の処理場であった。

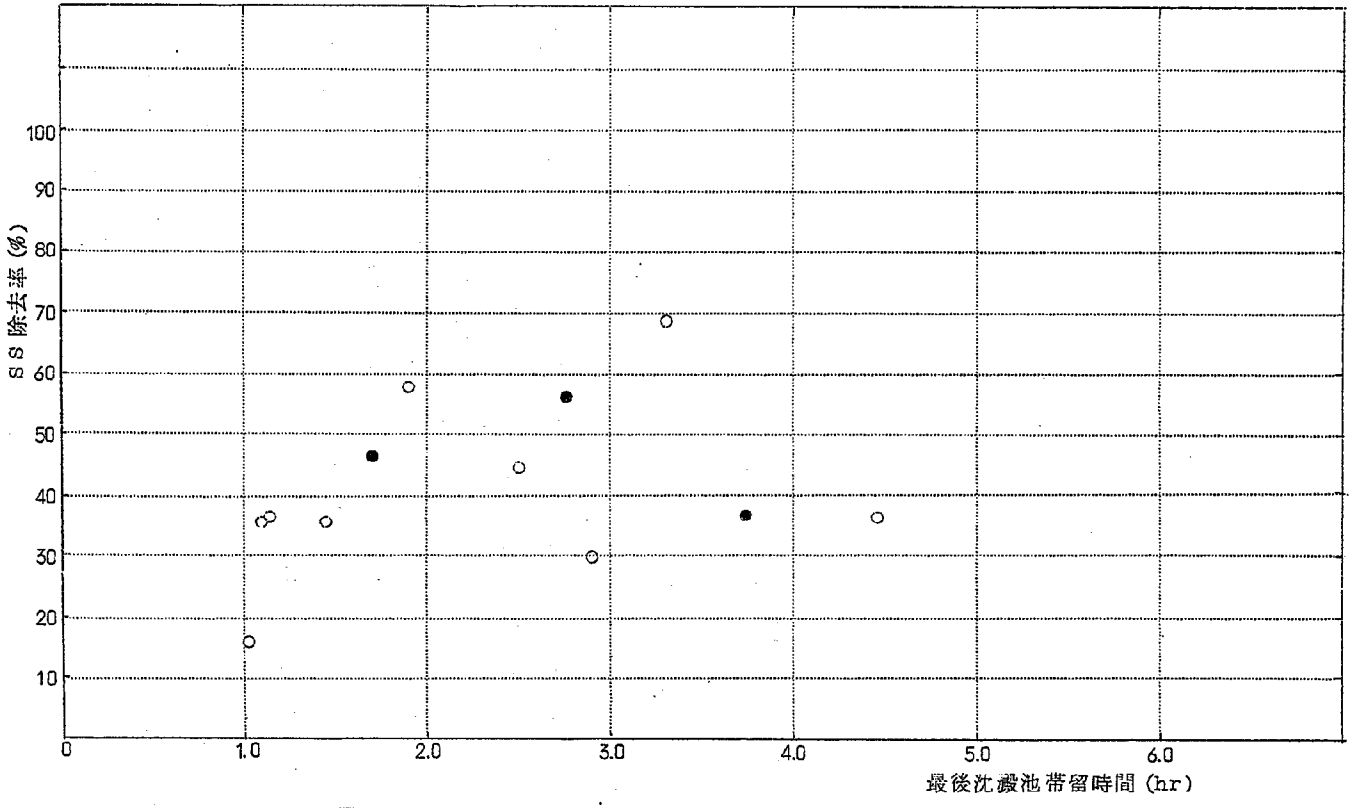
散水沪床法の場合の最後沈澱池におけるＳＳ除去率と滞留時間の関係を示したのが図－６－18である。滞留時間は１～4.5時間の範囲である。標準とされている滞留時間が２～2.5時間の範囲では，ＳＳ除去率は４５～５０％程度であった。



図－6－16　高速散水濾床における散水負荷と除去率の関係



図－6－17　高速散水濾床におけるBoD負荷と除去BoDの関係



図－６－１８　最後沈澱池におけるＳＳ除去率と滞留時間の関係
散　水　濾　床

ii） 活性汚泥法の場合

汚性汚泥法における処理機能は，エアレーションタンクと最後沈澱池の組合せによってのみ考えることができる。この場合処理機能（除去率）に影響を与える因子は非常に多く，設計条件として与えられるものは，両者の形状，滞留時間，最後沈澱池における水面積負荷あるいは越流負荷などであり，操作条件としては，エアレーションタンクにおける空気量，返送汚泥量，（MLSS濃度）あるいは，流入水のＢＯＤ負荷量などがある。

今回の調査においては，活性汚泥法の場合の除去率は非常に良好であり，除去率と滞留時間，あるいは，空気吹込み量，返送汚泥量等との間の関係は，ほとんどみられなかった。

したがって，ここでは，流入ＢＯＤ負荷量（ＭＬＳＳ当り）と，除去効率についての考察を行なうこととする。

図－６－１９及び図－６－２０に，ＢＯＤ負荷（ＭＬＳＳ当り）と除去ＢＯＤ（ＭＬＳＳ当）との関係を示した。

活性汚泥法による処理を行なう場合，ＢＯＤ負荷をどのように与えるかが，処理の効率を定める大きな要因の一つとなる。エアレーションタンクに与えられるＢＯＤ負荷の大きさによって，活性汚泥法は，以下の変法にわけられるわけである。

	標準法	モデファイドエアレーション	ステップエアレーション
負荷 BOD（kg／SS100kg／日）	20～40	120	20～40
BOD除去率（%）	95	70	95

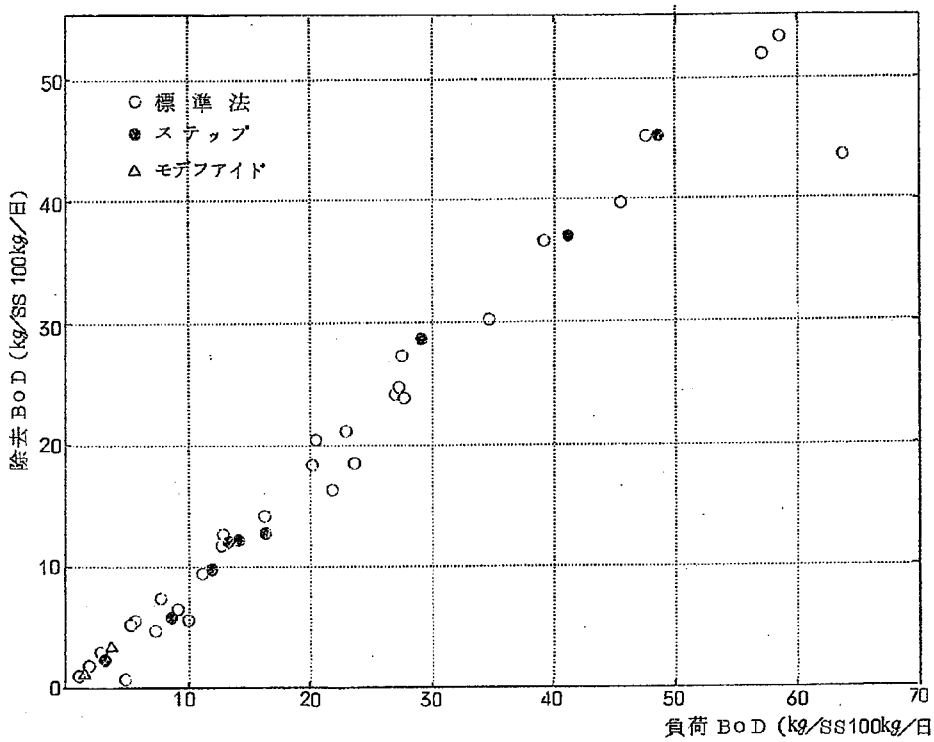
図－６－１９ないし図－６－２０にみられるように実際処理におけるＢＯＤ負荷は，3～545 Kg／ＳＳ１００Kg／日まで非常に広範囲にわたっていることがわかる。図中で，標準法モデファイドエアレーション変法，ステープエアレーション変法とに分類してあるのは，各下水処理場からの回答をそのまゝ採用してまとめたものであり実際の負荷量は，その範囲を越えているものがかなりみられる。ＢＯＤ負荷が４０Kg／ＳＳ１００Kg／日 以下で運転され一応標準法あるいはステップエアレーション変法の範囲と考えられるものが６０％あり，他の４０％は，この範囲を越えた高負荷運転が行なわれていることがわかる。

しかしながらＢＯＤの除去率は全般的には良好であると云う回答があった。ＢＯＤ負荷４０Kg／ＳＳ１００Kg／日 の場合で除去ＢＯＤは３６Kg／ＳＳ１００Kg／日 程度で９０％以上の除去率が得られており，ＢＯＤ負荷が１００Kg／ＳＳ１００Kg／日 を越える場合においても８５％以上の除去率が得られている場合が多い。ＢＯＤ負荷が３００Kg／ＳＳ１００Kg／日 を越えるものは住宅団地の下水処理場であった。

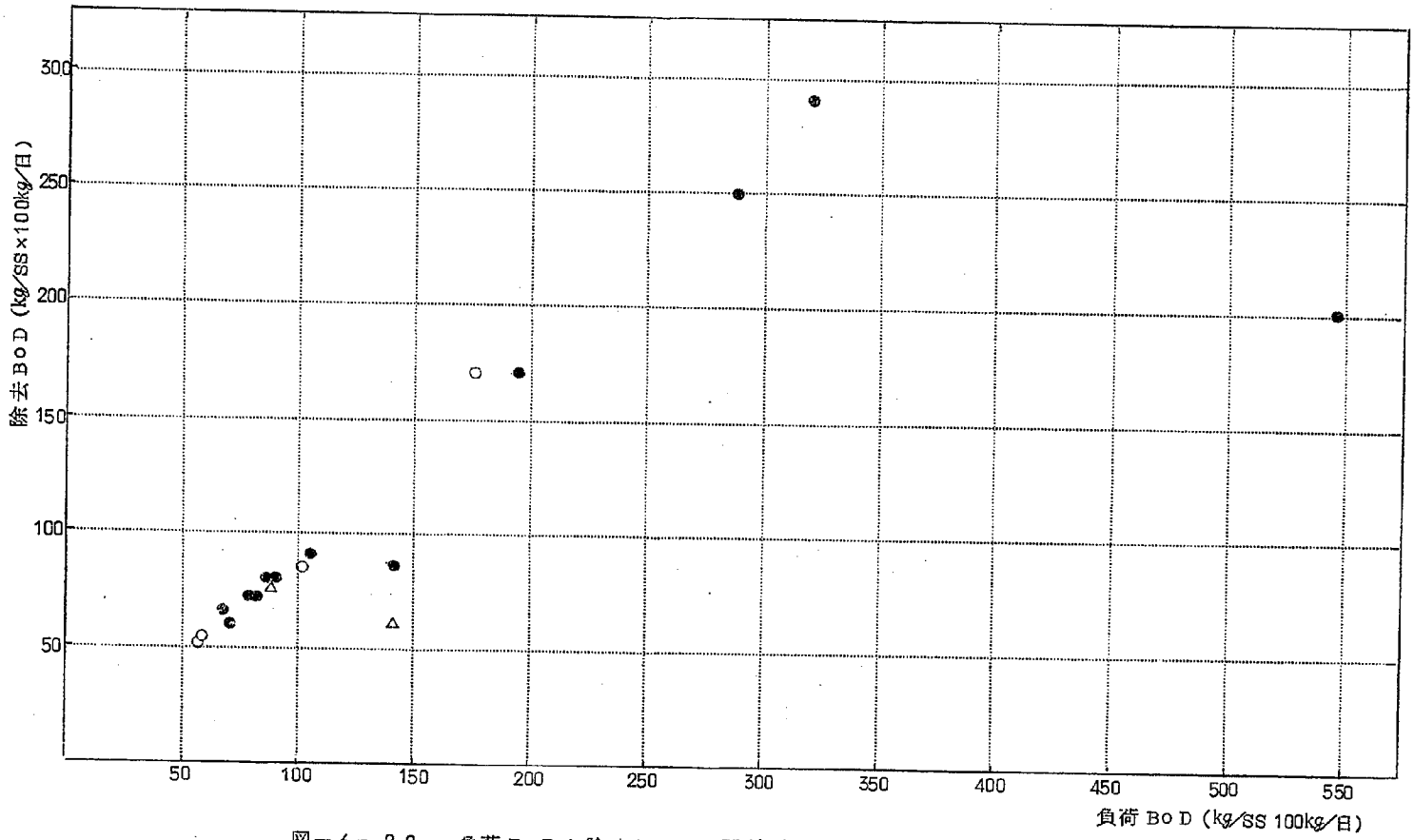
図－６－２１は最後沈澱池における，ＳＳ除去率と滞留時間の関係を示したものである。滞留時間は１～６時間までの広い範囲が採用されていることがわかった。

全般的にはＳＳ除去率は良好であり，標準とされている沈澱時間２～2.5時間の範囲ではＳＳ除

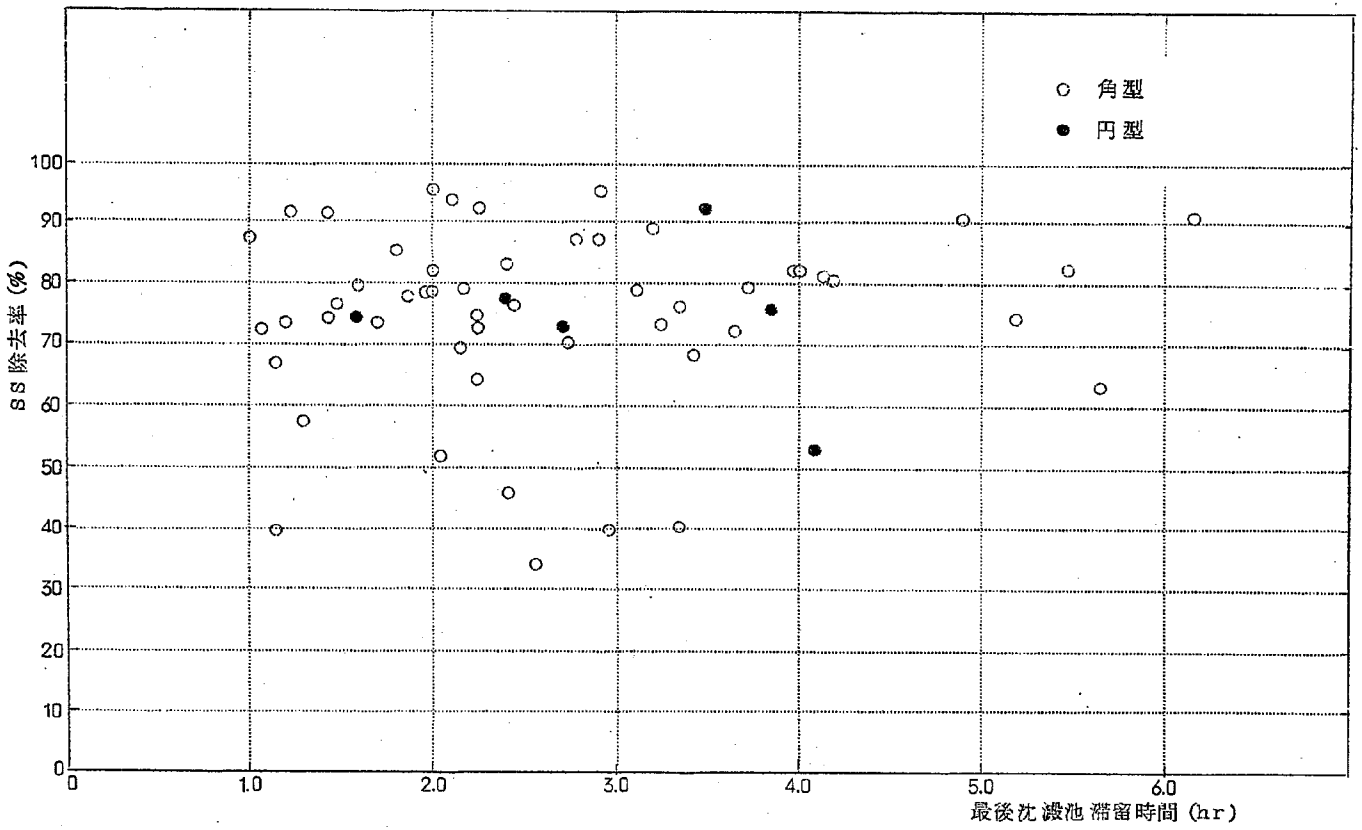
去率が８０％程度期待できるが，同図にみられるように，１時間程度の沈殿時間でも同程度の効果が期待できる場合も見受けられている。



図－６－１９　負荷ＢＯＤと除去ＢＯＤの関係



図－６－２０　負荷ＢｏＤと除去ＢｏＤの関係（変法の領域）



図－６－２１　最後沈澱池におけるＳＳ除去率と滞留時間の関係
活性汚泥法

§7. むすび

ここまでに，わが国における下水処理場について，アンケートの回答結果を中心に，種々の問題をとりあげてきた。ここで現況の下水処理場の技術的な問題点と，今後の解決すべき方向についてまとめてみた。

① 下水処理場の集約化

現在，我が国における下水処理場の３０％までは，計画人口３万人以下の小規模処理場である。小規模な下水処理場は，建設費，維持管理費とも大規模な下水処理場に比較して著しく不利である。たとえば活性汚泥法の場合，計画人口１万人の下水処理場では１人当りの建設費（下水処理場施設分）が3,２００円要しているのに対し，１０万人では1,８００円／人，１００万人では1,４００円／人となり，大規模なるが故の経済性が顕著にみられる。散水沪床法の場合でも計画人口１万人の下水処理場で１人当りの建設費が3,４００円に対し１０万人になると６８０円／人とその差はさらに大きい。一方，維持管理費についても同様であり，１m^3当りの維持管理費をみると，１万m^3／日の下水処理場では，活性汚泥法の場合で8.２円／m^3，１０万m^3／日で3.３円／m^3 １００万m^3／日の大処理場では1.８円／m^3とその差は著しい。高速散水沪床法の場合にも同様で１万m^3／日の処理を行なう下水処理場では7.７円／m^3，１０万m^3／日では2.５円／m^3となっている。

一方，処理の水質に大きく影響を与える流入水質の負荷の変動も小規模な処理場ほど大きく，良好な処理水質を得るためには，大処理場に比して，施設の設計容量に余裕を見る必要がある。そして運転操作あるいは小規模であるため維持管理も不十分になり易いため，不経済となるのは明らかである。

このため，下水道の目的の一つである水質保全の面からみても，処理場を集約化して，大規模な処理場による集中処理を行なうことが必要であろう。

② 工場排水の受入れ

下水道で工場排水を受入れたうえ家庭下水と共同処理を行なうことは公共水域の水質汚濁防止と建設費，維持管理費とのいわゆる経済性の双方から有利な方法である。

現に３０％以上の下水処理場で流入量の多少，水質などによらず，家庭下水との共合処理を行なっているわけであるが，現状では，大部分の下水処理場が，これに対して十分な考慮と対策を持っているとは考えられない面がある。

工場排水の混入が，下水処理に対して大きな影響を与えることは明らかであり，これによる処理水質の低下という問題を生じさせないためにも，設計計画時における十分な調査が必要であり，維持管理に十分な注意を払うこと，あるいは必要な場合は，施設の拡張も考慮する必要がある。

③ 処理方法の決定

現在の処理方法採用の傾向は，活性汚泥法が圧倒的に多く，下水処理法 equal 活性汚泥法で

ある様な印象さえをうける。これは，活性汚泥法が比較的狭い用地面積でかなり良好な処理水質を期待できること，比較的施設全体を清潔に保てることなどからその採用を行なった下水処理場が多いことを物語っている。しかしながら実際のところ，活性汚泥自体は，デリケートなものであり，その管理操作には熟練した技術を必要とする。したがってこの様な意味においては，活性汚泥法が不適当である場合もあるわけであり，運転操作の比較的容易な標準散水沪床法についても可能な限り活用させる必要があろう。

④ 設計汚水量については，現在よりも多めにとることが現在の状況から判断して必要である。

⑤ 下水処理場の設計は，流入下水量を中心にして行なわれてきたが，今後は水質を加味して行なう必要がある。そのための指標としては流入負荷量（ＢＯＤ，ＳＳ）を用いるのがよい。

⑥ 流入下水の変動も下水量のみで考えるのは不十分であり，ＢＯＤ負荷あるいはＳＳ負荷量で考える必要がある。

また，流入負荷量の変動の現況から判断して沈砂池以降の施設も日平均汚水量で設計するのは不適当であり，日最大量あるいは，これにできるだけ近い値で設計することが，将来のために必要である。

⑦ 流入家庭下水の人口当量は，ＢＯＤ負荷当量＝３９.５g／人／日，ＳＳ負荷量＝４１.８g／人／日，１人当り排水量＝２６３ℓ／日として現在の流入負荷量を把握したが，こうした値を各種の工場排水について調査しておく必要があろう。

⑧ 現況の処理施設の機能は，今回の採水調査から判断する限りにおいては，全般的に良好であった。

しかしながら，こうした１回だけの調査で判断を下すことは，誤りを招く恐れがあり，種々の技術的問題とあわせて，詳細な調査を数多く行なう必要があろう。

⑨ 放流水域の水質と処理水質の関係については，今回の資料のみからは，判断が下せないが，放流水域の水質が処理水質より悪い場合が多く一般的には，放流水域の水質の保全に対して，まだ下水道の整備が不十分であることが示された。綜合的な計画の必要性たとえば流域下水道の建設が強く望まれる。

⑩ ⑧の項でのべたように，多くの技術的問題に対する解答は，今回の調査のみでは得ることができなかった。今後も種々の面からの調査を充分に行なって現在の処理施設の機能に関する技術的問題を検討する必要がある。

付表－1　調査対象とした

下水処理場名	都市名	共用開始年月	計画処理面積（ha）	計画処理人口（千人）	現在排水人口（千人）	計画日平均処理量（千m³）	現在日平均処理量（千m³）	現在廃水量計画現在(千m³)
創成川	札幌	42. 4	700	140	59	45	45	—
野津幌川	〃	41. 9	62.39	15	6	3	1.2	—
真駒内	〃	36. 4 37. 4	184.6	25	17.5	3.5	3.6	—
亀吉	旭川	39.11 42. 4	455.3	102	43.6	30	20.9	—
小泉	北見	38.11	1842	54	42	15.39	9.66	—
蘭西	室蘭	39. 4 40. 4	108.7	57.6	17.03	13.68	6.37	—
東部	帯広	42. 7 40. 1	215.7	48	16.69	10.8	10.8	—
南部	〃	43. 1	103.6	10	0.52	2.2	0.37	—
浜町	苫小牧	34.	217	45.2	28	11.3	6.83	—
大麻	大麻団地	40.12	207.5	27	7.80	5.34	1.25	—
中川原終末	盛岡	40. 4 41. 6	674.9	116.1	41.40	26.68	26.68	—
観武台終末	〃	41. 7	24.65	3.4	2.39	0.833	0.83	—
南蒲生	仙台	38. 9 41. 4	4277	493.5	224.5	190	100	流入
宮町終末	山形	40.11	255.2	77.4	59.4	20.89	5.25	110
田川	宇都宮	40. 8	218.6	46.	42.8	11.84	11.84	—
中宮祠	日光	39.10	45.3	3	1.8	1.89	0.82	—
湯元	日光	41. 6	27.6	1.05	0.4	1.36	0.68	—
前橋市	前橋	39. 4 40. 1	954.5	120	43.8	31.21	13.60	—
城南	高崎	32.	808	136.6	44.58	41.72	27.86	—
境野	桐生	42. 6	543	93	29	22.13	11.2	—
物聞沢	伊香保	41. 9	80.87	16.1	2.35	14.18	7.2	—
領家	川口	34. 7 37. 8	1159	150	95	18.23	19.1	2.8　9.8
前ケ貫	飯能	41. 4	98.99	33	16.5	7.98	3.5	0.6
南部	大宮	41. 4	365.4	90	15.22	20.7	13	0.7
滝ノ下	川越	39.12	84.9	145	35	22.4	15	—
霞ケ関オ一	〃	40. 3	37.8	7.2	6.22	1.8	1.51	—
霞ケ関オ二	〃	42.10	18.6	4.5	0.64	1.13	0.09	—
所沢	所沢	43. 6	285	45	24	9.9	5.08	—
新所沢	〃	34. 4	106	12	18	1.2	2.49	—
砂川	〃	41. 4	20	3.5	3.5	0.82	0.64	—

下水処理場一覧　その1

排除方式	処理方式	1人当りの計画汚水量(ℓ/人)	1人当り現在流入汚水量(ℓ/人)	日平均流入水量(ppm) BOD	日平均流入水量(ppm) SS	備考
合	標準活性汚泥法	310	760	212	212	地下水混入，し尿直接投入92.5m³/日
分	〃	200	200	142	220	
〃	〃	140	486	194	202	地下水混入
合分	高速散水沪床法	300	480	131	126	
合	〃	285	230	103	122	し尿直接投入　66.8m³/日
分	高速エアレーション沈澱池	240	374	159	127	
合分	〃	280	623	25	32	地下水混入
分	標準活性汚泥法	220	712	42	90	地下水混入
合	簡易処理	250	244	109	148	
分	高速エアレーション沈澱池	200	160	258	234	
合	高速散水沪床法	240	646	105	77	かんがい用水混入 し尿直接投入　77.4m³/日
〃	〃	245	350	80	60	
〃	簡易処理	385	447	140	160	し尿直接投入　110m³/日
分	ステップエアレーション変法	270	89	105	97	
合	〃	260	277	172	233	
分	高速散水沪床法	630	455	37	41	温泉地
分	オキシデーション，デッチ	1295	1700	50	39	温泉地
合	高速エアレーション沈澱池	260	311	248	165	
合分	高速散水沪床法モデフィド・エアレーション変法	300	625		133	かんがい用水，し尿直接投入1152m³/日
合	ステップエアレーション変法	240	386	79	116	
〃	高速散水沪床法	880	3064	21	39	温泉地
〃	高速エアレーション沈澱池	120	200	80	54	工場廃水流入 し尿直接投入量110m³/日
〃	標準活性汚泥法	240	212	140	110	工場廃水流入
〃	高速エアレーション沈澱池	230	854	176	101	〃
〃	高速散水沪床法	150	429	113	90	
分	標準活性汚泥法	250	243	91	71	
〃	標準活性汚泥法	250	141	120	131	
合	高速散水沪床法	220	212	791	1198	
合分	〃	100	138	137	209	
分	高速エアレーション沈澱池	235	183	170	156	

付表－1　その2

下水処理場名	都市名	使用開始年月	計画処理面積（ha）	計画処理人口（千人）	現在排水人口（千人）	計画日平均処理量（千m³）	現在日平均処理量（千m³）	工場廃水量計画流入（千m³）
小倉	千葉	39. 4	70.1	10.16	5.8	2.13	0.35	—
大宮	〃	38. 5	55.1	7	5.9	1.34	0.61	—
習志野台	船橋	42. 2	206.7	40	19.3	12	4.66	—
高根台	〃	36. 9	63.9	15	11.84	2.97	1.61	—
常盤平	松戸	41. 3	174.5	34	32	8.56	8.4	—
袖ケ浦終末	習志野	42. 7	106.3	15	11.17	4.5	2.36	—
豊田	日野	35. 3 40. 3	129.7	23	18.37	5.75	3.51	—
鶴川	町田	42.12	109.6	21	9.82	6.3	1.33	—
多摩町	東京	42. 4	96.2	7.5	3.61	1.87	1.01	—
錦町	立川	42.10	509.5	107	49	21.4	28	流入
入江崎	川崎	36.10	1810	300	182.62	136	130	63　48
生田	〃	35. 4	59.4	11	10.64	2.2	2.2	—
上町	横須賀	41. 6	352.3	40	9	14	7	70
南部	藤沢	39. 8 41. 7	1616	205	38	67	22.3	—
住吉	甲府	37. 8	498	83	40.18	16.6	14.58	—
川合新田	長野	34.11	372	48	32	16.5	12.6	—
宮淵	松本	36.	144	22	16	21	—	—
飯田市	飯田	33.12	130	19.5	18.21	—	5.94	—
野沢温泉	下高井郡	37.12	84.65	6	1.26	1.26	0.61	—
境	福井	34. 4 37. 4	921	192	100	70	51	18　13
牛島	富山	37. 9 38. 4	277	55.4	36.33	12.75	20.04	—
四屋	高岡	40. 4	723	107	39	52	20	—
船見	新潟	42. 4	411.9	66	16.5	34.98	19	—
中部	岐阜	12. 7 28. 4	741.3	154	129.39	46.5	64.89	8.14
粟捨終末	大垣	36. 5	607.1	70.2	28.73	19	6.9	—
瑞浪	瑞浪	40. 1	95.3	15	2.5	4.5	4.5	0.09
関市	関市	42. 2	303.1	62	40.2	15.62	0.87	—
北部	岐阜	41. 7 43. 5	626	94	11.16	30.66	3.74	流入
吉原	富士	40. 4 42. 4	179.4	24	12.5	5.76	3.97	—
中部	浜松	37. 8	1279	210.7	29	125.34	—	79.8　1.2
弾生	〃	40.11	18.7	1.8	0.9	0.6	0.5	—
遠州浜	〃	41. 4	64.3	15	2	5.7	0.6	—

排除方式	処理方式	1人当り計画汚水量（ℓ／人）	1人当り現在流入汚水量（ℓ／人）	日平均流入水質(ppm) BOD	SS	備考
分	標準活性汚泥法	210	60		--	
分	高速散水沪床法	190	103			
〃	標準活性汚泥法	300	242	913	—	
〃	高速散水沪床法	200	136	213	109	
合	標準活性汚泥法 高速散水沪床法	250	263	113	217	
分	標準活性汚泥法	300	211	178	202	
〃	高速散水沪床法	250	191	192	160	
〃	標準活性汚泥法	300	135	159	154	
〃	〃	250	280	89	127	
合	〃	200	571	122	93	工場廃水
〃	〃	450	—	87	152	〃 し尿直接投入 104m³/日
分	高速エアレーション沈殿池	200	207	191	231	
合分	簡易処理	350	778	91	67	工場廃水
〃	標準活性汚泥法	330	587	758	77	
合	高速散水沪床法	275	363	47	80	
分	ステップエアレーション変法	345	394	191	153	
合	高速散水沪床法	955	—			
分	〃	300	326	138	225	
〃	〃	210	484	—	—	
合	〃	270	—	63	108	工場廃水 し尿直接投入110m³/日
〃	〃	230	552	66	61	地下水 冷房用水
〃	簡易処理	490	513	94	121	
〃	高速エアレーション沈殿池	530	1152	82	107	
分	ステップエアレーション変法	300	502	116	101	工場廃水 し尿直接投入21.6m³/日
〃	簡易処理	270	240	93	52	〃 47.0
〃	標準活性汚泥法	300	180	258	171	工場廃水 〃 15.0
〃	〃	325	216	—	—	
〃	ステップエアレーション変法	325	335	147	172	工場廃水
〃	高速エアレーション沈殿池	240	318	42	81	
合	ステップエアレーション変法	220	—	35	121	工場廃水
分	標準活性汚泥法	330	556	84	87	
〃	〃	380	300	109	108	

付表－1　その3

下水処理場名	都市名	供用開始年月	計画処理面積（ha）	計画処理人口（千人）	現在排水人口（千人）	計画日平均処理量（千m³）	現在日平均処理量（千m³）	工場廃水量計画現在（千m³）
高松	静岡	35.11	658	200	94	103.2	77.4	—
錦ケ浦	熱海	40. 8	212.6	30	13.2	24	7.44	—
藤岡団地	藤枝	40. 8	33.18	5.2	2.95	1.04		—
袋井	袋井	40.12	9.3	1.7	0.23	0.37	0.04	—
徳倉住宅団地	清水町	41. 4	16.1	4	1.8	0.8	0.39	—
野田	豊橋	10. 8	531.7	160	62.54	37.2	37.19	—
羽根井		34.	321.4	50	38.47	22.8	16.70	—
衛生センター	岡崎	37. 7	403	64	58	12.8	15.5	0.053
東部終末	一宮	34.	219	36	29	38	30.31	22　21
西部終末		39. 2	260	44	32	51	27.28	25　22
牛田	知立町	41.10	54	10	8.01	2.3	1.17	—
高蔵寺終末	春日井	43. 5	702	68	4.03	27.75	0.77	—
日永	四日市	41. 7	183.8	53.12	26.16	11.15	11.15	—
高花平	〃	37. 4	33.3	6	4.38	1.8	1.8	—
朝明	〃	41. 5	42.3	6	1.29	1.56	1.56	—
福知山	福知山	42. 4	125	20	8	6.3	7.45	流入
磯の上	岸和田	41.	625.1	75	20.2	38.5	10	—
三宝	堺	40. 3	738.3	200	55	77.9	77.9	—
津久野	〃	37. 8	71	12.8	11	1.47	1.47	—
守口	守口	41. 4	232	70	70	25.9	25.9	—
香里	枚方	32. 6	151.2	30	25.4	6.9	5.7	—
原田	豊中	41. 4	1200.6	211	78.2	62.3	31.15	—
神田浄園	池田	38. 4	746.5	100	1.32	35	6.8	—
正雀	吹田	38. 8 39. 4	787	102	61.97	30.53	11.65	—
尾上	加古川	42. 6	257.4	45	32	10.7	9.3	—
東宮町	高砂	40.11	76	50.5	12.5	11.61	7.5	—
東部	尼崎	38. 4 42. 8	807.2	227.22	160	82.43	82.43	12　10
東	兵庫	42. 3	26.6	9.6	5.82	2.68	1.52	—
西舞子	〃	39.10	18.14	3.4	3.4	0.95	0.96	—
大安寺	奈良	40.11	654.7	100	16	21	8.47	3　1
富雄	〃	41. 4	680	40	12.76	10	1.9	—
川面	吹田	40. 7	231.4	70.19	23.66	36.64	12.21	8.64　0

排除方式	処理方式	1人当り計画汚水量（ℓ／人）	1人当り現在流入汚水量（ℓ／人）	日平均流入水質(ppm) BOD	SS	備考
合	簡易処理	350	—	37	43	工場廃水
分	高速エアレーション沈澱池	800	564	94	145	温泉地
分	〃	200	—	28	59	
〃	〃	220	174	218	326	
〃	〃	200	217	88	80	
合	標準活性汚泥法	450	814	157	210	
〃	高速散水沪床法	450	434	122	138	
〃	〃	200	267	118	124	工場廃水 し尿直接投入 16.8m³/日
〃	〃	450	—	91	117	〃
〃	簡易処理	580	—	75	80	〃
分	〃	230	146	126	72.4	
〃	〃	410	191	145	152	
合	高速散水沪床法	210	426	78	101	計画区域外より流入
分	〃	300	411	139	103	
〃	標準活性汚泥法	260	1209	144	106	地下水
合	高速エアレーション沈澱池	315	931	131	378	し尿直接投入 32.4m³/日
〃	ステップエアレーション変法	280	—	55	157	
〃	〃	270	—	164	568	
合分	高速散水沪床法	115	137	103	94	
合	高速エアレーション沈澱池 高速散水沪床法	370	370	223	432	し尿直接投入 54.0m³/日
分	高速散水沪床法	230	224	139	135	
合分	ステップエアレーション変法	300	398	210	150	
合	〃	350	5,152	98	988	計画区域外より流入 し尿直接流入 9.0m³/日
分	〃	300	188	206	218	〃 56.0m³/日
合分	〃	240	291	49	69	
合	高速エアレーション沈澱池	230	600	63	74	地下水
〃	標準活性汚泥法	270	—	216	136	工場廃水 し尿直接投入 300m³/日
分	〃	280	261	207	170	
〃	〃	280	282	194	166	
合	高速散水沪床法	180	—	147	93	工場廃水 し尿直接投入 207m³/日
合分	標準活性汚泥法	250	149	115	100	
合	簡易処理	210	—	133	59	

付表－1　その4

下水処理場名	都市名	供用開始年月	計画処理面積（ha）	計画処理人口（千人）	現在排水人口（千人）	計画日平均処理量（千m³）	現在日平均処理量（千m³）	工場廃水量 計画	工場廃水量 現在（千m³）
新姫路	姫路	42. 4	925	112	56	32.6	22.87	21.7	5.6
旧姫路	〃	33. 4				13.4	6.94	—	
飾磨	〃	37. 4	187	37	16	8	8.17	—	
網千	〃	39. 4	244	18	2	36	1.89	—	
旭西	岡山	38. 1 40. 5	811.2	165	76.4	60	73.16	0	14.53
高島	〃	41. 6	35	7	2	1.15	1.18	—	
倉敷	倉敷	35. 6 42. 4	135	33	26	7.92	8.4	—	
千田	広島	36. 4	463	100	82.5	35	33.9	—	
新浜	福山	41.11	311.1	70.3	39.9	38.3	31	23.5	21
徳山終末	徳山	41.10	571	75	23	12.5	18	—	
居能	宇部	36. 4	250.3	66	27	15.18	7.59	—	
芝中沖	〃	39. 4	682.3	124	38	28.52	14.26	—	
筋ケ浜	下関	40.11	524.8	100	24.3	24.5	7.8	1.23	0.17
仙崎	長門	42. 8	52.6	4.83	3.6	3.55	1.63	0.92	0.45
俵山湯町	〃	37. 8	4.36	2.5	1.2	0.45	0.45	—	
長谷	小郡	42. 9	60.45	26	3	6.41	3.75	—	
中央	徳島	38.10	602.2	150	47.5	37.8	17.34	—	
松山	松山	37. 7	846	157	57.4	43.28	35	0	5
福岡	高松	39. 4 40. 4	915	140	98	45	45	8	7
中部	福岡	41. 7	2346	370	115	200	58	—	
爾永	〃	42.11	35	8	1.5	2.57	0.98	—	
茂里町	長崎	36.12 39. 9	706	20.14	26.7	9.1	11.	—	
千尽	佐世保	36. 9	666.8	152.7	46.7	32.06	8.11	—	
蓮台寺	熊本	43. 1	1288	205.8	42	61.74	12.6	—	
山田終末	別府	33.12	235.4	24.4	16.2	11	3.63	—	
錦江	鹿児島	30.11	850	160	120	38.4	22	—	
芝浦	東京	6.	6328	1030	1355.3	816	615	53	
三河島	〃	T12	3936	1120	618.3	416	298	42	
砂町	〃	5 34.	3977	840	353.6	504	275	67	
小台	〃	37.	3519	770	496.7	336	286	55	
落合	〃	39.	6151	1230	505.4	360	180	4	
森ケ崎	〃	42.	12,370	2320	30.2	848	32	6	

排除方式	処理方式	1人当り計画汚水量（ℓ／人）	1人当り現在流入汚水量（ℓ／人）	日平均流入水質(ppm) BOD	SS	備考
合	高速エアレーション沈澱池			193	283	工場廃水　し尿直接投入54.8m³/日
〃	標準活性汚泥法					
〃	〃	210	511	63	129	海水
〃	〃	2000	945	54	396	〃
〃	モデファイド・エアレーション変法	364	958	172	136	工場廃水　し尿直接投入228m³/日
分	標準活性汚泥法	164	590	160	153	地下水
合	高速エアレーション沈澱池	240	323	37	22	かんがい用水，冷房用水 し尿直接投入　91.4m³/日
〃	簡易処理	350	411	89	186	
〃	高速エアレーション沈澱池	200		110	159	工場廃水
〃	標準活性汚泥法	170	783	67	254	
〃	〃	230	281	96	170	
〃	〃	230	375	146	135	
分	高速散水沪床法	230	—	126	144	工場廃水
合	高速エアレーション沈澱池	550	—	359	135	〃
分	〃	180	375	91	90	
合	高速散水沪床法	250	1250	32	42	地表水
〃	〃	250	365	78	38	
〃	〃	280	610	48	91	工場廃水
〃	高速エアレーション沈澱池	270	—	180	520	工場廃水
〃	標準活性汚泥法	540	504	117	436	
分	〃	320	653	126	161	
〃	〃	450	412	149	75	
〃	高速散水沪床法	210	174	99	79	
合	簡易処理	300	300	30	105	
分	高速散水沪床法	450	224	19	43	温泉地
〃	ステップエアレーション変法	240	183	159	223	工場廃水
合	ステップエアレーション変法 高速エアレーション沈澱池	790	454	183	372	〃
〃	ステップエアレーション変法	370	482	112	89	〃
〃	〃	600	778	268	794	〃
〃	〃	435	576	386	856	〃　し尿直接投入　600m³/日
〃	〃	300	356	141	87	〃
〃	〃	360	1060	96	185	〃

付表－1　その5

下水処理場名	都市名	供用開始年月	計画処理面積（ha）	計画処理人口（千人）	現在排水人口（千人）	計画日平均処理量（千m³）	現在日平均処理量（千m³）	工場廃水量計画現在（千m³）
中部	横浜	37. 7	774	162	111.7	108.5	63.4	—
南部	〃	40. 7	2,851	670	69.5	268	78	—
堀留	名古屋	5. 9	1,298	312	177	140	56	流入
名城	〃	40. 4	1,197	180	149	100	60	〃
西山	〃	34. 7	98	18	12	4.05	4.05	—
熱田	〃	5. 6	536	97	57	75	21	流入
伝馬町	〃	9. 5 41.	988	178	146	80	80	〃
山崎	〃	35. 9 39. 4	1,255	236	217	120	100	〃
鳴子	〃	37. 7	67.4	10	9	1.4	1.4	—
露橋	〃	7. 3 11.	755	182	136	120	118	流入
千年	〃	39. 4 41. 4	1,181	178	143	100	80	〃
岩塚	〃	39. 4	2,287	386	297	150	100	〃
鳥羽	京都	39. 8	3,953	545.5	556.11	300	386.18	169
吉祥院	〃	9. 1 (43.3)	581	169.2	42.1	92.9	62.94	47.1
大野	大阪	42.11	1,540	385	206	172	201	122　37.61
中浜（東）	〃	35. 5	1,714	685	352	82	47.7	48　6.42
中浜（西）	〃	38.10	—	—	—	157	105.5	—
放出	〃	42.10	937	316	100.3	110.1	28	28
住吉	〃	39.12	1,724	517	238	181	69.4	25　1.72
千島	〃	38.10	587	176	69	79	53.6	36　9.4
市岡	〃	36. 4	786	265	142	119.9	92.9	59.2　4.66
海老江	〃	15. 4	1,215	546	227	273	116.99	115　60.92
津守	〃	15. 4	1,956	950	395	393	309.9	51　13.08
中部	神戸	30. 7	1,374	353	182.67	97.42	64.88	2
西部	〃	36. 4	1,200	350	44.57	133.2	33.3	—
多聞才一	〃	39. 4	12.9	3	3.15	0.82	0.82	—
多聞才二	〃	40. 6	28.5	4	3.97	1.1	1.1	—
北須磨才一	〃	42.12	41.8	5	1.21	1	1	—
滑石	長崎	40. 9	117.0	20	20.0	4.0	0.8	—
東灘	神戸	37.10	2,501	560	13.26	212.8	10.0	—
津島	津島	39.12	168.8	58.6	4.6	23.2	17.89	12.0
金剛	富田林	42.12	216	31.0	3.0	6.2	0.6	—
今福	大阪	41. 6	1,497	449	271	157	210.8	

排除方式	処理方式	1人当り計画汚水量（ℓ／人）	1人当り現在流入汚水量（ℓ／人）	日平均流入水質(ppm) BOD	SS	備考
合	標準活性汚泥法	670	568	317	555	し尿直接投入 180m³/日
〃	〃	400	1,122	77	120	〃 213m³/日
〃	〃	450	316	84	131	工場廃水 し尿直接投入 50.7m³/日
〃	〃	550	403	111	160	〃 〃 108〃
分	散水沪床法	225	338	121	119	
合	標準活性汚泥法	773	368	166	160	工場廃水 し尿直接投入 123m³/日
〃	〃	450	548	114	102	〃
〃	ステップエアレーション変法	509	461	161	338	〃 し尿直接投入 270m³/日
分	高速散水沪床法	140	156	136	148	
合	標準活性汚泥法	659	868	107	95	工場廃水 〃 157m³/日
〃	高速エアレーション沈澱池	562	559	120	142	〃
〃	簡易処理	389	337	130	142	〃
〃	ステップエアレーション	550	695	677	1,522	〃 し尿直接投入 1,031m³/日
〃	標準活性汚泥法	550	1,130	129	62	〃
〃	簡易処理	130	—	121	173	〃
〃	標準活性汚泥法	280	—	90	96	〃
〃	ステップエアレーション変法	〃		91	65	
〃	簡易処理	260	—	170	381	〃
〃	ステップエアレーション変法	300	—	112	135	〃
〃	簡易処理	245	—	94	131	〃
〃	〃	235	—	95	188	〃
〃	モデフィドエアレーション変法	290	—	163	213	〃 し尿直接投入 760m³/日
〃	〃	360	—	141	160	〃
分	ステップエアレーション変法	276	355	165	158	〃
〃	〃	381	747	299	374	
〃	長時間エアレーション法	273	260	136	108	
〃	〃	275	277	125	—	
〃	〃	200	826	161	145	
〃	標準活性汚泥法	200	44	178	170	
合分	〃	380	750	130	356	
合	高速散水沪床法	140	—	138	284	工場廃水
分	標準活性汚泥法	200	200	126	319	
合	簡易処理	350	—	118	172	工場廃水

付表－2　下水処理場放流水と放流先の現況一覧　その1

下水処理場	都市名	排除方式	現在日平均処理量	処理水平均BOD	放流先	放流河川流量 平水	放流河川流量 渇水	放流先BOD
			(千m³/日)			(千m³/日)	(千m³/日)	(ppm)
創成川	札幌	合	4.5	17	創成川		75	35
野津幌川	〃	分	1.2	11.0	野津幌川	68.1		2.8
真駒内	〃	〃	3.6	12.7	真駒内川	181.2		1.6
亀・吉	旭川	合分	20.9	57.0	石狩川	6,650		11.0
小泉	北見	合	9.66	42.1	常呂川	1,393	597	12.0
蘭西	室蘭	分	6.37	9.9	内浦湾			
東部	帯広	合分	10.8	15.5	旧帯広川	2.85		1.6
南部	〃	分	0.37	3.0	売買川	1.12		0.5
浜町	苫小牧	合	6.83	63	苫小牧川	129	43.2	220
大麻	大麻団地	分	1.25	20	野津幌川	121	43.2	2.5
中川原終末	盛岡	合	26.68	30.7	北上川	5,660	1,290	1.7
観武台終末	〃	〃	0.83	37.6	小諸葛川	25.9	5.2	3.5
南蒲生	仙台	〃	100	75.9	仙台湾			
宮町終末	山形	分	5.25	98	鳴堰幹線排水路	156	7.8	316.1
田川	宇都宮	合	11.84	16.7	田川	1,120	690	12
中宮祠	日光	分	0.82	11.8	大谷川	43.3		9.36
湯元	〃	分	0.68	14.7	湯の湖			4.27
前橋市	前橋	合	13.60	28.8	利根川	10,400	6,920	2.7
城南	高崎	合分	27.86	27.7	鳥川	656.64	211.82	3.0
境野	桐生	合	11.2	15.0	渡良瀬川	865	389	
物渇沢	伊香保	〃	7.2	5.88	沼尾川	115		
領家	川口	〃	19.1	16.0	芝川	690		43.0
前ケ貫	飯能	〃	3.5	13.1	成木川		34.6	3.0
南部	大宮	〃	13.0	17.0	芝川	174	158	39.0
滝ノ下	川越	〃	15.0	20.8	新河岸川	50.1	39.0	14.0
霞ケ関才一	〃	分	1.51	5.6	小畔川	51.9	17.3	2.9
〃 才二	〃	〃	0.09	5.7	入間川	0.8	17.3	34.6
所沢	所沢	合	5.08	59	東川		43.2	28.0
新所沢	〃	合分	2.49	89	東川		43.2	28.0
砂川	〃	分	0.64	38	東川		43.2	28.0
小倉	千葉	〃	0.35	32.8	都川	173	86.4	10.0
大宮	〃	〃	0.61	33.6	〃	173	86.4	10.0
習志野台	船橋	〃	4.66	42.8	後川			1.20
高根台	〃	〃	1.61	30.67	桑納川			18.6
常盤平	松戸	合	8.4	16.6	放流水が本流			

付表－2　その2

下水処理場	都市名	排除方式	現在日平均処理量	処理水平均BOD	放流先	牧流河川流量 平水	牧流河川流量 渇水	放流先BOD
			(千m³)			(千m³/日)	(千m³/日)	(ppm)
袖ケ浦終末	習志野	分	2.36	9.3	東京湾			3.5
豊田	日野	〃	3.51	29.7	浅川	191	86.4	4.1
鶴川	町田	〃	1.33	3.11	鶴見川		67.5	2.7
多摩町	東京	〃	1.01	3.9	大栗川	13.8	6.9	5.48
錦町	立川	合	28.0	13.7	多摩川	680	368	5.47
入江崎	川崎	〃	130.0	12.0	(入江)			
生田	〃	分	2.2	25.7	五反田川	6.5		5.0
上町	横須賀	合分	7.0	69.8	平作川	346	28.5	70
南部	藤沢	〃	22.3	6.9	相模湾			
住吉	甲府	合	14.58	15.6	濁川	840		
川合新田	長野	分	12.6	20.1	犀川	140.0	60.0	0.99
宮淵	松本	合	—		奈良井川	150.0	50.0	20.0
飯田市	飯田	分	5.94	59.81	天竜川	3,890		4.0
野沢温泉	下高井郡	分	0.61	5.1	湯沢川	42.4		
境	福井	合	51	27.7	日野川	2,420	485	1.8
牛島	富山	〃	20.04	28.1	いたち川	1,040		10.1
四屋	高岡	〃	20	75.8	小矢部川			
船見	新潟	〃	19	17.0	旧信濃川	32,800	22,200	8.54
中部	岐阜	分	64.89	16.6	荒田川	155		11.2
築捨終末	大垣	〃	6.9	81.1	水門川	605	520	55.1
瑞浪	瑞浪	〃	4.5	22.8	土岐川	259	77.9	1.8
関市	関市	〃	0.87	45.5	津保川	3,810		1.2
北部	岐阜	〃	3.74	8.7	伊自良川	815		1.33
吉原	富士	〃	3.97	88	和田川	2,940	68.4	131.6
中部	浜松	合	—	23	馬込川	1,080	605	8.5
彌生	〃	分	0.5	7	新川	104	63.5	4
遠州浜	〃	〃	0.6	19	馬込川	1,360	725	35
高松	静岡	合	77.4	33.3	浜川	405	136	7.69
錦ケ浦	熱海	分	7.44	6.9	相模湾			4.14
藤岡団地	藤枝	〃		17.4	葉梨川	146	43.2	30
袋井	袋井	〃	0.04	49.1	蜂尻川	1.75	0.86	0.7
徳倉住宅団地	清水町	〃	0.39	17.2	狩野川	8,00	1,730	355
野田	豊橋	合	37.19	4.17	豊川	2,300	103	20.0
羽根井	〃	〃	16.70	50.8	柳生川運河	1,345	21	36.8～99.7
衛生センター	岡崎	〃	15.5	20.9	乙川	250	60.5	13.6

付表－2　その3

下水処理場	都市名	排除方式	現在日平均処理量	処理水平均BOD	放流先	放流河川流量 平水	放流河川流量 渇水	放流先BOD
			(千m³/日)			(千m³/日)	(千m³/日)	(ppm)
東部終末	一宮	合	30.31	12.24	青木川	650	450	9
西部終末	〃	〃	27.28	41.9	日光川	4,000	3,000	68
津島	津島	〃	17.89	91	〃	4,000	3,000	68
牛田	知立町	分	117	45.0	猿渡川			
高蔵寺終末	春日井	〃	0.77	7.76	綿田川			5.25
日永	四日市	合	11.15	32.23	鹿化川			5.8
高花平	〃	分	1.8	32.28	稲田川			0.8
朝明	〃	〃	1.56	7.0	札場川			1.6
福知山	福知山	合	7.45	3.31	和久川	55.2	19.0	16.0
磯の上	岸和田		10.0	16.9	天の川			35.0
三宝	堺	合	77.9	14.9	大和川			
津久野	〃	合分	1.47	39.3	百済川	75.1		20
守口	守口	合	25.9	59.3	西三荘排水路	422	86.4	87.35
香里	枚方	分	5.7	56.77	藤田川		8.64	
原田	豊中	合分	31.15	18.2	猪名川	3,450		5.5
神田浄園	池田	合	6.8	15.49	〃			25～30
正雀	吹田	分	11.65	16.23	正雀川	1.2		20.49
尾上	加古川	合分	9.3	8.5	泊川	620	24.2	4.97
東宮町	高砂	合	7.5	10.3				4.3
東部	尼崎	〃	82.43	20	左門殿川	865		70
東	兵庫	分	1.52	22	山田川			9.4
西舞子	〃	〃	0.96	92	〃			9.4
大安寺	奈良	合	8.47	65	菰川			5.8
富雄	〃	合分	1.9	23.6	富雄川			2.8
川面	吹田	合	12.21	131.9	神崎川			38.21
新姫路	姫路	〃	22.87	112.2	船場川	43.2		8.9
旧姫路	〃	〃	6.94	—	〃	43.2		8.9
飾磨	〃	〃	8.17	4.7	瀬戸内海			
網干	〃	〃	1.89	2.9	〃			
旭西	岡山	〃	73.16	26.66	旭川	4,492	1,382	5.8
高島	〃	分	1.18	10.87	百間川	242		5.0
倉敷	倉敷	合	8.4	34.1	広瀬川	354	112	4.0
千田	広島	〃	33.9	68.4	京橋川	630	182	1.42
新浜	福山	〃	31.0	68.1	福山港			3.00
徳山終末	徳山	〃	18.0	53.1	徳山湾			6.3

付表－2　その4

下水処理場	都市名	排除方式	現在日平均処理量	処理水平均BOD	放流先	放流河川流量 平水	放流河川流量 渇水	放流先BOD
			(千m³/日)	(ppm)		(千m³/日)	(千m³/日)	(ppm)
居能	宇部	合	7.59	17.1	厚東川			
芝中沖	〃	〃	14.26	21.7	周防灘			
筋ケ浜	下関	分	7.8	49.7	日本海			
仙崎	長門	合	1.63	30.0	深川湾			
俵山湯町	〃	分	0.45	46.4	安田川	43.2		2.0
長谷	小郡	合	3.75	21.6	新川排水路	12.0	50	8.2
中央	徳島	〃	17.34	24.99	御座船川			27.42
松山	松山	〃	35.0	31	宮前川	52		10
福岡	高松	〃	45.0	15.6	諸田川			155
中部	福岡	〃	58.0	15.6	博多湾			
彌永	〃	分	0.98	6.54				
茂里町	長崎	〃	11.0	8.3	浦上川	496		24.2
滑石	〃	〃	0.81	7.5	〃	302		12.0
干尽	佐世保	〃	8.11	19.2	佐世保湾			
題台寺	熊本	合	12.6	19.07	白川	1,450	518	7.8
山田終末	別府	分	3.63	11.6	朝見川	210	84.5	2.5
錦江	鹿児島	〃	22.0	15.8	甲突川	1,470		22
芝浦	東京	合	615	12.0	高浜運河			
三河島	〃	〃	298	14.0	荒川			
砂町	〃	〃	275	13.0	東京湾			
小台	〃	〃	286	26.0	荒川			
落合	〃	〃	180	15.0	神田川			
森ケ崎	〃	〃	32	9	東京湾			
中部	横浜	〃	63.4	18.1	横浜湾			6.6
南部	〃	〃	78	6.2	〃			7.4
堀留	名古屋	〃	56	12.5	新堀川			43
名城	〃	〃	60	30.6	黒川			36
西山	〃	分	4.05	60.1	植田川	77.6		25
熱田	〃	合	21	14.8	新堀川	77.6		53
伝馬町	〃	〃	80	12.0	〃	77.6		54
山崎	〃	〃	100	19	山崎川	21.6		26
鳴子	〃	分	1.4	51	藤川			
露橋	〃	合	118	10.8	堀川	17.3		17
千年	〃	〃	80	18.3	〃	268		27.0
岩塚	〃	〃	100	110.0	庄内川	700		14.0

付表－2　その5

下水処理場	都市名	排除方式	現在日平均処理量	処理水平均BOD	放水先	放流河川流量 平水	放流河川流量 渇水	放流先BOD
			(千/m³日)	(ppm)		(千m³/日)	(千m³/日)	(ppm)
鳥羽	京都	合	386.18	34.7	西高瀬川			58.8
吉祥院	〃	〃	62.94	61.3	〃			103.0
大野	大阪	〃	201	80.7	神崎川	605		
中浜(東)	〃	〃	47.7	29.6	平野川	1,040		70.0
中浜(西)	〃	〃	105.5	77.1	寸二寝屋川	430		82.0
放出	〃	〃	28.0	92.3	平野川分水路	345		
住吉	〃	〃	69.4	15.0	住吉川	43.5		
千島	〃	〃	53.6	51.4	木津川	259		13.2
市岡	〃	〃	92.9	58.2	尻無川	2,590		
海老江	〃	〃	116.99	63.9	中津川	779		
津守	〃	〃	309.9	73.6	木津川	2,590		
中部	神戸	分	64.88	13.3	兵庫運河			
西部	〃	〃	33.3	28.0	大阪湾			
多聞才一	〃	〃	0.82	16.8	山田川			
多聞才二	〃	〃	1.1	6.9	〃			
北須磨才一	〃	〃	1	3.64	上穂川			
東灘	〃	合分	10.0	10.3	大阪湾			

付表－3　下水処理場流入負荷当量（分流式，工場排水混入なし）　その1

下水処理場名	都市名	排除方式	現在排水人口（千人）	水洗便所使用人口（千人）	現在処理面積（ha）	晴天時日平均処理量（千m³）	調査日処理量（千m³）	調査日流入BOD負荷（t/d）	同流入SS負荷（t/d）	し尿投入又は脱離液によるBOD負荷	実質流入BOD負荷（t/d）	1人当りBOD負荷（g/d）	1人当りSS負荷（g/d）	1人当り排水量（ℓ/d）
野津幌川	札幌	分	6.0	6.0	62.4	1.2	0.74	0.121	0.185			20.2	30.8	123
真駒内	〃	〃	17.5	17.5	184.6	3.6	3.54	0.796	0.793	0.025	0.771	44.0	45.3	202
蘭西	室蘭	〃	17.0	6.3	173.8	6.38	8.06	0.649	1.084	0.09	0.640	37.6	63.5	474
帯広南	帯広	〃	0.53	0.53	11.1	0.37	0.14	0.006	0.013			11.2	24.5	264
大麻団地	江別	〃	7.8	7.8	207.5	1.25	1.54	0.455	0.432	0.002	0.453	58.1	55.4	198
中宮嗣 *	日光	〃	1.8	1.8	45.3	2.46	2.46	0.095	0.104			52.8	57.8	1,366
渓元 *	〃	〃	0.4	0.4	27.6	2.07	2.07	0.127	0.079			32.1	19.7	5,180
霞ケ関才一	所沢	〃	6.2	6.2	37.8	1.52	1.52	0.178	0.131	0.002	0.176	28.7	21.1	245
〃 才二	〃	〃	0.65	0.65	18.6	0.09	0.09	0.002	0.002					
砂川		〃	3.5	3.5	20	0.65	（計量なし）							
小倉	千葉	〃	5.8	5.8	70.1	0.36	0.50	0.070	0.077			12.1	13.2	86
大宮	〃	〃	5.9	5.9	55.2	0.614	0.723	0.086	0.161			14.6	27.3	123
習志野台	〃	〃	19.3	19.3	206.7	4.66	7.17		（計量なし）					
高根台	〃	〃	11.84	11.84	63.9	1.61	1.48	0.298	0.154			25.3	13.0	125
袖ケ浦	〃	〃	11.2	11.2	106	2.37	2.7	0.477	0.523			42.6	46.7	237
豊田	日野	〃	18.38	18.38	129.7	3.52	3.37	0.744	0.648	0.148	0.597	32.5	35.2	183
鶴川	町田	〃	9.92	9.82	109.7	1.33	1.33	0.290	0.269			29.1	27.4	136
桜ケ丘	多摩	〃	3.61	3.61	96.2	1.02	0.96	0.099	0.141			27.7	39.1	266
生田	川崎	〃	10.65	10.65	59.4	2.2	1.86	0.345	0.400	0.018	0.327	30.7	37.5	1,374
川合新田		〃	32.0	32.0	283	12.6	10.21	2.263	1.804	0.041	2.222	69.8	56.3	319
飯田	飯田	〃	18.2	13.1	145.7	5.94	6.98	0.964	1.581	0.004	0.960	34.4	86.8	383
野沢温泉	野沢	〃	1.26	1.26	39.4	0.618	（計量なし）							

付表－3　その2

下水処理場名	都市名	排除方式	現在排水人口（千人）	水洗便所使用人口（千人）	現在処理面積（ha）	晴天時日平均処理量（千m³）	調査日処理量（千m³）	調査日流入BOD負荷（t/d）	同流入SS負荷（t/d）	し尿投入又は脱離液によるBOD負荷（t/d）	実質BOD負荷（t/d）	1人当りBOD負荷（g/d）	1人当りSS負荷（g/d）	1人当り排水量（ℓ/d）
粟捨	大垣	分	28.73	28.73	141.1	6.9	13.12	1.235	0.678	0.186	1.049	36.5	23.6	456
関		〃	4.03	4.03	83.7	0.85	（計量なし）							
北部	岐阜	〃	11.16	11.02	16.4	3.75	3.01	0.445	0.513			39.8	45.9	269
吉原	富士	〃	12.5	6.68	96.6	3.97	3.67	0.150	0.296	0.113	0.037	29.6	23.7	294
彌生	浜松	〃	0.9	0.9	18.7	0.5	0.51	0.048	0.047			53.2	52.2	568
遠州浜	〃	〃	2.0	2.0	20	0.6	0.69	0.084	0.101			42.0	51.0	345
錦ケ浦 *	熱海	〃	13.2	8.8	52.4	7.44	8.7	1.175	1.442			89.0	109	670
藤枝	藤枝	〃	2.95	2.95	33.2	2.1	2.1	0.057	0.123			19.0	52.0	695
袋井	袋井	〃	0.24	0.24	9.3	0.042	0.065	0.040	0.060			16.8	25.2	276
徳倉団地	清水町	〃	1.8	1.8	16.1	0.393	0.393	0.034	0.039			18.9	21.7	218
牛田	知立	〃	8.02	8.02	54	1.18	1.12	0.102	0.175			13.6	21.8	140
高蔵寺	春日井	〃	4.03	4.03	39.35	0.77	0.73	0.125	0.114			31.1	28.3	181
朝明	四日市	〃	1.29	1.29	42.3	1.56		0.077	0.050			59.8	38.7	121
高花平	〃	〃	4.38	4.38	33.3	1.8	1.14	0.204	0.211	0.006	0.198	45.2	48.2	262
金剛	富田林	〃	3.0	3.0	14.5	0.6	1.61	0.259	0.642			86.0	21.4	800
津久野	堺	〃	11.0	11.0	71.0	1.48	2.146	0.213	0.635	0.012		19.3	57.8	195
香里	枚方	〃	25.4	25.4	151.2	5.7	5.87	0.904	0.882			36.3	35.3	232
原田	豊中	〃	78.2	54.1	742.5	31.2	25.9	5.634	4.325	0.369	5.267	67.2	55.4	333
正雀		〃	61.98	61.98	75.8	11.65	11.65	3.25	3.57	1.11	2.15	33.5	57.6	188
東	兵庫	〃	5.82	5.82	26.6	1.53	1.53	0.358	0.340			61.3	58.5	263
西舞子	〃	〃	3.4	3.4	18.1	0.97	0.97	0.221	0.256			65.0	75.3	286
高島 *	岡山	〃	2.0	2.0	17.53	1.18	1.64	0.276	0.251			138	125	820

付表－3　その3

下水処理場名	都市名	排除方式	現在排水人口（千人）	水洗便所使用人口（千人）	現在処理面積（ha）	晴天時日平均処理量（千m³）	調査日処理量（千m³）	調査日流入BOD負荷（t/d）	同流入SS負荷（t/d）	し尿投入又は脱離液によるBOD負荷（t/d）	実質流入BOD負荷（t/d）	1人当りBOD負荷（g/d）	1人当りSS負荷（g/d）	1人当り排水量（ℓ/d）
俵山	長門	分	1.2	1.2	4.36	0.45	0.113	0.031	0.029			25.8	24.3	95
彌永	福岡	〃	1.5	1.5	35	0.098	（計量なし）							
茂里町	長崎	〃	26.7	14.3	106	11.0	10.7	1.699	0.820	0.888	0.811	30.4	31.5	412
滑石		〃	20	4.0	117	0.8	0.840	0.242	0.203			12.1	10.1	40
千尽		〃	46.7	37.8	337	8.11	12.7	1.345	1.056			28.8	22.7	272
山田*	別府	〃	16.2	4.5	147	87.1	87.1	1.656	3.646			10.2	22.5	5,380
錦江	鹿児島	〃	120	120	640	22.0	18.9	3.093	4.323			25.6	36.0	158
西山	名古屋	〃	12.0	12.0	98	4.05	3.33	0.464	0.501			38.7	41.8	277
鳴子	〃	〃	9.0	9.0	67.4	1.4	1.84	0.311	0.255			34.6	28.3	208
東灘	神戸	〃	13.3	13.3	123.5	10.0	8.4	11.259	3.106			84.9	23.4	563
中部	〃	〃	182.7	182.7	1,261	64.9	106.7	18.06	17.834	1.083	16.972	98.6	97.6	580
西部	〃	〃	44.6	44.6	186.9	33.3	34.4	11.289	15.125			25.3	34.3	774
多閏才一	〃	〃	3.15	3.15	12.9	0.828	6.33	0.048	0.039			15.3	12.4	105
多閏才二	〃	〃	3.98	3.98	28.5	1.104	1.07	0.146	計量なし			36.5		268
北須磨才一	〃	〃	1,214	1,214	41.8	1.0	0.311	0.510	0.048			42.0	39.6	256